

平成 29 年度

博士論文(指導教授 大島 吉郎)

# 中国語における“把”構文の研究

——連語論と通時的視点から——

大東文化大学大学院外国語学研究科  
中国言語文化学専攻博士課程後期課程  
(学籍番号 15231101)

小路口ゆみ



# 目次

序論.....	1
0.1 本研究の目的と意義.....	1
0.2 “把”構文についての先行研究.....	3
0.3 連語論に関する先行研究.....	23
0.4 本研究の構成.....	27
第一部 現代中国語における“把”構文の特徴.....	29
第一章「変化のくみあわせ」とは.....	30
1.1 はじめに.....	30
1.2 先行研究.....	31
1.3 “把”構文の意味分類.....	33
1.4 「変化のくみあわせ」の定義.....	38
1.5 おわりに.....	41
第二章 “把”構文の客体について.....	42
2.1 はじめに.....	42
2.2 “把”構文及び“把”の客体に関する主な先行研究.....	42
2.3 本章の中における用語の定義づけについて.....	51
2.4 “把”構文の客体の品詞.....	52
2.5 “把”構文の客体の「定性」.....	60
第三章 “把”構文における動詞について.....	84
3.1 はじめに.....	84
3.2 中国語における動詞の分類.....	84
3.3 従来を考え.....	88
3.4 文構造の角度からの分析.....	90
3.5 語義の角度から分析する.....	96
3.6 おわりに.....	98

<b>第四章 “把”構文における「その他」について .....</b>	<b>100</b>
4.1 “把” 構文における「その他」の分類.....	100
4.2 “把” 構文「名詞 <sub>1</sub> + “把” +名詞 <sub>2</sub> +動詞+“了”」について.....	113
4.3 “把” 構文の可能表現について.....	121
4.4 “把” 構文における可能表現の否定について.....	129
<b>第五章 実例からみる “把” 構文の日本語訳の傾向.....</b>	<b>136</b>
5.1 はじめに.....	136
5.2 “把” 構文及び “把” 構文の客体に関する種類.....	137
5.3 実例からみる “把” 構文の日本語訳 .....	139
5.4 おわりに.....	146
<b>第二部 “把” 構文が存在する理由 .....</b>	<b>147</b>
<b>第六章 「“把” +空間詞」の “把” 構文について .....</b>	<b>148</b>
6.1 はじめに.....	148
6.2 空間詞の先行研究について.....	148
6.3 「“把” +空間詞」構文の語義について.....	150
6.4 「“把” +空間詞」構文と “在字句” との異同について.....	152
6.5 おわりに.....	155
<b>第七章 “把” 構文における使役表現について .....</b>	<b>156</b>
7.1 はじめに.....	156
7.2 使役表現についての先行研究.....	157
7.3 「作用使役」の名付けについて.....	159
7.4 “把” 構文と “使” 構文の異同について.....	160
7.5 おわりに.....	164
<b>第八章 “把” 構文における副詞の位置について.....</b>	<b>166</b>
8.1 中国語の副詞について.....	166
8.2 “把” 構文における副詞 “都” について.....	168

8.3 “把”構文における副詞“又”“再”について .....	177
<b>第三部 近代中国語における“把”構文.....</b>	<b>186</b>
<b>第九章 『語言自邇集』初版（1867年）における“把”構文.....</b>	<b>187</b>
9.1 はじめに .....	187
9.2 “把”構文の文構造について .....	187
9.3 “把”構文の文の種類について.....	194
9.4 “把”構文における副詞と助動詞及び接続詞の位置について .....	194
9.5 『語言自邇集』初版における“把”構文の基本義と派生義について .....	195
9.6 “把”構文における動詞について .....	198
9.7 おわりに .....	203
<b>第十章 『北京官話伊蘇普諭言』（1878年）における“把”構文について.....</b>	<b>205</b>
10.1 はじめに.....	205
10.2 “把”構文の文構造について .....	205
10.3 “把”構文の形式について.....	212
10.4 “把”構文における副詞と助動詞の位置について .....	213
10.5 “將”の使用状況について.....	214
10.6 おわりに.....	215
<b>第十一章 『官話指南』（1881年）における“把”構文について.....</b>	<b>216</b>
11.1 はじめに.....	216
11.2 “將”構文と“把”構文の異同について.....	216
11.3 “把”構文の文構造について .....	217
11.4 “把”構文における副詞と助動詞の位置について .....	223
11.5 おわりに.....	225
<b>第十二章 『北京官話今古奇觀』（1904、1911年）における“把”構文について .....</b>	<b>227</b>
12.1 はじめに.....	227
12.2 “把”構文の文構造について .....	227
12.3 “把”構文の“把”の客体について .....	233

12.4 “把” 構文における副詞と能願動詞の位置について.....	234
12.5 “將” の使用状況について.....	235
12.6 おわりに.....	236
言語資料.....	238
<b>終章.....</b>	<b>239</b>
13.1 本研究のまとめ.....	239
13.2 今後の展望.....	239
言語資料.....	240
参考文献.....	240
付録1.....	253
付録2.....	274
付録3.....	289
付録4.....	295
付録5.....	301
付録6.....	311
付録7.....	323

# 序論

## 0.1 本研究の目的と意義

言葉は現実を反映する。だが、一つの現実を反映するのにさまざまな表現がある。コップに残った半分の水を見ると、「水は半分しか残っていない。」と表現する人がいれば、「水は半分も残っている」と表現する人もいる。「張三さんが李四さんを殴る。」という現実を見ると、

- (1) 张三打李四了。(張三が李四を殴った。)
- (2) 张三把李四打了。(張三が李四を殴った。)
- (3) 李四被张三打了。(李四が張三に殴られた。)

例(1)は主述文であり、「張三が李四を殴った。」という事実を客観的に述べている。例(2)は“把”構文であり、張三が李四を殴って、張三がこの行為の責任者であるということを表す表現である。例(3)は受身文であり、李四が被害を受けたことを表している。例(2)は“把”構文であり、その日本語訳が例(1)の主述文と同じであっても、話者の表現の意図は例(1)とは違う。そのため、これは日本人の中国語学習者にとっては、最も習得・把握しにくい文法表現の一つであると言えるだろう。

“把”構文は中国語文法の中で最も重要な文構造の一つである。羅竹風(2003: 420-427)は“把”の意味については“①握; ②谓一掌所握的粗细或多少”などとする。また、《現代汉语词典》第7版(2016: 20-21)によれば、介詞<sup>1)</sup>もある。同辞書(644-645)によれば、“将”の一つの用法が介詞“把”である。よって、本研究の範囲は“把”構文から“将”構文までカバーする。本研究は“把”構文と“将”構文を中心として、分析・考察する。年代は清末(1867年)から現在までの約150年の間に及んでいる。

従来の研究と違って、本研究は通時的・共時的に現代中国語の“把”構文を研究するだけでなく、その上に、“把”構文と関連する文型(“使”構文と“在字句”など)と照らしあわせて、“把”構文が他の文型に取って替えることができない理由を明らかにしたい。なぜなら、それも“把”構文が存在する理由の一つだからである。さらに清末北京官話の教科書の中の“把”構文を調査することを通じて、通時的な角度から“把”構文にかかわる動詞及び文構造の特徴を明らかにする。

従来、各文法学者は“把”構文について、主に三つの角度から研究してきた。第一

<sup>1)</sup> 《現代汉语词典》第7版(2016: 20-21)によれば、“把”は介詞もある。“a) 宾语是后面动词的受事者, 整个格式大多有处置的意思, 把衣服洗洗。b) 后面的动词, 是‘忙、累、急、气’等加上表示结果的补语, 整个句子有致使的意思: 把他乐坏了。c) 宾语是后面动词的施事者, 整个格式表示不如意的事情: 正在节骨眼儿上偏偏把老张病了。”

に、語用あるいは機能の角度からの研究であり、代表的な研究者は張旺熹（1991：88～103）、王一敏（1993：122～124）、金立鑫（1997：415～423）である。第二に、意味の角度からの研究である。その中で、“処置”説を主張するのは王力（1943：160～172）と宋玉柱（1979：84～85）と王紅旗（2003：35～40）であり、受事主語文を主張する朱德熙（1982：185～189、2010：164～169）であり、“賓語提前”説を主張するのは呂叔湘（1948：169～191）であり、“影響”説を主張するのは薛鳳生（1987：4～22、1994：34～59）と金立鑫（1993：361～366）と崔希亮（1995：12～21）であり、“位移”説を主張するのは張伯江（2000：28～40）と張旺熹（2001：1～10）であり、“処置”でもあり、“致使”でもあると主張しているのは劉培玉（2001：17～19）であり、“主觀処置”説を主張するのは沈家煊（2002：387～399、478）であり、“致使”説を主張するのは郭銳（2003：152～181）、叶向陽（2004：25～39）であり、“焦點標記”説を主張するのは邵敬敏、趙春利（2005：11～19）である。第三に、構造の角度からの研究であり、呂叔湘（1984：176-208）、胡附・文煉（1995）、沈陽（1997：402～414）などが代表的な文献である。

本研究は先行研究に基づき、連語論の観点を取り込んで、“把”構文について、以下の三点の角度から、検討することを試みる。まず、“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、一般的に“把”構文を成立させるための成立条件および名詞<sub>2</sub>と動詞とその他の制約は様々である。中でも、“把”構文の“把”の客体（名詞<sub>2</sub>）の品詞、また“把”の客体が既知であるか未知であるか、定であるか不定であるか、および日中対照の視点からみる“把”構文の“把”の客体の日本語訳の特徴などについて、さらに、“把”構文の動詞がどのような特徴をもっているか、“把”構文の中の“その他”がどのような形になるかについても、考察する。

次に、“把”構文が存在する根拠についてである。“把”構文と他の文型との相違点はもちろん、主に「“把”＋空間詞」の“把”構文と「名詞＋“在”＋空間詞＋動詞」の構造の文との異同、“把”構文で表される使役表現と“使”構文の異同について分析し論じる。さらに、“把”構文における副詞の位置についても論じる。例えば、「張三さんが李四さんと王五さんの二人をどちらも殴った」を表現する場合、例（4）によってしか表現できない。例（5）は非文である。

(4) 张三把李四和王五两个人都打了。

(5) \*张三都打李四和王五两个人了。

最後は、“把”構文の変遷について研究するため、清末におけるいくつかの北京官話教材についての“把”構文を研究した。その内訳は、『語言自邇集』（1867年）、『北京官話伊蘇普諭言』（1878年）（以下『伊蘇普諭言』と略称）、『官話指南』（1881年）、



『北京官話今古奇觀』（1903年、1911年）（以下『今古奇觀』と略称）である。『語言自邇集』（1867年）には“把”構文が141例あり、“將”構文はなかった。『伊蘇普噲言』には“把”構文が270例あり、“將”構文はやはりなかった。『官話指南』（1881年）には“把”構文が260例見られ、“將”構文は23例みられた。『今古奇觀』には“把”構文が506例あり、“將”構文は6例見られた。この調査と分析とによって、当時の“把”構文の特徴を明らかにする。

この一連の調査と研究は実用・教育・研究の各方面から見ても、中国語の学習者および中国語教師にとっても、基本的な知識を提供する研究として有益であると思われる。

## 0.2 “把”構文についての先行研究

### 0.2.1 語用論あるいは機能の角度からの先行研究

“把”構文について語用論あるいは機能の角度からの先行研究では、以下の言語学者が行っている。張旺熹（1991：88～103）、王一敏（1993：122～124）、金立鑫（1997：415～423）である。

#### 0.2.1.1 張旺熹（1991：88～103）〈“把字結構”的語義及其語用分析〉《語言教學研究》第三期

張旺熹（1991：88～103）<sup>2)</sup>は、“把”字構造の意味及び語用についての詳細な分析と研究を行っている。その結果、“把”字構造は一つの相対的に完全な独立した文法、語義単位とし目的意味に関連する語義内容を表すことを本質的特徴とする、としている。

張旺熹によれば、“把”字構造には以下の三つの意味が含まれている。

- ① “把”字構造自体は目的の意味を表す。
- ② “把”字構造は目的の実現—結果の意味を表す。
- ③ “把”字構造は特定の目的のため特定の行為を行うこと—手段の意味を表す。

“把”字構造の語用上の基本ルールとして、それは終始一つの明確な因果関係（条件関係、目的関係）の意味の範疇内にあり、このような因果関係を強調する場合、“把”字構造の語句を用いると述べている。

---

<sup>2)</sup> 張旺熹（1991：88～103）によれば、“‘把字結構’，作为一个相对完整的独立的语法、语义单位。它以表达与目的意义紧密相关的语义内容为本质特征。它包含了三层含义：第一，‘把字结构’本身表达目的的意义；第二，‘把字结构’表达目的的实现—结果的意义；第三，‘把字结构’表达了特定的目的而执行特定的行为动作—手段的意义。‘把字结构’在语用上的基本规律是，它始终处于一个明确的因果关系（包括条件关系、目的关系）的意义范畴之中，当人们强调这种因果关系时，便使用‘把字结构’的语句形式。”

0.2.1.2 王一敏（1993：122～124）〈“把”字句的语用结构分析〉《上海师范大学学报》第1期

王一敏（1993：122～124）は、語用論の観点から“把”構文の構造を分析している。典型的な“把”構文はNP<sub>1</sub>把NP<sub>2</sub>VP（NPは名詞あるいは名詞フレーズを指し、VPは動詞フレーズを指す）であり、NP<sub>1</sub>、NP<sub>2</sub>はともに文の話題である。これは“双话题成分”（ダブルテーマ）と呼ばれ、王一敏（1993：122～124）は以下のように述べている。

“把”字句话题成分所反映的说话者谈论的话题是在预设命题和“先行一步”策略的基础上产生的。所谓双话题成分，即“把”字句句首的名词或名词短语（NP<sub>1</sub>）和“把”后名词或名词短语（NP<sub>2</sub>），它们作为两个话题成分共同体现一个谈论话题。（“把”構文の話題成分に反映される話者が言おうとする話題は前提命題と“先行一步”のストラテジーの基礎の上にできたものである。いわゆるダブル話題成分とは、即ち、“把”構文最初の名詞あるいは名詞フレーズ（NP<sub>1</sub>）と“把”後の名詞或は名詞フレーズ（NP<sub>2</sub>）であり、それらは二つの話題成分として、同じの議論の話題をともに表す。筆者訳）

0.2.1.3 金立鑫（1997：415～423）〈“把”字句的句法、语义、语境特征〉《中国语文》第六期

金立鑫（1997:415～422）は薛凤生(1994：34～59)と崔希亮（1995:12～21）の考えに対して、主に“把”構文の構造、意味、文脈について分析している。

金立鑫（1997:415～422）は、“把”構文の構造には以下の三つの種類があり、それはA把B－VR、A把B－V、A把B－DV/A把B－V－NMであり、使用された動詞は必ず結果補語、または趨向補語、または動量補語を伴うか、動詞の重ね型を用いるか、或いは前置詞と一緒に使われるかのうちのどれかである。これらの動詞はいずれも「V得」構造に用いることができ、「他動詞」がそのほとんどを占めていて、「自動詞」は一般的に“把”構文に用いられないと述べている。

“把”構文の語義についても三種類の意味があると述べている。第一類は「結果類」であり、主に二つの主述フレーズの間因果関係のある場合を表し、具体的に言えば、「Aがある原因で、Bにある種の変化をさせた（結果）」である。例えば、“把脸冻得通红。”（顔が凍えて赤くなりました。筆者訳）である。第二類は情態類であり、「AがBに対して働きかける際に、A或はBがある種の状態を持つ」である。例えば、“请你把地扫扫。”（床をちょっと掃いてください。筆者訳）である。第三類は動量類であり、「AがBに対して特定量の行為を行い、動詞前の成分に“把”構文の焦点を当てることによって、目的語を強調する」である。例えば、“他把这些过程又演了一遍。”（これ

らの過程を再演した。筆者訳）である。

また、「把」構文の目的語はしばしば前の文の目的語と同じ対象を指し、この同指関係は文をつなぐ役割を果たすと同時に話題を続けることに役に立つ。」と述べている。

### 0.2.2 語義の角度からの先行研究

語義の角度から見た研究は以下の通りである。“処置说”を主張する王力（1943：160～172）と宋玉柱（1979：84～85）と王红旗（2003：35～40）、受事主語文を主張する朱德熙（1982：185～189、2010：164～169）、“宾语提前”説（構造機能の角度を参照）を主張する吕叔湘（1948：169～191）、“影响”説を主張する薛凤生（1987：4～22、1994：34～59）と金立鑫（1993：361～366）と崔希亮（1995：12～21）、“位移”説を主張する张伯江（2000：28～40）と张旺熹（2001：1～10）であり、“处置”でもあり“致使”でもあると主張している刘培玉（2001：17～19）、“主观处置”説を主張する沈家煊（2002：387～399、478）、“致使”説を主張する郭锐（2003：152～181）と叶向阳（2004：25～39）、“焦点标记”説を主張する邵敬敏、赵春利（2005：11～19）。さらに、近年から、認知文法などの角度から研究している文法学者も現れてきた。認知文法の角度から研究している张黎（2007：52～63）、“句式群”の角度から研究している施春宏（2010：291-309）、“语言信息结构视角”から研究している陆俭明（2016：1～13）、“述结式”“把”構文を研究している王璐璐・袁毓林（2016：54～63）などである。

#### 0.2.2.1 王力（1943：160～172）《中国现代语法》

王力はもっとも早い時期に“把”構文が“把”の客体を「処置」するという考え方を提示し、それを「処置式」と命名した。「処置式」<sup>3)</sup>について、王力（1943：161）は以下のような見解を述べている。

処置式是指把人怎样安排，怎样支使，怎样对付；或把物怎样处置，或把事情怎样进行。它既然专为处置而设，如果行为不带处置性质，就不能用处置式。……有时候，处置式并非真的表示一种处置，它只表示此事是受另一种影响而生的结果。或不由自主的事。

王力によれば、処置式とは人をどのように配置し、どのような影響を及ぼすか、ど

<sup>3)</sup> 王力（1943：160～173）によれば、処置式是指把人怎样安排，怎样支使，怎样对付；或把物怎样处置，或把事情怎样进行。它既然专为处置而设，如果行为不带处置性质，就不能用处置式。例：便把手绢子打开，把钱倒了出来。……有时候，处置式并非真的表示一种处置，它只表示此事是受另一种影响而生的结果。例：谁知接接连连许多事情，就把你忘了。或不由自主的事。例：小红不觉把脸一红。

のように扱うか。あるいは、物をどのように処置しか、事をどのように進めるかである。それがもつばら「処置」のために作られているものである以上、行為が処置の性質を持っていなければ、「処置式」を用いることはできない。時には、「処置式」は本来にある種の処置を表しているのではなく、単にそのことがほかの影響を受けた結果であり、あるいは自分がコントロールできないことを表すこともあると主張している。また、“偏又把凤丫头病了”（あいにく“凤丫头”に病気にかかれてしまった。筆者訳）という文を“処置式的活用”や“継事式”と命名した。さらに、“継事式并不表示一种处置，只表示此事是受另一事影响而生的结果。”と述べている。

“把”構文が「処置」を表すという王力（1943：160～172）の指摘は、それ以降の“把”構文の研究に極めて大きな影響を与えている。

0.2.2.2 宋玉柱（1979：84～85）〈“処置”新解-略谈“把”字句的语法作用〉《天津师范学院学报》第3期；

宋玉柱（1981：39～43）〈关于“把”字句的两个问题〉《语文研究》第2辑  
宋玉柱（1979：84～85）は、“把”構文の処置が広い意味での処置であると説明し、処置について、以下のように述べている。

句中谓动词所表示的动作对“把”字介绍的受动成分施加某种积极的影响，这影响往往使得该成分发生某种变化，产生某种结果，或处于某种状态。（文中の述語動詞が表す動作が“把”によって表れされる受動成分に対して、ある種の積極的な影響を与え、その影響は往々にしてその成分に変化を起こさせたり、ある種の結果に至らしめたり、ある種の状態下に置いたりする。筆者訳）。

さらに、「主-述-賓」構文と“把”構文の区別は以下のように述べている。

“主-谓-宾”句式强调的是宾语，而“把”字句则强调动词代表的动作对受动成分的处置作用。（「主-述-賓」構文は賓語を強調しているが、“把”構文は動詞が示す動作が受動成分に与える処置作用を強調する。筆者訳）

よって、同氏はこの二つの文は完全に違う種類の文であると主張している。

宋玉柱（1981：39～43）は、前述の“把”構文の処置が広い意味での処置であると述べているほか、“把”の賓語が“有定”であるかどうかについても以下のように述べている。

早期的“把”字句“宾语”可能必须是有定的，但由于表意的需要，这条规律

逐渐在变化，在某些情况下，已被突破。但语法又有其稳定性特点，完全改变原来的规律要有一个较长的历史过程。所以今天还有很多“把”字句必须是有定的。(早期の“把”構文の賓語は基本的に“有定”でなければならなかったかもしれないが、意味を表すことの必要性によって、その規則はだんだんと変化しできて、ある種の状況下では、破られていることもある。しかし、文法は安定性の特徴があるので、元々の規則を完全に变えるには長い年月を必要するものである。そのため、今でも多くの“把”構文の賓語は“有定”でなければならない。筆者訳)

#### 0.2.2.3 朱德熙 (1982: 185~189) 《语法讲义》商务印书馆出版

朱德熙 (2010: 164~169) 《语法分析讲稿》

朱德熙 (1982: 185~189) は、“把”構文が受事主語文と関連していると主張している。また、朱德熙 (2010: 164~169<sup>4)</sup>) は、大部分の“把”構文が“把”字なしで、文として成り立つとしている。これらの文の主語は意識上において受事であり、よって、私たちは一部の受事主語文と“把”構文は変換関係を持つと仮定できる。いわゆる、「No+VP $\leftrightarrow$ 把+No+VP」である。(中略) 受事主語文と“把”構文は以下の二つの点において共通している。

①両文型の主語はともに受事であり、しかも意識において特定である。

②両文型の動詞はともに複雑なものである。

朱德熙 (1982: 185~189) は、「主語説」と主張しているが、実際には主語は受事ではない文は少なくない。

(1) 把伙计们都累跑了。(朱德熙 1982: 185~189)

召使いたちはみな疲れはて、逃げてしまった。(筆者訳)

例 (1) の“把”の賓語である“伙计们”は受事ではなく、“施事”である。

#### 0.2.2.4 薛凤生 (1987:4~22) 《语言教学与研究》第一期

薛凤生 (1994:34~59) <“把”字句和“被”字句的结构意义---真的表示“处置”和“被动”？> 沈家煊译 《功能主义与汉语语法》戴浩一・薛凤生主编

薛凤生 (1987:4~22<sup>5)</sup>) は“把”構文の構造を「A把B+VP」と定めた上で、その

<sup>4)</sup> 朱德熙 (2010: 164-169) は、以下のように述べている。“绝大部分的‘把’字句，去掉‘把’字剩下来的那一部分都能站得住；而这类句子中的大部分，主语在意念上是受事。因此，我们可以假定在某些受事主语与‘把’字句之间有变换关系。即：No+VP $\leftrightarrow$ 把+No+VP，我们用双箭头表示这个变换关系的方向是不确定的，其所以不确定是因为我们还不能确定变换为‘把’字句的‘No+VP’的范围。(中略) 受事主语句和‘把’字句在以下两点上是共同的：①主语都是受事。而且在意念上是有定的；②动词都是复杂的。”

<sup>5)</sup> 薛凤生 (1987:4~22) によれば、“‘把’字句中的‘把’只能是一个单一的语素(morpheme)；‘把’字句中的VP必须是一个说明由于某一行动而造成B的某一状态的描述语段(descriptive

語義意味は「Aがかかわることにより、BはVPの表す状態になった」である。そして、「A把B+VP」の構造中のA、“把”、B、VPのそれぞれについても論じている。

①「A把B+VP」中のAは“把”構文の主要なトピックではなく副次的なトピックである。VPはBと直接的な関係があり、Aとは間接的な関係である。“把”構文において、Aは省略することができる。Aの“把”構文での役割は「Aがあるから、“把”によって結び付けられて、BがVPの表す状態になる」である。

②「A把B+VP」の“把”はただの単一な語素である。このため、“把”構文のそれぞれの用法に共通点がある。

③「A把B+VP」のBは“把”構文の主要な話題であり、VPの主語である。よって、Bを省略することができない。Bになるものは必ず“定指”である。

④「A把B+VP」のVPは、ある動作によってBをある状態にもたらず記述的な表現 (a descriptive statement) でなければならない。

さらに、同氏(1994: 34~59<sup>6)</sup>)は、“把”構文(「A把B+C」)の意味については「Aがかかわることにより、BがCの表す状態になる」であり、その内、「C」が「V<sub>1</sub>+V<sub>2</sub>」である場合、V<sub>1</sub>は状況語であり、V<sub>2</sub>は中心語であると述べている。しかも、“把”構文の特性としては、文中の「B」は述語「C」の主語であり、「B」は全文の主要な話題であり、その中の「B+C」は“把”構文と同じ意味の文になれると主張している。

しかし、「B+C」が主述文として成立しない“把”構文も多く存在している。例えば、“把别人往坏处想。”(人を悪い方に考える。筆者訳)、“把老王吵醒了。”(王さんを起こしてしまった。筆者訳)、また、“你把房间打扫打扫。”(部屋をちょっと掃除してください。筆者訳)、“他把门一推”(ドアを押すと。筆者訳)のような“把”構文がどうやって「BがCの述べている状態になった」で説明するかについては、薛(1987:4~22, 1994: 34~59)は触れていない。

#### 0.2.2.5 金立鑫 (1993: 361~366) <“把OV在L”の语义、句法、语用分析> 《中国语文》第5期

金立鑫(1993: 361~366<sup>7)</sup>)は、「把OV在L」の文では、「元々Lの中に存在して

---

statement); ‘把’字句中的B必须是句子的首要主题(main topic); ‘把’字句中的A只能是句子的次要主题(secondary topic)。”

<sup>6)</sup> 薛凤生(1994: 34~59)によれば、“由于A的关系，B变成C所描述的状态。其中，如果C是“V<sub>1</sub>+V<sub>2</sub>”，V<sub>1</sub>是状语，V<sub>2</sub>是中心语，B是主语，“B+C”能构成一个与“把”字句意思基本相同的自然句子。”

<sup>7)</sup> 金立鑫(1993: 361~366)は、「把OV在L」の意味について、以下のように述べている。“把OV在L”句式有‘致使原来L中不具有的事物留存于L中’的语义信息，而‘在LV0’却不具有这样的语义信息。(中略)‘处置的说法’不够科学，因为任意一个带宾语的动词都可以说是对宾语的处置，‘洗衣服’中的‘洗’是不是对‘衣服’的处置？但我们不说‘把衣服洗在院子里’，尽管说话人已经预设了‘衣服’的存在。可见以往的解释不尽如人意。”

いない事物をLの中に残らせる」という意味である。しかし、「在LVO」ではこのような意味がない。また、“把”構文に関する以前の「処置義」の説は科学的ではない、なぜならば、賓語を従える動詞はどれも賓語に対する処置だと言えるからである。例えば、“洗衣服”の“洗”は“衣服”にたいして、「処置」ではあるが、“把衣服洗在院子里”とは言えないと述べている。

#### 0.2.2.6 崔希亮(1995:12~21) <“把”字句的若干句法语义问题>《世界汉语教学》第3期

崔希亮(1995:12~21)は“把”構文を「(A)把/将B-V P」と表し、“把”構文の文法構造を典型的な形式とその他の形式の二つに分けている。

- 一、典型形式 VP = VR 或 VP 包含 VR
- 二、其他形式 ① VP = (AD) + 一 + V
- ② VP = (AD) + V (一) V
- ③ VP = (AD) + VR (R是动量补语)
- ④ VP = O 或 Idiom 或单个V

第一は、典型的な形式：VP = VR、或いはVPがVRを含む(Rは補語である。)例えば、“你把衣服都弄湿了。”、或いは“我把马鞭交给他”である。この種の“把”構文の焦点はRに当てられている。

- 第二は、その他の形式：① VP = (AD) + 一 + V
- ② VP = (AD) + V (一) V
  - ③ VP = (AD) + VR (Rは動量補語)
  - ④ VP = O、或いは Idiom、或いは単独のV。例えば、“你能把我怎么样?”、“把他千刀万剐方解我心头之恨。”、“不然后也要当场将你逮捕。”

この種の“把”構文の焦点は“(B) - VP”に当てられている。

薛凤生(1994:34~59)の結論である“把”構文の構造が“A把B + VP”であり、その語義は「Aが原因で、BがVPの記述する状態になる」であることについて崔希亮は以下のように修正した。

- ①语法结构：A把B - VP 典型形式的VP是一个VR或包含VR的谓词性结构；其他形式的VP是动词的重叠或者在动词前面加“一”；
- ②语义诠释<sub>1</sub>从语义上看“把”字句有两类：结果类和情态矢量类；结果类都可以分析成两个表述P<sub>1</sub>和P<sub>2</sub>，两者之间存在着因果关系。而情态矢量类“把”字句不

能做这样的分析；也就是说，这一类“把”字句不能解释为“由于 A 的关系，B 变成了 VP 所描述的状态。”例：“把筷子朝桌上一拍。”

③语义诠释<sub>2</sub> 如果把汉语的动词看成一个连续统，那么能进入“把”字句的动词是动态动词。

④功能诠释：从语法功能上看，能进入“把”字句的动词大部分都有这样的特点：或能带结果补语或趋向补语或重叠或介词共现；从认知范畴上看，它们是表示活动、动作、评价、感觉和生理活动的动词，而最多的是动作动词。

(①“把”構文の構造は“A把B-V P”である。典型的な“把”構文のVP は一つのVRであるか、VRを含める述語的構造であり、その他の“把”構文のVP は動詞の重ね型か、動詞の前に“-”を用いるかものである。②語義<sub>1</sub>：語義から分類すると、“把”構文は二種類に分けられ、結果類と情態ベクトル類である。結果類は“把”構文が二つのP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>に分けることができ、そしてこの二者の間にはが存在する。これは薛凤生(1994: 34~59)の結論と一致する。だが、情態類の“把”構文はそのような分析ができない。例えば、“把筷子朝桌上一拍。”(お箸をテーブルに強く置くと。筆者訳)は情態類の“把”構文である。③語義<sub>2</sub>：中国語の動詞を連続性を持ったものと見なすなら、“把”構文に用いられる動詞は動態動詞である。④文法的な機能から見れば、“把”構文に用いられる動詞の多くは、結果補語や趨向補語を従えるか、動詞の重ね型か、それとも介詞と共現できるものであるなどの特徴を持っている。認知のカテゴリーからみると、これらの動詞は活動・動作・評価・感覚・生理活動を表す動詞であり、最も多いのは動作動詞である。筆者訳)

#### 0.2.2.7 张伯江(2000:28~40)〈论“把”字句的句式语义〉《语言研究》2000年第1期

张伯江(2000:28~40)<sup>8)</sup>によれば、「把”構文は完全な認知図式であり、各構成成

<sup>8)</sup> 张伯江(2000:28~40)によれば、「句式是一个完整的认知图式，其间各个组成成分的次序、远近、多寡都是造成句式整体意义的重要因素，文中借助认知心理学的‘顺序原则’‘相邻原则’和‘数量原则’说明‘把’字句个别特点之间的逻辑联系，显示把握整体这种方法更广的解释力。”その結論としては、“我们得出了句式‘A把BVC’的整体意义：由A作为起因的、针对选定对象B的、以V的方式进行的、使B实现了完全变化C的一种行为。这样的句式整体意义，不是靠动词的支配能力(配价)分析所能得出的，也不是能够靠施事、受事这样的概念说明的，这是语法分析的‘综合观’的结果。(中略)可以由此得到统一的解释：A的起因特点表明‘把’字句有指明责任的要求，这也是‘把’字句区别于受事主语句的根本一点；B居于动词的前面，语义上要求它有自立性，因此排斥结果宾语，形式上则要求选择有定形式，排斥代表未知信息的无定形式；B居于‘把’字句和主要动词之间，要求动词在意义上必须是能对受动物产生完全影响的，因此王力(1943: 160~172)所指出的‘爱’、‘看见’、‘上’、‘有’、‘在’等动词以及王还(1987: 1~37)提出的‘躲’、‘到’、‘遇到’、‘得到’、‘离开’、‘接近’、‘成为’、‘赞成’等动词与‘把’字句的冲突现象，不仅仅是因为它们表示精神行为，感受现象，领有和存在等意义，根本的原因还是在于，谓语不是表示在空间意义上致使事物发生完全的变化。”



分の順序、距離、数量はどれも文の全体の意味を作り出す重要な要素である。それは認知心理学の「順序原則」、「隣接原則」、「数量原則」の概念を借りて、“把”構文のそれぞれの特徴の論理関係を説明し、「全体を把握する」という方法で、より幅広い解釈力を示すと述べている。

氏は『文「A把BVC」の全体的な意味が「Aがきっかけとなり、Bという選定対象のみに対して、Vの方式に則って進行するもので、Bが完全にCというの変化を実現させる一種の行為である。」といい。このような文型の全体的な意味は、動詞の支配能力を分析することで得られる物でもなく、使役者、被使役者というような概念によって説明できるものでもない。これは「全体観」という文法的分析の結果である。』と述べ、さらに、“把”構文について、以下のように統一的な解釈を与えている。

A 的起因特点表明‘把’字句有指明责任的要求，这也是‘把’字句区别于受事主语句的根本一点；B 居于动词的前面，语义上要求它有自立性，因此排斥结果宾语，形式上则要求选择有定形式，排斥代表未知信息的无定形式；B 居于‘把’字句和主要动词之间，要求动词在意义上必须是能对受动物产生完全影响的，因此王力（1943：160～172）所指出的‘爱’、‘看见’、‘上’、‘有’、‘在’等动词以及王还（1987：1～37）提出的‘躲’、‘到’、‘遇到’、‘得到’、‘离开’、‘接近’、‘成为’、‘赞成’等动词与‘把’字句的冲突现象，不仅仅是因为它们表示精神行为，感受现象，领有和存在等意义，根本的原因还是在于，谓语不是表示在空间意义上致使事物发生完全的变化。（①Aのきっかけとしての特徴により、“把”構文が責任を指し示す必要性がある。これは“把”構文が受事主語文と異なる根本的な点である。②Bが動詞の前に置かれるのは、語義から自立性が要求され、よって、結果賓語が排斥される。形式上には未知の情報を表す不定形式が排斥され、確定形式が要求される。③Bが“把”と動詞の間に置かれる場合、動詞が意味上受動物に対して完全に影響を与えることが要求される。よって、王力（1943：160～172）が例挙げた動詞‘爱’、‘看见’、‘上’、‘有’、‘在’などや王还（1987：1～37）が例挙げた動詞‘躲’、‘到’、‘遇到’、‘得到’、‘离开’、‘接近’、‘成为’、‘赞成’などは“把”構文には用いることができない。その理由は、これらの動詞が精神的な行為、感覚表現、あるいは所有と存在などの意味を持つからだけでなく、その根本的な理由は、述語が空間的な意味上において事物を完全に変化させるものではないからである。筆者訳）

张伯江（2000:28～40）は文の意味から論じていて、“位移”を主張しているが、VPがVC（述補構造）ではない“把”構文に適応しているかについては言及していない。例えば、“他把门一推。”，“请你把衣服洗洗。”のような“把”構文については、説

明していない。

#### 0.2.2.8 张旺熹 (2001: 1~10) <“把”字句的位移图式>《语言教学与研究》第3期

张旺熹(2001: 1~10<sup>9)</sup>)は、典型的な“把”構文は一つの物が外的な力によって、甲の位置から乙の位置へ移動する“位移”というプロセスであり、そして、このような「空間図式」を、七つに分けて、以下のように説明している。

(I) 物理的な空間移動:

(2) 把几百公斤重的杆架一根一根从山下抬上去。(张旺熹: 2001: 3)

(II) 時間的な移動:

(3) 他们把可能发生的事情都想在前头, 不放过一个疑点。(张旺熹: 2001: 3)

(III) 人体的な空間移動:

(4) 把功劳记在神佛的头上。(张旺熹: 2001: 4)

(IV) 社会的な空間移動:

(5) 张月好把正在准备考大学的五儿子福山又送往军营。(张旺熹: 2001: 4)

(V) 心理的な空間移動:

(6) 把话筒对准新闻。(张旺熹: 2001: 4)

(VI) 範圍的な空間移動:

(7) 我们要把通胀率控制在低于经济增长率的水平。(张旺熹: 2001: 4)

(VII) 任意方向(泛方向)空への間移動:

(8) 安安静静地把家搬走了。(张旺熹: 2001: 4)

また、これらの「空間図式」は、メタファー的な拡張を通じて、“把”構文の係連図式(系联图式)と等値図式(等值图式)と変化図式(变化图式)と結果図式(结果图式)の「変体図式」を形成すると主張している。

さらに、同氏は「変体図式」(係連図式と等値図式と変化図式と結果図式)について、次のようにも例を挙げている。

(I) 係連図式(系联图式)

(9) 我们中国人把“吃”跟“福”联系在一起。(张旺熹: 2001: 6)

(II) 等値図式(等值图式)

(10) 我们把生活当作一个扩大了了的游乐场。(张旺熹: 2001: 6)

(III) ③変化図式(变化图式)

---

<sup>9)</sup> 张旺熹(2001: 1~10)によれば、“典型的“把”字句凸显的是一个物体在外力作用下发生空间位移的过程,而这种空间位移过程的图式通过隐喻拓展形成了“把”字句的系联图式、等值图式、变化图式和结果图式等四种变体图式。”

(11) 把一个贫穷的中国变成小康的中国。(张旺熹: 2001: 7)

(IV) 結果図式 (结果图式)

(12) 您把农业和儿子都打扮得朴素而光景。(张旺熹: 2001: 7)

(13) 你还是把钱收好吧。(张旺熹: 2001: 7)

(14) 我们把凤凰丢了。(张旺熹: 2001: 7)

同氏は、“位移”という説は90%の“把”構文に適用されると結論づけている。残りの10%については言及していない。

0.2.2.9 刘培玉 (2001: 17~19) <有关“把”字句研究的两个问题> 《阜阳师范学院学报(社会科学版)》第1期

刘培玉(2001: 17~19<sup>10</sup>)は、“把”の賓語及び“把”構文の意味について以下のよう述べている。“把”の賓語は動詞の賓語を前置したのではなく、“把”の後の節の主語でもなく、介詞“把”の賓語である。それは介詞“把”と組み合わせることによって、介詞構造となり、状況語になる。さらに、“把”構文の意味の特徴としては、「処置」でもあるし、「働きかけ」でもある。“把”構文の意味は「処置」から「働きかけ」までのプロセスを経由するものである。「処置」と「働きかけ」の間に交錯地帯が存在し、それは「処置・働きかけ」「把」構文である。例えば、“他把羊赶到山上。”この文は「処置」の意味もあるし、「働きかけ」の意味もある。「処置」から「働きかけ」までの間にある一つのステップが存在する。それは次のように示される：処置→処置・働きかけ→働きかけ。

0.2.2.10 沈家煊 (2002: 387-399,478) <如何处置“处置式”? --论“把”字句的主观性> 《中国语文》第五期

沈家煊(2002: 387-399,478<sup>11</sup>)は、以下のよう述べている。“把”構文の文法的

<sup>10</sup> 刘培玉 (2001: 17~19)は、“把”構文について、以下のよう述べている。“‘把’的宾语不是动词的宾语前置，也不是‘把’后小句的主语，也不是补语的主语，它是介词‘把’的宾语，和介词‘把’组成介词结构作状语；(中略)，把字句的语义特征是：既有处置，又有致使，把字句的语义经由一个表处置到致使的过程。”また、“‘处置’和‘致使’之间有一个交融地带，就是‘处置致使’‘把’字句。如‘他把羊赶到山上’，句子既有‘处置’，又有‘致使’。从‘处置’到‘致使’存在一个等级：处置---处置致使---致使。”

<sup>11</sup> 沈家煊(2002: 387-399,478)は“把”構文について、以下のよう説明している。“把字句的语法意义是表示‘主观处置’，即说话人主观认定主语甲对宾语乙作了某种处置。把字句的这种主观性跟语言一般具有的主观性一样，主要表现在互相联系的三个方面：①说话人的情感；②说话人的视角；③说话人的认识。只有从整体上把握把字句的这种语法意义，才能对过去分别列举的把字句的种种语法特点作出统一解释。……客观处置：甲(施事)有意识的对乙(受事)作某种实在的处置。主观处置：说话人认定甲(不一定是施事)对乙(不一定是受事)作某种处置(不一定是有意识的和实在的)……‘把’字由动词虚化为介词，连动式演变为处置式，这个过程也是一种‘主观化’的过程……从近代汉语到现代汉语，‘把’字表示处置的主观性已有所减弱。”

な意味は主観的な処置を表し、それはすなわち、話者は主観的に主語甲が賓語乙に対して、ある種の処置を行ったことである。さらに、“把”構文のこのような主観性は言語一般の主観性と同じものであり、主に相互関係がある以下の三つとして表現される。

- ①说话人的情感;
- ②说话人的视角;
- ③说话人的认识。

(①話し手の感情；②話し手の視点；③話し手の認識。筆者訳)

全体から“把”構文のこのような文法的意味を把握することによってのみ、過去に例挙した“把”構文の各種の文法的な特徴を統一解釈できる。客観的な処置とは、甲（“施事”）が意識をもって、乙（“受事”）に対して、ある種の処置を行うことである。主観的な処置とは、話し手甲（“施事”とは限らない）が乙（“受事”とは限らない）に対して、ある種の処置（意識的な、実際なこととは限らない）を行うことである。また、“把”が動詞から介詞に文法化（grammaticalization）され、連動式から処置式に変遷したこの過程も一種の「主観化」の過程である。ただし、近代漢語から現代漢語に至るまで、“把”で表す処置の主観性は弱くなっている。

#### 0.2.2.11 郭锐（2003：152～181）〈把字句的语义结构和论元结构〉《语言学论丛》第28辑

郭锐（2003：152～181<sup>12)</sup>）は、“把”構文の文法的意味は“致使”（働きかけ）であり、その構造としては“致使者（NP<sub>a</sub>）+把+被致使者（NP<sub>b</sub>）+致使事件谓词（V<sub>1</sub>）+被致使事件谓词（V<sub>2</sub>）”である。その中のNP<sub>a</sub>はなくてもいいが、NP<sub>b</sub>は必ず出現する。多くの“把”構文ではV<sub>1</sub>とV<sub>2</sub>が同時に存在している。一部の“把”構文は、V<sub>2</sub>がなくて、さらにごくわずかの“把”構文はV<sub>1</sub>がない。そのため、“把”構文の意味を分析するときには、まずVPが働きかけの出来事の“谓词”であるか、働きかけられる出来事の“谓词”であるかを分析すべきである。“把”構文は実際に二つの小節が

<sup>12)</sup> 郭锐（2003：152～160）では以下のように述べている。“‘把’字句的语法意义是‘致使’，其语义构造可表示为：‘致使者（NP<sub>a</sub>）+把+被致使者（NP<sub>b</sub>）+致使事件谓词（V<sub>1</sub>）+被致使事件谓词（V<sub>2</sub>）’其中NP<sub>a</sub>可以不出现，而NP<sub>b</sub>必须出现，多数‘把’字句中的V<sub>1</sub>和V<sub>2</sub>都出现。但也有部分‘把’字句的V<sub>2</sub>为零形式，极少数的‘把’字句的V<sub>1</sub>为零形式。因此，要分析一个‘把’字句的意义，应首先弄清VP到底是致使事件的谓词，还是表示被使事件的谓词。‘把’字句由两个小句的并合派生而来，其中的两个名词短语也分别来自这两个小句。致使者NP<sub>a</sub>来自表示致使事件的小句的主体或客体、其他对象，被使者NP<sub>b</sub>来自表示被使事件的小句的主体。“处置”实际上是一种特殊的“致使”：有意志力的（volitive）主动的（initiative）施行性（agentive）致使，如“他把衣服洗干净了”、“他把书放在桌子上”。那些不能用“处置”解释的“把”字句，或者表示无意志力参与的致使（他把钱包丢了），或者是无意的致使（你把意思理解错了），或者是非施行性的致使（这些重活把他累病了），或者致使事件缺省（把特务跑了）。

合併してできたものであり、その中の二つの名詞フレーズはそれぞれの小節からきたものである。“致使者”である NP<sub>a</sub> は“致使事件”を表す小節の主体かあるいは客体か、その他の対象からきたものであり、“被使者”である NP<sub>b</sub> は“被使事件”の小節の主体からきたものである。「処置」は実際には特殊な“致使”であり、意志力のある、主動性、実行性をもつ“致使”である。例えば、“他把衣服洗干净了”、“他把书放在桌子上”である。一方、「処置」で説明できない“把”構文は、

- ① 意志力の参与を持たない“致使”（他把钱包丢了）
- ② 非意図的な“致使”（你把意思理解错了）
- ③ 非実行的な“致使”（这些重活把他累病了）
- ④ 使役事態出来事が省略された“致使”（把特务跑了）である。

郭锐が以上のようにのべているが、しかし、次のように、

(15) 把桌子擦一下。[某人擦桌子→桌子干净]（郭锐 2003: 158）

この例(15)の“把桌子擦一下。”は“某人擦桌子”と“桌子干净”に分けられると主張している。しかし、“他把门敲了几下”のような文は二つに分けられないだろう。この説は全ての“把”構文に通用するわけではない。

0.2.2.12 王红旗（2003: 35~40）〈“把”字句的意义究竟是什么〉《语文研究》第2期

王红旗（2003: 35-40<sup>13)</sup>）は、“把”構文の処置は制御できる働きかけ（“可以控制的致使”）であると理解し、以下のように説明している。

“把”構文の処置の意味について、この「処置」を理解するのに論理上からではなく、“把”構文の構成及び変遷の二つの角度から「処置」であるはずと証明している。同氏は「処置」が“义位”とみなすべきで、この“义位”はどれほどあるかについては検討の余地があり、以下のものを挙げることができるのではないかとしている。

- ① “施事”が“受事”に働きかけ、“受事”を変化させる。
- ② “系事”が“主体”に働きかけ、“主体”を変化させる。

<sup>13)</sup> 王红旗（2003: 35-40）は“把”構文について、以下のように述べている。“对‘把’字句的‘处置’意义进行了解释，指出了不能从逻辑上理解这个意义，然后从这种句式的构成和演变两个角度证明‘把’字句的意义应该概括为‘处置’。‘处置’意义应该看作义位，这个义位到底有几个变体可以研究，是否可以有这样几个：①施事作用于受事使其变化；②系事作用于主体使其变化；③受事作用于施事使其变化。这样看来，王力所说的处置式的句子体现的是变体①，而继事式的句子体现的是变体②。”

③ “受事”が“施事”に働きかけ、“施事”を変化させる。

このように考えると、変体①は王力が主張している「処置式」であり、変体②は王力の“継事式”の意味である。

#### 0.2.2.13 叶向阳 (2004 : 25~39) <“把”字句的致使性解释>《世界汉语教学》第2期

叶向阳 (2004 : 25~39<sup>14)</sup>) は、“把”構文の基本語義は“致使”(働きかけ)であると主張している。“把”構文は語義上では働きかけを表し、二つの働きとの関係を持つ出来事  $E_1$  と  $E_2$  で構成され、両方とも揃えなければならない。形式上から見ると、 $E_1$  は必ず言葉で表されなければならないが、 $E_2$  は具体的な言葉表現があっても、隠れていてもいい。働きかけの中では二つの重要な参加者があり、“致使者 (causer)”と“被使者 (causee)”である。“被使者”は  $E_1$  と  $E_2$  を繋げる役割を持つ、働きかけの出来事の中においては、働きかけの影響を受けるものであり、なおかつ働きかけの効果の体験者であるので、欠かすことができない。“把”構文は「(致使者 A)+把+被使者 B+致使事件  $V_1$ + (致使事件  $V_2$ )」である。VP が述補構造である“把”構文は、働きかけであると分析できる。“致使義”を用いて“把”構文の基本義を説明することで、“把”構文の意味を統一することができる。別の観点から見ると、

① VP が述補構造である“把”構文は、働きかけと分析でき、しかも、VP が一つのみの“谓词”をもつ単述“把”構文がある種の結果を含蓄しているので、これも働きかけだと分析できる。

② いわゆる“処置”というのは実際に意志力の参与を持つ働きかけであるが、“処置”で解釈できない“把”構文は意志力を持たない働きかけである。このほか、働きかけを用いて“把”構文を説明することによって、よりよく“把”構文の形式上の特徴及び不適切な“把”構文の原因を解釈できる。

<sup>14)</sup> 叶向阳 (2004 : 25~39) によれば、“把”字句の基本語義は致使。“把”字句 VP 在语义上表达了一个致使情景，有两个有致使关系的事件  $E_1$  和  $E_2$  构成，二者缺一不可。形式上， $E_1$  必须具有词汇表达， $E_2$  可以有具体词汇表达，也可以隐含。致使情景中有两个关键参与者，它们是致使者 (causer) 和被使者 (causee)。被使者是联系  $E_1$ 、 $E_2$  的纽带，它是致使事件中的受影响者，也是致使效应的体现者，因此不可或缺。“把”字句可表示为：(致使者 A)+把+被使者 B+致使事件  $V_1$ + (致使事件  $V_2$ )。那些 VP 为述补结构的“把”字句可以分析为致使情景。用致使义来说明“把”字句的基本语义，可以将“把”字句的语义统一起来。一方面，那些 VP 为述补结构的“把”字句可以分析为致使情景，而且那些 VP 只包含一个谓词的单述“把”字句由于隐含着某种结果，也可以分析为致使情景。另一方面，所谓“处置”实际上是有意志力参与的致使，那些不能有“处置”解释的“把”字句是无意志力参与的致使。此外，用致使义来说明“把”字句的语义可以更好地解释“把”字句在形式上的特点及那些不合格的“把”字句的原因。”

さらに、“双述‘把’字句”と“单述‘把’字句”について、以下のように分析している。“双述‘把’字句的 VP：①实义述补式，把衣服洗干净。②偏离述补式，把菜炒咸了。③带‘得’述补式，把他打得哇哇叫。④带‘个’述补式，恨不得今儿晚上就把事情弄个水落石出。⑤趋向述补式和处所述补式，把它扔出去。把它扔在地上。”“单述‘把’字句的 VP：①述补省略式，(看)把他高兴得。②虚式述补式，A.V+上/着(zhao)/中/住，把球拿住。B.V+了<sub>2</sub>/着<sub>2</sub>/过<sub>2</sub>，把信烧了。③述宾式，把墙炸了个洞。④状中式，把东西乱扔。⑤动词量化：A. 动词重叠，把剩饭煮煮。B. 一+动词，把眼睛一闭。C. 动词+动量词，把衣服拽了一下。⑥V+了<sub>1</sub>，把他得罪了。⑦单个动词，把时间延长。”

0.2.2.14 邵敬敏・赵春利（2005：11～19）〈“致使把字句”和“省隐被字句”及其语用解释〉《汉语学习》第8期

邵敬敏・赵春利（2005：11～19<sup>15)</sup>）は、“把”構文における“把”は「受事」を際立たせるためではなく、焦点のマーカーであると主張している。

(16) 老王骂女儿，结果把女儿骂哭了。（邵・赵 2005：11～19）

王さんが娘さんを叱って、その結果娘さんを泣かせてしまった。（筆者訳）

(17) 老王骂女儿，结果把老婆骂哭了。（邵・赵 2005：11～19）

王さんが娘さんを叱って、その結果奥さんを泣かせてしまった。（筆者訳）

例（16）の動作の「受事」は“女儿”であり、これは“把”構文の中の動作“骂”によって、際立たせる対象となる。しかし、例（17）の動作の「受事」も“女儿”であるが、“把”の賓語である“老婆”は動作の受事ではなく、この動作が影響を与える対象である。これは「焦点」であり、“把”は「焦点」のマーカーである。

さらに、“把”構文は「有意识把構文」と「無意识把構文」に分類されている。「有意识把構文」は処置義を持っているが、「無意识把構文」は処置義をもっていない。前者は「処置把構文」と言い、後者は“致使把字句”（「働きかけ把構文」）と言える。この二種類の“把”構文を判断する基準としては、前者の“把”構文の“把”の賓語は動作の直接対象であり、その中には、受事、直接的な対象、場所などが含まれている。後者の賓語は動作の直接的な対象ではない。

邵敬敏・赵春利（2005：11～19）の理論によれば、次の例（18）の動作“染”の対象は“那座山”であり、これも「処置把構文」にあると主張している。しかし、筆者は例（18）の“夕阳”は“那座山”を処置できないため、「処置把構文」とは言えないと考える。

(18) 夕阳把那座山染红了。

夕陽が山を真っ赤に染めた。（筆者訳）

0.2.2.15 张黎（2007：52～63）〈汉语“把”字句的认知类型学解释〉《世界汉语教学》

张黎（2007：52～63）は、認知類型論の角度から“把”構文について分析している。

<sup>15)</sup> 邵敬敏・赵春利（2005：11～19）によれば、“把字句可分‘处置把字句’和‘致使把字句’两类，尤其是后者显示‘把’实质上是焦点标记，属于前置标记，凸显的是动作在逆方向上对事物的主动性影响。（中略）‘把’字句实际上应该分为两类：一是‘有意识把字句’，二是‘无意识把字句’。只有有意识把字句才有可能具有处置义，而无意识把字句则根本不可能具有处置义，所以，前者也可以叫‘处置把字句’，后者也可以叫‘致使把字句’。（中略），区分这两类把字句的标准是：前一种‘把’字句的宾语是动作的直接目的物，包括受事、直接对象、处所等；后一种‘把’字句的宾语不是动作的直接目的物。”

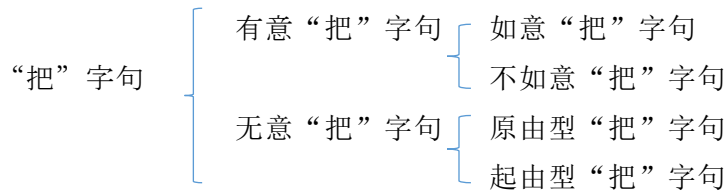
以下はその結論である。

“‘把’字句の语义结构是一个有层次的复合命题体，其最外层是说话人对 N 和 S 之间的缘由关系的主观认定，其中间层是‘事象界变’ S，其底层表达的是有界变关系的、表达客观事象的单纯命题 S<sub>1</sub> 和 S<sub>2</sub>。‘把’字句的主观性主要表现在 N 和 S 的关系上，‘把’字句的事象界变性主要表现在 S 内。”（“把”構文の意味上の構造は一つの多層的な複合命題体であり、その最外層は N と S の間の因果関係に対する話者の主観的な認定であり、その中間層は‘事象界变’ S であり、その内層が表すのは、“界变”関係があり客観的な事象を表す単純命題である S<sub>1</sub> と S<sub>2</sub> である。“把”構文の主観性は主として N と S の関係上において表われ、“把”構文の“事象界变性”は主として S の中において表われる。筆者訳）。

さらに、“事象界变”については、次のように説明している。

“在‘把’字句的公式（N 把 S）中，S 一定要是一个有变化的事件，简而言之，即事象界变。”（“把”構文の程式である“N 把 S”の中では、S は必ず変化する出来事である。簡単に言えば、即ち、“事象界变”である。筆者訳）。

同時に、“把”構文の種類について、以下のように分類している。



(19) 小王把信邮走了。(如意“把”字句) (张黎 2007: 60)

王さんは手紙を出した。(筆者訳)

(20) 田中把人弄错了。(不如意“把”字句) (张黎 2007: 61)

田中さんは人を間違えた。(筆者訳)

(21) 大雨把他淋感冒了。(原由型“把”字句) (张黎 2007: 61)

大雨によって、彼は風邪をひいてしまった。(筆者訳)

(22) 她把眼睛都哭红了。(起由型“把”字句) (张黎 2007: 61)

彼女は目を泣いて赤くした。(筆者訳)

しかし、“他把钱包丢了。”の中の“他”は“钱包丢了”を意図的に実現させるのではないし、その“钱包丢了”の直接的な原因ではない。よって、その種類の“把”構文は以上の四種類の“把”構文に含まれていない。



0.2.2.16 施春宏（2010：291-309）〈从句式群看“把”字句及相关句式的语法意义〉《世界汉语教学》第3期

施春宏（2010：291-309<sup>16)</sup>）は、“句式群”の角度から“把”構文について分析した。氏ははじめて“句式群”の概念を提示し、「働きかけ」の意味を表す文型の間で起きる派生の過程を分析し、“把”構文の語義が「ある種の方式を通じて、“致事”が“役事”に対して働きかけて影響を与えてた。その結果を際立たせる」ものであるとした。

0.2.2.17 陆俭明（2016：1～13）〈从语言信息结构视角重新认识“把”字句〉《语言教学与研究》第1期

陆俭明（2016：1～13<sup>17)</sup>）は、“语言信息结构”の視点から“把”構文を分析し、「処置義」を表す“把”構文は三つのはっきりした特徴を持つと主張している。一つ目は、「処置者」を話題にする。二つ目は、「処置の結果」を情報焦点にする。三つ目は、介詞“把”を使うことによって、自由に「処置対象」を文の中に引き入れることができ、同時に“処置”の強影響性と話者の主観認定性を表し、これによって、「処置結果」を際立たせることが可能だと主張している。

0.2.2.18 王璐璐・袁毓林（2016：54～63）〈述结式与“把”字句的构式意义互动研究〉《语言教学与研究》第3期

王璐璐・袁毓林（2016：54～63<sup>18)</sup>）は、“述结式”“把”構文の文の配置と文法的意味の制限について研究した。その内容は、“把”構文の構造形式意味は述語動詞を中心として、構式の意の下位分類が形式上における参照は、違う種類の述語であり、意味上においては、主語の意味役割などの意味情報に対応している。“把”構文の構造形式意は“述结式”が包括する“致使义”と“把”構文が持つ主観性との相互作用によるものである。さらに、動詞と補語の間の制限については、“述结式”の中の動詞と補語

<sup>16)</sup> 施春宏（2010：291-309）では、以下のように述べている。“文章提出了句式群这一概念，并通过表达致使关系的特定句式群中相关句式派生过程的分析，将‘把’字句的语法意义概括为：通过某种方式，凸显致事对役事施加致使性影响的结果。”

<sup>17)</sup> 陆俭明（2016：1～13）は、“把”構文について、以下のように述べている。“从语言信息结构的角度看，表示‘处置义’的‘把’字句存在三个明显的特点：一是要让‘处置者’为话题。二是要让‘处置结果’作为信息聚焦点。三是运用介词‘把’，以便能自由地将‘处置对象’引入句子内，同时表示‘处置’的强影响性和说话者的主观认定性，由此凸显‘处置结果’。”

<sup>18)</sup> 王璐璐 袁毓林（2016：54～63）は、“把”構文について、以下のように述べている。“‘把’字句中的构式意义是以谓语动词为核心的，构式意义的小类在形式上的参照是不同的谓语类型，而在意义上对应于主语的语义角色等语义信息。‘把’字句的构式意义是述结式所蕴涵的致使义与‘把’字句的主观性互动的结果。”さらに、動詞と補語の間の制限について、以下のように述べている。“述结式的动词与补语存在相互选择限制。比如，‘拿’类动词与趋向补语搭配，放置类动词与介词补语相搭配。在‘把’字句中，结果补语可以表示事件的状态变化，也可以表示事物的状态变化。而且，趋向补语和介词补语在‘把’字句中既可以表示实在物体的状态或位置关系变化，也可以表示抽象事物的关系变化。”

の間には相互選択の制限がある。例えば、“拿”<sup>19)</sup>類の動詞は趨向補語と組み合わせられ（把书拿出来。）（本を取り出す。筆者訳）、放置類動詞は介詞補語と組みあわせられる（把抗战放在第一位。）（抗戦を第一位に考える。筆者訳）。“把”構文における結果補語は出来事の状態変化を表すことができ、また事物の状態変化を表すこともできる。しかも、趨向補語と介詞補語は“把”構文の中において、具体的な物体の状態あるいは位置関係の変化を表すこともできるし、抽象的な事物の関係変化を表すこともできると主張している。

### 0.2.3 構造の角度からの研究

構造の角度からの研究には、呂叔湘(1948:176-208)、胡附・文炼(1955:123~137)、沈阳(1997:402~414)などを先行研究として挙げるができる。

#### 0.2.3.1 呂叔湘主编(1948:169~191)《汉语语法论文集(增订本)》商务印书馆

呂叔湘主编(1948:169~191<sup>20)</sup>)は、“把”構文が広く用いるようになったのは、賓語を動詞の前に置く必要があるからであると主張している。さらに、“把”構文の賓語、“把”構文における動詞、及び動詞の前後の部分についても述べている。

“把”構文の賓語は“有定性”であり、動詞は処置義を持つと述べている。また、動詞の前後の部分を以下のように分析している。

#### ① 动词后加成分 (post-verbal elements)

##### A. 额外宾语 (extra objects)

- 1) 偏称宾语 (partitive object) (例: 把腿跷起一只来。)
- 2) 动量宾语 (quantitative object)
  - (a) 与动词同形 (例: 把那烟袋锅儿挖一挖。)
  - (b) 与动词不同形 (例: 把两手拍了一下。)
- 3) 保留宾语 (retained object) —— 带宾动词 (verb-object construction) 里的宾语 (例: 我是把诸位绑了票了。)

##### B. 补语 (complements) —— 一般

- 4) 受事 (recipient)
  - (a) 无给 (例: 又把这等的机密大事告诉你。)
  - (b) 有给 (例: 把帽罩子摘了, 递给华忠。)

<sup>19)</sup> 原文は“‘放’类动词与趋向补语搭配”を書いてあるが、筆者は“‘拿’类动词与趋向补语搭配”を理解している。

<sup>20)</sup> 呂叔湘主编(1948:169~191)によれば、“把字句式初起的时候也许并没有特殊用途的一种句法, 但是它在近代汉语里应用的如此其广, 主要是因为有一些情况需要把宾语挪到动词之前去。同时, 有两个重要的消极限制: 第一, 宾语必须是有定性的; 第二, 动词必须代表一种‘作为’, 一种‘处置’。这积极消极两方面的条件发生冲突的时候(这种情形很少), 要是没有第三种句式可以利用, 把字句式比普通主动句式要占点优势。”

- 5) 处所 (complement of place) (例: 将碟子挪在眼前。)
- 6) 动向与动态 (complements of direction and aspect) (例: 把他也带了去。)

C. 补语—结果 (complements of result)

- 7) 无得 (例: 把那银子搬齐。)
- 8) 有得 (例: 把那文行出处都看得轻了。)
- 9) 特种 (例: ①把我羞哭了。②把手绢儿哭湿了。)

D. 10) “把风丫头病了。”

②动词前加成分 (pre-verbal elements)

- 11) 一 (例: 把手一拱, 说道, “请了。”) )
- 12) 都, 也 (例: 把方才的话都说了。)
- 13) 其他 (例: 把箱子一齐打开。)

0.2.3.2 胡附·文炼 (1990: 116~124) <‘把’字句问题>《现代汉语语法探索》

胡附·文炼 (1990: 116~124<sup>21)</sup>) は、王力 (1943: 160~172) の処置義について指摘し、“把”構文には処置義があるとは限らないと述べている。

(23) 墙上那枚钉子把我的衣服撕破了。(胡附·文炼 1990:117)

壁にある釘が私の服を破いた。(筆者訳)

例 (23) の文は処置義を持っていない。としている。

さらに、胡附·文炼 (1990: 116~124) は“把”構文を文構造の角度から分析し、三つのパターンを見出している。

①動詞述語文で最もよく見かけるのは「主語—動詞—賓語」の文であり、特別な必要性がなければ、一般的に“把”を用いて賓語を動詞の前に置かなくてもよい。

②以下の四つの場合、“把”構文を用いても用いなくてもよい。

A. 動詞の後に“了”、“着”、“起來”が付いている場合。

B. 動詞が動補構造の単語である場合。

<sup>21)</sup> 胡附、文炼 (1990:116~124) は、以下のように述べている。“‘处置式’的说法是比较勉强的, 因为‘把’字句不一定表示处置的意义, 许多没有处置的意思。例: 墙上那枚钉子把我的衣服撕破了。”しかも、“我们可以得出三条规律: ①动词谓语句最常见的是‘主语—动词—宾语’的格式, 如果没有特殊需要, 一般不用‘把’將宾语提前。②如果 (1) 动词带了‘了’、‘着’‘起來’之类, (2) 动词是个动补结构的词, (3) 动词带有两个宾语, (4) 动词前后有附加语, 可以用‘把’字句的格式, 也可以不用。③如果动词带上较复杂的补语再带上宾语, 一般以用‘把’字句为常, 如果动词的补语是个副动词带宾语的动宾仿语, 就非用‘把’字句来表达不可。”さらに、“同一意义可以采取两种不同的组织来表达, 听的人不会感到含糊, 而且组织的改变也没有附加些什么意义。”

- C. 動詞の後に賓語が二つある場合。
- D. 動詞の前後に“附加語”がある場合。

③もし動詞の後に複雑な補語があり、さらに、賓語もある場合は、一般的に“把”構文を用いている。もし動詞の後の補語が副動詞と賓語で作られた動賓フレーズである場合、“把”構文を用いなければならない。

さらに、同一意味の文は二つの文型で表すことができる。しかも文型が変わっても文の意味は変わらない。

### 0.2.3.3 沈阳（1997：402～414）〈名词短语的多重移位形式及把字句的构造过程与语 文解释〉《中国语文》（6）

沈阳（1997：402～414<sup>22)</sup>によれば、“把”構文は名詞連語（“把”の後の名詞を指し、記：NPb）が多数回位置を移動した結果であり、この多数回位置の移動は複雑な構造を構成する一つ的手段であるだけでなく、複雑な語義を体現する一つのプロセスである。NPb は各種文法構造の動詞あるいは構造によって決められるものであり、多数回位置を移動する（違う形式によって、主要の動詞の後に移動して、その後再び動詞の前に移動する）NP である。

(24) 几个犯人跑了→（牢房）跑了几个犯人→把几个犯人跑了（沈阳：404）

(25) （保姆）咳嗽醒了孩子→（保姆）把孩子咳嗽醒了（沈阳：405）

(26) 小姑娘哭得眼睛都肿了→把眼睛哭得都肿了（小姑娘哭+眼睛肿）（沈阳：407）

“把”構文の語義に対しては、以下のようにまとめることができる。

<sup>22)</sup> 沈阳（1997：402～414）には、以下のように述べている。“从名词性成分多重移位的角度定义把字句中‘把’后名词的句法性质和特点，（中略）名词成分的多重移位形式，不仅是汉语构成复杂结构形式的一个特殊手段，也是汉语体现复杂语义性质的一种可能途径。NPb（名词短语）为汉语各种句法结构中由动词（动词短语）或结构决定，可以经过多重移位（即以不同形式后移至主要动词后的位置，并再次前移）的NP。”

例：几个犯人跑了→（牢房）跑了几个犯人→把几个犯人跑了（沈阳：404）

（保姆）咳嗽醒了孩子→（保姆）把孩子咳嗽醒了（沈阳：405）

小姑娘哭得眼睛都肿了→把眼睛哭得都肿了（小姑娘哭+眼睛肿）（沈阳：407）

（中略）对把字句的语义性质，可以概括为：‘经过某种动作行为的处置、支配或影响，使某个人或事物（NPb）达到某种结果或状态。’（中略）把字句的语义性质大致可以分解成两个部分：语义1=NPb 受到某种处置或支配；语义2=NPb 具有被陈述的某种结果或状态。我们发现，这些语义内容都可能通过NPb 移位来体现。或者说，只有NPb 的多重移位形式才可能同时反映这两种语义性质。一方面，NPb 受支配的语义（语义1）主要是通过名词向后移位体现的。另一方面，NPb 受支配后的结果状态语义（语义2）主要是通过名词向前回移体现的。”

「ある種の動作行為の処置、支配、影響を経て、ある人あるいは事物をある結果あるいは状態に至らしめる。」

“把”構文の語義は二つの部分に分解することができる。一つ目は、語義1 = NPb は、ある種の処置あるいは支配を受ける。二つ目は、語義2 = NPb は、陳述される結果あるいは状態を持つ。これらの語義内容はすべて NPb の位置の移動によって実現することができる。つまり、NPb の多数回の位置移動によってはじめて、この二つの語義を同時に反映することができる。NPb の支配される語義は、名詞が動詞の後に移動するによって実現されるものである。また、NPb が支配を受ける結果状態の語義は、名詞が動詞の前に移動するによって実現されるものである。

#### 0.2.4 先行研究の問題点

中国語の“把”構文に関する先行研究における問題点は以下の三点に集約することができる。

まず、先行研究により、“把”構文の文法的な意味は「処置」と「働きかけ」の二つに大別されている。その文法的意味について、まだ定説がない。各文法研究者はそれぞれの視点から分析を行っている。

第二に、“把”構文の賓語は「定」であるかどうかについても、いまだに納得のできる分析はない。“一”の数詞があるのに、なぜ“把”構文の賓語は「定」的であるのか明らかにされていない。

第三に、“把”構文が存在する理由として、ほかの文型と違うところがあると同時に、“把”構文の副詞の位置も関連があることが重視されていない。

これらの問題点は日本人の中国語の学習者にとって、“把”構文を理解・把握する上で非常に大切である。本研究では、これらの問題点を解明するために、現代中国語（“普通话”）及び清末・日本明治期のテキストを調査し、分析を行う。

#### 0.3 連語論に関する先行研究

『日本語文法・連語論（資料編）』（1983）でいう連語とは、単語と同様に文を作るための材料で、二つ以上の自立的な単語の組み合わせによって一つの名付け的な意味を表す言語単位である。連語は、飾りと飾られの関係に立つ、二つ以上の単語（自立語）の組み合わせで、他の単語を従属させる構成要素（飾られ＝動詞）と他の単語に従属する要素（飾り＝名詞）から成り立つのである。例えば、

「御飯を 食べる」

の「御飯を」という単語が、「食べる」に従属する飾り要素であり、「食べる」はその単語「御飯を」に従属させる飾られ要素である（方美麗 2004：15）。かざる単語（修飾する単語）を「カザリ」と、かざられる単語（被修飾語）を「カザラレ」とよび、「むすびつき」とは、連語としての一定の「構造的なタイプ」によって実現されている単語と単語との関係づけを意味するものである（鈴木康之 2011：5）。以下「ものにたいするむすびつき」について、いくつかの研究者の考えを紹介したいと思う。

0.3.1 奥田靖雄『日本語文法・連語論（資料編）』（1983：22）（以下『日・連 1983』と略称）においては、「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」について、「物にたいするはたらきかけ」と「ひとにたいするはたらきかけ」と「事にたいするはたらきかけ」に分けて述べている。その中の「物にたいするはたらきかけ」について、以下のよう

に述べている。  
この種の連語は、かざりとかざられとのあいだにあるむすびつき方の違い、それに照応する構造的なタイプの違いに合わせて、次の六つのカテゴリーに分かれていく。

①もようがえ

(1) 少女が台所で玉ねぎをいためている。（『日・連 1983』：25）

②とりつけ

(2) あかい受話器をみみにあてがって…（『日・連 1983』：27）

③とりはずし

(3) …ほした川魚をくしからぬいて…（『日・連 1983』：31）

④うつしがえ

(4) おこって、わたしが菓子おりを海へなげたからって…（『日・連 1983』：33）

⑤ふれあい

(5) かたがわの壁にかた手をつきながら…（『日・連 1983』：38）

⑥結果的なむすびつき

(6) …ああして家屋を自分でたてるようになった。（『日・連 1983』：40）

0.3.2 鈴木康之（2011）によれば、「ものへのはたらきかけ」は「ものだけへのはたらきかけ」と「ものへ空間的なはたらきかけ」にわけて、それぞれ二単語と三単語のむすびつきであると主張している。「ものへのはたらきかけ」については、以下のように分類されている。

A. 「ものだけへのはたらきかけ」

① <もようがえのむすびつき>

～ を

もの名詞

～ する

もようがえ動詞

(7) コップをこわす (鈴木：10)

② <さわりかたのむすびつき>

～ を

もの名詞

～ する

さわり動詞

(8) メガネをいじる (鈴木：11)

B. 「ものへ空間的なはたらきかけ」

③ <とりつけのむすびつき>

～ に

場所的な名詞

～ を

もの名詞

～ する

とりつけ動詞

(9) かべにポスターをはる。(鈴木：13)

④ <とりはずしのむすびつき>

～ から

場所的な名詞

～ を

もの名詞

～ する

とりはずし動詞

(10) 赤ちゃんのホッペからごはんつぶをとる (鈴木：14)

⑤ <うつしかえのむすびつき>

～ を

もの名詞

～ から：～に ～へ ～まで

場所名詞

～ する

うつしかえ動詞

(11) ピアノを音楽室から講堂に移す

さらに、同氏 (2011：3) は連語論について、以下のように述べている。

ひと切れの現実を名づける単位としての単語は、文の材料ではあるのだが、どのような文をくみたてるかにかかわらず、その単語の名づける的な意味を具体化するという必然から、他の単語とくみあわさるということが義務づけられている。つまり、連語 (単語と単語とのくみあわせ) に関するルールである。連語とは単語と単語をくみあわせて、より具体的な名づけを実現させているコトバの構造物である。

0.3.3 高橋弥守彦 (2009：3～19) は、連語と連語論について、以下のように述べている。

「連語とは、2つ以上の自立的な単語のくみあわせで、かつ、1つの名づける的な意味をあらわしている合成的な言語単位のことである。(中略)。「連語」を研究対象とする文法論を「連語論」というのである。」

また、連語論の中の「むすびつき」について、さらに以下のように述べている。

「一般に、連語論で「むすびつき」と呼ぶ場合には、連語の核となるカザラレの名づけ的な意味を具体化するために、一定の構造的なタイプを実現させていなければならない。つまり、「むすびつき」とは、カザラレの名づけ的な意味を具体化するためにカザリを要求し、そのカザリとカザラレとのくみあわせによって実現される一定の構造的なタイプを想定しての名称なのである。(中略) 連語論でも、もちろん「くみあわせ」という用語を使用する。つまり、単語と単語とが単にくみあわせられているというような意味で、「くみあわせ」という用語を使用するのである。その一方、「むすびつき」という用語もしようするのだが、その場合には、単なる「くみあわせ」ではなく、それが一定の連語論的な意味を実現させるための構造的なタイプとして、連語が客観的に存在しているということを示している。」

#### 0.3.4 方美麗 (2004) の“把”構文に関する「むすびつき」を簡単にまとめる。

①日本語の<もようがえのむすびつき>の三単語の組み合わせは「TN2に+TN1を+とりつけ動詞」であり、中国語では「把TN+模様変化式V(一成)+TN」になる。

(12) ざくろを二つに割ろうとしたはずみに、(方 2004: 55)

想把石榴果掰成两半的刹那间、(方 2004: 55)

②日本語の<とりつけのむすびつき><sup>23)</sup>の三単語の組み合わせは「TN2に+TN1を+とりつけ動詞」であり、中国語では「把TN1+とりつけ動作V在/到/进+TN2 p」<とりつけ=結果>になる。

(13) 私は左手をマントのポケットに入れ、(方 2004: 60)

我把左手插在斗篷兜儿里。(方 2004: 60)

③日本語の<とりはずしのむすびつき><sup>24)</sup>の三単語の組み合わせは「TN2から+TN1を+とりはずしV」であり、中国語では「把TN1+従TN2 p+とりはずし

<sup>23)</sup> 方美麗 (2004: 69) <とりつけのむすびつき>は、日本語では「TN2に+TN1を+とりつけ動詞」の形で表現されているが、中国語では「把N1+V在+N2 p」と「在N2 p+V(進/了)+N1」及び、「N1+V在+N2 p」(「N2+V着+N1」)の形に対応する。

<sup>24)</sup> 方美麗 (2004: 74) <とりはずしのむすびつき>は、日本語では「TN2から+TN1を+とりはずしV」の三単語のくみあわせである。中国語では「従TN2+とりはずし変化V+TN1」、「把TN1+従TN2 p+とりはずし変化V」である。



変化V」になる。

(14) おふくろは行李から茶碗と箸を出して、(方 2004 : 74)

母亲从行李中拿出碗筷、(筆者訳<sup>25)</sup>)

④日本語の<うつしかえのむすびつき>の三単語の組み合わせは「TN1を+LN2に、へ、から、まで+移し換えV」であり、中国語では「把TN1+従LN+うつしかえ変化V(一来、一去/一起/一上)」になる。

(15) 把肥料从倉庫搬到学校。(方 2004 : 83)

肥料を倉庫から学校まで運ぶ。(方 2004 : 83)

筆者はこれらの先行研究の「くみあわせ」と「むすびつき」の考えに基づき、中国語における“把”構文を分析・考察することとする。また、中国語における“把”構文の構造に関わる「変化のくみあわせ」及びいくつかの「むすびつき」があり、第一章において、“把”構文の語義に関わる「変化のくみあわせ」および「むすびつき」の定義づけを試みる(第一章を参照)。

#### 0.4 本研究の構成

本研究は三部に分けて論じる。第一部には五章、第二部には三章、第三部には四章それぞれあり、合わせて十二章から構成される。第一部において現代中国語の“把”構文の特徴について論じる。第一章では本研究においてよく言及される「変化のくみあわせ」という概念を定義づける。第二章では、“把”構文の客体(品詞・既知か未知か・定か・未定か)について論じる。第三章では“把”構文の動詞について論じる。第四章では“把”構文における「その他」の部分の特徴について論じる。また、“把”構文の文構造の一つである「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“了”」についての特徴、そして、“把”構文の「その他」の部分に可能補語を用いることができない理由についても論じる。第五章では“把”構文に対応する日本語訳の傾向について論じる。第二部においては“把”構文存在の根拠について考察する。第六章では「“把”+空間詞」の“把”構文について考察し、それを「名詞+“在”+空間詞+動詞」の構造の文と比べ、論じる。第七章では“把”構文における使役表現について分析する。中でも取りわけ“把”構文で表される使役表現と“使”構文の異同について分析する。第八章では、“把”構文が存在する理由の一つである副詞の位置の重要性について考察する。

---

<sup>25)</sup> 方美麗(2004 : 74)によれば、“母親从行李中拿出碗筷”と訳されているが、この中国語の訳文は筆者が訳したものである

中でもとりわけ範囲副詞について論じる。第三部では清末資料及び日本明治期における北京官話テキストのデータを用いて、中国語の“把”構文について論じる。これをさらに四章にわけて論じる。第九章では『語言自邇集』について、第十章では『北京官話伊蘇普噲言』について、第十一章では『官話指南』について、第十二章では『北京官話今古奇觀』についてそれぞれ検討する。

## 第一部 現代中国語における“把”構文の特徴

## 第一章「変化のくみあわせ」とは

### 1.1 はじめに

本研究における「変化のくみあわせ」は非常に重要な概念であり、本章において、この概念を定義する。

“把”構文は中国語文法の中で重要な文構造の一つである。その文構造は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、一般に“把”構文は「処置義」（例 1、2、3、4、5）を表すと言われているが、「非処置義」（例 6、7）を表すこともできる。

- (1) 把耳朵贴在地下，他听着有没有脚步声儿来，心跳得极快。（《骆驼》2<sup>26)</sup>  
彼は地面に耳をおしつけてかすかな足音でも聞きわけようとした。胸が早鐘を打つようにはずんだ。（『ラ』：33<sup>27)</sup>
- (2) 她把小福子看成个最可爱，最可羡慕，也值得嫉妒的人。（《骆驼》17）  
虎妞は彼女にぞっこん惚れこみ、羨ましがり、また、ねたましく思いもした。（『ラ』：281）
- (3) 更严重一些的，有时候碰了行人，甚至有一次因急于挤过去而把车轴盖碰丢了。（《骆驼》1）  
ひどいときは、通行人にぶつかってしまったこともあるし、混雑をむりにすりぬけようとして心棒のカバーをすっとぼしてしまっただことさえある。（『ラ』：16）
- (4) 把东城西城都跑遍了。（吕叔湘 1999：54）  
東城と西城、すべて回りました。（筆者訳）
- (5) 那么多的字把她写得头昏眼花。（金立鑫 2002：17）  
たくさんの漢字を書いたので、彼女の頭は朦朧となった。（筆者訳）
- (6) 祥子说得很慢，可是很自然；听说买车，他把什么都忘了。（《骆驼》16）  
祥子は、ごくゆっくりとではあるが、すらすらと言った。車を買うと聞いて、なにもかも忘れてしまったのである。（『ラ』：265）
- (7) 因为工龄不够，一上大学还把工资免了。（《插队的故事》<sup>28)</sup>）  
勤務年数が足りないから大学に進学すると給料まで止められる。（『大地』）

上掲の“把”構文を見てみると、例(1)のように「処置義」を表す文が典型的な“把”

<sup>26)</sup> 《骆驼》2は《骆驼祥子》の第2章を表している。

<sup>27)</sup> 『ラ』：33は『らくだのシアンツ』の33頁のことを表している。

<sup>28)</sup> 例(6)は『中日対訳コーパス（第一版）』北京日本研究センター2003の中での《插队的故事》の中の文である。

構文であり、例（1）の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋（処置義）動詞＋その他」である。主体が意図的に“把”の客体を処置し、客体を空間的に移動させたことを表す「意図的な処置のむすびつき1」は“把”構文の基本義として使われている。例（2）の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋（処置義）動詞＋その他」であるが、主体が同じく意図的に“把”の客体を処置しても、その結果は客体ではなく、主体の位置を変化させたり、状態変化させたり、意識変化させたり（例2）することを表す。この「意図的な処置のむすびつき2」は“把”構文の派生義として使われている。例（3）の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋（処置義）動詞＋その他」であるが、非意図的に“把”の客体を変化させたり、結果を引き起こしたりすることを表す。この「非意図的な処置のむすびつき」は“把”構文の派生義として使われている。例（4）の文構造「ヒト＋“把”＋空間名詞＋動詞＋その他」であり、「動作の範囲・場所のむすびつき」と名付ける。例（5）の文構造は「コト・モノ＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、これは使役の一種の「作用使役」であり、「使役のむすびつき」と名付ける。例（6）の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋（心理活動）動詞＋その他」である。主体は“忘”という動作を意図的に行うことができないため、「非処置義」を表す“把”構文である。この「心理活動のむすびつき」は「非処置義」であり、これも“把”構文の派生義として使われている。また、例（6）は「非処置義」を表す“把”構文であり、非意図的に“把”の客体を変化させたり、結果を引き起こしたりする。例（7）の文構造は「（迷惑を受ける）ヒト＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、「第三者の受身のむすびつき」<sup>29)</sup>と名付ける。これらも“把”構文の派生義として使われている。本論文において、“把”構文の核である“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他を「変化のくみあわせ」とし、これを「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とによって、いくつかの種類の「むすびつき」に分類されるだろう。例えば、以下の如くである。「意図的な処置のむすびつき1」、「意図的な処置のむすびつき2」、「非意図的な処置のむすびつき」、「動作の範囲・場所のむすびつき」、「使役のむすびつき」、「心理活動のむすびつき」、「第三者の受身のむすびつき」。本章は実例を用いて、「変化のくみあわせ」の定義づけを目的とし、さらにまた、これらの分類の合理性を証明したいと考えている。

## 1.2 先行研究

“把”構文について、王力（1943：160～172）、呂叔湘主編<sup>30)</sup>（1999:53～56）、李人

<sup>29)</sup> 鈴木康之（1977:48）によれば、現代日本語の動詞の受動態には、直接対象のうけみ（直接的なうけみ）・あい手のうけみ（間接的なうけみ）・もちぬしのうけみ・第三者のうけみという四種の用法がみられる。第三者のうけみとは、能動態を述語とした文の意味することによって迷惑をうける第三者を主語として現す場合の用法である。例：あめが ふった。（能動態） みんなは あめに ふられた。（受動態）

<sup>30)</sup> 呂叔湘主編（1999:53～56）は《現代汉语八百词（増訂本）》に“把字句”について、以下のよう記述している。

鑑 (1988:105、1991:49)、刘培玉 (2003:44~49)、郭浩瑜 (2010:50)、马真 (2015:116~117) などの各文法学者は以下のように述べている。

1.2.1 王力 (1943:160~172) (序論の先行研究を参照)

1.2.2 吕叔湘主編(1999:53~56): “把” 構文は「処置」の意味を表すほか、「使役」、行為の「場所・範囲」、「望ましくない結果」、「～を対象に」あるいは「～に対する」の意味を表す五つの意味を表すこともできると述べている。

1.2.3 李人鑑 (1988:105~110<sup>31)</sup>) によれば、“把” 字構造は“使” 字構造とかなり似ているところがあり、また同氏 (1991:49) によれば、“把” 構文は“致使” の意味を表すこと場合もできると述べている。そのような“把” 構文の“把” はおおむね“使”、“叫”、“让” に替えることもできると主張している。

1.2.4 刘培玉 (2003:44~49) によれば、

“把字句的句法结构是对现实世界“A 作用于 B” 情景的临摹。(中略) 把字句的句法结构类型是对这个情景的不同侧面的突显。把字句表现的是以 B 的空间位移特征为原型的隐喻系统。”。(中略) “把字句表现的是一个以物体空间位移为原型语义特征向心理空间领域、时间领域、信息传递领域、变化领域和判断领域投射的隐喻系统。”

だが、刘培玉 (2003:44~49) は、次の例文のような、“把” の客体が場所名詞になっている“把” 構文には、触れていない。

(8) 你把里里外外再检查一遍。 (吕叔湘 1999:54)

くまなく、もう一回調べてください。 (筆者訳)

1.2.5 郭浩瑜 (2010:50) によれば、“把” 構文は「処置」、「使役」を表すほかに近代漢語では“遭受义”<sup>32)</sup>を表すこともできる。郭浩瑜 (2010:50) によれば、こういったよ

---

1. 表示処置。名词是后面及物动词的受动者。也可以是动词短语或小句。2. 表示致使。后面的动词多为动结式。3. 表示动词的处所或范围。4. 表示发生不如意的事情。(例：偏偏把老李给病了。) 5. 拿、对。(例：我把他没办法。) 关于‘把’后面的名词，名词所指事物是有定的，已知的，或见于上文，或可以意会。前面常加‘这’、‘那’或其他限制性的修饰语。代表不确定的事物的名词，不能跟把组合。

<sup>31)</sup> 李人鑑 (1988:105~110) によれば、“把” 字構造は“使” 字構造とかなり似ているところがあり、また同氏 (1991:49) によれば、“把” 構文は“致使” の意味を表すことができると述べている。そのような“把” 構文の“把” は大体“使”、“叫”、“让” に変えることもできると主張している。

A. 哎呀，你可回来了！真把人想坏了。(李人鑑 1988:105)

A. 哎呀，你可回来了！真让/叫人想坏了。(李人鑑 1988:105)

あゝ、やっと帰ってきたのね、会いたくて仕方がなかったのよ。(筆者訳)

<sup>32)</sup> 郭浩瑜 (2010:50) によれば、“把” 構文は「処置」、「使役」を表すほかに近代漢語では“遭受义”を表すこともできる。

うな不慮のできごとを受けた被害義を表す場合、その“把”構文は“遭受义”の“把”構文と言っている。

1.2.6 马真(2015: 116~117)によれば、“把字句主要用来表示处置。但有时也用来表示致使，或者表示动作所涉及的范围。”と述べている。

しかも、“他把嗓子都喊哑了。”(彼は叫んで喉が嘎れしまった。筆者訳)と“把个老李病了。”(李さんに病気にかかれてしまった。筆者訳。)の二つの文とも“致使”に属しているが、筆者はこの二つの文は内容の違う“致使”(前者は被害されたのは彼であるが、後者は被害されたのは李さんではなく、話者である。)と考えている。その異同については後述に譲る。

先行研究では、“把”構文がなぜいくつもの種類に分類できるか、その理由について、各位それぞれあるが、筆者が納得するものはなかった。

### 1.3 “把”構文の意味分類

本研究では、“把”構文は以下の七つに分類する。基本用法の「意図的な処置のむすびつき1」(客体を変化させる)と派生用法の「意図的な処置のむすびつき2」(主体を変化させる)、「非意図的な処置のむすびつき」、「動作の範囲・場所のむすびつき」、「使役のむすびつき」、「心理活動のむすびつき」、「第三者の受身のむすびつき」である。

#### 1.3.1 「意図的な処置のむすびつき1」

「意図的な処置のむすびつき1」を表現する“把”構文の構造は「動作主<sub>ヒト</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+ (処置義) 動詞+その他」である。「意図的な処置のむすびつき1」の主体はヒトであり、主体は自分自身の意思を持って、意図的に客体に働きかけ、ある出来事を実現させようとする。つまり、「意図的な処置のむすびつき1」は動作により、客体を空間的に移動させ、あるいは、その意識を変化させることである。

(9) 逃回城里之后，他并没等病好利落了就把车拉起来，虽然一点不服软，可是他时常觉出疲乏。(《骆驼》5)

逃げもどって以来、彼はからだがすっかりよくなるにうちに、もう稼ぎはじめた。へたりこむなどということはなかったが、ばかに疲れやすくなった。

(『ラ』: 71)

(10) 祥子一边吃，一边把被兵拉去的事说了一遍。(《骆驼》4)

祥子のご馳走になりながら、兵隊につれさられた顛末を話した。(『ラ』: 62)

---

例：(黛玉)又想梦中光景，无倚无靠，再真把宝玉死了，那可怎么样好？(《红》82回)  
(黛玉)また夢の中のことを思い出し、頼るべきところがなく、さらに本当に宝玉に死なれたら、どうしたらよいのか？ (筆者訳)

例(9)にある主体“他”が意図的な動作“拉”を通じて、客体である“车”を“起来”という結果に影響を及ぼし、客体である“车”は空間的に移動された。例(10)にある主体“祥子”が意図的な動作“说”により、聞き手に客体である“被兵拉去的事”という情報を伝えられたことを表す。客体である“被兵拉去的事”は話し手から聞き手へと伝達され、この情報を広く知らせたというようなことを表す。二つの文は全て客体が移動されたり、情報を伝達されたりであり、主体であるヒトが、処置を表す動作により、客体に結果を引き起こす「意図的な処置のむすびつき 1」は「変化のくみあわせ」の基本用法である。

### 1.3.2 「意図的な処置のむすびつき 2」の場合

「意図的な処置のむすびつき 2」を表現する“把”構文の構造は「動作主<sub>ヒト</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + (処置義) 動詞 + その他」である。主体はヒトであり、主体は意思を持って、意図的に客体に働きかけ、ある出来事を実現させようとする。その動作の結果として、主体は自分自身を空間的に移動させ、あるいは、意識を変化させることである。

(11) 他对猴子们特别的拿出耐心法儿，看在头儿钱的面上，他得把这群猴崽子当作少爷小姐看待。(《骆驼》5)

そう思ったので、死んだ気になり、寺銭に免じてこの餓鬼どもをお坊っちゃんお嬢っちゃん扱いしてやった。(『ラ』: 79)

(12) 他自己反倒变成了有威严与力气的，似乎能把她当作个猫似的，拿到手中。(《骆驼》6)

自分のほうが威厳と力をそなえた存在となり、彼女など猫でもつかまえるように、手中にできる気がした。(『ラ』: 89)

例(11)にある主体“他”は意図的な動作“当作”により、客体である“这群猴崽子”を移動させたり、変化させたりしていない。しかし、主体はこの動作“当作”により、自分が客体である“这群猴崽子”を“少爷小姐”と見なし、自分の考え方を变えている。この文は客体が移動・変化したというより主体の認識が変化したと言えるだろう。例(12)も同じく、客体である“她”が何にも移動も変化もしておらず、却って、主体である“他”の意識だけが変化したということである。

つまり、動作によって、主体が空間的に移動させられたり、意識を変化させられたりした結果を表す「意図的な処置のむすびつき 2」は「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。

まとめると、「意図的な処置のむすびつき」の分類は、以下[表 1]のように表現できる。



[表 1] 「意図的な処置のむすびつき」の分類

	主体	客体	動詞	結果
基本義	ヒト	ヒト・モノ・コト	処置義	客体の空間的な移動・状態的な変化・認識的な変化
派生義	ヒト	ヒト・モノ・コト	処置義	主体の空間的な移動・状態的な変化・認識的な変化

### 1.3.3 「非意図的な処置のむすびつき」の場合

「非意図的な処置のむすびつき」の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」である。主体はヒトであり、非意図的な動詞、例えば“丟”などのような動詞を用いて、これらの動詞が表す動作はコントロールできないこと、あるいは、処置義がある動詞を用いて、非意図的な結果になってしまったことを表す。主体は意思を持って、あるいはあいまいな意思の下“放任”している。それらの働きによって、客体が結果や変化を引き起こすのである。

(13) 更严重一些的，有时候碰了行人，甚至有一次因急于挤过去而把车轴盖碰丢了。(前例3)

ひどいときは、通行人にぶつかってしまったこともあるし、混雑をむりにすりぬけようとして心棒のカバーをすっとぼしてしまったことさえある。

(同上)

(14) 他晓得自己的病源在哪里，可是为安慰自己，他以为这大概也许因为二十多天没拉车，把腿撂生了；跑过几趟来，把腿蹀开，或者也就没事了。(《骆驼》16)

思いあたるふしがあったが、いやいや、これはきっと二十何日もぶらぶらしていたために足がなまったんだから、何度か走って足ならしをすればけろりとなおってしまうかもしれないと、自分に言聞かせた。(『ラ』: 252)

例(13)の主体もヒトであり、主体の動作“碰”は処置の意味がある動詞であり、この動作によって、この“丟”という結果を意図的に起こさせるものではなく、非意図的な結果になってしまっていることを表しているものである。よって、例(13)は「非意図的な処置のむすびつき」であり、これも「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。例(14)も同様である。

### 1.3.4 「動作の範囲・場所のむすびつき」の場合

「動作の範囲・場所のむすびつき」を表現する“把”構文の構造は「ヒト＋“把”＋空間名詞＋動詞＋その他」であり、主体であるヒトは客体である場所で動作をし、

結果や変化を引き起こすのである。

(15) 你把里里外外再检查一遍。 (同上例 8)

くまなく、もう一回調べてください。 (筆者訳)

(16) 小福子含着泪，不知怎样好。劝父亲是没用的，看着祥子打他也于心不安。

她将全身都摸索到了， 凑出十几个铜子儿来，交给了弟弟。(《骆驼》20)

小福子は涙を光らせて、おろおろしていた。父親をなだめてもむだとわかっていたし、祥子が彼を殴るのも見るに忍びなかった。あちこちさがして銅貨を十五、六枚かき集め、弟にわたした。(『ラ』: 320)

例(15)の主体である“你”が客体である“里里外外”で“检查”という行為を行うのであるが、“里里外外”は動作の対象だけではなく、動作する場所あるいは範囲である。さらに、この動作をした結果が“一遍”である。同様に、例(16)の主体である“她”が客体である“全身”を“摸索”という動作で「処置」し、その結果は“(摸索)到”となった。「動作の範囲・場所のむすびつき」は“把”を使って、これらの場所・範囲をどのようにしたかということを表した文である。ヒトが処置する対象は場所・範囲を表す「動作の範囲・場所のむすびつき」も「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。

### 1.3.5 「使役のむすびつき」の場合

使役義を表す“把”構文の構造は「コト・モノ + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」である。これらの“把”構文の主体はすべて意思性がないコト・モノであり、「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」は主体の影響により、客体に起こさせる結果や結論を表している。

(17) 车夫们没有敢跟他耍骨头的。他一瞪眼，和他哈哈一笑，能把人弄得迷迷糊糊的，仿佛一脚登在天堂，一脚登在地狱，只好听他摆弄。(《骆驼》4)

車夫連中は、まるで蛇に見こまれた蛙のようなもので彼の一顰一笑に気もそぞろ、天国と地獄に足を片方ずつおいているみたいな気持になって、彼の思うさまにひきずりまわされてしまうのである。(『ラ』: 57)

(18) 又待了一会儿，西边的云缝露出来阳光，把带着雨水的树叶照成一片金绿。

(《骆驼》18)

さらにしばらくすると、西のほうの雲が切れ間から太陽が顔をだし、雨に濡れた木の葉を金色に染めた。 (『ラ』: 296)

例(17)の主体は“他一瞪眼，和他哈哈一笑”であり、「使役のむすびつき」である

“把人弄得迷迷糊糊的”は、動作“弄”によって、客体に起こさせた結果である。例(18)の「使役のむすびつき」も結果を表している。使役義を表す「使役のむすびつき」も「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。

### 1.3.6 「心理活動のむすびつき」の場合

「心理活動のむすびつき」の文構造は「動作主<sub>ヒト</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋(心理活動など)動詞＋その他」である。主体はヒトであり、心理活動を表す動詞“忘”や“想起来”などを用いる。動作主はこれらの動詞が表す動作をコントロールできない。動作主である主体は意思を持って、あるいはあいまいな意思の下に“放任”している。それらの働きによって、客体が結果や変化を引き起こすのである。

(19) 过了些日子，生活又合了辙，他把这件事渐渐忘掉，一切的希望又重新发了芽。(《骆驼》8)

日がたって、生活がふだんの状態にもどるにつれ、その事件の記憶もしだいに薄らいでいった。それにともない、さまざまな希望がふたたび芽を吹いてきた。(『ラ』: 117)

(20) 祥子的心一动，忽然的他会思想了，好象迷了路的人忽然找到一个熟识的标记，把一切都极快的想了起来。(《骆驼》2)

「駱駝！」ドキンとした瞬間、祥子の頭は、また働きだした。道に迷った人間は、見知った目じるしにぼったりぶつかったとたん、ぱっとすべてを思い出すものだ。(『ラ』: 30)

例(19)の主体もヒトであり、主体の動作“忘”は心理活動動詞であり、例(20)の主体もヒトであり、主体の動作“想起来”も心理活動動詞である。いずれにしても、心理活動により、意思性を持つ主体が客体を意思的にコントロールできるわけではない。客体を“放任”させ、それらのような結果になってしまうという表現である。コントロールできない動作を表す「心理活動のむすびつき」も「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。

### 1.3.7 「第三者の受身のむすびつき」の場合

文構造は「(迷惑を受ける)ヒト＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」である“把”構文の主体(ヒト)は客体に動作する仕手(ヒト)ではなく、このむすびつき「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」の結果により、被害をこうむるヒトである。

(21) 因为(他)工龄不够，一上大学还把工资免了。(《插队的故事》)

勤続年数が足りないから大学に進学すると給料まで止められる。(『大地』)

(22) 把个囚犯给跑了。(金立鑫 2002: 16)

罪人に逃げられた。 (筆者訳)

(22)' (那个监狱/他) 把个囚犯给跑了。 (作例)

(あの監務所/彼) は罪人に逃げられた。(筆者訳)

例(21)の“把”構文は、“把工资免了”という迷惑を受ける第三者を主体“他”とする文であり、その主体“他”は“把工资免了”の仕手ではない。鈴木康之(1977:48前注29を参照)、高橋弥守彦(2011:72)<sup>33)</sup>によれば、例(22)は第三者の受身である。よって、例(22)は「第三者の受身のむすびつき」である。同様に、例(22)'の“那个监狱”/“他”は“把囚犯给跑了”をさせた仕手ではなく、“把囚犯给跑了”という被害をこうむる主体である。よって、例(22)'も「第三者の受身のむすびつき」である。主体であるヒトが被害をこうむることを表す「第三者受身のむすびつき」も「変化のくみあわせ」の派生用法として使われている。

#### 1.4 「変化のくみあわせ」の定義

前節では、“把”構文にはこれらの7種類があることを明らかにした。この7種類の“把”構文を包括して、変化を表す「変化のくみあわせ」と定義づける。“把”構文の意味構造とそれを言語化する文構造は以下のように図式化できる。

[表2] “把”構文の意味構造と文構造

意味構造<sup>34)</sup>: 基本義: 対象は処置されまたは処置された後結果または状態

派生義: その他の意味及び状態

文構造: 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」

##### 1.4.1 本論文における変化について

変化とは、《現代汉语词典》第7版(2016:80)では、“变化是事物在形态上或本质上产生的新状况”(变化とは事物が形態あるいは本質に生じた新しい状況である、筆者訳)と定義づけているが、本論文の言う変化とは、より抽象度の高い幅広い変化を意味し、主体・客体に生ずる空間の移動及び時間の変化に伴う状態の変化と認識の変化を指す。

##### 1.4.1.1 スキーマについて

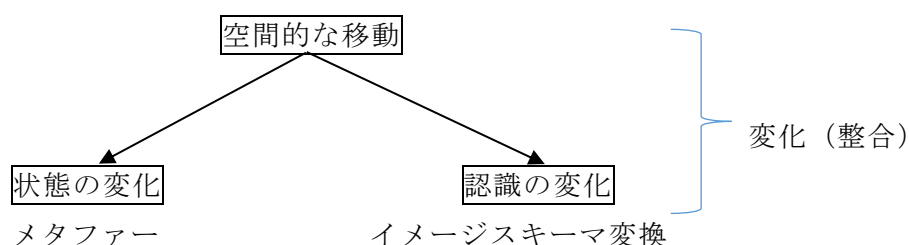
<sup>33)</sup> 高橋弥守彦(2011:72)も鈴木の説に従い、直接対象の受身・相手の受身・持ち主の受身・第三者の受身の四種の受身を簡潔に紹介している。第三者の受身とは能動文の文中に現れていない迷惑を受ける第3者を主体とする文であり、両者の関係は以下になるであろう。例: 花子が死んだ。 ⇨ 両親は花子に死なれた。

<sup>34)</sup> “把”構文に関する研究は多いが、以下の二人の意見がその代表と言ってよいであろう。

王力(1985:124)提出: 象“我把那一封信烧了”一类的句子可称为处置式。金立鑫(2002:19)提出: “把”字句<sub>1</sub>说明的是“对象被处置以及处置以后的状态”, 在语义上表现“被处置”的语义特征, 而“把”字句<sub>2</sub>说明的是“A使B出现某种状态”, 在语义上必须满足“致使”的语义特征。

スキーマとは、経験を抽象化・構造化して得られる知識形態のことで、思考活動のもとになる知識の鋳型あるいは規範の形で蓄えられているという(辻幸夫(2013:77))。また、谷口一美(2003:51)では、イメージ・スキーマは身体的に基本的な経験から抽象化された一定のパターンであると述べている。経験から獲得されたスキーマが、認知言語学において重要な意義を担う理由は、言語の多義性(Taylor(2012:241))<sup>35)</sup>は、イメージスキーマを介して拡張されると考えられているからである(Lakoff(1987))。物理的な移動は、繰り返され、定着した身体経験によって意味拡張されるのである(神野智久(2016:40))。以上のことを総合すると、空間的な移動を次のようにに図式化することができるだろう。

[図1] イメージスキーマを介した意味拡張



空間的な移動は、イメージスキーマを介して、メタファー的な意味とイメージスキーマ変換による拡張義に拡張される。空間的な移動と状態の変化及び認識の変化を整合したものが本論文における「変化」という言葉の定義である。

#### 1.4.2 “把”構文の「変化のくみあわせ」

連語については、鈴木康之(2011:3)の唱える「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とによる意味分類として、二つ以上の実詞を含む単語のくみあわせとしての連語を各むすびつきに意味分類している。また、鈴木康之の影響を深く受けている高橋弥守彦(2011:94~95)は、中国語の連語について、「二つ以上の実詞を含む単語より具体的な意味を表すひとまとまり性のあるくみあわせである」と規定し、ひとまとまり性のある連語が簡単に語順を換えられない理由について述べている。さらに、高橋弥守彦(2017:152)は、「空間領域のくみあわせ」が連語の意味によって、以下のように分類できると主張している。「空間的な移動のむすびつき」(“上楼”“階段を上がる”)、「空間的な到着のむすびつき」(“上中天”“中天に昇る”)、「空間的な移りむすびつき」(“上法院”“病院へ行く”)、「空間的な進入のむすびつき」(“上了船”“船に乗り込んだ”)、「空間的な出現のむすびつき」(“上了报纸”“新聞に載った”)、「空

<sup>35)</sup> テイラーは、多義性について「単一の形態で表される2つか、それ以上の関連した意味の繋がりと述べている(Taylor(2012:241))。

間的なうつしかえのむすびつき」(「抱他上床」「抱き上げて寝かせる」)。従って、本論文における「変化のくみあわせ」は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」の構造であり、「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とによって、以下の[表 3]のように「意図的な処置のむすびつき 1」と「意図的な処置のむすびつき 2」と「非意図的な処置のむすびつき」と「動作の範囲・場所のむすびつき」と「使役のむすびつき」と「心理活動のむすびつき」と「第三者の受身のむすびつき」の七つの「むすびつき」になると定義づける。

《骆驼祥子》について調査したところ、同資料に“把”構文は 428 例があり、基本用法と派生用法の例文数と割合は以下[表 3]のように分布していることが明らかとなった。

[表 3] “把”構文の基本義と派生義についての分類 (《骆驼》の 428 例)

中国語の“把”構文		例文数	割合	
基本義	処置義	意図的 (客体の移動と状態変化) 「動作主 <sub>ヒト</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + <small>(処置義)</small> 動詞 + その他」 「意図的な処置のむすびつき 1」(例 9、10)	354 例 82.7%	
	派生義	意図的 (主体の移動と状態変化) 「動作主 <sub>ヒト</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + <small>(処置義)</small> 動詞 + その他」 「意図的な処置のむすびつき 2」(例 11、12)	19 例 4.4%	
派生義	非意図的処置	「動作主 <sub>ヒト</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞 + その他」 「非意図的な処置のむすびつき」(例 13、14)	12 例 2.8%	
	活動範囲・場所	「ヒト + “把” + 空間名詞 + 動詞 + その他」 「動作の範囲・場所のむすびつき」(例 15、16)	2 例 0.4%	
	使役表現	「コト・モノ + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞 + その他」 「使役のむすびつき」(例 17、18)	20 例 4.6%	
	非処置義	心理活動	「動作主 <sub>ヒト</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + <small>(心理活動など)</small> 動詞 + その他」 「心理活動のむすびつき」(例 19、20)	22 例 5.1%
		受身表現	「 <small>(迷惑を受ける)</small> ヒト + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞 + その他」 「第三者の受身のむすびつき」(例 21、22)	0 例

### 1.5 おわりに

本章では、“把”構文に用いられる「変化のくみあわせ」について分析を行った。「変化のくみあわせ」は“把”を使い、主体が客体に働きかけたり、影響を与えたりしている。「主体」は意思性のあるヒトである場合が多いが、意思性のない「コト」、「モノ」である場合もある。そのために、上記の[表 3]のように基本義と派生義とに下位分類した。その基本義とは、意思性のある動作主（主体）が、処置義のある動作をもって、被動作主（客体）に働きかけ、その結果を表している。その派生義は、主体に意思性があるかどうか、動作が処置義をもっているかどうかにより、六つに分けられている（[表 3]のように）。

## 第二章 “把” 構文の客体について

### 2.1 はじめに

本章では、“把” 構文の客体について分析する。一般に“把” 構文を成立させるため、その成立条件として「名詞<sub>2</sub>」、「動詞」、「その他」に様々な制約と問題点とがある。たとえば、その中の「名詞<sub>2</sub>」については、以下の二点が挙げられる。

- i. “把” 構文の“把” の客体<sup>36)</sup> (名詞<sub>2</sub>) の品詞
- ii. “把” の客体は既知であるか未知であるか、定であるか不定であるか

上掲の二点は外国人学習者にとって、非常に難しく感じられるところである。この点について、中国語の教科書では、触れてはいるものの非常に簡単な説明であり、十分に納得のいく内容とはなっていない。各文法書や学習書でも例文は若干あるものの具体的な説明に乏しい。また、“把” 構文に関する、各論文や専門書でも研究されていない点もあるし、研究されていても首肯しがたい点もある。そのため、本章では、先行研究と言語事実とにより、上掲の二点について分析と検討を試みた。

本章では先行研究と言語事実に基づき、中国語“把” 構文における“把” の客体 (名詞<sub>2</sub>) に焦点を当て、その検討を行う。“把” の客体 (名詞<sub>2</sub>) の品詞については、高橋弥守彦 (2013) の「枠組み理論」に基づいて分析を行う。既知であるか未知であるか、定であるか不定であるかについては、話し手と聞き手の視点から分析する。定であるか不定であるかについては、さらに単語レベルと連語レベルと文レベルと文脈レベルの角度から分析する。

### 2.2 “把” 構文及び“把” の客体に関する主な先行研究

#### 2.2.1 《中国現代語法》 王力 (1943: 160~172)

王力は最も早い時期に“把” 構文が“把” の客体を「処置」するという考え方を提示し、それを「処置式」(序論の先行研究を参照) と命名した。それ以降の“把” 構文の研究に大きな影響を与えている。しかし、王力は“把” 構文の“把” の客体について、特に触れていない。

#### 2.2.2 《現代漢語八百詞(増訂本)》 呂叔湘 (1999:53~56) (前章 1.2.2 を参照)

呂叔湘主編《現代漢語八百詞(増訂本)》(1999:53~56)によると、“把” 構文は「処置」の用法があるほか、「使役」、「行為する場所・範囲」、「望ましくない結果」、「“拿” と“对” の意味」を表す用法があると分類し、以下のような五つの用法と意味を表す

<sup>36)</sup> 通常の賓語 (目的語) のことを指す。



ことができると記述し、例文を挙げている。

I. 「処置」の意味を表す。

- (1) 把信交了。<sup>37)</sup> (吕叔湘 1999:54)  
手紙を手渡した<sup>38)</sup>。(筆者訳)

II. 「使役」の意味を表す。

- (2) 把鞋都走破了。(吕叔湘 1999:54)  
歩きすぎで、靴がぼろぼろに傷んでしまった。(筆者訳)

III. 「動作の場所・範囲」を表す。

- (3) 你把里里外外再检查一遍。(吕叔湘 1999:54)  
くまなく、もう一回調べてください。(筆者訳)

IV. 「望ましくないことが発生する」という意味を表す。

- (4) 偏偏把老李给病了。(吕叔湘 1999:54)  
よりよって李さんが病気にかかってしまった。(筆者訳)

V. “拿”、あるいは「～に対処する」の意味を表す。

- (5) 我把他没办法。(吕叔湘 1999:54)  
私は彼をどうすることもできない。(筆者訳)

“把”構文の“把”の客体について、《现代汉语八百词（増訂本）》（1999：54）では、次のように述べ、非文となる例文を挙げている。

すなわち、“把”構文の名詞<sub>2</sub>の示す事物は「定的」であり、既知である、あるいは前述されているか、あるいは理解可能かである。名詞<sub>2</sub>の前には、常に“这”、“那”あるいはその他の制限性のある修飾語が置かれている。不確定的な事物を表す名詞は“把”と組み合わせることができない。

- (6) \*他把几支铅笔拿走了。(吕叔湘 1999:54)  
彼は鉛筆を何本か持って行った。(筆者訳)

吕叔湘（1999：54）は例(6)が非文であると指摘している。しかしながら、なぜ例(6)が非文であるは明らかにされていない。要するに、単語レベルから“几支铅笔”の“几”は不定を表しているので、吕叔湘は“把”構文の“把”の客語が不定であってはならない、というのが原則なので、例(6)が非文であると指摘しているのであろう。しかし、筆者は文脈レベルからみれば、“把”構文の“把”の客語が「定」であれば、“把”

<sup>37)</sup> 先行研究の中の“\_\_”、“\_\_\_”は筆者がつけたものである。

<sup>38)</sup> 吕叔湘の原文に訳文がないため、例文では筆者が訳したものを付け加えた。

構文は成立すると考えている。

### 2.2.3 『中国語の文法構造』 アン・Y・ハシモト著 (1985:72~79) 中川正之・木村英樹訳

アン・Y・ハシモト (中川・木村訳 1985:72~79) は、“把”構文の客体について、以下のように述べている。

「処置」構文は、形式素「把」、定表現の目的語 NP、それに通常は修飾成分を伴う VP によりマークされる。表層構造では、目的語 NP が、「把」の直後、動詞の直前に起こるので、このタイプの文は、しばしば、動詞がある要素に修飾されている場合に「把」によってひきおこされる目的語の順序入れ換えとして記述されてきた。(中略)「把」の目的語は、いつもその指示対象が定的であるので、構文の共有 NP も定的であり、不定であってはならないということになる。

アン・Y・ハシモト (中川・木村訳 1985) によれば、“把”構文の客体はいつも定的であり、不定であってはならないと主張している。

### 2.2.4 『現代中国語文法総覧』(下) 刘月华 潘文娱 故群 著 (1991: 623~641)

相原茂 監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之 共訳

刘月华など (1991: 623~641) は、“把”構文について、その用法を何種類かに分け、以下のように整理している。

“把”構文とは、介詞“把 ba3”からなる介詞フレーズが状語として述部に含まれている動詞述語文である。意味上及び構造上の特徴からみると、“把”構文のタイプは一つにとどまらない。大多数の“把”構文においては、介詞“把”の目的語と文全体の述語動詞との間に意味上の動目関係が存在する。

(7) 他从自己的座位上把挎包拿起来。 (刘月华など 1991: 623)

彼は自分の座席からショルダーバッグを取り上げた。(同上)

このタイプの“把”構文の働きは処置や影響を表すこと、即ち、どのような処置や影響を“把”の目的語に対して与えようとするか(動作が実現していない場合)、或は与えたのか(動作が実現している)を表すことである。

述語動詞が“丢”、“洒”などの無意識の動作を表すものや、“爱”、“恨”などの精神活動を表すものである“把”構文は、意識的な処置は表さないものの、述語動詞と介詞“把”の目的語との間にはやはり意味上の動目関係が存在しており、これも広い意味では処置であり、処置や影響を表す文型であるとみなすことができる。

動目関係を想定しにくい“把”構文も少数ながらある。

(8) 姑娘们把肠子都要笑断了。 (刘月华など 1991 : 624)

娘達は腹がよじれんばかりに笑った。(同上)

また“把”構文の“把”の客体については、刘月华など(1991 : 628~629)は以下のように述べている。

介詞“把”の目的語は多くは名詞であるが、動詞や動詞フレーズであることもある。

(9) 今年夏天, 他把游泳学会了。 (刘月华など 1991 : 628)

今年の夏彼は水泳をおぼえた。(同上)

“把”構文が事物に対する処置や影響を表すことから、処置や影響を受けるところの事物即ち“把”の目的語は普通特定の指示対象を持っている。つまり、それは何らかの特定の事物であって、不特定の事物ではない。この特定の事物なるものは多くは前文で既出のものかまたは話し手と聞き手の双方にとって既知のものである。

(10) 我把这个消息告诉了老纪。 (刘月华など 1991 : 628)

私はこの知らせを紀さんに伝えた。(同上)

前文に表れていないものや、聞き手にとって未知のものが“把”の目的語になる時には、修飾語を伴うことによって特定化されていることが多い。

(11) 这样, 我就不得不把游湖的计划延长了一天。 (刘月华など 1991 : 629)

そこで私は湖見物の予定を一日延長せざるを得なくなった。(同上)

“把”の目的語が“一个”等の数量フレーズを含んでいることもあるが、このような目的語もやはり特定の事物を表している。ただ明示的に表す必要がない、またはそうする術がないと話し手が考えているのである。

(12) 刚才我把一个孩子碰到了。 (刘月华など 1991 : 629)

さっき私は子供にぶつかって倒してしまいました。(同上)

例(12)の“一个孩子”は即ち私がぶつかって倒した子供であって、特定のヒトである。

“把”の目的語がその類に属する全ての事物を表すものであったり、抽象的事物を表すものであったりすることもあるが、このような目的語もより大きな範疇の中では特定化されている。

(13) 他挥了一下手似乎要把一切烦恼统统赶走。 (刘月华など 1991 : 629)

彼は全ての悩みを残らず追い払ってしまおうとするかのように手を振った。(同上)

刘月华などでは、“把”の「客体」は一般に「既知」のコト・モノ・ヒトを指し、「既知」でないコト・モノ・ヒトの場合は、“把”の「客体」の前に連体修飾語(例

11)を用いて特定化している。また言語環境によって、“把”の「客体」が聞き手によって、確定でありかつ既知のものとして理解できるコト・モノ・ヒトの場合もあるとして、例(12)を挙げている。

刘月华などは“把”構文の“把”の客体が特定であることについて、詳述しているが、単語レベルの観点のみで考えるにとどまり、単語レベル・連語レベル・文レベル・文脈レベルの四つのレベルから総合的に考えているのではない。そのため、筆者は本章において、“把”構文の“把”の客体が特定であることを単語レベル・連語レベル・文レベル・文脈レベルの四つのレベルから総合的に考察分析を行い、「定」の概念を明らかにする。

#### 2.2.5 『中国語文法概論』 李臨定著/宮田一郎訳 (1993:264~274)

李臨定によれば、“把”構文について、次のように記述している。

“把”字文の特徴：

A. “把”字文には、ふつう対応する賓語後置文がある。

(14) 我吃了那个苹果了。：我把那个苹果吃了。<sup>39)</sup> (李臨定 1993 : 272)

私はあのリンゴを食べた。 (同上)

コロンの左側は賓語後置文であるが、この両文の表す意味は、基本的に同じである。

B. 意味からみて、“把”字文には処置を強調する作用がある。ここにいう処置とは、“把”字文の述語部分が表している動作行為が賓語の指す人または物に対して、ある種の影響を及ぼし、その人また物にある種の変化を起こさせたり、ある種の結果を生じさせることを指す。

C. 賓語後置文の賓語は、ふつうは不確指<sup>40)</sup>である(特にそれと指定しない)。それに対して、“把”字文の賓語は、ふつう確指でなくてはならない(特にそれと指定する)。

(15) 他卖了衣服了。：他把衣服卖了。 (李臨定 1993 : 273)

彼はきものを売った。 (同上)

コロンの左側の文の賓語“衣服”は不確指で、どのきものまたどんなきものと特定していない。コロンの右側の文の賓語“衣服”はふつう確指であって、話し手聞き手の双方にとって既知の物であり、“他把那件衣服卖了。”(彼はあのきもの

<sup>39)</sup> (14) 我吃了那个苹果了。：我把那个苹果吃了。(私はあのリンゴを食べた。)

(15) 他卖了衣服了。：他把衣服卖了。(彼はきものを売った。)

“他把那件衣服卖了。” (彼はあのきものを売った。)

“他把家里的旧衣服卖了。” (彼は家にある古着を売った。)

(16) 我已经吃了饭了。：我已经把饭吃了。 私はもうご飯を食べた。

これらの文中の終止符“。”は筆者がつけたものである。

<sup>40)</sup> 「不確指」とは中国語の“不确指”であり、「指定しない」という意味である。

を売った。）、“他把家里的旧衣服卖了。”（彼は家にある古着を売った。）などの文の表現する意味に相当する。

(16) 我已经吃了饭了。：我已经把饭吃了。 （李臨定 1993：274）

私はもうご飯を食べた。 （同上）

コロンの両側の文の用いている実詞は同じであるが、意味はまったく異なっている。左側の文の“饭”は不確指であって、文の意味は“吃饭”（食事する）という事が完成したことを表している。右側の文の“饭”は“米饭”（米のご飯）を指しており、しかも確指で、話し手聞き手の双方にとって既知であり、“锅里的饭”（なべの中のご飯）あるいは“你给我留的饭”（あなたが私に残しておいたご飯）などである。

D. “把”字文が処置を強調する作用をすることから、処置作用を表さない非動作動詞は、“把”字文を組み立てることができない。

李臨定（1993：264～274）は、“把”構文の客体の品詞および既知と未知について、特にふれていない。また、特定と不定については、不確指であってはならないと主張する。

## 2.2.6 『文法講義』朱德熙著 訳者：杉村博文・木村英樹（1995：250～255）（略称『文法』）

朱德熙（1995：250～255）によれば、“把”の働きは受動者を導入することにある。“把”からなる述連構造<sup>41)</sup>では、動詞は単純な単音節動詞や単純な二音節動詞であってはならない。そこに用いられる動詞は、少なくとも重畳形でなければならず、より多く見られるのは、その前後に何か別の成分を伴っているかたちであると主張している。

また、“把”の客体について、次のように述べている。“把”の客体で最もよく見られるのは、以下の文中に挙げる動詞の受動者にあたるものである。

(17) 把门锁上。 （『文法』：251）

ドアに鍵を掛ける。 （同上）

動詞句（動補構造かまたは動目構造）全体にとっての受動者にあたるものである。

(18) 把脚都走大了。 （『文法』：251）

歩いて足までむくませてしまった。 （同上）

<sup>41)</sup>朱德熙（1995：251）によれば、述連構造について、以下のように例文をいくつか挙げている。

①動詞が重畳形である。把桌子抹抹。②動詞の前に副詞の“一”が用いられる。把头一抬。③動詞の前に“往～”、“当～”という前置詞構造が用いられる。把袖子往上卷。④動詞の後に補語が伴われる。把绳子绞断。⑤動詞の後に目的語が伴われる。把他免了职。⑥動詞の後に接尾辞“着”あるいは“了”が伴われる。把门开着。

また“把”の客体が動作者を示す例もある。

(19) 别把犯人跑了。 (『文法』: 251)

犯人を逃がすな。 (同上)

“把”の客体は意味上つねに特定である。

(20) 把那位大夫请来了。 (『文法』: 252)

あのお医者さんと呼び寄せた。 (同上)

(21) 把大夫请来了。 (『文法』: 252)

お医者さんと呼び寄せた。 (同上)

(22) \*把一位大夫请来了。 (『文法』: 252)

ひとりのお医者さんと呼び寄せた。 (同上)

朱德熙 (1995: 250~255) によると、例 (20) と (21) は“把”が用いられている。例 (20) の“大夫”の前には指示代詞の“那”があり、それが定的な対象であることは明らかであるし、例 (21) についても、指示代詞こそ用いられてはいないが、やはり対象となっているのは特定された医者である。例 (22) の“大夫”の前には不定数量詞の“一位”が用いられており、そのことが“把”構文の要請と矛盾するため、非文法的な表現となっている。なお、次の文は文法的な表現であり、例外のように見受けられる。

(23) 偏偏又把个老王病倒了。 (『文法』: 252)

よりによってあの王さんが倒れてしまうなんて。 (同上)

“老王”が定的な対象であるにも関わらず、その前に不定数量詞の“(一) 个” [ひとり] が用いられているのは明らかに矛盾である。“老王”は確かに特定された人物ではある。しかし、話し手はもとより、病気になった人が“老王”であるとは思えないことであった。それはほかの誰でもなく普段丈夫な“老王”その人であった。その意味において、“老王”は話し手にとっては既知の対象ではなかったのである。そこで“(一) 个”が添えられることになると主張している。

## 2.2.7 <无定式把字句在近现代汉语中的地位问题及其理论意义> 《中国语文》

陶红印、张伯江 (2000: 433~446, 479~480) (略称: 陶・张)

陶・张 (2000: 433~446) によれば、現代中国語において、“把”構文「名詞<sub>1</sub> + “把” + “一个” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」は“无定式把字句”<sup>42)</sup> であり、“无定式把字句”の「“把一个” + 客体」の“一”は以下の特徴を持っている。

<sup>42)</sup> 陶红印、张伯江 (2000: 8) によれば、“无定式把字句”指的是把字后名词为无定形式的把字句。例: 那个看守把一个贼跑了。’と述べている。

I、総称（“満”、“整”、“全”に相当する）

(24) 他恨不得把一肚子玩艺儿全都掏给孙子，一口气把孙子吹成个羊把式。

（陶・張 2000: 439）

彼はできるものなら自分の知識の全てを孫に託して、一気に一人前にしてやりたいともどかしく思っている。

（筆者訳）

II、“通指”（個体のモノを指すのではなく、一類のモノを指す）

(25) 听说能手能把一张画儿揭成两幅，画儿韩莫非有此绝技？（陶・張 2000: 439）

聞くところによると、プロは一枚の絵をはがして二枚の絵にすることができますが、画家韓さんもこのような技をもっているのではあるまいか。

（筆者訳）

III、数を表す。

(26) “这么着也行，”祥子的主意似乎都跟着车的问题而来，“把一辆赁出去，进个整天的份儿。那一辆，我自己拉半天，再赁出半天去…”陶・張 2000: 439）

「それでもいいよ。」祥子の頭の中には人力車のことではいっぱいのようにある。「一台を貸し出すことにして、一日分の賃金をもらう。もう一方のほうは、俺が半日使って、その後の残りの時間は貸し出すことにする…」

（筆者訳）

IV、不定数（いわゆる“多个之中的一个”）

(27) 天佑太太把一根镀金的簪子拔下来：“卖了这个，弄两斤白面来吧！”

（陶・張 2000: 439）

天佑夫人は一本の金メッキの簪を抜き出して、「これを売って、小麦粉を二斤買ってきて。」

（筆者訳）

陶紅印、張伯江（2000: 439）によれば、“无定式把字句”の“把”の「客体」は「特定」の名詞の場合もあるし、「不定」の名詞の場合もある。ただし、「特定」と「不定」の概念は簡単に区別できる概念ではないと主張している。

2.2.8 <事物首现与无定式把字句的存在理据>《语言研究》 儲澤祥（2010: 28~34）

儲澤祥<sup>43)</sup>（2010: 28~34）は“事物首现”の観点から、“无定式把字句”の文構造は“把”構文「名詞<sub>1</sub> + “把” + “一个” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」であり、その特徴は「“无定式把字句”ができるのは処置の結果を強調することだけであり、処置の目的を

<sup>43)</sup> 儲澤祥（2010: 28~34）は、“无定式把字句”について、以下のように述べている。“无定式把字句只能强调处置的结果，不能强调处置的目的，不能表达祈使语气，它必须同时满足事物首现、把字句句法、听说双方未知已知对立等不同方面的要求。”

強調することや命令を表すことはできない。それは、事物の初出や、“把”構文の文法や、聞き手と話し手の未知と既知の対立などの側面からの要求を同時に満たさなくてはならない。(例 (28)、(29))」と主張している。

- (28) A. 把那只杯子打破了。(結果, 陈述) (儲澤祥 2010 : 31)  
そのコップを割ってしまった。 (筆者訳)
- B. 快把那只杯子扔了!(目的, 命令) (儲澤祥 2010 : 31)  
すぐにそのコップを捨てなさい。 (筆者訳)
- (29) A. 把一只杯子打破了。(結果, 陈述) (儲澤祥 2010 : 31)  
コップを一個割ってしまった。 (筆者訳)
- B. \*快把一只杯子扔了!(目的, 命令) (儲澤祥 2010 : 31)  
コップを一個捨てなさい。 (筆者訳)

儲澤祥 (2010:28) では “把” 構文の客体が「定」でもあり、「不定」でもあると主張している。(2.5.2.2 を参照)

#### 2.2.9 《语义功能语言学视野下的汉语研究》崔显军著 (2012: 176~180)

崔显军 (2012: 177~178) は、“把” 構文の客体について以下のように分析している。

把字句的宾语一般为体词性词语：名词、代词或名词性词组。(筆者訳：“把” 構文の賓語は一般に体言性語句であり、名詞、代名詞あるいは名詞性連語である。)

- (30) 小王把她说哭了。 (崔显军 2012: 177)

王さんは彼女を叱って、泣かせてしまった。 (筆者訳)

把字句的宾语也可以是非名词性成分, 不过这些已经由陈述转向了指称。(筆者訳：“把” 構文の賓語は用言性語句であってもよいが、それらは「陳述」から「特定指示」に変化している。)

- (31) 很多学生把考高分、上名牌当作学习的唯一目标。(崔显军 2012: 177)

多くの学生は、高い点数を取ることや有名な大学に合格することを学習の唯一の目標と見なしている。 (筆者訳)

宾语一般为谓语动词的受事, 但有的宾语不是动词的宾语, 而是动词性结构的宾语, 有的宾语扮演的是处所、工具、材料、与事等角色。在表示原因 (事件 A) 和结果 (事件 B) 关系的把字句中, 宾语往往是谓语动词的施事。(筆者訳：“把” の賓語は一般に述語動詞の受け手であるが、ある賓語は動詞の賓語ではなく、動詞性構造の賓語である。ある賓語は場所、道具、材料、参加者などの役割を果たしている。原因「出来事 A」と結果「出来事 B」の関係を表す“把” 構文の中では、賓語は往々にして述語動詞の仕手である。)



(32) 那些脏衣服把小姑娘洗怕了。 (崔显军 2012: 178)

それらの汚い服は、女の子を洗濯嫌いにしてしまった。(筆者訳)

从结构成分的语用属性看,“把”字的宾语一般应是有定的,即它是说话人认为或假定为听说双方都已经知道的事物,有定的事物往往有一定的标记,如有“这”或“那”的限定、有一定的其他限定或修饰语或是专有名称、泛指事物或周遍性事物等,即使是单个普通名词或“一量名”结构,用在“把”字后边也要是听说双方所已知的某一或某些特指的事物,这时一定的上下文语境或情景规定了该宾语是一个选定的对象。(筆者訳:構造成分の語用的属性の観点から見ると、“把”の賓語は一般的には「定」でなければならない。別な言い方をすれば、それは話し手が話し手と聞き手双方にとって既知の事物であると認識または仮定するものである。「定」である事物は往々にして一定のマーカ―を持っている。例えば、“这”あるいは“那”の限定語として、一定のほかの限定語或は修飾語の限定語として、あるいは固有名詞・汎用事物・普遍性を持つ事物などである。たとえ“把”の賓語が単一の普通名詞あるいは“一量名”の構造をもっていたとしても、“把”の賓語になると、話し手と聞き手にとって既知の一つあるいは複数の「定」の事物でなければならない。その時一定の文脈あるいは言語環境が、この賓語を選定した一つの対象として規定する。)

(33) 他把一本书丢了,为此伤心了好几天。 (崔显军 2012: 178)

彼は一冊の本をなくし、何日も心を傷めた。(筆者訳)

## 2.3本章の中における用語の定義づけについて

### ・「定」と「不定」

「定」と「不定」は従来の「定」と「不定」ではなく、広い意味の「定」と「不定」である。藺璜(2006: 23)が主張している“有定成分”と“无定成分”を指す。

藺璜(2006: 23)によれば、

“名词性成分的表现对象是话语中的某个实体,发话人使用该名词性成分时,如果预料听话人能够将所指对象与语境中某个特定的事物等同起来,能够把它与同一语境可能存在的其他实体区分开来,我们称该名词性成分为有定成分;发话人如果预料听话人无法将所指与语境中其他实体区别开来,我们将其称为无定成分。”(筆者訳:名詞性成分の表現対象は話し言葉の中のある実体である。話し手がこの名詞性成分を用いるとき、もし以下のようなことを予想するなら、つまり聞き手がその対象と言語環境の中のある特定の事物とを同一視することができると予想するなら、また聞き手がその対象を同一言語環境の中で存在しうるほかの実体と分別することができると予想するなら、私たちはこの名詞性成分を「定」的であると呼ぶ。一方で、もし話し手が、聞き手がその対象とその言語環境の中のほか

の実体を分別することができないと予想するなら、私たちはこれを「不定」的であると呼ぶ。）

藺璜と主張を同じくして、本章においては「定」および「不定」を以下のように定義する。つまり、「定」は“有定成分”であり、“无定成分”と対立する。また「定」は“有指”の下位概念である“定指”を包含する。「不定」は“无定成分”であり、“有定成分”と対立する。また「不定」は“有指”の下位概念である“不定指”を包含する（第五節 2.5.1.3 を参照）。

## 2.4 “把”構文の客体の品詞

### 2.4.1 はじめに

“把”構文について、すでに多くの文法学者が“把”構文について、様々な説を主張してきた。

王力（1943:160～172）は「賓語前置説」、「処置式」を主張し、呂叔湘主編の《現代汉语八百词（増訂本）》（1999:54）は、“把”構文には「処置」の用法があるほか、「使役」、「行為する場所・範囲」、「望ましくない結果」、「“拿”と“对”の意味」を表す五つの用法があると主張し、薛凤生（1987:4）は「“把”構文の「名詞<sub>2</sub>」は主語であり、「その他」は「名詞<sub>2</sub>」に対する描写である」と主張している。刘月华など（1991:623）は、「介詞“把”の目的語の多くは名詞であるが、動詞や動詞フレーズであることもある。」と主張している。李人鉴（1991:49）は「“把”の賓語（名詞<sub>2</sub>）は後ろの文の主語である<sup>44)</sup>」と主張している。李臨定（1993:265）は「“把”字文には処置を強調する作用がある。」と主張している。沈阳（1997:6）は“把”の賓語は“把”構文の補語の主語<sup>45)</sup>であると主張している。崔显军（2012:177）は、“把字句的宾语也可以是名词性成分，不过这些已经由陈述转向了指称。”と主張している。

“把”構文の意味論上の特徴について以下のようにまとめられる。

早期は「賓語前置説」、「処置式」であったが、その後「処置説」となり、また「広い意味の処置説」<sup>46)</sup>に至ったと言える。“木村英樹（2012:202）によれば、“把”構文は執行使役文であるという。アン・Y・ハシモト 1985（木村英樹訳（1986:72））によると、“把”構文は「処置」構文である。“把”の目的語は、いつもその指示対象が定的であるので、構文の共有 NP も定的であり、不定であってはならないということになる。“把”構文「変化のくみあわせ」「“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他」は“把”の客

<sup>44)</sup> “把”字句的 VP 是描述性的，是以 N<sub>2</sub> 为主语的。例：他把桔子剥了皮。

<sup>45)</sup> 沈阳认为“把”的宾语是把字句后结构主语，也就是补语的主语，例：他把玻璃打破了。

<sup>46)</sup> 本章の“処置”とは広い意味の処置という。袁莉容（2003:105）の“宽泛的处置说”によれば、“‘处置’的语义有更为宽松的理解，如‘影响’甚至是投射出的心理状态上的感觉都可以视为‘处置’，还包括‘致使说’。例：他把个犯人跑了。”と主張している。

体を処置するということであり、“把”の客体は、一般に定の名詞だと見なされている。以下において、“把”の客体が名詞であるかどうかの考察を試みる。

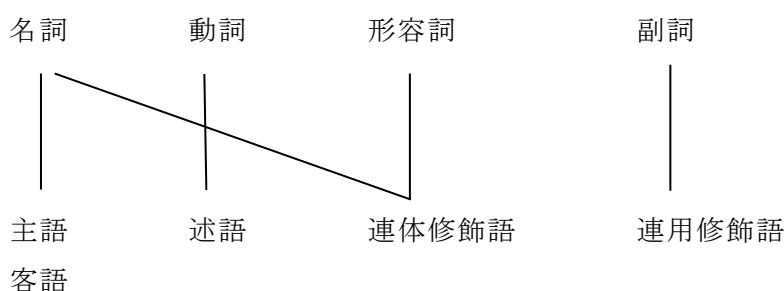
#### 2.4.2 「枠組み理論」及び中国語の品詞に関する先行研究

“把”構文（「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」）の“把”の客体は、各文法学者が述べているように、一般には“把”の客体は定のコト・モノ・ヒトであり、多くは名詞と主張している。

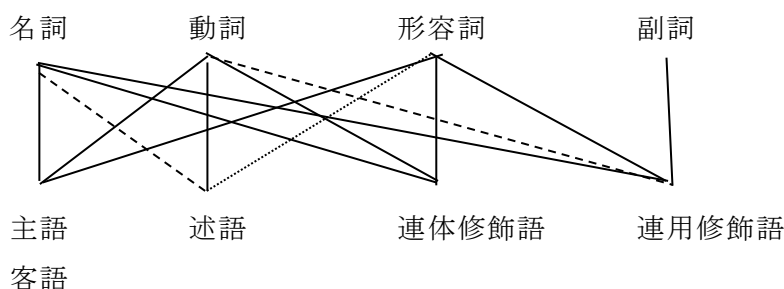
一般的には、各言語は名詞（代詞）が主語と客語（目的語）となり、形容詞と動詞が述語となる。だが、中国語では名詞が述語となり、形容詞や動詞が主語となる場合もある。これについて、高橋弥守彦(2013)は、名詞や代詞は一般には旧情報となるので、文成分としては主語となり、動詞や形容詞が述語となり、述語は主語を陳述する。形容詞や動詞が述語となれるのは、それらが名詞の特性だからである、述語としての動詞だけで主語を陳述できない場合は、動詞の対象としての名詞（“我学习汉语”私は中国語を勉強します。）を加え、「述語+客語」で主語を陳述する。と述べている。

黄伯荣《现代汉语》(2011: 35)によれば、英語と中国語の品詞の有する機能（文成分）は、以下の[図1]、[図2]に表示するとおりである。この図によれば、英語と中国語における品詞機能の違いが一目瞭然である。黄伯荣(2011)では品詞と文成分との関係について、理論的な説明がなされていないので、言語事実により、品詞と文成分との関係を明らかにしていることが分かる。

[図1] 英語の品詞が持つ機能



[図2] 中国語の品詞が持つ機能



[図 1]は英語の品詞が持つ機能を表している。この図によれば、主語と客語になれるのは名詞しかない。一般には各言語も英語と同様である。[図 2]は中国語の品詞が持つ機能を表している。主語と客語になれるのは名詞、動詞、形容詞である。以下の例文をみてみよう。

- (34) 看看好不好? (《現代》: 59)  
ちょっと見てもらっていい? (筆者訳)
- (35) 苦变甜。 (《現代》: 59)  
苦いのが甘くなった。 (筆者訳)
- (36) 去北京查资料很有必要。 (《現代》: 60)  
北京へ資料を探しに行く必要がある。 (筆者訳)
- (37) 小雨正在找工作。 (《汉语口语》: 10)  
小雨さんはちょうど仕事を探しているところです。(筆者訳)
- (38) 参军就是奉献。 (《現代》: 63)  
軍隊に入るのは奉仕である。 (筆者訳)
- (39) 有成就的人理应受到尊重, 但是她却受到伤害, 这不能不使我感到惊奇。 (《現代》: 63)  
業績のある人は尊敬されるべきだが、彼女は傷つけられた。このことは私を驚かさざるを得ない。 (筆者訳)

例(34)の“看看”は動詞の重ね型、(35)の“苦”は形容詞、(36)の“去北京查资料”は動詞連語が主語になっている文である。例(37)の“工作”は名詞、(38)の“奉献”と(39)の“尊重”、“伤害”は動詞が客語になっている文である。例(39)の“惊奇”は形容詞が客語になっている文である。

一般に名詞は主語や客語になれ、動詞や形容詞は述語になれる。しかし、中国語では動詞や形容詞も主語になれ、名詞も述語になれる。高橋弥守彦(2013)は枠組みの有する機能(枠組み理論)により、この言語現象を説明し、基本主語・客語(名詞性語句)と派生主語・客語(動詞・形容詞性語句)を分かり易く分けている。また、名詞が述語になれ、動詞や形容詞などがなぜ主語や客語になれるのも本理論により明らかにしている。

高橋弥守彦(2013)によれば、例(34)の“看看”、例(35)“苦”、例(36)“去北京查资料”は派生主語<sup>47)</sup>である。(37)の“工作”は基本客語であり、(38)の“奉献”は派生客語である。

<sup>47)</sup> 高橋(2013)によれば、名詞など体言性の語句が主語や客語になる場合を基本主語・基本客語と言い、動詞や形容詞など用言性の語句が主語や客語になる場合を派生主語・派生客語という。

上記の説明にある例文(34)~(39)の基本主語・客語、派生主語・客語の概念と品詞との関係は、高橋弥守彦(2013)の枠組み理論により、以下の[表 1]のように整理することができる。

[表 1]基本主語・客語と派生主語・客語の概念

基本主語・客語	名詞	工作(例 37)
派生主語・客語	動詞や形容詞など	看看(例 34)、苦(例 35)、去北京查资料(例 36)、奉献(例 38)、伤害、惊奇(例 39)

高橋弥守彦(2013)は上記のように、主述文で基本主語と基本客語及び派生主語と派生客語との関係を説明しているが、主述文と同様に、“把”構文でも同様のことが言える。

筆者の調査によれば、“把”構文の主体は名詞性語句や代名詞性語句である。“把”の客体も、一般には名詞性語句である。だが、一部の文法学者が主述文の上記の例文に挙げるように、動詞や動詞連語も客体になる場合がある。“把”構文も実例を調べると、場合によっては、動詞や動詞連語も客体になる場合がある。

#### 2.4.3 “把”構文の客体の品詞

“把”構文の客体は各文法学者が述べるように、一般的にはたしかに名詞性語句であるが、実例を調べると、それ以外にも見られる。筆者の調査によれば、“把”の客体は品詞別に以下のように分けられる。

##### 2.4.3.1 “把”の客体が名詞である場合

筆者の調査によっても、“把”構文の客体は以下の例文に見られるように、名詞である場合が圧倒的に多い。しかも、多くの文法学者が述べるように、“把”構文の客体は一般には動詞に対する処置を表すので、「定」である。動詞に対する処置とは、その前提として例えば主述文“我吃饭了。”があり、その客体を“把”により動詞の前に用い“我把饭吃了。”とするのは、動詞に対する処置の強調を表すためである。

(40) 她把双臂浸泡在消毒酒精水桶里。 (《中年》)

それから両腕をすっぽりアルコール液にひたした。 (『人』)

(41) 这五个大学生，有的很适宜搞眼科，可是看不起眼科，表示不愿意在眼科工作；有是愿意在眼科，可又把眼科看得很简单，以为这是很清闲的一科。(《中年》)

五人の中に眼科医適任者はいたのだが、眼科を見くびってやりたがらない。たまたまやる気を見せた者は、これまた楽な科だと踏んでいた。(『人』)

- (42) 先把病人看完了，再上托儿所也行。 (《中年》)  
 診察を終えてから託児所へいこう。 (『人』)
- (43) 秦波把头扭向一边，有点不高兴了。 (《中年》)  
 秦波は不機嫌に顔を背けた。 (『人』)
- (44) 山坳口，山把孩子交给了那个小个子男人。 (『人民』1988-12-107)  
 山を出て村にかかる所で、背の低い男（名前は山です）に子供を渡した。  
 (同上)

例(40)の“把”の客体である“双臂”、(41)の“把”の客体である“眼科”、(42)の“把”の客体である“病人”、(43)の“把”の客体である“头”、(44)の“把”の客体である“孩子”はすべてモノ・コト・ヒトを表す名詞であり、いずれも「定」である。

#### 2.4.3.2 “把”の客体が代詞である場合

筆者の調査によれば、“把”構文の客体は以下の例文に見られるように、代詞である場合も相当数ある。

- (45) 陆文婷瞪了园园一眼，忙给佳佳脱了衣服，把她放在床上，替她盖上被子。  
 《中年》  
 陸文婷は目顔で園園を叱り、佳佳の服を脱がせてベッドに寝かせ、布団のはしを押さえてやった。 (『人』)
- (46) 是坐在一旁的秦波同志客客气气地把她拦住了。 (《中年》)  
 隣に坐っていた秦波夫人がいとも丁寧に彼女を遮ったのだ。 (『人』)
- (47) 那么有力地把她拥进自己的怀里。 (《中年》)  
 ぐいと彼女を自分の懐に引き寄せた。 (『人』)
- (48) 幼年父亲出走，母亲在困苦中把她抚养成人。 (《中年》)  
 幼い頃、父親が出稼ぎにいったまま帰らず、母は女手一つで彼女を育て上げてくれた。 (『人』)
- (49) 翌日清晨，五点半正，小闹钟把她从香甜的睡梦中唤醒。(『人民』1988-1-93)  
 翌日の朝、五時半ちょうど、目覚ましの音で彼女は心地よい眠りから覚めた。(同上)

本節に用いられている例(45)の“把”の客体である“她”、(46)の“把”の客体である“她”、(47)の“把”の客体である“她”、(48)の“把”の客体である“她”、(49)の“把”の客体である“她”はすべてヒトの代詞であり、いずれも「定」である。

#### 2.4.3.3 “把”の客体が体言性の連語である場合

“把”の客体が名詞や代詞であることが多いことは言語事実である。しかし、筆者の調査によれば、“把”構文の客体は以下の例文に見られるように、体言性の連語である場合も相当数ある。

- (50) 他把汗湿的手掌紧紧捏成拳头。 (《中年》)  
 彼は汗ばんだ掌を固く握り締めた。 (『人』)
- (51) 希望她把想说的话都说出来。 (《中年》)  
 言いたいことを全部いってくれ。 (『人』)
- (52) 我把我的心留在你身边，留在我亲爱的祖国。 (《中年》)  
 私の心はあなたの傍に、愛する祖国に置いていきます。 (『人』)
- (53) 她拿起象钢笔帽口那么小的环钻，轻轻地把病人坏死的角膜取下。又拿过那块缝在纱布上的材料，用同一环钻切下同样大小的一块，按在病人的眼珠上。  
 (《中年》)  
 万年筆のキャップ大のトレパンを手にして、死滅した角膜を注意深く剥がしていき、次にガーゼに縫っておいた角膜から今剥離した角膜と同じ大きさに切り取り、患者の眼球の上に置いた。 (『人』)
- (54) 没有把秦波的刁难，视为难以忍受的凌辱。 (《中年》)  
 副部長夫人の嫌がらせも我慢のならない侮辱だとは見ていなかった。  
 (『人』)

高橋弥守彦（2013）によれば、名詞連語の核は名詞なので、この構造があると、核の名詞の部分に動詞や形容詞が用いられても名詞連語を作れるという。両者を区別して、高橋は名詞など体言性の語句を核とする名詞連語を基本名詞連語(例 50)と言い、動詞や形容詞など用言性の語句を核とする名詞連語を派生名詞連語<sup>48)</sup>(例 54)と言っている。この関係は[表 2]のように整理できる。

[表 2] 基本名詞連語、派生名詞連語の構造

基本名詞連語	～＋名詞
派生名詞連語	～＋動詞、形容詞など

例(50)の名詞性連語“汗湿の手掌”、例(51)の“想说的话”、例(52)の“我的心”、例(53)の“病人坏死的角膜”の中の核は、“手掌”、“话”、“心”、“角膜”などの名

<sup>48)</sup> 派生名詞連語の構造は「～＋形容詞」というような連語は、実例を調べたところ、一つも見つからなかった。例：她总把她的聪明当作自豪。(作例) 彼女はいつも自分の賢さを自慢する。(筆者訳)

詞である。これにより、例(50)の“把”の客体である“汗湿的手掌”、例(51)の“把”の客体である“想说的话”、例(52)の“把”の客体である“我的心”、例(53)の“把”の客体である“病人坏死的角膜”が基本名詞連語であることが分かる。

高橋弥守彦(2013)の説によれば、例(54)の“把”の客体である“秦波的刁难”の核は動詞“刁难”であっても、例(50)から(51)までの基本名詞連語の構造があることにより、名詞連語の核となる名詞の位置に動詞が置かれても派生名詞連語“秦波的刁难”を作れるのである。

これらの基本名詞連語と派生名詞連語が客語の位置に置かれると、客語としての文成分の役割を担うことになる。具体的には、例(50)から(54)までの“把”の客体は、基本名詞連語か(“汗湿的手掌”、“想说的话”、“我的心”、“病人坏死的角膜”)派生名詞連語か(“秦波的刁难”)の二種類にしか分類することができないために、“把”の客体は基本客語であると言える。

#### 2.4.3.4 “把”の客体が用言性の単語・連語<sup>49)</sup>の場合

“把”の客体が名詞性語句や代詞性語句である場合が多いことは言語事実である。しかし、筆者の調査によれば、“把”構文の客体は以下の例文に見られるように、用言性の単語・連語である場合も若干ある。

(55) 她们又于我们不在村里的时候，吃足一顿白面葱花饼，而且为了报复并不把保密看得那么重要。 (《插队》)

一方女子はわれわれが村にいない時に葱花餅を腹いっぱい食べ、そのうえ仕返しのために秘密保持を気にもかけなかった。 (『大地』)

(56) 他仰脸看着车厢顶，深呼吸，想把笑憋回去。 (插队))

彼は車両の天井を見上げて深呼吸し、笑いをこらえようとした。 (『大地』)

(57) 这位年富力强、精力旺盛的教授，把培养年轻医生当作自己不容推卸的责任。

每当医学院分来一批学生，他都要逐个考察，亲自挑选。 (《中年》)

この経験豊かな働き盛りの教授は、後輩の養成を当然の義務と考えていたので、新卒生のテスト、選考には自ら当たった。 (『人』)

(58) 她没有把替焦副部长做手术，看作是不可多得的荣誉； (《中年》)

彼女は焦副部長の手術を担当することを、特に光栄なこととは思っていなかった。 (『人』)

(59) 那些年，人们渐渐不把坐大狱看成太可怕的事。 (《插队》)

あの頃人々は次第に刑務所送りをそれほど恐ろしいことだとは思わなくなっていた。 (『大地』)

<sup>49)</sup> 用言性連語は動詞フレーズと離合詞を含める。例：他把游泳学会了。(作例) 彼は水泳ができるようになりました。(筆者訳) 本論文では“游泳”は用言性連語と見なす。



“把”の客体は一般に名詞と代名詞などの基本名詞連語及び派生名詞連語である。しかし、例(55)では“把”の客体である“保密”、例(56)では“把”の客体である“笑”など用言性の単語が客体となっている。例(57)は“把”の客体である“培养年轻医生”、例(58)は“把”の客体である“替焦副部长做手术”、例(59)は“把”の客体である“坐大狱”など用言性の連語が客体となっている。これらの客体は派生客語であると言える。

“把”構文における“把”の客体に用いられている品詞の割合として、《中日対訳語料庫》(第一版)(2002、2003)の中の小説《人到中年》、《插队的故事》、《丹凤眼》、《红高粱》、《天声人语》、《天声人语 2》に用いられている“把”構文(375例)を調査、分析してみると、[表3]のような統計の結果が出た。

[表3] “把”構文における“把”の客体とその比率

“把”の客体				例文の数 (375例)	割合
基本客語	単語	名詞		224	59.8%
		代名詞		56	14.9%
	連語	基本名詞連語	～＋名詞	86	22.9%
		派生名詞連語	～＋動詞・形容詞	1	0.3%
派生客語(用言性単語・連語)				8	2.1%

[表3]から見てみると、“把”の客体は主として名詞である。格変化を持たない中国語では、動詞や形容詞などが名詞連語の核となり、“把”の客体となる場合もある。要するに、“把”の客体が名詞か動詞や形容詞かに関係なく、話す側と聞く側の双方が理解できる事物である。「変化のくみあわせ」の“把”は客体を処置するか、客体に影響を与えるかということになる。

#### 2.4.4 おわりに

本節では、“把”構文の“把”の客体の品詞について、考察を行った。“把”の客体は一般的には体言性語句であり、文中に“把”と“把”の客体(体言性語句)と動詞で作る「変化のくみあわせ」である。

上掲の[表3]で示したように、“把”の客体は基本客語もあるし、派生客語(用言性語句)もある。さらに基本客語には単語と連語の二種類があり、連語の中でも基本名詞連語と派生名詞連語との二種類がある。その割合として、“把”の客体は名詞の場合は最も多く、59.8%を占めていて、基本名詞連語と代名詞の割合はそれぞれ22.9%と14.9%となっている。派生名詞連語(～＋動詞・形容詞)と派生客語(用言性語句)

の割合はかなり少ないものであり、それぞれわずか 0.3%と 2.1%しかない。しかも派生名詞連語（～＋動詞・形容詞）や派生客語（用言性語句）の場合は、その使用法が明確ではない。しかし、高橋弥守彦（2013）の「枠組み理論」によれば、用言で作る派生客語であっても、体言性の意味が加わることによって、基本客語と同様の働きがある。

要するに、多くの文法学者がこれまでに主張してきた、“把”構文の客体は定の「名詞」であるということに関する従来の説は、詳細な説明が不十分であったことが明らかになってきた。さらに、“把”構文は“把”の目的語は多くは名詞であるが、動詞や動詞フレーズであることもある。」という説の理由については、今回の調査を経て、高橋弥守彦（2013）の「枠組み理論」を用いて論証することができるということが明らかになった。

## 2.5 “把”構文の客体の「定性」

### 2.5.1. 話し手と聞き手の立場からみる客体の「定性」

#### 2.5.1.1 はじめに

“把”構文の文構造は一般的に「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、その客体（前節に述べるように）は基本客語（名詞、代名詞、基本名詞連語、派生名詞連語）の場合もあれば、派生客語の場合もある。一般的に言えば、“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」は定であって、話し手と聞き手<sup>50)</sup>の双方にとって同定可能な既知の事物である。

(60) 田中：你能不能把你的自行车借给我用用？ （《汉语口语》：141）

あなたの自転車をちょっと貸して给我せんか？ （筆者訳）

英男：没问题。给你钥匙。

いいですよ。鍵をどうぞ。

田中：你把自行车放在哪儿了？ …

自転車をどこに置いたの？ …

(61) 姐姐：… 抽烟对身体没有好处。 … （《汉语口语》：157）

タバコを吸うのは体に良くない。… （筆者訳）

姐姐：要是你把烟戒了，我就不说了。今天取回来的药呢？

もしやめたら、もう言わないよ。今日もらった薬は？

小雨：我已经把它吃了。

もう飲んだ。

例(60)の“把”の客体である“你的自行车”は基本名詞連語であり、“自行车”は名

<sup>50)</sup> 本章の話し手は記述文、説明文（叙述文）の著者であり、会話文の話し人であり、聞き手は記述文、説明文（叙述文）の読者であり、会話文の聴く人である。

詞である。例(61)の“把”の客体の“它”は代詞である。これらの物はすべて話し手と聞き手の双方がわかっている事物であって、特定の事物である。一方で、例(61)の“把”の客体である“烟”は“烟”「類」を指す名詞であり、確定した「類」であり、結果的には「喫煙」という習慣を含意する。

アン・Y・ハシモト 1985 (木村英樹訳 1986:72)によると、「“把”の目的語は、いつもその指示対象が定的であるので、構文の共有 NP も定的であり、不定であってはならないということになる」としている。“把”構文で表す「変化のくみあわせ」「把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他」は、“把”の客体を変化させることであり、“把”の客体は、一般に定の名詞と見なされている。

しかし、次の文の“把”の客体“一个孩子”も定だと言えるだろうか。筆者は“把”の客体が定であったと仮定しても成立するし、「数量+特定」と仮定しても成立すると考える。

以下の例を見てみよう。

(62) 刚才我把一个孩子碰倒了。 (前出 12)

さっき私は子供にぶつかって倒してしまいました。 (筆者訳)

例(62)の“把”の客体である“一个孩子”は「私がぶつかった子供」という意味である。この意味であれば、話し手“我”にとっては、“一个孩子”は定であって、既知のヒトであり、旧情報である。だが、聞き手にとっては、その子が誰か分からないので、不定であり、未知なヒトであり、新情報である。

(63) 我把两本书弄丢了。 (作例)

私は二冊の本をなくしてしまった。 (筆者訳)

例(63)の“把”の客体である“两本书”の名詞要素は連語レベルから見ると、任意の二冊の本であって、「不定」であるが、“把”によって、その“两本书”は“那两本书”などの意味としてとれるであろう。故に“我把两本书弄丢了。”は成り立つことができる。

本節では、“把”の客体が「既知」であるか「未知」であるか、あるいは「定」であるか「不定」であるかについて話し手と聞き手の双方の立場から考察を試みる。

#### 2.5.1.2 “把”構文の客体の「既知」と「未知」

##### 2.5.1.2.1 “把”の「客体」が聞き手にとって「既知」である場合

“把”構文の客体は先行研究でも述べているように、一般的に話し手にとって「既知」であり、また、聞き手にとっても、「既知」であるモノでなければならない。例え

ば、以下の例文のような場合がそうである。

(64) A: 麦克, 下午你用自行车吗? (《成功之路》: 29)

マイケル、午後自転車を使う? (筆者訳)

B: 不用。……

使わない。

A: 把你的自行车借给我用用吧。

あなたの自転車を貸して。

……

A: 我一回来就把车还给你。

帰ってきたら、すぐに返すから。

例(64)の“下午你用自行车吗”の“自行车”は初めて登場し、聞き手(B)にとっては、新情報である。だが、“把你的自行车借给我用用吧”の“你的自行车”は、人称代名詞を限定語とした体言性連語であるので、高橋(2013)の「枠組み理論」によれば、これを基本名詞連語<sup>51)</sup>と呼ぶ。この連語“你的自行车”は、会話の中の聞き手(B)が午後使わない“自行车”であり、Bにとっては、旧情報であり、「既知」である。また、“我一回来就把车还给你”の“车”も聞き手(B)にとっては旧情報であり、「既知」である。

(65) A: 这是1号病房, 他在7号病房。我带你去吧。 (《成功之路》: 34)

ここは1号病室、彼は7号病室にいます。ご案内しましょう。(筆者訳)

B: 不好意思, 可能是我把7听成1了。(《成功之路》: 34)

すみません、もしかしたら私が7を1と聞き間違えたのかもしれませんが。

(筆者訳)

例(65)“他在7号病房”の“7号病房”は初めて登場し、聞き手(B)にとって、新情報で、「未知」である。だが、“可能是我把7听成1了”の数詞“7”は、既に分かっているものである“7号病房”を暗示しているのであって、聞き手にとっては、旧情報であり、「既知」である。

#### 2.5.1.2.2 “把”の「客体」が聞き手にとって「未知」である場合

“把”構文の客体は先行研究で述べているように、一般的には、たしかに聞き手にとって「既知」であるが、事例を調べると、それ以外の場合も見られる。筆者の調査によれば、以下の例文に見られるように、“把”の「客体」は聞き手にとって、新情報である場合もあれば、「未知」の場合もある。

<sup>51)</sup>高橋(2013)の枠組み理論によれば、名詞など体言性の語句を核とする名詞連語を基本名詞連語という。

(66) 我先给他讲了讲图书是怎么分类的，然后让他把书架上那些放错地方的书找到，再把它们放回原来的位置。 (《成功之路》：42)

先ず、私は図書の種類法を彼に説明して、それから誤った場所に置かれた本を探しださせて、(それらを)元の位置に戻させた。(筆者訳)

(67) 把冰箱里的水果洗一洗，摆在桌子上。 (《成功之路》：119)

冷蔵庫の中の果物を洗って、テーブルの上に置いてください。(筆者訳)

(68) 我昨天开车不小心把一个小孩儿撞伤了。 (胡振刚：21)

昨日私は車を運転中に、不注意で[一人の]子供を怪我させてしまった。(同上)

例(66)の“把”の客体である“书架上那些放错地方的书”は“他”にとっては、どんな本を置き間違えたかわからないので、新情報であり「未知」である。例(67)の“把”の客体である“冰箱里的水果”は、聞き手にとってはなんの果物であるか、よくわからないし、“把冰箱里的水果洗一洗”も初めて聞かされており、そのために、この果物は聞き手にとっては新情報であり「未知」である $x$ と言える。しかしながら、どちらも基本名詞連語であるので、聞き手は、これを聞いても理解することができる。例(68)の“把”の客体である“一个小孩儿”は不定の数量詞を限定語とする連語である。だが、この“一个”は任意の“一个”ではなく、“我”が“撞伤”させ“小孩儿”である。聞き手にとっては、会ったことも見たこともない対象なので、新情報であり、「未知」であると言える。だが、聞き手はこれを聞いても、「どの」子供を怪我させたかではなく、「一人の子供を怪我させた」ということを理解することができる。

“把”の「客体」は一般には聞き手にとって、旧情報であり、「既知」である。しかし、筆者の実例調査によれば、聞き手にとって、“把”の「客体」が「未知」の場合も相当数ある。「未知」の場合であっても、聞き手あるいは読者がその文の意味を理解することができれば、文として言語事実上に成立すると言える。

### 2.5.1.3 “把”構文の客体の「定性<sup>52)</sup>」

#### 2.5.1.3.1 「定」と「不定」についての先行研究

「定」と「不定」の概念は「既知」と「未知」の概念とまったく違った概念であり、「既知」なモノは必ずしも「定」ではなく、「未知」なものも必ずしも「不定」だとは限らない。しかし、「定」、「不定」の概念と「既知」、「未知」の概念はやや曖昧なので、本節では先行研究を整理し、これらの概念を明らかにすることを試みる。

「定」と「不定」の概念及び「定」と「不定」に関するいくつかの概念の定義につ

<sup>52)</sup> 「定性」とは「定」と「不定」を表す。

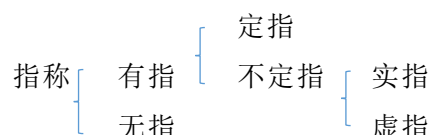
いて、各文法学者は以下のように述べている。

2.5.1.3.1.1 陈平<释汉语中与名词性成分相关的四组概念>《中国语文》第 2 期(1987 : 81~92)

陳平 (1987:81)は“名词性指称成分”を四組の概念 (陳平はこの四組の概念をすべて“语义概念”上において扱っている) に分けられると主張している。

また、この四組の概念は“有指(referential)和无指(nonreferential)、定指(identifiable)和不定指(nonidentifiable)、实指(specific)和虚指(nonspecific)、通指(generic)和单指(individual)”<sup>53)</sup>であり、さらに“有指和无指”と“定指和不定指”と“实指和虚指”の三つの概念はお互いに関連し合っている(“通指”と“单指”はこの中に含まれていない)と主張している。その関係は以下[図 3]のように表す。

[図 3] “指称”の分類系統



陳平 (1987:82) は“定指和不定指”について、例 (69) の例文を挙げる。

(69) 9月6日，一个农民打扮的人在翠微路商场附近摆了个摊子，声称专治脚鸡眼。一青工决定让他看看。“病可治，挖一个鸡眼四元钱。”为了治病，青工欣然同意。(陳平 1987:83)

<sup>53)</sup> 陈平 (1987:81~92) によれば、“有指(referential)和无指(nonreferential)、定指(identifiable)和不定指(nonidentifiable)、实指(specific)和虚指(nonspecific)、通指(generic)和单指(individual)” 以下のように述べている。

①有指和无指：名词性成分的表现对象是话语中的某个实体(entity)，我们称该名词性成分为有指成分。(例：我们下车买了许多苹果和梨。下線部分は“有指成分”) 否则，我们称之为无指成分。(例：路旁种了许多苹果树和梨树。下線部分は“无指成分”)

②定指和不定指：发话人使用某个名词性成分时，如果预料听话人能够将所指对象与语境中某个特定的事物等同起来，能够把它与同一语境中可能存在的其他同类实体区分开来，该名词性成分为定指。相反，发话人使用某个名词性成分时，如果预料听话人无法将所指对象与语境中其他同类成分区分开来。

例：9月6日，一个农民打扮的人在翠微路商场附近摆了个摊子，声称专治脚鸡眼。一青工决定让他看看。“病可治，挖一个鸡眼四元钱。”为了治病，青工欣然同意。

例句中的“他”回指首句的“一个农民打扮的人”末句的“青工”回指前面说的那位让他治病的青工。语言环境提供的信息帮助听话人确定这些名词成分在语境中所指的特定对象。

③实指和虚指：发话人使用某个名词性成分时，如果所指对象是某个在语境中实际存在的人物，我们称该名词性成分为实指成分。反之，如果所指对象只是一个虚泛的概念，其实体在语境中也许存在，也许并不存在，我们称该名词性成分为虚指成分。

例：老杨想娶一位北京姑娘。

④通指和单指：名词性成分所指对象如果是整个一类事物(class)，我们称该名词性成分为通指。相反，所指对象如果是一类中的个体(individual)，我们则称之为单指成分。

例：苍蝇、海星、蜗牛都是聋子。(划线部分是通指)

九月六日、ある農民のような身なりをした人が翠微路商店の近くに屋台を出して、自らを魚の目を治療できると称した。ある青年労働者が見てもらおうと心にきめて彼を訪ねた。“治せるけど、魚の目の治療は一箇所ごとに四元になります。” 治してもらいたいがために、青年は快く同意した。（筆者訳）

陳平（1987:81）によれば、例文中の“他”は文頭の“一个农民打扮的人”を指し、文末の“青工”は前述の病気を診察してもらった“一青工”を指す。よって、言語環境からみると、文の中の情報がこれらの“一+量+名”である“一个农民打扮的人”と“一青工”は「確定」したと主張している。このため、読者はその指示関係をすぐに理解することができる。

陳平（1987:85）は“实指和虚指”については、以下の例（70）を挙げる。

（70）老杨想娶一位北京姑娘。 （陳平 1987:85）

楊さんは北京の娘をお嫁にもらいたいと考えている。（筆者訳）

陳平（1987:81）は、楊さんに結婚相手がすでについて、その結婚相手が“一位北京姑娘”であると理解することもできる。その場合、この名詞は「具体的指示」であると主張している。一方で、楊さんが現在結婚相手を探していて、条件が“一位北京姑娘”であるというふうに解釈することもできる。その場合は“一位北京姑娘”は「一般的指示」であると主張している。

陳平（1987:85）によれば、“通指”について注意しなければならないところがあり、それは“通指”が以下の二つの特徴（以下[図4]のように）を持っているということである。一つは“它并不指称语境中任何以个体形式出现的人物，与无指有相同之处”であり、もう一つは“通指成分代表语境中一个确定的类，与定指成分有相同之处”である。

[図4] “通指”の特徴

“通指” { “无指”と相似点がある  
“定指成分”と相似点がある

2.5.1.3.1.2 刘丹青 <汉语类指成分的语义属性和句法属性> 《中国语文》(2002:411～422)

刘丹青 (2002: 411)<sup>54)</sup>によれば、“一个 NP”は“类指”を指すか、それとも「不定」を指すかは、以下の二つの方法で判断できる。一つ目は、以下の例 (71) b のように、“一个 NP”が“类指”を指すときは、“一个 NP”の後に、話題表記である“么”などの語気助詞が添えられてある場合と、“标点符号”が表記されてある場合である。そうでなければ、例 (71) a のように、「不定」を指す。

- (71) a. 一个学生 (\*么) 走了过来。 (刘丹青 2002: 411)  
一人の学生が歩いてきた。 (筆者訳)
- b. 一个学生 (么,) 就应该刻苦学习。 (刘丹青 2002: 411)  
学生たるものは、一生懸命に勉強すべき。 (筆者訳)

二つ目は、以下の例 (72) のように、“一个 NP”の中から“一个”を取っても、文の意味が変わらない場合は、“一个 NP”は“类指”を指す。そうでなければ、例 (73) のように、「不定」を指すと主張している。

- (72) a. 一个学生就应该刻苦学习。= b. 学生就应该刻苦学习。(刘丹青 2002: 419)
- (73) a. 一个学生走了过来。(主語は「不定」である。)  
≠ b. 学生走了过来。(主語は「定」になれる。)(刘丹青 2002: 419)

筆者は、例 (71) a の中の“一个学生”を“两个学生”、“三个学生”に変えて、“两个学生走了过来。”、“三个学生走了过来。”と言い換えてもよいだろうと考えている。だが、(71) b の中の“一个学生”を“两个学生”、“三个学生”に変えてしまったら、この文は意味が変わってしまうだろう。(71) b の中の“一个学生”の“一个”は、学生の特性を表している。よって、(71) b の中の“一个”は、学生という「類」を指す。それを“类指”と呼んでもいいだろうと筆者は考える。

#### 2.5.1.3.1.3 蔺璜 <试论宾语位置上的名词性成分的有定性> 《语文研究》(2006: 23~26)

蔺璜(2006: 23~26)によれば、“有定”は“有指”と“定指”を包含し、“无定”は“有指”と“不定指”を包含する。“有定”と“无定”の概念について、以下のように

<sup>54)</sup> 刘丹青 (2002: 419)は、以下のように述べている。“‘一个NP’这种形式表类指还是表有定，有一个突出的区别。‘一个NP’表无定时，该NP不能带具有话题标记作用的语气词或曰提顿词，而‘一个NP’表类指时就可以带话题标记。比较：

① a. 一个学生 (\*么)走了过来。b. 一个学生么，就应当刻苦学习。

此外，表类指的‘一个NP’可以去掉‘一个’而不改变NP的指称义，而表无定的‘一个NP’去掉‘一个’就可以理解为有定。如：

② a. 一个学生就应当刻苦学习。= b. 学生就应当刻苦学习。

③ a. 一个学生走了过来。(主语无定)≠ b. 学生走了过来。(主语可以有定)”



定義づける。

名詞性成分の表現対象は話中の某个实体，发话人使用该名詞性成分时，如果预料受话人能够将所指对象与语境中某个特定的事物等同起来，能够把它与同一语境可能存在的其他实体区分开来，我们称该名詞性成分为有定成分；发话人如果预料受话人无法将所指与语境中其他实体区别开来，我们将其称为无定成分。（名詞性成分の表現対象は話し言葉の中のある実体である。話し手がこの名詞性成分を用いるとき、もし以下のようなことを予想するなら、つまり聞き手がその対象と言語環境の中のある特定の事物とを同一視することができると予想するなら、また聞き手がその対象を同一言語環境の中で存在しうるほかの実体と分別することができると予想するなら、私たちはこの名詞性成分を「定」的であると呼ぶ。一方で、もし話し手が、聞き手がその対象とその言語環境の中のほかの実体を区別することができないと予想するなら、私たちはこれを「不定」的であると呼ぶ。筆者訳）

(74) a. 学生来了。 (藺璜 2006 : 24)

(待っていた) 学生は来たよ。 (筆者訳)

b. 来学生了。 (藺璜 2006 : 24)

学生が来たよ。 (筆者訳)

藺璜(2006 : 24)によれば、例(74)aの“学生”は“有定”であり、例(74)bの“学生”は“无定”であると見なされている。

筆者は基本的に、藺璜の主張と同じく、「定」および「不定」を以下のように定義する。つまり、個体を表す場合「定」は“有定成分”であり、“无定成分”と対立する。また「定」は“有指”の下位概念である“定指”を包含する。一類のモノを表す場合、「定」は「確定」した「類」である。「不定」は“无定成分”であり、“有定成分”と対立する。また「不定」は“有指”の下位概念である“不定指”を包含する。また、「特定」は“有指”の下位概念である“定指”であり、「不特定」は“有指”の下位概念である“不定指”である。「定」の定義は以下[図5]のように示す。

[図5] 「定」の定義

「定」： { 特定である。(個体を表す場合)  
確定した類。(一類のモノを表す場合)

#### 2.5.1.3.2 話し手の立場からみて「定」である“把”の客体

“把”構文の“把”の客体が既知であれば“把”構文は必ず成立する。そして、それが定であるか否かも、“把”構文成立のうえで重要な役割を果たす。

#### 2.5.1.3.2.1 聞き手にとっての「定」

聞き手にとって、“把”構文の「客体」が「定」であるか否かは、“把”構文成立のうえで非常に重要である。

(75) 高大泉擦掉眼泪，把自己的来历遭遇诉说一遍。 (《大道》)

高大泉は涙をふきながら、ひととおりの自分の生い立ち、境遇を語った。(『道』)

(76) 高大泉跟冯少怀吵架的那天晚上，乐二叔就把他带到南场屋里住了。(《大道》)

高大泉が馮少懷と言い争った日の晩から、樂二叔は、高大泉を庭の南側の脱穀場にある作男の長屋に連れていっていた。(『道』)

(77) 她没有把替焦副部长做手术，看作是不可多得的荣誉；也没有把秦波的刁难，视为难以忍受的凌辱。 (《中年》)

彼女は焦副部長の手術を担当することを、特に光栄なこととは思っていなかったし、副部長夫人の嫌がらせも我慢のならない侮辱だとは見ていなかった。(『人』)

(78) 这个回答，使孙逸民那么高兴。他松开了按在太阳穴上的手指，好象额头不那么涨痛了。他立刻改变了主意，要把谈话认真地进行下去。 (《中年》)

彼女の答えに孫逸民は歓喜した。神経の疲労がいっぺんに吹きとんだかのように、彼はこめかみを押さえた指を離すと、身を乗り出し、本腰で話し始めた。(『人』)

例(75)の“把”の「客体」である“自己的来历遭遇”は基本名詞連語であり、例(76)の“把”の「客体」である“他”は代詞である。これらの“把”の「客体」は、聞き手(読者)にとっては、これらの小説をここまで読んできているので何を指しているのかがわかる。よって、「定」である。例(77)の“把”の「客体」の“秦波的刁难”は派生名詞連語<sup>55)</sup>であり、“秦波的刁难”は“秦波”が“刁难”したことがあって、この“刁难”を指している。従って聞き手にとっては、「定」である。例(77)の“把”の「客体」の“替焦副部长做手术”及び例(78)の“把”の「客体」の“谈话”は、ともに動詞性の連語であり、派生客語<sup>56)</sup>である。“替焦副部长做手术”は今回の“替焦副部长做

<sup>55)</sup> 高橋(2013)の枠組み理論によれば、動詞や形容詞など用言性の語句を核とする名詞連語を派生名詞連語という。“秦波的刁难”の“刁难”は動詞であって、“秦波的刁难”は派生名詞連語という。

<sup>56)</sup> 高橋(2013)の枠組み理論によれば、名詞など体言性の語句が主語や客語になる場合を基本主語・基本客語と言い、動詞や形容詞など用言性の語句が主語や客語になる場合を派生主語・派生客語という。

手術”であって、“谈话”は今おこなわれている“谈话”である。従って聞き手にとっては、「定」である。

### 2.5.1.3.2.2 聞き手にとっての「不定」

聞き手にとって、“把”構文の“把”の「客体」が「不定」であるか否かは、“把”構文成立のうえで非常に重要である。なぜなら、朱德熙などが指摘するように“把”の「客体」が「不定」であれば、一般的にその文は文として成立しないからである。

(79) 我把一本旅行支票丢了。 (胡振刚:21)

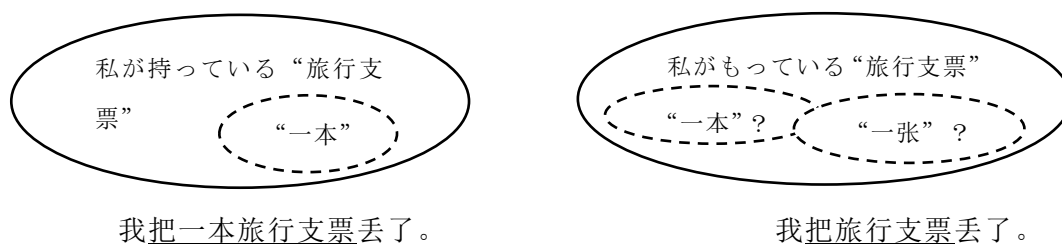
(わたしは[一冊の]トラベラーズチェックを無くしてしまった。(同上)

(80) 因为屋小，为给子午摆下一张床，还把一张破写字台给搬了出去。(储泽祥:32)

部屋が小さく、子午さんのためにベッドを置くので、ついにはぼろぼろの机も外に出してしまった。(筆者訳)

[図 6]のように、例(79)の“把”の客体の“一本旅行支票”は一冊の“旅行支票”であり、この文では“一本旅行支票”は“我”が無くした“旅行支票”という意味に取れるので、話し手にとっては「定」である。だが、聞き手にとっては「個体」の角度から見ると「不定」であるが、汎称の角度からみると、“旅行支票”類の物が“一本”なくなったという意味であり、聞き手はその両方の意味で理解することが可能である。この“一本”は単純に数量だけを表しており、“一张”ではなくて、“一本”である。聞き手にとっては、それが「不定」であっても、理解できる。また、“我把一本旅行支票丢了。”から“一本”を除いた場合は、どれぐらいの“旅行支票”を無くしたのか、“一本”か、“一张”か、“所有”の“旅行支票”か、というのはこの言い方からは分からない。この“一本”は数量であり、“旅行支票”は無くした“旅行支票”であり、「定」である。だが、“旅行支票”を無くしたことは、聞き手にとって理解が可能である。

[図 6]



例(80)の“把”の客体“一张破写字台”は、話し手にとっては、部屋にあった“写

字台”であって、運ばれた“写字台”であり、「定」できる。そのうえ、その部屋にある唯一の机であると解釈することも可能である。聞き手にとっては、この机は見えないし、どのような机かも分からないため、これは新情報である。この机は「不定」ではあるが、理解できる。よって、この文は“把”構文として、成り立つ。

#### 2.5.1.3.3 話し手の立場からみれば「不定」（個体の角度）である“把”の客体

話し手にとって、“把”構文の“把”の「客体」が「不定」であるか否かは、“把”構文成立のうえで非常に重要である。

##### 2.5.1.3.3.1 聞き手にとっての「定」

聞き手にとって、“把”構文の“把”の「客体」が「定」であるか否かは、“把”構文成立のうえで非常に重要である。

- (81) A: 明天你把照相机带来。 (作例)  
明日カメラを持ってきてください。 (筆者訳)  
B: 好, 知道了。 (作例)  
はい、分かりました。 (筆者訳)

例(81)の“把”の客体である“照相机”は話し手にとって確定した一「類」(汎称)の物を表す。カメラ類の物であればなんでもよくて、規格や色などには拘っておらず、聞き手が持っている“照相机”範囲の中の任意の一つという意味に取れる。個体の角度から見ると、「不定」であるが、この中“照相机”は汎称のカメラを指し、確定した一「類」なものである。聞き手が“照相机”を聞いたら、理解することができる。一つしか持っていない場合は、その“照相机”は聞き手にとって「定」である。

##### 2.5.1.3.3.2 聞き手にとっての「不定」

聞き手にとって、“把”構文の“把”の「客体」が「不定」であるか否かは、“把”構文成立のうえで非常に重要である。

- (81)' A: 明天你把照相机带来。 (作例)  
明日カメラを持ってきてください。 (筆者訳)  
B: 我有三个照相机, 我带哪个呢? (作例)  
三台あるので、どれをもってきたらよろしいでしょうか? (筆者訳)

(82) 前几天大晌午, 游击队长亲自带着人进了鬼子炮楼, 把一挺机枪扛走了。(《大道》)

このあいだの昼すぎにも、遊撃隊長が先頭になって、鬼子の望楼に入り込んで機関銃を一丁もってきちまった。 (『道』)

(83) 傅家杰屈居于床边的一叠箱子上, 把一本参考书摊在床上, 研究他的金属断

裂专题。

《《中年》》

傅家傑はベッドの前に置いた箱の上に座り、(一冊の)参考書をベッドの上  
に広げ、金属亀裂というテーマを研究している。(筆者訳)

(84) 她和他天天工作到深夜，把“一天”变成两天，从不吝惜自己的健康和精力。

《《中年》》

若い二人はこうして毎晩遅くまで勉強した。一日を二日分に使い、自分た  
ちの健康と労力を少しも惜しもうとはしなかったのだ。(『人』)

例(81)’の“把”の客体である“照相机”は、話し手にとっては、(81)と同様に  
確定した一「類」(汎称)の物を表す。聞き手が二つ以上持っている場合は、どれを持  
ってきててもよくて、聞き手にとっては「不定」である。だが、聞き手が持っている“三  
个照相机”の中の一つであれば範囲内では「不定」である。例(82)の“把”の客体で  
ある“一挺机枪”はただ任意の“一挺机枪”ではなく、“游击队长”が“鬼子炮楼”か  
ら“扛走”した“一挺机枪”であり、この“一挺”はただの“机枪”の数量である。  
聞き手にとっては、未知であり、不定であり、新情報であるが、確定可能な対象であ  
る。同様に例(83)の“把”の客体である“一本参考书”、例(84)の“把”の客体であ  
る“一天”は話し手にとっては「不定」である。だが、例(83)“一本参考书”は同様  
に「数量+汎称」であり、その中の「汎称」は確定した汎称である。例(84)“一天”  
は時間を表す汎称であり、“一小时”、“一分钟”ではなく、“一天”という意味である。

“一天”の時間の長さは誰にとっても理解できる。そのため、“她和他”は自分の仕事  
の中において、この時間の長さを“两天”として捉えていても、聞き手はその長さの  
程度が理解できる。聞き手に確定した処置対象を与えることができる。

確定した「汎称」、いわゆる「類」というものである。これらの概念は個体の角度か  
らみると、「不定」であるが、汎称の角度からみると、確定したことである。よって、  
理解はできる。話し手と聞き手にとって、個体の角度からみると、“把”の「客体」  
は「定」のコト・モノ・ヒトであることもあれば、「不定」のコト・モノ・ヒトである  
もある。以下の[表4]は“把”の客体の特徴をまとめたものである。

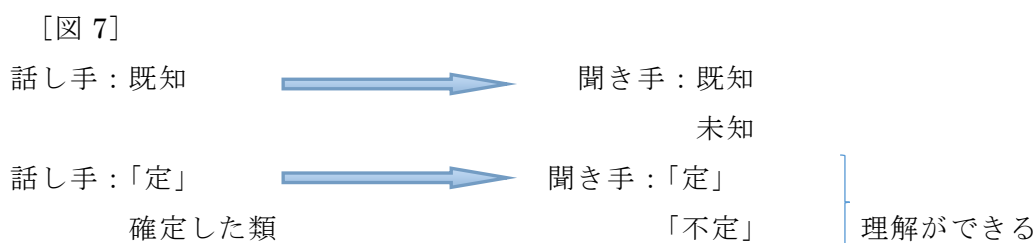
[表 4] “把”の客体の特徴

	話し手	聞き手
第一類：例(75)、(76)、(77)、(78)	「定」	「定」
第二類：例(79)、(80)	「定」	「不定」であるが、 確定した汎称。
第三類：例(81)	「不定」であるが、 確定した汎称	「定」
第四類：例(81)’、(82)、(83)、(84)	「不定」であるが、 確定した汎称	「不定」
特徴	①「定」 ②確定した汎称	理解ができる

#### 2.5.1.4 おわりに

“把”構文：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」、一般には、“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」は話し手と聞き手の双方が分かる既知の事物であり、「定」である。

しかし、筆者が考察した結果は一般とは違っていたため、以下[図 7]のように示しておく：



上掲に挙げるように、一般には、“把”の客体は、話し手にとって既知の事物である、だが、聞き手にとっては既知の事物であることもあり、未知の事物であることもある。また、“把”の客体は個体の角度から見ると「定」であることが多いが、「不定」である場合もある。不定の場合には、「類」(汎称)の角度から見ると、“把”の客体は確定した「類」(汎称)であり、聞き手にとって理解できることである必要があるということがわかる。

「既知」と「既知扱い」という言い方があるが、未知の対象が既知扱いとして処理できるのと同じように、「不定」のモノも、条件があれば、「定」のものとして処理することが可能である。

### 2.5.2. 単語レベル・連語レベル・文レベル・文脈レベルからの検討

#### 2.5.2.1 はじめに

“把”構文の文構造は一般的に「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」である。“把”構文で表す「変化のくみあわせ」「把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」は、“把”の客体に対する変化を表し、一般的には、“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」は定であって、話し手と聞き手の双方にとって同定可能な既知の事物であるとされている。

- (85) 把它交给赵老师。 (《汉语口语》2010:142)  
これを趙先生に渡して。 (筆者訳)
- (86) 这么一下子真把魏石头吓唬得不轻, 以后真的不敢胡说了。(《盖棺》)  
このことがあってからというもの、魏石頭は、すっかりおびえてしまい、びたりと放言をしなくなった。 (『棺を蓋いて』)
- (87) 请你把这篇文章翻译成英文。 (《汉语口语》2010: 143)  
この文章を英語に訳してください。 (筆者訳)
- (88) \*把一位大夫请来了。 (前出 22)  
ひとりのお医者さんに往診してもらった。 (筆者訳)
- (89) 老马从你的书架上把一本书拿走了, 我没看书名。 (木村 1996:57)  
馬さんはあなたの本棚から一冊の本を持って行ったが、私は本の名前を見なかった。 (筆者訳)
- (90) 把苹果吃了。 (沈家煊: 367)  
リンゴを食べてしまった (or リンゴを食べてください)。 (筆者訳)

例(85)の“把”の客体である“它”は指示代詞であり、例(86)の“把”の客体である“魏石头”は固有名詞であり、両方とも単語レベルからみると、定であることがわかる。高橋(2013)の枠組み理論<sup>57)</sup>によれば、例(87)の“把”の客体である“这篇文章”は指示代詞を限定語とした「基本名詞連語」である。連語レベルからみると、例(87)の“把”の客体である“这篇文章”は定である。例(88)の“把”の客体である“一位大夫”は数量詞を限定語とした「基本名詞連語」であり、この基本名詞連語は任意の一人の医者であって、「不定」である。単語レベルからみると、例(88)は受け容れられない“把”構文である。だが、例(89)の文の“把”の客体は例(88)と同様に“一本”を伴っており、任意の不定数量を表しているように思われるが、非文ではない。なぜ例(89)の“一本书”は“把”構文として受け容れられるのだろうか。また、なぜ沈家煊(1995: 368)が挙げる“把苹果吃了”の“苹果”は定を表すマークがないのにも

<sup>57)</sup> 高橋(2013)の枠組理論によれば、名詞など体言性の語句を核とする名詞連語を基本名詞連語という。動詞や形容詞など用言性の語句を核とする名詞連語を派生名詞連語という。“我的财产”の“财产”は名詞であって、基本名詞連語という。“秦波的刁难”の“刁难”は動詞であって、“秦波的刁难”は派生名詞連語という。

かわらず、“把”構文として受け容れられるのだろうか。

“把”構文の客体がなぜ定であるか、なぜ“无定式把字句”（数量詞を限定語とした名詞要素）であっても定と言えるのだろうか。本節では、実例に基づき、単語レベルと連語レベルと文レベル及び文脈レベルの四つのレベルから“把”の客体がなぜ「定」であるか、またなぜ「不定」であるかについて考察を試みる。

#### 2.5.2.2 単語レベル・連語レベル・文レベル・文脈レベルからの検討

筆者は前述した先行研究を踏まえて、“无定式把字句”だけではなく、すべての“把字句”について考察し、“把”の「客体」の「定性」について、文法形式<sup>58)</sup>からではなく、単語レベルと連語レベルと文レベル及び文脈レベルから具体的に考察してみる。

##### 2.5.2.2.1 単語レベルからみる「定性」

単語レベルからみると、“把”の客体が人称代詞あるいは固有名詞あるいは指示代詞の場合は「定」である。

- (91) 阎罗大王只好把你锯开来，分给他们。 (《红高粱》)  
閻魔さまにすりゃ、お前さんを鋸で切って、二人に分けるよりほかないだろうよ。(『赤い高粱』)
- (92) 老师把四元儿推搡到窑里去罚站。 (《插队》)  
四元を窑洞の中へ引っ張って行って罰として立たせる。(『大地』)
- (93) 谁把它从急流中捞上来，谁就是它的新主人。 (《插队》)  
洪水に流された物であれば急流から引き揚げた者が新しい所有者となる。(『大地』)

例(91)の“把”の客体である“你”、例(92)の“把”の客体である“四元儿”(人名)、例(93)の“把”の客体である“它”は、それぞれ人称／指示代詞と固有名詞であり、すべて話者・聴者双方が知っているモノ・コト・ヒトであり、「定」である。これらは単語レベルで「定」であると言える。

##### 2.5.2.2.2 連語レベルからみる「定性」

連語レベルからみると、“把”の客体は指示代詞と人称代詞を限定語とした基本名詞連語の場合は「定」である。

- (94) 醉心于把我的财产一样一样码在箱子里，反复地码来码去。(《插队》)  
自分の財産をひとつひとつ鞆に詰めこむのに夢中になり、何度も詰め直し

<sup>58)</sup> 儲澤祥(2010: 28~34)によれば、“把”構文をその文法形式によって2つに分けている：“把”の「客体」が“一量名”の形式は“无定式把字句”といい；“这/那+名、专名、代词”の形式は“有定式把字句”という。(2.2.8 参照)



をした。 (『大地』)

(95) 把那些从口外和京西过来的大小牲口夸耀得活灵活现；谈到“贸易自由”，他更是满口称赞。 (《大道》)

長城の北や北京の西からきた大小の家畜の様子を手にとるように再現し、とりわけ、「取り引きの自由」口をきわめて称賛した。 (『道』)

例(94)の“把”の客体である“我的财产”と例(95)の“把”の客体である“那些从口外和京西过来的大小牲口”は人称代詞と指示代詞を限定語とした基本名詞連語であり、いずれも確定されているモノ・ヒト・コトであり、「定」である。したがって、「定」的である。

「定」かあるいは「不定」かという問題においては、単語レベルからみると、人称代詞と固有名詞と指示代詞は「定」であり、ゆえに「定」である。連語レベルからみると、人称代詞と指示代詞を限定語とした基本名詞連語は「定」である。先行研究における「定」とは、ほとんどの場合においてこの連語レベルの範囲内にあった。陳平(1987:81~92)によれば、単語レベル及び連語レベルからみると、“光杆名词”と“数量名”は「中性」であり、“一量名”と“量名”は「不定」である<sup>59)</sup>。だが、“把”構文の“把”の客体が“光杆名词”か“数量名”か“一量名”か“量名”かである場合、単語レベル及び連語レベルでは、「不定」だが、文レベル及び文脈レベルからみれば、条件によっては、「定」あるいは確定された「類」と見なされる場合もある。

### 2.5.2.2.3 文<sup>60)</sup> レベルからみる「定性」

“无定式把字句”の“把”構文の「客体」は“一(数)量名”の形式をしている。“一(数)量名”は、数量詞を限定語とした基本名詞連語であるのに対して、“一(数)量名”の客体は一般的に、朱德熙(1995:250~255)などが指摘するような「不定」であれば文として成立しない。

#### 2.5.2.2.3.1 「類」を指す“无定式把字句”

<sup>59)</sup> 陳平(1987:81~92)によれば、“从名词性成分的词汇形式着眼，按有定和无定的强弱等级，将汉语的名词成分归纳为以下七组：

		有指	无指	定指	不定指	实指	虚指	通指	单指
A	人称代词	+		+		+			+
B	专有名词	+		+		+			+
C	这/那(量词)名词	+		+		+		+	+
D	光杆普通名词	+	+	(+)	(+)	+	+	+	+
E	数词(量词)+名词	+	+	(+)	(+)	+	+	+	+
F	“一”+量词+名词	+	+		+	+	+	+	+
G	量词+名词	+	+		+	+	+	+	+

A、B、C三组属于强式、典型、极端的有定式形式；F、G两组属于强式、极端、典型的无定式形式；D、E两组属于中性形式，具有有定和无定双重语义特征，随着句法位置和语言环境的不同而获得有定或不定的特征。”と主張している。

<sup>60)</sup> この文レベルは単文レベルと複文レベルの二つのレベルを指す。

陶・張（2000:439）によれば、“一量名”の“一”は個体のモノを指すのではなく、一類のモノを指す。また、陳平（1987：85）によると、“通指成分代表语境中一个确定的类，与定指成分有相同之处”と主張している。さらに、劉丹青（2002:419）によれば、“一量名”は“类指”を表すとき、“一量名”の中の“一量”を取っても、文の意味が変わらないと主張している。従って、

(96) 从前，把一只手表看得那样珍重。 （王蒙《短篇小说之谜》）

以前、時計はとても貴重なものと見なされていた。 （筆者訳）

(97) 听说能手能把一张画儿揭成两幅，画儿韩莫非有此绝技？ （前出 25）

聞くところによると、プロは一枚の絵をはがして二枚の絵にすることができますが、画児韓さんもこのような技をもっているのではあるまいか。（同上）

劉丹青（2002:419）によれば、“从前，把一只手表看得那样珍重。”の“一只”を除いても、この文の意味は変化しない。それゆえ、“从前，把手表(类的东西)看得那样珍重。”とも言い換えることができるだろう。

劉丹青の説に従えば、例(96)の“把”の客体である“一只手表”は個体のモノから見ると、「不定」であるが、ここでは個体のモノではなく、“手表”という一類のモノを指しているのであり、つまり汎称である。他の類ではなく、“手表(类)”である。よって、例(96)は文レベルからみると、“把”の客体である“一只手表”は“手表类”という確定した「類」であるといえる。同様に、例(97)の“把”の客体である“一张画儿”は一類のモノであり、劉丹青（2002:419）の説によれば、“听说能手能把一张画儿揭成两幅…”の意味は一枚の写真、一枚の紙ではなく、一枚の“画儿”（絵画）である。その文は“听说能手能把画儿(类的东西)揭成两幅…”と言い換えることができるだろう。よって、全体の文から見ると、“把”の客体である“一张画儿”は確定した「類」であると言うことができるだろう。従って、文レベルからみて、例(96)、(97)の文の中の“把”の客体は確定された「類」である。文中には類の全体を指す明確な表現が無いにもかかわらず、それと読み取れるような文として読者に許容されている。

「一量名」の“把”構文の「客体」：「確定」された種類

#### 2.5.2.2.3.2 数を表す“一”の“无定式把字句”

陶・張（2000:439）によれば、“一量名”の“一”は数を表すときもある。

(98) 我昨天开车不小心把一个小孩儿撞伤了。 （前出 68）

昨日私は車を運転して、不注意で[一人の]子供を怪我させてしまった。

(同上)

(99) 可是，继而一想，把三只活活的牲口卖给汤锅去挨刀，有点缺德；他和骆驼都是逃出来的，就都该活着。什么也没说，他心里平静了下去。（《骆驼》：33）  
だがまた、あんな元気な駱駝たちをつぶすなんて不人情なまねはできない、いっしょに逃げてきたんじゃないか、おたがい生きなければ、と思いなおすと、いつかさっぱりした気分になっていた。（『らくだ』：62）

(100) 把一支烟烧完，祥子还是想不出道理来，他象被厨子提在手中的鸡，只知道缓一口气就好，没有别的主意。（《骆驼》：98）

タバコを一本灰にしてしまっても、祥子は、まだどうしていいかわからなかった。コックに首をひっつかまれた鶏のように、ひと息つき思うだけで、それ以上なんの考えもなかった。（『らくだ』：191）

例(98)の“把”の客体である“一个小孩儿”は“我”が“撞伤”した“小孩儿”であり、「定」である。その“一个”は自分が子供をぶつけて倒した“小孩儿”は二人、三人ではなく、“一个”である。同様に、“我昨天开车不小心把两个小孩儿撞伤了。”も言えるし、“我昨天开车不小心把三个小孩儿撞伤了。”とも言えるだろう。“一个小孩儿”は連語レベルから見ると、「不定」であるが、文レベルから見ると「定」である。よって、例(98)の“把”の客体は「定」であるといえるだろう。例(99)“把三只活活的牲口卖给汤锅去挨刀，有点缺德；”の“三只活活的牲口”は任意の“三只活活的牲口”ではなく、この“活活的牲口”は祥子が売った駱駝であり、「定」である。この“三只”は駱駝の数を指しているものと思われる。“三只活活的牲口”は連語レベルから見ると、「不定」であるが、文レベルから見ると、「定」である。したがって、“把三只活活的牲口卖给汤锅去挨刀，有点缺德；”という文はまったく正しいものである。その観点から言えば、例(99)の“把”の客体は“三只”を伴っているにもかかわらず、許容される文となっている。同様に、例(100)の“一支烟”も「定」である。以上の三つの文での“把”の「客体」の中の“一”と“三”は数量を指す意味で読者に許容される。

(101) 李老师把几份作业改了。 (王还 1985 : 22)

李先生は数名分の課題を添削した。 (筆者訳)

(102) 他把几支铅笔拿走了。 (前例 6)

彼は鉛筆を何本か持って行った。 (筆者訳)

(103) 他把几支铅笔都拿走了。 (作例)

彼は何本かの鉛筆を全部持って行った。 (筆者訳)

さらに、王还（1985：22）の例(101)の“李老师把几份作业改了。”の“几份作业”は“那几份作业”という意味であり、これは「定」であるということについては王还（1985：22）が主張している。しかし、その“几份”についての説明がなかった。同様に、吕叔湘の《八百词》（1999：54）例(6)の“他把几支铅笔拿走了。”は非文であると主張しているが、筆者は王还（1985：22）の考えに従って、例(102)の“几支铅笔”は連語レベルからみると、不定であるが、その几支铅笔”は“拿走”した“铅笔”であり、「定」である。その中の“几支”は単に数量を表しているだけである。よって、文レベルからみると、“几支铅笔”は定である。同様に、例（103）の“几支铅笔”も定である。その文は“把”構文として成り立つものである。例(101)、(102)、(103)の“把”の「客体」はすべて“一(数)量名”の形であり、連語レベルからみると、「不定」であるが、文レベルからみると、“把”の「客体」は定であることが分かった。

さらに、数を表す“一”の“无定式把字句”について、実例をもとに考察してみよう。

(104) 这天他进了太平湖，刘宝利已经练了一遍功，正把一条腿压在树上耗着。

（汪曾祺《八月骄阳》）

この日、大平湖公園に入っていたけど、劉宝利はもうすでにひととおり稽古を済ませて、ちょうど片方の足を木にかけて、時間を潰していた。（筆者訳）

(105) 他们搬过来以后，三口人一齐动手，挑水脱坯，打起四面土墙，把两处房子围成一个院子，又栽了一圈儿杨柳树和几棵槐树。

（《大道》）

高大泉一家はここに引越してきてから、三人で力をあわせて水をはこび、泥をこね、まわりに土壁を築いて二棟を囲い、庭にぐるりと柳やえんじゅを植えた。（『道』）

(106) 别人担两趟粪，他只有一趟，一趟把两担粪全担上山，剩下的工夫可以整自留地，可以鼓捣他的小铁匠炉。

（《插队》）

他の者なら二回で運ぶ糞を彼は一回で山に担ぎ上げ、余った時間を自家保有地の耕作や鍛冶屋仕事に利用した。（『大地』）

(107) 火车站上的两个鬼子正在井台上洗澡，偏巧游击队长从那儿路过，他顺手就把两个狗东西塞到井口里了……

（《大道》）

駅でも鬼子が二人、井戸端で体を洗っているところを通りかかった遊撃隊長が引っつかまえて、井戸ん中へ放りこんだんだ。<sup>61)</sup>（筆者訳）

<sup>61)</sup>『中日対訳コーパス（第一版）』北京日本研究センター2003によれば、その文の日本語訳は「駅でも鬼子が二人、井戸端で洗濯しているところを通りかかった遊撃隊長が引っつかまえて、井戸ん中へ放りこんだんだ。」であるが、ここでは、筆者が訳したものである。

以上例(104)から例(107)まで全て複文である。例(104)の“把”の客体である“一条腿”の“一”は他の人の“腿”ではなく、彼の“腿”である。彼の“腿”の数であり、任意な人の“腿”の数でないので、「定」である。同様に例(105)の“把”の客体である“两处房子”の“两”、例(106)の“把”の客体である“两担粪”の“两”、例(107)の“两个狗东西”の“两个”もすべて単に数を表しているだけだが、「定」である。連語レベルでは「不定」であるが、文レベルでは「定」と言える。

#### 2.5.2.2.3.3 “一(数)量名”の“一”は総称を表す

陶・張(2000:439)によれば、“一量名”の“一”は総称を表すこともできる。

(108) 大赤包的气派虽大,可是到底还有时候沉不住气,而把一脸的雀斑都气得一明一暗。(老舍《四世同堂》)

大赤包は堂々としているけれど、時々気もそぞろになり、しかも顔中のそばかすの色が変わるほど怒ってしまうこともある。(筆者訳)

陶・張(2000:439)によれば、例(108)の“把”の客体である“一脸的雀斑”の“一”、は総称を表す“整”、“満”、“全”に相当するため、「大赤包の顔にあるすべてのそばかす」という具合に範囲が限定されることによって「定」であると考えられる。例(108)は連語レベルから見ると、“把”の客体は「定」であることが分かる。

前述の例(22)の“把一位大夫请来了。”は、朱德熙(1995:251)が非文だと主張しているが、筆者は必ずしもこれには同意しない。例えば、“为了抢救病人,小王把一位大夫请来了。”といったような複文の中では、この“把”構文も許容されるであろう。

#### 2.5.2.2.4 文脈レベルからみた「定性」

##### 2.5.2.2.4.1 “一(数)量名”の形式としている“无定式把字句”

###### 2.5.2.2.4.1.1 “一(数)量名”の“一(数)”は数を表す

(109) 前几天我从图书馆借了6本书。今天一看,少了一本。后来想起来了,前天我已经把一本还了。(作例)

先日図書館から六冊の本を借りたが、今日見たら、一冊足りなかった。その後になって、一昨日すでにその中の一冊を返したことを思い出した。(筆者訳)

(110) A: 小王来拿什么了? (作例)

王さんは何をとりに来たの? (筆者訳)

B: 他把几个苹果拿走了。

何個かのリンゴを持っていった。

例(109)の“把”の客体である“一本”は“一本书”であり、連語レベルでは「不定」であるが、文脈レベルから見れば、借りた本の中から返した一冊であり、「定」である。例(110)の会話文中の“把”の客体である“几个苹果”は連語レベルでは「不定」であるが、文脈レベルから見れば、「定」である。その“苹果”は「定」であって、その“几个”はリンゴの数である。したがって、この文は“把”構文として成り立つ。

#### 2.5.2.2.4.1.2 その他の“无定式把字句”

“把”の「客体」は一般に「ハダカ名詞」<sup>62)</sup>か指示代詞と人称代詞以外の基本名詞連語であり、派生名詞連語か派生客語<sup>63)</sup>かとなる時、文脈から“把”の「客体」は「定」とであると判断できる。

(111) 山本去大卫那儿借自行车, … 因为他的自行车<sub>1</sub>坏了, 他把车<sub>1</sub>送到修车处去修了。大卫下午不用自行车<sub>2</sub>, 他把车<sub>2</sub>借给山本了。 (《成功之路》: 39)

山本がデイビットのところに自転車を借りに行った。…というのは彼の自転車が壊れたので、それを自転車修理店で修理してもらっていたのだ。デイビットは午後自転車を使わないので、山本に貸してあげた。  
(筆者訳)

(112) 她没有把替焦副部长做手术, 看作是不可多得的荣誉; 也没有把秦波的刁难, 视为难以忍受的凌辱。 (前出 77)

彼女は焦副部長の手術を担当することを、特に光栄なこととは思っていなかったし、副部長夫人の嫌がらせも我慢のならない侮辱だとは見ていなかった。(同上)

(113) 这个回答, 使孙逸民那么高兴。他松开了按在太阳穴上的手指, 好象额头不那么涨痛了。他立刻改变了主意, 要把谈话认真地进行下去。(前出 78)

彼女の答えに孫逸民は歓喜した。神経の疲労がいつぺんに吹きとんだかのように、彼はこめかみを押さえた指を離すと、身を乗り出し、本腰で話し始めた。(同上)

例(111)は叙述文であり、“他的自行车<sub>1</sub>”は文章の中に初めて現れた「山本」の“自行车”をさす。この名詞連語“他的自行车<sub>1</sub>”には代詞“他”が使われているので、「定」と言える。これによって、“他把车<sub>1</sub>送到修车处去修了。”の“车<sub>1</sub>”は、特に修飾語が無くても言語環境により、前述した“他的自行车<sub>1</sub>”と同一事物なので、「定」

<sup>62)</sup> 「ハダカ名詞」は“光杆名詞”の日本語訳である。

<sup>63)</sup> 高橋(2013)の枠組み理論によれば、名詞など体言性の語句が主語や客語になる場合を基本主語・基本客語と言ひ、動詞や形容詞など用言性の語句が主語や客語になる場合を派生主語・派生客語という。

である。同様に、“车<sub>2</sub>”も特に修飾語が無くても言語環境により前述した“自行车<sub>2</sub>”と同一事物なので、「定」であることが分かる。例(112)は小説(叙述文)であり、この小説をここまで読んできているので、読者はそれが何を指しているのかがわかる。例(112)の“替焦副部长做手术”、例(113)の“谈话”は動詞性の連語であり、名詞性の語句ではないので、どちらも派生客語である。“替焦副部长做手术”は今回の“替焦副部长做手术”であって、“谈话”は今行われている“谈话”である。どちらも「定」である。例(112)の派生名詞連語“秦波的刁难”は“秦波”が“刁难”したことがあって、決まった“刁难”を指している。よって、「定」である。

“把”構文(375例文)における“把”の客体が「定」であるか確定した「類」であるかについて、後述する著作を参考にして調査をした。また「定」と確定した「類」の割合は、以下の[表5]のようにまとめた。参考言語資料は《中日対訳語料庫》(第一版)(2002、2003)の中の小説《人到中年》、《插队的故事》、《丹凤眼》、《红高粱》、《天声人语》、《天声人语2》である。

[表5] 単語レベル・連語レベル・文レベル(単文・複文)・文脈レベルの割合

	単語レベル	連語レベル	文レベル(単文・複文)		文脈レベル	
特徴	人称代詞、指示代詞、固有名詞	人称代詞、指示代詞を使う基本名詞連語	数量詞を使う基本名詞連語 1. 「類」を指す“无定式把字句” 2. 範囲内の数を表す“一”の“无定式把字句”		1. “把”構文の「客体」は“一(数)量名”の形式としている“无定式把字句” 2. 派生客語、「ハダカ名詞」、指示代詞と人称代詞以外の基本名詞連語、派生名詞連語	
“把”の客体の特徴	「定」	「定」	「定」	確定した「類」(汎称)である。	「定」	確定した「類」(汎称)である
例文の数(375例)	54例	45例	103例	8例	164例	1例
割合	14.4%	12%	27.47%	2.13%	43.74%	0.26%
「類」の割合	0%	0%		2.13%		0.26%

[表5]からみると、“把”構文の“把”の客体が確定した「類」である割合は、単語

レベルと連語レベルでは0%であり、文レベルと文脈レベルでは2.13%と0.26%がある。“把”の客体として「ハダカ名詞」と「一(数)量名」が使われる確率が高まるに従って、確定した「類」の割合が比例的に増えていっていることが分かる。

### 2.5.2.3 おわりに

本節では“把”構文の「客体」の「定性」について、単語レベルと連語レベルと文レベル(単文・複文)と文脈のレベルの四つに分けて分析してみた。“把”の客体は以下[表6]のようにまとめた。

[表6] “把”の客体のまとめ

個体を指す	定	単語レベル	人称代詞、指示代詞、固有名詞
		連語レベル	人称代詞、指示代詞を使う基本名詞連語
		文レベル (単文・複文)	“一(数)量名”
		文脈レベル	“一(数)量名”、「ハダカ名詞」、指示代詞と人称代詞以外の基本名詞連語、派生名詞連語
「類」(汎称)を指す	確定した「類」(汎称)	文レベル	“一(数)量名”
		文脈レベル	“一(数)量名”、「ハダカ名詞」、指示代詞と人称代詞以外の基本名詞連語、派生名詞連語、派生客語

“把”構文の“把”の客体が人称代詞もしくは指示代詞、固定名詞である場合は、単語レベルからみれば明らかに“把”の客体が「定」であることが分かった。“把”の客体が人称代詞もしくは指示代詞を限定語とした基本名詞連語である場合は、連語レベルからみれば明らかに“把”の客体が「定」であることが分かる。だが、“把”の客体がハダカ名詞・派生名詞連語・派生客語である場合と“把”の客体が“一(数)量名”という形の“无定式把字句”である場合は、単語レベルと連語レベルからみると、「定」であるか、「不定」であるか、判断しにくいときがある。特に、“把”の客体が“一(数)量名”という形の“无定式把字句”である場合は、一見すると「不定」であるかのように思えるが、実際は文レベルと文脈レベルからみると、個体を表す場合は「定」であり、一類のモノを表す場合は「確定」である。聞き手(読者)にとって、「不定」である場合もあるが、それが理解可能であれば、その“把”構文は成立することができる。

これと関連して、把”の客体がハダカ名詞(例61)および“一(数)量名”(例97、



98) という形をとる時、“把”の客体は「類」を指す場合もあるが、この「類」は確定された「類」である。聞き手（読者）にとって、そのことが理解可能であれば、その“把”構文は成立することができる。

### 第三章 “把” 構文における動詞について

#### 3.1 はじめに

王力（1985：130<sup>64</sup>）は処置義の“把”構文に用いられる動詞は処置性を持たなければならず、またほかの“把”構文には処置性でなくてもいいと主張している。同じ動詞は、全ての種類の“把”構文に使えるわけではない。例えば、動詞“想”を見てみよう。

- (1) 骆驼！祥子的心一动，忽然的他会思想了，好象迷了路的人忽然找到一个熟识的标记，把一切都极快的想了起来。（《骆驼》2（章））

「骆驼！」ドキンとした瞬間、祥子の頭は、また働きだした。道に迷った人間は、見知った目じるしにぼったりぶつかったとたん、ぱっとすべてをおもいだすものだ。（『ラ』：30頁）

- (2) 把虎妞的话从头至尾想了一遍，他觉得象掉在个陷阱里，手脚而且全被夹子夹住，决没法儿跑。（《骆驼》9）

虎妞の言ったことを逐一思いかえしてみても、祥子はまんまと罠にはまったように感じる。そのうえご丁寧に手枷足枷までえはめられて、身うごきもできないときているのだ。（『ラ』：144）

- (3) 把这个想开了，连个苍蝇还会在粪坑上取乐呢，何况这么大的一个活人。（《骆驼》21）

そうさとってしまうと、蠅なんか糞壺でさえ極楽と思っているのに、大の男がなにをくよくよという気になってくるのだった。（『ラ』：338）

例（1）は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋趨向補語」構造の“把”構文であり、例（2）は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋数量形式」構造の“把”構文であり、例（3）は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋結果補語」構造の“把”構文である。しかし、動詞“想”は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“在・到・给・成”＋名詞<sub>3</sub>」の“把”構文に用いることができない。

本章において、“把”構文の構造を四種に分けて、それぞれの“把”構文にどのような動詞が用いられるかについて分析する。

#### 3.2 中国語における動詞の分類

本節では、まず現代中国語の動詞の分類について検討する。刘月华・潘文娱・故群

<sup>64</sup> 王力（1985：130）は、以下のように述べている。“普通处置式的叙述词必须是及物动词，活用时可不及物动词。”

(1988 : 130~165 日本語版)、刘月华・潘文娛・故犇 (2001 : 151~156 中国語版)、齐沪扬 (2006:82~86) の説を参考とし、考察を行う。

### 3.2.1 刘月华・潘文娛・故犇 (1988 : 130~165)

刘月华・潘文娛・故犇 (1988 : 130~165) は以下のように述べている。

#### 3.2.1.1 客語をとれるか否かによる分類

文法上から見れば、動詞は、客語をとれるかどうか、またどのような客語をとれるかによって他動詞“及物动词”と自動詞“不及物动词”の二つに分類される。他動詞“及物动词”は主に受け手客語(動作を受けるもの)・対象客語・結果客語という三類の客語をとる動詞を指している。自動詞“不及物动词”とは、客語や受け手客語をとれない動詞をいう。客語をとれない動詞としては、“着想”(考えてやる)“相反”(反対である)“斡旋”(斡旋する)“问世”(世に問う)“通航”(航路が通じる)“休息”(休む)“指正”(過ちを指摘する)“送行”(見送る)などが挙げられる。多くの“不及物动词”は動作の受け手を表さない客語をとることができる。自動詞のとる客語には次の何種類かがある。

一、行為の場所を表すもの。(例えば、“上(山)”(山に登る)“去(上海)”(上海に行く)“出(国)”(国を出る)“下(乡)”(農村に行く)“出(院)”(退院する)など)。

二、行為に要する道具を表すもの。(例えば、“睡床”(ベッドに寝る)“过筛子”(ふるいにかける)など)。

三、存在・出現・消失する事物を表すもの。(例えば、“来了两个人”“蹲着一个石狮子”“死了一头牛”など)。

さらに、“见面”“握手”“结婚”などのような、結合が固く、ある種の言語においては一単語に相当するようなものがあるが、これらは客語をとることができない。即ち、“见面他”“握手你”“结婚她”などとは言えない。

#### 3.2.1.2 意味上の分類

意味上から見れば、中国語の動詞は動態動詞(動作・行為を表す動詞)・状態動詞(人や動物の精神的・生理的状态などを表すもの)・関係動詞(その主な働きは、主語と客語を結び、両者の間に何らかの関係を持たせることである)・能願動詞(助動詞)の四種類に分けることができる。

動態動詞は最も典型的な動詞であり、次のような文法的特徴をもっている。

- ①一般的に、重ね型を作ることができる。
- ②一般的に、アスペクト助詞“了”“着”“过”を伴うことができる。
- ③“不”でも“没”でも否定できる。
- ④動量補語、時量補語をとれる。
- ⑤命令文を構成することができる。(例えば、“来!”“走!”など)

⑥反復形（～不～…？）で疑問文を作れる。

⑦程度副詞の修飾を受けない。（例えば、“很吃”“非常跑”などとは言えない。たとえば、“很看了一阵子”（ひとしきり見ていた）“很解决问题”（問題の解決になる）などにおける“很”は単に後の動詞だけを修飾しているのではなく、後の動詞連語全体を修飾しているのである。）

状態動詞とは、主に人や動物の精神的・心理的状态や生理的状态を表すものをいう。心理的状态を表すものには、“爱”（愛する）“恨”（憎む）“喜欢”（好き）“讨厌”（嫌い）“想（あるいは想念）”（なつかしむ）“希望”（希望する）等がある。生理的状态を表すものには、“瞎”（目が見えない）“瘸”（足が不自由だ）“饿”（お腹がすいている）“醉”（酔う）“病”（病気だ）等がある。動態動詞とは異なり、状態動詞は次のような文法的特徴をもつ。

①大部分は“很饿”（とても腹がすいている）“特别喜欢”（大変好きだ）“十分讨厌”（大嫌いだ）等のように程度副詞の修飾を受けることができる。

②命令文を構成できない。

③心理的状态を表すものは他動詞“及物”であり、生理的状态を表すものは自動詞“不及物”である。

関係動詞の語彙的な意味は比較的抽象的である。例えば、“是”“叫”“姓”“当作”“成为”“像”“等于”などの動詞である。その主な働きは、主語と客語を結び、両者間に何らかの関係を持たせることを表すことである。故に関係動詞の後に普通客語が現れるのであって、大部分の関係動詞にとっては、客語は不可欠ですらある。関係動詞は数が少なく、主なものには次のいくつかがある。

①一般的には“不”で否定するが、“没”で否定する場合もありうる。

②“像”を除き、一般に程度副詞の修飾を受けず、客語を省略できない。

③一般的に重ね型にはならない。“成为”“叫”“像”“等于”等の重ね型はありえない。

④一般的に、後にアスペクト助詞“了”“着”“过”を伴うことが殆どない。

⑤“把”構文における述語動詞になれない<sup>65)</sup>。

⑥命令文を構成できない。

### 3.2.1.3 客語に基づく分類

動詞の後にとる客語によって、体言性の客語を用いる動詞、用言性の客語を用いる動詞、文を客語とする動詞、複数の客語を用いる動詞の四種に分けられる。

<sup>65)</sup> 刘月华・潘文娉・故韡（1988：130～165）は関係動詞が“把”構文に用いることができないと主張しているが、“他一点没有把祥子当作候补女婿的意思，不过，女儿既是喜爱这个楞小子，他就不便于多事。（骆驼祥子 5）”の“当作”は関係動詞であり、“把”構文に用いることができる。

体言性の客語（名詞・代名詞・数量詞）しか取れない動詞は例えば、“打（电话）”（[電話を]かける）“买（东西）”（買い物をする）“开（汽车）”（[車を]運転する）“缝（衣服）”（[服を]縫う）など。

用言性の客語（動詞・形容詞）しかとれない動詞は例えば、“进行（动员）”（[動員を]行う）“加以（指责）”（[叱責を]加える）“开始（研究）”（[研究を]始める）“继续（讨论）”（[討論を]続ける）などである。このような動詞には他にも“希望”（希望する）“同意”（賛成する）“给予”（与える）“装作”（ふりをする）“声明”（公けにする）“以为”（思い込む）“断定”（断定する）“认为”（思う）などがある。

また、“记得（开会的时间/开会）”（憶えている）“通知（放假日期/放假）”（通知する）“肯定（他的工作态度/工作）”（肯定する）“表示（心意/同意）”（表す）“研究（问题/如何开发）”（研究する）“准备（会议资料/离开）”（準備する）等、体言性、用言性両方の客語をとれる動詞もある。

文をとれる動詞は“希望”“觉得”“怕”のような動詞である。例えば、“我希望你明天早一点来。”（「明日早く来てほしい。」）“刚才我看见有一个人从这儿出去了。”（「さっきここを出た人を見かけた。」）“他认为事业是最重要的，家庭不那么重要。”（「家庭より仕事のほうがもっと大事だと彼が思っている。」）などである。

客語を二つとれる動詞は例えば、“给”“教”“交”“送”などがある。“张老师教我们中文”“他给了我一本新书”のような例文が挙げられる。

#### 3.2.1.4 持続性があるか否かによる分類

持続性のある動作を表す動詞の後であれば、動態助詞“着”を付けられる。例えば、“听着”“他在纸上写着什么，我看不清楚”などで場合である。また、持続性動作を表す動詞は普通重ね型になれる。例えば、“你去看看”“进来坐坐吧”などである。

非持続性動作はいわゆる瞬間動詞であり、後に動態助詞“着”を付けられない。例えば、“死”“散”“懂”“完”“结婚”“成立”“出现”“消失”“来”などである。

#### 3.2.1.5 自主的か否かによる分類

動作主が自主的にコントロールできる動作を表す動詞は自主動作動詞と呼ばれる。この種類の動詞は動作主が意識的に行う行為や動作を表すので、命令文を構成できる。例えば、“说”“唱”“学”“买”“打”“骂”“教”“吃”“喝”“帮助”などである。具体的な例は、“让老师说了我家孩子一顿。”（「先生に頼んでうちの子を叱ってもらった。」）“孩子被老师说了一顿。”（子どもが先生にお説教された。）などが挙げられる。

動作主が自主的にコントロールできない動作を表す動詞は非自主動作動詞と呼ばれる。例えば、“病”“死”“完”“知道”“怕”“塌”“漏”などである。この種類の動詞は一般的に命令文を構成できない。

### 3.3 従来の考え

王力（1985：130）は、一般的に処置を表す“把”構文は必ず及物動詞でなければならないが、処置義で説明できない“把”構文は不及物動詞を使えると述べている。赵元任（1979：174）は、“把”構文に不及物動詞も用いることができる。例えば、“把椅子坐塌了”、“把腿站累了”、“把路走错了”の中の“坐”、“站”、“走”などである。宋玉柱（1991：1～31<sup>66)</sup>）は、“把”構文に用いられる動詞は、必ず及物動詞あるいは及物の役割がある動詞フレーズでないといけないと主張している。邵敬敏（2002：72～95<sup>67)</sup>）は、結果補語を伴うことができる動詞或は結果賓語を伴うことができる動詞は、“把”構文にも用いることができるが、結果補語及び結果賓語を伴うことができない動詞は、“把”構文にも用いることができないと主張している。

崔希亮（1995：12～21<sup>68)</sup>）は、“把”構文に用いられる動詞は必ず動力を持つ動詞でなければならない、Bを変えることができ、Bを変化させるものでなければならない、とする。動力を持つ動詞は動態動詞であり、そうでなければ、静态動詞である。“把”構文における動詞は動作、活動、評価、感覚と生理運動を表す動詞である。同氏は動詞の分類について、以下の[表 1]のように表している。

---

<sup>66)</sup> 宋玉柱（1991：1～31）は“把”構文における動詞について、以下のように述べている。“如果动词是非动作性动词，一般就不能构成“把”字句。（中略）动词有无强烈的动作性对于能否构成“把”字句是至关重要的。”

<sup>67)</sup> 邵敬敏（2002：72～95）は“把”構文における動詞について、以下のように述べている。“凡可以带结果补语（包括带“得”的结果补语或结果宾语的动词，都有可能构成“把”字句，我们称之为“致果动词”。当然，这并不意味着在任何时候都必须带着结果补语或结果宾语，也不是说这类动词在任何情况下都必定可以构成“把”字句。换言之，它还要受到其他条件的制约，这些动词是不可数的。反之，根本不可能带结果补语或结果宾语的动词则在任何情况下都不可能构成“把”字句，我们称之为“非致果动词”，（略）”

<sup>68)</sup> 崔希亮（1995：12～21）は、以下のように述べている。“V一定是有动力的动词，它能够改变B，使B发生变化。有动力的动词我们把它叫做动态动词，没有动力的动词叫做静态动词”“‘把’字句中的动词是表示动作、活动、评价、感觉和生理运动的动词”

[表 1] 動詞の分類

静 态 动 词	V <sub>1</sub> 存在动词	有, 无, 堆, 挂, 站, 摆, 放, 停, …
	V <sub>2</sub> 关系动词	是, 为, 指, 像, 相同, 属于, 姓, 等于
	V <sub>3</sub> 性质动词	讨厌, 小心, 轰动, 热爱, 信任, 迷信, 密切, …
	V <sub>4</sub> 结果动词	出来, 成立, 发现, 获得, 分别, 到达, 批准, 通过, …
	V <sub>5</sub> 行为动词	帮助, 服务, 旅行, 游泳, 指导, 祝贺, 压迫, …
动 态 动 词	V 变化动词	大, 高, 成, 好, 紧张, 成熟, 漂亮, 地道, 瓷实, …
	V 活动动词	布置, 打扮, 筹备, 联络, 交涉, 准备, …
	V 动作动词	打, 抓, 摘, 搂, 拉, 拽, 脱, 砍, 剁, 劈, 砸, 削, 穿, …
	V 评价动词	看, 当, 说, 夸, 怀疑, 算, 称, 叫, …
	V 感觉动词	愁, 想, 欢喜, 忧伤, 伤心, 兴奋, 疼, 难受, 寂寞, …
	V 生理动词	哭, 笑, 叫, 喊, 嚷, 病, 嚎, 吵, …

同氏は、“游泳”、“压迫”、“帮助”、“服务”のような行為動詞は“把”構文には使えないと主張している。しかし、“只半个小时把他就游累了。”の文にある動詞“游泳”は“游”を取り出した例である。このような動詞は“把”構文に用いられる。

金立鑫(1997:415~426)<sup>69)</sup>は、“V得”の構造に使える動詞はすべて“把”構文にも使えると主張している。さらに、“把”構文に用いる動詞は“自主動詞”であり、“把”構文に用いることができない動詞の多くは“非自主動詞”である。しかし、“来得早”の“来”は“把”構文に用いることができない。张济卿(2000:28~37)は、崔希亮(1995:12~21)の説が正しいとは考えておらず、例えば、“她把眼圈儿红了”の中の“红”は動力を持ってないし、動詞ではない。“我把那本书看了”の“看”は動力を持っているとは言えないし、また“那本书”に対して、何にも変化させていない。さらに、本能性行為動詞、例えば、“听见”(听到)、“看见”(看到)は“把”構文に用いられることができないと主張している。しかし、“听”と“看”のは主体が客体に対して処置を行う場合、“把”構文でも使える。例えば、“我躲在后面, 把他们的话都听到了”は正しい文である。范晓(2001:309~319)は、“价”から“把”構文における動詞について研究しているが、“把”構文における動詞は“一价动词”、“二价动词”、“三价动词”の三種類あると主張する。氏は文構造と動詞の関係についても取り上げ、“把”構文の文構造はたくさんあり、すべての動詞が“把”構文に用いることができるわけではなく、また“把”構文に用いることができる動詞は、いかなる“把”構文にも用いることができるというわけではないと結論付けている。しかしながら、氏は

<sup>69)</sup> 金立鑫(1997:415~426)は、以下のように述べている。“凡是能够进入V得框架的动词都能构成“把”字句。……能够用于“把”字句的动词大多是“自主动词”, 不能用于“把”字句的动词大部分是非自主动词。”

数種類の“把”構文の文構造について説明しただけで、すべてのものに言及しているわけではない。

### 3.4 文構造の角度からの分析

本節は、“把”構文の文構造に基づき、1980年に出版された小説《人到中年》（以下《中年》と略称）の中の126例の“把”構文を分類し、その中に用いられた動詞を分析・考察する。動詞を中心として、“把”構文を以下のように三種に分類した。

#### 3.4.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞」（光杆动词式<sup>70)</sup>

全1例、動詞の種類は1

——摘除<sup>71)</sup>

(4) 陆文婷很快在巩膜上把预置线缝上，只等把白内障摘除后，把缝线结扎上，这手术就成功了。（《中年》：13<sup>72)</sup>）

陸文婷は手早く鞏角膜上に前置縫合を行い、あとは白内障を摘出して縫合線を結紮すれば、もう手術は完了である。（『人』：116<sup>73)</sup>）

例(4)の動詞“摘除”における“摘”と“除”は、同義複合の関係にある二音節の動詞である。呂叔湘主編（1999：55）は、この種類の“把”構文に用いられる動詞は動結構造動詞（动结构）であり、例えば、“延長”、“擴大”、“降低”、“約定”、“取消”などとする。さらに、陳光（2007：151～167）は、この種類の“把”構文に用いられる単語を[表2]のようにまとめている。

[表2] 単語の種類及び用例

単語の種類	用例
“补足格动词”	歼灭、加热、击落、打通、扑灭、买通、打消
“并联格动词”	封锁、开除、改写、拘留、分解、归总、归公 <sup>74)</sup>
“支配格动词”	充电、封口、充公、出手、封口、掉头、处决
“态饰格动词”	并举、并联、大写、私了、火化、平分、小写
“后衍格动词”	公式化、表面化、复杂化、概念化、简化、美化
“代词”	这么着、这样、那样、如何、怎么样、怎么着

黄伯荣・廖序东（2011：211～216）によれば、以上のような単語はすべて二音節単語であり、複合式単語である。これらを分類すれば、“补充型”、“联合型”、“动宾型”、

<sup>70)</sup> 括弧（）の中に書いてある名称はすべて崔显军が分類したものである。（4.1.2.5を参照）

<sup>71)</sup> 《现代汉语词典》（第7版2016：1643）によれば、“摘除”は動詞である。

<sup>72)</sup> （《中年》：13）は《人到中年》の第13章を指している。

<sup>73)</sup> （『人』：116）は『人、中年に至るや』の116頁を指している。

<sup>74)</sup> 陳光（2007：151～167）は“归公”は“并联格动词”であると考えているが、筆者は動賓フレーズと考えている。



“偏正型”と後綴「化」字と分類され、すべて結果を表すことができる。

### 3.4.2 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋“一”など＋動詞」（状心式）

全 2 例、動詞の種類は 2

——放、挥

(5) 焦成思把茶杯往桌上一放，掏出烟盒，想起大夫刚才的话，又装了进去，叹了口气说道：（《中年》：11）

焦成思は湯呑をティーテーブルに置き、タバコを取り出したが、先ほどの医者戒めを思い起こして再びポケットにしまいこんだ。（『人』：94）

(6) 可是，当他听说家里有人得了急病，需要立刻送医院时，二话没说，就把手一挥，招呼傅家杰上车。（《中年》：16）

しかし、急病人を病院へ連れていきたいと聞くと二つ返事で、傅家傑に車に乗れと合図した。（『人』：134）

例（5）、例（6）の“把”構文の中の動詞は“放”と“挥”であり、その前に派生副詞“一”が用いられている。この二つの動詞は全て動作動詞である。

### 3.4.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」

#### 3.4.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋動詞＋“了・着・过”」（动体式など）

全 1 例、動詞の種類は 1。

——做

(7) “焦副部长，如果你没有什么别的情况，我们后天就把手术做了吧！”（《中年》：19）

「焦副部長、他に特別なことがなければ明後日手術することにいたしましょう。」（『人』：99）

例（7）の“做了”の“了”は動作の完成ではなく、“做掉”という意味であるが、この文の形からこの種類の“把”構文に分類した。“把”構文はとても少ないことが分かったが、小路口（2014：39～52）によれば、「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了”」のような“把”構文の動詞は以下の[表 3]のように示すことができる。

[表 3] 単音節動詞の分類表

被動作主	動詞
なくなる	吃、喝、吞、丢、掉、扔、剪（指甲）、刮（胡子）、拔、抹（账）、揭、炸、除、剔、剃、删、剥、吐、缴（枪）、休（妻子）、甩、蹬（抛弃义）、倒（dao4）、洒、卖、寄、当（dang4）、花（钱）、打（打破义）、撤、毁、退、辞（工作）、戒（烟）、放、较、搅など
形が変わる	砍、割、劈、铲、撕、摔、拆、剁など
変化がある	改、摘、洗、砸、烧など
（その他）結果をもたらす	熄、灭、停、关、开（灯、门）、闭、脱、忘、毙、宰、杀、嫁、输、摘、卸、废、烫、还（huan2）、买（定なものとき）など
悪い影響がでる	赔、误（时间）、说、垮、瞎、骂、打（殴打义）、跑（逃跑义）、骗、抢、病、死など

この種類の“把”構文に用いられる動詞は、動作動詞の他に、心理活動動詞“忘”、状態動詞“瞎”と“病”と“死”などが存在している。また、二音節動詞も多く存在している。例えば、劉一之（2008：77～84）は以下の例を挙げている。

“降低、消灭、取消、颠倒、逮捕、开除、克服、扣留、扭转、切除、养活、抹煞、镇压、摆脱、暴露、包围、充满、铲除、出版、打倒、打破、得到、断绝、发表、放弃、粉碎、加强、夸大、浪费、没收、排除、缩小、淘汰、推翻、忘记、消除、消弱、延长、引诱、展开、泄露、阻止”。

この構造の“把”構文は、全て動作の結果を表すことができる。

34.32 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」（動賓式）

全1例、動詞の種類は1。

——当

(8) 竟使她长久以来分辨不清，是当真入梦，还是把梦当真。（《中年》：17）

それらの情景が生々しく再現されて、今日でも夢が現か判じかねるほどであった。（『人』：135）

この種類の“把”構文の用例は一つしかない。動詞“当”は評価動詞である。この構文には“给”、“送”、“告诉”などの二重客語動詞も用いることができる。さらには、

“把橘子剥了皮。”のような動作動詞も用いることができる。この構造の“把”構文は全て動作の結果を表すことができる。

### 3.4.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋名詞<sub>3</sub>＋動詞<sub>2</sub>」（连动式）

全 2 例、動詞は全て四字熟語である。

——一干而尽、席卷而去

(9) 可是，他忽然缄口不言，仰脖把半杯剩酒一干而尽，才吐出一句话来：（《中年》：9）

彼は急に黙り、仰向いて残りのブドー酒をぐっと呷るといった。（『人』：71）

(10) 流水把她席卷而去。佳佳的面容模糊了，沙哑的呼喊变成了可怜的抽噎：（《中年》：17）

激流が陸文婷を巻き込んで娘の顔がぼやけ、声をからしての叫び声は悲しいすすり泣きにかわっていった。（『人』：137）

例（9）の“一干而尽”と例（10）の“席卷而去”は四字熟語であるが、二つとも結果を表すことができる。

### 3.4.3.4 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋数量形式」（动量式・名量式）

全 7 例、動詞の種類は 7。

——挪动、摇、扬、点、审视、闭、晃

(11) 当她正考虑怎么委婉答复时，她记得，就在这时，焦副部长不耐烦地把身子在沙发上挪动了一下，朝秦波那边扭过头去。（《中年》：5）

副部長夫人にどう婉曲に断ろうかと思案していると——これははっきりと覚えているのだが——折よく焦副部長が苛立った様子でソファから身をずらし、夫人の方へ顔をむけた。（『人』：38）

(12) 陆文婷只好把低着的头点了点。（《中年》：11）

陸文婷はうつ向いたまま頷いた。（『人』：98）

(13) 陆文婷没有答话，只把针拿起来对着灯光照看。把这半圆形像钓鱼钩似的针审视了一会儿，她回头问道：（《中年》：13）

陸文婷は答えないで、針を照明灯の方に透かして調べている。釣針のように曲がった針を一通り点検したあと、彼女は振り向いていった。（『人』：113）

例（11）の動詞“挪动”、例（12）の動詞“点”、例（13）の動詞“审视”は全て動作動詞であり、且つ及物動詞である。例（11）、例（12）は“把”の客体の位置を移動することができ、例（13）は主体の考え方を変化させることができる。

3.4.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 程度・様態補語」（述程式・動得式）

全 3 例、動詞の種類は 3。

——看、弯、举

(14) 有的倒是愿意在眼科，可又把眼科看得很简单，以为这是很清闲的一科。（《中年》：4）

たまたまやる気を見せた者は、これまた楽な科だと踏んでいた。（『人』：23）

(15) 傅家杰把台灯弯得更低些，又用一张报纸挡上，才继续工作。（《中年》：12）

傅家傑はスタンドの首をぐっと低く曲げ、さらに新聞を被せて光を遮ってから仕事をつづけた。（『人』：104）

例（14）の動詞“看”と例（15）の動詞“弯”も全て動作動詞であり、且つ及物動詞である。この文構造に用いられる動詞の多くは動作動詞であるが、心理活動動詞、状態動詞も用いることができる。例えば、“他把小英恨透了。”の“恨”は心理活動動詞であり、状態か結果を表すことができる。

3.4.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」（動結式）

全 40 例、動詞の種類 32。

——吓、震、投、当、拦、扭、看、望、打、拖、做、结扎、治、整、移、拆、撤、升、穿、剪、切、缝、推、系、注、叫、说、救、惊、照顾、转、养

(16) 眼科主任孙逸民正在翻阅陆文婷的病历，“心肌梗塞”四个字把他吓住了。（《中年》：2）

眼科主任の孫逸民は陸文婷のカルテに目に通しているところであった。「心肌梗塞」の四文字が彼を驚愕させた。（『人』：11）

(17) 记起来了，是坐在一旁的秦波同志客客气气地把她拦住了。（《中年》：5）

ああ、そうだ、隣に坐っていた秦波夫人がいとも丁寧に彼女を遮ったのだ（『人』：35）

(18) 陆文婷个子矮，每次手术都需要把凳子升高。（《中年》：13）

陸文婷は背が低いので手術の時はいつもスツールを高くしなければならぬ。（『人』：110）

例（16）の動詞“吓”、例（17）の動詞“拦”、例（18）の動詞“升”はともに動作動詞であり、且つ及物動詞である。これらの動詞と結果補語を合わせて、結果を表すことができる。

3.4.3.7 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」（動趨式）

全 34 例、動詞の種類は 27。

——拥、进行、递、找、吸引、补、隔离、扔、练、放、叫、转、缝、赶、折、推、拿、结扎、取、扶、打、挑、放、送、认、说、塞

(19) 他松开了按在太阳穴上的手指，好像额头不那么涨痛了。他立刻改变了主意，要把谈话认真地进行下去。(《中年》：4)

神経の疲労がいっぺんに吹きとんだかのように、彼はこめかみを押さえた指を離すと、身を乗り出し、本腰で話し始めた。(『人』：24)

(20) 这一嗓子把病人和大夫的目光都吸引了过去。(《中年》：7)

その氣勢に吸い寄せられたように、患者も医師も一切に声の方を見上げた。(『人』：51)

例 (19) の動詞“进行”は形式動詞であり、例 (20) の動詞“吸引”は動作動詞であり、両方ともに及物動詞である。このような構造を持つ“把”構文は結果を表すことができる。

3.4.38 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・给・成” + 名詞<sub>3</sub>」(动介式・把作式)

全 33 例、動詞の種類は 28。

——浸泡、挨、停留、放、用、摊、接、铺、凝聚、盖、搭、禁锢、留、拉、送、集中、挪、让、转、开、奉献、交待、交、抚养、办、变、打、捏

(21) 赵天辉又把关切的目光停留在陆文婷脸上。(《中年》：6)

院長は再び気遣わしげなまなざしを陸文婷の顔に注いだ。(『人』：50)

(22) 孙逸民把傅家杰拉到前边来作了介绍，赵天辉才知道他原来就是陆大夫的爱人。他打量着傅家杰… (《中年》：6)

孫逸民は傅家傑を引っ張って来て紹介した。趙天輝はこの時初めてそれが陸先生の夫と知り、観察の目をむけた。(『人』：42)

(23) 病情就是敌情，这一句话就等于把任务交给她了。(《中年》：5)

ということはつまり、患者を当てがわれたのだ。(『人』：34)

(24) 幼年父亲出走，母亲在困苦中把她抚养成人。(《中年》：3)

幼い頃、父親が出稼ぎにいったまま帰らず、母は女手一つで彼女を育て上げてくれた。(『人』：17)

例 (21) の動詞“留”、例 (22) の動詞“拉”、例 (23) の動詞“交”は動作動詞であり、例 (24) の動詞“抚养”は行為動詞である。すべて及物動詞である。その動

作によって、このような構造を持つ“把”構文は“把”の客体の状態を変化させ、ある種の結果に至らしめることができる。

以上のことから考えると、“把”構文に用いられる動詞の多くは動作動詞であり、且つ及物動詞である。その他には、少数であるが、行為動詞や心理活動動詞や形式動詞や状態動詞も存在していることが明らかになった。

### 3.5 語義の角度から分析する

“把”構文に用いられる動作動詞はすべての“把”構文に適応するわけではない。例えば、“我把马骑骑。”は非文であるが、“这点路就把马骑累了。”は言える。同じ動詞“骑”であるが、その差異について、本節において分析する。

崔希亮(1995:12-20)は、語義から分類すると、“把”構文は二種類に分けられ、それは結果類と情態類であると主張している。結果類の“把”構文はP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>の間に因果関係を持つという特徴があると分析できるが、情態類の“把”構文はそのような特徴があるとは分析できない。例えば、“把筷子朝桌上一拍。”は情態類の“把”構文である。さらに、金立鑫(1997:415~422)は“把”構文の語義が三種類あると述べている。第一類は「結果類」であり、主に二つの主述フレーズの間因果関係のある場合を表し、例えば、“把脸冻得通红。”である。第二類は情態類であり、「AがBに対して働きかける際に、A或はBがある種の状態を持つ」である。例えば、“请你把地扫扫。”である。第三類は動量類であり、「AがBに対して特定量の行為を行い、動詞前の成分に“把”構文の焦点を当てることによって、賓語を強調する」である。例えば、“他把这些过程又演了一遍。”である。筆者は崔希亮(1995:12-20)と金立鑫(1997:415~422)の分類を参考にしながら、“把”構文を以下のように二種類に分けて分析する。

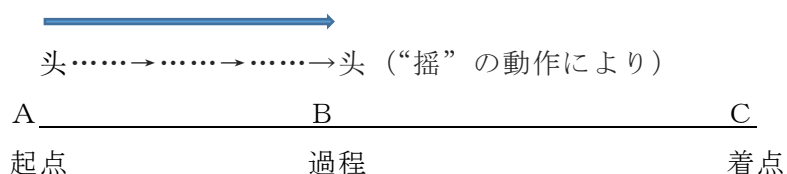
#### 3.5.1 情態類

この種類の“把”構文は、文構造「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+“一”など+動詞」(状心式)と文構造「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞の重ね型」を含む。これらの“把”構文は、動詞によって“把”の客体がある状態に変化したという意味を表す。

(25) 赵天辉把头摇了摇，叹道：… (《中年》：6)

趙天輝は首を左右に振りながら吐息をつき、… (『人』：47)

[図1]



以上の [図 1] で示されるように、例 (25) の文は、動作の“揺”により、“把”の客体“头”は起点の位置から離れて位置を変えて移動したという表現であり、移動の起点はあるが、着点は明確にされていない。この文構造に用いられる動詞は“把”の客体の位置を移動させ、状態を変化させることができる。

同様に、例 (26) の動詞“扬”によって、“把”の客体“手中的拐杖”の状態は変化していることを表す。

(26) 焦成思把手中的拐杖扬了扬，脸向着赵天辉，说道：(《中年》：6)

焦成志は手にしたステッキを持ちあげ、趙院長の顔を見ながらいった。

(『人』：48)

(27) 她把眼闭了一下，把头晃了几晃，然后慢慢地把手伸进袖子里。(《中年》：14)

眼を閉じて頭を揺すってみる。それからゆっくりと両手を袖に入れた。

(『人』：121)

例 (27) の動詞“闭”と“晃”の働きにより、“把”の客体である“眼”と“头”の位置を移動し、変化の着点あるいは結果まで至らしめなかったが、“把”の客体である“眼”と“头”の状態に変化がもたらされている。しかし、

(28) \*把马骑骑。

例 (28) の動詞“骑”の重ね型“骑骑”によって、“马”は何の変化も起こしていない。よって、例 (28) は非文である。

この種類の“把”構文に用いられる動詞が“把”構文の客体あるいは主体の位置を移動させ、状態を変化させることができる動詞であれば、その“把”構文は文として成り立つ。

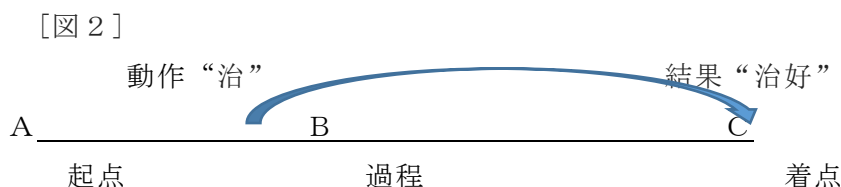
### 3.5.2 結果類

情態類の他は全て結果類であり、それは例えば、文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」などの“把”構文である。

(29) “还是不做了吧！就算你把我的眼睛治好了，他们还会把我整瞎的。而且，可能祸及于你。”(《中年》：11)

「やっぱり止しましょう！仮にこの目を治していただいても、彼らはまた私を痛めつけて盲目にさせていただきますよ。それに、あなたまで巻き添えにしかねない」(『人』：97)

例(29)の中の動詞“治”を通じて、“我的眼睛”が“治好”という結果を表すことができる(以下の[図2]で示すように)。動作が、“把”の客体を変化させ、ある結果に至らしめている。



また、情態類では用いられない動作動詞“骑”は結果類の“把”構文には用いることができる。

(30) 这点路就把马骑累了。

例(30)の動詞の“骑”により、“把”の客体の“马”は疲れたという結果になっている。従って、同じ動詞“骑”は、「情態類“把”構文」には用いることができないが、「結果類“把”構文」には用いることができると言える。「情態類“把”構文」に用いられる動詞が“把”の客体或は主体の位置を移動させるか、状態を変化させる動詞であれば、その“把”構文は文として成り立つ。「結果類“把”構文」に用いられる動詞が“把”の客体あるいは主体の位置を移動させ、あるいは状態を変化させ、且つそれにより、“把”構文の客体か主体をある種の結果に至らしめる動詞であれば、その“把”構文は文として成り立つ。

### 3.6 おわりに

本章は先行研究を踏まえ、先ず中国語における動詞の類型について考察した。意味上から動詞を分類すると、動作動詞、存現動詞、関係動詞、能願動詞、趨向動詞、心理活動動詞、使役動詞の七種類ある。動詞の後に客語をとれるかどうかにより、中国語の動詞は及物動詞と不及物動詞の二種類に大別することができる。《人到中年》の言語資料(“把”構文は126例ある)を調査したところ、“把”構文に用いられる動詞の多くは動作動詞であり、且つ及物動詞である。その他には、心理活動動詞と形式動詞と状態動詞も少数ではあるが、存在していることが明らかになった。さらにまた、同じ動詞が全ての構造の“把”構文に用いられることができない理由について、“把”構文で表す意味を「情態類」と「結果類」の二種類に分けた上で分析した。「結果類“把”構文」は、動詞により“把”構文の主体か客体の位置を移動させ、または状態を変化させ、ある結果をもたらしたことを表す。一方で、「情態類“把”構文」は結果に至る



ことがなく、“把”構文の主体か客体の位置を移動させ、また状態を変化させることを表す。最後に、“我把那本书买了”の文は、単独で使うと成り立たないが、ある種の文脈の中では成り立つことが分かっている。その理由について分析することが今後の課題の一つである。

#### 言語資料

《人到中年》 1981年第2版 湛容 百花文艺出版社出版 略《中年》

『人、中年に至るや』昭和59年 林芳訳 中公文庫 略『人』

## 第四章 “把”構文における「その他」について

### 4.1 “把”構文における「その他」の分類

#### 4.1.1はじめに

“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」であり、“把”構文を成立させる条件の一つは動詞の前後部分「その他」の性質がどうであるかに関わってくる。「その他」の部分が違ってくると、その文が表す文法的な意味も異なる。本節では、“把”構文の文構造を分類する。この分類を通じて、“把”構文の語義を明らかにしたいと考える。

“把”構文の分類に関して様々な学説が見られる。本章では呂叔湘主编（1948：169～191）、朱德熙（1995：250～255）、范晓（2001：309～319）、崔显军（2012：176～180）、叶向阳（2004：25～39）などを参考にしながら、動詞を中心として、《骆驼祥子》の中の実例を用いて分析を行う。本研究では以下の[表 1]のように 3 種類に分類した（4.1.3 参照）。

[表 1] “把”構文の文構造：

- I. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞」（光杆动词式）
- II. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋“一”など＋動詞」（状心式）
- III. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」

また、IIIの文構造をさらに八種類に下位分類できる。以下の[表 2]に示す。

[表 2] 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」の下位分類

- ①「その他」の部分は賓語など、補語以外である場合
  - A. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了・着・过<sup>75)</sup>」（动体式など）
  - B. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」（动宾式）
  - C. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋動詞<sub>2</sub>」（连动式）
  - D. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋数量形式」（动量式＋名量式）
- ②「その他」の部分は補語である場合
  - E. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋程度・様態補語」（述程式と动得式）
  - F. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋結果補語」（动结式）
  - G. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋趨向補語」（动趋式）
  - H. 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“在・到・给・成”＋名詞<sub>3</sub>」（动介式・把作式）

<sup>75)</sup>文構造：N<sub>1</sub>＋“把”＋N<sub>2</sub>＋V＋“过”として“把”構文は現代中国語の中には存在している。例えば、“刚才我听说，你已毫不客气地把李嫂的身上都搜过了。”、“把所有的主意都想过了，他想起怎样处理这件事才好。”

これらの他に、崔显军(2012: 176~180)が分類した三つの構造があり、それはたとえば「“看” + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他(看把式)」と「名詞<sub>1</sub> + “把” + “个” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他(把个式)」と「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他(把 NPVP! 式)」であり、本研究ではこれらをまとめて「特殊な“把”構文」と呼ぶこととする。

刘培玉(2009: 28~33)<sup>76)</sup>によれば、“把”構文の文法的意味(语法意义)は“语法处置”であり、つまり、あるヒト・あるモノ・あるコトが動作によって、“把”の客体に対して作用と影響を与え、“把”の客体・主体にある種の変化を起こさせ、または動作をある種の結果へと導くものであると述べている。“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」であり、吕叔湘主编(1948: 169~191)は“把”構文を13種類に分類し、朱德熙(1995: 250~255)は“把”構文を6種類に分類し、崔显军(2012: 176~180)は15種類に分類し、范晓(2001: 309~319)は10種類に分類し、叶向阳(2004: 25~39)は12種類に分類している。筆者は以下に挙げる各文法学者の分類を参考にしながら崔显军(2012: 176~180)の分類(括弧()の中に書いてあるモノである))、動詞を中心にし、上記に挙げる[表1]の3種類に分類した。

#### 4.1.2 従来の分類

4.1.2.1 吕叔湘主编(1948: 169~191<sup>77)</sup>)は、動詞の前後の部分以下のように13種類に分類している。

##### ① 动词后加成分 (post-verbal elements)

###### A. 额外宾语 (extra objects)

1) 偏称宾语 (partitive object) (例: 把腿跷起一只来。)

2) 动量宾语 (quantitative object)

(a) 与动词同形 (例: 把那烟袋锅儿挖一挖。)

(b) 与动词不同形 (例: 把两手拍了一下。)

3) 保留宾语 (retained object) —— 带宾动词 (verb-object construction) 里的宾语 (例: 我是把诸位绑了票了。)

###### B. 补语 (complements) —— 一般

4) 受事 (recipient)

(c) 无给 (例: 又把这等的机密大事告诉你。)

<sup>76)</sup> 刘培玉(2009: 28~33)によれば、“把字句の语法意义是表示“语法处置”——某人、某物、某事件通过动作对“把”的宾语施加作用 and 影响,使“把”的宾语、主语发生某种变化,或使动作达到某种结果。”と述べている。

<sup>77)</sup> 吕叔湘主编(1948: 169~191)によれば、“把字句式初起的时候也许并没有特殊用途的一种句法,但是”它在近代汉语里应用的如此其广,主要是因为有一些情况需要把宾语挪到动词之前去。同时,有两个重要的消极限制:第一,宾语必须是有定性的;第二,动词必须代表一种‘作为’,一种‘处置’。这积极消极两方面的条件发生冲突的时候(这种情形很少),要是没有第三种句式可以利用,把字句式比普通主动句式要占点优势。”

- (d) 有给 (例: 把帽罩子摘了, 递给华忠。)
- 5) 处所 (complement of place) (例: 将碟子挪在眼前。)
- 6) 动向与动态 (complements of direction and aspect) (例: 把他也带了去。)
- C. 补语—结果 (complements of result)
- 7) 无得 (例: 把那银子搬齐。)
- 8) 有得 (例: 把那文行出处都看得轻了。)
- 9) 特种 (例: ①把我羞哭了。②把手绢儿哭湿了。)
- D. 10) “把风丫头病了。”
- ②动词前加成分 (pre-verbal elements)
- 11) 一 (例: 把手一拱, 说道, “请了。”)
- 12) 都, 也 (例: 把方才的话都说了。)
- 13) 其他 (例: 把箱子一齐打开。)

4.1.2.2 朱德熙 (1995: 250~255) (杉村博文・木村英樹訳) によれば、“把”構文に用いられる動詞は、少なくとも重疊形でなければならず、より多く見られるのはその前後に何か別の成分を伴っている形である。

- ①動詞が重疊形である例: 把桌子抹抹。<sup>78)</sup> (テーブルを拭きなさい。)
- ②動詞の前に副詞の“一”が用いられる例: 把头一抬。(頭をひょいともち挙げる。)
- ③動詞の前に“往~”、“当~”という前置詞構造が用いられる例: 把袖子往上卷。(袖をまくり上げる。)
- ④動詞の後に補語が伴われる例: 把绳子较断。(ひもを(はさみで)切る。)
- ⑤動詞の後に目的語が伴われる例: 把大门上了锁。(表門に鍵を掛けた。)
- ⑥動詞の後に接尾辞“着”あるいは“了”が伴われる。把房子卖了。(家を売り払う。)

朱德熙 (1995: 250~255) は以上の六種類に分類している。

4.1.2.3 范晓<sup>79)</sup> (2001: 309~319) によれば、“把”構文は以下の10種類に分類でき

<sup>78)</sup> 例文“把桌子抹抹。”及び日本語訳“テーブルを拭きなさい。”の句点“。”は全て筆者が付け加えたものである。

<sup>79)</sup> 范晓 (2001: 309~319) によれば、“把”構文は以下の10種類に分類している。①光杆动词式把字句: 把这个建议取消。②动体式把字句: 把信寄了。③动结式把字句: 把敌人打败了。④动趋式把字句: 把信寄出去了。⑤动介式把字句: 把书放在桌上。⑥动宾式把字句: 把大门上了锁。⑦动得式把字句: 把门关得紧紧的。⑧动量式把字句: 把这书看了两遍。⑨动副式把字句: 把你想死了。⑩状动式把字句: 把头一扬。

る。

- ①ハダカ動詞式“把”構文：把这个建议取消。（この意見を取り上げた。筆者訳）
- ②動体式“把”構文：把信寄了。（手紙を出した。筆者訳）
- ③動結式“把”構文：把敌人打败了。（敵を破った。筆者訳）
- ④動趨式“把”構文：把信寄出去了。（手紙を出した。筆者訳）
- ⑤動介式“把”構文：把书放在桌上。（本をテーブルの上に置いた。筆者訳）
- ⑥動賓式“把”構文：把大门上了闩。（正門をロックした。筆者訳）
- ⑦動得式“把”構文：把门关得紧紧的。（ドアをしっかり閉めた。筆者訳）
- ⑧動量式“把”構文：把这书看了两遍。（本を二回読んだ。筆者訳）
- ⑨動副式“把”構文：把你想死了。（あなたにとっても会いたい。筆者訳）
- ⑩状動式“把”構文：把头一扬。（顔をさっと上げた。筆者訳）

4.1.2.4 叶向阳（2004：25～39）によれば、“把”構文は“双述“把”字句”<sup>80)</sup>と“单述“把”字句”の二種類があり、以下の12種類に下位分類している。

(甲) “双述“把”字句”的VP

- ①实义述补式：把衣服洗干净。
- ②偏离述补式：把菜炒咸了。
- ③带“得”述补式：把他打得哇哇叫。
- ④带“个”述补式：恨不得今儿晚上就把事情弄个水落石出。
- ⑤趋向述补式和处所述补式：把它扔出去。/把它扔在地上。

(乙) 单述“把”字句的VP

- ①述补省略式：（看）把他高兴得。
- ②虚义述补式：  
A: V+上/着(zhao)/中/住：把球拿住。  
B: V+了<sub>2</sub>/着<sub>2</sub>/过<sub>2</sub>：把信烧了。
- ③述宾式：把墙炸了个洞。
- ④状中式：把东西乱扔。/把袖子往上拉。
- ⑤动词量化：A. 动词重叠：把剩饭煮煮。  
B. 一十动词：把眼睛一闭。

<sup>80)</sup> “双述“把”字句”と“单述“把”字句”については、叶向阳（2004：25～39）は以下のように述べている。“‘把’字句VP在形式上是单事件还是双事件，将其分为双述和单述“把”字句。”また、同氏は“他把那票子对着阳光仔细照。”は单述“把”字句であり、“把石头抱着搬进了屋”は双述“把”字句であると主張している。

C. 动词+动量词：把衣服拽了一下。

⑥V+了<sub>1</sub>：把他得罪了。

⑦单个动词：把时间延长。/把问题简单化。

#### 4.1.2.5 崔显军<sup>81)</sup> (2012 : 176~180)

崔显军(2012 : 176~180)は“把”構文を以下のように 15 種類に分類している。

- ① 光杆动词式 (把敌人消灭),
- ② 动体式 (把信寄了),
- ③ 动结式 (把点球踢飞了),
- ④ 动趋式 (把文章发出去),
- ⑤ 动介式 (把书放在书架上),
- ⑥ 动宾式 (把抽屉上了锁),
- ⑦ 动得式 (把基础夯得特扎实),
- ⑧ 动量式 (把《红楼梦》看了四遍/把行李收拾收拾),
- ⑨ 述程式 (把他看透了),
- ⑩ 状心式 (把头一甩),
- ⑪ 连动式 (把这事儿说给老王听了/把这个问题加以分析),
- ⑫ 看把式 (看把你美得),
- ⑬ 把个式 (把个凤姐死了),
- ⑭ 把作式 (把他当做知心朋友),
- ⑮ 把 NPVP! 式 (把好事办好!/把实事办实!)

「动体式」とは「動詞+時体助詞“了”」という構造を持つタイプである。

#### 4.1.3 本稿における分類

本稿においては、“把”構文について、各文法学者の説を参考にしながら、動詞を中心とし、《骆驼祥子》の中の実例(428例、その内訳は、“把”構文は419例であり、“将”構文は9例である)を用いて分析を行い、再分類を行う。その結果が以下の3種類である( ()の中に書いてあるモノは崔显军(2012 : 176~180)の分類したものである)。

##### 4.1.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞」(①光杆动词式)

<sup>81)</sup> 崔显军(2012 : 176~180)は“把”字句を15に分類している。①光杆动词式 (把敌人消灭), ②动体式 (把信寄了), ③动结式 (把点球踢飞了), ④动趋式 (把文章发出去), ⑤动介式 (把书放在书架上), ⑥动宾式 (把抽屉上了锁), ⑦动得式 (把基础夯得特扎实), ⑧动量式 (把《红楼梦》看了四遍/把行李收拾收拾), ⑨述程式 (把他看透了), ⑩状心式 (把头一甩), ⑪连动式 (把这事儿说给老王听了/把这个问题加以分析), ⑫看把式 (看把你美得), ⑬把个式 (把个凤姐死了), ⑭把作式 (把他当做知心朋友), ⑮把 NPVP! 式 (把好事办好!/把实事办实!)等。「动体式」とは「動詞+時体助詞“了”」という構造を持つタイプである。

全 2 例、動詞の数は 2。

——除外、怎样<sup>82)</sup>

(1) 不管身上是怎样褴褛污浊，太阳的光明与热力并没将他除外，他是生活在一个有光有热力的宇宙里；他高兴，他想欢呼！（《骆驼》3<sup>83)</sup>）

たとえ垢と泥にまみれ、ぼろをぶらさげていようと、太陽の光と熱はけっして彼をのけ者にしたりはしない。彼は明るい光と、あたたかい熱につつまれて生きているのだ。彼はうれしかった。ワーッと叫びだしたかった。（『ラ』：44<sup>84)</sup>）

(2) 可是，祥子在那里看着；他刚从风里出来，风并没能把他怎样了！（《骆驼》8）

しかし、祥子は悠然とそれを見まもっていた。彼はいまその風のなかからでてきたのだ。風は彼をどうにもすることができなかったのだ。（『ラ』：127）

例（1）の動詞“除外”は二音節動詞であり、例（2）の動詞のところに代名詞“怎样”が使われている。動詞“除外”は動補構造の単語であり、結果を表すことができる。この二つの例はともに、客体である「名詞<sub>2</sub>」を変化させ、結果まで至らしめた例である。この種類の“把”構文は計 2 例あり、用いられている動詞の数は 2 個である。

4.1.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一” など + 動詞」（ⓐ 状心式）

全 7 例、動詞の数は 6。

——落、贴、说、拉、（一笔）勾销、埋

(3) 祥子打算合合稀泥，把长脸一拉，招呼她一声。可是他不惯作这种事，他低着头走进里屋去。（《骆驼》16）

祥子は、さりげなく声をかけてごまかしてしまうつもりでいたが、そんな器用なことはやったことがなかったので、そのまま下をむいて奥の部屋にはいった。（『ラ』：257）

(4) 听着风声，祥子把头往被子里埋，不敢再起来。（《骆驼》21）

風の音を耳にすると、祥子は蒲団にもぐりこんだまま起きようとしなかった。（『ラ』：343）

(5) 刚跑了一身的热汗，把那个冰凉的小水筒往胸前一贴，让他立刻哆嗦一下；（《骆驼》10）

走って汗ぐっしょりになっているところへ、氷のような瓶をかかえこむと、とたんに身ぶるいがでる。（『ラ』：150）

<sup>82)</sup> 《现代汉语词典》（第 7 版 2016：194）によれば、“除外”は動詞である。1638 頁では、“怎样”は“代词”であるが、ここでは、動詞として使われている。

<sup>83)</sup> 《骆驼》3 は《骆驼祥子》の第 3 章を表している。

<sup>84)</sup> 『ラ』：44 は『らくだのシアンツ』の 44 頁のことを表している。

例(3)の“把”構文の中の動詞“拉”の前の“一”は、単語レベルで数詞だが、連語レベルで派生副詞として用いられている。例(4)の動詞は“埋”の前にその動詞の状況語“往被子里”がある。また、例(5)の動詞の前には、状況語“往胸前”及び“一”が同時に存在している。この種類の“把”構文は計7例あるが、一音節動詞の用例は5例あり、二音節動詞の用例は1例ある。とどのつまり、一音節動詞は二音節動詞より多いことが分かった。この構造の“把”構文は、動作の結果を表すのではなく、客体あるいは主体の変化を表すのである。この種類の“把”構文は計7例あり、用いられている動詞の数は6個である。

4.1.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」

4.1.3.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了・着・过”」（②动体式など）

全26例、動詞の数は19。

——忘记、忘、要、摔、放、扔、杀、作、劈、收、糟践、折卖、埋、收拾、打发、揍、扔弃、蒙、烧

(6) 他硬把病忘了，把一切都忘了，好似有点什么心愿，他决定走进城去。（《骆驼》4）

彼は自分の弱ったからだのこと、これまでのすべてのことを頭から追いだした。そして、心に期するものがあるかのように、腹をきめた。さあ行こう、と。（『ラ』：56）

(7) 杨宅用人，向来是三五天一换的，先生与太太们总以为仆人就是家奴，非把穷人的命要了，不足以对得起那点工钱。（《骆驼》5）

この楊家の使用人は、これまでおよそ五日と居ついたことはない。旦那や奥さん方が、使用人を奴隷視し、金を払うかぎり使い殺すまでこき使わなければならないと考えていたからだ。（『ラ』：76）

(8) 茶馆的伙计半急半笑的喊：“快着点吧，我一个人的大叔！别把点热气儿都给放了！”（《骆驼》10）

ボーイが冗談めかして声をかけた。「おじさん、はやくしてくれよう！寒いからよう！」（『ラ』：153）

例(6)、(7)、(8)のような“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」であり、文構造が「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “着”」と「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “过”」となっている例文は一例も見つけることができなかった。この種類の“把”構文は結果を表す。合計25例あり、用いられている動詞の数は19個である。

4.1.3.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 名詞<sub>3</sub>」（⑥动宾式）



全 15 例、動詞の数は 10。

——拢、出、骂、给、炸、垫、告诉、买、剥、摔

(9) 那里有养骆驼的，他得赶快的走，能在天亮的时候赶到，把骆驼出了手，他可以一进城就买上一辆车。(《骆驼》3)

あそこには駱駝を飼っている家がある。いそごう。夜が明けるころに行きついて、駱駝を売ることができれば、町に着くなり車を手に入れることができるのだ。(『ラ』: 41)

(10) 官面上交待不下去，要不把你垫了背才怪。(《骆驼》11)

すると、裁判所のほうじゃ帳尻を合わせるために、おめえを身がわりにたてるってことになる。(『ラ』: 174)

(11) 二太太以为他这是存心轻看她，冲口而出的把他骂了个花瓜。(《骆驼》5)

お妾さんはおもしろくない。あっちの言うはきけてもあたしの言うことはきけないのか、というところで、部屋からとびだしてきてわめきちらす。(『ラ』: 77)

例(9)の動詞“出”の後に賓語“手”があり、例(10)の動詞“垫”の後に賓語の“背”がある。例(11)は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了个”…」の構造の“把”構文であり、その「“了个”…」は、高橋(1996: 181~199)は動賓構造と述べ、李臨定(1993: 200~202)は「“个”字補語」と命名した。筆者はそれが名詞の役割を担っているが、例(11)の“骂了个花瓜”の意味は“骂成个花瓜”であるだろうと考える。この文の「動詞 + 了个…」の意味は“動詞 + 成”であり、結果補語に相当する。この種類の“把”構文は結果を表し、その数は計 15 例あり、用いられている動詞の数は 10 個ある。

4.1.3.3.3 文構造: 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + 名詞<sub>3</sub> + 動詞<sub>2</sub>」(㊸连动式)

全 4 例、動詞の数は 6。

——当、扔、去、交、放、洗、给、送

(12) 可是得交上车份儿，交不上账而和他苦赋的，他扣下铺盖，把人当个破水壶似的扔出门外。(《骆驼》4)

とはいえ損料だけはきちんと入れなければならない。稼ぎが足りずに泣きを入れていたりすれば、とたんに蒲団をさしおさえられ、情容赦なく叩きだされてしまう。(『ラ』: 57)

(13) 他窝心，他不但想把那身新衣扯碎，也想把自己从内到外放在清水里洗一回，他觉得浑身都粘着些不洁净的，使人恶心的什么东西，教他从心里厌烦。

(《骆驼》15)

そう思うと、むかむかしてきた。新調の着物をずたずたにひき裂いたくらいでは気がすまず、この自分を内も外もきれいな水で洗い清めたいと思った。からだじゅうに不潔な、吐き気をもよおさせるようになにかがべつとりと貼りついているような気がして、ほとほとたまらなかった。彼女の顔など二度とみたくもなかった。(『ラ』: 237)

例(12)の“当个破水壶似的扔出门外”の中の“当”と“扔”は動詞であり、例(13)の“放在清水里洗一回”の中の“放”と“洗”も動詞である。この種類の“把”構文も結果を表し、合計4例あり、用いられている動詞の数は6個である。

4.1.3.4 文構造: 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 数量形式」(⑧動量式・名量式)

全13例、動詞の数は9。

——数、说、折、想、转、拉、试验、洗、形容

(14) 祥子一边吃，一边把被兵拉去的事说了一遍。(《骆驼》4)

祥子のご馳走になりながら、兵隊につれさられた顛末を話した。(『ラ』: 62)

(15) 把帽子往下拉了拉，他老远的就溜着厂子那边，唯恐被熟人看见。(《骆驼》16)

まず、帽子を目深にかぶり、知合いに会いほしくないかとびくびくしながら、遠くから人和のほうをうかがってみた。(『ラ』: 262)

(16) 买回来，她嘱咐他把什么该剥了皮，把什么该洗一洗。(《骆驼》21)

買って帰れば、皮をむいたり洗わせたりした。(『ラ』: 332)

(17) 祥子喝了他一碗茶，把心中的委屈也对他略略说了几句。(《骆驼》23)

祥子はお茶を一杯もらい、それを飲みながら自分の悩みをかいつまんで話した。(『ラ』: 363)

この構造の数量補語は名量式と動量式と“VV式”と“V—V式”と“V了V式”を含めている。例(14)の“说了一遍”の“一遍”は動詞“说”の量を表し、動量式である。例(15)の“拉了拉”は“V了V式”であり、例(16)の“洗一洗”は“V—V式”である。これらは「少し」、「ちょっと」という意味を表す量的な表現である。また、例(17)の“说了几句”の“几句”は話を数量化する語句であり、名量式である。この種類の“把”構文はすべて動作によって、客体か主体の変化を表し、合計13例あり、用いられている動詞の数は9個である。

4.1.3.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 程度<sup>85)</sup>・様態補語<sup>86)</sup>」(⑨述程式・⑦動得式)

全 28 例、動詞の数は 23。

——攥、看、弄、治理、闭、养、整理、摔、打、带、支使、撑、吃、冰、弯、低、累、烫、冻、吹、收拾、戴、忘

(18) 车夫们没有敢跟他耍骨头的。他一瞪眼，和他哈哈一笑，能把人弄得迷迷糊糊的，仿佛一脚登在天堂，一脚登在地狱，只好听他摆弄。(《骆驼》4)

車夫連中は、まるで蛇に見こまれた蛙のようなもので彼の一颯一笑に気もそぞろ、天国と地獄に足を片方ずつおいているみたいな気持ちになって、彼の思うさまにひきずりまわされてしまうのである。(『ラ』: 56)

(19) 他只能从眼角边显出点不满的神气，而把嘴闭得紧紧的。(《骆驼》5)

となると、せいぜい目にもものを言わせるのが関の山で、ぶすつと黙りこんでいるしかなかった。(『ラ』: 73)

(20) 况且吃住都合适，工作又不累，把身体养得好好的也不是吃亏的事。(《骆驼》7)

それに、部屋も食事もよし、仕事は楽とくれば、からだにわるいはずはなく、割にあわないことではない。(『ラ』: 102)

例 (18)、(19)、(20) の“弄”と“闭”と“养”の様態補語はそれぞれ“迷迷糊糊”と“紧紧的”と“好好的”であるが、程度補語の例は 1 例もなかった。この種類の“把”構文はすべて状態を表し、計 28 例あり、用いられている動詞の数は 23 個である。

4.1.3.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」(③動結式)

全 110 例、動詞の数は 75。

——扯、晒、摸索、吃、变、碰、拉、招、啄、滑、烫、赶、凑、送、收拾、放、照、毁、打、摔、看、忘、散、吹、掩、藏、堵、招、浇、冻、推、解、喝、安、停、锁、开、带、烧、咳嗽、扫、叫、听、裁、杀、弄、气、办、吸、作、掐、花、摺、蹿、打听、哭、买、拉扯、对付、掀、淋、垫、喊、埋、吸、烂、想、扔、解释、挪、排列、卖、按

<sup>85)</sup> 《现代汉语（增订五版）下册》（2011:74）によれば、程度補語について、以下のように述べている。“程度补语很少，限于用“极、很”和虚义的“透、慌、死、坏、多”等，表示达到极点或很高程度，也可以用量词短语“一些、一点”表示很轻的程度。中心语主要是性质形容词，也可以用某些能前加“很”的动词。”

<sup>86)</sup> 《现代汉语（增订五版）下册》（2011:72）によれば、様態補語について、以下のように述べている。“表示由于动作、性状而呈现出来的情态。中心语和补语中间常用助词“得”，（中略）情态补语的作用有两种：有的用作描写，用状态形容词或谓词性短语；有的用作评价，只用性质形容词”

(21) 更严重一些的, 有时候碰了行人, 甚至有一次因急于挤过去而把车轴盖碰丢了。

(《骆驼》1)

ひどいときは、通行人にぶつかってしまったこともあるし、混雑をむりにすりぬけようとして心棒のカバーをすつとぼしてしまったことさえある。(『ラ』: 16)

(22) “大个子” 三个字把祥子招笑了, 这是一种赞美。(《骆驼》2)

ノッポという三字が祥子の心をくすぐった。それは一種の賛美のことばだった。(『ラ』: 27)

(23) 把孩子们都送走, 杨先生上衙门。(《骆驼》5)

餓鬼どもを学校に送りどければあとは旦那のご出勤だ。(『ラ』: 75)

(24) 送完了客, 帮着张妈把牌桌什么的收拾好, 祥子看了太太一眼。(《骆驼》5)

客を送って帰ると、張媽が麻雀卓やなにかを片づけるのを手つだい、すっかり片づいたところで、彼は奥さんの顔をちらりとうかがった。(『ラ』: 80)

例(21)の動詞“碰”の結果は“丢”で、例(22)の動詞“招”の結果は“笑”で、例(23)の動詞“送”の結果“(送)走”で、例(24)の動詞“收拾”の結果は“好”である。この“把”構文はすべて結果を表し、計110例あり、用いられている動詞の数は75個ある。

#### 4.1.3.3.7 文構造: 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」(④动趋式)

全126例、動詞の種類は67。

——扯、接、说、溜、拉、唤、想、脱、打发、递、放、掏、撤、拿、抢、纳、撵、搬、送、咽、端、调动、低、交、掏、锁、剩、搀和、要、搬运、镇压、咬、遮、推、闯、受、匀、掏、让、圈、吃、埋、扔、踢、叫、过、赶、劝、递、赁、卖、攘、减、赎、押、喊、揭、吞、请、喷、抱、骂、刷、带、点、救拔、剥

(25) 看见他进来, 虎妞把筷子放下了: “祥子! 你让狼叼了去, 还是上非洲挖金矿去了?” (《骆驼》4)

虎妞は、見るなり箸をほうり出した。「まあ祥子、おまえいったいどこでどうしていたの?」(『ラ』: 60)

(26) 一想起来, 他心中就觉得发堵, 不由的想到, 要强又怎样呢, 这个世界并不因为自己要强而公道一些, 凭着什么把他的车白白抢去呢? (《骆驼》5)

そして、それを思い出したら最後、なにもかも投げだしたくなってしまうのだ。がんばったってなにになるんだ。がんばったらがんばっただけのことはあるなんて、この世間はそんな甘いものじゃない。おれの車だってそうだ。あのおりなんのいわれもなくもぎとられてしまったじゃないか。(『ラ』: 68)

(27) 那么, 我们就先说祥子, 随手儿把骆驼与祥子那点关系说过去, 也就算了。(《骆驼》6)

駝》1)

そうであるからは、まず祥子のことからはじめて、祥子と駱駝との関係にふれてゆくのが筋というものだろう。(『ラ』: 5)

(28) 舗主打算挤到个整数, 说了不知多少话, 把他的车拉出去又拉进来, 支开棚子, 又放下, 按按喇叭, 每一个动作都伴着一大串最好的形容词; 最后还在钢轮条上踢了两脚, …。(《駱駝》1)

主人はなんと百円にまでせりあげようと、あれやこれや言った。いちいちに最大級の形容詞をつけて車を出したり入れたり、幌をおこしたりたたんだり、ラッパを鳴らしてみたりしたあげく、最後にスポークをコンコンと蹴った。(『ラ』: 18)

例(25)の動詞“放”の後に単純趨向補語“下”があり、例(26)の動詞“抢”の後に単純趨向補語“去”がある。例(27)、例(28)の動詞“说”、“拉”の後にそれぞれ“过去”、“出去”、“进来”というような複合趨向補語が用いられている。この種類の“把”構文はすべて結果を表し、計126例あるが、用いられている動詞の数は67個しかない。

4.1.3.38 文構造: 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・给・成” + 名詞<sub>3</sub>」(⑤动介式・⑭把作式)

全95例、動詞の数は45。

——算、堆、摔、放、说、欺侮、贴、搭、结、集中、送、拉、卖、当、收、蹬、交、花、揉、抓、看、说、低、作、盖、揣、靠、转、塞、赶、挪、搁、存、改、伸、变、吹、看、扔、照、托付、缝、敬献、砸、喷

(29) 拉去吧, 你就是把车拉碎了, 要是钢条软了一根, 你拿回来, 把它摔在我脸上!  
(《駱駝》1)

ま、この車を使いつぶしたとしてだな、そのときもしこいつが一本でもひんまがっていたら、もってきておれの面にたたきつけてくれたっていい。(『ラ』: 18)

(30) 把一千天堆到一块, 他几乎算不过来这该有多么远。(《駱駝》1)

彼はそうとっさに考えた。千日、それは想像もつかぬほどさきのことだに思えたが。(『ラ』: 15)

(31) 可是, 继而一想, 把三只活活的牲口卖给汤锅去挨刀, 有点缺德; 他和駱駝都是逃出来的, 就都该活着。什么也没说, 他心中平静了下去。(《駱駝》4)

だがまた、あんな元気な駱駝たちをつぶすなんて不人情なまねはできない、いつ所に逃げてきたんじゃないか、おたがい生きなければ、思いなおすと、いつ

かさっぱりした気分になっていた。(『ラ』: 62)

(32) 他把这件无领无钮的单衣斜搭在身上，把两条袖子在胸前结成个结子，象背包袱那样。(《骆驼》3)

それから、この襟もボタンもないひとえの上着を襷がけにひっかけ、風呂敷包みたいに両袖を胸の前で結んだ。(『ラ』: 36)

(33) 他一点没有把祥子当作候补女婿的意思，不过，女儿既是喜爱这个楞小子，他就不便于多事。(《骆驼》5)

祥子を婿がねになどという気はさらさらなかったものの、娘がこの間ぬけな若造を気に入っているかぎり、くちばしを入れるのもどうかを思った。(『ラ』: 73)

例(29)から例(33)の動詞の後に注目すると、(29)は“在”、(30)は“到”、(31)は“给”、(32)は“成”、(33)は“作”が用いられている。この種類の“把”構文はすべて結果を表し、計95例あり、用いられている動詞の数は45個ある。

4.1.3.3.9 特殊な“把”構文：崔显军(2012: 176~180)の分類の中のこのような構造：

「“看”+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(看把式)」と「名詞<sub>1</sub>+“把”+“个”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(把个式)」と「“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他(把NPVP!式)」を含む特殊な“把”構文である。その中の「“看”+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(看把式)」と「“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他(把NPVP!式)」は一例も見つけることができなかつた。しかし、

文構造「名詞<sub>1</sub>+“把”+“个”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(⑬把个式)」

全2例、動詞の数は2。

——交、闹

(34) 把屋子也收拾利落了，二太太把个刚到一周岁的小泥鬼交给了他。(《骆驼》5)

とにかくきれいに片づけてしまうと、満でひとつになったばかりの赤ん坊の守りをせよときた。(『ラ』: 76)

(35) 有时候欣喜，有时候着急，有时候烦闷，有时候为欣喜而又要惭愧，有时候为着急而又要自慰，有时候为烦闷而又要欣喜，感情在他心中绕着圆圈，把个最简单的人闹得不知道了东西南北。(《骆驼》19)

喜んでみたり、慌ててみたり、悩んでみたり、喜びすぎて恥ずかしくなったり、慌てすぎて自分でなぐさめてみたり、悩んだすえに喜んでみたりといった調子で、頭がすっかり混乱してしまい、この単純至極な男がくたくたになって、東西南北までまちがえる仕儀になった。(『ラ』: 309)

例(34)、例(35)の“把”の後・「名詞<sub>2</sub>の前」に“个”がある。本研究において

は、この種類の“把”構文は特殊“把”構文に属し、これらの文はすべて結果を表すことができ、計 2 例あり、用いられている動詞の数は 2 個である。

#### 4.1.4 おわりに

本節では《骆驼祥子》に用いている“把”構文の構造上の分類について考察した。従来の各研究者の分類する“把”構文は構造から分類する多構造分類であったが、“把”構文の核は処置を意味する動詞連語なので、“把”構文の中の動詞を中心とし、3 種類（[表 1]）に分類した。この構造分類から、現代の“把”構文はすでにこの時代に完成しているといえる。

第三類である「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」を、さらに下位分類すると、8 種類に分類できる。このように分類することによって、“把”構文の処置の核となる語義「変化」を表すのは「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一”など + 動詞」（状心式）と「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 数量形式」（動量式 + 名量式）であり、その他は処置の派生である結果を表すことが明らかになった。この分類は中国語教育の“把”構文の語義を理解するのに役立つと考えられる。

## 4.2 “把”構文「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」について

### 4.2.1 はじめに

“把”構文とは、現代中国語における特徴的な構文構造の一つである。すなわち、前置詞“把”と他の単語によって構成される前置詞フレーズを含む動詞述語文である。

“把”構文のプロトタイプの構文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」であり、すでに多くの文法学者が“把”構文について、様々な説を主張している。だが、本研究の第二章においては、具体的に“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」の品詞について、および“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」が「既知」であるか「未知」であるか及び「定」であるか「不定」であるかについて分析してみた。本節と次節において、“把”構文の文構造の一つである「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」の“把”構文における“把”の客体について、どんな特徴を持っているかを分類し、分析してみる。

“把”構文の意味論上の特徴についてまとめると：

早期は「目的語前置説」、「処置式」であったが、その後「処置説」となり、また「広い意味の処置説」に至ったと言える。木村英樹（2012:202）によれば、“把”構文は執行使役文であるという。

“把”構文中の「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」（動体式（4.1.2.5を参照））構造も同様に広い意味の処置文である。「処置文」であれば、「動詞」は処置の意味があると考えられる。しかし、次の例(1)、(2)とも“把”構文であり、“吃”と“开”は同じ「処置」の意味を持つ。だが、例(1)は正しいが、例(2)は正しいかどうか疑

問である。

(1) a. 他吃饭了。

→b. 他把饭吃了。 (西井 2010 : 85)

彼はごはんを食べました。

(2) a. 他开车了。 (西井 2010 : 85)

彼は車を運転しました。

→b. \*他把车开了。 (西井 2010 : 85)

c. 他把车开走了。 (作例)

彼は車を運転して行ってしまいました。 (筆者訳)

客語の“飯”と“車”は前後関係(文脈)から特定可能である。例(1)bの“飯”は特定可能であり、“那碗饭”や“他妈妈做的饭”などと推測でき、“吃”は“吃完”や“吃掉”などと推測できる。例(2)bは文法的には正しい文とみえるが、その中の“車”も特定可能であり、“那辆车”や“新买的车”などと推測できる。だが、一般的に中国人があまりそんなふうには言わない。よって、例(2)aに対応する“把”字構文とは解釈できない。例(2)aに対応する「運転した」という意味ならば、例(2)cのように車が移動したことを示す“走”を補語として後ろに伴わなければならない。この例から「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“了”」(動体式)構造における「動詞」にはすべての動詞が適用できるわけではないことがわかるだろう。

#### 4.2.2 「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“了”」構造の中「名詞<sub>2</sub>」の特徴

本節では、“把”構文の「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“了”」(動体式)構造における“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」の特徴について考察する。

「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“了”」(動体式)構造の“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」について、高橋弥守彦(2006a:275)の「影響力前置ルール」<sup>87)</sup>では、一般に前にある単語ほど、後ろにある単語に対して影響力を持つ。“‘把’+名詞<sub>2</sub>”の“把”も後ろの「名詞<sub>2</sub>」に対して影響力を持つとしている。《現代汉语词典》(第7版:19)には、“把”の基本義として:(動詞)“用手握住”(手で握る)の意味を挙げている。例えば、“把舵。”(舵を持つ。)、 “双手把着冲锋枪。”(アサルトライフルを両手で支える。)など。このことから、“把”が“把”構文の中に使われると、まだその基本義が残っていると考えられる。要するに、“把”は「手で握る」という動作あるいは、そうすること

<sup>87)</sup> 高橋弥守彦(2006a:275)では影響力前置のルールを影響力前置説と言い、影響力前置説に対して、「観点を換えれば一番前にある旧情報が次々にその後の単語を選択していくので、一番前にある単語がその文にとって一番影響力が強いです。一般には前にある単語ほど、後ろにある単語に対して影響力を持っていると言えます。これが影響力前置説です。」と述べている。



による原因によって、「名詞<sub>2</sub>」を処置するのである。

「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」（動体式）構造の“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」は被動作主である。被動作主「名詞<sub>2</sub>」は以下のような特徴を持っている。

#### 4.2.2.1 動作によって、意味上の被動作主がなくなる場合

動作によって、意味上の被動作主（“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」）がなくなる場合の例文を見てみよう。

(3) 把杯子里的酒喝了！（《实用现代汉语语法》2001：736）（略：《实用》2001）

コップの中のお酒を飲んでください。（筆者訳）

(4) 因为工龄不够，一上大学还把工资免了。（《插队》）

勤続年数が足りないから大学に進学すると給料まで止められる。（『大地』）

(5) 他把这个月的工资丢了。（《实用》2001）

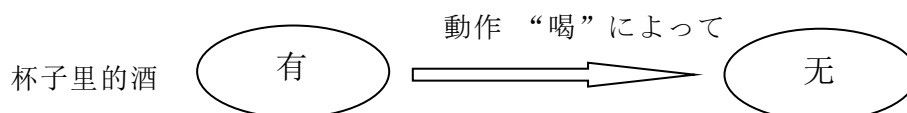
今月の給料をなくしてしまいました。（筆者訳）

(6) 被这件事把兴致全搅了。（《檀香刑》：32）

これでそんな興味は消し飛んでしまい。（『白檀の刑』）

例(3)の“把”の客体である“杯子里的酒”は被動作主であり、この“杯子里的酒”は“杯子里”にある“酒”であり、動作の“喝”によって、“杯子里”から消えてなくなる変化をあらわす（[図7]を参照）。

[図7]



同様に、例(4)の“把”の客体である“工资”は、被動作主であり、この被動作主“工资”が止められるという変化を表す。“工资”は毎月もらっているものだが、もらえなくなると、“工资”は“有” → “无”になる。例(5)の“把”の客体である“这个月的工资”は、同様に被動作主であり、この被動作主は“他”が持っていたが、何かの原因で“他”の手元から離れて、なくなったという意味の表現である。例(6)は“这件事”が原因で、“把”の客体“兴致”が消えるという変化を表す。

#### 4.2.2.2 動作によって、意味上の被動作主が形を変える場合

動作によって、意味上の被動作主は形を変える場合があるので、これらの例文をみてみよう。

- (7) 她又把镜子摔了，用碎玻璃割脖子，被众人发现拽住。 (《插队》)  
 そこで次に鏡を割ってガラスの破片で首を切ろうとしたが、人に見つかって止められた。 (『大地』)
- (8) 他把头发铰了。 (刘：2008)  
 彼は髪を切った。 (筆者訳)
- (9) 你把他剃了喂狗也是他罪有应得。 (《檀香刑》：57)  
 その肉を切り刻んで犬に食わせても当然でございますが。(『白檀の刑』)

例(7)は、被動作主“镜子”が意図的な動作“摔”によって、“镜子”の形が失われて、こなごなになるという意味の表現である。例(8)は、被動作主“头发”が“铰”という動作によって、短くされたり、スタイルが変えられたりするという表現である。例(9)は、被動作主の“他”が動作の“剃”によって、完全な人の形から切り刻まれて、バラバラの肉になるという意味の表現である。

#### 4.2.2.3 動作によって、被動作主に変化を生じさせ、新しい結果をもたらす場合

動作によって、被動作主に変化を生じさせ、新しい結果をもたらす場合の例文をみてもみよう。

- (10) 去给明娃把病治了，县上不行上延安。 (《插队》)  
 明娃の病気の治療に行くことだ。県の町でだめなら延安へ。(『大地』)
- (11) 油，自己出，把麻籽儿炒了，再放大锅里熬。 (《插队》)  
 油は自分で搾る。麻の実を炒ってから大鍋に入れて煮詰める。(『大地』)

例(10)の“把”の客体である“病”は“明娃”の“病”であり、“治”によって、その病状が良くなるという変化を表し、例(11)は被動作主である“麻籽儿”は動作である“炒”によって、“生”から“熟”になるという変化を表す。

#### 4.2.2.4 原因によって、被動作主に悪い影響が生じる場合

以下では、何らかの原因によって、被動作主に悪い影響が生じる場合の例文をみてもみよう。

- (12) 后走的人劝他不要贪图着工分倒把身体垮了。 (《插队》)  
 労働点数をほしいばかりに体をこわすなとうしろから来た人が忠告する。  
 (『大地』)
- (13) 小棺材也打下了他又没死，单是把一双眼睛瞎了。 (《插队》)  
 小さな棺桶まで用意してあったのだが結局助かり、そのかわり失明したとか。  
 (『大地』)

例(12)は、“贪图着工分”という原因のために、非意図的に“身体”をこわすという悪い結果がもたらされたことを表す。例(13)は、何かの原因で“一双眼睛”が見えなくなるという悪い影響をあらわす。

「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」（動体式）構造における“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」についての分類結果をまとめてみると、次の[表7]のように整理できる。

[表7] 「名詞<sub>2</sub>」の分類結果

	“把”の客語	動作	“把”の客語の変化	
(3)	杯子里的酒	喝	有→無	被動作主がなくなる
(4)	工资	免	貰える→貰えない	
(5)	这个月的工资	丢	有→無	
(6)	兴致	搅	有→無	
(7)	镜子	摔	镜子→ガラスの破片	被動作主の形が変わる
(8)	头发	较	头发の長さ：长→短	
(9)	他	剁	人→肉块	
(10)	病	治	病気→良くなる	変化を生じさせる
(11)	麻籽儿	炒	生→熟	
(12)	身体	動作不明	健康→不健康（垮）	悪い影響
(13)	一双眼睛	動作不明	正常→不正常（瞎）	

[表7]が示しているように、例(3)から(6)は、いずれも「変化のくみあわせ」の動作「動詞」によって、物理的に「変化のくみあわせ」の被動作主（「名詞<sub>2</sub>」）がなくなること、例(7)から(9)は、いずれも「変化のくみあわせ」の動作によって、物理的に「変化のくみあわせ」の被動作主（「名詞<sub>2</sub>」）の形が変わること、例(10)と(11)はその原因によって、「変化のくみあわせ」の「名詞<sub>2</sub>」を変化させること、例(12)と(13)は「変化のくみあわせ」動作によって、「変化のくみあわせ」被動作主「名詞<sub>2</sub>」に悪い影響を引き起こされることがわかる。

#### 4.2.3 「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」構造の中「動詞」の特徴

##### 4.2.3.1 単音節動詞

「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」（動体式）構造の中で使える動詞について考察する。太田英次（2003:75～96）によれば、次のような動詞は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」（動体式）構造に用いることはできない。

“走”、“学”のような動詞が表すのは主体の行為であり、目的語に対して働きかける動作ではない。従って、他動詞構文においては目的語をとるものの、その動作が完結したときにも、目的語のあらわすものに関して状態変化が想定されない。このような動詞は、“‘把’＋名詞＋動詞＋了”（動体式）の中では受け入れられない。また、運動性を持たない“有（有る）”、“知道（知る）”、“像（似ている）”などのような状態動詞や“爱（愛する）、恨（恨む）”のような心理的状态をあらわす心理動詞、“听（聞く）”、“看（見る）”のような視覚的状态をあらわす知覚動詞は、他動詞構文において目的語をとるものの、主体と対象の関係、あるいは主体の心理的状态をあらわす動詞であり、対象に対して何ら働きかけることない動詞であり、状態変化も引き起こさない。

上掲の例(3)～(11)から推測できることは、“把”構造で使える動詞というのは、「処置」の意を持っている動詞、または結果をもたらす動詞ということではないだろうか。

“‘把’＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋‘了’”構造における「動詞」についての分類結果をまとめてみると、後に掲載す[表8]のように整理できる。

しかし、「処置」の意を持っている動詞であれば、すべてが“把”構文に使えるというわけではない。次の例(14)のように、“脱”と“穿”は同じ“処置”の意を持っている動詞であるが、aは成立するが、bは非文である。“脱”という動作は、体に着ているものがそこから離れて、“有→无”という結果になることを表す。だが、“穿”という動作だけではうまく着られたかどうかの結果は、はっきりわからない。“穿在身上”，“穿到一半”，“穿破了”などの補語を添えて初めて結果が分かるのである。

- (14) a. 把小背心脱了。                      b. \*把小背心穿了。                      (本間 2004:69)  
          ベストを脱いだ。                      ベストを着た。                      (筆者訳)

同様に、“扔”と“捡”、“说”と“听”、“卖”と“买”（名詞は特定なものの場合成立可能）でも同様の現象が観察される。例(15)の“扔”と“捡”、例(16)の“说”と“听”、例(17)“卖”と“买”のすべてに「処置」の意味があるが、例(15) aは成立するが、例(15) bは非文である。例(16) aは成立するが、例(16) bは非文である。例(17) bは前後の文脈が無いと、読者が“买”の対象（“书”）についての情報を知らない。それゆえに、この“把”構文は成立しない。よって、例(17) bは非文となる。一方、例(17) cは同じ動詞“买”を使っているが成立する。それは、例(17) cの“书”は“买”の動作前には存在していないが、文脈上の情報を得ることで、読者はあるべき対象である“书”のイメージが思い浮かべることができる。“买”という動作によってその“书”を再び出現させたという一種の「結果」を生んだと、読者が解釈



(18) 我把预约取消了。 (作例)

私は予約をキャンセルした。 (筆者訳)

劉一之(2008)は、「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」(動体式)に使える“動詞”として以下のものを挙げている:

降低、消灭、取消、颠倒、逮捕、开除、克服、扣留、扭转、切除、养活、抹煞、镇压、摆脱、暴露、包围、充满、铲除、出版、打倒、打破、得到、断绝、发表、放弃、粉碎、加强、夸大、浪费、没收、排除、缩小、淘汰、推翻、忘记、消除、消弱、延长、引诱、展开、泄露、阻止。

もう一度例(2)を見てみよう。

例(2)' b\*他把车开了。この文は「彼は車を運転した」とは解釈できない。

「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」(動体式)の動詞は単音節動詞であろうが、二音節動詞であろうが、それぞれの特徴を持っている。しかし、例(2)'の文章をb「彼は車を運転した」と解釈しようとしても、被動作主“車”は動作の“开”によって何も変化をもたらされない。ただ動詞の“开”を使うだけでは結果を表すことはできないので、非文になってしまう。

#### 4.2.4 おわりに

4.2.2 節と 4.2.3 節では“把”構文の文構造の一つである「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」(動体式)の“把”構文における“把”の客体「名詞<sub>2</sub>」及び「動詞」の特徴について考察した。その結果として、以下のようにまとめられる。

I. “把”の客体である「名詞<sub>2</sub>」は述語動詞の動作、あるいはその動作がもたらす原因あるいはそのほかの原因によって、以下の変化が発生する。

- i. 動作によって、意味上の被動作主がなくなる。
- ii. 動作によって、意味上の被動作主は形を変える。
- iii. 動作によって、被動作主に変化を生じさせ、新しい結果をもたらす。
- iv. 原因によって、被動作主に悪い影響が生じる。

II. 動詞に対する制限も多く、動詞は「処置」の意味を持っている。しかも動詞は“把”の客体に上掲のような変化をもたらす。この点に対しては、中国語を学ぶ外国人が間違いやすいので、正しく学ぶために本章の考察が少しでも役に立つことが期待

される。

### 4.3 “把”構文の可能表現について

#### 4.3.1 はじめに

現代中国語の可能表現では、「助動詞による可能」と「補語による可能<sup>88)</sup>」に大きく二分され、助動詞は数多く存在し、例えば“能、能够、会、可以、可能”等がある。本節では、可能を表す助動詞の代表とされている“能”のみについて考察する。ちなみに、“把”構文における可能表現は、「助動詞による可能」でしか表せない。

(19) 四元儿却吓得脸发白，实指望五元儿能把血捂回去。《插队》

四元児は驚いてまっ青になり、五元児がなんとか血を止められることをひたすら願うばかりだ。(筆者訳)

(19)’ \* 四元儿却吓得脸发白，实指望五元儿把血捂得回去。(作例)

(20) 保卫科长居然能把魏石头过去没心没肺骂出来的话，举出一大堆，说得魏石头脑门子冒凉气。《丹》

保衛課長は、前に、魏石頭がそれほど深い気持もなく吐いた言葉をつぎつぎと並べたてることができ、彼をひやっとさせた。(筆者訳)

(20)’ \* 保卫科长居然把魏石头过去没心没肺骂出来的话，举得出一大堆，说得魏石头脑门子冒凉气。(作例)

例(19)は助動詞“能”による可能を表す“把”構文であり、この“把”構文は例(19)’のような可能補語による可能を表すことができない。同様に、例(20)も助動詞による可能表現で作ることができるが、可能補語による表現で作ることはできない。それは“能”による可能表現の特徴と“把”構文の条件が一致するからである。同時に補語による可能表現の特徴と“把”構文の条件が一致しないからである。この点について、連語論の観点から分析を試みる。

#### 4.3.2 可能表現についての先行研究

4.3.2.1 杉村博文(1979:16~37)「能学好・学得好・能学得好」『日本語と中国語の対照研究』第4号

杉村博文(1979)は「V得/不C」が意味的にも機能的にも形容詞に接近しており、このことが“把”構文の述語として「V得/不C」が使えないことの原因であると主張

<sup>88)</sup> 刘月华(1980:246~257)によれば、可能補語を以下の3類に分類している。A類：“得/不+结果补语/趋向补语”例：我到他门口看看，门关了，什么也看不见。B類：“得/不+了(liǎo)”例：这个西瓜太大，咱们俩吃不了。C類：“得/不得”例：这个人你可小看不得。

している。

4.3.2.2 小野秀樹 (1990 : 93~100) 「中国語の可能表現—「他動性」を通じての「能 VR」及び「V 得 R」の考察— 『中国語学』第 237 号

(1991 : 11~19) 「中国語における可能表現の“否定” — “他動性”を通じての「不能 VR」及び「V 不 R」の考察— 『中国語学』第 238 号

小野 (1990) によれば、VR の「他動性<sup>89)</sup>」が強いときは、「能 VR」が使われ、弱いときは、一般に「V 得 R」が使われる。

(21) 这种新发明的杀虫剂，能杀死 (\*杀得死) 很多种害虫。(小野 1990 : 95)

この新しく発明された殺虫剤は、たくさんの種類の害虫を殺すことができる。

(同上)

(22) 黎明之前，满院子还是昏黑的，只隐约的看得见各家门窗的影子。(小野 1990 : 96)

夜明け前、庭はまだ真っ暗で、ただぼんやりと家々のドアや窓の影が見える。

(同上)

小野氏によれば、例 (21) の“杀死”は意図性や、対象が受ける影響 (とそれに伴う変化) から考えて、非常に他動性の高い文と見做すことができる。また、例 (22) の“看得见”は他動性のかなり低い VR であると主張する。

4.3.2.3 李锦姬 (1996 : 132~138) <两种可能式的语用分析> 《南京师大学报》第 3 期

李锦姬 (1996<sup>90)</sup>) によれば、一つの文の語用的基本構造は“主題—述題”であり、可能補語の可能式 (S + V 得/不 C) “主題” S に対して、“述題”は必ず二つであるが、助動詞による可能式という構造は、“主題” S に対して、“能/不能 V C”の一つだけの“述題”を持つことができると主張する。

4.3.2.4 張威 (1998) 『結果可能表現の研究』

<sup>89)</sup> 小野秀樹 (1990) によれば、「VR」の「他動性」は以下の点により判断するものとした。  
(イ) 動作行為が対象 (ウケテ) そのものに変化を与えるかどうか。(ロ) 対象が変化するとして、それはどのような変化か。(ハ) その動作行為が、故意的なものか非故意的なものか。

① 这种新发明的杀虫剂，能杀死 (\*杀得死) 很多种害虫。(小野 1990 : 95)

この新しく発明された殺虫剤は、たくさんの種類の害虫を殺すことができる。(同上)

② 黎明之前，满院子还是昏黑的，只隐约的看得见各家门窗的影子。(小野 1990 : 96)

夜明け前、庭はまだ真っ暗で、ただぼんやりと家々のドアや窓の影が見える。(同上)

小野氏によれば、例①の“杀死”は意図性や、対象が受ける影響 (とそれに伴う変化) から考えて、非常に他動性の高い文と見做すことができる。また、例②の“看得见”は他動性のかなり低い VR であると主張している。

<sup>90)</sup> 李锦姬 (1996) によれば、“可能补语句的 S 是主题，“V 得/不 C”是述题，这述题可分成两个小述题，一个是“V”，一个是“得/不 C”。(中略)在用能愿动词来构成的可能句式里，S 是主题，“能/不能 VC 是述题，这述题不能分成两个小述题。”と主張している。



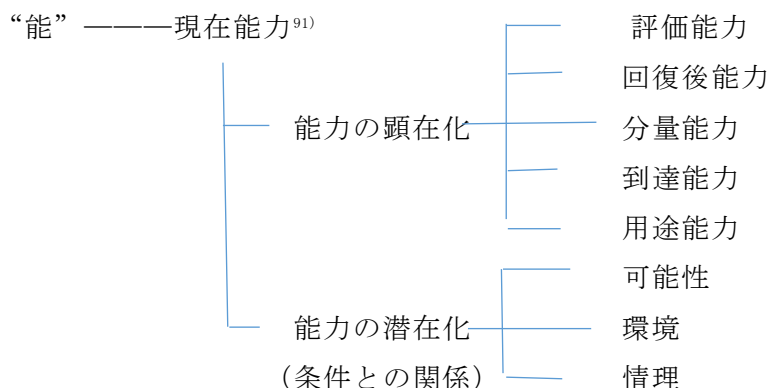
張威（1998）は日中対照研究の立場から、日本語の有対自動詞表現を中国語の可能補語に相当すると位置付け、結果可能表現という分類を立てる。同氏は結果可能表現を以下のように定義づけた。「結果可能表現とは、動作主がある出来事またはある種の状態変化を実現しようとして動作を行う場合、動作が行われた後、主体的または客体的条件によって、動作主の意図が思い通りに実現することができるかできないかを表す表現である。」また、中国語の可能補語が表す意味：①「V得C」はVを実現しようとするれば、またはVが実現すれば、Cの実現も可能である。②「V不C」はたとえVが実現しようとしても、またはVが実現するにしても、Cの実現は不可能であると主張する。

#### 4.3.2.5 高橋弥守彦（2008：133－169）「可能表現に用いる能願動詞“能”」

『日本語と中国語の可能表現』

高橋（2008）によれば、出来事に対する主体の「現在の能力」を表すのが“能”のプロトタイプの意味であり、出来事と条件（言語環境）との関係により、バリエーション的にいくつかの用法が派生する。その体系は以下のように図式化できる。

[表1] 能力を表す能願動詞“能”



#### 4.3.2.6 安本真弓（2009）『現代中国語における可能表現の意味分析－可能補語を中心に』

安本真弓（2009）によれば、助動詞“能”と可能補語の構文意味は以下のように定義できる。

<sup>91)</sup> 高橋弥守彦（2008：138～150）によれば、現在能力：他汉语说得很好，他能翻译这本小说。彼は中国語がよくできるので、この小説を翻訳できる。評価能力：我们三个人里，数他最能写。私たち三人の中で、彼は一番筆が立つ。回復後能力：他病好了，能上课了。彼は病気が良くなったので、授業ができるようになった。分量能力：你能游八百米吗？八百メートル泳げますか？到達能力：这些汉字他都能写对了。これらの漢字を彼は全部正しく書けるようになった。用途能力：橘子皮还能做药。ミカンの皮から薬を作ることもできる。可能性：这件事他能不知道吗？この件を彼が知らないことがあろうか。環境：那儿能游泳吗？あそこは泳げますか？情理：我们能看着他们有困难不帮助吗？彼らが困っているのを見て手助けせずにいてよいだろうか。

“能V”：話し手が一定の状況下で、ある動作の実現が可能であることに対する判断を行う。

“能VC/D”：話し手が一定の状況下で、ある動作の実現が可能であることに対する判断を行う（C/Dは結果を表す）。

“能V得C/D”：話し手が一定の状況下で、ある動作の実現が可能なら、一定の状況下で、ある結果の出現が可能であることに対する判断を行う。

“V得C/D”：話し手がある動作を実現後、一定の状況下で、ある結果の出現が可能であることに対する判断を行う。

“把”構文における可能表現になぜ“能”しか使えないかについては、刘月华(1980:253)は“V得/不C”不能用在“把”字句”と指摘しているが、その理由については言及していない。小野(1990:99)は「すべて他動性によって、説明が可能だと思われる」と主張する。また李锦姬(1996:132~138)は可能補語を“把”構文では用いることができない理由は“把”構文は処置義であるからであると主張している。以下、本節では、これまでの研究成果に基づき、“把”構文の可能表現について、連語論の観点から考察・分析を行う。

#### 4.3.3 「助動詞“能”による可能」と「補語による可能」の異同について

##### 4.3.3.1 「助動詞“能”による可能」についての可能表現

“能”は《现代汉语词典（第7版）》(2016:946)によれば、“能力，才干”を表すとあり、助動詞として、“表示具备某种能力或达到某种效率”を表すとある。また、《现代汉语八百词（增订本）》(2010:414~416)（略称：《八百词》）では、助動詞“能”の用法を並列的に6類<sup>92)</sup>に分けている。高橋弥守彦(2008)はこれらの用法に基づき、出来事に対する主体の「現在の能力」を表すのが“能”のプロトタイプの意味であり、出来事と条件（言語環境）との関係により、バリエーション的にいくつかの用法が派生するとした。従って、

(23) 大概的说吧，他只要有一百块钱，就能弄一辆车。《《骆驼》：7)

とにかく、百円ありさえすれば車をもてるのだ。《『らくだ』：15)

(24) 人与车都有相当的漂亮，所以在要价儿的时候也还能保持住相当的尊严。《《骆

<sup>92)</sup> 《现代汉语八百词》(2010:414~416)によれば、能願動詞“能”は以下の6類用法がある。  
①表示有能力或有条件做某事。例：因为缺教员，暂时还不能开课。  
②表示善于做某事，前面可以加“很”。例：我们三个人里，数他最能写。  
③表示有某种用途。例：芹菜叶子也能吃。  
④表示有可能。例：满天星星，哪能下雨？  
⑤表示情理上的许可。例：不能只考虑个人，要多想集体。  
⑥表示环境上的许可。例：你能不能快点儿？

駝》：2)

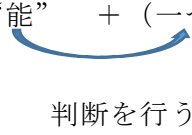
人も車もまあまあといったところなので、値の駆引きにもだいぶはったりをきかすことができる。(『らくだ』：5)

例(23)の出来事は“弄一輛車”であり、この“能”はこの一つの出来事“弄一輛車”ができるかどうかの判断の結果を示す。同時に、彼には“弄一輛車”という能力が備わっていることも示す。同様に、例(24)の“保持住相当的尊严”も一つの出来事であり、“相当的尊严”を“保持住”ができるという能力も表している。

よって、「助動詞“能”による可能」の構文意味とは話し手がある出来事の実現が可能であるか否かに対する判断を行うという表現であると考えられよう。「助動詞“能”による可能」は以下のような[図1]で表すことができる。

[図1]助動詞による可能の構造：“能” + (一つの) 出来事

構文意味：“能” + (一つの) 出来事



判断を行う

#### 4.3.3.2 「補語による可能」についての可能表現

「補語による可能」に属する可能表現とは“得”と“不”を用いる「V得R」と「V不R」である。

張威(1998: 50)によれば、中国語の可能補語(V得/不C)の意味的特徴：①Cの実現が特に取り上げられて、それが可能であるか不可能であるかというところに表現の焦点が絞られている。②動作の結果が強調され、それが表現の中心である。

(25) 拉到了地点，祥子的衣裤都拧得出汗来，哗哗的，象刚从水盆里捞出来的。

(《骆驼》：11)

目的地まで行きついたとき、祥子の身につけたものは汗でぐしょ濡れになっていた。たらいからあげたばかりの洗濯物のようだった。(『らくだ』：22)

(26) 捏捏厚厚的铺盖，“咳呀—！”摸摸照得出人影的箱子：“咳呀—！”《插队》

厚い布団をつまんでは「おお」、人の姿を写せる箱を撫てては「おお」。

『大地』

例(25)の可能補語は“(拧)得出汗来”であり、動詞“拧”によって、対象“汗”

は“祥子の衣褲”から“出来”することができるという結果に焦点を当てている表現である。この“拧得出汗来”は“祥子”ができるかどうかということについて、つまり“祥子”の能力については言及していない。“衣褲”の状況を客観的に見て、“出汗”という結果になることを表している。その出来事は“拧”と“(拧) 出汗来”の二つがある。同様に、例(26)の可能補語は“(照) 得出”であり、動詞“照”によって、“照出人影”という結果に焦点を当てている表現である。この“箱子”の状況は客観的に見て、“照出人影”という結果になることを表している。その出来事は“照”と“出人影”の二つである。誰かの能力がそれらの出来事に影響を与えているかどうかについては、言及してなく、この“箱子”の状況を言っている。例(25)、(26)から見ると、可能補語とは、ある動作をした後、ある結果の出現が可能であることに対する判断を行うというような表現であり、その結果になれるかどうかの状態を表す。この二つの文は動作主の能力について言っているのではなく、その言及されているモノ(濡れた服や箱)が汗をしばり出すとか人の姿を写し出すといった結果を導き出せる条件を備えていることを表している。

要するに、可能補語は以下のような[図2]で表すことができる。

[図2] 可能補語による可能表現の構文的意味

$$V \text{ 得 (不) R} = \boxed{V} + \boxed{\text{得 (不) R}} = \boxed{V} \longrightarrow \boxed{\text{得 (不) R}}$$

(一つの出来事) (一つの出来事)

この結論は基本的に安本真弓(2009)の“V得C/D”の構文意味と一致している。しかしながら、同氏は出来事の客観性については、判断しにくいと考え、「一定の状況下」と主張する。

以上のことから、「助動詞“能”による可能」と「補語による可能」の異同は以下の[表2]で表すことができる。

[表2] 「助動詞“能”による可能」と「補語による可能」の異同

	「助動詞“能”による可能」	「補語による可能」
文法的な意味	話し手がある出来事の実現が可能であるか否かに対する判断を行う。	ある動作をした後、ある結果の出現が可能であることに対する判断を行う。
語用的な意味	主体の能力を表す(多く主観的に)	状態を表す(多く客観的に)
出来事	一つである	二つである

#### 4.3.4 “把”構文の可能表現

“把”構文の構文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」である。“把”構文の核「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」は「変化のくみあわせ」（第一章の 1.4 を参照）であり、その「変化のくみあわせ」はひとまとまり性のある連語であるため、一つの出来事として扱うことができる。

(27) 四元儿却吓得脸发白，实指望五元儿能把血捂回去。《插队》

四元児は驚いてまっ青になり、五元児がなんとか血を止めてくれればいいとひたすら願うばかりだ。（『大地』）

(28) 她只须伸出个小指，就能把他支使的头晕眼花，不认识了东西南北。（《骆驼》：10）

あの女は、小指一本でおれをてんでこ舞いさせることができる。

（『らくだ』：149）

例（27）の“把血捂回去”は「変化のくみあわせ」であり、例（28）の“把他支使的头晕眼花”も「変化のくみあわせ」である。二つの文とも“把”構文の基本義であり、動作によって、“把”の客体を処置するという表現である。薛凤生<sup>93</sup>（1997：4～22）は“把”構文（A把B + VP）の中のVPは動詞を中心としているのではなくて、動詞の後ろの補語が本当の動詞であると主張する。この説に従えば、“把血捂回去”は“捂”の動作により、“回去”という結果に焦点を当てており、“把血捂回去”は一つの出来事として扱うことができるだろう。また同時に、“五元儿”が“把血捂回去”の能力を持っているという表現である。同様に、例（28）の“把他支使的头晕眼花”も一つの出来事であろう。よって、それらの前には助動詞“能”を用いて、可能の意味を表している。

(29) 他自己反倒变成了有威严与力气的，似乎能把她当作个猫似的，拿到手中。

（《骆驼》：6）

それどころか、自分のほうが威厳と力をそなえた存在となり、彼女など猫でもつかまえるように、手中にできる気がした。（『らくだ』：89）

例（29）の“把她当作个猫似的”は「変化のくみあわせ」であり、これは“把”の

<sup>93</sup> 薛凤生（1997：9～10）によれば、“把”構文の動補構造について、以下のように述べている  
“既然所谓补语才是真正的动词，而所谓动词只不过是表示手段或途径的动作状语而已。”。また、“老李把老张骂得抬不起头来。”のような“把”構文については、“得字之前的动词不可能是VP的核心，它的核心只能是后面的描述语”と主張している。

客体である“她”の位置を変化させたり、状態を変化させたりしていない。主体の考え方のみが変化している。これは“把”構文の派生用法の一つであり、小野（1990：93～100）が主張している「他動性」と異なる。“把她当作个猫似的”は（一つの）出来事として扱われて、主体である“他”が彼女のことを“当作个猫似的”のようにみなしているのである。よって、その前に助動詞“能”を用いて、可能の意味を表している。

(30) 一句话能把小姑娘噎出眼泪……这还不算什么。《丹》

その小娘にベソをかかせる……これなどまだいい方だ。『眼』

(31) 墙倒众人推。一人一口唾沫，能把人淹死。你信不信？《盖》

塀が倒れるのはたくさんの人が押すからだ。一人が一口の唾を吐いても人を溺れさせることができるというが、ほんとにそうなんだね。『棺』

例(30)の主体である“一句话”はコトであり、“把小姑娘噎出眼泪”は「変化のくみあわせ」である。“一句话”は“把”の客体である“小姑娘”を処置することができないため、これは“把”構文の派生用法の一つの使役表現である。小路口ゆみ（2016）によれば、この使役表現は「作用使役」（7.3を参照）と命名される。この“一句话”は意思をもっていないが、メタファー（隠喩）とメトニミー（換喩）（7.3を参照）の用法により、“一句话”が“小姑娘”に“噎”というような作用をして、“小姑娘”が“出眼泪”というような結果に至った。この“把小姑娘噎出眼泪”は一つの出来事として扱われている。「変化のくみあわせ」である“把小姑娘噎出眼泪”の可能表現は、この「変化のくみあわせ」の前に助動詞“能”を用いることによって表されている。同様に、例(31)も「変化のくみあわせ」である“把人淹死”の可能表現は、この前に助動詞“能”を用いて表されている。

「変化のくみあわせ」である「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」は一つの出来事として扱われており、その焦点は“その他”であり、動詞は一つ的手段に過ぎない。よって、その可能表現は「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」の前に助動詞“能”を用いる。また、基本用法の“把”構文は話者が意思をもって、「動詞」により、結果に焦点を当てているという表現である。“把”構文の使役表現用法は主体である「コト・モノ」がメタファー（隠喩）とメトニミー（換喩）の働きにより、“把”の客体に作用し、「その他」の結果に至るといふ表現である。しかし、“把”構文の派生用法である“他把钱包丢了。”と“我把那件事忘了。”というような“把”構文は、その中の動詞“丢”と“忘”は処置義を持たない。これらの“把”構文の可能表現を表す文は一例も見つからなかった。従って、「変化のくみあわせ」の特徴は以下の[表3]のように表すことができる。

[表 3] 「変化のくみあわせ」の特徴

「変化のくみあわせ」	出来事	文法的な意味
特徴	一つの出来事	主観的な処置 <sup>94)</sup>

#### 4.3.5 おわりに

中国語の可能表現は「助動詞による可能」と「可能補語による可能」に分けられ、「助動詞“能”」による可能表現は(一つの)出来事と条件との関係であり、しかも動作主の能力に関わっている可能表現である。「可能補語」による可能表現は動作を実現して、その結果になれるかどうかの判断を行う表現であり、状態を表す。中国語の“把”構文の中では、「変化のくみあわせ」である「“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他」はひとまとり性があるため、一つの出来事として扱われている。この「変化のくみあわせ」の特徴は「助動詞“能”による」可能表現の制限する内容と一致する。よって、“把”構文の可能表現は「助動詞“能”による」可能表現でしか表すことができず、しかも“能”は「変化のくみあわせ」の前にしか置くことができないのである。

#### 4.4 “把”構文における可能表現の否定について

##### 4.4.1 はじめに

前節においては、“把”構文の可能表現について述べたが、本節において、可能表現の否定について論じる。この可能表現の否定も「助動詞による可能」の否定(“不能V”)と「可能補語による可能」の否定(“V不C/D”)に二分されている。

- (32) 我能吃完(这碗饭)。(作例)  
 (このご飯を) 食べ終わることができる。(筆者訳)
- (33) 我吃得完(这碗饭)。(作例)  
 (このご飯を) 食べ終わることができる。(筆者訳)

例(32)と例(33)の否定文は、

- (34) 我不能吃完(这碗饭)。(作例)  
 (このご飯を) 食べ終わることができない。(筆者訳)
- (35) 我吃不完(这碗饭)。(作例)  
 (このご飯を) 食べ終わることができない。(筆者訳)

<sup>94)</sup> 沈家煊(2009: 132~157)によれば、“主观处置:说话人认定甲(不一定是施事)对乙(不一定是受事)作某种处置(不一定是有意志的和实在的)。(中略)语言的“主观性”主要表现在三个方面:说话人的情感,说话人的视角,说话人的认识。”と主張している。

しかし、例(32)と例(33)の否定文は、例(35)を多く用いる傾向が多く、例(34)は極めて少ない(刘月华 1980: 246~257)。

しかしながら、“把”構文では、

(36) 我能把这碗饭吃完。(作例)

このご飯を食べ終わることができる。(筆者訳)

(37) 我不能把这碗饭吃完。(作例)

このご飯を食べ終わることができない。(筆者訳)

(38) \*我把这碗饭吃不完。

例(36)の否定文は例(38)ではなく、例(37)しかない。“把”構文では可能表現の否定は「助動詞による」表現しか許容されない。その理由について、連語論の観点から考察・分析する。

#### 4.4.2 可能表現の否定についての先行研究

##### 4.4.2.1 杉村博文(1979: 16~37)「能学好・学得好・能学得好」『日本語と中国語の対照研究』第4号

杉村博文(1979)は「V得/不C」が意味的にも機能的にも形容詞に接近しているため、“把”構文の述語として「V得/不C」が使えないのがこれが原因であると主張する。

##### 4.4.2.2 刘月华(1980: 246~257) <可能补语用法研究> 《中国语文》第4期

刘月华(1980)は、《曹禺剧作选》、《骆驼祥子》、《老舍剧作选》など六つの作品を調査し、可能表現について以下の[表1]のような結論を示している。

[表1]

	甲: 有能力、有条件、有可能	乙: 准许、许可
肯定	能 VC/可以 VC      V 得 C	可以 VC
疑问	V 得/不 C/ 能/不能 VC	能 VC/可以 VC
否定	V 不 C      不能 VC	不能 VC

甲の意味の肯定は、“能 VC”あるいは“可以 VC”が多く使われ、“V 得 C”の用例は非常に少ない。甲の意味の否定では、“V 不 C”が多く使われ、“不能 VC”は極めて少ない。また、乙の意味の肯定では“可以 VC”が多く使われ、否定では“不能 VC”が一般的に使われていると結論づけた。

刘月华(1980)は“有能力、有条件、有可能”を表すときに、肯定文には“能 VC/可以 VC”がよく使われ、否定文には“V 不 C”がよく使われていると指摘するに留まり、“把”構文との関連性については言及していない。



4.4.2.3 小野秀樹（1990：93～100）「中国語の可能表現—「他動性」を通しての「能VR」及び「V得R」の考察— 『中国語学』第237号

（1991：11～19）「中国語における可能表現の“否定”—“他動性”を通しての「不能VR」及び「V不R」の考察— 『中国語学』第238号

小野（1990）によれば、VRの「他動性」（4.3.2.2を参照）が強いときには、「能VR」が使われ、弱いときには、「V得R」が使われる。

また、同氏（1991：15）は、否定文において、VRの「他動性」の高低に関係なく、「V不R」を用いることが出来るとしている。その理由は、「否定」という概念の有する意味によって二つの否定形式が中和されているからであると考えている。例えば、

(39) 下着雨 → \*没下着雨  
(40) 下了雨 → \*没下了雨

} 没下雨

よって、「VR」の動作行為が実現することが「不可能」であることを表す場合、その表現形式は「V不R」に中和されるのである。

また、「不能VR」の使用頻度が低い原因のひとつとして、それが表す意味が「禁止」に傾くことが挙げられていると主張している。

小野（1991：11～19）は、「助動詞による可能」と「可能補語による可能」の否定は中和され、「可能補語による可能」の否定でしか表すことができないと主張している。だが、「把」構文がなぜそうではないのかについては言及していない。

4.4.2.4 李锦姬（1996：132～138）<两种可能式的语用分析>《南京师大学报》第3期

李锦姬（1996）<sup>95)</sup>によれば、語用論的言い換えの関係において、“V得C”は“能VC”に変換できる。しかし、“V不C”が“不能VC”に変換できる条件は、ある種の主観的、客観的な条件が、Vを実現させることに適合しないし、Vの実現か否かに関係なく、結果が同じであるという場合においてのみである。“V不C”の文の中においては、動作行為者には動作行為の意思があるが、ある種の主観的、客観的な条件下において動作行為の結果に至らない。助動詞否定形式“不能”は動作“V”の不可能を表し、

<sup>95)</sup> 李锦姬（1996：132～138）によれば、“在语用意义的互换关系上，“V得C”可以变换成“能VC”，“V不C”只在某种主观、客观条件对实现V不合适，与V的实现与否无关，结果都一样的情况下，才可以变换作“不能VC”。在“V不C”句式里，动作发出者有动作行为的意志，但在某种主观、客观条件上不能达到动作行为的结果。能愿动词否定形式“不能”对动作“V”本身表示不可能。“V不C”不是不能实现“V”，而是能实现“V”，但结果不能出现，用能愿动词来表示这样的情况就发生矛盾，所以这种情况下，“V不C”不能变换作“不能VC”（银花想不出办法来。\*银花不能想出办法来。）と主張している。

“V 不 C”は“V”を実現させることができないのではなく、“V”の実現は可能であるが、その結果は現れない。この場合、“V 不 C”は“不能 VC”に変換できない。

李錦姫（1996）<sup>96)</sup>は、“V 不 C”が“不能 VC”に変換できるかどうかについて研究しているが、“把”構文における動詞は処置の意味があるから、「可能補語による可能」で表現できないと述べる。

#### 4.4.2.5 張威（1998）『結果可能表現の研究』

張威（1998）は日中対照研究の立場から、日本語の有対自動詞表現を中国語の可能補語に相当すると位置付け、結果可能表現という分類を立てた。また、同氏（1998：51）は、中国語の可能補語が表す意味：①「V 得 C」はVを実現しようとするれば、またはVが実現すれば、Cの実現も可能である。②「V 不 C」はたとえVが実現しようとしても、またはVが実現するにしても、Cの実現は不可能であるという意味を主張している。

張威（1998）は“把”構文について触れていない。

#### 4.4.2.6 高橋弥守彦（2008）「可能表現に用いる能願動詞“能”」 『日本語と中国語の可能表現』（4.3.2.5を参照）

#### 4.4.2.7 安本真弓（2009）『現代中国語における可能表現の意味分析－可能補語を中心に』

安本真弓（2009）によれば、“不能 V”と“V 不 C/D”の構文的意味について、以下のように定義づけられる。

“不能 V”：話し手が一定の状況下で、ある動作の実現が不可能であることに対する判断を行う。

“V 不 C/D”：話し手がある動作を実現後、一定の状況下で、ある結果の出現が不可能であることに対する判断を行う。

各文法学者は可能表現の否定について、それぞれの角度から分析し、可能表現を「助動詞による」表現と「可能補語による」表現に分けている。その否定については、「可能補語による」での表現は非常に多いが、“把”構文の可能表現の否定については、まだ論究されていない。では、なぜ「可能補語による」“把”構文の可能表現の否定を表現することがないのかについて、筆者が実例に基づき、連語論の観点から、考察・分析を試みる。

### 4.4.3 “把”構文の可能表現の否定

<sup>96)</sup> 李錦姫（1996：132～138）によれば、“可能补语不用于‘把’字句，（中略），‘把’字句中的V必须具有处置性，但“V 得/不 C”没有处置作用。”と述べている。

#### 4.4.3.1 「助動詞による可能」についての可能表現の否定

“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」である。この“把”構文の核「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」は「変化のくみあわせ」であり、「変化のくみあわせ」はひとまとまり性のある連語であるため、一つの出来事として扱うことができる。よって、その可能表現は「変化のくみあわせ」の前に“能”を置くことしかできない。可能表現の否定は「可能補語による」での表現であることが多いが、“把”構文における「変化のくみあわせ」が強固なため、可能表現の否定も「助動詞による」表現しかできない。

(41) 都不能把这对“书呆子”从闷热的小屋里吸引出来。《中年》

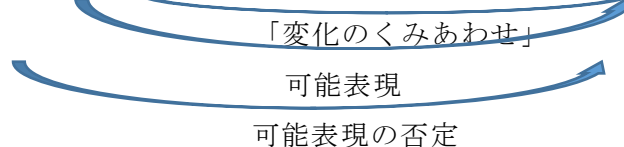
こういったものも二人の「本の虫」を蒸し暑い狭苦しい部屋から誘い出すことはできなかった。『人』

例(41)の“把这对‘书呆子’从闷热的小屋里吸引出来”は「変化のくみあわせ」である。これを一つの出来事として扱っているので、この出来事を実現することが可能な場合、“把”の前に可能を表す“能”を置く。その否定は“能”の前に“不”を置く。

この文の構造は以下の[図1]のように示される。

[図1] “把”構文の可能表現の否定

都(不(能(把这对“书呆子”从闷热的小屋里吸引出来)))。



#### 4.4.3.2 「可能補語による可能」についての可能表現の否定

「可能補語による可能」に属する可能表現とは“得”と“不”を用いる「V得R」と「V不R」である。

先行研究の張威(1998: 50)によれば、中国語の可能補語(V得/不C)の意味的特徴として

①Cの実現が特に取り上げられて、それが可能であるか不可能であるかというところに表現の焦点が絞られている。

②動作の結果が強調され、それが表現の中心である。

(42) 除非一交栽倒，再也爬不起来，他满地滚也得滚进城去，决不服软！《骆驼》

ぶっ倒れて身うごきもできなくなったのならともかく、そうでないかぎり、  
這ってでも町まで行ってやる。負けてなるものか！（『らくだ』：53）

(43) 自己只要卖力气，这里还有数不清的钱，吃不尽穿不完的万样好东西。《骆驼》  
働きさえすれば、金はずぎつぎにはいってき、食おうが着ようがなくなるこ  
の無いすばらしいものが無限にあるのだった。（『らくだ』：54）

例（42）の可能補語は“爬不起来”であり、動作“爬”によって、“起来”というよ  
うな結果に至ることができない表現である。同様に、例（43）の可能補語は“（数）不  
清”であり、動作“数”によって、“数清”の結果に至ることができない。可能補語は  
“吃不尽”、“穿不完”も同様である。

要するに、可能補語は以下のような[図2]で表すことができる。

[図2] 「可能補語による可能」表現の構文的意味

$V \text{ 得 (不) } R = \boxed{V} + \boxed{\text{得 (不) } R} = \boxed{V} \longrightarrow \boxed{\text{得 (不) } R}$   
(一つの出来事) (一つの出来事)

可能補語が二つの出来事であるということは、「変化のくみあわせ」の一つの出来事  
と矛盾するため、“把”構文の可能表現の否定には「可能補語による可能」の否定形式  
を使うことができないと考えられる。

#### 4.4.4 “把”構文に“不能”を用いる表現について

“把”構文の“不能”表現は同じく二種類に分けられる。一つ目は、「禁止」として  
使われ、二番目は、「能力がない」として使われている。

(44) 我们赶快找大泉去，让他多搜集一点儿，不能把最生动的材料丢下。《大道》  
早く大泉をつかまえて、もっといい話をさがさにか。一番生きのいい話は落  
したくねえからな。『道』

例（44）の“不能把最生动的材料丢下。”は意識をとっている。直訳すると、「一  
番生きのいい話は落してはいけない」となるだろう。これは一つ目の「禁止」という意  
味で捉えられる。

(45) 他决定放弃了买卖，还去拉车，不能把那点钱全白白的糟践了。《骆驼》  
彼は行商をやめて、車引きにもどることを決意した。たいせつな金をむざむざ  
溝にすててしまうことはできなかったからである。（『らくだ』：273）

(46) 把他划成中农，最多是政策上的宽大，并不能把他过去剥削穷人的那些事情一笔抹掉。《大道》

奴を中農にいれたのは、政策上の寛大さが大きいんで、前に貧乏人を搾取したつうことを帳消しにしたわけじゃねえ。『道』

例(45)の“不能把那点钱全白白的糟践了。”の“不能”はできないという意味である。例(46)の“并不能把他过去剥削穷人的那些事情一笔抹掉。”の意識は上述記載の通りであるが、直訳すると、「前に貧乏人を搾取したということを帳消しにすることができない」となるだろう。

#### 4.4.5 おわりに

中国語の可能表現では、「助動詞による可能」と「可能補語による可能」の二つに大きく分けられている。その否定表現は中和され、「可能補語による可能」の否定は多く使われ、「助動詞による可能」の否定はわずかであることを各文法学者は詳しく論述している。だが、“把”構文の可能表現は、「助動詞による可能」によって表現されているが、その可能表現の否定も「助動詞による可能」の否定によって表現されている。その理由は、「可能補語による可能」である“V得C”と「可能補語による可能」の否定である“V不C”は“V”と“得/不C”の二つで組み合わせられている。だが、“把”構文の核である“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」は「変化のくみあわせ」であり、そのまとまり性であるため、その中に二つの出来事が入ることができない。要するに、“把”構文の可能表現の否定は「助動詞による可能」の否定によってしかできないのである。

## 第五章 実例からみる“把”構文の日本語訳の傾向

### 5.1 はじめに

本章において、「把」＋客体の日本語訳について、分析してみる。一般には「把」＋客体を日本語に訳すると、「ヲ格の名詞」になるものと思われる。だが、実例を収集し分析してみると、ヲ格の名詞以外の日本語訳も相当数あることがわかった。

以下の例文に見られるように、「把」構文は一般に「処置義」(例 1、2)を表すとされているが、「非処置義」(例 3、4、5、6、7、8、9)を表すこともできる。

- (1) 记起来了，是坐在一旁的秦波同志客客气气地把她拦住了。(《人到中年》P7)  
ああ、そうだ、隣に坐っていた秦波夫人がいとも丁寧に彼女を遮ったのだ。  
(『人、中年に到るや』: 35)
- (2) 他拍拍脑门儿，嘿嘿笑起来，捶了赵涛一拳，把坐椅晃得吱吱响。(《丹》)  
彼はおでこをたたきながら笑い出し、趙涛をひとつこづいたので、坐っている椅子がきしんだ。  
(『鳳凰の眼』)
- (3) 不消几日，单是好烟好酒就把老王的两个立柜塞满了。(『講読』: ⑤P74)  
何日も経たないうちに、良い酒、良いタバコだけでも、王さんの二つの戸棚にいっぱいになった。  
(『講読』: ⑤P79)
- (4) 那么多的字把她写得头昏眼花。(金立鑫:17)  
たくさんの漢字を書いて、彼女の頭は朦朧となった。(筆者訳)
- (5) 也把傅家杰从麻木的疲惫状态中惊醒。(《人到中年》)  
傅家傑も疲労に朦朧とした状態からハッと呼び醒まされた。(『人』)
- (6) 因为工龄不够，一上大学还把工资免了。(《插队》)  
勤務年数が足りないから大学に進学すると給料まで止められる。(『大地』)
- (7) 看把人家的鞋踩掉了没嘛！(《插队》)  
靴が踏まれて脱げたじゃないの。(『大地』)
- (8) “心肌梗塞”四个字把他吓住了。(《人到中年》)  
「心筋梗塞」の四文字が彼を驚愕させた。(『人』)
- (9) “你已经把我惊倒了，” 仲伟说。(《插队》)  
ぼくだってもう卒倒させられているよ。(『大地』)

上掲の“把”構文を日本語に翻訳した文を見ると、能動文(主にヲ格(例 1)、ガ格(例 2)、ニ格(例 3)、ハ格(例 4)、モ格(例 5))などで翻訳される場合と、受身文(例 5、6、7)、使役文(例 8)、使役受動文(例 9)で翻訳される場合とがある。本章では、先行研究と実例に基づいて、その理由について分析する。

## 5.2 “把”構文及び“把”構文の客体に関する種類

### 5.2.1 “把”構文の分類<sup>97)</sup>について

高橋（2014a）は、一つの現実を表現する中国語の文レベルの体系を[表 1]と[表 2]のようにまとめている。

[表 1] 文レベルの体系

- (1 0) 他喝牛奶了。(“主谓句”) (高橋 2014a : 125)  
 彼は牛乳を飲んだ。(同上)
- (1 1) 他把牛奶喝了。(“把字句”) (同上)  
 彼は牛乳を飲んだ。(同上)
- (1 2) 牛奶他喝了。(“受事主体句”)  
 牛乳は彼が飲んだ。(同上)
- (1 3) 牛奶被他喝了。(“被字句”)  
 牛乳は彼に飲まれてしまった。(同上)
- (1 4) 母亲让他喝了牛奶。(“使令句”)  
 母親は彼に牛乳を飲ませた。(同上)

[表 2] 一つの現実を表す文体系 (現実の世界:意味構造)

一つの現実 言葉の世界	主体	+	出来事
主述文:	仕手		仕手の行為や感情など (例 10)
“把”字構文:	仕手		処置などによる対象の強調 (例 11)
受事主体文:	受け手		受け手の強調となる仕手の行為や感情など (例 12)
受身表現:	受け手		仕手の影響を受ける行為や感情など (例 13)
使役表現:	仕手		仕手の影響による受け手の行為や感情など (例 14)

高橋弥守彦（2014a）は、文の体系における処置の強調を表す“把”構文(例 15、16)を基本とし、“把”構文でしか表現できない文(例 17、18、19)を「派生」としている。

- (1 5) 把他打伤了。(金立鑫 2002:16)  
 彼を怪我させた。(筆者訳)

<sup>97)</sup> 李臨定（1993）は、“把”構文を以下の六種類に大別している。

①述語の動詞の後に助詞“了”“着”が付いているもの。②述語の後に各種の補語をともなっているもの。それをさらに六種類に下位分類している。③述語の後に別に賓語を伴っているもの。それをさらに八種類に下位分類している。④動詞の後に他の成分を伴わなくてもよいが、その場合、動詞の前になにか連用修飾語がなくてはならない。⑤謂語が 2 個の動詞連語を連用しているもの。それをさらに二種類に下位分類している。⑥述語のない“把”構文。

- (16) 把书写成了。 (金立鑫 2002:16)  
 本を書いた。 (筆者訳)
- (17) 他要把美元换成人民币。 (《成功之路》顺利篇 2:P36)  
 彼は米ドルを人民元に両替するつもりだ。 (筆者訳)
- (18) 把大门上了锁。 (朱德熙 2010: 165)  
 ドアに鍵をかけた。 (筆者訳)
- (19) 把杂志翻了几页。 (金立鑫 2002:16)  
 雑誌を何ページかめくった。 (筆者訳)

例(15)、(16)の文構造は「“把”+客体<sub>1</sub>+述語+その他」であり、この場合(15)’ “打伤了他。”と(16)’ “写成了书。”とも言える。(15)、(16)はそれぞれ(15)’と(16)’の処置を表す強調文である。また、例(17)、(18)、(19)の文構造は「“把”+客体<sub>1</sub>+動詞+客体<sub>2</sub>」であり、「客体<sub>1</sub>」は“把”の「客体」であり、述語動詞の「客体」は「客体<sub>2</sub>」である。中国語では、二つの客体を持てる動詞は少なく(二重目的語文で使う動詞を指す)、二つの客体を持たない動詞の場合には、よく“把”構文を使う。

#### 5.2.2. “把”構文の客体の種類

“把”構文の客体の種類について、各文法学者はそれぞれ分類している。そのうち、金立鑫(2002:16)は以下のように13種類に分類している。

- ① 受事：把他打伤了。
- ② 結果：把书写成了。
- ③ 対象：把他教育坏了。
- ④ 工具：把鞭子抽断了。
- ⑤ 方式：把A调唱成了降A调。
- ⑥ 处所：把床睡塌了。
- ⑦ 原因：把经费愁过了。
- ⑧ 致使：把嘴闭上。
- ⑨ 目的：把朋友等来了。
- ⑩ 施事：把个囚犯给跑了。
- ⑪ 同源：把歌唱走了调。
- ⑫ 时段：他把一个多小时给浪费了。
- ⑬ 時点：他把韩国的三点钟当成中国的三点钟。

本節は日本語の格の観点から“把”構文の客体の種類を以下のように分類する。それに対応する金立鑫の分類する“把”構文の客体13種類は括弧内に示す。



- A. 対象<sup>98)</sup> (1, 2, 3, 5, 8, 11, 12, 13)
- B. 動作主・経験者 (9, 10)
- C. 原因・道具 (4, 7)
- D. 場所 (6)

### 5.3 実例からみる“把”構文の日本語訳

高橋弥守彦 (2014b:125) では、一つの現実を表現する文の体系 (現実の世界:意味構造) について、日本語は基本的に能動文、受身文、使役文、使役受動文の四文型に分けられ、中国語は主述文、“把”字構文、受事主体文、受身表現、使役表現の五つに分けられるとしている。また、高橋弥守彦 (2014b:5) によれば、日本語では、例 (20) から (24) までの動詞に見られるように、他動詞から自動詞までのヴォイスの体系<sup>99)</sup>を捉えることができるとしている。

- (20) 次郎は汚水を (川に) 流した。(他動詞、能動文)
- (21) 汚水は次郎によって (川に) 流された。(受動態、受身文)
- (22) 太郎は次郎に汚水を (川に) 流させた。(使役態、使役文)
- (23) 次郎は太郎に汚水を (川に) 流させられた。(使役受動文、使役受動態文)
- (24) 汚水が (川に) 流れた。(自動詞、能動文)

ここでは『中国語学講読シリーズ①～⑥』及び『コーパス』の実例を収集し、中国語の“把”構文に対応する日本語の翻訳傾向を検討した結果を[表 3]のように整理する。“把”構文の日本語訳がこのように多様になるのは、文の体系が両者で異なるからと言えよう。

[表 3] “把”構文の文意と翻訳文

中国語の“把”構文		日本語の翻訳傾向
処置義 (例 1、3、7)		能動文 (例 1、3)、受身文 (例 7)
非処置義	受身表現 (例 6)	受身文 (例 6)
	使役表現 (例 2、4、5、8、9)	能動文 (例 2、4)、受身文 (例 5)、使役文 (例 8)、使役受動文 (例 9)

<sup>98)</sup> 長谷川信子 (1999:37) は、意味役割を動作主、対象、経験者、原因、着点、起点、受益者、道具の 8 種類に分類している。

<sup>99)</sup> 鈴木康之 (2014) によれば、「汚水の流れが (川に) 現れた。」の文も挙げ、動詞「流す/流れる」から名詞「流れ」へ転成も可能であると主張している。

以下では実例からみる中国語の“把”構文における日本語訳を調査し、その翻訳傾向を見てみることにする。

### 5.3.1 能動文

#### 5.3.1.1 フ格、ガ格<sup>100)</sup>、ハ格で訳す場合

- (25) 我急忙帮她把车窗抬起。 (『講読』:③P76)  
私はすぐに彼女を手伝って、列車の窓をひきあげた。 (『講読』:③P80)
- (26) 他把工作证递过去。 (『講読』:③P117)  
彼は職務証明書をさし出した。 (『講読』:③P123)

例(25)、(26)の“把”構文の客体は述語動詞の「対象」であり、これらの文は動作を表す動詞がこの「対象」を処置することを意味する。その文構造は「“把”+対象+動詞+その他」であり、日本語の訳文の動詞「ひきあげた」、「さし出した」は、いずれも他動詞である。よって、日本語の能動文はフ格の名詞で訳す。

- (27) 难道，一巴掌就把多年建立的感情全抹了。 (『講読』:②P57)  
びんたの一つで、長年来築きあげてきた感情がすっかり立ち消えになっ  
たともいうのか。 (『講読』:②P63)
- (28) 希望她把儿子培养成有用的人。她一直把他的话记在心里。(『講読』:④P110)  
二人の子供を立派に育ててくれと言いつつ残したことが、今でも鮮やかに心  
によみがえる。 (『講読』:④P117)
- (29) 高大泉转身往外走，忽忽悠悠地下了高台阶，进了小屋。他现在才算把事情看透了。  
高大泉は外へ出た。ふらふらと高台を降り、自分の小屋にはいった。やっ  
と事情が飲みこめた。 (『道』)

例(27)の“把”の客体である“多年建立的感情”と例(28)の“他的话”は“感情”あるいは“事”を表す名詞であり、運動を表す動詞の“抹”と“记”によって、変化あるいは状態の結果を示す。また、日本語の訳文の動詞「立ち消えになった」、「心によみがえる」は自動詞である。よって、「変化の主体」か「状態の主体」となり、ガ格の名詞で訳す。例(29)の“把”の客体である“事情”は“看”によって、理解される。「心境の変化」となる、「飲みこめた」は他動詞の可能態なので、ガ格で訳す。

- (30) 你呀，反正都有理。老东西，简直把瓜种成了蜜！ (『講読』:①P105)

<sup>100)</sup> 『現代日本語文法』2 (2009:5)によれば、ガ格は「動きの主体」、「状態の主体」、「同定関係の主体」、「心の状態の対象」と「能力の対象」、「所有の対象」を表す、としている。

お前さん、うまい逃げ道があるんだな。あれ、お前さんのスイカは、まるで蜂蜜のようじゃねえか。  
（『講読』：①P107）

（31）这回，轮上大家“唰”地一下把眼光对准这位“随便糟踏党的宝贵财富”的甄局长了。  
（『講読』：①P82）

ここで、みんなの目はいっせいに、その「党の貴重な財産を勝手気ままに踏みにじった」甄局長に注がれた。  
（『講読』：①P84）

本来ならヲ格で訳すべきところだが、文脈から解釈して、“把”の客体の前を加訳[お前さんのスイカは]にしてハ格で表現している。例（31）も同様で、「みんなが」を省略したので、「みんなの目は」にしてハ格で表現している。

#### 5.3.1.2 ニ格で訳す場合

（32）不消几日，单是好烟好酒就把老王的两个立柜塞满了。（前出3）

何日も経たないうちに、良い酒、良いタバコだけでも、王さんの二つの戸棚にいっぱいになった。  
（前出3）

（33）他歪着头比划，把周围的人都看一遍。（『挿隊』）

彼は頭を傾けて手でそれを示して周囲の人々にひと渡り見せ。（『大地』）

（34）这夫妻俩一边商量，一边哭，反反复复地折腾了一夜，才把逃荒的事情定下来。（《大道》）

夫婦は語りながら、むせび、一夜を悩み明かしたあげく、母子だけが飢饉の故里を捨てて行くことにきめた。  
（『道』）

例（32）の“把”の客体である“老王的两个立柜”は動作の“塞”の到達点であり、例（32）の文構造は「“把”＋場所＋動詞＋その他」である。例（33）の“把”の客体である“周围的人”は動作“看”の接点であり、「動作の対象」である。例（34）の“把”の客体である“逃荒的事情”は動作“定”の結論を表している。その文構造は「“把”＋対象＋動詞＋その他」である。よって、ニ格の名詞で訳す。

#### 5.3.1.3 デ格で訳す場合

（35）这些，他都是忍着，咬着牙听着，把手指甲深深掐进自己的手心里…

（『講読』：⑤P103）

こうしたすべてにたえぬいた。歯をくいしばって聞き流し、指で自分のたなごころを深くつねって…  
（『講読』：⑤P109）

例（35）の“把”の客体である“手指甲”は述語動詞“掐”の「道具」であり、その文構造は「“把”＋道具＋動詞＋その他」である。道具は一般に日本語で表現するとデ

格となる。

#### 5.3.1.4 マデ格、モ格、ト格で訳す場合

(36) 韩德来已经乐不可支啦。最后，他终于把留给自己的那张票也贡献出来。

(《胡同》)

韓徳来は大いにご満悦で、とうとう自分の切符まで、このこたえられない  
愉しみに捧げてしまった。(『胡同』)

(37) 因为工龄不够，一上大学还把工资免了。(前出6)

勤続年数が足りないから大学に進学すると給料まで止められる。(同上)

(38) 昨天一天，他把十几家的锅碗瓢盆都给抢走了，还让局子抓走三个人。(《大道》)

昨日も、何十もの世帯から鍋、釜まで引っさらった上に、警察に三人引っ  
ぱらせたんだ。(『道』)

例(36)の“把”の客体である“留给自己的那张票”は動作の“贡献”の「対象」であり、例(37)の“把”の客体である“工资”は動作“免”の「対象」であり、例(38)の“把”の客体である“十几家的锅碗瓢盆”は動作“抢”の「対象」である。その文構造は「“把”+対象+動詞+その他」である。日本語の訳文の動詞「捧げる」、「止める」、「引っさらう」はいずれも他動詞であり、通常のヲ格で訳す。だが、例(36)の動詞“贡献”の前に“也”があり、例(37)の“把”の前に“还”があり、これらは範囲の拡張を表している。例(38)の“把”の客体の後に“都”があり、これは「範囲」を表す。よって、マデ格で訳す。

(39) 韩德来更怒啦。原来小伙子把他也看成卖高价儿的啦。(《胡同》)

韓徳来の怒りはつのも一方だった。なんと、連中は彼もダフ屋だと思いき  
こんでいるのだ。(『胡同』)

(40) 把我也埋在前川枣树滩里。(《插队》)

わたしも前の川の棗樹灘に埋めてくれと言う。(『大地』)

(41) 我曾走过许多地方，把土拨鼠带在身旁，为了生活我到处流浪，带土拨鼠  
在身旁……(《插队》)

ぼくはいろんな所へ行った、モルモットと一緒に。生きるためにあちこち  
さすらった、モルモットと一緒に……(『大地』)

例(39)、(40)の文中には「類同」を表す“也”があるので、モ格となるだろう。例(41)の“把”の客体“土拨鼠”は述語動詞“带”の「対象」となり、その文構造は

「把」＋対象＋動詞＋その他」である。だが、「帶」の動詞の意味から日本語は「ト」で表現する場合が多いであろう。よって、ト格で訳す。

#### 5.3.1.5 名称格で訳す場合

(42) 这个回答，使孙逸民那么高兴。他松开了按在太阳穴上的手指，好象额头不那么涨痛了。他立刻改变了主意，要把谈话认真地进行下去。他审视着这女学生，问道。 (《人到中年》)

彼女の答えに孫逸民は歓喜した。神経の疲労がいつべんに吹きとんだかのように、彼はこめかみを押さえた指を離すと、身を乗り出し、本腰で話し始めた。女子学生を注意深く観察しながら彼は問い返した。 (『人』)

(43) 高大泉没等表姐把话说完，早就跳出了东屋，一撩门帘儿进了西屋，没人就先喊：“表姐夫，表姐夫！”定神一看，又楞住了。 (《大道》)

高大泉は、従姉の話し終るのを待たずに、東の棟をとびだしてゆき、「おじさん、おじさん」と叫びながら、西の棟の入口のカーテンをまくり、なかに目をこらして、びくっとした。 (『道』)

例(42)の述語動詞“进行”と“把”の客体“谈话”の日本語訳は、「話し(を)始める」となる。例(43)の「述語動詞＋補語」である“说完”と“把”の客体“话”を合わせると“说完话”であり、それは日本語に訳すと、「話し(を)終わる」となる。これらの訳から「ヲ格」を取っている。よって、名称格で訳す。

#### 5.3.1.6 ノ格、「～ニヨッテ」で訳す場合

(44) 把金老师和徐老师都辜负了。 (《插队》)

金先生と徐先生の期待に応えられなかった。 (『大地』)

(45) 女的只需把棉帽换成围巾。 (《插队》)

女子は帽子の代わりにスカーフを巻く。 (『大地』)

(46) 后来习惯成自然，这些人一进场就奔这边。老贫农周忠的老闺女周丽平刚跟秦文庆把这个会场收拾完，正站在这伙人中间，捧着一张小报给大家念新闻。(《大道》)

やがてこの習慣が当り前のこととなった。いまやこの人たちは会場に入るとまっすぐここにやってくる。さきほどまで秦文慶と会場の準備にあたっていた、老貧農周忠の愛娘周麗平が解放農家の人たちの中に立ち、小型の新聞を掲げてニュースを聞かせている。 (『道』)

(47) 我们把混浊的程度不同分为初期、膨胀期、成熟期、过熟期，一般认为在成熟期做手术比较好…… (《人到中年》)

その混濁の程度によって、初期、膨脹期、成熟期、過熟期に分類しますが、一般的には成熟期に手術するのが良いとされています。（『人』）

例（44）、（45）、（46）、（47）の“把”の客体はすべて述語動詞の「対象」であり、その文構造は「“把”＋対象＋動詞＋その他」である。だが、動詞の意味から訳すと、動詞を中国語の名詞として訳し、対象としての名詞と中国語の名詞を日本語のノ格によって名詞連語とし、もう一つは根拠を表す「～ニヨッテ」で訳す。

### 5.3.2 受身表現

高橋弥守彦（2014a）によれば、日本語の動詞の受動態を用いる文は、受身と非受身とに大別できる。非受身は自発、尊敬、可能、個別認識に分類されると主張している。従って、以下のような用法の“把字句”は、“把字句”であっても日本語では受身文で訳されるであろう。

（48）也把傅家杰从麻木的疲惫状态中惊醒。（前出5）

傅家傑も疲労に朦朧とした状態からハッと呼び醒まされた。（同上）

（49）到了一月份，酒房里的酒曲就做成了。把它移到叫做六尺桶的大桶里。

（高橋 2014a : 132）

酒蔵では一月にはいると、酀は出来上がり、六尺桶とよばれる大桶にうつされる。

（高橋 2014a : 132）

（50）别让他把人家姑娘给欺负了……（《丹》）

娘さんがいじめられないように見てあげなきゃ…（『鳳凰の眼』）

（51）把个囚犯给跑了。（金立鑫 2002 : 16）

罪人に逃げられた。（筆者訳）

（51）’（那个监狱/他）把个囚犯给跑了。（作例）

（あの監務所/彼）は罪人に逃げられた。（筆者訳）

（52）在院子里的香椿树下边，好几个人又把他围上了。（《大道》）

高台の庭にある椿の木の下でも、馮少懷は何人かに取りかこまれた。

（『道』）

例（48）の“把”の客体である“傅家杰”は動詞“惊醒”の対象であり、“傅家杰”を呼び醒ます主語は表現されていない。その文構造は「“把”＋動作主＋動詞＋その他」である。例（49）は客観性が強く、誰がしても同じ手順となる。この文は六尺桶を移す動作主が現れておらず、移される対象としての六尺桶が重要なことを表している。その文構造は「“把”＋対象＋動詞＋その他」である。例（50）は、文意の主観性を強くとらえ、動作主が現れている。だが、話し手は“把”の客体である“人家姑娘”の

立場にたって叙述している。例(51)'の文は“那个监狱/他”の立場、例(52)の文は“他”の立場にたって叙述されている。例(51)と例(52)とも受け身表現であるが、例(51)は第三者受け身である。こちらの文で現れる「受け身」の意味は違うのであるが、形から見ると受け身である。よって、これらはいずれも受身文で訳されている。

### 5.3.3 使役表現

筆者の収集した言語資料では、以下の例(53)、(54)、(55)、(56)のように「～サセル」の場合もある。

- (53) 一句话能把小姑娘噎出眼泪……这还不算什么。 (《丹》)  
その小娘にベソをかかせる……これなどまだいい方だ。 (『鳳凰の眼』)
- (54) 她巧妙地把音乐的颤动和光芒融汇在一整套芭蕾舞的语言里了… (『講読』:  
④P125)  
彼女は音楽の流れと、光線とを、実にみごとにバレエの動きに融合させていた。 (『講読』: ④P130)
- (55) 这更把男生都激怒了。 《插队的故事》  
これがさらに男子全員を怒らせた。 『大地』

例(53)の“把”の客体“小姑娘”は動詞“噎出眼泪”の動作主であり、その文構造は「“把”+動作主+動詞+その他」である。日本語の「ベソをかく」の動詞「かく」は他動詞なので、この文は使役文で表す。例(54)、(55)の文構造は「“把”+対象+動詞+その他」である。鈴木康之(2014)によれば、使役文でも表現が可能である。

### 5.3.4 使役受動文

筆者の収集した言語資料では、以下の例(56)のように「～サセラレル」の場合もある。

- (56) “你已经把我惊倒了，” 仲伟说。 (前出9)  
ぼくだってもう卒倒させられているよ。 (同上)

例(56)の“把”の客体“我”は動詞の“惊倒”の動作主であり、その文構造は「“把”+動作主+動詞+その他」である。また、日本語の動詞「卒倒する」は自動詞である。よって、この文は使役受動文で表現する。

上記の分析の結果として、“把”構文の「“把”+客体」の日本語訳を[表4]のように整理する。

[表 4] “把”構文の「“把” + “把”の客体」の日本語訳

中国語		日本語
“把”の客体の意味役割	動作主・経験者	受動文（自動詞）、使役文（他動詞）、使役受動文（自動詞）
	対象	能動文[ヲ格(他動詞)、ガ格（自動詞、他動詞の可能態）、ニ格、ハ格] 受動文（他動詞）、使役文（自動詞）、
	道具/原因	デ格
	場所	ニ格
動詞の意味(副詞も含む)		マデ格、モ格、ノ格、「～ニヨッテ」、名称格

#### 5.4 おわりに

本章では、“把”構文の「“把” + 客体」の日本語訳の傾向について、実例に基づいて検討を行った。その結果として、中国語の介詞“把”を用いる“把”構文は、[表 3]のように文意から「処置義」と「非処置義」（受身表現・使役表現）とに2大別できる。日本語で表現すると、能動文・受身文・使役文・使役受動文などで訳す傾向にある。また、能動文の場合には、「“把” + 客体」はヲ格・ガ格・ハ格・ニ格・デ格・マデ格・モ格・ト格の名詞などで訳す傾向にあることが分かった。

筆者の分析によれば、中国語の“把”構文を日本語の能動文・受身文・使役文・使役受動文で訳すか否かは、文中の“把”の客体の意味役割（動作主/経験者・対象・道具/原因・場所）と日本語の動詞（他動詞か自動詞か）による（[表 3]）。また、“把”の客体が動作主である場合、能動文で訳す例は見つからなかった。この原因は別稿で検討することとしたい。また「“把” + 客体」は日本語でヲ格・ガ格・ハ格・ニ格・デ格・マデ格・モ格・ト格の名詞などに訳すか否かも、“把”の客体の意味役割が動作主/経験者・対象・道具/原因・場所であるか否か及び述語動詞の意味（[表 4]）によることが明らかとなった。



## 第二部 “把” 構文が存在する理由

## 第六章 「“把” + 空間詞」の“把”構文について

### 6.1 はじめに

“把”構文の構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」であり、その基本義は名詞<sub>1</sub>が名詞<sub>2</sub>を処置し、名詞<sub>2</sub>の位置あるいは状態を変化させることである。その派生義の一種は、その中の「名詞<sub>2</sub>」は空間詞であり、その構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 空間詞 + 動詞 + その他」である。

本章ではこの種類の“把”構文を「“把” + 空間詞」の“把”構文（以下「“把” + 空間詞」構文と略称）と呼ぶことにする。呂叔湘主編（1999：53～56）では以下の例（1）、（2）、（3）のように“表示动作的处所或范围。”（動作の場所或は範囲を表す）と主張している。

- （1）把东城西城跑遍了。（呂叔湘 1999：54）  
東城西城を全て回った。（筆者訳）
- （2）把个北京城走了一多半。（呂叔湘 1999：54）  
北京を半分以上歩きまわった。（筆者訳）
- （3）你把里里外外再检查一遍。（呂叔湘 1999：54）  
中と外をもう一回チェックしてください。（筆者訳）

この種類の“把”構文の“把”の客体である“东城西城”、“北京城”、“里里外外”はすべて空間詞であり、それぞれの動詞“跑”、“走”及び“检查”の動作の対象となる場所或は範囲である。

- （4）在黑板上写字。（王还 1980：25）  
黑板に漢字を書く。（筆者訳）

例（4）のような“在字句”の中の“黑板”も漢字を書くという動作を行う場所であり、その構造は「(名詞+) “在” + 空間詞 + 動詞」である。二つの文型の中の空間詞とも、動作を行う場所を表すが、なぜ両者はお互いにとって代わることができないのだろうか。拙論では実例を考察・分析し、それに基づき、以下のいくつかの点を明らかにする。

- ①この種類の“把”構文の語義・語用
- ②この種類の“把”構文と“在字句”の異同

### 6.2 空間詞の先行研究について

6.2.1 刘月华・潘文娛・故犇著<sup>101)</sup> 相原茂監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之共訳 1988『現代中国語文法総覧』(上)

場所名詞について、刘月华など(1988:51~54)は以下のように述べている。「場所を表す名詞或は名詞フレーズを場所語句“处所词语”と呼ぶ。場所語句には次のものが含まれる。

- ①方位詞(方位詞も場所を表すことができるからである)
- ②場所を表す固有名詞——“中国,北京”(中略)など(この類の固有名詞はすべて地理的位置から言われているものである)
- ③場所を表す代詞と普通名詞——“图书馆,周围,这里”など
- ④場所を表す名詞フレーズ(多く「名詞+方位詞」の形で作られる)——“心里,西北方向”など

6.2.2 朱德熙著 杉村博文・木村英樹訳(1995:47~48,148~149)『文法講義』

朱德熙(1995:47~48)によれば、場所詞とは“在[…に(ある/いる)],到[…に、まで(到る)],往[…の方向へ]”の目的語になり、且つ“哪儿[どこ/どちら]”を用いて疑問を發し、“这儿[ここ],那儿[あそこ]”を用いて代替することのできる体詞である。(①地名:“中国”;②「トコロ」とみなし得る機関:“学校”;③合成方位詞:“上头”。)に分けられると主張する。また、同氏(148~149)によれば、場所目的語は下記に挙げる例文に示されるように広義の場所目的語と狭義の場所目的語に分けられる。

(5) 我惦记着家里。(朱德熙 1995:148~149)

私は家のことを気に掛けている。

(6) 我坐在家里。

私は家にじっとしている。

例(5)の“家里”は広義の目的語であり、例(6)の“家里”は狭義の目的語と主張している。

6.2.3 黄伯荣・廖序东(2011:9)《现代汉语增订五版》下册

黄伯荣・廖序东(2011)によれば、“处所名词:河岸、东郊、周围、里屋(新疆、北京、广东、亚洲等兼属专有名词和处所名词)”と述べ、いくつかの単語の例を取り上げるのみで、具体的な定義付けは行われていない。


---

<sup>101)</sup> 刘月华・潘文娛・故犇著(2007:60)によれば、“处所词”については以下のように述べている。“表示处所的名词或名词短语叫做处所词语。其中包括:①方位词。②表示地方的专有名词。如“中国”、“天安门”等(这些专名表处所时都是从地理位置上讲的)。③表示处所的一般名词和代词,如“图书馆”、“学校”等④表示处所的名词短语(多由名词+某些方位词组成)。如“心里”、“报上”等。

#### 6.2.4 高橋弥守彦 (2003 : 48~60) 「位置移動動詞“進, 出”と空間語との関係について」 『外国語学研究』 第 4 号

高橋弥守彦 (2003) によれば、場所を表す単語を空間詞といい、連語を空間連語と言い、その総称を空間語と言うと述べている、また、空間詞を以下のような五類に分類している。

[表 1] 空間詞の分類

1. 固有名詞 : 池袋, 王府井…		1. 自然地理名詞 : 山, 草原…
2. 場所名詞 : _____		2. 人工築造名詞 : 路, 校园…
3. 方位詞 : 前, 东…		3. 組織単位名詞 : 矿, 银行…
4. 指示代詞 : 这儿, 那儿…		4. 行政区域名詞 : 省, 县城…
5. 物名詞 : 车, 飞机…		5. 部分場所名詞 : 边, 角落…

本章では、高橋 (2003) の空間詞の分類に従う。本章の空間詞も以上の五類を含め、場所を表す単語であり、空間連語は場所を表す連語である。なお、物名詞は単語だけでは物名詞だが、“他们坐飞机去大阪。”「彼らは飛行機で大阪に行く。」の文に見られる“坐飞机”の“飞机”ように、連語の中で場所を表す派生空間詞となる。

#### 6.3 「“把” + 空間詞」構文の語義について

筆者は「“把” + 空間詞」構文を以下の三種に分類する。その構文構造は以下のように現すことができる。

##### A. 名詞 + “把” + 空間詞 (対象) + 動詞 + その他

(7) 一锄一锄地把整座山一寸不落地刨开。《插队》

ひと鍬ひと鍬山全体を余すことなく掘り起こすのである。『大地』

(8) 那时候, 工宣队为了让大家都去, 就把该去的地方都宣传得像二等天堂。《插队》

あの頃労働者宣伝隊はみんなを農村へ行かせるために行くべき場所を第二の天国のように宣伝した。『大地』

例 (7) の“把”の客体である空間詞“整座山<sup>102)</sup>”の“山”は単語レベルで見れば自

<sup>102)</sup> 高橋弥守彦 (2003 : 59) によれば、「“车, 飞机”などはこれまで物名詞として扱われてきた。これらの単語には物名詞としての側面もあるが、主体の行う出来事と関係する場所を表すという視点から見れば、空間詞としての側面もある。たとえば、次の 2 例に現れる“车”である。

等我上了车, 一个女孩儿正跟我那朋友大吵。(5-6-98)

オレが乗ったら、子供っぽい娘が友達にくっつかかっているところだった。(同上)

然地理名詞であり、動詞である“刨开”の対象である。しかし、この空間詞は連語レベルでモノ名詞として扱われている。“把整座山一寸不落地刨开”は言い換えると“一寸不落地刨开整座山”となるだろう。例(8)の“把”の客体である空間詞“该去的地方”は空間連語であり、動詞である“宣传”の対象である。この空間連語も連語レベルでみればモノ名詞として扱われている。この文は言い換えると、“宣传该去的地方宣传得像二等天堂。”となるであろう。

#### B. 名詞＋“把”＋空間詞（対象・場所）＋動詞＋その他

(9) 同座位的几个人推着高大泉去参加车厢里举行的庆祝大会。可是，旅客们已经把通路堵塞了，所有椅子上都站满了，只能听到那边的人在激动地讲话，车厢里热烈的掌声。 《大道》

近くに坐っていた何人かが、車内で行われている祝賀大会に出るよう高大泉にすすめた。しかし、もう通路は乗客でふさがっていて、どの椅子にも人が立っており、向うの方で興奮して演説する声と、熱烈な拍手の音しか聞えなかった。『道』

(10) 她立即走过去，取下来，敏捷地把衣服外面三个兜、内面一个兜搜抄了一遍。《插队》

すぐに歩み寄っておろすと手早く外側の三つのポケットと内側のポケット一つを探った。『大地』

この種類の“把”構文の“把”の客体は動詞の対象であり、動作の行われる場所でもある。例(9)の“把”構文における“把”の客体“通路”は動詞“堵塞”の対象であり、動作“堵塞”の場所でもある。“通路”は場所を表す空間詞である。例(10)の“把”構文における“把”の客体“衣服外面三个兜、内面一个兜”は動詞“搜抄”の対象であり、動作“搜抄”を行う場所でもある。この“衣服外面三个兜、内面一个兜”の“兜”は単語レベルではモノ名詞であるが、連語レベルでは場所名詞として扱われている。

---

我不知什么时候睁开潮湿的眼睛，见军官使劲地握了一下新娘的手，三脚两步跳下车去。(12-3-75)

私は知らず知らずのうちにうるんだ目をあけていた、将校がしっかりと花嫁の手を握りしめ、そのまま一人急いで列車から下りで行くのが見えた。

“车”は上例では主体の乗る場所であり、下例では主体の離れる場所である。これらはいずれも主体の行う出来事“上了车，跳下车去”の場所を表している。“车”が物名詞であれば“跳下去车”と言えなければならないはずであるが、このような表現はできなく、例文のような構造でしか表現できない。例文のような構造は動詞と空間詞との組合せであり、構造の面からも“车”が物名詞ではなく、空間詞であることが理解できる。

### C. 名詞＋“把”＋空間詞（場所・範囲）＋動詞＋その他

(11) 陈秀花说, 他上村公所了。我又挪到村公所, 那儿锁着门, 根本没有一个人影子。我还不死心, 接着又把金发常串门的几家, 都找遍了, 还是没见着。  
《丹》

やっどこさ金発の家さ着いたら、陳秀花が村公所さ出かけてるつうんで、そっちさ行ったら、公所はカギがかかったまんまで、ひとつこ一人いねえ。そんでもあきらめきれねえで、よく金発が出入りする家をかたっぱしから回ったんだが、見つかんねえ。『眼』

(12) 让伙计们挑酒来, 把屋里屋外, 墙角旮旯, 全都泼一遍。《盖》

杜氏たちにお酒を持ってこさせて、部屋の内も外も、塀際や壁のすみっこまで、まいてちょうだい。『棺』

この種類の“把”構文の“把”の客体は動詞で表す動作を行う場所を表すである。例(11)の“把”構文における“把”の客体である“金发常串门的几家”は“金发常串门”の“几家”である。“家”(house)は場所名詞の下位分類「人工築造名詞」であるが、ここではメタファーとして使われ、“金发常串门”の家(home)の意味である。この“金发常串门的几家”は動作を表す動詞“找”の対象ではなく、ただ動作“找”を行う場所・範囲である。動作である“找”の対象は“金发”(人名)である。例(12)の“把”の客体である“屋里屋外, 墙角旮旯”は、場所名詞の下位分類「部分場所名詞」である。この文の動詞である“泼”の対象は“酒”であり、“把”の客体である“屋里屋外, 墙角旮旯”は動詞“泼”の動作を行う場所・範囲である。

#### 6.4 「“把”＋空間詞」構文と“在字句”との異同について

上述の分類の“把”構文Cの構造は「名詞＋“把”＋空間詞（場所・範囲）＋動詞＋その他」であり、この空間詞で表す空間は動作が発生する場所である。

「名詞＋“在”＋空間詞＋動詞」構造で作る“在字句”も、空間詞で表す空間は、主体が動作を行う場所である。本節では両者の異同について論じる。

##### 6.4.1 “在字句”についての先行研究

###### 6.4.1.1 王还 1980<sup>103)</sup> <再说“在”>《语言教学与研究》第3期 25～29页

王还(1980)によれば、動作が発生する場所を説明するときに、‘在’及び賓語は動詞の前に置く。一方で、人や事物は動作によって、ある場所に至ることを説明する場合、‘在’及び賓語は動詞の後ろに置く。

<sup>103)</sup> 王还(1980: 25～29)<sup>103)</sup>によれば、“在字句”について“凡是说明动作在哪里进行, 我们就把‘在’及其宾语放在动词前; 说明人或事物通过动作到达于某处所, 就把‘在’及其宾语放在动词后。”と主張している。

6.4.1.2 朱德熙 1981<sup>104)</sup> <“在黑板上写字” 以及其相关句式>《语言教学与研究》  
第1期 4~18页

朱德熙(1981)によれば、「在+NP+V+N」は“把”構文に言い換えられるかどうかによって、A<sub>1</sub>とA<sub>2</sub>に分けることができる。A<sub>1</sub>は“把”構文に変えられるのであれば、その“在+NP”の文法的意味はヒトか事物かが所在する場所である。そうでないとするれば、“事件发生的場所”である。

6.4.1.3 邵敬敏 1982<sup>105)</sup> <关于“在黑板上写字”句式分化和变换的若干问题>《语言教学与研究》第3期 35~43页

邵敬敏(1982)は、朱德熙(1981)の理論について、以下のような考えを述べている。A<sub>1</sub>の文法的意味はヒトか事物かが動作を通じて、ある物がある位置(“在+NP”)の結果に導くことである。A<sub>2</sub>の文法的意味：“在+NP”は動作を発生する動作者が所在している静態位置を表している。

6.4.1.4 齐沪扬 1998 <动作“在”字句的语义、句法、语用分析>《上海师范大学学报》第2期 61~67页

齐沪扬(1998)によれば、動作は“在字句”の中の動詞の語義特徴であり、①非状態性②非移動性③非持続性の三つであると述べている。

6.4.1.5 孟万春 2003<sup>106)</sup> <“在”字句语义内容分析>《延安大学学报(社会科学报)》第2期 121~124页

孟万春(2003)によれば、A式(在黑板上写字)は動作が発生した場所を表すが、B式(“字写在黑板上。”)は動作によって、その動作の中に包摂されている事物がNPに至ることを表す、としている。

各文法学者の理論と事例の分析に基づくと、“在+NP”が動詞の前に置かれるときは、“在+NP”の文法的な意味は、その動作が発生する場所を表す。“在+NP”が動詞の後に置かれる場合、別稿に譲る。

6.4.2 「“把”+空間詞」構文と“在字句”との異同点について

「“把”+空間詞」構文の構造は「名詞<sub>1</sub>+“把”+空間詞+動詞+その他」であり、この構造の中の空間詞は動作の行われる対象であり場所・範囲を表す。「名詞+“在”+空間詞+動詞」構造の“在字句”における“在+空間詞”も動作の行われる場所を

<sup>104)</sup> 朱德熙(1981: 4~18)は、““在+NP”表示的是人或者事物所在的位置。例如：他在黑板上写字(中略)“在+NP”表示的是事件发生的处所。例如：他在飞机上看书。(他在黑板上写字——把字写在黑板上，他在飞机上看书——\*把书看在飞机上)”と述べている。

<sup>105)</sup> 邵敬敏(1982: 35~43)は、“A<sub>1</sub>的语法意义表示的是，人或事物(N)通过动作(V)获得使它达到某种位置(在NP)的结果。(中略)A<sub>2</sub>的语法意义应为：“在+NP”表示的是发出动作V的施事者(N施)所在的静态位置。”と述べている。

<sup>106)</sup> 孟万春(2003: 121~124)によれば、“A式句的共性即主要特点“表动作发生的处所”，B式句的共性即主要特点是“动作参与者通过动作到达NP”と述べている。

表す。これら二つの文構造における空間詞は、同様に動作の行われる場所を表すことができるが、以下では二つの文構造がお互いに言い換えることができるかどうかについて分析する。

(13) 陈秀花说，他上村公所了。我又挪到村公所，那儿锁着门，根本没有一个人影子。我还不死心，接着又把金发常串门的几家，都找遍了，还是没见着。  
《丹》

やっどこさ金発の家さ着いたら、陳秀花が村公所さ出かけてるつうんで、そっちさ行ったら、公所はカギがかかったまんまで、ひとつこ一人いねえ。そんでもあきらめきれねえで、よく金発が出入りする家をかたっぱしから回ったんだが、見つかんねえ。(『眼』)

(14) 让伙计们挑酒来，把屋里屋外，墙角旮旯，全都泼一遍。(前例 13)

杜氏たちにお酒を持ってこさせて、部屋の内も外も、塀際や壁のすみっこまで、まいてちょうだい。(前例 13)

例 (13) の“把金发常串门的几家，都找遍了”が表している意味は、動詞“找”の場所・範囲である“金发常串门的几家”だけではなく、これらの場所・範囲を探した結果まで含めた“找遍”に焦点を当てているのである。しかもこの動作“找”の前の“都”はその範囲である“金发常串门的几家”のすべてを表している。“把”構文によって、これらの場所・範囲をすべて探したという意味を表すことができる。その結果は“还是没见着”というような残念な気持ちにつながっている。この“把”構文は主観的にその事柄を説明しており、「“把”＋空間詞」の中の空間詞は動作が発生する場所であるというよりも、動作が発生する範囲であるといったほうが適切である。“在字句”は動作の行われる場所を表すことができるだけである。“在”を用いて、例 (13) を言い換えると、“在金发常串门的几家找了一遍”になるだろう。しかし、“在金发常串门的几家找了一遍”は、この場所である“金发常串门的几家”で、その動作“找”の行われる量的な回数を表しているが、この場所を全て探したというような表現をしているのではない。“在字句”の文はただ客観的に事実を説明しているにすぎない。

例 (14) の“把屋里屋外，墙角旮旯，全都泼一遍”が表している意味は、動詞“泼”の動作を行う場所である“屋里屋外，墙角旮旯”だけではなく、これらの場所・範囲に対象(酒)を(全部一回)撒いたという意味である。この文の「“把”＋空間詞」の中の空間詞も動作を行った場所であるというよりも、動作を行う範囲であると言った方が適切である。しかもこの動作を行った場所・範囲を変化させたという表現である。“在”を用いて、この文を言い換えると、“在屋里屋外，墙角旮旯，泼一遍。”になり、例 (15) に用いられている“全都”を用いることができなくなる。この文は、ただこ



の場所で動詞“泼”を行う回数を示すにとどまり、これらの場所の全てを“撒”対象（酒）に動作を行ったかどうかの表現とはならない。

## 6.5 おわりに

本章では“把”構文の一種である「“把”＋空間詞」構文（その構造は：「名詞＋“把”＋空間詞＋動詞＋その他」）について考察した。その結果：この種類の“把”構文は、以下の三種類に分けることができる。

一つ目は「名詞＋“把”＋空間詞（対象）＋動詞＋その他」である（例 7、8）。この中の空間詞は動詞の対象となり、連語レベルではモノ名詞として扱われている。二つ目は「名詞＋“把”＋空間詞（対象・場所）＋動詞＋その他」である（例 9、10）。この中の空間詞は動詞の対象でもあり、動作を行う場所でもある。その理由は、名詞は動詞との組み合わせにより、連語レベルでモノ名詞になったり、空間詞になったりする。三つ目は「名詞＋“把”＋空間詞（場所・範囲）＋動詞＋その他」である（例 11、12）。この中の空間詞は動詞である動作が発生する場所・範囲である。この場所に対して動作を行い、主にこの空間詞で表している場所・範囲をどのようにしたかという表現である。

“把”構文は空間詞が動作の場所を表している「名詞＋“在”＋空間詞＋動詞」とは表現の焦点が異なる。「“把”＋空間詞」構文は、この空間詞である場所で動作を行い、この結果に焦点を当てているが、「名詞＋“在”＋空間詞＋動詞」の“在字句”は空間詞である場所で動作を行うことに焦点を当てている。よって、“把”構文は“在字句”に取って換わることができない。これは“把”構文が担う重要な役割であり、それが“把”構文の存在する理由の一つであると言える。

## 第七章 “把” 構文における使役表現について

### 7.1 はじめに

“把” 構文は処置義を基本義（第一章の 1.4：P 32）とし、「使役表現」と「受身表現」などを派生義とする。本章における「使役表現」の“把” 構文の構造は「コト・モノ＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」である。主体は「コト・モノ」であるため、ヒトがモノ・コトを処置するのとは異なり、それらを直接的に処置するわけではない。この種類の“把” 構文は“使” 構文と似ているところが多いことから、“把” と“使” は交換できる場合もある。以下例(1)、(2)の「使役表現」の“把” 構文を見てみよう。

(1) a. 吃了一口，豆腐把身里烫开一条路；他自己下手又加了两小勺辣椒油。

（《骆驼》4）

ひと口すすする。熱い豆腐が、からだのなかにひと筋の道をひらき、スーッとくだってゆくを感じながら、辣油をもうふた匙たした。（『らくだ』：55）

b. 吃了一口，豆腐使身里烫开一条路；他自己下手又加了两小勺辣椒油。

（作例）

ひと口食べると、熱い豆腐で、からだのなかにひと筋の道を作らせ、スーッとくだってゆくを感じながら、辣油をもう二匙足した。（筆者訳）

例(1)a. の“把” は“使” に替えることが可能である。例(1)a. の“把” 構文は何らかの外的な力を使い、“身里” を“烫” し、“烫开一条路” という結果をもたらす。しかし、例(1)b. は“使” により、“身里烫开一条路” という結果がもたらされる。変換前後では中国語の文意に変化が生じてしまう。

(2) a. 这句问话把他窘住了。（《家》：9）

この質問は彼を困らせた。（筆者訳）

b. 这句问话使他窘住了。（作例）

（訳文同上）

例(2)a. の“把” を“使” に替えることができる。変換前後の文意の概要は変わらないが、ニュアンスは変わってしまう。これらの“使” 構文が“把” 構文と同じように使役の意味を表し、同じ動詞を使うことができる。だが、なぜ“使” 構文は“把” 構文に取って替えられないのか。それは、“使” 構文が「誘発使役」であり、“把” 構文が「作用使役」であるということと関係があるからではないかと考えられる。本章ではこれらの事実について分析し、その理由について考察を試みる。「作用使役」につい

ては、後述する。

## 7.2 使役表現についての先行研究

7.2.1 李人鑑(1988: 105~110)<sup>107)</sup>によれば、文の中の“使”を“把”に変えられる“使”構文は多数存在する。同様に、“把”を“使”に変えられる“把”構文もかなりある。また、“把”構文と“使”構文は同じ動詞を使う例も見られるという。

(3) a. 我们做思想政治工作，就是要用毛泽东思想教育人，使精神力量转化为物质力量。  
(李：1988：105)

私たちが思想教育の仕事をしているのは、毛沢東思想によって、人々を教育し、精神的な力を物質的な力に変えるためである。(筆者訳)

b. 我们用战备思想武装群众，动员群众，就能把强大的精神力量转化为巨大的物质力量。  
(李：1988：105)

私たちは戦備思想によって民衆を武装させ、民衆に働きかけることによって強大な精神力を巨大な物質力に転化させることができる。(筆者訳)

例(3)のような動詞“转化为”は“使”構文でも用いることもできるし、“把”構文にも用いることができる。しかし、その理由については、李氏は述べていない。

7.2.2 楊凱榮(1989: 1)は、「使役表現」について、次のように述べている。「中国語の使役表現は「叫、讓、使」を用い、使役者が文の主語として現れ、被使役者が「叫、讓、使」の目的語であると同時に、後続する動詞の主語でもあるという構文的特徴を持っており、意味的には日本語と同様に使役者が被使役者にある動作・作用あるいは状態変化をするようにしむけるという特徴を持っている」。また、同氏(1989: 108)によれば、使役者(X)が非情物で、被使役者(Y)が有情物の場合、このような原因使役文は中国語で次のような形で表される。

(4) 谦虚使人进步。(楊：109)

謙虚が人を進歩させる。(同上)

7.2.3 徐燕青(1999: 52~58)<sup>108)</sup>は、主に“使”構文と“把”構文の共通点について取り上げ、検討している。具体的には、“使”構文と“把”構文を互換できる構文構造の特徴及び互換できるときの動詞と動詞の種類を分析するものである。それらの動詞は

<sup>107)</sup> 李人鑑(1988: 105~110)によれば、“有不少‘使’字句可以把其中的‘使’字换成‘把’字，也有不少‘把’字句可以换成‘使’字。”と説明し、両構造の変換が可能な場合があるとしている。

<sup>108)</sup> 徐燕青(1999: 52~58)によれば、“使”構文と“把”構文に互換できる動詞の特徴を以下のように述べている。“谓语在语义上都是兼动词，具有一身二任的特点。其语义特征可以概括为[+处置、+结果]。…从语义指向上说，是一种既指向主语，又指向“使”字或“把”字宾语的动词。”

「処置」という意味も表せるし、「結果」という意味も表せる。同時に、それらの動詞の語義指向は主語も指すし、“把”の賓語と“使”の賓語も指す。だが、同じ動詞を使っている“使”構文と“把”構文の“使”と“把”を互換した後の文の意味の異同点については、触れていない。

7.2.4 贺晓玲(2001)<sup>109)</sup>によれば、「(前略)“使”構文と“把”構文は同一語義範疇に属す一使役、…、語義からすれば、“使”構文は静態的な使役関係を表し、“把”構文は動態的な使役関係を表す。」とする。また、両者の構造の類似点から、語用についても研究している。“使”構文と“把”構文の“使”と“把”を互換できることも指摘するが、互換した後の文の意味の異同があるかどうかについては、触れていない。

7.2.5 周红(2006:86~88)は、“使”構文と“把”構文の異同について、“‘使’字句表示泛力致使，“把”字句表示非泛力致使。二者的差别在于：①语义组合方式不同；②表达功能不同：静态描述与动态过程性。”と主張する。加えて“使”構文と“把”構文を互換できる条件については、以下[図1]で表しているような式を挙げて説明している。A式の“使”構文と“把”構文は動詞が“使动词”<sup>110)</sup>であることでしか互換できないが、B式の“使”構文と“把”構文は、それ以外の動詞であっても互換できる、とする。

- (5) 无端地，他的活力和冲劲儿感染了慧芳，使她变得兴致勃勃。(周红 2006:87)  
特にこれといったきっかけはなかったが、彼の活力と負けん気が慧芳に影響して、彼女は興味津々になった。(筆者訳)
- (6) 田里的活已经把家珍累得说话都没力气了……(周红 2006:87)  
外での野良仕事がすでに家珍を話す力もないほど疲れさせた。(筆者訳)

[図1]A式とB式

A式：致使者＋“把”＋被使者＋致使力＋致使结果 (例5)

↑ 特例：“使动词”

A式：致使者＋“使”（致使力）＋被使者＋致使结果

B式：致使者＋“把”＋被使者＋内在致使力（结果1）＋结果2（例6）

↑

B式：致使者＋“使”＋被使者＋内在致使力（结果1）＋结果2（周红 2006:88）

<sup>109)</sup> 贺晓玲(2001)は、両構文を“(前略)“使”字句和“把”字句属于同一语义范畴—致使，…，语义方面，“使”字句表示静态的致使关系，“把”字句描写动态的致使关系。”とのべている。

<sup>110)</sup> 周红(2006:88)によると、“在汉语中正好有这样一类动词，它带有“使某一对象具有自身这样的变化”的词汇意义，即本身具有“使变”的词汇意义，称为“使动词”，如：变、改善、改正、感动、解决、等等”と主張している。

7.2.6 郭姝慧(2008: 27~32)<sup>111)</sup>によれば、“把”と“使”の互換関係について「“把”を直接“使”に取り換えることできる“把”構文は、文中の主要な動詞に制限があるほか、“把”の後の部分が独立した文として成り立つものであり、なおかつある結果を導く引き金となる動詞も暗に含まれている。もしその述語動詞が暗に含まれていなかったら、“把”の後に置かれた部分は一般的に“致使事件的施事、感事或主事性成分”であり、あるいは、これらの成分所有関係にある成分である。“把”構文と置き換える“使”構文における動詞は必ず“把”構文に使える動詞である。」と指摘する。

郭姝慧(2008: 27~32)は、互換可能な“把”構文と“使”構文の関係について、「一定の条件を満たせば、“使”構文は“把”構文と置き換えることができる。置き換えた二種の構文の異同については、“把”構文は使役の意味が強く(強致使)、“使”構文は使役の意味が弱い(弱致使)。」と主張している。

7.2.7 木村英樹(2010: 132)は、使役構文(X+“让/叫/使+Y+動詞/形容詞)は三種に分類される。一つはXが、Yになんらかの動作・行為をさせようと積極的に指示するタイプの「指示使役」(例: 刘备叫诸葛亮当参谋。)、次にXが、Yの意のままに何らかの動作・行為をさせようとするタイプの「許容使役」(例: 王老师让小红随便说说。)、そしてXが原因となって、Yを何らかの状態にならせるタイプの「誘発使役」(例: 他的话使我很高兴。)の三種である。“让”と“叫”は三つのタイプのいずれにも用いことができ、“使”は「誘発使役」のみに用いることができると主張している。

これまでの先行研究においても、“使”構文と“把”構文の互換条件および互換できる動詞を取り上げているが、互換前後の文の意味変化については、郭姝慧(2008: 27~32)だけが検討を行っている。本章ではそれらの先行研究に基づき、“使”構文と“把”構文の互換前後における文の意味変化について分析を行うものである。

### 7.3 「作用使役」の名付けについて

「使役表現」を表す“把”構文の構造は「コト・モノ+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他」である。使役表現とは主体が客体に働きかける文であるが、主体が「コト・モノ」であるため、ヒトのように動作主として直接、対象に対して処置(働きかけ)を行うことができない。この種類の“把”構文とは、「コト・モノ」によって、“把”の客体である「名詞<sub>2</sub>」に影響をもたらしているという表現である。

西村、野矢(2013: 130)によれば、主体が客体に影響をもたらしている表現として、

<sup>111)</sup> 郭姝慧(2008: 27~32)によれば、“把”構文と“使”構文について、“能把‘把’字直接置换为‘使’字的‘把’字句,除了句中主要谓词的限制这个因素外,‘把’后部分都能独立成句;其致使事件谓词一般隐含;如果致使事件谓词没有隐含,那么‘把’后成分一般得是致使事件的施事、感事或主事性成分,或者是与这些成分有关的领属性成分,而能跟‘把’字句置换的‘使’字句,其句中的动词必须符合‘把’字句的要求。例: a 这件事把我激动得说不出话来。(我是“激动”的感事) B 这件事使我激动得说不出话来。”と述べている。

以下の二例を挙げ、ヒト以外の N が主体となっている文をメタファー(隠喩)的とメトニミー(換喩)的とに大別している。

(7) Cancer kills thousands of people every year. (西村、野矢 2013 : 130)

がんは、毎年何千人もの人の命を奪う。(筆者訳)

(8) The key opens the door. (西村、野矢 2013 : 134)

この鍵でこのドアが開けられる。(筆者訳)

以上の例(7)、(8)の主語は“Cancer”、“The key”であり、“Cancer”は“kills thousands of people”の原因である。“The key”は“opens the door”の道具である。二つの文とも無生物主語の使役構文であり、それはメタファー(隠喩)的ということ、道具主語の場合はメトニミー(換喩)的だと主張している。しがしながら、次のようなメタファー(隠喩)的表現もある。

(9) 山风把断断续续的歌声吹散开在高原上。 (《插队的故事》)

山から吹き下ろす風が断続的にその歌声を高原中に届けている<sup>112)</sup>。

(筆者訳)

例(9)の主体である“山风”は無情物(あるいは非情物)であり、この文も使役表現である。“山风”(主体)に対する“吹歌声”(陳述)、“歌声”(主体)に対する“散开在高原上”(陳述)という表現である。“山风”が“吹”によって、“歌声”に作用し、“歌声”が“散开在高原上”という結果をもたらしている。この「使役表現」を表す“把”構文の構造は「コト・モノ+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他」であり、この「使役表現」は、前述の木村英樹(2010 : 132)の分類する使役文の用法「指示使役、許容使役、誘発使役」のいずれにも当てはまらない。これを文意から「作用使役」と名付けることとする。

#### 7.4 “把”構文と“使”構文の異同について

“把”構文と“使”構文の関係が密接であることについて、各先行研究では実例を用いて論証している。また、互換できる“把”構文と“使”構文の動詞についても、各先行研究では詳細に記述しているものの、互換前後の文意の変化については、述べられていない。本節では、“把”構文を下記の二種類(7.4.1、7.4.2)に分類したうえで、例文に基づき互換前後の文意の変化について考察・分析を試みる。

<sup>112)</sup> 『大地』に基づいて訳したものである。『大地』では以下のように訳している。「山の風がとぎれとぎれの歌声を高原中に撒き散らす。」

#### 7.4.1 文構造 1: 「コト・モノ + “把” + 名詞<sub>2</sub> (ヒトを除く) + 動詞 + その他」

“使”と“把”が置き換えられる“把”構文は、以下の例文に見られるように、意志を持たない「コト・モノ」が主体になり、ヒト以外の名詞が“把”の客体になっている。

- (10) a. 可是，把身心都机械化了，是否能写出好作品呢？（周红：88）

しかし、身も心も全て機械化させたら、果たして良い作品が書けるのだろうか？  
（筆者訳）

- b. 可是，使身心都机械化了，是否能写出好作品呢？（作例）

しかし、身も心も機械になったら、果たして良い作品を書けるのだろうか？  
（筆者訳）

- (11) a. 可是，及至想到长顺的外婆，他又感到了为难，而把喜悦变成难堪。

（徐燕青：56）

しかし、長順さんのおばあさんのことを考えると、彼は困惑し、嬉しい気持ちが恥かしさに変わった。（筆者訳）

- b. 可是，及至想到长顺的外婆，他又感到了为难，而使喜悦变成难堪。

（訳文同上）

（作例）

- (12) a. 高妈的话永远是把事情与感情都搀合起来，显着既复杂又动人。（《骆驼》）

高媽はいつも用件と自分の感情をごったにした物言いをする。それでいくぶんまだるっこしくもあるが、また親身にも聞こえる。（『らくだ』：110）

- b. 高妈的话永远是使事情与感情都搀合起来，显着既复杂又动人。（作例）

高媽の話はいつも用件と自分の感情をごったになって、以下略

（筆者訳）

例(10)a.の“把”構文は(10)b.の“使”構文に書き換えられるが、例(10)a.の中の“机械化<sup>113)</sup>”は他動詞として使われ“身心”を処置する。その結果、“机械化了”になり、“把身心都机械化了”は“机械化了身心”となる。しかし、“把”を“使”に替えると、“机械化”は自動詞として使われ、“使”という動詞により、“身心都机械化了”という結果になる（[図2]を参照）。

<sup>113)</sup> 《现代汉语第五版》(2011:214)によれば、“(前略)一化 绿化 规范化 现代化 自动化 大众化 (中略)“化”是构成动词的词缀。” (“一化 绿化 规范化 现代化 自动化 大众化”の中の“化”は動詞になる“词缀”である。)





見て、目がチカチカした。(筆者訳)

(14) 她一口纯正而漂亮的法语竟使主考官听呆了。(周红：87)

彼女の生粋の、美しいフランス語を聞いて、試験官は聞き惚れてしまった。

(筆者訳)

例(13)と例(14)の二つの文の中の“使”を“把”に変えても、変換前後の文意の概要は変わらない。

また、“把”構文も見てみよう。

(15) 类似的事情一件连一件，就把婆婆气得心口作疼。(周红：87)

よく似たことが次々と起こったので、胸が痛くなるほど母親を怒らせた。

(筆者訳)

(16) 有一次我们叫他“厕所”，他也答应了，那一次把我们笑得全身发颤。(周红：87)

ある時、私たちが彼を“厕所”と呼ぶと、彼も返事した。そのことが、全身が震えるほど私たちに笑わせた。(筆者訳)

(17) 心中堵着这块东西，他强打精神去作事，为是把自己累得动也不能动，好去闷睡。(《骆驼》13)

それがあるために、彼はおのれに鞭打って働いた。動けなくなるまで自分のからだをこき使わないことには、眠ることもできない気分だったのである。(『ら』：206)

例(15)と例(16)と例(17)の“把”構文の中の“把”を“使”に替えても、変換前後の文意の概要は変わらない。

しかし、例(13)の“使”構文の“使她看得眼花缭乱”の原因は“巧珠奶奶看到喜房里洋溢着一片红光和金光”であり、その“红光和金光”を責める意図は一切なく、ただその原因を客観的に説明しているだけである。同様に、例(14)の“使”構文の中の“主考官听呆了”の原因は“她一口纯正而漂亮的法语”も、その原因を責める意図はなく、ネガティブなニュアンスは皆無である。しかし、例(15)の“把”構文の“把婆婆气得心口作疼”の原因は“类似的事情一件连一件”であり、この文からは、読者を“婆婆”に同情させようとする作者の意図が垣間見える。“把”があるために“类似的事情一件连一件”が悪いことを暗示しているのだとわかる。また、同時にそれらの事柄を責めるというニュアンスも出てくる。

例(16)の“把”構文の“把我们笑得全身发颤”の原因は“他也答应了”であり、この“把”は、その原因が意外性のあることを暗示している。例(17)の“把”構文の“把

自己累得動也不能動”の原因は“他強打精神去作事”であり、この“把”は、その原因が意図性のあることを暗示している。例(15)、(16)、(17)にある隠れたニュアンスは“使”構文では表現しきれない。副詞を使えば、“使”構文でもこれらの意味を表すこともできるかもしれない。例えば、例(13)のネガティブなニュアンスには“可”を使い、例(14)の意外性には“竟”によって表せる。“把”構文の中の“把”を“使”に替えたり、また“使”構文の中の“使”を“把”に替えると、意味が変わってしまうのである。ということは“把”構文と“使”構文にはそれぞれ個別のニュアンスが固有にあり、それら用法が果たす役割には、しかるべき根拠があるのである。

## 7.5 おわりに

各文法学者は、同じ動詞が“把”構文でも使え、“使”構文にも使えと主張し、これらの動詞の特徴などについて分析を行っているが、本章では、さらに“把”字と“使”字を置き換えられる例文について、別の角度からこの二つの文について分析し、併せてこの二つの文が表している意味の異同について検討を行った。この種類の“把”構文については次のように整理することができる。

①構文構造：「コト・モノ＋“把”＋名詞<sub>2</sub>(ヒトを除く)＋動詞＋その他」

動詞が他動詞でも、自動詞でもある場合(例 10、11)、また使役と受身の双方向性を持つ場合(例 12)、“把”構文を“使”構文に変換することができるが、変換前後の文の意味は変わってしまう。

②構文構造：「コト・モノ＋“把”＋ヒト＋動詞＋その他」

この種類の“把”構文が“施事把字句”である場合、“把”構文は“使”構文に変換することができ、変換前後の文の概要は変わらない。しかし、“把”構文を用いることによって、より細やかなニュアンスを表すことができる(例 15、16、17)。よって、“使”構文は一見“把”構文と同じように思われるが、“把”構文に取って替わることはできない。“把”構文で表す「作用使役」は以下の[図 3]で表すことができる。

### [図 3] 使役表現について

使役表現	指示使役：“叫、让 <sup>115)</sup> ”を用いる
	許容使役：“叫、让”を用いる
	誘発使役：“使、叫、让”を用いる
	作用使役：“把”を用いる

よって、“把”構文は機械的に“使”構文に言い換えることができるものではなく、“把”

<sup>115)</sup> 使役を表せる“令”について、口語性が低いので、本章においては、考察の対象から除いた。

構文によってしか表現できない意味の領域が存在することを本章で明らかにした。“把”構文の語用的特徴については、多様な文脈を分析することで、さらに研究・考察する必要がある。

## 第八章 “把” 構文における副詞の位置について

### 8.1 中国語の副詞について

#### 8.1.1 先行研究

##### 8.1.1.1 香坂順一（1962 初版、1980 再版：48～53）『現代中国語文法』

香坂順一（1980 再版：48～53）は、中国語の副詞を以下のように六種類に分けられる。

①時間・頻度をあらわすもの

已经、曾经、刚刚、才、正在、就、将要、快要、立刻、马上、顿时…

②程度をあらわすもの

很、挺、更、更加、越、极、极其、非常…

③範囲をあらわすもの

都、全都、总、统统、仅仅、只

④重複・連続・並行などをあらわすもの

又、在、也、还

⑤語気をあらわすもの

可、却、倒、竟、偏、难道、决

⑥否定・肯定・推定をあらわすもの

否定：不、没有、没

肯定：必定、必

推定：也许 或许

##### 8.1.1.2 吕叔湘（1980 第一版、1999 增订版：18）《现代汉语八百词》

吕叔湘（1999 增订版：18）は、中国語の副詞を以下のように八種類に分類している。

①范围副词：都、也、全、光、就

②语气副词：才、可、却、倒、偏

③否定副词：不、没（有）

④时间副词：刚、正、恰好、一、老、总

⑤情态副词：正、反、横（着）、竖（着）、一块儿、一起

⑥程度副词：很、极、挺、真、更、更加、非常、尤其

⑦处所副词：处处、到处

⑧疑问副词：难道

##### 8.1.1.3 劉月華など（1988：185～186）『現代中国語文法総覧（上）』

劉月華など（1988：185～186）は、中国語の副詞を以下の七種類に分類している。

①時間を表すもの

刚、刚刚、已、已经、曾经、早、就、早先、正、正在、在、将、将要 …。

②範囲を表すもの

都、全、统统、一共、共、总共、一起、一块儿、一同、一齐 …。

③反復・頻度を表すもの

又、再、还、也、屡次、再三、常常、经常、时常、往往、不断。反复。

④程度を表すもの

很、极、挺、怪、太、非常、格外、十分、极其、分外、最、顶、更、更加 …。

⑤語気を表すもの

可、幸亏、多亏、难道、何尝、居然、究竟、到底、偏偏、索性、简直 …

⑥肯定・否定を表すもの

不、没（有）、一定、准、未必、必定、必然、未、别、莫、休、勿。

⑦様態を表すもの

猛然、依然、仍然、逐步、逐渐、渐渐、亲自、擅自、百般、毅然、互相、特地。

8.1.14 李臨定著/宮田一郎訳『中国語文法概論』（1993：25～26）

李臨定著（1993：25～26）は、中国語の副詞を六種類に分類している。

①時間副詞 例：已经、刚、正在、将要、马上、立刻、常常、从来、随时、偶尔。

②範囲副詞 例：都、全、只、共、光、唯独、仅仅、一起、一齐。

③程度副詞 例：很、太、挺、极、十分、非常、最、顶、更、相当、稍稍、稍微、多么。

④否定副詞 例：不、没、没有。

⑤状態副詞 例：仍然、猛然、依然、忽然、渐渐、亲自。

⑥語気副詞 例：却、偏、倒、难道、到底、简直、也许、几乎。

8.1.15 屈承熹 纪宗仁（2005：79）《汉语认知功能语法》

屈承熹 纪宗仁（2005：79）は、中国語の副詞を九種類に分類している。また、いくつかの機能を表す副詞として「兼類副詞」もたてている。

①程度副詞

很、好、最、真、还、更、再、非常、十分、特别。尤其、有点、这么、那么…

②時間副詞

先、早、就、才、正、又、再、还、老、总、常、老早、已经、刚刚、忽然（突然）…

③地方副詞

哪儿、到处、一/满+名词（满街、一桌子）

④情态副詞

小声、用功、专心、小心、勉强、空手、光脚。

⑤肯定副詞及否定副詞

肯定：是、真是、可是（我们可是喜欢在家过假日。）

否定：不、没、不要、不想、不必、不妨、不如、也不、并不。

#### ⑥包容与数量副词

也、都、再、还、另外、就、才、刚、一共、大约、几乎/差不多、恰好（或刚好）

#### ⑦评量副词

可（是）、就（是）、也（飞机也不贵。）、都（连小孩都会。）、又（小明昨天晚上又发烧了。）、还好、居然、本来/根本、简直、反正、究竟、果然、其实

#### ⑧判断副词

真、一定、不一定、绝对、大概、也许。

#### ⑨兼类副词

本来（时间・评量）、才（时间・数量）、都（包容・评量）、刚刚（时间・数量）、还（程度・时间・数量）、就（时间・数量）、也（包容・评量）、一直（情态・时间）、又（时间・评量）、再（程度・时间・数量）、真（程度・判断）。

## 8.2 “把”構文における副詞“都”について

### 8.2.1 はじめに

“把”構文に副詞“都”を用いる場合、各文法学者は副詞“都”と「“把”＋名詞<sub>2</sub>」の前後に用いることができると述べる。筆者は本節において、実例から“把”構文の中の副詞“都”の位置を分析し、副詞“都”の位置互換性について考察する。

- (1) a. 我把那些资料都复印了。 （郭春貴 2001 : 225）  
（私は）それらの資料を全部コピーした。（筆者訳<sup>116)</sup>  
b. ?我都<sup>117)</sup>把那些资料复印了。 （作例）
- (2) a. 娃娃们都把大碗举向半空。 （《插队》）  
子どもたちは全員どんぶりを高く持ち上げた。 （筆者訳<sup>118)</sup>  
b. 娃娃们把大碗都举向半空。 （作例）  
子どもたちはどんぶりをすべて高く持ち上げた。 （筆者訳）
- (3) a. 小彬吃出一块糖来, 女生们都笑咪咪地把目光投向他, 说吃着了了的有福<sup>119)</sup>。  
（《插队》）

<sup>116)</sup> 郭春貴(2001 : 225)によれば、この文の訳文は「あの資料を全部コピーした」とあるが、筆者は説明するため、「(私は) それらの資料を全部コピーした。」と訳した。

<sup>117)</sup> この文の“都”は範囲副詞として非文であるが、強調を表す“连～都”の“都”であれば成立可能である。

<sup>118)</sup> “娃娃们都把大碗举向半空。”はコーパスから引用したものであり、その日本語訳は「子供たちはどんぶりを上に突き出し。」となっていたが、筆者が改めて訳した。

<sup>119)</sup> この文の“都”は“把”の前に置く場合であるが、以下の例(i)と(ii)のように文中に“笑咪咪地”などのような様態状語があり、範囲を表す副詞“都”はその前後のどちらにも置くことができる。なお、これについて、別稿に譲る。

(i) 小彬吃出一块糖来, 女生们都笑咪咪地把目光投向他, 说吃着了了的有福。(《插队》)

(ii) 小彬吃出一块糖来, 女生们笑咪咪地都把目光投向他, 说吃着了了的有福。(作例)

小杉が食べた餃子の中に砂糖のかけらが入っていたので、女子連中は縁起がいいと言ってにこにこしながら彼を眺めていた。(『大地』)

b. 小杉吃出一块糖来，女生们笑咪咪地把目光都投向他，说吃着了的有福。

訳文同上

(作例)

例(1)のaとbの文では、その構文構造は「名詞<sub>1</sub>(単数) + “把” + 名詞<sub>2</sub>(複数・多数) + 動詞 + その他」であり、aとbのどちらの文も範囲を表す副詞“都”の位置は変えることができないが、しかし、例(2)、(3)のaとbの文では、その構文構造は「名詞<sub>1</sub>(複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub>(複数・多数) + 動詞 + その他」であり、例(2)、(3)のaとbどちらの文も副詞“都”の位置を互換できる。ただし、例(2)のaとbの文の「名詞<sub>2</sub>」である“大碗”は「名詞<sub>1</sub>」である“娃娃们”の所有物であり、“大碗”と“娃娃们”は一对一の関係ではないので、副詞“都”の位置を互換すると文の意味に違いが生じるが、例(3) aとbの文の「名詞<sub>2</sub>」である“目光”と「名詞<sub>1</sub>」である“女生们”は一对一の関係であり、副詞“都”の位置を互換しても、その文の意味は基本的に変わらない。

なぜこのような現象が起きるのか、また、互換後の文の意味変化についても、本節において、連語論の観点から分析・考察を行う。

## 8.2.2 副詞“都”と“把”構文の中の副詞についての先行研究

### 8.2.2.1 副詞“都”についての先行研究

副詞“都”について、刘月华など(『現代中国語文法総覧』<sup>120)</sup> 1991: 187~219)では、「“都”は範囲を表す副詞で、普通、前で言及されている人又は事物の全部を統括する。」と主張する。また、李臨定(『中国語文法概論』1993:25~26)では、“都”という副詞は範囲副詞に属していると主張している。一般には副詞“都”は範囲または統括を表すと解釈されている。さらに高橋弥守彦(『実用詳解中国語文法』2006a: 175~176)によれば、「範囲副詞は数量の限定・種類の制限・同一出来事・追加などを表し」、また、範囲副詞“都”については、「“都”は副詞なので、前との直接的な関係

<sup>120)</sup> “都”は範囲を表す副詞で、普通、前で言及されている人又は事物の全部を統括する。しかし構文論上は後の動詞或は形容詞を修飾しており、“都”で統括されている人又は事物が、例外なく、述語動詞によって表される動作・行為を起こす、或は述語形容詞によって表される性質・状態を具えていることを表す。

① 咱们都不要客气。お互い遠慮するのはやめましょう。

①における“都”が統括しているのは“咱们”即ち話し手と聞き手の全部である。…

“都”の前で言及されている人又は事物がいずれも複数である場合、“都”が統括する部分としては三種類の場合がある時がある。

② 这几个句子大家都翻译得很好。このいくつかの文は皆さん全部良く訳せている。

②における“都”が統括しているのは“这几个句子”であるかも知らず、“大家”であるかも知らず、または“这几个句子”と“大家”の二項目を合わせたものかも知れない。これは言語的コンテキストによって決まる。あるいは話し手がプロミネンスをどこに置くかによって“都”の統括する項目が明らかになる場合もある。例えば例文(2)に於いて、プロミネンスが“这几个句子”にあればそれが統括されているのであり、プロミネンスが“大家”にあればそれが統括されているのである。

はなく、後ろの動詞や動詞連語が表す出来事と関係しているのです、それらの出来事が「同一」であることを表します。」と主張している。筆者も高橋（2006：175<sup>121)</sup>の「同一出来事」説に従って、論じたいと思う。

#### 8.2.2.2 “把”構文の中の副詞についての先行研究

##### 8.2.2.2.1 『現代中国語文法総覧』 刘月华 潘文娛 故犇 著（1991：623～641）

相原茂 監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之 共訳

刘月华など（1991）は、“把”構文の“把”と副詞の位置関係について、「述語の前に範囲を表す“都”、“全”などの副詞が用いられ、それが受け手目的語を統括する場合、“把”構文が用いられる。」と主張し例文も挙げている。

(4) 我一定要把我全部的手艺都传给你。(刘月华など 1991：627)

わしの持っているかぎりの技術を全てお前に伝授しよう。(同上)

##### 8.2.2.2.2 <状語的意義和状語在“把”字句中的位置>『中国語学』 加藤晴子<sup>122)</sup> (1995:88～95)

加藤晴子（1995）は以下のように述べている。

範囲を表す状況語は“把”の前に置く場合もあるし、“把”の後に置く場合もある。しかし同じ文の中で、“把”の位置が変わると、文として成立できない、あるいは文の意味が変わってしまう。その理由は状況語が制限される部分の後に置かれているからである。

(5) 这种态度使他只顾自己的生活，把一切祸患灾难都放在脑后。

(加藤晴子 1995:91)

このような態度は彼に自分の生活だけを考えさせ、あらゆる災難をすべて

<sup>121)</sup> 高橋（2006:175）によれば、また範囲副詞“都”について、以下のように述べている。

①二胡、琵琶都是民族乐器。(同一出来事) 二胡も琵琶も民族楽器です。(同上)

②我都认识他们。(同一出来事) 私は彼らをみな知っています。(同上)

③你都去访问什么地方？(同一出来事) どの都市を訪問しますか。(同上)

“都”の用法を説明する場合、これまでの説では例①)や③)のような例文だけを挙げ、平叙文などでは前を「総括」し、疑問文では後ろを「総括」するという説明がなされてきましたが、主体が単数を表し、前を総括できない例②)のような例文だと、「総括」を表すというこれまでの説明では不十分となります。“都”は副詞なので、前と直接的な関係はなく、後ろの動詞や動詞連語が表す出来事と関係しているのです、それらの出来事が「同一」であることを表すと説明すれば、この奇妙な説明をしなくて済みます。高橋（2006:175）によれば、「例①)の“胡、琵琶”はいずれも“都”によって出来事が同一“民族楽器”であることを表している。例②③)の“都”も同様に動詞や動詞連語で作る出来事が「同一」であることを表している。なお、例②)は“他们，我都认识。”と言うほうが一般的です。」と主張している。

<sup>122)</sup> 加藤晴子（1995）は以下のように述べている。

表示範囲の状況語は時々出现在“把”前，有时出现在“把”后，但它们在同一个句子里改变位置以后，句子或不能成立或意思会发生变化。这是因为它们出现在所限制范围的对象之后。

①这种态度使他只顾自己的生活，把一切祸患灾难都放在脑后。(加藤晴子 1995:91)

⇨\*这种态度使他只顾自己的生活，都把一切祸患灾难放在脑后。(加藤晴子 1995:91)

②我们把孩子们都送走，<总括“孩子们”>

⇨≠我们都把孩子们送走，<总括“我们”>



後回しさせている。(筆者訳)

⇨\*这种态度使他只顾自己的生活，都把一切祸患灾难放在脑后。

(加藤晴子 1995:91)

(6)我们把孩子们都送走，〈总括“孩子们”〉

われわれは子供たちをみんな見送った。(筆者訳)

⇨≠ 我们都把孩子们送走，〈总括“我们”〉

われわれは全員子供たちを見送った。(筆者訳)

加藤晴子(1995:88~95)は、範囲副詞“都”を使う場合、“把”の前後に置くことができるかどうかについて、具体的に述べていない。また、“把”の前後に置いたとき、文の意味の変化についても述べていない。その理由について、その前の部分を「総括」として述べている。加藤晴子をはじめとする一般的な観点に対して、筆者は“都”を“把”の前後に置く互換条件と互換後の意味の差異について、またその理由についても連語論の観点から論じる。

#### 8.2.2.2.3 『誤用から学ぶ中国語』 郭春貴 著(2001:216~227)

郭春貴(2001)は、「“把”は介詞ですが、助動詞、副詞、否定副詞は介詞の前に置かなければなりません。一部の副詞はたまに動詞の前に置けますが、ほんの少数なので、あまり気にしなくてもよろしいです。(中略)この副詞“都”は普通“把”の前に置けますが、もし目的語の範囲を示すならば、動詞の直前に置くこともできます。」と主張している。

(7)我把那些资料都复印了。(郭春貴 2001:225)

あの資料を全部コピーした。(同上)

#### 8.2.2.2.4 《汉语的结构和句子研究》 杨德峰 著(2004:136~149)

杨德峰(2004)は、“都、全、全都、一概”などのような総括範囲副詞は“把”構文の中で状語になるとき、その位置は二箇所あり、一つは“把”の前に置く、もう一つは動詞の前に置く。どこに置くかは、副詞の語義がどこを指すかによる。もしも副詞の語義が主語を指すなら、総括副詞は“把”の前に置く(例8)。

(8)他们仨都把姓名告诉了我。(杨德峰 2004:137)

彼ら三人は全員が名前を教えてくれた。(筆者訳)

(9)我笑嘻嘻地把八张牌都收了回来。(杨德峰 2004:137)

私は笑いながら八枚のカードを全てしまった。(筆者訳)

もしも副詞の語義は“把”の賓語を指すなら、状語は動詞の前に置くべき(例9)と主張している。

これらの先行研究は言語事実の角度から論じているが、その理由については、「総括」、「語義指向」、「範囲」などの視点から論じている。しかし、“把”構文に用いる“都”の位置の互換については、ふれていない。

### 8.2.3 “把”構文における副詞“都”の位置

先行研究では、“把”構文の中に用いる“都”は、“把”の前にも後にも用いられる、と指摘している。“把”の前に用いるとの指摘には（郭春貴 2001：217～227、楊德峰 2004：136）があり、「把」＋客體の後、動詞の前に用いるという指摘には（劉月華 など 1991：623～641、郭春貴 2001：217～227、楊德峰 2004：136）がある。その理由について、各研究者は、「統括」、「範圍」、「語義指向」などの観点から論じている。筆者は連語論の観点から副詞“都”の位置が文に与える意味的な影響について分析してみる。

#### 8.2.3.1 “把”の前に“都”が用いられる場合

副詞“都”について、一般には範圍・統括を表すと述べられている。高橋弥守彦（『実用詳解中国語文法』2006a：175～176）では「同一出来事」を表すとしている。以下に挙げる文で分析してみよう。

(10) 我们虽然有时开些没分寸的玩笑,但心里都把爱情看得纯洁、神圣。(《插队》)  
われわれは時に度の過ぎた冗談を言うことはあるが、心の中では愛情を純潔で神聖なものと考えていた。(『大地』)

(11) 夏天的晚上,邻居们在院子里乘凉。香茶、团扇,徐徐的晚风,明亮的星星,有趣的新闻,海阔天空的闲扯,都不能把这对“书呆子”从闷热的小屋里吸引出来。(《中年》)

夏の夜に隣家の人びとは庭に出て、夕涼みをする。お茶を入れ、団扇を使い、そよ風に吹かれ、星を仰いで世間話にうつつをぬかす。こういった風情も、このカップルの「本の虫」を、蒸し暑い部屋の中から外に引き出すことはできなかった。(『人』)

例(10)の「名詞<sub>1</sub>」である“我们”の「同一出来事」は核「変化のくみあわせ」を表す“把爱情看得纯洁、神圣”である、高橋(2006：175～176)によれば、副詞“都”は出来事が「同一」であることを表すので、副詞“都”は、その「同一出来事」の前に用いられている。同様に、[表2]のように、例(11)の中における出来事は「変化のくみあわせ」を表す“把这对‘书呆子’从闷热的小屋里吸引出来。”であり、否定副詞と助動詞はこの「変化のくみあわせ」の前に置く。“不能把这对‘书呆子’从闷热的小屋里吸引出来”は“香茶”、“团扇”、“徐徐的晚风”、“明亮的星星”、“有趣的新闻”、“海阔天空的闲扯”それぞれの「同一出来事」であり、副詞“都”はこの「同一出来事」の前に用いられる。つまり、“把”の前に“都”を置く場合は「主語」を総括するということである。

[表2] 例(11)の「同一出来事」の説明

名詞 <sub>1</sub>	「同一出来事」(「変化のくみあわせ」)
“香茶”	<u>不能把这对“书呆子”从闷热的小屋里吸引出来</u>
“团扇”	
……	
“海阔天空的闲扯”	

8.2.3.2 「把」+ 客体」の後ろ、動詞の前に「都」が用いられる場合

(12) 他歪着头比划，把周围的人都看一遍。(《插队》)

彼は頭を傾けて手でそれを示して周囲の人々にひと渡り見た。(『大地』)

(13) 过节时请几个朋友来，施展一下中国的烹调技术，(艺术，我说)，把那些美国人都惊倒。(《插队》)

祝日には友人を数人招待して中国の料理技術(私に言わせれば芸術だ)を発揮し、アメリカ人を卒倒させてやろう。(『大地』)

(14) a. 他立刻跑到银行把几年来存下的几百元钱全都<sup>123)</sup>取了出来。

(刘月华など 1991 : 627)

銀行まで走っていき、この何年かの間に貯めた何百元かの金を残らずおろしてしまった。(刘月华など 1991 : 627)

例(12)の「名詞<sub>1</sub>」である“他”の出来事は“看(周围的人)”であり、“周围的人”は一人ではない。よって、“看周围的人A”、“看周围的人B”などの「同一出来事」は“看(周围的人)”であり、副詞“都”は「同一出来事」“看(周围的人)”の前に用いられる(以下の[表3]のようにである)。

[表3] 例(12)の「同一出来事」の説明

名詞 <sub>1</sub>	「同一出来事」	
“他”	“看”	(“周围的人”) { A B …

上掲の例文と同様に、例(13)の「同一出来事」は“惊倒(美国人)”であり、例(14)の「同一出来事」は“取了出来(几年来存下的几百元钱)”である。よって、これらの“把”構文の中の副詞“都”は、どちらも動詞“惊倒”と“取了出来”の前に用いら

<sup>123)</sup> 範囲副詞“全”、“全都”は“都”と同様に扱う。

れている。つまり、動詞の前、“把”の後の“都”は客体を総括するというのである。

#### 8.2.4 副詞“都”の位置の互換条件及び互換後の差異について

##### 8.2.4.1 副詞“都”の位置の互換条件

副詞“都”が用いられる“把”構文の構造には以下の三種類がある。

- (i) 名詞<sub>1</sub> (複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (単数) + 動詞 + その他
- (ii) 名詞<sub>1</sub> (単数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他
- (iii) 名詞<sub>1</sub> (複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他

(i) の「同一出来事」は、「変化のくみあわせ」を表す“把” + 名詞<sub>2</sub> (単数) + 動詞 + その他である。そのため、副詞“都”は介詞“把”の直前にしか置くことができない。同様に、(ii) の「同一出来事」は動詞 + (“把”の客体) であり、この場合の副詞“都”も“把”の直前にしか置くことができない。(iii) の「同一出来事」は、「変化のくみあわせ」を表す“把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他でもあり、動詞 + (“把”の客体) でもある。従って、副詞“都”も「変化のくみあわせ」である“把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他直前にも、動詞 + (“把”の客体) 直前にも置くことができる。ただし、“都”は同時に文中の二箇所を用いることができるのではなく、どちらか一方にしか置くことはできない。文中における副詞“都”の位置により文意が異なってくる。

副詞“都”の位置互換条件は、「同一出来事」が二つ文中にあることである。言い換えると、(i) 「名詞<sub>1</sub> (複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (単数) + 動詞 + その他」(例 15) と (ii) 「名詞<sub>1</sub> (単数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他」(例 16) の場合、副詞“都”の位置は互換できない。(iii) 「名詞<sub>1</sub> (複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub> (複数・多数) + 動詞 + その他」(例 17) の場合は、それができる。例 (17) a と (17) b のように、副詞“都”は“把”の直前にも置くことができるし、“把”の後の動詞の直前にも置くことができる。しかし、介詞“把”とその前後に置く副詞“都”の関係は、以下に挙げる例文のとおりである。

(15) 张大爷已经快七十了，可大家都把他当五十多岁的人。(加藤晴子 1995:91)

張おじさんはもうまもなく70歳になるけれど、みんなは全員が50歳いくつかの人だと見なしている。(筆者訳)

⇨\*张大爷已经快七十了，可大家都把他都当五十多岁的人。(加藤晴子 1995:91)

(16) 那时候，工宣队为了让大家都去，就把该去的地方都宣传得像二等天堂。(《插

隊))

あの頃労働者宣伝隊はみんなを農村へ行かせるために行くべき場所を第二の天国のように宣伝した。(『大地』)

⇨\*那时候, 工宣队为了让大家都去, 就都把该去的地方宣传得像二等天堂。

(《插队》)

- (17) a. 娃娃们都把大碗举向半空。 (前出 2)  
子どもたちみんなはどんぶりを高く持ち上げる。 (同上)
- b. 娃娃们把大碗都举向半空。 (前出 2)  
子どもたちは全てのどんぶりを高く持ち上げる。 (同上)

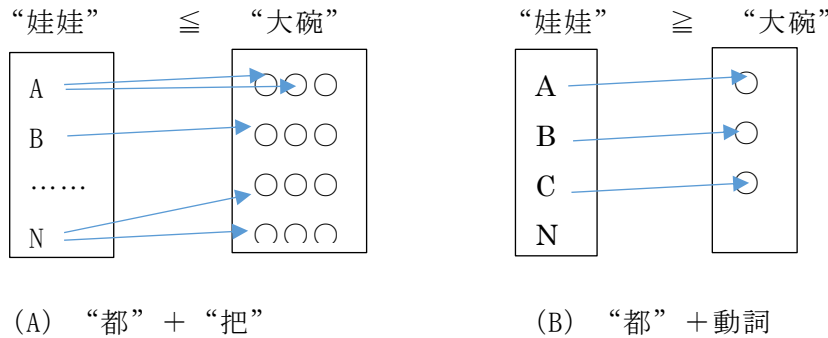
#### 8.2.4.2 互換後の差異

“把”構文の構造「名詞<sub>1</sub>(複数・多数) + “把” + 名詞<sub>2</sub>(複数・多数) + 動詞 + その他」の“把”構文に「同一出来事」が二つある場合、以下の例文に示すように“都”の位置は互換できる。

- (18) a. 我们都把那些资料复印了。 (作例)  
私たちはあの資料をそれぞれ一部ずつコピーした。(筆者訳)
- b. 我们把那些资料都复印了。 (作例)  
(私たちは) あの資料を全部コピーした。(筆者訳)

例(17)の「名詞<sub>1</sub>」である“娃娃们”と「名詞<sub>2</sub>」である“大碗”は、一対一の関係ではない。「変化のくみあわせ」である「同一出来事」の“把大碗举向半空”と“举(大碗)”という「同一出来事」は一致しない。“大碗”は“娃娃们”の所有物であり、一人の“娃娃”は一つの“大碗”だけを持っているわけではなく、複数の“大碗”を持っている場合も十分あると考えられる。言い換えれば、 $\boxed{\text{“大碗”の数}} \geq \boxed{\text{“娃娃们”の数}}$ という可能性があり、一人の“娃娃”は“大碗”を高く持ち上げても、自分が持っている“大碗”の全てを持ち上げているとは限らない。よって、例(17) aの“娃娃们”はそれぞれ碗を持っているが、残っている碗がある可能性もある(下記の[図1]のAのように)。一方では、例(17) bの碗は全て高く持ち上げられたが、 $\boxed{\text{“大碗”の数}} \leq \boxed{\text{“娃娃们”の数}}$ という可能性もあり、碗を持ってない“娃娃们”がいる(下記の[図1]のBのようにである)。よって、例(17) aとbとでは、副詞“都”の位置は介詞“把”の前後に置くことができるが、“都”の位置の互換前後では文の意味が変わってしまう。

[図 1]



同様に、例 (18) の「名詞<sub>1</sub>」である“我们”と「名詞<sub>2</sub>」である“那些资料”は一対一の関係ではないので、この文も副詞“都”の位置を互換すると、文の意味が変わってしまう。

一方、以下の例 (19) と例 (20) を見てみよう。

(19) a. 小彬吃出一块糖来，女生们都笑咪咪地把目光投向他，说吃着了的有福。

(前出 3)

小彬が食べた餃子の中に砂糖のかけらが入っていたので、女子連中は縁起がいいと言ってにこにこしながら彼を眺めていた。(前出 3)

b. 小彬吃出一块糖来，女生们笑咪咪地把目光都投向他，说吃着了的有福。

(訳文同上)

(作例)

(20) a. 他们仨都把姓名告诉了我。(前出 8)

彼ら三人みんなが名前を教えてくれた。(同上)

b. 他们仨把姓名都告诉了我。(作例)

(訳文同上)

例 (19) の「名詞<sub>1</sub>」である“女生们”と「名詞<sub>2</sub>」である“目光”は一対一の関係であり、一般に“女生们”の数=“女生们”の“目光”の数であり、「変化のくみあわせ」である「同一出来事」“把目光投向他”と“投(目光)”は「同一出来事」と一致する。よって、例 (19) a と例 (19) b との意味は基本的に同じである。同様に、例 (20) の「名詞<sub>1</sub>」である“他们仨”と「名詞<sub>2</sub>」である“姓名”は「全体」と「部分」の関係であり、「部分」は「全体」を表す「主語」の一部であり、よって、“他们仨”の人数=“(他们仨)的姓名の数”である。「変化のくみあわせ」である「同一出来事」“把姓名告诉了我”と“告诉(了我)姓名”は「同一出来事」と一致する。よって、例 (20) a と例 (20) b との意味は基本的に同じであり、“都”が“把”の前後にあっても、実質的に主語を表しているので、“都”をどちらに置いてもよい。つまり、副詞“都”の位置を互換しても、互換前後で文としての意味に基本的に変化はない。しかし、“都”を“把”の前におくと、“都”が強調される。

### 8.2.5 おわりに

本節では“把”構文（「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」）の中における副詞“都”の位置について考察してみた。“把”構文の構文構造は「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」のうち、連語で作る「変化のくみあわせ」を「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」としている。連語論の観点からみると、「同一出来事」を表す副詞“都”の語順は、主として「変化のくみあわせ」との関係が深く、切り離せないものである。

副詞“都”は「変化のくみあわせ」の状況を表すので、やはり“把”の直前に置くべきである。しかし、「変化のくみあわせ」を作る「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」の中の動詞を修飾するのであれば、その動詞の直前に置くべきである。ただし、二つの文の意味は同じではない。

副詞“都”が用いられる“把”構文の構造には以下の三種類がある。

- (i) 名詞<sub>1</sub>（複数・多数）＋“把”＋名詞<sub>2</sub>（単数）＋動詞＋その他
- (ii) 名詞<sub>1</sub>（単数）＋“把”＋名詞<sub>2</sub>（複数・多数）＋動詞＋その他
- (iii) 名詞<sub>1</sub>（複数・多数）＋“把”＋名詞<sub>2</sub>（複数・多数）＋動詞＋その他

(i) と (ii) の場合、“都”のそれぞれの位置<sup>124)</sup>は互換できない。だが、(iii) のように互換できる。「名詞<sub>1</sub>」と「名詞<sub>2</sub>」が一对一の関係でないとき、互換前後での文の意味に変化が生じる。一方で、「名詞<sub>1</sub>」と「名詞<sub>2</sub>」が一对一の関係である場合は、互換前後での文の意味には基本的に差異が生じない。

## 8.3 “把”構文における副詞“又”“再”について

### 8.3.1 はじめに

“把”構文（構文構造「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」）に副詞“又”、“再”を用いる場合、各文法学者はこれらの副詞を「“把”＋名詞<sub>2</sub>」<sup>125)</sup>の前にも後にも用いることができると言っている。だが、その理由については、それぞれの説があり統一された見解になっていない。筆者はその理由については、事例を調査し、連語論の観点から分析を行う。また、同一の“把”構文の中で副詞“又”、“再”の位置を互換できる点についても、事例から考察、分析する。

(21) a. 他<sup>又</sup>把您添的家具搬走了几件。(加藤晴子：91)

彼はまたあなたが揃えた家具を何個か持って行った。(筆者訳)

<sup>124)</sup> “把”構文の文中で“把”の前に状語がある場合、“都”の位置と状語の位置とが互換できうる。この点については、別稿に譲る。

<sup>125)</sup> 「“把”＋名詞<sub>2</sub>」のことは、以下[把]と略称する。

⇒ b.他把您添的家具又搬走了几件。(加藤晴子：91)

彼はあなたが揃えた家具をまた何個か持って行った。(筆者訳)

(22) a.高大泉扬起通红的脸蛋，躲闪着娘，把那盛满井水的瓦罐从这只手倒换到另一只手上，用胳膊腕子抹抹脑门上的汗珠，那俊气的眼睛一眯，笑了。

(《金光大道》)

高大泉は、まっかになった顔をあげて、母親をかわし、井戸水をいっぱいにしたかめをもちかえ、うででひたいの汗をふき、そのさわやかな目をほそめて笑った。(『輝ける道』)

⇒ ≠ b.高大泉扬起通红的脸蛋，躲闪着娘，把那盛满井水的瓦罐又从这只手倒换到另一只手上，用胳膊腕子抹抹脑门上的汗珠，那俊气的眼睛一眯，笑了。

(作例)

例(21)の文中の副詞“又”は“把”構文の中の[把]の前にも後にも置くことができ、位置を入れ換えても、文の意味は基本的に変化しない。つまり、この場合には、副詞“又”は“把”構文の中で位置互換性があると言える。一方で、例(22)の文中の副詞“又”は“把”構文の中の[把]の前に置くことができる上に、“把”構文の中の[把]の後、すなわち動詞の前にも置くことができる。しかしながら、[把]の前後に副詞を用いると、文の意味に違いが生じてしまう。つまり、この場合は、副詞“又”に位置互換性がないと言える。なぜこのような現象が起きるのか、また、位置互換性の条件および理由、互換後の文の意味変化についても、本節において、連語論の観点から分析、考察を行う。

### 8.3.2 “把”構文の中の副詞“又”と“再”の位置についての先行研究

#### 8.3.2.1 <浅谈“把”字句状语的位置> 《河南师大学报》程仪 (1983:93~95)

程仪(1983:93~95)<sup>126)</sup>によれば、“又”、“也”のような“频率副词”(頻度副詞)が状況語になる時、[把]の前にも後にも置くことができる。[把]の前に置くと、“又”は頻度を表す状況語としての働きを持つが、副詞“也”は[把]の後に置くと、“把”の賓語(名詞<sub>2</sub>)を焦点化する状況語になる、と主張している。だが、副詞“又”の位置互換性については、言及していない。

#### 8.3.2.2 『現代中国語文法総覧』 刘月华 潘文娛 故犇著 (1991: 623~641)

相原茂 監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之 共訳

刘月华など(1991)は、“把”構文中における副詞について、以下のように述べてい

<sup>126)</sup> 程仪(1983:93~95)によると、頻度副詞について、“范围副词、频率副词充当状语置于把字前后均可。例如：……③她们不让小金子出来，每天早晨，小胜儿把饭食送进洞里去，又把便尿端出来。(孙犁《白洋淀记事》第32页)④想到这里，他拉过椅子，靠近柳彤坐下，把柳彤也按着坐下来。(宄彩屏《马兰草》第303页)……例③是频率副词充当状语，置于“把”字之前，④是频率副词充当状语，置于“把”字之后。一般地说，前置的强调频率状语，后置的强调意念宾语。”と述べている。



る。

反復を表す副詞“再”、“又”、及びその他いくつかの副詞は“把”の前に置くこともでき、“把”の目的語の後に置くこともできる。

(23) a. 你把他<sup>又</sup>叫回来了干什么? (刘月华 1991: 635)

彼をまた呼び戻してどうするんだ? (同上)

b. 你<sup>又</sup>把他叫回来了干什么? (同上)

また彼を呼び戻してどうするんだ? (同上)

(24) a. 他拼死拼活地干, 想把地<sup>再</sup>买回来。(刘月华 1991: 635)

彼は必死になって働いて畑をまた買い戻そうとした。(同上)

b. 他拼死拼活地干, 想<sup>再</sup>把地买回来。(同上)

彼は必死になって働いてまた畑を買い戻そうとした。(同上)

相原ほか(1991: 635)は“把”構文の中の副詞“又”“再”の位置互換が可能であるということについて説明しており、両者の違いを「また」の文中の位置のちがいに反映させたのは新たな成果であるが、なぜそれが可能なのかという理由については、説明していない。また互換できない理由についても、明確な説明がない。

### 8.3.2.3 <状语的意义和状语在“把”字句中的位置>『中国語学』加藤 晴子 (1995:88~95)

加藤晴子(1995:88~95)では、以下のように述べている。

表示重复的状语有两小类:第一小类既可出现在[“把”前]又可出现在[“把”后],也可以同一句里改变位置。

(25) a. 他把剪子<sup>又</sup>落在里头了。(加藤晴子 1995:91)

⇒b. 他<sup>又</sup>把剪子落在里头了。(同上)

有少数不能挪到[“把”后]的。

(26) a. 罗队长马上<sup>又</sup>把问题提到哲学的高度, 说:(加藤晴子 1995:91)

⇒b. \*罗队长马上把问题<sup>又</sup>提到哲学的高度, 说:(同上)

第二小类只能出现在[“把”后]。

(27) a. 您把那皮鞋<sup>再</sup>擦擦吧。(加藤晴子 1995:91)

⇒b. \*您<sup>再</sup>把那皮鞋擦擦吧。(同上)

“再”有时候起关联作用,不表示重复,这时候“再”只能出现在[“把”前]<sup>127)</sup>。

<sup>127)</sup> “再”有时候起关联作用,不表示重复,这时候“再”只能出现在[“把”前]。この点について、加藤晴子(1995:89)は関連を表す副詞の例文を挙げている。

例:a.他只有这么一个姑娘,眼看是没有出嫁的希望了,他不能<sup>再</sup>把她这个朋友赶了走。(加藤晴子:89)

彼にはこの娘しかない、嫁さんになる見込みがないとなると、彼は娘のこの友達を追い出す

加藤晴子(1995)は例(25)の文の重複副詞位置が互換できるということを明らかにしたが、なぜ二つの位置が可能なのかという点については、説明されていない。例(26)、(27)の文中の副詞の位置について、加藤晴子(1995)は、互換が不可能な場合もあると述べているが、筆者は可能であると考え。その理由については後述する。

#### 8.3.2.4 《汉语的结构和句子研究》 杨德峰 著(2004: 136~149)

杨德峰(2004)は、“又、再”などのような重複を表す副詞が“把”構文の中の状況語になるとき、その位置は二箇所あり、一つは“把”の前に置く、もう一つは動詞の前に置く。どこに置くかは、この副詞の語義が何を指すかによる。もしも副詞の語義が“整个事件”(事柄全体)を指すなら、重複副詞は“把”の前に置く(例30、32)。

(28) 回家<sup>又</sup>把这件事跟妈妈说了。(杨德峰 2004: 138)

家に帰ると、またこの事を母に話した。(筆者訳)

(29) 宋大成把烟<sup>又</sup>塞回沪生手里。(杨德峰 2004: 138)

宋大成はタバコをまた沪生の手の中にやや強引に握らせた。(筆者訳)

(30) <sup>再</sup>把昨天的账目誊一份给我。(杨德峰 2004: 138)

また昨日の収支明細を私に一部書き写してください。(筆者訳)

(31) 把昨天的账目<sup>再</sup>誊一份给我。(杨德峰 2004: 138)

昨日の収支明細をまた私に一部書き写してください。(筆者訳)

もしも副詞の語義が動詞を修飾するなら、状況語は動詞の前に置くべき(例29、31)と主張している。杨德峰(2004)は“语义指向”(「意味指向」)の視点から論じているが、同一の“把”構文に用いる“又”、“再”などの位置の互換前後の文意の異同については、触れていない。

本節は上記先行研究の成果をもとに、“把”構文における“又”、“再”の位置と意味機能の問題について、連語論の観点から具体的に分析を行う。

#### 8.3.3 “把”構文における副詞“又”の位置及び互換条件について

“把”構文の中に用いる副詞“又”は、[把]の前にも後にも用いられるとする指摘には(程儀 1983:93~95、刘月华など 1991: 623~641、加藤晴子 1995:88~95、杨德峰 2004: 136)があり、その理由については、“语义指向”(「意味指向」)などの観点から論じられているが、筆者はこの問題を連語論の観点から分析を試みる。

---

ことがもはやできなくなった。(筆者訳)  
⇨b.\*他只有这么一个姑娘，眼看是没有出嫁的希望了，他不能把她这个朋友<sup>再</sup>赶走了。  
(加藤晴子: 89)

《现代汉语词典》第7版（2016：1592）によれば、“又”<sup>128)</sup>の意味について、①重複と継続、②補充あるいは追加、③ほかの状況を説明する、など六つの用法を挙げられている。

### 8.3.3.1 “把”構文の中に用いる副詞“又”が、[把]の前にも用いられる理由

副詞“又”は重複を表す副詞（以上の用法①）であると同時に関連を表す副詞（以上の用法②と③）でもある。本節では、「重複を表す副詞」“又”を「重複副詞」と名付け、“又<sub>1</sub>”と表記する。また、「関連を表す副詞」“又”を「関連副詞」と名付け、“又<sub>2</sub>”と表記する。以下は“把”構文の中に用いる副詞“又”が、[把]の前にも用いられる実例である。この場合、複文中の主節において、接続的な働きを表す。

(32) a. 浪峰上有时托起一块上百斤重的大树根，然后 $\boxed{\text{又}_1}$ 把它重重地摔进河底，一会又见它在远处的急流里翻滚上来。（《插队》）

時折波頭に百斤もある木の株が持ち上げられてから、 $\boxed{\text{また}}$ 重そうに川底に引きずりこまれ、しばらくすると遠くの急流の中で揉まれている。『大地』)

⇒b. 浪峰上有时托起一块上百斤重的大树根，然后把它 $\boxed{\text{又}_1}$ 重重地摔进河底，一会又见它在远处的急流里翻滚上来。（作例）

時折、波頭に百斤もある木の株がうちあげられるが、重そうに $\boxed{\text{また}}$ 川底に引きずりこまれ、しばらくすると遠くの急流の中を波に揉まれて流れている。（筆者訳）

(33) a. 连自己的事也不大能详细的想了，他的头是那么虚空昏胀，仿佛刚想起自己，就 $\boxed{\text{又}_1}$ 把自己忘记了，象将要灭的蜡烛，连自己也不能照明白了似的。（《骆驼》3)

そういう自分のことすらもじっくり考えてはいられなかった。頭のなかからはからっぽで、ふとわれにかえたかと思うと、すぐ $\boxed{\text{また}}$ わからなくなってしまふ。それはちょうど、消えかかった蠟燭が、自分自身をすらよう照らしだすことができないようなものであった。（『らくだ』：38）

⇒b. 连自己的事也不大能详细的想了，他的头是那么虚空昏胀，仿佛刚想起自己，就把自己 $\boxed{\text{又}_1}$ 忘记了，象将要灭的蜡烛，连自己也不能照明白了似的。（作例）

訳文同上

<sup>128)</sup> 《现代汉语词典》第7版（2016：1592）によれば、“又”は以下のように述べている。①表示重复或继续。例：他拿着这封信看了又看。②表示几种性质或情况同时存在。例：又好又快。③表示补充，追加。例：孔子是教育家，又是思想家。④表示整数之外再加零数。例：一又二分之一。⑤说明另一方面的情况。例：心里有千言万语，可嘴里又说不出。⑥用在否定句或反问句里，加强语气。例：我又不是客人，你就不用客气了。

一方で、例(32) aの副詞“又<sub>1</sub>”は重複を表しているので、「変化のくみあわせ」を表す出来事は“把它重重地摔进河底”である。これを一つの事態としてまとめて考えると、“又<sub>1</sub>”はその前に用いられる。また、「変化のくみあわせ」内部の動詞を修飾すると、その動作の重複だけに焦点を当てていることになる。このような場合であれば、副詞“又<sub>1</sub>”は位置互換性を持つ。しかも、互換前後であっても文の意味に変化は基本的でない。同様に、例(33)の副詞“又<sub>1</sub>”は「もう一度」という意味を表し、その位置は“把”の前でも後でもよい。しかも互換前も互換後も基本的には文の意味に変化は生じない。

(34) a. 高大泉勉强地吃了半个饼子, 又<sub>2</sub>把另外两个饼子揣在怀里, 谢过了好心的人, 就摇摇晃晃地朝前走了。(《大道》)

高大泉は、餅子の残り半分をつめこむと、別にもらった二つをふところに押しこみ、親切な男に礼をいい、ふらふらと歩きだした。(『道』)

⇒≠b. 高大泉勉强地吃了半个饼子, 把另外两个饼子又<sub>2</sub>揣在怀里, 谢过了好心的人, 就摇摇晃晃地朝前走了。(作例)

(35) a. 高大泉没吭声, 先蹲下, 装了一袋烟, 又<sub>2</sub>把烟荷包递给了张金发。(《大道》)

高大泉はとりあわずにしゃがみこんで、キセルに刻みをつみ、刻み入れを張金發に渡した。(『道』)

⇒≠b. 高大泉没吭声, 先蹲下, 装了一袋烟, 把烟荷包又<sub>2</sub>递给了张金发。(作例)

関連副詞“又<sub>2</sub>”は、その前後の出来事の関係を表す関連副詞なので、後の出来事「変化のくみあわせ」を表す連語の前に用いられる。例(34) aの核である「変化のくみあわせ」は“把另外两个饼子揣在怀里”であり、前の出来事“勉强地吃了半个饼子”と後の出来事“把另外两个饼子揣在怀里”をつなげている。また、後ろの出来事は一つの出来事と考えられるので、関連副詞“又<sub>2</sub>”は後の出来事「変化のくみあわせ」の前に用いられる。この文の関連副詞“又<sub>2</sub>”の位置は互換ができない。例(34) aの“又<sub>2</sub>”は日本語に訳すと、「もう一度」ではなく、「別に」という意味である。同様に、例(35)の文も“又<sub>2</sub>”は関連副詞として使われている。この場合も、副詞“又<sub>2</sub>”の位置は互換できない。この“又<sub>2</sub>”も「もう一度」ではなく、「それから」という意味である。上掲の日訳では“又”の意味が省略されている。

また、ここで前述の例(26)をもう一度見てみよう。

(26)' a. 罗队长马上又把问题提到哲学的高度, 说: (加藤 晴子 1995:91)

羅隊長はすぐにまた問題を哲学のレベルまでに押し上げて言った:

(筆者訳)

⇒b. \* 罗队长马上把问题<sup>又</sup>提到哲学的高度，说：（同上）

例(26)' aの文中の“又”が重複副詞である場合、この文を(26)' bに書き換えることができ、しかも二つの文の意味は基本的に変わらない。

### 8.3.3.2 “把”構文の中に用いる副詞“又”が、[把]の後に用いられる理由

“又”が[把]の後に用いられる例は非常に少ない。『中日対訳コーパス（第一版）』北京日本研究センター2003「コーパス」の《丹凤眼》、《插队的故事》、《人到中年》、《金光大道》、《盖棺》、《轱辘把胡同9号》に見られる601例と、《骆驼祥子》の428例を合わせた1029例の“把”構文中で、“又”が[把]の前に用いられる例は35例あるが、“又”が[把]の後に用いられる例は6例しかない。

(36) a. 他便难为情地把烟盒上的锡纸<sup>又</sup>包好，收起来。“其实我也不会。”

（《插队》）

彼は気まずそうに銀紙を包み直してポケットにしまった。「実はおれもだ」。『大地』

⇒b. 他便难为情地<sup>又</sup>把烟盒上的锡纸包好，收起来。“其实我也不会。”（作例）  
訳文同上

副詞“又”が動詞の前に用いられる場合、その動作を繰り返すことを表しているの、その場合、“又”は“又<sub>1</sub>”であり、“又<sub>1</sub>”の位置を互換できる。しかも互換前後の文の意味（例36aと36b）に意味変化は基本的に生じない。

副詞“又”の機能はいくつかあるが、ここでは重複副詞と関連副詞の機能について言及する。“又”は重複副詞であると同時に関連副詞でもあるが、重複副詞の場合であれば、“又<sub>1</sub>”は[把]の前にも後にも置くことができる。しかも、同一の文の中で、“又<sub>1</sub>”の位置を互換しても、文の意味としては変わらない。関連副詞の場合、“又<sub>2</sub>”は[把]の前にしか置くことができず、位置互換ができない。なぜならば、「変化のくみあわせ」があるため、関連副詞“又<sub>2</sub>”は排除される。時系列を表す関連副詞は一つの出来事を表す「変化のくみあわせ」の中に入れることができない。「変化のくみあわせ」の中にいれると、“又<sub>2</sub>”が関連副詞の性質を失ってしまい、関連副詞“又<sub>2</sub>”は重複副詞“又<sub>1</sub>”に変わってしまうのである。

### 8.3.4 “把”構文における副詞“再”の位置及び互換条件

『中日対訳コーパス（第一版）』北京日本研究センター2003「コーパス」の《丹凤眼》、《插队的故事》、《人到中年》、《金光大道》、《盖棺》、《轱辘把胡同9号》の601例と《骆驼祥子》の428例を合わせた1029例の“把”構文中で、“再”が[把]の前に用いられる例はわずか5例のみである。[把]の後に用いられる例は1例も検出されなか

った。

- (37) a. 算啦，**再**把我身上裹的这些捣腾给你，一丝一缕的，不又得折腾上半天？  
你的裤子，你去算啦！（《盖棺》）

やめとこう。それに、とりかえるといっても、おれの脚に巻きつけてあるボロを、一つ一つはずして、またおまえの脚に巻きつけるのに半日はかかってしまう。おまえにはズボンがあるんだから、いっそおまえが行けよ。

（『棺』）

- ⇨≠b. 算啦，把我身上裹的这些**再**捣腾给你，一丝一缕的，不又得折腾上半天？  
你的裤子，你去算啦！（作例）

訳文同上

- (38) a. 瘸子把一根铁丝缠在孩子胸上，**再**把鼓敲一阵。（《插队》）

（男が）針金を子どもの胸に巻き付けてもう一座小太鼓を叩いた。（『大地』）

- ⇨≠b. 瘸子把一根铁丝缠在孩子胸上，把鼓**再**敲一阵。（作例）

訳文同上

- (39) a. 我们**再**把表往回拨。（《插队》）

私たちはもう一度針を戻しておく。（『大地』）

- ⇨?b. 我们把表**再**往回拨。（作例）

訳文同上

- (40) a. 当她小心翼翼地把眼球结膜剪开，**再**把角巩膜半切开时，在一旁的姜亚芬已把穿好线的针递了过来。（《中年》）

彼女は注意深く眼球の結膜を切開し、鞏角膜を半層切開した。この時いち早く、側にいた姜亜芳が糸を通した針を差し出した。（『人』）

- ⇨≠b. 当她小心翼翼地把眼球结膜剪开，把角巩膜**再**半切开时，在一旁的姜亚芬已把穿好线的针递了过来。（作例）

例（37）、（38）、（39）、（40）の副詞“再”は、その前後の出来事の関係を表す関連副詞なので、後の出来事「変化のくみあわせ」を表す連語の前に用いられる。副詞“再”は時系列を表しており、「そして」、「それから」などと訳す。例（39）は文脈によって、交換できる可能性がある。例（40）は意識されているので、“再”の辞典上の意味は省略されている。

また、ここで前述の例（27）をもう一度見てみよう。

- (27) ' a. 您把那皮鞋**再**擦擦吧。（加藤 晴子 1995:91）

その革靴をもうちょっと磨いてよ。(筆者訳)  
⇒b. \*您<sup>再</sup>把那皮鞋擦擦吧。(同上)

例(27)'aの文中の“再”は[把]の後、動詞の前におく例であるが、筆者はこのような用例を一つも見つけられなかった。この場合の“再”は重複を表す重複副詞であるため、この文を(27)'bに書き換えることができ、しかも二つの文の意味は基本的に変わらない。しかし、例(27)'bの“再”はもう一つ関連を表す関連副詞の意味があり、この場合、「それから」という意味である。

### 8.3.5 おわりに

文は単語と連語で作られている。“把”構文も例外ではない。“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」である。筆者は“把”構文の核となる連語で作る「変化のくみあわせ」を「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」としている。連語論の観点からみると、文中の副詞の語順は、主として「変化のくみあわせ」との関係である。

本節では“把”構文に於ける重複副詞“又”、“再”の位置について分析を行った。その結論は以下のようにまとめられる。

(i) 副詞“又”、“再”が[把]の前にも後にも用いられる理由。

副詞“又”、“再”は[把]の前に用いられ、その理由については、処置を意味する「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」などの構造が、ひとまとまり性のある“把”構文の核「変化のくみあわせ」だからである。

副詞“又”、“再”は[把]の後にも用いられる。なぜならば、副詞“又”、“再”は、「変化のくみあわせ」を作る「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」の中の動詞を修飾する場合において、その動詞の前に用いられるからである。

(ii) 副詞“又”、“再”は[把]の前に位置することが多い。

「変化のくみあわせ」は動詞を核とする連語である。よって、[把]の前に置く場合が多い。

(iii) 同一“把”構文内における副詞“又”、“再”の互換条件

副詞“又”、“再”の機能として重複(“又<sub>1</sub>”、“再<sub>1</sub>”)と関連(“又<sub>2</sub>”、“再<sub>2</sub>”)が挙げられる。重複副詞(“又<sub>1</sub>”、“再<sub>1</sub>”)であれば、同一“把”構文の中で位置互換ができる。しかも互換前後でもその文は、基本的に意味変化が生じない。関連副詞(“又<sub>2</sub>”、“再<sub>2</sub>”)であれば、時間系列と関係するので、その位置を互換することができない。このような特徴を持っている副詞はこれらの他にもいくつかあるが、それらについての検討は今後の課題とする。

### 第三部 近代中国語における“把”構文



## 第九章 『語言自邇集』初版（1867年）における“把”構文

### 9.1 はじめに

『語言自邇集』は中国音表記法「ウェード式ローマ字」を創案したトーマス・F・ウェードが北京のイギリス公使館見習生の教育用に刊行した中国語会話（北京官話）テキストである。『語言自邇集』の初版（全4冊）は1867年に出版され、その後、1886年に第2版（全3冊）、1903年に第3版（全2冊）が出版されている。本章は『語言自邇集』の初版を対象として考察を行った。『語言自邇集』の初版は北京官話のテキストが無かった明治初期の日本で使用され重要な位置を占めた。単語部分を含んで、以下のような八部分からなっている。

i .Pronunciation

ii .The Radicals

iii .*San Yü Chang*, The Forty Exercises

iv .*Wên-Ta Chang*, The Ten Dialogues

v .*Hsü San Yü*, The Eightteen Sections

vi . *T 'an-lun P 'ien*, The Hundred Lessons

vii . *Lien-his Yen Shan P 'ing Tsê Pien*, The Tone Exercises

viii . *Yen Yü Li Lüo*, The Chapter on the Parts of Speech

本資料における“把”構文は、全141例見られた。

### 9.2 “把”構文の文構造について

刘培玉（2009：28～33）（4.1.1を参照）によれば、“把”構文の文法的意味（語法意義）は“語法処置”を表し、あるヒト・あるモノ・あるコトが動作によって、“把”の客体に対して作用と影響を与え、“把”の客体・主体のある種の変化を起こさせ、または動作をある種の結果へと導くと述べている。“把”構文の文構造（范晓（2001：309～319 4.1.2.3を参照）は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」であり、崔显军（2012：176～180）（4.1.2.5を参照）は“把”構文を15種類に分類し、范晓（2001：309～319）（4.1.2.3を参照）は“把”構文を10種類に分類している。筆者は第四章第一節に述べるように崔显军（2012：176～180）の分類を参考にしながら、動詞を中心にして、以下の3種類に分類した。

#### 9.2.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞」（光杆动词式）

全1例、動詞の数1

——怎麼樣（代名詞）

(1) 你就從頭至尾的一一的分解開了，怕他能把你怎麼樣，怕殺呀，或是怕喫了

你呢。[6:166]

例(1)は文構造「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞」の特例として、“怎麼樣”は代名詞<sup>129)</sup>であり、この文の中では疑問代名詞ではあるが疑問を表す動詞として使われている。この構造の“把”構文は1例ある

### 9.2.2 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋“一”など＋動詞」(状心式)

全4例、動詞の数4

——扭、轉、說、分類

(2) 他看見，連理也沒理，把臉往那們一扭，望着天就过去了。[6:162]

(3) 他若有求煩人的事情，別人說甚麼話，他就照樣兒依着行，他的事情一完，把頭一轉是人全不認得。[6:160]

(4) 他那個東西，不但把些個陳穀子爛芝麻，人家講究餓了的事情儘自說，聽得人家的腦袋都疼了。[6:151]

(5) 還有一章，是把所有的部首按義分類、是爲學生學得快熟的時候兒，隨時看了，可以提補他們的意思。[4:78]

例(2)、例(3)の“把”構文の中の動詞“扭”、“轉”の前の“一”は単語レベルで数詞ではあるが、連語レベルで派生副詞として用いられている。例(4)、(5)の動詞は“說”と“分類”の前にそれぞれその動詞の状況語“儘自”と“按義”がある。この種類の“把”構文は計4例あるが、一音節動詞の用例は3例あり、二音節動詞の用例は1例ある。一音節動詞は二音節動詞より多いことが分かった。これも先行研究の一つである藤田益子(2005: 41)の『兒女英雄伝』における「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋“一”＋動詞」というような構造の“把”構文の中の“動詞”は一音節動詞が多いという結論と一致した。現代中国語では二音節動詞が多いので、一音節動詞はこの時代の特徴といえる。なお、この種類の“把”構文に用いられている動詞の数は四つである。

### 9.2.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」

#### 9.2.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了・着・过<sup>130)</sup>」(动体式など)

全18例、動詞の数は17

——補、搨、殺、平、存、封、罰、革、拏、改、擬正、吐、耽誤、完、閉、丟、辭

<sup>129)</sup> “怎麼樣”は、《現代漢語詞典》第7版(2016: 1638)には、“疑問代詞”と書いてある。

<sup>130)</sup> 構文構造：N<sub>1</sub>＋“把”＋N<sub>2</sub>＋V＋“过”である“把”構文は現代中国語の中では存在している。例えば、“刚才我听说，你已毫不客气地把李嫂的身上都搜过了。”、“把所有的主意都想过了，他想不到怎样处理这件事才好。”

- (6) 你會針線不會，我不會，就叫一個裁縫來把我那一件汗衫補了。[3:43]  
 (7) 他倒在地下把胳膊擱了。[3:54]  
 (8) 賊把男女老少都殺了。[3:62]  
 (9) 文書發了，把存稿存著，那叫陳案。[3:69]  
 (10) 把這一邊兒朝上擎著。[5:118]

例(6)、(7)、(8)のような“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了”」であり、例(9)、(10)のような“把”構文の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “着”」である。この二種類の文構造の例は発見できたが、文構造「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “过”」の例文は一例も見つけることができなかった。この種類の“把”構文は計18例あり、用いられている動詞の数は17個である。

#### 9.2.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 名詞<sub>3</sub>」(动宾式)

全17例、動詞の数は8

——告訴、寫、抓、責罰、配、加、做、燉

- (11) 後兒他來了你可以把我起先說的那話告訴他。[4:93]  
 (12) 今兒若不把這個該殺的痛痛快快的責罰他一頓，我就起個誓。[6:180]  
 (13) 就在他們隔壁兒小鋪兒裏，借了個筆硯，把我瞧他去的話寫了個字兒留下了。  
 [6:197]  
 (14) 我慢慢兒的捻手捻腳兒的走到跟前兒，隔着窗戶紙兒一抓，把窗戶抓了個大窟窿，恰好抓住了，一看，是個家雀兒。[6:183]  
 (15) 把肉燉了個稀爛噴香。[5:128]  
 (16) 讓我把兩國隨用那活字，有相對有相反的地方兒，勉強做個榜樣。[8:262]  
 (17) 到了要說名目的數兒，有把數目字加上頭的，有先提出名目後加數目字的。  
 [8:271]

例(11)の動詞“告訴”の後に賓語“他”があり、例(12)の動詞“責罰”の後に賓語の“他”がある。例(13)、例(14)ともに「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了個”…」の構造の“把”構文であり、その「“了個”…」は、高橋(1996:181~199)は動賓構造と述べ、李臨定(1993:200~202)は“个”字補語と命名した。筆者がそれは名詞の役割を担っているが、例(13)の“寫了個字兒”の意味は“寫成紙条”であるだろう。例(14)の“抓了個大窟窿”の意味は“抓成個大窟窿”であるだろう。二つの文の「動詞+了個…」は“動詞+成”であり、結果補語に相当する。例(15)の“燉了個稀爛噴香”を“燉得稀爛噴香”と言い換えたほうが現代では分かりやすい。

例(16)と例(17)の動詞“做”と“加上”の賓語はそれぞれ“榜樣”と“頭的”である。文構造「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」の“把”構文は計18例あり、用いられている動詞の数は9個である。

#### 9.2.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋動詞<sub>2</sub>」(连动式)

全10例、動詞の数は15

——拏、給、使、看、喫、收、作、叫、瞧、當、待、連、成、分晰、辯明

(18) 人生百歲，不過一眨眼兒的光景，把銀子錢結結實實的收着作甚麼。[6:192]

(19) 前兒我也到了那兒，把我的八字兒叫他瞧了瞧。[6:183]

(20) 有片的白肉就得了，又要這麼許多的菜蔬作甚麼，把我們當客待麼。[6:156]

例(18)の“收着作甚麼”の中の“收”と“作”は動詞であり、例(19)の“叫他瞧了瞧”のは兼語連語であり、この中の“叫”と“瞧”は動詞である。同様に、例(20)の“當客待麼”の中の“當”と“待”も動詞である。この種類の“把”構文は計9例あり、用いられている動詞の数は13個である。

#### 9.2.3.4 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋數量形式」(动量式＋名量式<sup>131)</sup>)

全3例、動詞の数は3

——扭、斫、瞧

(21) 他從車上跳下來的時候兒，把腿扭了一下兒。[4:89]

(22) 我那朋友就猛然起來，那着把腰刀，把他斫了一下兒，那個東西哎呀了一聲，倒在地下了。[6:186]

(23) 再者來的太太們把我們女孩兒也瞧瞧。[6:145]

この構造の數量補語は名量式と動量式と“VV式”と“V－V式”が含まれている。例(21)の“扭了一下兒”の“一下兒”、例(22)の“斫了一下兒”の“一下兒”は動量補語であり、例(23)の“瞧瞧”は“VV”式である。現代中国語では「少し」、「ちょっと」というような量的な表現であるが、当時は動詞の重ね型は本来の用法である「しっかり」、「たくさん」という意味解釈が可能である。この種類の“把”構文は計3例あり、用いられている動詞の数は三つである。

#### 9.2.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋程度・樣態補語」(述程式と动得式)

<sup>131)</sup> 動量式＋名量式、動量式は動量詞で作られる數量補語の一種であり、名量式も名量詞で作られる數量補語の一種である。

全 4 例、動詞の数は 5

——算、説、輕慢、擠、看

(24) 坏了腸子咯，把我輕慢得了不得，我和你說話，都不配麼。[6:164]

(25) 把咱們過去的事，倒像誰告訴他的，算得極真，説得準對。[6:183]

(26) 勇從左邊擁來了，要搶車，把車擠得橫躺下，倆人都吊下來了。[8:253]

例 (24) の“輕慢”の程度補語は“了不得”であり、例 (25) の“算”と“説”の様態補語はそれぞれ“極真”と“準對”であり、例 (26) の“擠”の様態補語は“橫躺下”である。この種類の“把”構文は 4 例あり、用いられている動詞の数は 5 個である。

9.2.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」(動結式)

全 33 例、動詞の数は 28

——鋪、倒、抓、拽、殺、摔、留、弄、挪、掃、關、扣、説、湊、做、拉、疊、撲、摑、看、放、打、搯、攔、舔、嚇、凍、糊

(27) 那女人的指甲長，把他的胳膊抓破了。[3:48]

(28) 拽是説人拏手用力的拉，把那門拽住了。[3:48]

(29) 那貌陋的生了氣，把茶碗摔碎了。[3:54]

(30) 正似睡不睡的，忽然從西北上，就像山崩地裂的是一個樣，响了一聲，把我陡然間嚇醒了。[6:136]

例 (27) の動詞“抓”の結果は“破”で、例 (28) の動詞“拽”の結果は“(拽)住”で、例 (29) の動詞“摔”の結果“碎”で、例 (30) の動詞“嚇”の結果は“醒”である。この“把”構文は計 33 例あり、用いられている動詞の数は 28 個ある。

9.2.3.7 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」(動趨式)

全 22 例、動詞の数は 19

——使、包、拏、取、送、反、抱、拿、繙譯、打、攆、哄、套、拏、帶、捲、寄、扶、拉

(31) 不教人知道是偷，把人家的東西硬拏<sup>132)</sup>去就是槍奪，不分夜裏白日都説得。

<sup>132)</sup> 内田慶市 (2015:8) によれば、「この「了」と「咯」については、ウエードは以下のように説明している。「Liao, to end: ended: after verbs, sign of the past, but at the end of a clause very often a mere expletive, and then pronounced la, or lo. (Key: 7p) The liao, here pronounced la, or lo, rounds the sentence so far as sound is concerned, but adds nothing to the sence.」

[3:52]

(32) 我瞧這個，我也不肯再把錢送了去了。[3:60]

(33) 包兒是把東西用甚麼包起來。[3:47]

(34) 我們十個人從前定得湊錢做買賣，後來落下了兩個人，還有把本錢取回去的。

[3:60]

(35) 近來的官很好，把從前的事情都反過來，把那賊匪全都平了。[3:63]

例(31)、例(32)の動詞“拏”、“送”の後に単純趨向補語“去”があり、例(33)、例(34)、例(35)の動詞“包”、“取”、“反”の後にそれぞれ“起來”、“回去”、“過來”などの複合趨向補語が用いられている。また、例(31)と例(32)の文構造は「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語(動趨式)」である。その中の「動詞 + 趨向補語」である“拏了去”と“送了去”というような表現は、現代中国語では“拏去了”と“送去了”と表現する場合が多い。例(31)と例(32)のように趨向補語に用いる“了”の位置は、動詞の後かつ方向を表す“來・去”の前に置く。動詞の後に趨向補語のある“把”構文は、全て22例あり、動詞 + “了” + “來・去” + (“了”)構造の文は6例あった。他方で、動詞 + “上・下など” + “來” + “了”構造の文は、2例しかなかった。

9.2.3.8 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・給・成” + 名詞<sub>3</sub>」

(動介式・把作式)

全28例、動詞の数は23。

——倒、裝、折、下、送、分、作、歸、羅織、編、挿、當、砍、放、帶、當、擱、費、連、伴、開列、擄、橫

(36) 倒茶是叫人把茶倒在碗裏頭。[3:39]

(37) 又有本名目剛先提過，按着說的話，可以把陪伴字伴爲替換之用。[8:282]

(38) 如今把那些陪伴的字眼兒連各司的名目，一併開列於左，爲學話的便用。

[8:282]

(39) 我早已把部首的字分作三層。[4:80]

(40) 嚇了一大跳，連忙使鋤，把蛇砍成兩截兒就追趕他們倆，嚷着說，我和你們有甚麼饑啊。[6:200]

例(36)から例(40)の動詞の後に注目すると、(36)は“在”、(37)は“爲”、(38)は“於”、(39)は“作”、(40)は“成”が用いられている。この種類の“把”構文は計28例あり、用いられている動詞は23種類ある。本資料では、「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・給・成” + 名詞<sub>3</sub>」に用いられた動詞は“在・到・給”と“作・

成”だけではなく、例(37)の“爲”、例(38)の“於”もあった。この構造の“把”構文に用いられる動詞(“在・到・給・作・成”)は種類が豊富であることが分かった。

以上、調査の結果で得られた『語言自邇集』初版における“把”構文を崔显军(2012: 176~180)の基準に従って分類することで、現代中国語の“把”構文の類型が多岐にわたっていることが明らかとなった。

[表1] 『語言自邇集』初版本における“把”構文(動詞の分類)

	“把”構文の分類(文構造)		崔显军 (2012)15 類	例文 数 141	割合	
1	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞		光杆动词式	1例	0.7%	
2	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + “一”など + 動詞		状心式	4例	2.8%	
3	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞	+その他(①~⑧)				
		賓語など	① “了・着・过”	动体式	18例	12.8%
			② 名詞 <sub>3</sub>	动宾式	17例	12.1%
			③ 名詞 <sub>3</sub> + 動詞 <sub>2</sub>	连动式	10例	7.1%
	④ 数量補語		动量式・名量式	3例	2.1%	
	補語	⑤ 様態補語	述程式・动得式	4例	2.8%	
		⑥ 結果補語	动结式	33例	23.4%	
		⑦ 趨向補語	动趋式	22例	15.6%	
⑧ “在・到・給・作・成” + 名詞 <sub>3</sub>		动介式・把作式	28例	19.9%		
特例	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 複文(短縮文)			1例	0.7%	

文構造: 「“看” + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他(看把式)」「名詞<sub>1</sub> + “把” + “个” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他(把个式)」「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他(把 NPVP! 式)」で作る“把”構文は、一例も見つけることができなかった。だが、特例として、以下

の例(41)のような“把”構文の中で用いられた「動詞」が動詞という形ではなく、複文の短縮文として用いられた文が一例あった。

(41) 那擾亂地方，是匪類把某處百姓，不是殺就是燒。[8:291]

### 9.3 “把”構文の文の種類について

『語言自邇集』初版における“把”構文の文構造の傾向について分析してみた。以下の[表2]のように、肯定文が非常に多くの割合を占めている。割合的には、94.3%までになっている。疑問文は6例あり、否定文と命令文はそれぞれわずか1例しかなく、否定文の已然形も存在しなかった。

[表2] 『語言自邇集』初版本における“把”構文中の文の種類

		例文の数 (141例)	割合
肯定文 133例		133例	94.3%
否定文 1例	不	1例 (例43)	0.7%
	沒		
命令文 1例	別	1例 (例44)	0.7%
	不要		
疑問文 6例	疑問詞疑問文	3例	2.1%
	一般疑問文	2例	1.5%
	反語文	1例	0.7%

(42) 今兒若不把這個該殺的痛痛快快的責罰他一頓，我就起個誓。[6:180]

(43) 這猴兒從那兒來，你們別把他看輕了。[6:191]

### 9.4 “把”構文における副詞と助動詞及び接続詞の位置について

『語言自邇集』初版における“把”構文中の副詞、助動詞及び接続詞の位置について、統計的に分析してみた。結果は、以下の[表3]のように示すことができる。

#### 9.4.1 副詞、助動詞及び接続詞の用法

(44) 若是把好些味藥要配丸藥，那稱爲一料藥。[8:281]

(45) 前手略有一點兒定不住，把這幾處兒毛病兒若改了，不拘到那兒去射，一定出衆。[6:206]

例(44)の中にある助動詞“要”も、動詞の直前に置くこともできることが分かつ



た。例（45）の接続詞である“若”は、“把”構文の中の“把”の後、つまり動詞の前に置くこともできることが分かった。

現代中国語では、副詞は介詞“把”の前に用いる前置型のほうが多いが、これは現代ではすでに連語という概念が確立しているためである。この時代は後置型である動詞の前に用いるほうが多いのは連語という概念が確立していなかったからであろう。しかし、少ない例文ではあるが、後置型の用法が見られるのは連語に分解できないひとまとまり性の概念が誕生してきたためであろう。

助動詞に後置型が多いのは、助動詞のほうが副詞よりもはやく、現代中国語の語順になってきているといえるであろう。しかし、助動詞にも後置型が1例あるのはまだ連語の概念が完全には確立されていないといえるであろう。[表3] から見る限り接続詞の用法は助動詞に近いといえるであろう。

[表3] 『語言自邇集』初版本における“把”構文中の副詞、助動詞、接続詞の位置

品詞		前置型	後置型 <sup>133)</sup>
副詞	都/全/全都	0	9例
	再	1例	
	還	1例	
	也	1例	2例
	纔	2例	
	先	2例	1例
	倒		1例
助動詞	要	2例	1例（例45）
	得	3例	
	能彀	2例	
	可以	3例	
	（不肯）	1例	
接続詞	要/若是/儻若/ 若	6例	1例（例46）

#### 9.5 『語言自邇集』初版における“把”構文の基本義と派生義について

王力（1943：160～171）（序論の先行研究を参照）はもっとも早い時期に“把”構文が“把”の客体を「処置」するという考え方を提示し、それを「処置式」と命名し

<sup>133)</sup> 前置型：副詞と能願動詞と接続詞などを“把”構文の中の“把”の前におくことを指す。後置型は副詞と能願動詞と接続詞などを“把”構文の中の“把”の後および動詞の前におくことを指す。

た。呂叔湘主編の《現代漢語八百詞》(1999:53~56) (第一章の 1.2 を参照) によると、“把”構文は「処置」の用法があるほか、「使役」、「行為する場所・範囲」、「望ましくない結果」、「“拿”と“对”の意味」を表す用法があると分類した。また郭锐(2003:152~181) (序章の先行研究を参照) は、“把”構文の文法的意味が使役であると主張している。

筆者は以上の言語学者の説を参考にして、連語論の観点を導入して、下記に挙げる用法のように、“把”構文を基本義一種と派生義六種の合計七種(第一章の 1.4 を参照) に分類した。

#### 9.5.1 “把”構文の基本義：処置義（客体の移動・変化）

“把”構文の基本義は処置義であり、主体の動作により、“把”の客体を移動あるいは変化させることである。この意味での“把”構文は、今回の調査では 122 例あった。

(46) 你把那一本书拿来给我。 [3:37]

あの本を私に渡して。(筆者訳)

(47) 把抽屉关上。 [3:67]

引き出しを閉めて。(筆者訳)

例(46)の“把”の客体である“那一本书”は“你”という主体の動作“拿”と“給”により、“我”まで移動させられた。よって、基本義を持つ“把”構文である。同様に、例(47)の“把”の客体である“抽屉”は動作“關”により、開いている状態から閉める状態に変化させられたと考えられる。よって、例(47)も基本義の“把”構文である。

#### 9.5.2 “把”構文の派生義

##### 9.5.2.1 処置義（主体の変化）

動作により、“把”の主体を変化させることである。この意味で使われた“把”構文は、8 例ある。

(48) 坏了腸子咯，把我輕慢得了不得，我和你說話，都不配麼。 [6:164]

本当に悪くなった、私をこんなバカにしている。会話しようもしないのだから。(筆者訳)

(49) 又要這麼許多的菜蔬作甚麼，把我們當客待麼。 [6:156]

またこんなたくさんの野菜を何にするの？私たちをお客さん扱いにするの？(筆者訳)

例(48)の“把”の客体である“我”は、主体である“你”の動作“輕慢”によっ

て、何も変化していない。却って、主体である“你”の考えは、“輕慢”していなかったのに“輕慢”へと変化した。つまり、主体が変化させられた点からすると、例(48)は“把”構文の派生義を持つ“把”構文であるといえる。同様に、例(49)の“把”の客体である“我們”は主体である“你”(省略された)の動作“待”によって、何も変化していない。“我們”は、本来客ではないのにも関わらず、主体である“你”の考えの中においては“客”である。つまり、これは主体の意識が変わってしまったということである。従って、例(49)も“把”構文の派生義を持つ“把”構文であるといえる。

9.5.2.2 非意図的な処置を意味する“把”構文の用法もある。本資料には、3例ある。

非意図的な処置を意味する“把”構文の用法もある。本資料には、3例ある。

(50) 幸而昨兒把所喫所喝的全吐了，不然，今兒也就扎掙不住了。[6:178]

幸い、昨日お腹にいれたものを全部吐きだしてしまったからよかった。そうでなければ、今日はもうだめになっていただろう。(筆者訳)

(51) 他把那本書丟了，丟得是誰的書，是我的那本書。[8:270]

彼はあの本をなくした。なくしたのは誰の本なの？私のです。(筆者訳)

#### 9.5.2.3 場所・範囲

場所・範囲を表す用法は一例<sup>134)</sup>もなかった。

#### 9.5.2.4 使役表現

使役を表す用法は8例が見られた。

(52) 他倒在地下把胳膊擱了。[3:54]

彼は床に倒れて腕を怪我させてしまった。(筆者訳)

(53) 地方官趕著賞了些米，把要逃的百姓都留住了。[3:55]

地方官は急いで米を配り、逃げようとした庶民をすべて留めさせた。

(筆者訳)

(54) 他的官都快陞了，因為不要緊的事把他革了。[8:248]

彼はもう少しで昇進できたはずなのに、つまらないことで職をやめさせられてしまった。(筆者訳)

例(52)の“他倒在地下”という原因によって、“他胳膊擱了”というような結果に

<sup>134)</sup> 呂叔湘(1999:54)の《現代漢語八百詞》によると、場所・範囲を表す“把”構文として以下のような例文を挙げている。“把东城西城都跑遍了。”、“把个北京城走了一多半。”など。

なってしまった。コトによって、結果に至るという表現の“把”構文は“把”構文の派生義である。同様に、例（53）の“地方官趕著賞了些米”によって、“把要逃的百姓都留住了”という結果になった。よって、例（52）も“把”構文の派生義である。同様に、例（53）も“把”構文の派生義である。

#### 9.5.2.5 心理活動

心理活動を表す用法は一例もなかった。

#### 9.5.2.6 受身を表す用法。これは一例<sup>135)</sup>もなかった。

“把”構文の意味分類は以下の[表 4]のように示すことができる。

[表 4] 『語言自邇集』初版本における“把”構文の意味分類

	筆者の“把”構文の意味分類	呂叔湘の分類	例文数 141 例	割合
基本義	処置義（客体の移動・変化）	1、5、2	122	86.5%
派生義	処置義（主体の移動・変化）		8	5.7%
	非意図的な処置	4	3	2.1%
	場所・範囲	3	0	0
	使役	2	8	5.7%
	心理活動	ない	0	0
	受身	4	0	0

## 9.6 “把”構文における動詞について

### 9.6.1 “把”の基本義について

単語は奥田靖雄<sup>136)</sup>（1976:3）が指摘するように自由な意味と連語の構造にしばられた意味（構造的にしばられた意味）があり、単語の多義性は連語の「むすびつき」の中でおきる。連語論では多義語の面から基本義と派生義について、「むすびつき」の違いを挙げている。また高橋弥守彦<sup>137)</sup>（2009:315）は「むすびつき」の中に用

<sup>135)</sup> この受身を表すのは、直接受身ではなく、第三者の受身を指している。“把个犯人跑了。”など。

<sup>136)</sup> 奥田の「語彙的な意味のあり方」（1976:3）によれば、「みる」という動詞の基本義は：「目でみる」、派生義は：「答案をみる」、「医者に目を見てもらう」などと主張している。

<sup>137)</sup> 高橋弥守彦（2009:315）によれば、「行く」の基本義と派生義を以下のようにまとめている。

- i. 空間的な移りのむすびつき 例：台所に行く。
- ii. 離れのむすびつき 例：八時に学校へ行く。
- iii. 移動のむすびつき 例：町なかに行く。
- iv. 通過のむすびつき 例：人が縫うようにその脇に行く。
- v. 態度的な移動のむすびつき 例：新選組に行く。
- vi. 到着のむすびつき 例：八時までに学校へ行く。

いられる単語（「行く」）の基本義と派生義からなる意味の体系は、異なる形状の格付き空間名詞との「むすびつき」によって生じると主張している。両者とも一つの単語は単語だけでは意味変化せず、連語の中で意味変化するという観点であり、基本的な考え方は一致している。

小路口ゆみ（2015a : 134~144）<sup>138)</sup>は、動詞“把”は何と組み合わせられているかによって、その意味は基本義かあるいは派生義かの二通りに分類することができると分析している。この考え方も連語の中で単語の意味が変化するという観点的なかに入るであろう。

(55) 双手把着冲锋枪。 (ふれあいのむすびつき)  
両手でアサルトライフルを握っている。 (筆者訳)

例(55)のような“把”は「手で握る」という意味が基本義である。「ふれあいのむすびつき」(例55)の中では、“把”がモノ名詞と組み合わせたり、「手で握る」の意味を表すので基本義として使われている。従って、“把”構文の中の“把”には、文法化しても、まだ「手で握る」という基本義の名残が残っていると考えられる。

#### 9.6.2 “把”構文の中の動詞

崔希亮（1995 : 12~20）は、“把”構文に用いる動詞を静態動詞<sup>139)</sup>と動態動詞の二

<sup>138)</sup> 小路口ゆみ（2015b : 134~144）によれば、“把”（動詞）が何と組み合わせられているかによって、その意味は基本義かあるいは派生義かの二通りに分類することができると分析している。

①双手把着冲锋枪。両手でアサルトライフルを握る。(筆者訳)(ふれあいのむすびつき) ②给孩子把屎。子供を抱いておしっこをさせる。(筆者訳)(しえきのむすびつき) ③妻子把着家里的财政大权。妻が家の財布のひもを握っている。(筆者訳)(かんりのむすびつき) ④两条狗把着大门。二匹の犬がゲートを見張りしている。(筆者訳)(かんさつのむすびつき) ⑤把着胡同口有一个邮筒。胡同の入り口の近くにポストがある。(筆者訳)(場所のむすびつき) ⑥椅子快散了, 用角铁把住。椅子はもうすこしでばらばらになりそうなので、アングルで固定した。(筆者訳)(とりつきのむすびつき)

これらのむすびつきに使われている“把”を整理すると、“把”は基本義と派生義とに分かれていて、多義語であることが分かる。“把”は「手で握る」(例①)という意味が基本義である。「ふれあいのむすびつき」(例①)の中では、“把”がモノ名詞と組み合わせたり、「手で握る」の意味を表すので基本義として使われている。「しえきのむすびつき」(例②)の中では、“把”が排泄を表す名詞と組み合わせたり、「させる」の意味を示す派生義となる。「かんりのむすびつき」(例③)の中では、“把”が権利に関する名詞と組み合わせることによって、「管理する」の意味を表す派生義となる。「かんさつのむすびつき」(例④)の中では、“把”が場所的な名詞と組み合わせることによって、「監察する」の意味を表す派生義となる。「場所のむすびつき」(例⑤)のなかでは、“把”が場所的な名詞と組み合わせたり、またほかの動詞も組み合わせることによって、「近く」の意味を表す派生義となる。「とりつきのむすびつき」(例⑥)の中では、“把”と結果補語“住”とが組み合わせることによって、「固定する」の意味を表す派生義となる。従って、“把”構文の中の“把”には、まだ「手で握る」という基本義の名残が残っていると考えられる。

<sup>139)</sup> 崔希亮（1995 : 12~21）对动词从是否能够使对象发生变化角度对动词做了分类，分成两大类：静态动词和动态动词。①静态动词：A.存在动词：有、无、停等，还有静态意义的堆、挂、站、放、摆等 B.关系动词：是、为、像、相同、属于、姓 C.性质动词：讨厌、小心、轰动、热爱、信任 D.结果

種類に分類している。筆者は“把”構文に用いる動詞を「物理的空間」と「心理的空間」に用いる動詞の二種類に分けている。

#### 9.6.2.1 物理的空間（具体的動作）

物理的空間を表す空間に用いられている動詞は具体的な動作を表す動詞であり、本章で筆者は、「手に関連する動詞」「口に関連する動詞」「他の動詞」の三種類に分けている。

##### 9.6.2.1.1 手に関連する動詞

(56) 他是拏毡子把那小箱子包起来。[3:47]

彼は毛布であの小さい箱を包んだ。(筆者訳)

(57) 那女人的指甲长，把他的胳膊抓破了。[3:48]

あの女は爪が長かったので、彼の腕を掴んで怪我をさせた。(筆者訳)

(58) 那貌陋的生了气，把茶碗摔碎了。[3:54]

あの醜い顔の男が怒って、茶碗を投げつけて割ってしまった。(筆者訳)

例(56)の“包”、(57)の“抓”、(58)の“摔”のような動詞は全て手を使う動詞である。例えば、以下のような動詞がそれにあたる：抓<sup>140)</sup>、拽、摔、挪、掃、關、扣、做(成)、疊、撲、捆、打、拏、拿、包、取、抱、捲、寄、扶、拉、送、倒、装、挿、砍、擄、横、下、折、寫、補、殺、存、給、收、摺、斫、鋪、使、封、連、配、放、糊、燒。

このような動詞全部で46個あり、全体の42.6%を占めている。動詞の中で最も多い種類の動詞であることがわかった。

##### 9.6.2.1.2 口に関連する動詞

(59) 若是簡直告訴他不肯相幫，必得把所以然的話細說明白了，那更不必了。

[4:92]

もし彼に協力しないことと言え、必ずその訳を細かく説明しなくてはならないのなら、もういいや。(筆者訳)

(60) 把事情的形勢告訴我。[5:119]

---

動詞:出来、成立、发现、E.行为動詞: 帮助、服务、履行

②动态動詞:A.变化動詞:大、高、成、好 B.活動動詞: 布置、打扮、筹备、交涉 C.動作動詞:打、抓、摘 D.评价動詞: 看、当、说、夸 E.感觉動詞: 愁、想、喜欢、忧愁、伤心 F.生理動詞: 哭、笑、叫、喊、病

<sup>140)</sup> 抓: 掴む; 拽: 引く; 摔: 投げる; 挪: 運ぶ; 掃: ほうきでゴミを払い除く; 關: 閉める; 扣: 拘留する; 做(成): 作る; 疊: 畳む; 撲: 軽くたたく; 捆: 縛る; 打: 殴る; 拏: 持つ; 拿: 持つ; 包: 包む; 取: 取る; 抱: 抱く; 捲: 巻く; 寄: 送る; 扶: 手を貸して立たせる; 拉: 引く; 送: 届ける; 倒: 注ぐ; 装: 積み込む; 挿: 挿す; 砍: たたき切る; 擄: 無理やり連れ去る; 横: 横向きに置く; 下: 中に置く; 折: 向きを変える; 寫: 書く; 補: 補修する; 殺: 殺す; 給: あげる; 收: しまう; 摺: 握る; 斫: 切る; 鋪: 敷く; 使: 使う; 封: 封をする; 連: 繋ぐ; 配: 薬を調合する; 放: 置く; 糊: 貼り付ける; 燒: 燃やす。

状況を教えて。(筆者訳)

例(59)の“説”、例(60)の“告訴”は全て口を使って行われる動作の動詞である。例えば、以下のような動詞がそれにあたる：舔<sup>141)</sup>、吐、叫、告訴、説、传、套、打(住話)、哄、喫。このような動詞は全部で10個あり、全体の10.2%を占めている。

#### 9.6.2.1.3 他の動詞

(61) 今兒若不把這個該殺的痛痛快快的責罰他一頓，我就起個誓。[6:180]

今日はこいつを思い切り懲らしめないと気がすまないと心に誓った。(筆者訳)

(62) 這不是咯，到底把臥着的老虎哄起來了。[6:171]

ほらね、とうとう横になっている虎を立たせてしまった。(筆者訳)

例(61)の“責罰”、例(62)の“哄”などの動詞は手と口を除いて、体の一部分を使って動作する動詞である。例えば、以下のような動詞がそれにあたる。

“罰<sup>142)</sup>、瞧、轉、擠、扭、擱、放、燉、攆、帶、閉、責罰、打(下來)、怎麼樣(代詞)、待”

これらの動詞は具体的な動作を表している。全部で16個あり、全体の14.8%を占めている。

上記の三種の動詞は全て物理的空間を表す動詞であり、これらの動詞を用いる動詞は非常に多く、全体の67.6%を占めている。

#### 9.6.2.2 心理的空間(思考・抽象的動作)

「物理的空間」を表す動詞の他に「心理的空間」を表す動詞もある。崔希亮(1995: 12~20)が主張した評価動詞・感覚動詞・変化動詞というような動態動詞と性質動詞・行為動詞というような静態動詞である。

(63) 耳朵雖然聽了，並不放在心上，太皮臉了罷，把我說的苦口良言，全當成了耳傍風咯。[3:210]

聞いていたが、まったく気にかけていない。なんて図々しいのだ。私の忠告

<sup>141)</sup> 舔：なめる；吐：吐く；叫：呼ぶ；告訴：告げる；説：言う；传：広める；套：(話)を引き出す；打(住話)：(話)を打ち切る；哄：わいわい騒ぐ；喫：食べる；

<sup>142)</sup> 罰：罰する；瞧：見る；轉：変える；擠：ぎっしり詰める；扭：捻挫委する；擱：さす；放：置く；燉：煮込む；攆：追い出す；帶：引き連れる；閉：(目)を閉じる；責罰：罰する；打(下來)：出す；怎麼樣(代詞)：する；待：待遇する。

をすべて聞き流していた。(筆者訳)

(64) 你把我這句話你擱在心上，他原是個無事生事的混帳行子啊。[6:163]

私のこの言葉をしっかり覚えていて。彼はもともとトラブルメーカーなんだから。(筆者訳)

(65) 你太把我看輕略，實在不知道你仗着甚麼。[6:163]

私のことを見下しているわ、なんでそうするのかまったくわからない。

(筆者訳)

例(63)の“當”、例(64)の“擱”、例(65)の“看”はすべて評価動詞であり、心理的空間を表すのに用いる動詞である。

(66) 坏了腸子咯，把我輕慢得了不得，我和你說話，都不配麼。[6:164]

本当に悪くなったね、私をそんなバカにしている。会話しようもしないのだから。(同上 54)

また、例(66)の“輕慢”は性質動詞であり、静態動詞である。これらはすべて心理的空間を表す動詞である。例えば、以下のような動詞がそれにあたる：留<sup>143)</sup>、嚇、凍、反、繙譯、分(作)、羅織、編、當、費、耽誤、丟、辭、革、當、加上、分類、分晰、辯明、擬正、平、湊、改、擱、看(认为)、算、完、做(個榜樣)、伴(爲)、作(成)、歸、弄(坏)、開列(於)、成。これらの動詞は全部 35 個あり、全体の 32.4%を占めている。

『語言自邇集』初版本における“把”構文の中の動詞について、統計的に分析してみた。結果は、以下の[表 5]のように示すことができた。また、「物理的空間」に分類される動詞は非常に多く、全体の 67.6%を占めていることが分かった。

<sup>143)</sup> 留：留める；嚇：恐がらせる；凍：凍る；反：逆にする；繙譯：翻訳する；分(作)：分ける；羅織：並ぶ；編：編集する；當：見なす；費：費やす；耽誤：時間を無駄にする；丟：なくす；辭：辞める；革：免職する；當：見なす；加上：加える；分類：分類する；分晰：分析する；辯明：明らかにする；擬正：本採用にする；平：鎮める；湊：集める；改：(癖)を改める；擱：覚える；看(认为)：思う；算：占う；完：終える；做(個榜樣)：になる；伴(爲)：伴う；作(成)：作る；歸：属する；弄(坏)：事情をダメにした；開列(於)：例挙する；成：になる。



[表 5] 《語言自邇集》初版における“把”構文の中の動詞の分類

筆者による分類	崔希亮（1995：12～20）による分類	《語言自邇集》141例（107個）		割合	
物理的空間 （具体的な動作）72個 （67.2%）	動態動詞	動作動詞・活動動詞・生理動詞	手に関連する動詞：47個	抓、拽、摔、挪、掃、關、扣、做（成）、疊、撲、搥、打、拏、拿、包、取、抱、捲、寄、扶、拉、送、倒、裝、插、砍、擄、橫、下、折、寫、補、殺、存、給、收、摺、斫、鋪、使、封、連、配、放、糊、燒、攔	43.9%
			口に関連する動詞：10個	舔、吐、叫、告訴、說、傳、套、打（住話）、哄、喫、	9.4%
			他の動詞：15個	罰、瞧、轉、擠、扭、擱、放、燉、攆、帶、閉、責罰、打（下來）、怎麼樣（代詞）、待	14.0%
心理的空間 （思考・抽象的動作）35個 （32.8%）	動態動詞	評價動詞・感覺動詞・變化動詞：34個	留、嚇、凍、反、繙譯、分（作）、羅織、編、當、費、耽誤、丟、辭、革、當、加上、分類、分晰、辯明、擬正、平、湊、改、擱、看（認為）、算、完、做（個榜樣）、伴（爲）、作（成）、歸、弄（坏）、開列（於）、成	31.8%	
	靜態動詞	性質動詞・行為動詞：1個	輕慢	0.9%	

### 9.7 おわりに

『語言自邇集』初版本（1867）における“把”構文について、考察・分析してみた。その結果、『語言自邇集』初版本（1867）における“把”構文は、以下の特徴を持っていることが分かった。

#### （i）“把”構文の構文形式

“把”構文の構文形式は比較的豊かである。[表 1]で示したように全部で10種類ある。「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋結果補語」というような文構造が最も多く、22.7%を占めている。

(ii) 文の種類

文の種類からみると、[表 2]で示したように肯定文は94.3%を占めており、最も多い。否定文、命令文、疑問文（一般疑問文と疑問詞疑問文と反語文）は5.7%に過ぎないことが分かった。

(iii) 副詞、助動詞及び接続詞の位置

副詞“都”の位置は“把”の後・動詞の前に置く例しかなかった。接続詞“若”は、“把”の前に置くほかに、“把”の後・動詞の前に置くときもある。接続詞の位置に関する規則はとても緩いことが明らかになった。

(iv) “把”構文の基本義

“把”構文の基本義は処置義であり、処置義はある動作をして、客体（非動作主）を空間的に位置移動させたり、状態を変化させたりしている。[表 4]で示したように処置義を表す“把”構文が最も多く、86.5%を占めている。

(v) “把”構文における動詞

“把”構文における動詞を統計・分析してみた。「手に関連する動詞」は非常に多く、42.6%を占めていることが分かった。これは“把”構文の中“把”は動詞から「介詞」へ文法化しても、元の動詞の「握る」という意味が残っていることと関連があるからと考えられる。

『語言自邇集』初版本（1867）がなぜ以上のような特徴をもっているのか、以下にいくつかの理由をまとめた。

(i) イギリス人のための中国語の教材として、北京官話を学びやすくするため、“把”構文の基本義を一番多く扱った。

(ii) 基本を重視するテキストとして編纂されるため、収録されている“把”構文における動詞の種類は非常に豊かである。今回の調査・分析により、ほぼすべてのタイプを網羅していることが明らかになった。

## 第十章 『北京官話伊蘇普噲言』(1878年)における“把”構文について

### 10.1はじめに

『北京官話伊蘇普噲言』(以下『伊蘇普噲言』と略称)は、中田敬義が北京で龔恩祿の指導のもとに、二年半ほどを費やして、1878年に日本語から中国語に訳され、全部で237話が収められている。当時日本では南京官話から北京官話への転換期であり、北京官話のテキストとして外国語学校や陸軍で使用されていたと言われている。このテキストにおける“把”構文を調査・分析することによって、“把”構文がどのように使用されていたのか、どのように教えられていたのかについて、明確にすることが出来る。

本章に用いる言語資料は内田慶市編著(2014)、遊文舎出版『漢訳イソップ集』から収集したものである。本資料における“把”構文は全部で270例あったが、“將”構文は確認できなかった。これらの“把”構文を調査・分析することによって、以下の三点を明らかにしたい。

- ① “把”構文の文構造について
- ② “把”構文における副詞・助動詞の位置について
- ③ “將”の使用状況について

### 10.2 “把”構文の文構造について

本節も第九章の9.2と同様、筆者は崔显军(2012:176~180)の分類を参考にしながら、以下のように、動詞を中心として、変化・結果を表す“把”構文を3種類に分類した。

#### 10.2.1 文構造:「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞」(光杆动词式)

全2例、動詞の数は2(失去、斷絶<sup>144)</sup>)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている

- (1) 太打算多得的, 必致把已然微得的失去。<sup>145)</sup> (49)<sup>146)</sup>

余り多く得んとすれば。前に得し些少の物をさへ併せ失ふに至らん。(渡部: 73)

- (2) 自此之後, 把要做歹事的念頭斷絶, 一天加一天, 惟在善事上長進, 遂成了個

<sup>144)</sup> 《現代漢語詞典》(第7版 2016: 1176)によれば、“失去”は“動詞”である。また、327頁では、“斷絶”も“動詞”である。

<sup>145)</sup> 原文の標点符号はすべて「、」を用いられているが、本章で用いられている例文の標点符号は、現代中国語の標点符号の使い方に沿って、筆者が入れたものである。

<sup>146)</sup> (49)は第49話という意味である。用例の右端の数字は全て『北京官話伊蘇普噲言』中の話の番号を示す。

大好人了。(221)

夫より後は悪事をなさんとする一念をたちきりければ。日々に善事をつとむる事のみまさりゆきて。つひに大善人となりけるとぞ。(渡部：257)

例(1)の動詞“失去”と例(2)の動詞“斷絶”はともに二音節動詞である。刘子瑜(1995:133~140)の調査によれば、唐五代の時期に、“王梵志白话诗、《敦煌变文集》、《祖堂集》”の中に、この構造の“把”構文が67例あり、その内訳は“動詞”が一音節動詞の例が41例、動詞が二音節動詞の例が26例である。だが、この言語資料においては、一音節動詞の“把”構文はすでに存在しておらず、二音節動詞のみになっていることが明らかになった。例(1)の動詞“失去”は動補構造の動詞であり、例(2)の動詞“斷絶”は並列構造の動詞である。両方とも結果を表すことができる。よって、これらの動詞は“把”構文に用いることができる。この種類の“把”構文は計2例あり、用いられている動詞の数は2個である。

10.2.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一”など + 動詞」(状心式)

全16例、動詞の数は16(指、送、張、放、搖、趕、縱、用、刨挖、查看、讚美、霸占、行動、演習、究察、考較)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

(3) 就各自拏了鋤鋤，天天兒把葡萄地，從頭兒到了兒刨挖。(44)

各自に耒耜持ち出し。毎日く葡萄の畑を。隅から隅まで掘り反して。(渡部：69)

(4) 無心無意的，把嘴一張，所叨着的酪乾兒，就掉在地下了。(129)

うっかりと口を開けば。啄居たりし乾酪は地へおちたり。(渡部：153)

(5) 這樣把窩裡的形狀，以及蜜味，細細一考較，就可以判出所爭的巢主來了。(171)

然らば窠内の形状から蜜の味に至る迄を。篤とよく較案て。争ふ処の持主も知らるゝであらうゾ。(渡部：204)

例(3)の“把”構文の中の動詞は“刨挖”であり、“從頭兒到了兒”はその動詞の状況語である。例(4)の動詞“張”の前の“一”は、単語レベルで数詞ではあるが、連語レベルは派生副詞として用いられている。例(5)は動詞“考較”の前に状況語“細細”と派生副詞“一”を同時に用いている。この種類の“把”構文は計16例あり、用いられている動詞の数は16個である。

10.2.3 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」

10.2.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了・着・过”」(动体式など)

全26例、動詞の数は25(抓、誇、向、朝、宰、喫、摑、失、拉、占、丟、浸、賣、

殺、藏、跑、沒、下、吞、抱、背、撕扯、交換、捨棄、趕攆) であり、“把” 構文の中で以下のように用いられている。

(6) 獅子很不如意，一句話沒說，把驢撕扯了。(37)

獅子甚不敵意にて。一言にも及ばず驢を引裂たり。(渡部：59)

(7) 你要治這個，把一塊饅頭，在傷口的血上浸着，然後給咬你的狗喫，這麼着就好了，(158)

汝。夫を治し度は。一塊の麵麩を疵口の血の中へ漬けて。噬だ犬に遣なせへ。

(渡部：188)

例(6)は動詞“撕扯”の後に“了”があり、例(7)は動詞の後に“着”がある。動詞の後に“过”を用いる用例は1例も見つからなかった。この種類の“把”構文は計26例あり、用いられている動詞の数は25個である。

#### 10.2.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 名詞<sub>3</sub>」(动宾式)

全32例、動詞の数は21(沈、到、給、覺、誇、作(做)、當、動、撕、賣、交、饋送、告訴、託付、想是、推諉、防禦、以為、供奉、斷定是、假充)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

(8) 他求告的很懇切，衆樹都答應了，把極下等的一棵栲樹，給他。(45)

其頼方至って懇懃なりければ。大木ども領承して。極下賤なる秦皮を渡し遣はせり。(渡部：69)

(9) 求你別把這個事情，告訴東家。(107)

此事を旦那に告てくれるな。(渡部：131)

(10) 說完，就跳在羊羔的身上，把他撕了個粉碎，受用了。(19)

直に弱羊に躍かかり。寸々に引裂き食ひけるとぞ。(渡部：41)

(11) 菩薩見是箇可憐恤的心願，就把他变了箇俏皮姑娘。(201)

愛神が聞給ひて。扱も憐な願かなとて。此猫を美しき処女姿に変へ給ひければ。(渡部：233)

例(8)の動詞“給”の後に賓語“他”があり、例(9)の動詞“告訴”の後に賓語の“東家”がある。例(10)、例(11)はともに「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了個”…」構造の“把”構文であり、その「“了個”…」(その先行研究は第九章の9.2を参照)は、筆者がそれは名詞の役割を担っているが、例(10)の“撕了個粉碎”の意味は“撕得粉碎”に相当する、とみなしている。「動詞+了個…」は“動詞+得”であり、様態補語マーカーとして用いられている形式である。例(11)の“变了箇俏皮

姑娘”の意味は“变成一箇俏皮姑娘”に相当する。文構造「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 名詞<sub>3</sub>」の“把”構文は計 32 例あり、用いられている動詞の数は 21 個である。

### 10.2.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + 名詞<sub>3</sub> + 動詞<sub>2</sub>」(連動式)

全 18 例、動詞の数は 33 (瞧、打、躺、置、问、搶、跑、誘、害、誑、喫、說、當、馱、走、宰、喫、來、勸、齷、搭、用、弄、放、題、擻、管、去、求、抖擻、告訴、食用、帖轆) であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

- (12) 有一個從外國做客旅回來的人，把在外國各處兇所用的本事，告訴人說。(101)  
外国へ旅をして帰たものが。処々にて為たる手柄をはなして。(渡部：127)
- (13) 在左近山上住的獅子，想要把他們當糧食用。(106)  
近辺の山に住む獅子是を餌食になさんと思ひ。(渡部：130)
- (14) 就把行李，全都叫驢馱着走。(114)  
荷物を残らず驢馬へ負て行きたり。(渡部：139)
- (15) 無可奈何，只得把耕牛也宰了喫。(131)  
無余儀耕牛を屠て喰ふと。(渡部：155)
- (16) 第二說，別把難求的事打算去求。(222)  
第二にもとめがたき事をもとめんと思ひ給ふなといへり。(渡部：258)

例 (12) の“告訴人說”の中の“告訴”と“說”は 2 つの動詞であり、例 (13) の“當糧食用”の中の“當”と“用”は 2 つの動詞である。同様に、例 (14) の“叫”と“馱着走”の中の“馱”と“走”も動詞であり、“馱着走”は“V<sub>1</sub>着 + V<sub>2</sub>”構造であり、V<sub>1</sub>の状態で、V<sub>2</sub>を行う。“叫驢馱着走”は兼語文である。例 (15) の“宰了喫”、例 (16) の“去求”は連動式である。この種類の“把”構文は計 18 例あり、用いられている動詞は 33 個である。

### 10.2.3.4 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 数量形式」(動量式 + 名量式)

全 7 例、動詞の数は 7 (簡、齷、裁、喫、演、掏、磨) であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

- (17) 您這麼樣兇的要我好看，來把刷洗的事簡一簡，添足了喫的罷。(13)  
汝そんなに私をよく見せ様と御思ひなさるなら。マア梳洗のを大抵にして。食物を充分下さりませ。(渡部：35)
- (18) 說着，就把肚子齷了一齷，問小蝦蟆說：(26)  
自分が満気れあがり。(渡部：49)
- (19) 有把一樣新鮮頑藝兇，在場上演演的，必賜若干獎賞。(165)  
誰にもあれ新工夫の一芸を席上に於て演すもの是あらば。多くのご褒美を給

わらんとの事なり。(渡部：195)

(20) 從此天天兒的洗澡，把翅膀兒，磨了磨，收拾了。(178)

夫から毎日浴水をつかって。羽翼を摩たり粧たりしたれども。(渡部：211)

(21) 忽然想了一個齷刻念頭，打算把待客的東西裁點兒，好做自己喫的。(109)

俄に鄙吝き心を生し。客の食物を削りて。自己が食に充てむものと思ひ。

(渡部：134)

この構造の数量補語は名量式と動量式と“VV式”と“V一V式”とを含めている。例(17)の“簡一簡”は“V一V”式、例(18)の“膩了一膩”は“V了一V”式であり、例(19)の“演演”は“VV”式、例(20)の“磨了磨”は“V了V”式である。現代中国語では「少し」、「ちょっと」というような量的表現であるが、当時は動詞の重ね型は、重ね型の本来の意味である「しっかり」、「たくさん」という強調を意味する解釈が可能である。また、例(21)の“裁點兒”の“點兒”は「少し」、「ちょっと」というような量的表現である。この種類の“把”構文は計7例あり、用いられている動詞の数は7個である。

10.2.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 程度・様態補語」(述程式と動得式)

全5例、動詞の数は5(喫、早、櫂、襯、打)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

(22) 青的是能把臉襯得白的，哼，總是非青的不可(163)

青は顔を白く見せるものだ。ウムなんでも青に限るな。(渡部：191)

(23) 眼看着把好幾隻羊，叫狼喫的一隻也沒剩下。(30)

数多の羊一疋も残らず皆狼に食れけるとぞ。(渡部：54)

例(22)の“白”は形容詞であり、“襯”の様態補語である。例(23)の“一隻也沒剩下”は連語であり、動詞“喫”の様態補語である。この種類の“把”構文は5例あり、用いられている動詞の数は5個である。

10.2.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」(動結式)

全52例、動詞の数は41(燒、放、弄、搵、啃、咬、踹、崩、拏、趕、掏、去、拆、打、吹、搯、得、撇、圍、勒、推、掛、說、喝、射、喫、鈎、治、分、掏、鴿、看、馱、颯、擱、叫、咬、扛、發送、鑿治、捉拏)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

(24) 把自己的崽子，並皂鵬雛兒，全都燒死，立時就報仇了。(9)

己が狐兎と諸ともに。鷲の雛をば焼亡ぼし。忽ち仇をかへしけるとぞ。(渡部：33)

(25) 這個笨東西，你把我所喝的水，都給弄溷了。(19)

此愚羊。汝は我が飲むで居る水を濁しやアがつたな。(渡部：41)

(26) 你別竟瞎求我了，你可以先把肩膀兒，扛住車尾兒，用手儘力兒的推車軚轆罷。(51)

汝徒に我のみを頼む事なかれ。汝先づ汝の肩を車にかけ。手をもって輪を一塗に押べし。(渡部：74)

例(24)の動詞“燒”の結果は“死”であり、例(25)の動詞“弄”の結果は“溷”である。例(26)の動詞“扛”の結果補語は“住”であるが、“把+名詞”は用具や材料を表す。この“把”は“用”あるいは“拏”に相当する。例(26)の“把肩膀兒”は“用肩膀兒”に相当し、この“肩膀兒”はただの用具である。この種類の“把”構文は1例しかなく、文構造「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+結果補語」のような“把”構文は計52例あり、用いられている動詞の数は41個である。

10.2.3.7 文構造：「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+趨向補語」(動趨式)

全44例、動詞の数は33(伸、拔、拏(拿)、叨、打、脫、放、偷、咬、扔、出、剪、藏、放、掣、卸、馱、揚、抓、接、亮、掏、趕、害、奪、砍、繫、拉、撇、抬、顯露、嚷嚷、抖擻)であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

(27) 趕羊的遠遠兒看見，就跑來拏住他了，把兩翅膀兒剪了去。(91)

牧奴が遙かに見付け。駆で来て捕て押へ。その両翼を剪去ておき。(渡部：118)

(28) 把傍邊兒的小石頭子兒，一塊兒一塊兒的叨起來，放在缸裡頭。(33)

傍にある砂石を啄へ。一ツづゝ瓶の内へ落すと。(渡部：56)

(29) 自然而然的把雨衣脫下來了，所以太陽贏了。(43)

覺えず雨衣を脱ぎすてたりと。そこで日輪の方勝たり。(渡部：68)

例(27)は動詞“剪”の後に単純趨向補語“去”があり、例(28)、例(29)の動詞“叨”、“脫”の後にそれぞれ“起來”、“下來”というような複合趨向補語が用いられている。この種類の“把”構文は計44例あり、用いられている動詞の数は33個である。

10.2.3.8 文構造：「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+“在・到・給・成”+名詞<sub>3</sub>」  
(動介式・把作式)

全68例、動詞の数は46(送、栓、拽、攔、當、釀、歸、叫、埋、扔、馱、獻、說、擻、誑、鑽、賠、伸、盛、挪、拉、網、吊、想、放、縮、趕、告、供奉、搭、弄、改、



算、変、脱、帶、看、做、攪、擺、挾、記、賜、運送、搬運、叫攏）であり、“把”構文の中で以下のように用いられている。

- (30) 有時候兒，把他攔在兜裏，極其愛喜。(46)  
時にふれては膝へ上げ。愛玩する事甚し。(渡部：71)
- (31) 一天，把兒子們，都叫到跟前兒，吩咐拏一捆兒劈柴來。(57)  
或日家翁兄弟を呼寄せて。吾の前へ薪を一把持て来いと云付けたり。(渡部：80)
- (32) 回到村兒裏，就把一五一十的話，都說給他的夥伴兒們聽。(66)  
村の内へ立帰り。ありし事どもを仲間のものへはなすと。(渡部：91)
- (33) 金龜子又知道了，把泥弄成小丸兒，在嘴裡叨着，往天上飛去，(193)  
然るに又甲羽が是を知り。泥を以て小丸を製し。啣へて遙か飛上り。(渡部：225)
- (34) 獅子自己作主，把那鹿擡為三份兒，(68)  
自身の所得としてまた一ツ引取べし。第三分に至りては。(渡部：92)
- (35) 然而定不把你想做羊的一類。(148)  
雖然汝を羊の属だとは思やアしないゾ。(渡部：177)

例(30)から例(35)の動詞の後に注目すると、(30)は“在”、(31)は“到”、(32)は“給”、(33)は“成”、(34)は“為”、(35)は“做”が用いられている。この種類の“把”構文は計68例あり、用いられている動詞の数は46個である。

本資料は『語言自邇集』の初版本(1867年)と同様、崔显军(2012:176~180)の分類の中で挙げられている構造「“看”+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(看把式)」 「名詞<sub>1</sub>+“把”+“个”+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(把个式)」 「“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他(把NPVP!式)」のような特殊な“把”構文は、一例も見つけることができなかった。

以上、調査の結果で得られた『伊蘇普喻言』における“把”構文は、崔显军(2012:176~180)の基準に従って分類することで、『伊蘇普喻言』の“把”構文の類型が多岐にわたっていることが明らかとなった。その構文は以下の[表1]のように示される。

[表 1] 『伊蘇普喻言』における“把”構文（動詞の分類）

	“把”構文の分類（文構造）		崔显军(2012) 15 類	例 文 数 270	割合	
1	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞		光杆动词式	2 例	0.7%	
2	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + “‘一’ など” + 動詞		状心式	16 例	5.9%	
3	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞	+その他 (①~⑧)				
		賓語 な ど	① “了・着・过”	动体式	26 例	9.6%
			② 名詞 <sub>3</sub>	动宾式	32 例	11.9%
			③ 名詞 <sub>3</sub> + 動詞 <sub>2</sub>	连动式	18 例	6.7%
			④ 数量補語	动量式・名量式	7 例	2.6%
		補語	⑤ 様態補語	述程式・动得式	5 例	1.9%
			⑥ 結果補語	动结式	52 例	19.2%
			⑦ 趨向補語	动趋式	44 例	16.3%
⑧ “在・到・给・作・成” + 名詞 <sub>3</sub>	动介式 把作式		68 例	25.2%		

### 10.3 “把”構文の形式について

本資料における“把”構文には以下の現象が見られた。

(36) 那老兒很生氣，把現放着的斧子， 拏起來，一下兒就砸成肉餅兒了。(14)

老農大に怒を發ち。ありあふ手斧をおとって。忽ち是を打ひしぎけると。(渡部：38)

(37) 怕朋友走差了道兒，拏繩兒把耗子的前腿兒， 拴在自己的後腿兒上，帶着他跳走。(15)

朋友の路を踏違へぬようと。鼠の前足をおのが後足へしぼりつけ。案内をして躍行しが。(渡部：38)

例 (36)、(37) の構造は「“把” + 名詞 + , + 動詞 + その他」である。その「“把” + 名詞」と「動詞」の間にカンマ“逗号”「,」があり、このような形式の“把”構文は 270 例中 96 例あり、36%も占めている。今回の言語調査により、この構造が非常

に多いことが分かった。

現代中国語では「“把”＋名詞＋動詞＋その他」が一般的であり、カンマ「,」をつける発想がほとんどない。なぜならば、「“把”＋名詞＋動詞＋その他」作る「変化のくみあわせ」は、一つのひとまとまり性があるからである。この点から、当時では、そのひとまとまり性の概念はまだ確立していなかった、といえるだろう。

#### 10.4 “把”構文における副詞と助動詞の位置について

『伊蘇普喻言』における“把”構文中の副詞、助動詞の位置について、統計的に分析してみた。結果は、以下の[表 2]のように示すことができる。

[表 2] “把”構文における副詞、助動詞の位置

品詞		前置型	後置型
副詞	都/全/全都	1 例	16 例 (例 38)
	也	1 例	7 例 (例 39)
	還	1 例	
	不	7 例	1 例 (例 40)
	就	30 例	2 例 (例 41)
	仍		1 例 (例 42)
助動詞	要	9 例	
	得	3 例	
	打算		2 例 (例 45)
	肯	2 例	

(38) 娘啊，是一個四條腿的牲口，他把大夥兒都踹扁了。(26)

ヤア阿嬢。それはマア四足のある大な獣だが。それが同気をふみつぶしました。(渡部：49)

(39) 日進分文，就應當知足，若要妄貪，必要把資本，也賠在裏頭啊。(79)

日々少しづゝの得分あらば扱やみなん。余りあこぎに得んとすると本銀までも失ふものぞ。(渡部：103)

(40) 把剛趕來的山羊，並不放在心上，撂在一邊兒。(166)

今帯帰りし野羊どもには。心も付ず捨置けり。(渡部：179)

(41) 就望着水影兒一咬，倒把現在還叼着的肉，就沈了水底。(18)

水に写れる肉にくらひ付しに。今まで己が銜し肉水底に沈み。(渡部：41)

(42) 狐狸領命，把那東西仍歸到一塊兒，就中剔出一點兒來，做為自己當得的。

(37)

狐委細領承て。以前の肉を一堆にし。其内より己の分と云て只纔の肉を取のけ。(渡部：59)

(43) 然而他又不肯把搭着的放下，必要把手掣出來，在那兒哭喊。(103)

されど握った実をば離すまい手をば抜きたいと叫喚くと。(渡部：129)

(44) 無可奈何，只得把耕牛也宰了喫。(131)

無余儀耕牛を屠て喰ふと。(渡部：155)

(45) 第二說，別把難求的事打筭去求。(222)

第二にもとめがたき事をもとめんと思ひ給ふなといへり。(渡部：258)

上述の[表 2]で示したように副詞“都”と“也”の位置は前置型と後置型に分けることができる。本表により、副詞は後置型である場合が非常に多いことが明らかになった。例(38)の“他”が“大伙兒”をすべて“踹扁”するのであれば、“都”の位置は“把+名詞<sub>2</sub>”の後、動詞の前に用いるしかない。例(39)の“資本”も“賠”を表現するとき、この“也”は後置型で表現しかできない。

副詞“就”と副詞“不”の位置は前置型での表現が多いが、後置型も存在していることが明らかになった。例(40)の“不”は“把”の後、動詞の前に置かれているが、現代中国語では“把”の前に置かれる。例(41)の副詞“就”、例(42)の副詞“仍”も“把”の後、動詞の前に置かれているが、現代中国語では“把”の前に置かれるのが一般的である。

例(43)の助動詞“要”、例(44)の助動詞“得”の位置はともに前置型であり、例(45)の助動詞“打筭”の位置は後置型であることが明らかになった。

#### 10.5 “將”の使用状況について

『伊蘇普喻言』(1878)における“把”構文の用例は270あり、“將”構文は1例もなかった。同書における“將”の用例について、調査してみた。

(46) 有一個螞蟻，到泉水地方，將要喝水，腳一滑，溜到水裡去了。(128)

或蟻泉水に來て水を飲むとする時。足をすべらせのめり込んで。(渡部：152)

(47) 一天太陽將落，找到山神的住處。(17)

一夕栖所へ尋行きしに。(渡部：40)

“將”の用例は全部で14例あり、将然形式としての用法のみであった(例46、47)。“將”構文の用例が一つもない理由として、それはこの本の内容が子供向けであり、

文体が口語的であったためである。だからこそ、文語的な表現である“將”構文のかわりに“把”構文が用いられたのである。

#### 10.6 おわりに

『伊蘇普喻言』(1878)における“把”構文について、筆者は上記のように考察・分析してみた。その結果、同書における“把”構文は以下の特徴を持っていることが分かった。

(i) “把”構文の文構造は比較的豊かである。[表 1]で示したように全部で 3 種類ある。「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・給・成” + 名詞<sub>3</sub>」(動介式・把作式)文構造が最も多く、全部で 68 例あり、全体の 25.2%を占めている。これは“把”構文の基本義である「主体によって、客体の位置を変化させたり、状態を変化させたりする処置」と深く関係があるからである。

(ii) 副詞、助動詞の位置について、[表 2]で示したように、副詞“都”、“也”、“再”、“不”、“就”の位置は、“把”の前でも可能であり、「把+ 名詞<sub>2</sub>」の後・動詞の前でも可能である。また、助動詞“要”、“得”の位置は“把”の前であるが、助動詞“打算”は「把+ 名詞<sub>2</sub>」の後・動詞の前である。「変化のくみあわせ」の概念はまだ確実されていないので、現代中国語より文中における単語の位置に関する語順の規則にあまり縛られていないことが明らかになった。

『伊蘇普喻言』(1878)は、なぜ以上のような特徴をもっているのか、以下にいくつかの理由をまとめた。

①基本を重視するテキストとして編纂されているため、収録されている“把”構文の文構造が非常に豊かである。今回の調査・分析により、ほぼすべてのタイプを網羅していることが明らかになった。

②当時、連語である「変化のくみあわせ」は一つのひとまとまり性を持つことがまだ人の意識の中にできてないために、副詞・助動詞は動詞や形容詞の前に用いられ、その位置が非常に緩かったと考えられる。

## 第十一章 『官話指南』（1881年）における“把”構文について

### 11.1はじめに

『官話指南』は日本人である呉啓太、鄭永邦<sup>147)</sup>の共編により、黄裕壽、金國璞の校正を経て、楊龍太郎を出版人として出版された「中国語会話書」である。本書は1881年（明治14年）に出版され、長年にわたり日本人および欧米人に使用されてきた中国語学習用の教科書である。

この教科書は六つの版本<sup>148)</sup>があり、初版は1881年（明治14年）に出版され（六角恒廣編の『中国語教本類集成』には影印が掲載されている）、また1882年には上海美華書館により出版された。その後、1886年上海脩文活版館により再版され、1990年に上海美華書館により重刊され、同年福州美華書院により重刊された。さらに、1903年には Kelly & Walsh Limited により重刊された。

本書は当時の「北京官話」を反映した「中国語会話書」であるため、これを考察、分析することにより、当時の中国語における“把”構文の文構造などの特徴がわかる。また、これを現代中国語と比べることにより、中国語の変遷の痕跡の一部が明らかになるだろう。

本章では1881年の初版に基づき、『官話指南』における“把”構文について、考察・分析してみた。『官話指南』は序文・凡例・目録・卷之一“應對須知”・卷之二“官商吐屬”・卷之三“使令通話”・卷之四“官話問答”の四巻の一冊からなる。本資料における“把”構文は全部260例見られ、“將”構文は23例みられる。本章はこれらについて、考察・分析する。

### 11.2 “將”構文と“把”構文の異同について

1980年代では、王力（1980：474～483）<sup>149)</sup>は「処置式」について、“將”構文は早い時期に比較的が多かったものの、唐の中期以後、“把”構文が多くなってきて、二つの区別が徐々になくなってきたと述べ、太田辰夫（1985：258）は、「處置とは《把》《將》などを用い、賓語を述語の前に移すことをいう」と主張している。

<sup>147)</sup> 氷野善寛（2012：37～41）は、「鄭永邦（1863～1916）は、長崎唐通事鄭永寧の子であることがわかる。（中略）19歳の時に通弁見習として北京公使館に派遣され、1886（明治13）年4月外務六等属となり、依願免官したがそのまま北京に留まり、翌7月御用係として北京公使館に勤務した。（中略）そして呉用蔵の第4子である呉碩の養子がもう一人の編者である呉啓太である。呉啓太は、1878（明治11）年通弁見習として北京公使館に勤務、1881（明治14）年外務省書記生となる。」と述べている。

<sup>148)</sup> 氷野善寛（2010：237～259）によれば、中国語教材として使われた『官話指南』は六つの版本あると主張している。

<sup>149)</sup> 王力（1980：474～483）によれば、“就處置式來說，在較早時期，“將”字用得較多。…到了中、晚唐以後，“把”字用於處置式的情況更加普遍起來。…“將”和“把”似乎沒有分工。”と主張している。

1990年代以降になると、“把”構文の分析が詳細になってきた。祝敏彻(2007:1~19)<sup>150)</sup>によれば、“將”構文と“把”構文は完全に同じものであり、唐の時代から、長期間にわたって同時に存在していたが、用法から、意味上から完全に区別がない二つの構造なので、長期的に同時に存在することができず、現代中国語の口語では“將”構文を使わなくなったと主張している。また、刘子瑜(1995:133~140)によれば、唐五代時期の“王梵志白话诗、《敦煌变文集》、《祖堂集》”から調査した結果は“将字句 155 例、把字句 45 例”というデータになっている。このデータから見ると、当時では、“將”構文は“把”構文よりも多かった。钱学烈(1992:283~306)によれば、《红楼梦》の中の 1021 例の“把”構文が会話文の中に使われた例は 564 例あり、全体の“把”構文の 55%を占めていた。だが、886 例の“將”構文が会話文の中に使われているのは 96 例あり、全体の“將”構文の 11%を占めていた。つまり、“把”構文はまず会話文の中において“將”構文にとって代わり、その後、地の文の中において“將”構文にとってかわったと主張している。

本資料では、“將”構文の 23 例のうち 3 例は凡例から、その他は“官話問答”からである。凡例は主に説明文であり、“官話問答”は主に官吏の会話である。清末では、本資料から、“將”構文は“把”構文よりもっと正式な場合に使われ、地の文に使われている。しかも“將”構文は“把”構文よりはるかに少ないことが明らかになった。

以上各研究者の学説に基づき、“將”は“把”と同様に変化を表すことができるため、本章では“把”構文(“將”構文を含む)を考察・分析する。

### 11.3 “把”構文の文構造について

本節も第九章の 9.2 と同様、筆者は崔显军(2012:176~180)の分類を参考にしながら、動詞を中心として、変化・結果を表す“把”構文を以下のように 3 種類に分類した。

#### 11.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞」(光杆动词式)

全 7 例、動詞の数は 5 個(扣留、放行、交還<sup>151)</sup>、稟控<sup>152)</sup>、開叅<sup>153)</sup>)である。

<sup>150)</sup> 祝敏彻(2007:1~19)によれば、“将”和“把”在虚化前是同义词，都含有“拿”“握”等意义，用法也完全相同，后来在相同的条件下二者又发生了同样的虚化——虚化为处置式和工具语中的介词；所不同者，只是二者虚化的时间略有先后。…从唐代起，“将”字句和“把”字句同时并存，并存的现象一直维持了很久。在同一语言里，用法上和意义上完全没有区别的两种结构，是不可能长期并存的，所以现代汉语北方话里“将”字不再用于处置式。”と主張している。

<sup>151)</sup> 《现代汉语词典》(第 7 版 2016: 752)によれば、“扣留”は“动词”であり、373 頁の“放行”、649 頁の“交還”も“动词”である。

<sup>152)</sup> 《漢語大詞典》第八卷(2001:105)では、“稟控亦作‘稟控’。指向上控告”と書いてある。よって、動詞と思われる。

<sup>153)</sup> 『官話指南』には、“若是查出他們有辦理不善之處，必須將他們開叅的。(4-5-82)”であるが、その日本語訳は、「若も保護の責務を盡さぬときは屹度奏上して革職すべしとの旨を嚴飭させますと、御復命を願ひます。」である。この“開叅”は現代中国語では、もう使わなくなり、“开除”の意味である。《现代汉语词典》(第 7 版 2016: 722)によれば、“开除”は動詞であり、よって、“開叅”も動詞の役割であるだろう。

(1) 如若劉雲發完清稅項，暫且把他的貨船扣留，等他交清水腳銀兩再為放行。(4-7-85<sup>154</sup>)

若し劉雲發が海關税を完納するも、暫く貨物を差押へ置き、彼が運賃を仕拂上で通ずる様計らはれたしと申し入れた。(呉：209)

(2) 趕到他交清水腳銀兩，請領事官趕緊賜我回信，我好知會稅務司把貨船放行。(4-7-85)

若も彼が運賃を精算したらば何卒領事館より至急私へ御通報下され度、拙者は稅務司へ移牒して荷船を解放せしむる都合も御座いますから。(呉：210)

この言語資料から、一音節動詞の“把”構文はすでに存在しておらず、二音節動詞に変わっていたことが明らかになった。この構造の“把”構文は7例あり、全体の2.5%を占めている。

11.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一” など + 動詞」(状心式)

全10例、動詞の数は10(轉、垂、推、燒、辭、趕、撤、扣留、出售、賠償)である。

(3) 所以他不肯收貨，要把原給的定銀退回，叫洋商將貨物另行出售。(4-8-86)

それ故に彼れは貨物を受取ることを承知せず、最初渡して置いた手付金を取り戻し、商會に貨物を他へ売らさうとした。(呉：211)

(4) 明兒個早起俗們把買賣一辭，一個人趕着一輛車就回家去了。(2-29-42)

明早朝我々は商売を遏めて各自一輛の車を御して早く家に帰り行きます。(筆者訳<sup>155</sup>：108)

例(3)の“把”構文の中の動詞“出售”の前に動詞の状況語“另行”があり、例(4)の“把”構文の中の動詞“辭”の前に派生副詞“一”がある。この構造に用いられた動詞には、一音節動詞が7個あり、二音節動詞は3個ある。一音節動詞は二音節動詞より多いことが分かった。これも藤田益子(2005: 41)の『兒女英雄伝』における「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一” + 動詞」というような構造の“把”構文の中の“動詞”は単音節動詞が多いという結論と一致した。この構造の“把”構文は10例あり、全体の3.5%を占めている。

11.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」

<sup>154</sup> (4-7-85) は第4巻第7章85ページと言う意味を表す。

<sup>155</sup> この文は筆者が呉泰壽の訳文によって修正したものである。呉泰壽(1915: 108)の訳文は「明早朝我々は商売を遏めて各自一輛の車を御して早く家に帰り行き」となっている。



### 11.3.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了・着・过”」（动体式など）

全 31 例、動詞の数は 24（辭、丟、要、到、摘、叅革、開、忌、斷、還、給、放、抓、擦、拍賣、洩漏、埋、摔、收、封、賣、關、瞧、說）である。

(5) 這麼着他就把事情辭了，回家養病去了。（2-14-21）

そこである人は辭職して家に養生をしに歸ったのです。（呉：57）

(6) 小的聽這句話氣急了，就打了他一個嘴巴，他回手就把小的臉抓了。（2-35-49）

私はこの一語を聞いて、忽ち腹を立てて、その口元を殴りましたれば、彼は私に手向ひをして、私の顔を抓きました。（呉：125）

例（5）、（6）の構造は全て「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了”」であり、文構造「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“着”」と「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“过”」で作る“把”構文は 1 例もなかったことが明かになった。本資料では、この構造の“把”構文は 31 例あり、全体の 11.0%を占めている。

### 11.3.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」（动宾式）

全 12 例、動詞の数は 8（回明、稟報、稟明、賠出、分賠、給、破、治）

(7) 這麼着，他就叫我把那銀子和衣服給他罷。（2-30-44）

すると、彼は私にその金子と衣服を呉れと言はれた。（呉：112）

(8) 我回去將此節稟明道台，再回復大人就是了。（4-8-87）

私は歸りましてこの事を道臺に復命し、その上で閣下に御回答を致します。  
（呉：214）

例（7）の動詞“給”の後に賓語“他”があり、例（8）の動詞“稟明”の後に賓語“道台”がある。この構造の“把”構文は 12 例あり、全体の 4.2%を占めている。

### 11.3.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋名詞<sub>3</sub>＋動詞<sub>2</sub>」（连动式）

全 19 例、動詞の数は 31（揪、打、請、收拾、拿、釘、當、交、帶、告訴、說、辦、預備、送、訛詐、帶、見、夾、瞧、找、替、用、傳、查訊、審訊、問、舉薦、去、辦、叫、向）である。

(9) 一問他的號他說是叫子芹，我就把運錯了箱子的事情，告訴他說了。（2-21-31）

號を問ふと、彼は子芹と呼ぶと申された、私は直に運び違へた鞆の事を話しました。（呉：81）

(10) 那麼您就先把舖子所有的這兩部，交給我帶回去。(2-18-27)

それでは、先づ御店に有るその二部だけ渡して下さい持ち回ります。(呉：72)

(11) 那錢舖的人聽這話就趕緊的拿夾剪，把銀子夾開了一瞧，可不是假的麼。(2-36-51)

かの両替店はこの話を聞いて直に鋏刀で銀を切り開いて見ると、いかのも偽であった。(呉：129)

例(9)の“我就把運錯了箱子的事情，告訴他說了。”は、現代中国語では“我就把運錯了箱子的事情，告訴他了”と表現するだろう。例(10)は“您”が“舖子所有的這兩部”を“交給我”、“我”が“帶回去”という兼語文である。だが、例(11)は“那錢舖的人”が“銀子”を“夾開”し、しかも“瞧”する。一人が二つ以上の動作をするというような表現である。この構造の“把”構文は19例あり、全体の6.7%を占めている。

#### 11.3.3.4 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 数量補語」(動量式 + 名量式)

全12例、動詞の数は11(説、問、盤、磕打、曬、扯、蓋、歸着、掃、倒、擦)である。

(12) 王書辦問他的來意，他就將百姓有意生事，打算請知縣設法保護的話說了一遍。(4-5-82)

王は彼の来意を尋ねた、彼はそこでその土民が騒動を惹起す企のある様子だから知縣は保護の策を講ぜられんことを請はんと一通り述べた。(呉：201)

(13) 前兒個知縣過堂，把他們兩造大概問了一問，就吩咐叫他們下去，找人先說合。(2-19-29)

一昨日知縣は裁判を開いて、彼等原被両告を概略審問し、彼等に一時引取人を頼んで仲裁をさせよ。(呉：77)

この構造の数量補語には、名量式と動量式と“VV式”と“V一V式”が含まれている。例(12)の“說了一遍”の“一遍”は動作の量的な表現であり、例(13)の“問了一問”は“V了一V”式で、これも動作の量的な表現である。全部で12例あるが、ただ名量式の例は1例もなかった。この種類の“把”構文は全体の4.2%を占めている。

#### 11.3.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 程度・様態補語」(述程式と動得式)

全1例、動詞の数は1(碰)である。

(14) 那趕車的，若是個力把兒頭，趕到了前面，走到石頭道上，可就把車竟往踐窩裏頭趕，把人碰的頭暈眼花。(3-6-62)

その馭者が若も不熟練の者であったならば、前門に至り、石道に掛ると忽ち車を窪處にばかり挽き入れ、人の頭を車箱へぶっつけて目はまひ。(呉:152)

例(14)の“頭暈眼花”は連語であり、動詞“碰”の様態補語である。この構造の“把”構文は1例しかない。

#### 11.3.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋結果補語」(動結式)

全38例、動詞の数は29(撞、碰、嚇、砍、推、拆、勒、撤、晒、拾掇、騰、算、安置、折、修飾、弄、通、刷、交、辦、問、拉、說、拐、擺、抖擻、擲、疊、交代)である。

(15) 他是昨兒晚上到的京，打算把這上稅的事情安置好了，他再出城迎貨去。(4-13-92)

彼は昨晚着京し此の納稅の事を好く取極め置き、彼は又城を出で貨物を迎ひに行く積りです。(呉:226)

(16) 你總要把屋子拾掇俐懼了。(3-15-71)

おまへ是非部屋を奇麗に片付け。(呉:173)

例(15)の“好”は“安置”の結果補語である。同様に、例(16)の“俐懼”は“拾掇”の結果補語である。本資料では、この構造の“把”構文は全部で38例であり、全体の13.4%を占めている。

#### 11.3.3.7 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋趨向補語」(動趨式)

全107例、動詞の数は51(放、起、找、拿、叫、告、賣、帶、拉、偷、昧、退、搬、送、要、買、留、勾、趕、請、傳、包、取、接、騙、押、引、換、繞、疊、合、搭、拾掇、分、蓋、打發、投、追、扣、卸、典、推、交還、歸、預備、領、搯、歸着、捲)である。

(17) 若是過路的人，把你的馬偷了去了，那可就難找了。(2-15-23)

若も通り掛った者が、汝の馬を偷み去ったのであったならば、それは捜し難い。(呉:63)

(18) 那麼你出去把他叫進來。(2-7-12)

それではおまへは行って彼を呼込んで来い。(呉:37)

例(17)の動詞“偷”の後には単純趨向補語“去”があり、例(18)の動詞“叫”の後には“進來”という複合趨向補語が用いられている。この構造の“把”構文は全部で107例ある。“把”構文の全体の37.8%を占めている。

11.3.3.8 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“在・到・給・成”＋名詞<sub>3</sub>」  
(動介式・把作式)

全46例、動詞の数は33(安置、找、包、寄放、傳、擱、運、調、讓、折、叫、分、賣、拿、帶、挪、搭、拴、藏、支、遞、煞、薦、抬、枷號、忘、交、還、敘、弄、倒、插、裝)である。

(19) 是了，你先把這兩套書擱在櫃子上去罷。(2-18-27)

左様であったか、汝は先づこの二部の本を書棚の上に載せて置いてくれ。

(呉：72)

(20) 你撫台就派員把他寓所裏的東西都封了，把王子泉調到省裏去。(2-22-32)

巡撫は直に役人を派して彼の住宅内の家具を悉く封じて、王子泉を撫署に拘引した。(筆者訳<sup>156)</sup>)

例(19)から例(20)の動詞の後に注目すると、(19)は“在”、(20)は“到”が用いられている。この構造の“把”構文は「動詞」の後に“在・到・給・成”しか用いられていなく、全部で46例である。本資料でも、崔显军(2012：176～180)の分類の中の構造：「“看”＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋その他(看把式)」「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋“个”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋その他(把个式)」「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他(把NPVP!式)」の特殊な“把”構文は、一例も見つけることができなかった。

以上、調査の結果で得られた『官話指南』初版本における“把”構文を崔显军(2012：176～180)の基準に従って分類することで、現代中国語の“把”構文の類型が多岐にわたっていることが明らかとなった。

<sup>156)</sup> この文は筆者が呉泰壽(1915：84)の訳文により修正したものである。この文は呉泰壽(1915：84)の訳文では「巡撫は直に役人を派して彼の住宅内の家具を悉く封じて、王子泉を撫署に拘引し」となっている。

[表 1] 『官話指南』初版本における“把”構文（動詞の分類）

“把”構文の分類（文構造）		崔显军 (2012)15 類	例文 数 283	割合	
1	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞	光杆动 词式	7 例	2.5%	
2	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + “一”など + 動詞	状心式	10 例	3.5%	
3	名詞 <sub>1</sub> + “把” + 名詞 <sub>2</sub> + 動詞	+その他 (①~⑧)			
	賓語 など	① “了・着・ 过”	动体式	31 例	11.0%
		②名詞 <sub>3</sub>	动宾式	12 例	4.2%
		③名詞 <sub>3</sub> + 動詞 <sub>2</sub>	连动式	19 例	6.7%
		④数量補語	动量式・名 量式	12 例	4.2%
	補語	⑤様態補語	述程式・动 得式	1 例	0.4%
		⑥結果補語	动结式	38 例	13.4%
		⑦趨向補語	动趋式	107 例	37.8%
⑧ “在・到・给・ 作・成” + 名詞 <sub>3</sub>		动介式・把 作式	46 例	16.3%	

#### 11.4 “把”構文における副詞と助動詞の位置について

『官話指南』初版本における“把”構文中の副詞、助動詞の位置について、統計的に分析してみた。結果は、後述の[表 2]のように示すことができる。

(21) 那麼你現在把吳老爺的跟班的找過來，把這屋裏的事都交代明白他。(3-13-69)

それではおまへは今直に呉様の處の従僕を連れて来て、この部屋のことを、皆な分るやうに彼に引き継ぎ（以下略）（呉：169）

(22) 若是一見錢，立刻就把天理報應全都忘在九霄雲外去了。(2-16-25)

若も一度金を見たならば、忽ち因果應報の道理は何處に行ったか全く忘れてしまひます。（呉：67）

(23) 趕他病好了就把買賣也收了。(2-16-24)

- 彼は病氣が癒ゆるや否や直ちに商賣も止てしまった。(呉：66)
- (24) 那床若是不好搭可以卸下來，等拿過去，到那兒再安上。然後再把帳子還照舊的搭上。(3-9-65)
- あの寝臺は若しも乗らなければ、取り外して、持って行ってから、あちらで又組立て、そして復蚊帳を元の通り掛ければ好い。(呉：160)
- (25) 這麼着那個錢舖的人，把那隻鐮子又給了他了。就把那封信拆開了，念給他聽。(2-36-51)
- そこであの両替店の人は、かの腕輪を彼に返して、その手紙を開封して彼に讀んで聞かしてやった。(呉：128)
- (26) 你給我把被窩再往上蓋一蓋。(3-7-62)
- 汝は私に蒲團をも少し上の方にかけてくれ。(呉：154)
- (27) 那麼你為甚麼不把這層先說明白了呢。(2-39-55)
- それならば、何故その事を初に説明せられないか。(呉：137)
- (28) 後來據知縣稟復說，把趙錫三已經傳到案了。(4-8-86)
- 其後知縣からの答申に據りますれば、既に趙錫三を召喚し訊問せんことを御請求になりました。(呉：210)
- (29) 晚上必回船上來，把下欠的銀兩都要交清的。(前例 26)
- 晩に屹度船に歸り来て残金を悉く拂渡すと言ひ(以下略)。(呉：209)
- (30) 今兒天氣好也沒風，把衣裳得曬曬。(前例 27)
- 今日は天氣が良く、風も無い、着物を晒さなければならぬ。(呉：160)

以下の[表 2]で示すように副詞“都”と“也”の位置は後置型である場合が非常に多いことが明らかになった。例(21)の“這屋裏的事”を全て“他”に“交代明白”であれば、“都”の位置は“把+名詞<sub>2</sub>”の後、動詞の前に用いるしかない。しかし、“交代明白他”という言い方は現代中国語では“向他交代明白”となるだろう。例(22)の“忘”の動作によって、“天理”も、“報應”も含めるとき、例(22)の言い方しかできない。例(23)の“買賣”も同様に“收了”というような表現がしたい場合、例(23)の言い方しかできない。よって、“都”と“也”が後置型になっているのは、“把”構文が存在する理由の一つだと考えられる。

副詞“再”と“先”の位置は前置型である場合が多いことも明らかになった。副詞“再”は接続副詞である場合もある(然后再)し、重複副詞である場合もある。前置型の7例はすべて接続副詞として使われているが、後置型の1例は重複副詞として使われている。例(26)の副詞“再”は後置型である。清末の時代は、副詞“再”は現代と同じく、「把+名詞<sub>2</sub>」の前にも、後にも用いられていることが明らかになった。副詞“先”は接続副詞であり、前置型は基本的な使い方であるが、例(27)の“先”は

後置型という使い方である。清末では、その制限はまだ緩かったため、後置型でも使われていた。

副詞“都”と“也”、“再”と“先”は同じ副詞であるが、それらの位置は主に副詞の種類により異なっているが、語順にとらわれることなく使われている場合もある。また、例(24)の副詞“還”、例(25)の副詞“又”、例(28)の副詞“已經”、例(29)の能願動詞“要”、例(30)の能願動詞“得”の位置は「把+ 名詞<sub>2</sub>」の後、動詞の前に用いられているが、現代中国語では「把+ 名詞<sub>2</sub>」の前に用いられるだろう。つまり、その時代では“把”構文における副詞・能願動詞の位置についての制限は、現代中国語のそれよりも緩かったことが明かになった。

[表2] “把”構文における副詞、能願動詞の位置

品詞		前置型	後置型
副詞	都/全/全都	2例	36例(例21、22)
	也	1例	17例(例23)
	還	1例	1例(例24)
	又	1例	1例(例25)
	再	7例	1例(例26)
	先	11例	3例(例27)
	已經	1例	1例(例28)
能願動詞	要	3例	2例(例29)
	得	2例	1例(例30)
	可以	1例	
	(不肯)	1例	

### 11.5 おわりに

『官話指南』初版本(1881)における“把”構文について、考察・分析してみた。その結果、『官話指南』初版本(1881)における“把”構文は、以下の特徴を持っていることが分かった。

(i) “把”構文の文構造は比較的豊かである。[表1]で示したように全部で3種類ある。「名詞<sub>1</sub>+“把”+名詞<sub>2</sub>+動詞+趨向補語」文構造が最も多く、全体の37.8%を占めている。

(ii) 副詞、能願動詞の位置について、[表2]で示したように副詞“都”、“也”、“再”、“還”、“又”、“先”、“已經”の位置は、“把”の前でも可能であり、「把+ 名詞<sub>2</sub>」の後・動詞の前でも可能である。また、能願動詞“要”、“得”の位置も、“把”

の前か、「把+ 名詞<sub>2</sub>」の後・動詞の前かである。現代中国語より位置に関する制限が非常に緩いことが明らかになった。

『官話指南』は、なぜ以上のような特徴をもっているのか、以下にいくつかの理由をまとめた。

(i) 本資料の中の一句である“耳聽而手抄，日累而月積。”が暗示している通り、このテキストは口語がメインとなっているために、副詞・能願動詞の位置もしたがって非常に緩いということが考えられる。

(ii) 基本を重視するテキストとして編纂されているため、収録されている“把”構文の文構造が非常に豊かである。今回の調査・分析により、現代中国語のほぼすべてのタイプを網羅していることが明らかになった。



## 第十二章 『北京官話今古奇観』（1904、1911年）における“把”構文について

### 12.1はじめに

『北京官話今古奇観』（以下『今古奇観』と略称）の第一編は金國璞が明治37年（1904年）に抱甕老人の『今古奇観』<sup>157)</sup>を清末時の北京官話に書きかえたものである（六角：P92）。この第一編には、原本『今古奇観』の〈第十六回 李汧公窮邸遇俠客〉（略称〈李〉）と〈第三十六回 十三郎五歳朝天〉（略称〈十三郎〉）の二篇が収められている。『今古奇観』の第二編は明治44年（1911年）に書きかえられ、原本の〈第十三回 沈小霞相會出師表〉（略称〈沈〉）と〈第二十九回 懷私怨狠僕告主〉（略称〈懷〉）の二篇が収められている。

本章では、この第一編と第二編を対象とし、“把”構文を調査・分析する。これらを調査・分析することによって、当時の“把”構文がどのような特徴をもっていたか、どのように使用されていたかを、明確にすることが出来る。それは“把”構文の通時的な変遷を研究するための基本資料として、役に立つことが期待できる。なお、本章で用いる言語資料は不二出版発行『中国語学資料叢刊』第一巻に影印されているものである。

本資料における“把”構文は全部で506例あり、〈李〉には167例、〈十三郎〉には96例、〈沈〉には119例、〈懷〉には124例あったが、〈十三郎〉には“将”構文が6例あった。これらの“把”構文を調査・分析することによって、以下の二点を明らかにする。

- ① 『今古奇観』における“把”構文の文構造について
- ② 『今古奇観』の中の“把”構文における副詞・能願動詞の位置について

### 12.2 “把”構文の文構造について

本節も第九章の9.2と同様、筆者は崔显军（2012：176～180）の分類を参考にしながら、これまでと同様、動詞を中心として、変化・結果を表す“把”構文を以下の3種類に分類する。

#### 12.2.1 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞」（光杆动词式）

全1例、動詞の数は1（正法<sup>158)</sup>）である。

<sup>157)</sup> 『今古奇観』は明代末の短編小説集、計40巻。抱甕老人が「三言」、「二拍」の200編から40編を選んだものである。1628年～1644年刊。物語の世俗性と多面性により、清代に流行していた。（<http://kotobank.jp/word/今古奇観>）

<sup>158)</sup> 《現代汉语词典》（第7版2016：1671）によれば、“正法”とは“动词，执行死刑”である。

(1) 如今拿住他們了，請皇上旨意，把他們正法，以絕後患。<sup>159)</sup> (<李>: 12)<sup>160)</sup>

例(1)の動詞“正法”は二音節動詞である。清末の『新刊新文指要』<sup>161)</sup>、第九章の『語言自邇集』初版、第十章の『北京官話伊蘇普喻言』、第十二章の『官話指南』を調査した結果、一音節動詞の“把”構文は存在しておらず、二音節動詞のみあることが明らかになった。例(1)の動詞“正法”は動賓構造の動詞であり、結果を表すことができる。“把”構文は処置によって結果などを出すことに特徴があるので、この動詞“正法”は“把”構文に用いられることができる。この種類の“把”構文は計1例しかなく、用いられている動詞の数は一つしかない。

#### 12.2.2 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + “一” など + 動詞」(状心式)

全10例、動詞の数は10(穿<sup>162)</sup>、念、伸、推、燒、揣摩、看押、處斬)である。

(2) 像那天晚上既然把船户周四打聽好了，就該當把那個死屍抬到墳地裏去，點起一把火來，把死屍一燒，從此無踪無跡，那不乾淨麼。( <懷>65)

(3) 如今忽然間換了這麼一身新衣服，不由的也動他的心了，又把剛才大家所說的話細細的一揣摩，也覺着有理。( <李>: 12)

(4) 張千李萬所不肯招認，知州想了會子，就把他們四個人，分開看押，然後坐轎子去拜馮主事去了，打算要探探他的口氣。( <沈>37)

例(2)の“把”構文の中の動詞は“燒”であり、その前に派生副詞“一”が用いられている。例(3)の“把”構文の中の動詞は“揣摩”であり、その前に派生副詞“一”と状況語“細細的”が用いられている。例(4)の動詞は“看押”であり、その前の“分開”はその動詞の状況語である。この種類の“把”構文は計10例あり、用いられている動詞の数は10個である。

#### 12.2.3 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他」

##### 12.2.3.1 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “了・着・过”」(動体式など)

全79例、動詞の数は36(害、撤、開、放、壞、奪、改、救、沒、殺、揭、丟、要、說、招、看、封、吃、埋、賣、要、寫、告發、招認、批准、開放、稟明、參革、耽悞、算計、正法、讒害、謀害、連累、賣放、發還)である。

<sup>159)</sup> 原文の標点符号はすべて「、」が用いられているが、本章で用いられている例文の標点符号は、現代中国語の標点符号の使い方に沿って、筆者が入れたものである。

<sup>160)</sup> (<李>: 12)は<李汧公窮邸遇俠客>の第12頁という意味である。

<sup>161)</sup> 『新刊新文指要』(1818)における“把”構文の中の文構造：「N<sub>1</sub> + “把” + N<sub>2</sub> + V (光杆動詞式)」に用いられている動詞は“事奉、藐視、温習、怎広、怎樣、怎広樣”(“怎広、怎樣、怎広樣”は単語レベルでは代詞であるが、連語レベルでは動詞である)は二・三音節動詞である。

<sup>162)</sup> 動詞の順番は筆者が一音節と二音節に分けて、出現順で列挙している。

- (5) 這麼着王大人就吩咐一個家人王吉把小少爺背着，跟夫人一塊兒看燈去。(〈十三郎〉：87)
- (6) 李勉見他這麼樣兒款待，把公事都耽悞了，心裏頭倒覺着過意不去，住了有十幾天，就要告辭起身。(〈李〉：38)
- (7) 聞氏一口咬定，說是那倆解差把他丈夫給謀害了。(〈沈〉：37)
- (8) 雖然不是小的把他害的，到底這個禍實在是解小的身上起的。(〈懷〉：85)

例(5)の動詞“背”の後に“着”があり、例(6)、(7)の動詞の後に“了”がある。例(8)の動詞の後に用いられた“的”は“是～的”の文であるが、筆者はこの種類の“把”構文に分類する。動詞の後に“过”を用いる用例は1例も見つからなかった。この種類の“把”構文は計79例あり、用いられている動詞の数は36個である。

#### 12.2.3.2 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」(动宾式)

全24例、動詞の数は15(給、還、作、革、副、撕、下、打、上、掛、置、告訴、報知、羅織、發交、停泊)である。

- (9) 儂如今先把這個布給我，等我後來發跡的時候，再好好兒的補報儂的情。(〈李〉：3)
- (10) 知州就叫拿夾棍來，把他們倆人一連上了兩夾棍，張千李萬倆人受不過刑了。就直哀求說，沈襄實在沒有死，求大老爺給我們限期，我們找沈襄去，還給聞氏就是了。(〈沈〉：40)
- (11) 知縣越說越有氣，就立刻吩咐衙投把他們拉下去，把胡阿虎傷打四十大板子。(〈懷〉：96)
- (12) 楊順看了這封信很生氣，把信撕了個粉碎。(〈沈〉：9)

例(9)の動詞“給”の後には賓語“我”があり、例(10)の動詞“上”の後には賓語“兩夾棍”があり、例(11)の動詞“打”の後には賓語“四十大板子”がある。例(12)に「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋“了個”…」の構造の“把”構文があり、この文に用いられている“撕了個粉碎”の意味は“撕得粉碎”に相当する。ここの「動詞＋了個…」は“動詞＋得”であり、様態補語マーカーとして用いられている形式である。文構造「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋名詞<sub>3</sub>」の“把”構文は計24例あり、用いられている動詞の数は15個である。

#### 12.2.3.3 文構造：「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞<sub>1</sub>＋名詞<sub>3</sub>＋動詞<sub>2</sub>」(连动式)

全45例、動詞の数は62(接、住、叫、拉、帶、坐、奏、補、誣、入、成、說、放、燒、餒、攔、叨、作、帶、見、送、交、摘、藏、抬、綁、殺、去、派、做、提、查、

拿、來、約、放、躺、傳、問、跪、問、領、激發、告訴、提拔、稟知、知道、吩咐、拾掇、迎接、安置、竄改、治罪、押送、審問、拿解、定罪、發遣、踏青、出首、告發、首告)である。

(13) 沈襄就把在濟寧州的事，都告訴賈石說了。(〈沈〉：50)

(14) 南陔說臣被拐子背去之後，一細看知道不是家裡的人了，可就把我的這頂帽子，摘下來藏好了。(〈十三郎〉：100)

(15) 又叫人告訴廚房，預備上等的酒席，把李勉的四個牲口，也叫人拉到馬棚裏去，給餵好了。(〈李〉：30)

(16) 然後就吩咐衙役，把他帶在傍邊兒跪着，又叫衙役把周四帶上來問話。(〈懷〉：92)

例(13)の“告訴賈石說”の中の“告訴”と“說”は動詞であり、例(14)の“摘下來藏好了”の中の“摘”と“藏”も動詞である。同様に、例(15)の“叫”と“拉到馬棚裏去”の中の“拉”も動詞であり、“叫人拉到馬棚裏去”は兼語文である。例(16)の“帶上來問話”は連動式である。この種類の“把”構文は計45例あり、用いられている動詞の数は62個である。

12.2.3.4 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 数量形式」(動量式・名量式)

全23例、動詞の数は9(看、整、說、伸、殺、打、罵、告訴、歸着)である。

(17) 趕他剛畫完了的這個時候兒，就見左邊兒廊子底下坐着的那個大漢就過來了，把房德上下細細兒的看了一看，滿臉帶笑就說，秀才請到這邊兒來，俺們說一句話。(〈李〉：6)

(18) 暗中叫將官把避難的良民殺了些個，假作是韃子的首級，送到兵部去請功。(〈沈〉：8)

(19) 這個工夫兒南陔在傍邊兒，就把這件事始末根由，細細兒的說了一遍。(〈十三郎〉：129)

(20) 就因為前幾天他有了過失，我把他打了一頓，他懷恨在心，所以到衙門來誣告我打死人命。(〈懷〉：70)

例(17)の“看了一看”は“V了一V”式であり、現代中国語では「少し」、「ちょっと」というような量的な表現であるが、当時の動詞の重ね型は本来の意味である「しっかり」、「たくさん」という解釈が可能である。また、例(18)の“殺了些個”の“些個”は「いくつかの」、「何個かの」というような量的な表現である。例(19)の“說了一遍”の“一遍”は“說”の回数であり、例(20)の“打了一頓”の“一頓”も“打”

の回数であり、すべて動作の量的な表現である。この種類の“把”構文は計 23 例あり、用いられている動詞の数は 9 個である。

12.2.3.5 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 程度・様態補語」(述程式・動得式)

全 6 例、動詞の数は 5 (打、害、帶累、編造、連累) である。

(21) 就是先頭裡救我命的那位畿尉李老爺，因為他把我放了，把他帶累的官也壞了。(〈李〉：41)

(22) 我還有不願意的麼，無奈這一回去，多一半兒不吉，把儂連累的死了，有甚麼益處。(〈沈〉：20)

(23) 儂只顧貪圖訛詐王生的錢，可差一點兒把他害得家敗人亡。(〈懷〉：95)

例 (21) の“帶累”の様態補語は“官也壞了”であり、例 (22) の“連累”の様態補語は“死了”であり、例 (23) の“害”の様態補語は“家敗人亡”である。この種類の“把”構文は 6 例あり、用いられている動詞の数は 5 個である。

12.2.3.6 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 結果補語」(動結式)

全 76 例、動詞の数は 49 (圍、放、帶、拿、擺、留、慣、灌、刺、拿、關、害、踢、掰、擦、弄、砍、拐、背、擠、揪、抬、碰、打、貼、搬、抄、說、寫、殺、掙、開、埋、勸、嚇、灣、搵、找、改、穿戴、歸着、迷惑、謀害、安置、回稟、打聽、告訴、買附、瞞哄) である。

(24) 趕他聽到貝氏出主意，叫房德把李勉主僕灌醉<sup>163)</sup>了，半夜裏打發人去刺死他們，放火燒房子，可就嚇了一大跳。(〈李〉：53)

(25) 朕若是不把那個拐子拿住，真連這個孩子都不如了。(〈十三郎〉：100)

(26) 這麼著倆人就把稟帖奏摺都寫好了，就發了走了。(〈沈〉：12)

(27) 公別說這不吉祥的話，您暫且把心放寬了，好好兒的養病。(〈懷〉：78)

例 (24) の動詞“灌”の結果は“醉”で、例 (25) の動詞“拿”の結果は“(拿)住”で、例 (26) の動詞“寫”の結果“好”で、例 (27) の動詞“放”の結果は“(放)寬”である。この“把”構文は計 76 例あり、用いられている動詞の数は 49 個である。

12.2.3.7 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」(動趨式)

全 166 例、動詞の数は 69 (畫、關、迎、補、哄、拿、插、搵、誑、叫(叫)、放、

<sup>163)</sup> 結果補語に用いられている単語：住(14)、走(8)、好(13)、着(2)、懷、醉(2)、死(11)、跑、躺下(2)、開(5)、乾淨、瞎、掉、散、滿、明白(4)、完、醒、傷、倒、寬、昏(3)。計 22 種類である。丸括弧 ( ) の中の出現の回数である。

救、藏、推、接、端、掉、搬、讓、說、翻、找、牽、拉、請、收、扔、拔、掏、刺、報、瞞、抱、拐、摘、帶、送、背、偷、抬、脫、灌、進、買、割、鎖、要、打、栓、傳、開、攙、套、遞、點、夾、撈、領、提、抄、刨、恨、交派、收留、打發、連累、押解、裝殮、取保) である。

(28) 世蕃看了信，嚇了一跳，就把心腹人御史路楷請來，和他商量怎麼辦。(〈沈〉：10)

(29) 直比王侯家還闊，又把家樂叫出來，在院子裏作起樂來了。(〈李〉：84)

(30) 朕的意思，現在要打發人把他送回去。(〈十三郎〉：125)

(31) 趕呂大下了船之後，小的就把河岸底下的一個浮屍撈上來，擱在船上，就撐到王家門口兒去了。(〈懷〉：93)

例(28)の動詞“請”の後に単純趨向補語“來”があり、例(29)、例(30)、例(31)の動詞“叫”、“送”、“撈”の後にそれぞれ“出來”、“回去”、“上來”などの複合趨向補語が用いられている。この種類の“把”構文は計166例あるが、用いられている動詞の数は69個しかない。

12.2.3.8 文構造：「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + “在・到・給・成” + 名詞<sub>3</sub>」  
(動介式・把作式)

全82例、動詞の数は42(讓、插、送、叫、歸、放、帶、交、推、藏、駁、留、挪、請、扔、拉、遞、擺、下、擱、抱、解、拐、抬、賣、搶、發、接、拿、裱、掛、埋、裝、駛、收、定、害、分、誑、送還、托附、交代) である。

(32) 李勉就把印信文卷都交代給新任的官了，趕緊的把自己的東西都歸着好了，就把王太藏在女眷裡頭，一同起身回家去了。(〈李〉：27)

(33) 倆們這轎子，現在若是還沒買賣了，可以把這位姑娘送到王府裡去，我可以多給些個酒錢。(〈十三郎〉：110)

(34) 到了府衙門的大堂上，知府就把來的文書給他看了，然後就把回文和犯人，就交給原差了。(〈沈〉：18)

(35) 王杰雖然招認了，是他把那個人打死的，無奈並沒有屍親認屍，現在還不能就把王杰定成死罪。(〈懷〉：73)

(36) 諭王韶知悉前因卿之子失迷，經內監救回送至宮中，今特將伊送還於卿，並頒賜壓驚賞物一匣，以示優眷欽此。(〈十三郎〉：128)

例(32)から例(35)の動詞の後に注目すると、(32)は“在”、(33)は“到”、(34)は“給”、(35)は“成”、(36)は“於”が用いられている。この種類の“把”構文は

計 82 例あり、用いられている動詞の数は 42 個ある。

本資料でも、崔显军(2012: 176~180)の分類の中の構造:「看」+「把」+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(看把式)」「名詞<sub>1</sub>+「把」+「个」+名詞<sub>2</sub>+動詞<sub>1</sub>+その他(把个式)」「把」+名詞<sub>2</sub>+動詞+その他(把 NPVP! 式)」の「特殊な“把”構文」は、一例もなかった。

以上、調査の結果で得られた『今古奇観』における“把”構文を崔显军(2012: 176~180)の基準に従って分類することで、『今古奇観』の“把”構文の類型が多岐にわたっていることが明らかとなった。その中では、⑦、⑧の用例は 48.4%を占めるという結果を見てとることができる。その構文は以下の[表 1]のように示される。

[表 1] 『今古奇観』における“把”構文(動詞の分類)(“將”構文も含める)

	“把”構文の分類(文構造)		崔显军 (2012) 15 類	例文 数 512	割合	
1	名詞 <sub>1</sub> +“把”+名詞 <sub>2</sub> +動詞		光杆动词式	1 例	0.1%	
2	名詞 <sub>1</sub> +“把”+名詞 <sub>2</sub> +“一”など+動詞		状心式	10 例	1.9%	
3	名詞 <sub>1</sub> +“把”+名詞 <sub>2</sub> +動詞	+その他(①~⑧)				
		賓語 など	① “了・着・过”	动体式	79 例	15.5%
			② 名詞 <sub>3</sub>	动宾式	24 例	4.7%
			③ 名詞 <sub>3</sub> +動詞 <sub>2</sub>	连动式	45 例	8.8%
			④ 数量形式	动量式・名量式	23 例	4.5%
		補語	⑤ 様態補語	述程式・动得式	6 例	1.2%
			⑥ 結果補語	动结式	76 例	14.9%
			⑦ 趨向補語	动趋式	166 例	32.4%
			⑧ “在・到・给・作・成”+名詞 <sub>3</sub>	动介式 把作式	82 例	16.0%

### 12.3 “把”構文の“把”の客体について

本資料における“把”構文の“把”の客体には以下の現象が見られた。

(37) 知縣接過訴呈去，從頭至尾看了一遍，然後又問劉氏這案的緣由，劉氏就把他丈夫怎麼因為買薑爭價錢，誤傷呂大，又救過來了，趕到晚上擺擺渡的周四，怎麼拿船撐了一個死屍來訛錢，後來家人胡阿虎怎麼懷恨私怨，出首告發的事，細細的說了一遍。(〈懷〉：83)

(38) 我可就無心中就把相公怎麼把我打昏過去了，然後又救過來了，又留我吃的酒飯，又送給我一疋白絹，就一五一十的都告訴他說了。(〈懷〉：81)

例(37)の“把”の客体は63字あり、例(38)は33字ある。これらのような“把”構文では、“把”の客体が非常に長いことが分かった。本資料では“把”の客体の文字数は10字を超えている“把”構文が16例もあった。長い客体が動詞の後に置かれた文の意味を理解するのは非常に難しいため、“把”構文を用いて表現するのが一般的である。これも“把”構文が存在する根拠である。

#### 12.4 “把”構文における副詞と能願動詞の位置について

『今古奇觀』における“把”構文中の副詞、能願動詞の位置について、統計的に分析してみた。結果は、以下の[表2]のように示すことができる。

[表2] “把”構文における副詞、能願動詞の位置

品詞		前置型	後置型
副詞	都/全/全都	2例	55例(例39)
	也	2例	16例(例40)
	還	2例	2例(例41)
	不	3例	1例(例42)
	就	83例	10例(例43)
能願動詞	要	9例	2例
	可以	5例	
	打算	1例	
	肯	1例	

(39) 房德就在那打躺下的人裡頭了，就拿繩子把他們都捆上了，趕到天亮，就把他們送到府尹衙門裏頭去了。(〈李〉：17)

(40) 那位知州姓賀，也不敢耽擱，就派差把那店裏的掌櫃的也傳來了，這麼著就坐堂審問。(〈沈〉：37)



- (41) 房徳說，既是這麼樣，我勉強答應衆位就是了，大家聽這話，立刻就都喜歡了，把刀就還照舊插在靴子裏了。(〈李〉：11)
- (42) 我並不知情，如今我情願意把身價銀子不要了。(〈十三郎〉：117)
- (43) 就見那個義士忽然就翻了臉了，颯的一聲把寶劍就拔出來，指着房徳的臉罵着說，爾這負心的賊子。(〈李〉：77)
- (44) 奉憲牌派人把沈鍊的家眷和平常來往的人，都要按名查拿，就是賈石他有先見之明，算是脫了那箇難了。(〈沈〉：16)
- (45) 我管保三天之內，準可以把那個拐子拿來。(〈十三郎〉：102)
- (46) 有心要把他救出去，無奈又不能當堂把他開放了，我打算把這件事托附在你的身上，你可以看那時方便，就放他逃跑罷。(〈李〉：21)

上述の[表 2]で示したように副詞“都”と“也”の位置は前置型と後置型の二種類がある。本資料の中の“把”構文は後置型である場合が非常に多いことが明らかになった。例(39)の“房徳”が“他們”を全て“捆上”するのであれば、“都”の位置は“把+名詞<sub>2</sub>”の後、動詞の前に用いるしかない。例(40)の“那店裏的掌櫃的”も“傳來”を表現するとき、この“也”は後置型でしか表現できない。

副詞“就”と副詞“不”の位置は前置型での表現が多いが、後置型も存在していることが明らかになった。例(42)の“不”は“把”の後、動詞の前に置かれているが、現代中国語では“如今我情願意不要身價銀子了”となる。例(41)の副詞“就”、“還”、例(43)の副詞“就”、例(44)の能願動詞“要”も“把”の後、動詞の前に置かれているが、現代中国語では“把”の前に置かれるのが一般的である。また、例(45)の能願動詞“可以”、例(46)の能願動詞“打算”の位置はともに前置型であることが明らかになった。能願動詞は主体の能力、願望を表し、主体の意識に直接に関わるため、主体の近くに置かれる。その位置はこの時代からあまり変わっていない。一方、副詞の位置はかなり変わってきていることが明らかになった。

## 12.5 “將”の使用状況について

『今古奇觀』(1903, 1911)における“把”構文の用例は506あり、“將”構文は6例しかなかった。本資料における“將”の用例について、調査を行ってみた。結果は、以下の[表 3]に示すことができる。

[表 3] “將” の使用状況(22 例)

	<李> (5 例)	<十三郎> (9 例)	<沈> (6 例)	<懷> (2 例)
“將” 構文	0	6	0	0
将然形式	3	3	2	2
“用” に相当	2	0	0	0
將軍 (名詞)	0	0	4	0

[表 3]で示したように、本資料における“將”構文の 6 例は、すべて<十三郎>からの言語資料である。

(47) 諭旨，飭令上緊緝護要犯等因，欽此欽遵，當即揀派幹役，嚴密訪拿去後，旋據該役等，將該拐犯等護解前來，(中略)

國法，而倣效尤，相應請旨，將該拐犯暨尼僧牙婆等，綁赴市曹即行處斬，以昭炯戒而安狀善良、所有(臣)遵旨查拿拐犯，訊明議擬緣由，是否允協，謹繕摺具陳，伏乞。(〈十三郎〉：122)

(48) 上諭，前因有拐犯拐騙王韶之子，當經諭令開封府府尹、揀派幹役，上緊嚴拿該犯，照律懲辦，茲據奏稱，業將該犯等拿獲到案，訊取確供、並究出該犯等，曾於上年元宵節，串通尼僧牙婆等，設計誘拐宗王之女轉賣各情，請旨將該犯等，從嚴懲治等語，着照所請，將該犯及尼僧牙婆等，即行處斬，以昭炯戒、欽此。(〈十三郎〉：123)

(49) 諭王韶知悉前因卿之子失迷，經內監救回送至宮中，今特將伊送還於卿，並頒賜壓驚賞物一匣，以示優眷欽此。(〈十三郎〉：128)

例(47)は大臣が皇帝に書いた“摺子”(奏上文)であり、例(48)、例(49)ともに皇帝が大臣に出した“聖旨”(詔)である。これらはすべて文語的な文体である。これは「“將”構文と“把”構文の用法から、意味上から完全に区別がない二つの構造なので、長期的に同時に存在することができないために、口語では“將”構文を使わなくなった」という祝敏徹(2007: 1~19)の結論と符合した。また、口語で“將”構文が使われなくなった理由としては、“把”が“將”と同じく、「握る」の意味があり、しかも“將”より“把”のほうが発音しやすいからではないかと筆者は思う。

## 12.6 おわりに

『今古奇観』(1903, 1911)における“把”構文について、考察・分析してみた。その結果、本資料における“把”構文は以下の特徴を持っていることが分かった。

(i) “把”構文の文構造は比較的豊かである。[表 1]で示したように全部で 3 種類ある。「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」(動趨式) というような文構造が最も多く、全部で 166 例あり、全体の 32.4%を占めている。

(ii) 副詞、能願動詞の位置について、[表 2]で示したように能願動詞“肯”、“可以”、“打算”の位置は“把”の前に限られるが、副詞“還”、“不”、“就”、能願動詞“要”の位置は、“把”の前でも可能であり、「把 + 名詞<sub>2</sub>」の後・動詞の前でも可能である。「変化のくみあわせ」の概念がまだ確立されていなかったため、現代中国語と比べ文中における単語の位置に関する制約は、あまり縛られていなかったと推測される。また、副詞“都”、“也”の位置は、後置型が前置型より多いことが分かった。

『今古奇観』が、なぜ以上のような特徴をもっているのか、以下にいくつかの理由をまとめた。

①「名詞<sub>1</sub> + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + 趨向補語」(動趨式) というような文構造が多い。これは“把”構文の基本義としての「主体によって、客体の位置を変化させたり、状態を変化させたりする」と深い関係があるからである。

②当時、連語である「変化のくみあわせ」が一つのひとまとまり性を持つことがまだ人々の意識の中に形成されていなかったために、副詞・能願動詞は動詞や形容詞の前に用いられ、その位置に関する制約が非常に緩かったと考えられる。また、副詞“都”、“也”の位置は、後置型の方が前置型よりも多い。これは“把”の客体の数量のすべであるいは“把”の客体も同様に表現したいとき、“把”構文で表現するしかない。これも“把”構文が存在する意義であると思われる。

第三部において、清末の時代の四つの言語資料における“把”構文を考察してきたが、その結論としては、

①当時の“把”構文の文構造の種類は豊富であり、現代の状況とほぼ変わらない。しかし、「看” + “把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他 (看把式)」「名詞<sub>1</sub> + “把” + “个” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞<sub>1</sub> + その他 (把个式)」「“把” + 名詞<sub>2</sub> + 動詞 + その他 (把 NPVP ! 式)」のような「特殊な“把”構文」は、一例もなかった。それらは現代になってから、使われ始めたのではないかと推測される。

②後置型と前置型で表す意味は異なる“都”、“也”のような副詞について、後置型が前置型より多いということは、当時“把”構文の副詞の“都”、“也”の位置は教育上において、重視されていたと思われる。また、後置型と前置型で表す意味は同じである“就”などの副詞及び助動詞・接続詞について、後置型も存在するのは、当時の“把”構文で表す「変化のくみあわせ」の概念がまだ確立されていなかったからである。現代になってくると、段々と規範化されていき、現代の“把”構文になったものと考えられる。また、当時代では、副詞“都”などの位置によって文の意味が異なることを教育上では重視されていたことがはっきりわかった。

言語資料

- ☆『語言自邇集』初版 1867年 LONDON : TRÜBNER & CO.,60, PATERNOSTER ROW. MDCCOLXVIL
- ☆『語言自邇集の研究』影印本文 2015年 内田慶市 氷野 歩 宋桔編著 好文出版
- ☆『漢訳イソップ集』2014 関西大学アジア文化研究センター 内田慶市編著 遊文舎出版
- ☆『通俗伊蘇普物語』2001 訳者 渡部温 東洋文庫 693 平凡社
- ☆『官話指南』の初版 1881 六角恒廣編 『中国語教本類集成』の第1集第2巻の影印本
- ☆『官話指南總譯』吳泰壽著 文求堂書 大正4年(1915年)
- ☆『中国語学資料叢刊』(燕語社会風俗官話翻訳 古典小説・精選課本篇) 第一巻に影印されたものである(『北京官話今古奇観』第一編 1904、『北京官話今古奇観』第二編 1911) 不二出版社 1985年

## 終章

### 13.1 本研究のまとめ

各文法学者は“把”構文について、それぞれ“処置把字句”と“致使把字句”を主張している。筆者は“把”構文である「名詞<sub>1</sub>＋“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」の最大の特徴は「変化」を表すと考え、“把”構文の核である「“把”＋名詞<sub>2</sub>＋動詞＋その他」を「変化のくみあわせ」とし、これを「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」から「意図的な処置のむすびつき1」（他并没等病好利落了就把车拉起来。）、「意図的な処置のむすびつき2」（他把以前的挣扎与成功看得分外光荣。）、「動作の範囲・場所のむすびつき」（把东城西城都跑遍了。）、「使役のむすびつき」（那么多的字把她写得头昏眼花。）、「心理活動のむすびつき」（把一切都忘了。）、「第三者の受身のむすびつき」（因为工龄不够，一上大学还把工资免了。）に分類した。

“把”構文の表す変化は位置の変化や状態の変化を指し、“把”の主体である「名詞<sub>1</sub>」と客体である「名詞<sub>2</sub>」の変化を指す。即ち、「名詞<sub>2</sub>」の原因で、「名詞<sub>1</sub>」が変化して（我把这件事弄明白了。この事を解き明かした。筆者訳）、「名詞<sub>1</sub>」の原因で、「名詞<sub>2</sub>」が変化した（我把那本书拿来了。私はその本を持ってきた。筆者訳）というような変化である。変化を表すのに、なぜ“把”を使うかのだろう。言語には維持性（辻幸夫：2013）があり、維持性とはその内容語が機能語に文法化しても、元の語彙的な意味を残したり、分布に関して文法化の過程を反映した制約をもったりする（辻幸夫：2013）。

“把”は動詞であり、「手に持つ」の意味があり、“把”は“把”構文に用いられても、その動詞の意味を残している。「持つ」の意味があるため、“把”は“把”の後の「名詞<sub>2</sub>」を「定」的にさせる。単語レベルで不定であっても、文レベルあるいは文脈レベルでは「定」的である。よって、“把”は単語レベルでは「定」的モノのマーカールになるとは言えない場合もある。即ち、変化されるものである「名詞<sub>2</sub>」は「定」的なものであり、あるいは「名詞<sub>2</sub>」の変化の原因は「定」的なものである。

“把”構文の動詞について、「情態類“把”構文」に用いられる動詞は“把”の客体・主体を変化させることができる動詞であり、「結果類“把”構文」に用いられる動詞は“把”の客体・主体を変化させ、結果まで導く動詞である。よって、同一の動詞は全ての“把”構文に適応するわけではない。

### 13.2 今後の展望

本研究では、プロトタイプの角度から1867年までに遡って、調査・分析したが、“把”構文の特徴及び変遷をより深く研究するため、今後の課題として、さらに遡って、研究する必要があると思われる。

## 言語資料

- 『中日対訳コーパス（第一版）』北京日本研究センター2003 「コーパス」
- ・《丹凤眼》 略《丹》 『鳳凰の眼』 略『眼』
  - ・《插队的故事》 略《插队》 『遥かなる大地』 略『大地』
  - ・《人到中年》 略《中年》 『人、中年に到るや』 略『人』
  - ・《金光大道》 略《大道》 『輝ける道』 略『道』
  - ・《盖棺》 略《盖》 『棺を蓋いて』 略『棺』
  - ・《轱辘把胡同9号》略《轱辘》 『轆轤把胡同九号』 略『九号』
- ・《骆驼祥子》老舍 略《骆驼》 人民文学出版社 1978年11月湖北第6次印刷  
『らくだのシアンツ』立間祥介訳 略『らくだ』 岩波文庫
- ・《家》巴金 略《家》人民文学出版社 1953年第一版
- ・谌容 《人到中年》 1980年 百花文艺出版社出版  
林芳訳 『人、中年に至るや』 1984年 中公文庫

## 参考文献

### 中国語

- (法) 贝罗贝 1999 <早期“把”字句的几个问题>，《近代汉语研究二》，商务印书馆出版，146-160页
- 陈光 2007 <与“把”字结构自主性相关的两个语义·语法问题>《汉语动词和动词型结构二编》：151-167页 北京大学出版社
- 陈平 1987 <释汉语中与名词性成分相关的四组概念>《中国语文》第2期：81-92页
- 陈珊珊 2009 <《语言自述集》对日本明治时期中国语教科书的影响>《吉林大学社会科学学报》第2期：117-123页
- 陈晓阳 2007 <“把个<sub>2</sub>”句式的主观性轨迹>《汉语语法的认知与功能》：93-107页 世界图书出版公司北京公司
- 程仪 1983 <浅谈“把”字句状语的位置>《河南师大学报（社会科学版）》第2期：93-95页
- 程仪 1986 <再谈“把”字句状语的位置>《河南师大学报（哲学社会科学版）》第5期：115-118页，12页
- 储泽祥 2010 <事物首现与无定式把字句的存在理据>《语言研究》第4期：28-34页

- 崔希亮 1995 <“把”字句的若干句法语义问题>《世界汉语教学》第3期:12-21页
- 崔显军 2012《语义功能语言学视野下的汉语研究》北京大学出版社,176-180页
- 邓学琴 2015 <汉语教学中“使”字句和“把”字句辨析>《长春教育学院学报》第22期:71-72页
- 刁晏斌 2007《初期现代汉语语法研究》:241-260页 辽海出版社
- 范晓 2001<动词的配价与汉语的把字句>《中国语文》第4期:309-319,383-384页
- 范晓 2017<句式的几个问题-基于语言习得的视角>《语言文字学》第2期:37-50页
- 高晓华 2003 <日本学生学习汉语“把字句”偏误分析>『北星論集』第42卷第2号:95-102页
- 高万云 1993<指名性状语的句法、语义、语用分析>《汉语学习》第3期:16-21页
- 郭浩瑜 2010<近代汉语中的一种特殊“把”字句----遭受义“把”字句>《语文研究》第二期(总115期):50-54页
- 郭锐 1993<汉语动词的过程结构>《中国语文》第6期:410-419页
- 郭锐 2003<把字句的语义结构和论元结构>《语言学论丛》第28辑:152-181页 商务印书馆
- 郭姝慧,2008,<“把”字句与“使”字句的置换>,《山西大学学报》第3期:27-32页 山西。
- 何一薇 2013 <对外汉语“把”字句教学>,『中国言語文化学研究』第2号
- 贺晓玲 2001《两种表致使义句式的异同考察--“使”字句和“把”字句》暨南大学硕士学位论文
- 胡附 文炼 1990<‘把’字句问题>《现代汉语语法探索》116-124页
- 黄伯荣 廖序东 2011《现代汉语》(增订第五版)上、下册
- 江蓝生著 2008<句式省缩与相关逆语法化倾向--以“S+把+你这NP”和“S+V+补语标记”为例>《近代汉语研究新论》:107-143页 商务印书馆出版
- 蒋冀聘 吴福祥著 1997《近代汉语纲要》:574-596页 湖南教育出版社
- 蒋紹愚 1997<把字句略论-兼论功能扩展>《中国语文》第4期:298-304
- 金立鑫 1993<“把OV在L”的语义、句法、语用分析>《中国语文》第5期:361-366页
- 金立鑫 1997<“把”字句的句法、语义、语境特征>《中国语文》第六期:415-423页
- 金立鑫 2002<“把”字句的配价成分及其句法结构>『現代中国語研究』朋友書店
- 金稀玉 2013<日语助词的「を」标记性问题考察-兼与介词“把”比较>《日语学习与研究》第3期:31-35页
- 黎少銘 2009 <「把」字句的次話題及信息作用分析>《中國語文通訊》第85/86期(合刊):123-131页
- 李锦姬 1996 <两种可能式的语用分析>《南京师范大学报(社会科学版)》第3期:132-

138 页

- 李人鉴 1988 〈试论“使”字句和“把”字句〉《扬州师院学报》：105-110 页
- 李人鉴 1990 〈试论“使”字句和“把”字句(续)〉《扬州师范学院》第 3 期：59-61,71 页
- 李人鉴 1991 〈试论“使”字句和“把”字句(续)〉《扬州师院学报》第 1 期：49-53 页
- 李双剑 陈振宇 2014 〈允准否定词在“把/被”之后的动因-记一种特殊的否定式“把”字句和“被”字句〉《语言研究集刊》第十二辑 上海世纪出版股份有限公司·上海辞书出版社出版(79-95 页)
- 李泰洙 2003 《《老乞大》四种版本语言研究》语文出版社 57-63 页
- 蔺璜 2006 〈试论宾语位置上名词性成分的有定性〉《语文研究》第 4 期：23-26 页
- 刘朝华 2012 〈“把+N+V+了”句式动词与动态助词“了”的扭曲关系〉《楚雄师范学院学报》《日语学习与研究》第 3 期：9-14 页
- 刘丹青 2002 〈汉语类指成分的语义属性和句法属性〉《中国语文》第 5 期：411-422, 478-479 页
- 刘培玉 2001 〈有关“把”字句研究的两个问题〉《阜阳师范学院学报(社会科学版)》第 1 期：17-19 页
- 刘培玉 2002 〈把字句的句法、语义和语用分析〉《华中师范大学学报》第 5 期：134-139 页
- 刘培玉 2003 〈把字句句法、语义的认知研究〉《汉语学报》第六期：44-49 页 湖北教育出版社
- 刘培玉 赵敬华 2006 〈把字句动词的类和制约因素〉《中南大学学报(社会科学版)》第 1 期：121-125 页
- 刘燕君 2007 《“使”字句与“把”字句的动力意象图式比较》，硕士研究生学位论文，北京语言大学
- 刘一之 2008 「“把”字句的句式及其意义」『岐阜聖徳学園大学紀要、外国語学部編 47』：77-84 页
- 刘月华 1980 〈可能补语用法研究〉《中国语文》第 4 期：246-257 页
- 刘月华 1988 〈动态助词“过<sub>1</sub>过<sub>2</sub>了<sub>1</sub>”用法比较〉《语文研究》第 1 期：6-16 页
- 刘月华 潘文娉 故犇著 2007 《实用现代汉语语法(增订本)》：176-208 页 商务印书馆
- 刘子瑜 1995 〈唐五代时期的处置式〉《语言研究》第 2 期：133-140 页
- 陆俭明 马真 1985 〈“把”字句的补议〉《现代汉语虚词散论》：200-211 页 北京大学出版社
- 陆俭明 1990 〈90 年代现代汉语语法研究的发展趋势〉《语文研究》第 4 期：4-11 页
- 陆俭明 2014 〈关于“有界无界”理论及其应用〉《语言学论丛》第 50 辑：29-46 页



- 陆俭明 2016<从语言信息结构视角重新认识“把”字句>《语言教学与研究》第1期:  
1-13页
- 罗竹风主编(汉语大词典编辑委员会 汉语大词典编纂处 编纂) 2001《汉语大词典》:  
420-427页 汉语大词典出版社
- 吕叔湘主编 1948<把字用法的研究>《汉语语法论文集》:169-191页 辽宁教育出版社
- 吕叔湘主编 1984《汉语语法论文集(增订本)》:176-208页 商务印书馆 1999年印刷
- 吕叔湘 1990《吕叔湘文集(第二卷)汉语语法论文集》:176-208页 商务印书馆
- 吕叔湘主编 1999《现代汉语八百词(增订本)》 商务印书馆
- 吕文华 1994<“把”字句的语义类型>《汉语学习》第4期:26-28页
- 马贝加 2014《汉语动词语法化》:333-386页 中华书局
- 马翼飞 2012<《官话指南》把字句研究>《金田:励志》第11期:239、235页
- 马庆株 1992《汉语动词和动词性结构》北京语言学院出版社
- 马真 2015《简明实用汉语语法教程》:116-120页 北京大学出版社
- (美)梅祖麟 1999<唐宋处置式的来源>《近代汉语研究二》:222-252页 商务印书馆  
出版
- 孟万春 2003<“在”字句语义内容分析>《延安大学学报(社会科学报)》第2期:121-  
124页
- 彭广陆 毕晓燕 2013 铃木康之著《现代日语词组学》北京大学出版社
- 齐沪扬 1998<动作“在”字句的语义、句法、语用分析>《上海师范大学学报》第2期:  
61-67页
- 齐沪扬 2006《对外汉语教学语法》:82-89页 复旦大学出版社
- 齐沪扬 2013<“把+O+VR+L”构式的认知分析>《中国言语文化研究》第2号
- 钱学烈 1992 a<试论《红楼梦》中的把字句>《深圳大学学报(人文社会科学版)》第2  
期:1-7页
- 钱学烈 1992 b<试论《红楼梦》中的把字句>《近代汉语研究一》:283-292 商务印书  
馆出版
- 朴乡兰 2010<“处所类”把字句的演变>《语言教学与研究》第5期:50-56页
- 屈承熹著 纪宗仁协著 2005《汉语认知功能语法》:79-111页 黑龙江人民出版社
- 邵敬敏 1982<关于“在黑板上写字”句式分化和变换的若干问题>《语言教学与研究》  
第3期:35-43页
- 邵敬敏 2002<“把”字句及其变换句式>《著名中年语言学家自选集邵敬敏卷》72-95  
页(原载《研究生论文选集》,江苏古籍出版社 1985年版)
- 邵敬敏 赵春利 2005<“致使把字句”和“省隐被字句”及其语用解释>《汉语学习》  
第8期:11-19页
- 沈家煊 1995<“有界”与“无界”>《中国语文》第5期:367-380页

- 沈家煊 2002 〈如何处置“处置式”？——论“把”字句的主观性〉《中国语文》第五期：387-399,478 页
- 沈家煊 主编 2005 《现代汉语语法的功能语用认知研究》商务印书馆出版
- 沈家煊 2011 《语法六讲》商务印书馆出版
- 沈阳 1997 〈名词短语的多重位移形式及把字句的构造过程与语文解释〉《中国语文》(6)：402-414 页
- 沈阳 2000 《配价理论与汉语语法研究》：261-288 页 语文出版社
- 施春宏 2010 〈从句式群看“把”字句及相关句式的语法意义〉《世界汉语教学》第 3 期：291-309 页
- 施春宏 2015 〈边缘“把”字句的语义理解和句法构造〉《语言教学与研究》第 6 期：53-66 页
- 石毓智 2006 〈处置式产生和发展的条件〉《语言研究》第 3 期：42-49 页
- 宋桔 2015 〈《语言自邇集》之协作者《瀛海笔记》之主角〉、『語言自邇集の研究』：67-78 页 好文出版
- 宋桔 2015 〈清末佚名《语言問答》研究〉、『語言自邇集の研究』：79-93 页 好文出版
- 宋玉柱 1979 〈“处置”新解-略谈“把”字句的语法作用〉《天津师范学院学报》第 3 期：84-85 页
- 宋玉柱 1981 〈关于“把”字句的两个问题〉《语文研究》第 2 辑：39-43 页
- 宋玉柱 1992 《现代汉语语法基本知识》语文出版社出版，114-132 页
- 宋玉柱 1991 《现代汉语特殊句式》山西教育出版社出版，1-31 页
- 宋玉柱 1996 〈“把”字句、“对”字句、“连”字句的比较研究〉《现代汉语语法论集》北京语言学院出版社
- 杉村博文 2002 〈论现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”〉《世界汉语教学》第 1 期：18-27 页
- 陶红印 张伯江 2000 〈无定式把字句在近现代汉语中的地位问题及其理论意义〉《中国语文》第五期：433-446,479-480 页
- 王惠 1993 〈“把”字句中的“了/着/过”〉《汉语学习》第 1 期：6-11 页
- 王还 1980 〈再说说“在”〉，《语言教学与研究》第 3 期，25-29 页
- 王还 1985 〈“把”字句中把的宾语〉《中国语文》第 1 期，48-51 页
- 王还 1987 〈“把”字句和“被”字句〉《汉语知识讲话》(合订本)上海教育出版社，1-37 页原载于 1959 〈“把”字句和“被”字句〉《汉语知识讲话》上海教育出版社
- 王红旗 2003 〈“把”字句的意义究竟是什么〉《语文研究》第 2 期：35-40 页
- 王红旗 2004 〈功能语法指称分类之我见〉《世界汉语教学》第 2 期：16-23 页
- 王军虎 1988 〈动词带“过”的“把”字句〉《中国语文》第 5 期：372-373 页
- 王力 1943 《中國現代語法》，上册中華書局出版發行，160-173 页

- 王力 1980 《漢語史稿》，中華書局出版發行，474-483 页
- 王力 1984 “一”“一个” 《王力文集》 山东教育出版社
- 王力 1984 《王力文集》：116-123 页 山东教育出版社
- 王力 1985 “一”“一个” 《王力文集》 山东教育出版社
- 王力 1985 《王力文集》：124-139 页 山东教育出版社
- 王力 1989 《漢語語法史》：266-271 页 商務印書館
- 王力 2004 《漢語史稿》（重排本）中華書局出版發行
- 王璐璐 袁毓林 2016 <述结式与“把”字句的构式意义互动研究>《语言教学与研究》第 3 期：54-63 页
- 王廷杰 2001 <也谈“把”字句教学>《中央民族大学学报》第 5 期：109-112 页
- 王一敏 1993 <“把”字句的语用结构分析>《上海师范大学学报》第 1 期：122-124 页
- 吴福祥 2003 <再论处置式的来源>《语言研究》第 3 期：1-10 页
- 徐燕青 1999 <“使”字句与“把”字句的异同考察>《世界汉语教学》第 4 期：52-58 页
- 许少峰 2008 《近代汉语词典》上册：28-33 页 中华书局
- 薛凤生 1987 <试论“把”字句的语义特性>《语言教学与研究》（1）：4-22 页
- 薛凤生 1994 <“把”字句和“被”字句的结构意义——真的表示“处置”和“被动”？> 沈家煊译《功能主义与汉语语法》：34-59 页 戴浩一、薛凤生主编，北京语言学院出版社
- 颜力涛 2016 <汉语被字句的“预期偏离”义>《语文研究》第 3 期：52-56 页
- 阎红生 1992 <《金瓶梅词话》把字句的类型与结构>『北陸大学外語学部紀要』第 1 号：105-114 页
- 杨德峰 2004 《汉语的结构和句子研究》 教育科学出版社（40-46 页，135-159 页）
- 叶向阳 2004 <“把”字句的致使性解释>《世界汉语教学》第 2 期：25-39 页
- 袁莉容 2003 <说不尽的把字句-20 世纪 90 年代以来把字句研究综述>《内蒙古师范大学学报(哲学社会科学版)》：105-109 页
- 袁毓林 2013 <试析“把”字句对述结式的选择限制>『中国語文法論叢』：107-129 页 白帝社
- 张伯江 2000 <论“把”字句的句式语义>《语言研究》2000 年第 1 期：28-40 页
- 张伯江 2001 <被字句与把字句的对称与不对称>《中国语文》第 6 期：519-524 页
- 张德鑫 2001 <威妥玛《语言自述集》与对外汉语教学>《中国语文》第 5 期：471-474 页
- 张济卿 2000 <有关“把”字句的若干验证与探索>《语文研究》第 1 期：28-37 页
- 张黎 2007 <汉语“把”字句的认知类型学解释>《世界汉语教学》：52-63 页
- 张旺熹 1991 <“把字结构”的语义及其语用分析>《语言教学研究》第 3 期：88-103 页

- 张旺熹 1999 《汉语特殊句法的语义研究》：1-19 页 北京语言文化大学出版社
- 张旺熹 2001 <“把”字句的位移图式>《语言教学与研究》第3期：1-10 页
- 张旺熹 2007a 《汉语语法的认知与功能探索》 世界图书出版公司
- 张旺熹 2007b 《汉语特殊句法的语义研究》北京语言大学出版社
- 张豫峰 2008 <现代汉语致使语态句分析>《中州学刊》第2期：246-248 页
- 赵金色 2010 <“把”字句句法、语义研究>《内蒙古大学学报（哲学社会科学版）》第2期：144-148 页
- 赵元任 1979 《汉语口语语法》174 页，商务印书馆
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2016 《现代汉语词典》第7版 商务印书馆
- 周红 2006 <“使”字句与“把”字句致使表达异同分析>《吉林省教育学院学报》第2期：86-88 页
- 朱成器 2002 《现代汉语语法教程》：12-15 页 对外经济贸易大学出版社
- 朱德熙 1981 <“在黑板上写字”及其相关句式>《语言教学与研究》第1期：4-18 页
- 朱德熙 1982 《语法讲义》商务印书馆出版
- 朱德熙 2010 《语法分析讲稿》：164-169 页 商务印书馆出版
- 祝敏彻 2007 <论初期处置式>《祝敏彻汉语史论文集》：1-19 页 中华书局

#### 日本語

- アン・Y・ハシモト 1985 《Mandarin Syntactic Structures》：72-78 頁
- 中川・木村訳 1986 『中国語の文法構造』中川・木村訳 白帝社
- 庵功雄 2001 『新しい日本語入門』 スリーエーネットワーク, 60-71 頁
- 内田慶一 2015 『『語言自邇集』の成立と伝播——解題に代えて』 『語言自邇集の研究』：5-27 頁 好文出版
- 内田慶一 2015 「您」に関わることがら，『語言自邇集の研究』：29-43 頁 好文出版
- 温琳 2008 「現代中国語における処置構文の意味と論理構造——把構文」『神奈川大学人文学会誌』：129-150 頁
- 王亚新 2012 「中国語の“是”構文における“(一) 个 NP”について」，『日中言語対照研究論集』第14号：138-151 頁
- 王学群 2008 「「見える」と“看得见”について」『日本語と中国語の可能表現』：27-52 白帝社
- 大河内康憲 1997 『中国語の諸相』：149-160 頁 白帝社
- 大島吉郎 1999 「動詞重疊型に関する通時的研究（一）——《水滸傳》を中心に」『大東文化大学紀要』第37号：215-233 頁
- 大島吉郎 2000 「動詞重疊型に関する通時的研究（二）——《元曲選》を中心に」

- 『大東文化大学紀要』第38号：59-72頁
- 大島吉郎 2001 「動詞重畳型に関する通時的研究（三）——《西游记》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第39号：1-16頁
- 大島吉郎 2002 「動詞重畳型に関する通時的研究（四）——《金瓶梅詞話》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第40号：363-382頁
- 大島吉郎 2003 「動詞重畳型に関する通時的研究（五）——《醒世姻缘傳》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第41号：201-223頁
- 大島吉郎 2004a 「動詞重畳型に関する通時的研究（六）——《儒林外史》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第42号：201-219頁
- 大島吉郎 2004b 「対話文中における“有点儿”の機能」『語学教育研究論叢』第21号：1-20頁 大東文化大学
- 大島吉郎 2006 「動詞重畳型に関する通時的研究（八）——《三言》を中心に」 『大東文化大学紀要』第44号：159-181頁
- 大島吉郎 2007 「動詞重畳型に関する通時的研究（九）——《兒女英雄傳》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第43号：19-47頁
- 大島吉郎 2013 「存在文における発話の意図に関する若干の考察—動詞“有”の例を中心に—」 『大東文化大学外国語学研究』第14号：15-23頁
- 大島吉郎 2015 「動詞重畳型に関する通時的研究（十一）——《二拍》を中心に」  
『大東文化大学紀要』第53号：59-75頁
- 太田英次 2003 「“把”構文の意味的研究」 『熊本大学社会文化研究』：75-97頁
- 太田辰夫 1951 「清代北京語語法研究の資料について」 『神戸外大論叢』：13-30頁  
神戸市外国語大学
- 太田辰夫 1985 『中国語歴史文法』：258-262頁 朋友書店
- 奥田靖雄 1976 『ことばの研究・序論』 むぎ書房刊
- 小野秀樹 1990 「中国語の可能表現—「他動性」を通じての「能VR」及び「V得R」の考察—」 『中国語学』第237号：93-100頁
- 小野秀樹 1991 「中国語における可能表現の“否定” —“他動性”を通じての「不能VR」及び「V不R」の考察—」 『中国語学』第238号：11-19頁
- 郭春貴 2001 『誤用から学ぶ中国語』：216-226頁 白帝社
- 加藤晴子 1995 <状語的意義和状語在“把”字句中的位置> 『中国語学』：88-95頁 日本中国語学会
- 神野智久 2016 「現代中国語における内外への変化事象に見られる非対称性の認知言語学的な研究—「移動」・「存在」事象を併せて—」 博士論文
- 木村英樹 2010 『中国語入門 I』：170-171頁 放送大学教材教育振興会

- 木村英樹 2012 「ヴォイスの意味と構造」『中国語文法の意味とかたち』: 187-213 頁  
白帝社
- 木村英樹 2012 「「虚」の意味の形態化と構造化に関する研究」 『中国語文法の意味とかたち』: 223-224 頁 白帝社
- 木村英樹 2013 『中国語文法の意味とかたち』 白帝社
- 木村裕章 1996 「“把”字句と目的語前置文の比較分析」 『中国語学』No.243 中国語学研究会, 56-64 頁
- 言語学研究会編（責任編集者 鈴木重幸・鈴木康之） 1983 『日本語文法・連語論（資料編）』 むぎ書房刊
- 香坂順一著 1962 『現代中国語文法』: 48-53 頁 光生館
- 胡振剛 1998 「中国語の“把”構文に関する考察」 『長崎ウエスレヤン短期大学紀要 21』 13-23 頁
- 小路口ゆみ 2014 「中国語の“把”構文の“‘把’+N+V+了”について」『外国語学会誌』No. 43 (39-52 頁) 大東文化大学外国語学会
- 小路口ゆみ 2014 「中国語の“把”構文における“把の「客語」について」『外国語学研究』第 15 号 (41-48 頁) 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 小路口ゆみ 2014 「「壁塗り構文」における中国語表現について」『研究会報告』第 35 号 (30-40 頁) 日本語文法研究会
- 小路口ゆみ 2014 「中国語“把”構文における“把”の「客体」について—“把”の「客体」の“有定”“无定”について—」『研究会報告』第 36 号 (148-158 頁) 日本語文法研究会発行
- 小路口ゆみ 2015 「現代中国語“把”構文における基本用法と派生用法とについて—連語論の観点から—」『中国語言語文化学研究』第 4 号: 134-144 頁 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 小路口ゆみ 2015 「中国語“把”構文における“把”の「客体」についての再考—“把”の「客体」の「定性」について—」『外国語学会誌』No. 44: 87-100 頁 大東文化大学外国語学会
- 小路口ゆみ 2015 「“把”構文による「処置のむすびつき」」『研究会報告』第 37 号: 84-93 頁 日本語文法研究会
- 小路口ゆみ 2015 「実例からみる“把”構文に日本語訳の傾向について」『外国語学研究』第 16 号 (27-34 頁) 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 小路口ゆみ 2015 「中国語の“把”構文における副詞の位置について—副詞“都”を中心に—」『研究会報告』第 38 号: 91-102 頁 日本語文法研究会発行
- 小路口ゆみ 2016 「中国語における“把”構文について—「処置のむすびつき」とは」『外国語学会誌』No. 45: 25-38 頁 大東文化大学外国語学会

- 小路口ゆみ 2016 『『語言自邇集』初版における“把”構文の一考察』《日本語言文化研究》第四輯下：18-28 頁 延邊大学出版社
- 小路口ゆみ 2016 「『語言自邇集』初版における“把”構文の再考察」『中国語言語文化学研究』第 5 号：142-152 頁 大東文化大学大学院外国語学研究科 中国言語文化学専攻
- 小路口ゆみ 2016 「中国語の“把”構文における副詞の位置について——副詞“又”“再”を中心に」『日中言語対照研究論集』第 18 号：219-231 頁 日中対照言語学会
- 小路口ゆみ 2016 『『官話指南』における“把”構文について』『研究会報告』第 40 号：65-75 頁 日本語文法研究会発行
- 小路口ゆみ 2017 『『北京官話伊蘇普喩言』における“把”構文について』『中国語言語文化学研究』第 6 号：69-79 頁 大東文化大学大学院外国語学研究科 中国言語文化学専攻
- 小路口ゆみ 2017 『『官話指南』における“把”構文について』『研究会報告』第 40 号：65-75 頁 日本語文法研究会
- 小路口ゆみ 2017 「“把”構文における可能表現の否定について」『外国語学会誌』No. 46 (165-173 頁) 大東文化大学外国語学会
- 小路口ゆみ 2017 「“把”構文についての「処置のむすびつき」の再考」『外国語学研究』第 18 号 (43-52 頁) 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 興水優 1985 『中国語の語法の話 中国語文法概論』光生館
- 佐々木勲人 1996 「“被…給”と“把…給”——強調の“給”最考」『中国語学』No.243：65-74 頁 中国語学研究会
- 時衛国著 2011 『中国語の程度表現の体系的研究』：181-191 頁 白帝社
- 時衛国著 2012 『中国語の量的修飾構造の研究』：152-166 頁 好文出版
- 朱德熙 1995 『文法講義』：47-49、148-149、250-255 頁 白帝社 (訳者：杉村博文 木村英樹)
- 续三义 2012 「“把”構文について」、『日本語と中国語のヴォイス』, 白帝社, 230-251 頁
- 杉村博文 1984 「処置と遭遇」, 『中国語学』No.231, 中国語学会, 11-24 頁
- 杉村博文 1979 「能学好・学得好・能学得好」『日本語と中国語の対照研究』第 4 号：16-37 頁
- 杉村博文 1992 「可能補語の考え方」『日本語と中国語の対照研究論文集』：213-231 頁 くろしお出版
- 鈴木慶夏 2010 「非専攻中国語教育からみた“把”構文教学の現状と課題——“把”構文の何が難しいのか——」『中国語教育』8 号：127-156 頁 中国語教育学会

- 鈴木康之 1977 『日本語文法の基礎』 三省堂
- 鈴木康之 2000 『日本語学の常識』 海山文化研究所
- 鈴木康之 2011 『現代日本語の連語論』 日本語文法研究会
- 鈴木康之 2014 講義録『連語論入門』
- 曹泰和 2012 「中国語の“把”構文と日本語の結果構文における対照研究—認知言語学の視点から」『駒沢大学外国語論集 12』: 229-252 頁
- 高橋太郎 2005 『日本語の文法』, 有限会社ひつじ書房, 33-49 頁
- 高橋弥守彦 1995 「場所詞について」『大東文化大学紀要 33 号』 大東文化大学
- 高橋弥守彦 1996 「個体量詞“”における若干の問題」『語学教育研究論叢』第 13 号: 181-199 頁
- 高橋弥守彦 2003 「位置移動動詞“”と空間語との関係について」『外国語学研究』第 4 号: 48-60 頁 大東文化大学大学院外国語研究科
- 高橋弥守彦 2004 「位置移動の動詞“过”における基本義と派生義とについて」大東文化大学紀要 43 号: 249-275 頁
- 高橋弥守彦 2006a 『実用詳解中国語文法』: 355-360 頁 郁文堂
- 高橋弥守彦 2006b 「時間副詞について」『語学教育研究論叢 23 号』 大東文化大学語学教育研究所,
- 高橋弥守彦 2008 「可能表現に用いる能願動詞“能”」 『日本語と中国語の可能表現』 白帝社
- 高橋弥守彦 2009 『格付き空間詞と〈ひと〉の動作を表す動詞との関係』 語学教育フォーラム第 17 号
- 高橋弥守彦 2011a 「中国語の受身表現“被字句”と対応する日本語」 『日中対照言語学概論』 日本語文法研究会
- 高橋弥守彦 2011b 「中日対照関係からみる時間詞の位置」、『中日対照言語学概論』 日本語文法研究会
- 高橋弥守彦 2012 「”被字句”の語順について」、『日中言語対照研究論集』第 14 号: 152-166 頁 白帝社
- 高橋弥守彦 2013 「文法体系から見る中国語教育」 2013 年 5 月口頭発表
- 高橋弥守彦 2014a 「受身表現に関する日中両言語の視点について」口頭発表
- 高橋弥守彦 2014b 「実例から見る日本語受身文の翻訳傾向について」『中国言語文化学研究』第 3 号: 123~137 頁 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 高橋弥守彦 2017 『中日対照言語学概論—その発想と表現—』 日本橋報社
- 竹島毅 2017 「中国語初級テキストの文法項目における若干の問題点」 No.46 (128-136 頁) 大東文化大学外国語学会
- 谷口一美 2003 英語学モノグラフシリーズ 20 『認知意味論の新展開—メタファーと



- メトニミー』 研究社
- 2006 『学びのエクササイズ 認知言語学』 ひつじ書房
- 中国語学研究会 1969 『中国語学新辞典』 光生館
- 辻 幸夫 2013 『新編認知言語学キーワード事典』: 研究社
- 六角恒廣 1994 『中国語書誌』 不二出版株式会社
- 張威 1998 『結果可能表現の研究』 くろしお出版
- 鳥井克之 2008 『中国語教学（教育、学習）文法辞典』: 324-330 頁 東方書店
- 张文青 2010 「中国語処置文“把”構文の教授方法に関する考察」『ポリグロシア 19』:  
91-105 頁
- 陳愛玲 2007 「中国語“把”構文の事象構造」 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』  
10 : 243-256 頁
- 西井和弥 2008 「“把”の教授法に関する再検討」, 『東アジア地域研究』: 85-95 頁
- 西村義樹 野矢茂樹 2013 『言語学の教室』 中央公論新社
- 仁田義雄 2009 『現代日本語文法』 2 日本語記述文法研究会
- 布川雅英 2000 「“把”構文」中の“了”について」『言語と文化論集』 No7 : 49-65  
頁 神奈川大学大学院
- 布川雅英 2001 「“把”構文」中の述語動詞に付加される“过”についての一考察」  
『中国語研究』: 35-45 頁 白帝社
- 布川雅英 2002 「“把”構文」中の“着”(zhe)について」『言語と文化論集』 No9 :  
185-199 頁 神奈川大学大学院
- 布川雅英 2005 『“把”構文」の目的語について』『言語と文化論集』 No12 : 167-176  
頁 神奈川大学大学院
- 氷野歩 2015 「近代日本における『語言自邇集』の受容と展開」、『語言自邇集の研究』:  
45-66 頁 好文出版
- 氷野善寛 2010 『『官話指南』の多様性——中国語教材から国語教材』『東アジア文化  
交渉研究』第 3 号
- 氷野善寛 2012 『近代中国語教育の歴史的研究:『官話指南』を中心に』博士論文:  
37-41 頁
- 藤田益子 2005 「“把”構文における重畳形式—『儿女英雄伝』を中心に」 『新潟大  
学国際センター紀要』第 1 号: 29-44 頁
- 藤田益子 2006 「关于在《儿女英雄传》中出现的“把”字句--“把”的宾语带量词“个”-  
」 『新潟大学国際センター紀要』第 2 号: 95-116 頁
- 藤田益子 2008 「トーマス・ウエードと漢語会話テキスト—『語言自邇集』の言語観  
—」 『新潟大学国際センター紀要』第 4 号: 9-21 頁
- 藤田益子 2014 「近代漢語における“把”構文の機能義—『儿女英雄伝』からのアプ

- ローチー」 『新潟大学国際センター紀要』 第 10 号 : 11-32 頁
- 長谷川信子 1999 『生成日本語学入門』 大修館書店
- 方美麗 2004 『物に対する働きかけを表す連語一日中対照研究』 海山文化研究所
- 本間由香利 2004 「“把”の働きから見た“把”構文」 『お茶の水女子大学中国文学会報』 : 63-76 頁
- 町田茂 1991 「動詞—賓語—動詞—結果補語」 式の文法的意味—処置の“把”と非処置のV—」 『中国語学』 第 238 期 : 86-95 頁
- 町田茂 1997 「動詞接続試論」 『中国語学』 第 244 期 : 12-22 頁
- 松村文芳 「「把構文」と「被構文」に用いられる「給」の意味と論理」 『語学教育研究論叢』 第 22 号 : 1-35 頁
- 丸尾誠 2005 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』 博士学位論文 白帝社
- 宮下尚子 2017 「『元刊雜劇三十種』にみえる<把>および<將>」 『九州中國學會報』 第 55 卷 : 74-89 頁
- 森中野枝 1999 「中国語の程度副詞“挺”」 『中国語学』 No. 246
- 安井二美子 1996 「“把”構文に於ける目的語について」 『中国語学』 No.244: 43-53
- 安本真弓 2009 『現代中国語における可能表現の意味分析—可能補語を中心に』 白帝社
- 楊凱榮 1989 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』 くろしお出版
- 李臨定著/宮田一郎訳 1993 『中国語文法概論』 光生館
- 刘月华 潘文娛 故韡著 相原茂 監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之訳 1988 『現代中国語文法総覧(上)』 : 50-55 頁, 183-219 頁 くろしお出版
- 刘月华 潘文娛 故韡著 相原茂 監訳 片山博美 守屋宏則 平井和之訳 1991 『現代中国語文法総覧(下)』 : 623-641 頁 くろしお出版.
- 劉志偉 2012 「中国語の“把”構文の習得について」 『歴史文化社会論講座紀要』 9 : 23-33 頁 京都大学大学院
- 六角恒廣 1994 『中国語書誌』 : 92 頁 不二出版株式会社

#### 英語

- Lakoff, G. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Univ. of Chicago Press. (池上嘉彦・河上誓作・辻幸夫・西村義樹・坪井栄治郎・梅原大輔・大森文子・岡田禎之訳.1993.『認知意味論—言語から見た人間の心』 紀伊國屋書店)
- Taylor, J. R. 2012. *The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind*. Oxford Univ. Press.

## 付録 1

《骆驼祥子》における“把”構文（“将”構文を含む）

“将”構文の例文

1. 可是，他把军衣脱下来：一把，将领子扯掉；那对还肯负责任的铜钮也被揪下来，  
 掷在黑暗中，连个响声也没发。(3)<sup>164)</sup>
2. 他忘了一切困苦，一切危险，一切疼痛；不管身上是怎样褴褛污浊，太阳的光明与  
 热力并没将他除外，他是生活在一个有光有热力的宇宙里；他高兴，他想欢呼！（3）
3. 虎妞一把将他扯过去，好象老嫂子疼爱小叔那样。(4)
4. 说着，他一把将车从石头中扯出来。“坐上，先生！”(7)
5. “我看看！”孙侦探笑了，一把将瓦罐接过来，往墙上一碰。(11)
6. “不；我去！我还得请你呢！”说着，老程极快的穿上衣裳，钮扣通体没扣，只将  
 破皮袄上拢了根搭包，叼着烟卷跑出去：“喝！院子都扫完了？你真成！请你！”祥  
 子稍微痛快了些。(13)
7. 到了六月，大杂院里在白天简直没什么人声。孩子们抓早儿提着破筐去拾所能拾到  
 的东西；到了九点，毒花花的太阳已要将他们的瘦脊背晒裂，只好拿回来所拾得的东  
 西，吃些大人所能给他们的食物。(18)
8. 小福子含着泪，不知怎样好。劝父亲是没用的，看着祥子打他也于心不安。她将全  
 身都摸索到了，凑出十几个铜子儿来，交给了弟弟。(20)
9. 赠给他们这么个手印儿，还得照样的给钱，他们晓得那只大手有多么大的力气，那  
 一把已将他们的小细胳膊攥得生疼。(21)

“把”構文

10. 我们所要介绍的是祥子，不是骆驼，因为“骆驼”只是个外号；那么，我们就先说  
 祥子，随手儿把骆驼与祥子那点关系说过去，也就算了。(1)
11. 被撤差的巡警或校役，把本钱吃光的小贩，或是失业的工匠，到了卖无可卖，当无  
 可当的时候，咬着牙，含着泪，上了这条到死亡之路。(1)
12. 这些人，生命最鲜壮的时期已经卖掉，现在再把窝窝头变成的血汗滴在马路上。  
 (1)
13. 他不甚注意他的模样，他爱自己的脸正如同他爱自己的身体，都那么结实硬棒；他  
 把脸仿佛算在四肢之内，只要硬棒就好。(1)
14. 两三个星期的工夫，他把腿溜出来了。(1)

---

<sup>164)</sup> (3)は第三章という意味である。

15. 把一千天堆到一块，他几乎算不过来这该有多么远。(1)
16. 更严重一些的，有时候碰了行人，甚至有一次因急于挤过去而把车轴盖碰丢了。  
(1)
17. 铺主打算挤到个整数，说了不知多少话，把他的车拉出去又拉进来，支开棚子，又放下，…。(1)
18. 拉去吧，你就是把车拉碎了，要是钢条软了一根，你拿回来，把它摔在我脸上！  
(1)
19. 拉去吧，你就是把车拉碎了，要是钢条软了一根，你拿回来，把它摔在我脸上！  
(1)
20. 祥子把钱又数了一遍：“我要这辆车，九十六！”(1)
21. 铺主知道是遇见了一个心眼的人，看看钱，看看祥子，叹了口气：“交个朋友，车算你的了；保六个月：除非你把大箱碰碎，我都白给修理；保单，拿着！”(1)
22. 把车看得似乎暂时可以休息会儿了，他坐在了水簸箕的新脚垫儿上，看着车把上的发亮的黄铜喇叭。(1)
23. 好吧，今天买上了新车，就算是生日吧，人的也是车的，好记，而且车既是自己的心血，简直没什么不可以把人与车算在一块的地方。(1)
24. 这种态度使他只顾自己的生活，把一切祸患灾难都放在脑后。(2)
25. 设若城里的人对于一切都没有办法，他们可会造谣言——有时完全无中生有，有时把一分真事说成十分——以便显出他们并不愚蠢与不作事。(2)
26. 他们象些小鱼，闲着的时候把嘴放在水皮上，吐出几个完全没用的水泡儿也怪得意。(2)
27. 就是在这个情形下，祥子把车拉出城去。(2)
28. “大个子”三个字把祥子招笑了，这是一种赞美。(2)
29. 这么一想，他把车拉过去了。(2)
30. 闻着现在身上的臭汗味，他把以前的挣扎与成功看得分外光荣，比原来的光荣放大了十倍。(2)
31. 凭什么把人欺侮到这个地步呢？凭什么？“凭什么？”他喊了出来。(2)
32. 他一天到晚只知道怎样把最后的力气放在手上脚上，心中成了块空白。(2)
33. 及至到了后山，他只顾得爬山了，而时时想到不定哪时他会一交跌到山涧里，把骨肉被野鹰们啄尽，不顾得别的。(2)
34. 晚饭的号声把出营的兵丁唤回，有几个扛着枪的牵来几匹骆驼。(2)
35. 祥子的心一动，忽然的他会思想了，好象迷了路的人忽然找到一个熟识的标记，把一切都极快的想了起来。(2)
36. 把耳朵贴在地上，他听着有没有脚步声儿来，心跳得极快。(2)
37. 他把骆驼拉了起来。(3)

38. 当他找到骆驼们的时候，他的心似乎全放在它们身上了；及至把它们拉起来，他弄不清哪儿是哪儿了，…。(3)
39. 可是，他把军衣脱下来：一把，将领子扯掉；那对还肯负责任的铜钮也被揪下来，把它们在黑暗中，连个响声也没发。(3)
40. 然后，他把这件无领无钮的单衣斜搭在身上，把两条袖子在胸前结成个结子，象背包袱那样。(3)
41. 然后，他把这件无领无钮的单衣斜搭在身上，把两条袖子在胸前结成个结子，象背包袱那样。(3)
42. 可是，连自己的事也不大能详细的想了，他的头是那么虚空昏胀，仿佛刚想起自己，就又把把自己忘记了，象将要灭的蜡烛，连自己也不能照明白了似的。(3)
43. 他不觉得这是太多，还是太少；他把思想集中到这三匹身上，虽然还没想妥一定怎么办，可是他渺茫的想到，他的将来全仗着这三个牲口。(3)
44. 那里有养骆驼的，他得赶快的走，能在天亮的时候赶到，把骆驼出了手，他可以一进城就买上一辆车。(3)
45. 村中的唯一的一条大道上，猪尿马尿与污水汇成好些个发臭的小湖，祥子唯恐把骆驼滑倒，很想休息一下。(3)
46. 好吧，他就在这儿休息会儿吧，万一有个好机会把骆驼打发出去呢！(3)
47. 待了半天：“前几天本想和街坊搭伙，把它们送到口外去放青。”(3)
48. “留下吧，给多少是多少；我把它们出了手，好到城里去谋生！”(3)
49. 吃了一口，豆腐把身里烫开一条路；他自己下手又加了两小勺辣椒油。(4)
50. 一碗吃完，他的汗已湿透了裤腰。半闭着眼，把碗递出去：“再来一碗！”(4)
51. 摸了摸脸上那块平滑的疤，摸了摸袋中的钱，又看了一眼角楼上的阳光，他硬把病忘了，把一切都忘了，好似有点什么心愿，他决定走进城去。(4)
52. 摸了摸脸上那块平滑的疤，摸了摸袋中的钱，又看了一眼角楼上的阳光，他硬把病忘了，把一切都忘了，好似有点什么心愿，他决定走进城去。(4)
53. 车夫们没有敢跟他耍骨头的。他一瞪眼，和他哈哈一笑，能把人弄得迷迷忽忽的，仿佛一脚登在天堂，一脚登在地狱，只好听他摆弄。(4)
54. 人和厂有地方住，拉他的车的光棍儿，都可以白住——可是得交上车份儿，交不上账而和他苦腻的，他扣下铺盖，把人当个破水壶似的扔出门外。(4)
55. 刘四爷打外，虎妞打内，父女把人和车厂治理得铁筒一般。(4)
56. 在买上自己的车以前，祥子拉过人和厂的车。他的积蓄就交给刘四爷给存着。把钱凑够了数，他要过来，买上了那辆新车。(4)
57. “刘四爷，看看我的车！”祥子把新车拉到人和厂去。老头子看了车一眼，点了点头：“不离！”(4)
58. 在车厂子里，他不闲着，把汗一落下去，他就找点事儿作。(4)

59. 看见他进来，虎妞把筷子放下了：“祥子！你让狼叼了去，还是上非洲挖金矿去了？”（4）
60. 祥子没去端碗，先把钱掏了出来：“四爷，先给我拿着，三十块。”（4）
61. 把点零钱又放在衣袋里。（4）
62. 祥子一边吃，一边把被兵拉去的事说了一遍。（4）
63. 可是，继而一想，把三只活活的牲口卖给汤锅去挨刀，有点缺德；他和骆驼都是逃出来的，就都该活着。（4）
64. 虎姑娘把家伙撤下去，刘四爷仰着头似乎是想起点来什么。（4）
65. 待了会儿，他把钱拿起来：“三十？别打马虎眼！”（4）
66. 一想起来，他心中就觉得发堵，不由的想到，要强又怎样呢，这个世界并不因为自己要强而公道一些，凭着什么把他的车白白抢去呢？（5）
67. 独自抱着壶茶，假若是赶上在茶馆里，或独自数着刚挣到的铜子，设若是在车口上，他用尽力量把怒气纳下去。（5）
68. 逃回城里之后，他并没等病好利落了就把车拉起来，虽然一点不服软，可是他时常觉出疲乏。（5）
69. 他只能从眼角边显出点不满的神气，而把嘴闭得紧紧的。（5）
70. 有时候他颇想把祥子撵出去；看看女儿，他不敢这么办。（5）
71. 他一点没有把祥子当作候补女婿的意思，不过，女儿既是喜爱这个楞小子，他就不便于多事。（5）
72. 他只有这么一个姑娘，眼看是没有出嫁的希望了，他不能再把她这个朋友赶了走。（5）
73. 他已有点讨厌拉散座儿了，一来是因为抢买卖而被大家看不起，二来是因为每天的收入没有定数，今天多，明天少，不能预定到几时才把钱凑足，够上买车的数儿。（5）
74. 把孩子们都送走，杨先生上衙门。（5）
75. 把屋子也收拾利落了，二太太把个刚到一周岁的小泥鬼交给了他。（5）
76. 把屋子也收拾利落了，二太太把个刚到一周岁的小泥鬼交给了他。（5）
77. 他想把这个宝贝去交给张妈——一个江北的大脚婆子。（5）
78. 杨宅用人，向来是三五天一换的，先生与太太们总以为仆人就是家奴，非把穷人的命要了，不足以对得起那点工钱。（5）
79. 以杨先生的海式咒骂的毒辣，以杨太太的天津口的雄壮，以二太太的苏州调的流利，他们素来是所向无敌的；及至遇到张妈的蛮悍，他们开始感到一种礼尚往来，英雄遇上了好汉的意味，所以颇能赏识她，把她收作了亲军。（5）
80. 他把泥娃娃赶紧给二太太送了回去。（5）
81. 二太太以为他这是存心轻看她，冲口而出的把他骂了个花瓜。（5）

82. 一批批的把孩子们都接回来，院中比市场还要热闹，三个妇女的骂声，一群孩子的哭声，好象大栅栏在散戏时那样乱，而且乱得莫名其妙。(5)
83. 他摸了摸床板，知道他要是把头放下，就得把脚蹬在墙上；把脚放平，就得半坐起来。他不会睡元宝式的觉。(5)
84. 他摸了摸床板，知道他要是把头放下，就得把脚蹬在墙上；把脚放平，就得半坐起来。他不会睡元宝式的觉。(5)
85. 他摸了摸床板，知道他要是把头放下，就得把脚蹬在墙上；把脚放平，就得半坐起来。他不会睡元宝式的觉。(5)
86. 想了半天，他把铺板往斜里拉好，这样两头对着屋角，他就可以把头放平，腿搭拉着点先将就一夜。(5)
87. 想了半天，他把铺板往斜里拉好，这样两头对着屋角，他就可以把头放平，腿搭拉着点先将就一夜。(5)
88. 从门洞中把铺盖搬进来，马马虎虎的铺好，躺下了。(5)
89. 太太们打起牌来，把孩子们就通通交给了仆人；张妈既是得伺候着烟茶手巾把，那群小猴自然全归祥子统辖。(5)
90. 他对猴子们特别的拿出耐心法儿，看在头儿钱的面上，他得把这群猴崽子当作少爷小姐看待。(5)
91. 牌局散了，太太叫他把客人送回家。(5)
92. 送完了客，帮着张妈把牌桌什么的收拾好，祥子看了太太一眼。(5)
93. “怎吗札？”太太说完这个，又看了祥子一眼，不言语了，把四天的工钱给了他。(5)
94. 他刚把车拉到她的窗下，虎妞由车门里出来了：“哟，祥子？(6)
95. 她刚要往下问，一看祥子垂头丧气的样子，车上拉着铺盖卷，把话咽了回去。(6)
96. “嗨！”她往前凑了一步，声音不高的说：“别楞着！去，把车放下，赶紧回来，有话跟你说。屋里见。”(6)
97. 但是今天她和往日不同，他很想要思索一下；楞在那里去想，又怪僵得慌；他没主意，把车拉了进去。(6)
98. 把车放好，他折回到她的门前。(6)
99. 她把酒盅端起来，灌了多半盅，一闭眼，哈了一声。(6)
100. 他把酒盅接过来，喝干。(6)
101. 他好不容易把这口酒调动下去，听到这个笑声，赶紧向东间那边看了看。(6)
102. “没人，”她把笑声收了，脸上可还留着笑容。(6)
103. 他自己反倒变成了有威严与力气的，似乎能把她当作个猫似的，拿到手中。(6)
104. 有时一个单独的巨星横刺入天角，光尾极长，放射着星花；红，渐黄；在最后的挺进，忽然狂悦似的把天角照白了一条，好象刺开万重的黑暗，透进并逗留一些乳白

的光。(6)

105. 假若是随便哪个都可以的话……祥子把头低下去。(6)

106. 祥子始终不肯随和，一来他自居为要强的人，不能把钱花在娘儿们身上；二来他亲眼得见那些花冤钱的傻子们——有的才十八九岁——在厕所里头顶着墙还撒不出尿来。(6)

107. 她把他由乡间带来的那点清凉劲儿毁尽了，他现在成了个偷娘们的人！(6)

108. 不管怎样的愤恨，怎样的讨厌她，她似乎老抓住了他的心，越不愿再想，她越忽然的从他心中跳出来，一个赤裸裸的她，把一切丑陋与美好一下子，整个的都交给了他，象买了一堆破烂那样，碎铜烂铁之中也有有一二发光的有色的小物件，使人不忍得拒绝。(6)

109. 他没和任何人这样亲密过，虽然是突如其来，虽然是个骗诱，到底这样的关系不能随便的忘记，就是想把它放在一旁，它自自然然会在心中盘绕，象生了根似的。(6)

110. 但是他不能专心的去想，老有一点点什么拦阻着他的心思；还没想到车，这点东西已经偷偷的溜出来，占住他的心，象块黑云遮住了太阳，把光明打断。到了晚间，打算收车，他更难过了。(6)

111. 渺茫的他觉到一种比自己还更有力气的劲头儿，把他要揉成一个圆球，抛到一团烈火里去；他没法阻止住自己的前进。(6)

112. 立了好久，他决定进去见她；告诉她他又找到了包月；把这两天的车份儿交上；要出他的储蓄；从此一刀两断——这自然不便明说，她总会明白的。(6)

113. 他进去先把车放好，而后回来大着胆叫了声刘姑娘。“进来！”(6)

114. 她把话接了过来：“你这小子不懂好歹！”(6)

115. 祥子又没的说了，低着头掏了半天，把两天的车租掏出来，放在桌上：“两天的。”(6)

116. 虎姑娘过来，把钱抓在手中，往他的衣袋里塞：“这两天连车带人都白送了！你这小子有点运气！别忘恩负义就得了！”(6)

117. 说完，她一转身把门倒锁上。(6)

118. 从此不再去见他们父女，也许虎姑娘一怒，对老头子说几句坏话，而把那点钱“炸了酱”。(7)

119. 况且吃住都合适，工作又不累，把身体养得好好的也不是吃亏的事。(7)

120. 因此，在小的事情上他都很注意，仿佛是说只要把小小的家庭整理得美好，那么社会怎样满可以随便。(7)

121. 他一向没遇到过象曹先生这样的人，所以他把这个人看成圣贤。(7)

122. 买了衣裳就不能同时把钱还剩下，买车的希望，简直不敢再希望了！(7)

123. 崭新黑漆的车，把头折了一段，秃碴碴的露着两块白木碴儿，非常的不调和，难看，象糊好的漂亮纸人还没有安上脚，光出溜的插着两根秫秸秆那样。(7)



124. 高妈的话永远是把事情与感情都搀合起来，显着既复杂又动人。(7)
125. 假若他把那位杨太太摔了，摔了就摔了，活该！(7)
126. 以前他没想到过这个，因为这次是把曹先生摔伤，所以悟过这个理儿来。(7)
127. 高妈又想起话来，“祥子是磨不开；本来吗，把先生摔得这个样！(7)
128. 高妈的话很象留声机片，是转着圆圈说的，把大家都说在里边，而没有起承转合的痕迹。(7)
129. 祥子的心中很乱，末了听到太太说怕血，似乎找到了一件可以安慰她的事：把脸盆搬出来，在书房门口洗了几把。(7)
130. 到了他屋中，她把药瓶放下，立在屋门口里：“待会儿你自己抹抹吧。(7)
131. 可是话又得这么说，把事情看长远了也有好处：三天两头的散工，一年倒歇上六个月，也不上算；莫若遇上个和气的主儿，架不住干日子多了，零钱就是少点，可是靠常儿混下去也能剩俩钱。(7)
132. 曹先生把车收拾好，并没扣祥子的工钱。(8)
133. 过了些日子，生活又合了辙，他把这件事渐渐忘掉，一切的希望又重新发了芽。(8)
134. 不错，高妈的确有办法：自从她守了寡，她就把月间所能剩下的一点钱放出去，一块也是一笔，两块也是一笔，放给作仆人的，当二三等巡警的，和作小买卖的，利钱至少是三分。(8)
135. 她也劝祥子把钱放出去，完全出于善意，假若他愿意的话， she 可以帮他的忙：“告诉你，祥子，搁在兜儿里，一个子永远是一个子！(8)
136. 把这两三个月剩下的几块钱——都是现洋——轻轻的拿出来，一块一块的翻弄，怕出响声；现洋是那么白亮，厚实，起眼，他更觉得万不可撒手，除非是拿去买车。(8)
137. 把钱交进去，人家又在折子上画了几个字，打上了个小印。(8)
138. 况且这么一来，他就可以去向刘四爷把钱要回，省得老这么搁着，不象回事儿。(8)
139. 放下闷葫芦罐，他把小绿夜壶送到里边去：“少爷没睡哪？送你个好玩艺！”(8)
140. 微笑着，又把那几块现洋搬运出来，轻轻的一块一块往闷葫芦罐里放，心里说：这比什么都牢靠！(8)
141. 地上初见冰凌，连便道上的土都凝固起来，处处显出干燥，结实，黑土的颜色已微微发些黄，象已把潮气散尽。(8)
142. 特别是在一清早，被大车轧起的土棱上镶着几条霜边，小风尖溜溜的把早霞吹散，露出极高极蓝极爽快的天；祥子愿意早早的拉车跑一趟，凉风飕进他的袖口，使他全身象洗冷水澡似的一哆嗦，一痛快。(8)
143. 有时候起了狂风，把他打得出不来气，可是他低着头，咬着牙，向前钻，象一条

浮着逆水的大鱼；风越大，他的抵抗也越大，似乎是和狂风决一死战。(8)

144. 风吹弯了路旁的树木，撕碎了店户的布幌，揭净了墙上的报单，遮昏了太阳，唱着，叫着，吼着，回荡着！忽然直驰，象惊狂了的大精灵，扯天扯地的疾走；忽然慌乱，四面八方的乱卷，象不知怎好而决定乱撞的恶魔；忽然横扫，乘其不备的袭击着地上的一切，扭折了树枝，吹掀了屋瓦，撞断了电线；可是，祥子在那里看着；他刚从风里出来，风并没能把他怎样了！（8）

145. 遇上风，他们一步也不能抬，而生生的要曳着车走；风从上面砸下来，他们要把头低到胸口里去；风从下面来，他们的脚便找不着了地；风从前面来，手一扬就要放风筝；风从后边来，他们没法管束住车与自己。(8)

146. 但是他们设尽了方法，用尽了力气，死曳活曳得把车拉到了地方，为几个铜子得破出一条命。(8)

147. 她咽了口吐沫，把复杂的神气与情感似乎镇压下去，拿出点由刘四爷得来的外场劲儿，半恼半笑，假装不甚在乎的样子打了句哈哈：“你可倒好！肉包子打狗，一去不回头啊！”(9)

148. “别嚷！”祥子似乎把全身的力量都放在唇上，爆裂出这两个字，音很小，可是极有力。(9)

149. 她恶意的笑了，可是不由她自己似的把声音稍放低了些。(9)

150. 这声低柔的“祥子”把他的怒气打散了好些，他抬起头来，看着她，她还是没有什么可爱的地方，可是那声“祥子”在他心中还微微的响着，带着温柔亲切，似乎在哪儿曾经听说过，唤起些无可否认的，欲断难断的，情分。(9)

151. 祥子的心里由乱而空白，连这些声音也没听见；手托住腮下，呆呆的看着地，把地看得似乎要动；想不出什么，也不愿想什么；只觉得自己越来越小，可又不能完全缩入地中去，整个的生命似乎都立在这点难受上；别的，什么也没有！（9）

152. 老头子越老越糊涂，咱俩一露风声，他会去娶个小媳妇，把我硬撵出来。(9)

153. 她顺着祥子的眼光也看见了那个巡警：“你又没拉着车，怕他干吗？他还能无因白故的把谁的××咬下来？那才透着邪行呢！（9）

154. 老头子没了主意，咱们再慢慢的吹风儿，顶好把我给了你，本来是干儿子，再作女婿，反正差不很多；顺水推舟，省得大家出丑。(9)

155. 觉得把话说到了一个段落，虎妞开始往北走，低着头，既象欣赏着自己的那片话，又仿佛给祥子个机会思索思索。(9)

156. 这时，风把灰云吹裂开一块，露出月光，二人已来到街的北头。(9)

157. 树木微动，月色更显得微茫；白塔却高耸到云间，傻白傻白的把一切都带得冷寂萧索，整个的北海在人工的雕琢中显出北地的荒寒。

158. 平日，他拉着车过桥，把精神全放在脚下，唯恐出了错，一点也顾不得向左右看。(9)

159. 祥子把钱——一打儿钞票——接过来，楞了会儿，找不到话说。(9)
160. 他攥着那打儿票子，呆呆的看着她，一直到桥背把她的头遮下去。(9)
161. 灰云又把月光掩住；灯更亮了，桥上分外的白，空，冷。(9)
162. 到屋中，他先数了数那几张票子；数了两三遍，手心的汗把票子攥得发粘，总数不利落。数完，放在了闷葫芦罐儿里。(9)
163. 看够了，他把扑满藏好，打算睡大觉，天大的困难也能睡过去，明天再说！(9)
164. 不愿意去想，也实在因为没法儿想，虎妞已把道儿都堵住，他没法脱逃。(9)
165. 把她招急了，她还会抬出刘四爷来，刘四爷要是买出一两个人——不用往多里说——在哪个僻静的地方也能要祥子的命！(9)
166. 把虎妞的话从头至尾想了一遍，他觉得象掉在个陷阱里，手脚而且全被夹子夹住，决没法儿跑。(9)
167. 既不能一一的细想，他便把这一切作成个整个的，象千斤闸那样的压迫，全压到他的头上来。(9)
168. 想到这儿，他把虎妞和虎妞的话都放在一边去；不，这不是她的厉害，而是洋车夫的命当如此，就如同一条狗必定挨打受气，连小孩子也会无缘无故的打它两棍子。(9)
169. 这一阵寒气仿佛是一盆冷水把他浇醒，他的手懒得伸出来，他的心也不再那么热。(9)
170. 即使完全无可脱逃，他也不应当先自己往泥塘里滚；他得睁着眼，清清楚楚的看着，到底怎样被别人把他推下去。(9)
171. 灭了灯，把头完全盖在被子里，他想就这么睡去。(9)
172. 这样一来，他就又想到二十七那一天，还是这样想近便省事，只要混过这一关，就许可以全局不动而把事儿闯过去；即使不能干脆的都摆脱清楚，到底过了一关是一关。(10)
173. 她只须伸出个小指，就能把他支使的头晕眼花，不认识了东西南北。(10)
174. 在冬天，遇上主人有饭局，或听戏，他照例是把电石灯的水筒儿揣在怀里；因为放在车上就会冻上。(10)
175. 刚跑了一身的热汗，把那个冰凉的小水筒往胸前一贴，让他立刻哆嗦一下；不定有多大时候，那个水筒才会有点热和劲儿。(10)
176. 现在，他似乎看出来，一月只挣那么些钱，而把所有的苦处都得受过来，连个小水筒也不许冻上，而必得在胸前抱着，自己的胸脯多么宽，仿佛还没有个小筒儿值钱。(10)
177. 喝茶的几乎都是拉包月车的，有的把头靠在墙上，借着屋中的暖和气儿，闭上眼打盹。(10)
178. 有的攥着卷儿大饼，一口咬下半截，把脖子撑得又粗又红。(10)

179. 连那个吃着大饼的也把口中匀出能调动舌头的空隙，一边儿咽饼，一边儿说话，连头上的筋都跳了起来：“你当他妈的拉包月的就不蘑菇哪？！（10）
180. 这个天，把屁眼都他妈的冻裂了，一劲的放气！”（10）
181. 这，把大家的话又都转到天气上去，以天气为中心各自道出辛苦。（10）
182. 他没法，也不会，把自己的话有头有尾的说给大家听；他只能由别人的话中吸收些生命的苦味，大家都苦恼，他也不是例外；认识了自己，也想同情大家。（10）
183. 大家正说到热闹中间，门忽然开了，进来一阵冷气。大家几乎都怒目的往外看，看谁这么不得人心，把门推开。（10）
184. 茶馆的伙计半急半笑的喊：“快着点吧，我一个人的大叔！别把点热气儿都给放了！”（10）
185. “别动！”茶馆掌柜的有经验，拦住了大家。他独自过去，把老车夫的脖领解开，就地扶起来，用把椅子钹在背后，用手勒着双肩：“白糖水，快！”（10）
186. 慢慢的把糖水喝完，他又看了大家一眼：“哎，劳诸位的驾！”（10）
187. 那个拿着碗酒的中年人，已经把酒喝净，眼珠子通红，而且此刻带着些泪：“来，来二两！”（10）
188. 他有一点醉意，可是规规矩矩的把酒放在老车夫面前：“我的请，您喝吧！（10）
189. 他开开了点门缝：“小马儿！小马儿！你爷爷叫你哪！把车放在这儿来！”（10）
190. 小马儿对着包子点了点头，吸溜了一下鼻子：“爷爷吃三个吧，剩下都是我的。我回头把爷爷拉回家去！”（10）
191. 老者吃完自己的份儿，把杯中的酒喝完，等着小马儿吃净了包子。（10）
192. “爷爷，”小马儿把包子吃得差不离了，拉了拉老者的袖子，“咱们还得拉一趟，明几个早上还没钱买煤呢！（10）
193. 伸手去拉小马儿，小马儿把未吃完的一个包子整个的塞在口中。（10）
194. 大家又说笑起来，他觉得发乱，会了茶钱，又走了出来，把车拉到电影园门外去等候曹先生。（10）
195. 那一老一少似乎把他的最大希望给打破——老者的车是自己的呀！（10）
196. 电影散了，他急忙的把小水筒安好，点着了灯。（10）
197. 一想到那个老者与小马儿，祥子就把一切的希望都要放下，而想乐一天是一天吧，干吗成天咬咬牙跟自己过不去呢？！（11）
198. 不，不能随便；只差几十块钱就能买上车了，不能前功尽弃；至少也不能把罐儿里那点积蓄瞎扔了，那么不容易省下来的！（11）
199. 卖糖的小贩急于把应节的货物掏出去，上气不接下气的喊叫，听着怪震心的。（11）
200. 祥子更上了火，他故意的把车停住了，掸了掸身上的雪。（11）
201. 自行车把祥子让过去，祥子看了车上的人一眼。（11）

202. 到了左家，曹先生叫祥子把车拉进去，赶紧关上门。(11)
203. 祥子刚把车拉进门洞来，放好，曹先生又出来了，同着左先生；祥子认识，并且知道左先生是宅上的好朋友。(11)
204. 我这就给太太打电话，为是再告诉你一声，怕她一着急，把我的话忘了，你好提醒她一声。”(11)
205. 等她们走后，你把大门锁好，搬到书房去睡，那里有电话。你会打电？”(11)
206. 我的东西，你自己的东西都不用管，跳墙就走，省得把你拿了去！(11)
207. 刚似乎把这看腻了，车已到了家门，心中怪不得劲的下了车。(11)
208. 侦探露出点狡猾的笑意。赶到高妈把门开开，他一脚迈进去：“劳驾劳驾！”(11)
209. 不用说别的，把你圈上三个月，你野鸟似的惯了，楞教你坐黑屋子，你受得了受不了？(11)
210. 这还算小事，碰巧了他们花钱一运动，闹个几年徒刑；官面上交待不下去，要不把你垫了背才怪。(11)
211. “祥子，我的好伙计！你太傻了！凭我作侦探的，肯把你放了走？”(11)
212. 你想想，我能一撒巴掌把你放了不能？(11)
213. 我要马上把你带走，不要说钱呀，连你这身衣裳都一进狱门就得剥下来。(11)
214. “那是正犯，拿住呢有点赏，拿不住担‘不是’。你，你呀，我的傻兄弟，把你放了象放个屁；把你杀了象抹个臭虫！(11)
215. “那是正犯，拿住呢有点赏，拿不住担‘不是’。你，你呀，我的傻兄弟，把你放了象放个屁；把你杀了象抹个臭虫！(11)
216. 祥子又想了会儿，没办法。他的手哆嗦着，把闷葫芦罐儿从被子里掏了出来。(11)
217. 祥子想找个地方坐下，把前前后后细想一遍，哪怕想完只能哭一场呢，也好知道哭的是什么；事情变化得太快了，他的脑子已追赶不上。(12)
218. 等把本钱都吃进去，再去拉车，还不是脱了裤子放屁，白白赔上五块钱？(12)
219. 他在桥上立了许久，世界象是已经死去，没一点声音，没一点动静，灰白的雪花似乎得了机会，慌乱的，轻快的，一劲儿往下落，要人不知鬼不觉的把世界埋上。(12)
220. 我把这块的大门锁上。(12)
221. 扛起铺盖，灭了灯，他奔了后院。把铺盖放下，手扒住墙头低声的叫：“老程！老程！”(12)
222. 没人答应，祥子下了决心，先跳过去再说。把铺盖扔过去，落在雪上，没有什么声响。(12)
223. 祥子进去，把铺盖放在地上，就势儿坐在上面，又没了话。(12)
224. “我把大门给锁上了！”(12)

225. 多咱把他赶到左宅去，他们才有拿钱的希望，而且很够面子。(12)
226. 把一支烟烧完，祥子还是想不出道理来，他象被厨子提在手中的鸡，只知道缓一口气就好，没有别的主意。(12)
227. 地上的凉气一会儿便把褥子冰得象一张铁，他蜷着腿，腿肚子似乎还要转筋。(12)
228. 越来越冷，冻得嗓子中发痒，又怕把老程咳嗽醒了。(12)
229. 雪沉，不甚好扫，一时又找不到大的竹帚，他把腰弯得很低，用力去刮；上层的扫去，贴地的还留下一些雪粒，好象已抓住了地皮。(13)
230. 直了两回腰，他把整个的外院全扫完，把雪都堆在两株小柳树的底下。(13)
231. 直了两回腰，他把整个的外院全扫完，把雪都堆在两株小柳树的底下。(13)
232. 进屋，把笤帚放在原处，他想往起收拾铺盖。(13)
233. 谁也没说话，一气把烧饼油鬼吃净。(13)
234. 结结巴巴的，他把昨夜的事说了一遍，虽然很费力，可是说得不算不完全。(13)
235. 你去，找曹先生去，把前后的事一五一十都对他实说，我想，他必不能怪你，碰巧还许赔上你的钱！(13)
236. 你走吧，把铺盖放在这儿，早早的找他去。(13)
237. “跳过去！”祥子看了老程一眼，仿佛是把王二交给了老程，他拾起自己的铺盖卷来。(13)
238. 你走后，我把王二送到那边去。有煤呀？”(13)
239. 及至见了她，他把这句话在心中转了好几次，始终说不出来，他的嘴没有那么便利。(13)
240. 茶非常的烫，火非常的热，他觉得有点发困。把碗放下，刚要出来，刘四爷把他叫住了。(13)
241. 茶非常的烫，火非常的热，他觉得有点发困。把碗放下，刚要出来，刘四爷把他叫住了。(13)
242. 刘四爷笑了。祥子把头低得更往下了些。(13)
243. 心中堵着这块东西，他强打精神去作事，为是把自己累得动也不能动，好去闷睡。(13)
244. 把夜里的事交给梦，白天的事交给手脚，他仿佛是个能干活的死人。(13)
245. “祥子，你再去催！”虎妞故意倚重他，总在爸的面前喊祥子作事。祥子一声不出，把话听明白就走。(13)
246. 看他，一天连个屁也不放，可把事都作了！”(13)
247. 冯先生马上过来看了看，叫祥子去买两份红账本，和一张顺红笺。把红笺裁开，他写了些寿字，贴在各处。(13)

248. 都穿上大褂，谁短撅撅的进来把谁踢出去！（13）
249. 看，刘姑娘又把祥子叫出去！（13）
250. 他愿意快快把这一天过去，不再受这个罪。（14）
251. 和大家一齐坐下，大家把对刘四的不满意都挪到他身上来。（14）
252. 他的脸慢慢由红而白，把以前所受过的一切委屈都一下子想起来，全堵在心上。（14）
253. 然后向大家，“别瞧谁老实就欺侮谁，招急了我把你们全踢出去！快吃！”（14）
254. 刘四爷的眼里不揉沙子。把前前后后所闻所见的都搁在一处，他的心中已明白了八九成。（14）
255. 老头子把这点事存在心里，就更觉得凄凉难过。（14）
256. 被水月灯照得发青，和撤去围裙的桌子，老头子觉得空寂无聊，仿佛看到自己死了的时候也不过就是这样，不过是把喜棚改作白棚而已，棺材前没有儿孙们穿孝跪灵，只有些不相干的人们打麻将守夜！（14）
257. 他真想把现在未走的客人们赶出去；乘着自己有口活气，应当发发威！（14）
258. 由这一点上说起，他把白天所觉到的满意之处，全盘推翻：棚，家伙座儿，厨子，和其他的一切都不值那么些钱，都捉了他的大头，都冤枉！（14）
259. 管账的冯先生，这时候，已把账杀好：进了二十五条寿幛，三堂寿桃寿面，一坛儿寿酒，两对寿烛，和二十来块钱的礼金。（14）
260. 可是，一看大家都注意手中的牌，似乎并没理会老头子叨唠什么，她不利于开口，省得反把事儿弄明了。（14）
261. 打牌的人们似乎听见他们父女吵嘴，可是舍不得分心看别的，为抵抗他们的声音，大家把牌更摔得响了一些，而且嘴里叫唤着红的，碰……（14）
262. 祥子把事儿已听明白，照旧低着头扫地，他心中有了底；说翻了，揍！（14）
263. “你简直是气我吗！”老头子的眼已瞪得极圆。“把我气死，你好去倒贴儿？甬打算，我还得活些年呢！”（14）
264. 祥子把笤帚扔了，直起腰来，看准了刘四，问：“说谁呢？”（14）
265. “干脆说了吧，我已经有了，祥子的！他上哪儿我也上哪儿！你是把我给他呢？还是把我们俩一齐赶出去？听你一句话？”（14）
266. “干脆说了吧，我已经有了，祥子的！他上哪儿我也上哪儿！你是把我给他呢？还是把我们俩一齐赶出去？听你一句话？”（14）
267. 虎妞没想到事情来得这么快，把最后的一招这么早就拿出来。（14）
268. 打牌的人们把手停住了，觉出点不大是味来，可是胡里胡涂，不知是怎回事，搭不上嘴；有的立起来，有的呆呆的看着自己的牌。（14）
269. “我？”刘四爷的脸由红而白，把当年的光棍劲儿全拿了出来：“我放把火把棚烧了，也不能给你用！”（14）

270. “我？”刘四爷的脸由红而白，把当年的光棍劲儿全拿了出来：“我放把火把棚烧了，也不能给你用！”（14）
271. 冯先生，我可把他交给你了，明天跟你要人！”（15）
272. 虎姑娘瞪了老头子一眼，回到自己屋中，扯着嗓子哭起来，把屋门从里面锁上。（15）
273. 冯先生们把刘四爷也劝进去，老头子把外场劲儿又拿出来，请大家别走，还得喝几盅：“诸位放心，从此她是她，我是我，再也不吵嘴。（15）
274. 冯先生们把刘四爷也劝进去，老头子把外场劲儿又拿出来，请大家别走，还得喝几盅：“诸位放心，从此她是她，我是我，再也不吵嘴。（15）
275. 倒退二十年，我把她们俩全活劈了！（15）
276. 她自己把这一切都办好，告诉祥子去从头至脚都得买新的：“一辈子就这么一回！”（15）
277. 祥子没法不说实话了，把曹宅的事都告诉了她。（15）
278. 谁都能收拾他，这个走兽特别的厉害，要一刻不离的守着他，向他瞪眼，向他发笑，而且能紧紧的抱住他，把他所有的力量吸尽。（15）
279. 他窝心，他不但想把那身新衣扯碎，也想把自己从内到外放在清水里洗一回，他觉得浑身都粘着些不洁净的，使人恶心的什么东西，教他从心里厌烦。（15）
280. 他窝心，他不但想把那身新衣扯碎，也想把自己从内到外放在清水里洗一回，他觉得浑身都粘着些不洁净的，使人恶心的什么东西，教他从心里厌烦。（15）
281. 下到池子里去，热水把全身烫得有些发木，他闭上了眼，身上麻麻酥酥的仿佛往外放射着一些积存的污浊。（15）
282. 虎妞已把午饭作好：馏的馒头，熬白菜加肉丸子，一碟虎皮冻，一碟酱萝卜。（15）
283. 别的都已摆好，只有白菜还在火上煨着，发出些极美的香味。她已把红袄脱去，又穿上平日的棉裤棉袄，头上可是戴着一小朵绒作的红花，花上还有个小金纸的元宝。（15）
284. 他把长袍脱下来。（15）
285. 他把手拿下去，放在膝上，呆呆的看着火苗。（15）
286. 他恨不能双手掐住她的脖子，掐！掐！掐！一直到她翻了白眼！把一切都掐死，而后自己抹了脖子。（15）
287. 等到快把钱花完，咱们还是求老头子去。（15）
288. 他没想到虎妞还有这么一招。把长脸往下一拉呢，自然这的确是个主意，可是祥子不是那样的人。（15）
289. 只有那顶小的孩子才把屁股冻得通红的在院里玩耍或打架。（16）
290. 屋子是那么小，墙是那么破，冷风从这面的墙缝钻进来，一直的从那面出去，把



所有的一点暖气都带了走。(16)

291. 她端着碗，扬着脸，往屋里端这些零食，小孩子们都把铁条似的手指伸在口里看着她，仿佛她是个什么公主似的。(16)

292. 他晓得自己的病源在哪里，可是为安慰自己，他以为这大概也许因为二十多天没拉车，把腿撘生了；跑过几趟来，把腿蹀开，或者也就没事了。(16)

293. 他晓得自己的病源在哪里，可是为安慰自己，他以为这大概也许因为二十多天没拉车，把腿撘生了；跑过几趟来，把腿蹀开，或者也就没事了。(16)

294. 在一块儿走过一趟车便算朋友，他们四个人把车放在了一处。(16)

295. 看大家都把耳朵递过来，他放小了点声儿：“一成家，黑天白日全不闲着，玩完！(16)

296. “先甬提人家，”另个小伙子把话接过去。(16)

297. 听到这儿，祥子把车拉了起来，搭讪着说了句：“往南放放，这儿没买卖。”(16)

298. 祥子打算合合稀泥，把长脸一拉，招呼她一声。(16)

299. 你别把我招翻了，我爸爸是光棍出身，我什么事都作得出来！(16)

300. “老头要咱们，我也还得去拉车！”祥子愿把话说到了家。(16)

301. 假若老头子消了气呢，她只要把祥子拉到人和厂去，自然会教他有事作，不必再拉车，而且稳稳当当的能把爸爸的事业拿过来。(16)

302. 假若老头子消了气呢，她只要把祥子拉到人和厂去，自然会教他有事作，不必再拉车，而且稳稳当当的能把爸爸的事业拿过来。(16)

303. 把帽子往下拉了拉，他老远的就溜着厂子那边，唯恐被熟人看见。(16)

304. 祥子说得很慢，可是很自然；听说买车，他把什么都忘了。(16)

305. 祥子的主意似乎都跟着车的问题而来，“把一辆赁出去，进个整天的份儿。(16)

306. 直到这个时候，他才觉出来虎妞也有点好处，他居然向她笑了笑，一个天真的，发自内心的笑，仿佛把以前的困苦全一笔勾销，而笑着换了个新的世界，象换一件衣服那么容易，痛快！(16)

307. 祥子慢慢的把人和厂的事打听明白：刘四爷把一部分车卖出去，剩下的全倒给了西城有名的一家车主。(17)

308. 祥子慢慢的把人和厂的事打听明白：刘四爷把一部分车卖出去，剩下的全倒给了西城有名的一家车主。(17)

309. 祥子能猜想得出，老头子的岁数到了，没有女儿帮他的忙，他弄不转这个营业，所以干脆把它收了，自己拿着钱去享福。(17)

310. 由刘四爷那点财产说呢，又实在有点可惜；谁知道刘老头子怎么把钱攘出去呢，他和虎妞连一个铜子也没沾润着。(17)

311. 决没想到老头子会这么坚决，这么毒辣，把财产都变成现钱，偷偷的藏起来！(17)

312. 在这里，春风先把院中那块冰吹得起了些小麻子坑儿，从秽土中吹出一些腥臊的气味，把鸡毛蒜皮与碎纸吹到墙角，打着小小的旋风。(17)
313. 在这里，春风先把院中那块冰吹得起了些小麻子坑儿，从秽土中吹出一些腥臊的气味，把鸡毛蒜皮与碎纸吹到墙角，打着小小的旋风。(17)
314. 杂院里的人们，四时都有苦恼。那老人们现在才敢出来晒晒暖；年轻的姑娘们到现在才把鼻尖上的煤污减去一点，露出点红黄的皮肤来；那些妇女们才敢不甚惭愧的把孩子们赶到院中去玩玩；那些小孩子们才敢扯着张破纸当风筝，随意的在院中跑，而不至把小黑手儿冻得裂开几道口子。(17)
315. 杂院里的人们，四时都有苦恼。那老人们现在才敢出来晒晒暖；年轻的姑娘们到现在才把鼻尖上的煤污减去一点，露出点红黄的皮肤来；那些妇女们才敢不甚惭愧的把孩子们赶到院中去玩玩；那些小孩子们才敢扯着张破纸当风筝，随意的在院中跑，而不至把小黑手儿冻得裂开几道口子。(17)
316. 杂院里的人们，四时都有苦恼。那老人们现在才敢出来晒晒暖；年轻的姑娘们到现在才把鼻尖上的煤污减去一点，露出点红黄的皮肤来；那些妇女们才敢不甚惭愧的把孩子们赶到院中去玩玩；那些小孩子们才敢扯着张破纸当风筝，随意的在院中跑，而不至把小黑手儿冻得裂开几道口子。(17)
317. 但是，粥厂停了锅，放赈的停了米，行善的停止了放钱；把苦人们仿佛都交给了春风与春光！(17)
318. 回到家，她一头扎在炕上，闷闷地哭起来，一点虚伪狡诈也没有的哭了一大阵，把眼泡都哭肿。(17)
319. 钱在自己的手中，势力才也在自己身上，她不肯都掏出来；万一祥子——在把钱都买了车之后——变了心呢？(17)
320. 杂院里的二强子正要卖车。二强子在去年夏天把女儿小福子——十九岁——卖给了一个军人。(17)
321. 卖了二百块钱。小福子走后，二强子颇阔气了一阵，把当都赎出来，还另外作了几件新衣，全家都穿得怪齐整的。(17)
322. 再一想，这点钱是用女儿换来的，白白的这样赔出去，而且还喝酒打人，他觉得自己不是人。在这种时候，他能懊睡一天，把苦恼交给了梦。(17)
323. 他决定放弃了买卖，还去拉车，不能把那点钱全白白的糟践了。(17)
324. 街坊们过来，好容易把二强子按倒在炕上，两个孩子抱着妈妈哭起来。(17)
325. 他把车押出去，押了六十块钱。(17)
326. 转过年来，他想出手那辆车，他没有自己把它赎回来的希望。(17)
327. 把车买好，他细细看了看，的确骨力硬棒。(17)
328. 等到他开了差呢，他一点也不可惜那份铺板与一两把椅子，因为欠下的两个月房租得由她想法子给上，把铺板什么折卖了还许不够还这笔账的呢。(17)

329. 小福子就是把铺板卖了，还上房租，只穿着件花洋布大衫，戴着一对银耳环，回到家中来的。(17)
330. 有时候他又以为更应当努力去拉车，好好的把两个男孩拉扯大了，将来也好有点指望。(17)
331. 虎妞，一向不答理院中的人们，可是把小福子看成了朋友。(17)
332. 虎妞爱吃零食，每逢弄点瓜子儿之类的东西，总把小福子喊过来，一边说笑，一边吃着。(17)
333. 她把小福子看成个最可爱，最可羡慕，也值得嫉妒的人。(17)
334. 朋友是朋友，事情是事情，为小福子的事，她得把屋子收拾得好好的，既须劳作，也得多花些钱，难道置买笤帚簸箕什么的不得花钱么？(17)
335. 倒是虎妞一半骂一半劝，把他对付走，自然他手里得多少拿去点钱。(18)
336. 拉车的人们，明知不活动便没有饭吃，也懒得去张罗买卖：有的把车放在有些阴凉的地方，支起车棚，坐在车上打盹；有的钻进小茶馆去喝茶；有的根本没拉出车来，而来到街上看看，看看有没有出车的可能。(18)
337. 他拉上了个买卖，把车拉起来，他才晓得天气的厉害已经到了不允许任何人工作的程度。(18)
338. 一跑，便喘不过气来，而且嘴唇发焦，明知心里不渴，也见水就想喝。不跑呢，那毒花花的太阳把手和脊背都要晒裂。(18)
339. 祥子身上没了汗，向北边看了一眼，把车停住，上了雨布，他晓得夏天的雨是说来就来，不容工夫的。(18)
340. 北边远处一个红闪，象把乌云掀开一块，露出一大片血似的。(18)
341. 他要把手放下，但是不知放在哪里好。(18)
342. “快走！你把我扔在这儿算怎么回事？”坐车的跺着脚喊。(18)
343. 祥子真想硬把手放下，去找个地方避一避。(18)
344. 又待了一会儿，西边的云缝露出来阳光，把带着雨水的树叶照成一片金绿。(18)
345. 小福子屋的后檐墙塌了一块，姐儿三个忙着把炕席揭起来，堵住窟窿。(18)
346. 有的屋顶漏得象个喷壶，把东西全淋湿，忙着往出搬运，放在炉旁去烤，或搁在窗台上去晒。(18)
347. 在正下雨的时候，大家躲在那随时可以塌倒而把他们活埋了的屋中，把命交给了老天；雨后，他们算计着，收拾着，那些损失；虽然大雨过去，一斤粮食也许落一半个铜子，可是他们的损失不是这个所能偿补的。(18)
348. 在正下雨的时候，大家躲在那随时可以塌倒而把他们活埋了的屋中，把命交给了老天；雨后，他们算计着，收拾着，那些损失；虽然大雨过去，一斤粮食也许落一半个铜子，可是他们的损失不是这个所能偿补的。(18)
349. 什么也无须说了，他接过碗来，把药吞下去。(19)

350. 他知道自己不能去挣钱，那么一切花费就都得由虎妞往外垫；多咱把她的钱垫完，多咱便全仗着他的一辆车；凭虎妞的爱花爱吃，他供给不起，况且她还有了孕呢！（19）
351. 把帽子戴得极低，为是教人认不出来他，好可以缓着劲儿跑。（19）
352. 小福子晓得这么下去，全院的人慢慢就会都响应虎妞，而把自己撵出去。（19）
353. 她只是害怕，不敢生气，落到她这步天地的人晓得把事实放在气和泪的前边。（19）
354. 祥子不便辩驳，也不会辩驳；及至把东西作好，她一吃便是两三大碗。（19）
355. 有时候欣喜，有时候着急，有时候烦闷，有时候为欣喜而又要惭愧，有时候为着急而又要自慰，有时候为烦闷而又要欣喜，感情在他心中绕着圆圈，把个最简单的人闹得不知道了东西南北。（19）
356. 有一回，他竟自把座儿拉过了地方，忘了人家雇到哪里！（19）
357. 把收生婆又请了来，还是不到时候。（19）
358. 她把一切的神佛都喊到了，并且许下多少誓愿，都没有用。（19）
359. 祥子把这个托付给小福子去办。（19）
360. 但是既花了五块钱，爽性就把她的方法都试验试验吧；既不肯打她一顿，那么就依着她的主意办好了，万一有些灵验呢！（19）
361. 香越烧越矮，火苗当中露出些黑道来，他把头低下去，手扶在地上，迷迷糊糊的有些发困，他已两三天没得好好的睡了。（19）
362. 楞楞磕磕的，祥子看着杠夫把棺材埋好，他没有哭。（20）
363. 他的脑中象烧着一把烈火，把泪已烧干，想哭也哭不出。（20）
364. 把烟吸完，手捧着头，口中与心中都发辣，要狂喊一阵，把心中的血都喷出来才痛快。（20）
365. 把烟吸完，手捧着头，口中与心中都发辣，要狂喊一阵，把心中的血都喷出来才痛快。（20）
366. “祥哥！”她往前凑了凑，“我把东西都收拾好了。”（20）
367. 在他的眼里，她是个最美的女子，美在骨头里，就是她满身都长了疮，把皮肉都烂掉，在他心中她依然很美。（20）
368. 她本人是那么好，而且帮了他这么多的忙，他只能点头，他真想去抱住她，痛痛快快的哭一场，把委屈都哭净，而后与她努力同心的再往下苦奔。（20）
369. 二强子棱棱着眼把钱接过去，一边往起立，一边叨唠：“放着你们这群丫头养的！招翻了太爷，妈的弄刀全宰了你们！”（20）
370. “打鼓儿的”把东西收拾了走，屋中只剩下他的一份铺盖和那几件挑出来的衣服，在没有席的炕上放着。（20）
371. 有意无意的他把钱全掏了出来；这两天了，他始终没顾到算一算账。（20）

372. 把钱放在炕砖上，他瞪着它们，不知是哭好，还是笑好。(20)
373. 长叹了一口气，无可如何的把钱揣在怀里，然后他把铺盖和那几件衣服抱起来，去找小福子。(20)
374. 长叹了一口气，无可如何的把钱揣在怀里，然后他把铺盖和那几件衣服抱起来，去找小福子。(20)
375. “这几件衣裳，你留着穿吧！把铺盖存在这一会儿，我先去找好车厂子，再来取。”(20)
376. 弄了块白布，他自己笨手八脚的拿个大针把钱缝在里面，永远放在贴着肉的地方。(20)
377. 太太可手松，三天两头的出去买东西；若是吃的，不好吃便给了仆人；若是用品，等到要再去买新的时候，便先把旧的给了仆人，好跟夏先生交涉要钱。(20)
378. 夏先生一生的使命似乎就是鞠躬尽瘁的把所有的精力与金钱全敬献给姨太太；此外，他没有任何生活与享受。(20)
379. 可是他把“事”看成了“事”，只要月间进钱，管别的干什么呢？！(20)
380. 对于那个太太，祥子只把她当作个会给点零钱的女人，并不十分喜爱她。(20)
381. 乡下人急了，不会拿着尺寸说话，她抖着底儿把最粗野的骂出来。(21)
382. 买回来，她嘱咐他把什么该剥了皮，把什么该洗一洗。(21)
383. 买回来，她嘱咐他把什么该剥了皮，把什么该洗一洗。(21)
384. 作得了饭，她独自在厨房里吃；吃完，她喊了声祥子：“你吃吧。吃完可得把家伙刷出来。(21)
385. 他真想拉得欢欢的，一撒手，把这老家伙摔个半死。(21)
386. 他心中平静了，把这场无结果的事忘掉；偶尔又想起来，他反觉有点可笑。(21)
387. 星期一午饭后，夏太太把试工的老妈子打发了，嫌她太不干净。(21)
388. 把这个想开了，连个苍蝇还会在粪坑上取乐呢，何况这么大的一个活人。(21)
389. 有时候也把半截烟放在耳朵上夹着，不为那个地方方便，而专为耍个飘儿。(21)
390. 这么一想，他很想把未吸完的半盒“黄狮子”扔掉，从此烟酒不动，咬上牙攒钱。(21)
391. 及至见了朋友们，他照旧吸着烟，有机会也喝点酒，把小福子忘得一干二净。(21)
392. 这句后没人能够驳倒，没人能把它解释开；那么，谁能拦着祥子不往低处去呢？！(21)
393. 随便的把车放下，他懒得再动，不管那是该放车的地方不是。(21)
394. 赶到看见非把车挪开不可了，他的嘴更不能闲着，他会骂。(21)
395. 巡警要是不肯挨骂，那么，打一场也没什么，好在祥子知道自己的力气大，先把巡警揍了，再去坐狱也不吃亏。(21)

396. 在打架的时候，他又觉出自己的力气与本事，把力气都砸在别人的肉上，他见了光明，太阳好象特别的亮起来。(21)
397. 他算清楚了，反正汽车不敢伤人，那么为什么老早的躲开，好教它把尘土都带起来呢？(21)
398. 听着风声，祥子把头往被子里埋，不敢再起来。(21)
399. 他强打精神，把车拉出来。(21)
400. 懒得去点灯，直到沿路的巡警催了他四五次，才把它们点上。(21)
401. 一直把狗赶没了影，他还又等了会儿，看它敢回来不敢。(21)
402. 他心中痛快，身上轻松，仿佛把自从娶了虎妞之后所有的倒霉一股拢总都喷在刘四爷身上。(22)
403. 把前些日子的事搁在谁身上，谁能高兴，谁能不往下溜？(22)
404. 顾不得到茶馆去，他把车放在城门西的“停车处”，叫过提着大瓦壶，拿着黄砂碗的卖茶的小孩来，喝了两碗刷锅水似的茶；非常的难喝，可是他告诉自己，以后就得老喝这个，不能再都把钱花上好茶好饭上。(22)
405. 顾不得到茶馆去，他把车放在城门西的“停车处”，叫过提着大瓦壶，拿着黄砂碗的卖茶的小孩来，喝了两碗刷锅水似的茶；非常的难喝，可是他告诉自己，以后就得老喝这个，不能再都把钱花上好茶好饭上。(22)
406. 不管怎样难吃，也都把它们吞下去。(22)
407. 心中计算好：歇一天，把事情都办好，明天开始新的生活。(22)
408. 镇静了半天，他想要把那片血变成的简单的字，流泻出来。(22)
409. 一切都在记忆中，一想便全想起来，他得慢慢的把它们排列好，整理好。(22)
410. 没有一点迟疑，混乱，他好象要一口气把整个的心都拿出来。(22)
411. “没错！太太要不放心，我把她带来，教太太看看！”(22)
412. “这么着吧，我先和太太提一声，改天你把她带来；太太点了头，咱们就算成功！”(22)
413. 几口把它吃完，舌头有些麻木，心中舒服。(22)
414. 心中已看见了那个杂院，那间小屋，与他心爱的人；只差着一对翅膀把他一下送到那里。(22)
415. 她不仅是朋友，她将把她的一生交给他，两个地狱中的人将要抹去泪珠而含着笑携手前进。(22)
416. 他不能仅为自己的吃喝努力，他必须把她从那间小屋救拔出来，而后与他一同住在一间干净暖和的屋里，象一对小鸟似的那么快活，体面，亲热！(22)
417. 他身上的汗全忽然落下去，手扶着那扇破门，他又不把希望全都扔弃了：“我找小福子！”(22)
418. 退一步想，即使她没死，二强子又把她卖掉，卖到极远的地方去，是可能的；这

比死更坏！(22)

419. 说起话来，祥子才知道小马儿已死了半年多，老人把那辆破车卖掉，天天就弄壶茶和些烧饼果子在车口儿上卖。(23)

420. 祥子喝了他一碗茶，把心中的委屈也对他略略说了几句。(23)

421. 赶到成了群，打成阵，哼，一阵就把整顷的庄稼吃净，谁也没法儿治它们！(23)

422. 就这么大咧咧的瞎混吧：没饭吃呢，就把车拉出去；够吃一天的呢，就歇一天，明天再说明天的。(23)

423. 他把小福子的事也告诉了老人，他把老人当作了真的朋友。(23)

424. 他把小福子的事也告诉了老人，他把老人当作了真的朋友。(23)

425. 祥子把小福子的模样形容了一番，她想起来：“有，有这么个人！(23)

426. 小嫩肉把客人的衣裳剥下来，自己穿上，逃了。(23)

427. 天黑，她又女扮男装，把大伙儿都给蒙了。(23)

428. 睡了两天，他把车拉出去，心中完全是块空白，不再想什么，不再希望什么，只为肚子才出来受罪，肚子饱了就去睡，还用想什么呢，还用希望什么呢？(23)

## 付録 2

『家』における“把”構文（“将”構文を含む）

1. 风玩弄着伞，把它吹得向四面偏倒，有一两次甚至吹得它离开了行人的手。（1）<sup>165)</sup>
2. 你昨天不是把那几句话背得很熟吗？（1）
3. 好像有好多人的眼光在看我，我恨不得把所有的話一字不遺漏地說出來……（1）
4. 一阵风把他手里的伞吹得旋转起来，他连忙闭上嘴，用力捏紧伞柄。（1）
5. “我恨不得把全篇的话一字不遺漏地背了出来，”（1）
6. 老实说，朱先生把《宝岛》改编成剧本，就编得不好，演出来恐怕不会有什么好成绩。”  
（1）
7. 他在想要怎样才能够把那一幕戏演得好，博得来宾和同学们的称赞，讨得哥哥的欢喜。  
（1）
8. 现在雪很小了，把伞收起来罢。（1）
9. 觉慧也把伞收起了。（1）
10. 他们把皮鞋在石阶上擦了几下，抖了抖身上的雪水，便提着伞大步走了进去。（1）
11. 他就把伞丢在地板上，马上走了出来。（2）
12. 他又回转身走进房去拾起了伞，把它张开，小心地放在地板上。（2）
13. “你去对姑妈说，你到我们屋里去耍，我把这件事情详细告诉你，”（2）
14. 鸣凤快要走到了他的面前，听见他的大声问话，似乎吃了一惊，手微微颤抖，把杯里的茶泼了一点出来，然后抬起头看他，（3）
15. “好，把这两杯茶端给琴小姐和二少爷。”（3）
16. 他把身子向左边一侧，靠在门框上，让她走了进去。（3）
17. 他听见脚步声，故意把两只脚放开，站在门中央堵住她的路。（3）
18. 他便把身子一侧，让出了一条路，鸣凤马上跑出去了。（3）
19. 她们去了，把他一个人留在这里，一张少女的面庞又在他的眼前现出来。（3）
20. 他把它们比较了一番，不知道为什么他总觉得他更同情前一张脸，更喜欢前一张脸。  
（3）
21. 但这梦想也是值得人留恋的，他好像不愿意立刻就把它完全抛弃。（3）
22. 虽然平时他并不喜欢，但这时候他却觉得它是解决这一切问题的妙法了！所以他用慷慨激昂的调子把它高声叫出来。（3）
23. 他们把自己的苦恼完全忘掉了，他们所想的只是琴的事。（3）
24. 妈爱我，所以肯把责任担在自己的肩上，不顾一般亲戚的闲言闲语。（3）

---

<sup>165)</sup> (1) は第 1 章という意味である。



25. 他们把她送出门，看着她的背影进了上房，然后回转来。（3）
26. 她要享受它们，不肯轻易把它们放过，所以她不愿意早睡。（4）
27. 后来一个俊美的少爷来，把她接了去，他在他的家里过着幸福的生活。（4）
28. 一乘小轿子把她抬了出去，让她嫁给太太所选定的、她自己并不认识的一个男人，也许还是一个三四十岁的男人。（4）
29. 她懒洋洋地站起来，拨了灯芯，又把灯花去掉，眼前亮了许多。（4）
30. 风开始在外面怒吼，猛烈地摇撼着窗户，把窗格上糊的纸吹打得凄惨地叫。（4）
31. 把脸掉向里面，又不响了。（4）
32. 她把外面衣服都解开了，只剩了里面的一件汗衫。（4）
33. 她想也许他会把她从这种生活里拯救出来。（4）
34. 一股寒气打击她的敞开的胸膛，把她从梦幻的境地中带了回来。（4）
35. 她恋恋不舍地又望了望四周，然后脱去棉裤，又把衣服脱了压在被上，很快地钻进被窝里去了。（4）
36. 她决定要拿它、但是她又知道她的手伸出去就会被人拦阻，她还不能确定她是否可以把这件东西拿到手。（5）
37. 和往常一样，她跟着母亲进了里面，先到母亲的房间，看女佣李嫂伺候母亲换了衣服，自己给母亲把换下来的出门的新衣折好，放进衣柜里去。（5）
38. 琴应了一声，便走到茶几前，拿了一个茶杯，把煨在“五更鸡”上面的茶壶拿下来，满满地斟了一杯酹茶，送到母亲面前，放在旁边的一个矮凳上，（5）
39. 你爹死得太早，就剩下你一个女儿，把责任都放在我的肩头。（5）
40. 后来你要进学堂，我又把你送进了学堂。（5）
41. 她随手把这本杂志翻了几页，无意间看见了下面的几句话：（5）
42. 但是她近来却喜欢写白话信，并且写得很工整，甚至于把“的”“底”“地”三个字的用法也分别清楚。（5）
43. 她为了学写白话信，曾经把《新青年》杂志的通信栏仔细研究过一番。（5）
44. 他在师友的赞誉中得到毕业文凭归来后的那天晚上，父亲把他叫到房里去对他说（6）
45. 他把它们都听懂了，却又好像不懂似的。（6）
46. 于是父亲只得求助于拈阄的办法，把两个姑娘的姓氏写在两方小红纸片上，把它们揉成两团，拿在手里，走到祖宗的神主面前诚心祷告了一番，然后随意拈起一个来。（6）
47. 于是父亲只得求助于拈阄的办法，把两个姑娘的姓氏写在两方小红纸片上，把它们揉成两团，拿在手里，走到祖宗的神主面前诚心祷告了一番，然后随意拈起一个来。（6）
48. 他把平日翻看的书籍整齐地放在书橱里，不再去动它们。（6）
49. 有一天也是在晚上，父亲又把他叫到房里去对他说：（6）

50. 我把你养到这样大，又给你娶了媳妇，总算尽了我做父亲的责任。（6）
51. 但是一则你已经有了妻子，二则，现在没有分家，我自己又在管账，不好把你送到下面去。（6）
52. 两乘轿子把他们父子送到西蜀实业公司经营的商业场的后门。（6）
53. 他逐渐地熟悉了这个环境，学到了新的生活方法，而且逐渐地把他在中学四年中所得到的学识忘掉。（6）
54. 时疫夺去了父亲，他和弟妹们的哭声并不能够把父亲留住。（6）
55. 父亲去了，把这一房的责任放在他的肩上。（6）
56. 他的悲哀不久便逐渐消去，在父亲的棺木入土以后，他似乎把父亲完全忘记了。（6）
57. 他平静地把这个大家庭的担子放在他的年轻的肩上。（6）
58. 他可以好好地教养他，把他的抱负拿来在儿子的身上实现。（6）
59. 就是这样的“主义” 把《新青年》的理论和他们这个大家庭的现实毫不冲突地结合起来。（6）
60. 这个孩子很可爱，很聪明，他差不多把全量的爱倾注在这个孩子的身上，（6）
61. 他翻看了本省新闻，把报纸放在茶几上，掉过头去向觉民问道（7）
62. 觉慧读完了杂志上的文章，便把杂志阖起来放在膝上，抬起头带笑说。（7）
63. 发鬓垂在两只耳边，把她的鹅蛋形的面庞，显得恰到好处。（7）
64. 他紧紧地捏着杂志，好像害怕琴会把它抢去似的。（7）
65. 觉慧坐起来，也把杂志递给琴，（7）
66. “你看，你看，免得一会儿你又说我把新杂志当作宝贝。”（7）
67. 觉慧把手缩回来，又躺下去看书。（7）
68. 大哥好像早把梅表姐忘记了，他从来不曾提过梅表姐的名字，而且他对嫂嫂也很满意。（7）
69. 琴把头微微一摇，略带感伤地说：（7）
70. 妈叫我不把这个消息告诉大表哥。（7）
71. 他似乎想说话，但只是把嘴唇动了几下，并没有说出话来。（7）
72. 琴温和地看了他一眼，但是马上又把眼光掉开了。（7）
73. 据说她后来把大表哥同梅表姐两人的八字拿去找人排了一下，说是两造的命相克，不能配合，否则女的会早死。（7）
74. 剑云埋下了头，但是他马上又把头抬起来，他的一双阴暗的眼睛畏怯地看琴的脸。（7）
75. 可是我每次见到他，想跟他多说几句话，他却把他的心关起来，（7）
76. 他自己把心关着，唯恐别人看见他的秘密，你想这样一来别人怎好跟他接近？（7）
77. 觉慧突然把杂志阖上，拍着自己的膝头叫起来。（7）
78. 你把东西先拿出去。（7）

79. 觉新把她们送到事务所门口，觉民和觉慧却一直送到商业场后门，看见她们母女坐上了轿子，才回到事务所去。（7）
80. 快说，把详细情形告诉我！（8）
81. 他也发言，他终于把所知道的全说了出来。（8）
82. 他马上把眉毛竖起来。（8）
83. 代表们把交涉的结果向同学报告了。整个广场马上骚动起来。（8）
84. 为了使全场的人都能够听见他的话，那个说话的代表便拚命地叫，甚至把声音都叫哑了。（8）
85. 我劝你们还是回去罢，我负责把你们的意思向督座转达就是了。（8）
86. 一个代表把他的话向同学们高声传达了。（8）
87. 另一个代表把两手围着嘴唇大声说。（8）
88. 雨点不停地落在他的未戴帽子的头上，把他的头发打湿了。（8）
89. 这几天督军正忙着给他的母亲做寿，他也许把这样的小事忘掉了。（9）
90. 最重要的还是联络各县学生起来响应，把这次学生运动尽量扩大，果然风潮一天一天地扩大了，（9）
91. 现在祖父在他的眼前显得非常衰弱，身子软弱无力地躺在那里，从微微张开的嘴里断续地流出口水来，把颌下的衣服打湿了一团。（9）
92. 祖父偶尔也跟唱小旦的戏子往来，还有过一次祖父和四叔把一个出名的小旦叫到家里来化装照相，他曾亲眼看见那个小旦在客厅里梳头擦粉。（9）
93. 他很奇怪，为什么祖父把他唤来，让他站了许久，并不对他说一句话，便叫他出去。（9）
94. 这句问话把他窘住了。（9）
95. 像你这样在外头胡闹，看把你这条小命闹掉！（9）
96. 我看你会把你这条小命闹掉的！（9）
97. 陈姨太，你去把他大哥喊来，（9）
98. 三少爷，你看你把你爷爷气成这个样子。（9）
99. 陈姨太，你去把他大哥，还有克明，给我一起喊来！（9）
100. 他的老年的模糊的眼光无目的地向四处移动，后来他把眼睛闭上了。（9）
101. 觉慧把祖父的瘦长的身子注意地看了好几眼，忽然一个奇怪的思想来到他的脑子里。（9）
102. 我把你三弟交给你，你好好管他，不要放他出去。（9）
103. 祖父歇了半晌才有气无力地说了一句，又把眼睛闭上了。（9）
104. 人家打你左脸，就马上把右脸也送上去。（9）
105. 觉慧愤愤地骂起来，好像要把他在祖父那里受到的气向觉新发泄。（9）
106. 我一定要跑出去！我马上就跑出去！看他把我怎样！（9）

107. 你答应几个‘是’字就走出去，把一切都忘在九霄云外，好像没有听见他说过什么一样。(9)
108. 他伸手折了短短的一小枝，拿在手里用力折成了几段，把小枝上的花摘下来放在手掌心上，然后用力一捏，把花瓣捏成了润湿的一小团。(9)
109. 他伸手折了短短的一小枝，拿在手里用力折成了几段，把小枝上的花摘下来放在手掌心上，然后用力一捏，把花瓣捏成了润湿的一小团。(9)
110. 他想有一天如果这只手变大起来，能够把旧的制度像这样地毁掉，那是多么痛快的事。(9)
111. 我要出去，我一定要出去，看他们把我怎样！(10)
112. 他看见她们逼近了，便转身向里走去，把身子隐在梅树最多的地方。(10)
113. 她又伸手去把那根枝子折断了，拿在手里看了看。(10)
114. 他把花枝折下来，交给鸣凤。(10)
115. 她看见他把花枝折了下来，便伸手去接。(10)
116. 她听见这句话，也不回答，默默地低下头，把头埋在手中拿的花枝上面。(10)
117. 他把树身打量一下，(10)
118. 他含笑道，便把棉袍脱下来，挂在旁边一株树上，身上露出深绿色的棉紧身。(10)
119. 一只脚站在分枝的地方，一只脚踏住一根粗壮的枝子，把近中央的那一根粗的树枝夹在两腿中间，伸出一只手去折，但是手还抓不到那枝花。(10)
120. 他说着便放开腿，把右手紧紧挽住近中央的那根树枝，先把左脚提起，在另一树枝上重重地踏了两下，试试看树枝是否载得起他，然后把右脚也移了过去。(10)
121. 他说着便放开腿，把右手紧紧挽住近中央的那根树枝，先把左脚提起，在另一树枝上重重地踏了两下，试试看树枝是否载得起他，然后把右脚也移了过去。(10)
122. 他说着便放开腿，把右手紧紧挽住近中央的那根树枝，先把左脚提起，在另一树枝上重重地踏了两下，试试看树枝是否载得起他，然后把右脚也移了过去。(10)
123. 他俯下身子折那枝花，折了三下才把那一枝折断，拿在手里。(10)
124. 他又把右脚移回到先前的那根树枝上，埋头去看下面，正看见鸣凤的仰着的脸。(10)
125. 接住！我把花给你丢下来了！(10)
126. 他说着便把花枝轻轻地往下面一送，又把旁边那些依旧留在树上的枝子拨开，免得它们把它缠住。(10)
127. 他说着便把花枝轻轻地往下面一送，又把旁边那些依旧留在树上的枝子拨开，免得它们把它缠住。(10)
128. 他说着便把花枝轻轻地往下面一送，又把旁边那些依旧留在树上的枝子拨开，免得它们把它缠住。(10)

129. 她一面回答，一面整理手中的花枝，忽然注意到他把衣服披在身上，并不穿好它。  
(1 0)
130. 你快把衣服穿好罢，等一会儿会着凉的。(1 0)
131. 你不要就走。我们到那边去，找个地方坐下来慢慢说。把梅花给我拿。(1 0)
132. 他走到石桌前，把梅花放在桌上，摸出手帕拂拭了石凳上的灰尘，便坐下去。(1 0)
133. 觉慧笑了笑，便把花枝拿开，放在右边的石凳上，又指着左边的石凳说。(1 0)
134. 我去告诉太太说你已经长成人了，早点把你嫁出去罢。(1 0)
135. 他又伸出手去，把她的左手拿过来放在自己的膝上，不住地抚摩。(1 0)
136. 他的话确实是出于真心，不过这时候他并不曾把他的处境仔细地思索一番。(1 0)
137. 她惊惶地叫起来，连忙把那只未被她捏住的右手伸出去蒙她的嘴。(1 0)
138. 他把她的手从自己的嘴上拿下来，一面说。(1 0)
139. 你不晓得我总是把你当作救星！(1 0)
140. 她伸手去拿梅花，觉慧早已把花枝拿到手里，便递给她，一面嘱咐她道。(1 0)
141. 他走到她刚才坐过的石凳前，坐下去，把两肘放在石桌上，捧着头似梦非梦地呆呆望着远处，口里喃喃地说：(1 0)
142. 孤独的，清冷的，它把它的光辉撒下来。(1 0)
143. 他知道哥哥激动得厉害，便用左手把哥哥的手背轻轻拍了两下，微笑地说：(1 0)
144. 他抬头把月亮望了半晌，才低下头对觉慧说：(1 0)
145. 但是人确实觉得有什么东西在空中震荡，把空气也搅动了，使得空气里也充满了悲哀。(1 0)
146. 他觉得好像有一种不可抗拒的力量把一张少女的脸推到了他的面前。(1 0)
147. 五叔把他最近写的诗文交给祖父，请祖父批改。(1 1)
148. 我看了封面上白纸签条的题名：《刘芷唐先生教孝戒淫浅训》，就觉得头痛，我连看也不要看就把书抛在桌上，一个人到花园里散步去。(1 1)
149. 她把树上的一枝折了下来，望着我笑了笑，(1 1)
150. 他们把你关在家里，不要你出去。(1 1)
151. 你要把心放宽一点。(1 1)
152. 我很感动，我把她的头捧起来，微笑地摇头说。(1 1)
153. 饭后我回到房里把二哥新买来的英文本《复活》翻开读了几十页。(1 1)
154. 我坐下来，祖父给我的那本《刘芷唐先生教孝戒淫浅训》还在桌子上。我把它拿在手里翻了几页。(1 1)
155. 我愈看愈气，后来忍不住就把这本薄薄的线装书撕破了，我想撕掉一本，也可以少害几个人。(1 1)
156. 我恨不得生了翅膀飞出去，然而阴暗的房间把我关住了。(1 1)

157. 这时何嫂把海儿带了进来。嫂嫂便逗着海儿玩，一面和我闲谈。(1 1)
158. 我好久没有画什么了，这两三年来因为照料海儿，把从前所学的都荒疏了。(1 1)
159. 我说着又把话题转到别的方面去，(1 1)
160. 一清早就有喜鹊在树上叫，把我们早早叫起来。(1 1)
161. 我还想着嫂嫂的话，可是我终于安静下来，把《宝岛》温习了二十几页。(1 1)
162. 他们又把吃年夜饭叫做“团年”。(1 2)
163. 他只把眉头皱了皱，继续拨算盘珠子。(1 2)
164. 我们是青年，不是畸人，不是愚人，应当给自己把幸福争过来！(1 2)
165. 一股热气在他的身体内直往上冲，他激动得连手也颤抖起来，他不能够再念下去，便把书阖上，端起茶碗大大地喝了几口。(1 2)
166. 然而他愈憎恨这种生活，便愈发见更多的无形的栅栏立在他的四周，使他不能够把这种生活完全摆脱。(1 2)
167. 后一句话是他刚才在杂志上看见的，他很自然地把它说了出来。(1 2)
168. 觉慧看了觉新一眼，又埋下头把书页往前面翻过去，翻到有折痕的一页，便高声念着下面的话，好像在答复觉新一般：(1 2)
169. “难道你没有幸福，就连别人说把幸福争过来的话也不敢听吗？”(1 2)
170. 我是自愿地把担子从爹的肩膀上接过来的。(1 2)
171. 新儿，你母亲临死的时候，把你们弟兄姐妹六个人交给我，现在少了一个，我怎样对得起你母亲？(1 2)
172. 我的病恐怕不会好了，我把继母同弟妹交给你，你好好地替我看顾他们。(1 2)
173. 过后爷爷又把我叫到他的房里，问我是怎么一回事。(1 2)
174. 这天晚上深夜爹把我叫到床前去笔记遗嘱，妈拿烛台，你们大姐端墨盒。(1 2)
175. 然而就是这样我也对不起爹，因为我又把你们大姐失掉了……(1 2)
176. 觉新把脸从桌上抬起来，揩了泪痕，又继续说：(1 2)
177. 妈要我发狠读书，给她争一口气，她又含着眼泪把她嫁到我们家来做媳妇所受的气一一告诉我。(1 2)
178. 我那时候或者陪着她流眼泪，或者把她逗笑了才罢。(1 2)
179. 妈才渐渐地把愁肠放开。(1 2)
180. 我们临行时妈又含着眼泪把爹的痛苦一一告诉我。(1 2)
181. 回省不到两个月就把二弟你生出来。(1 2)(1 2)
182. 为了妈我就是牺牲一切，就是把我的前程完全牺牲，我也甘愿。
183. 把脸藏在杂志后面的觉民说。(1 2)
184. 觉民还把藤椅让给他坐。(1 2)
185. 他果然把你的事忘记了。(1 2)
186. 事情一过，他把什么都忘记了。(1 2)

187. 在路上觉慧很兴奋。他把过去的坟墓又深深地封闭了。(1 2)
188. 我要给自己把幸福争过来。(1 2)
189. 各种颜色的灯光，不仅把壁上的画屏和神龛上穿戴清代朝服的高家历代祖先的画像照得非常明亮，连方块砖铺砌的土地的接痕也看得很清楚。(1 3)
190. 所以叫觉新夫妇把海臣也带上桌子来，就让他坐在瑞珏的怀里随便吃一点菜，坐一些时候。(1 3)
191. 他举起酒杯，把杯里的余酒喝完。(1 3)
192. 老太爷看见眼前许多兴奋的发红的脸，听见擗拳行令的欢笑声，心里更快活，又把刚才斟满的一杯酒端起，微微呷了一口。(1 3)
193. 他这样想着，不觉得得意地微笑了，又喝了一大口酒，便把酒杯放下说：(1 3)
194. 觉新的妻子李瑞珏笑着说，她已经把海臣放下去叫何嫂带到外面去了。(1 3)
195. 坐在瑞珏的斜对面的觉慧便站起来把盆子往她面前一推，笑着说：(1 3)
196. 瑞珏看见一桌人的目光都集中在她的脸上，不觉微微红了脸，把盆子向觉慧面前一推说：(1 3)
197. 我房里有筴。喊鸣凤把筴筒拿来罢，(1 3)
198. 这时觉慧把一根筷子落在地上，袁成连忙拾起揩干净送来。(1 3)
199. 觉英端起杯子把里面的余酒吃光了，冲口说出一句“感时花溅泪”。(1 3)
200. “卢俊义不会吃酒，”琴正喝茶，连忙把一口茶吐在地上笑答道。(1 3)
201. 本来觉民、觉慧、淑英、淑华几个人曾经怂恿他们的母亲把琴留在这里过新年，但是张太太说家里有事情，终于把琴带回去了。(1 3)
202. 本来觉民、觉慧、淑英、淑华几个人曾经怂恿他们的母亲把琴留在这里过新年，但是张太太说家里有事情，终于把琴带回去了。(1 3)
203. 你以为你这样做，你就可以把社会的面目改变吗？你以为你这样做，你就可以使那个小孩一生免掉冻饿吗？(1 3)
204. 早晨，觉慧醒得很迟，他睁开眼睛，阳光已经从窗户射进来，把房间照得十分明亮。(1 4)
205. 他把棉被掀开，才知道昨夜他没有脱衣服就胡乱地倒在床上睡了。(1 4)
206. 逢年过节，你也该把我们放松一点。(1 4)
207. 一道木桥把他们引到对岸。(1 4)
208. 他想把石子掷到对岸，但是石子到了湖心便落下去了。(1 4)
209. 她似招呼非招呼地点了点头，又把脸向里头看，我跟着她的脸看去，才看见大姨妈在里头。(1 4)
210. 她那双水汪汪的眼睛把我看了好一会儿。(1 4)
211. 谁知道她把头一掉，一句话也不说就走进去了，也不再回头看我一眼。(1 4)
212. 这一次的见面把过去的事情都给我唤起来了。(1 4)

213. 过了这许久，又经过了这样的变化，谁都会把过去的事忘记的。（1 4）
214. 而且梅表姐也许早就把你忘记了，（1 4）
215. 我想把我的脑筋弄得糊涂一点，所以我近来常常吃酒。（1 4）
216. 你当初为什么不反抗，不把你自己的意见说出来？（1 4）
217. 为了现实的可以改变的环境，牺牲自己一生的幸福，这样的牺牲是不必要的，对谁都没有好处，不过把旧家庭的寿命多延长几时罢了。（1 4）
218. 这个大家庭里面的一切简直是一个复杂的结，他这颗直率的、热烈的青年的心无法把它解开。（1 4）
219. 他信步走到窗前，把头伸出窗外去望，看见觉英、觉群和淑英、淑华、淑贞、淑芬几姊妹在阶上踢毽子，觉民也加入在里面踢。（1 4）
220. 谁都希望她马上踢落毽子，然而事实上她愈踢下去，毽子愈不肯离开她的脚，好像她一个人永远不会把毽子踢落了。（1 4）
221. 觉慧无意间又把眼光落在觉新的脸上，他在这张脸上寻找什么东西。（1 4）
222. 他把她的辫子捏住，却被淑芬看见了，（1 4）
223. 淑英拉过辫子把树枝拔出来丢在地上。众人高兴地笑起来。（1 4）
224. 一片鞭炮的响声把石板地也震动了，四面八方都是这同样的声音，人分辨不出它们究竟是从什么地方来的。（1 5）
225. 主持这个典礼的是克明，因为高老太爷觉得自己年纪大了，便把这些事情交给儿子去做，自己等到一切预备好了才出来给祖宗行礼，受儿孙们的拜贺。（1 5）
226. 穿着长袍马褂的克明和克安每人提了一把酒壶慢慢地把绍兴酒向小杯里斟。（1 5）
227. 觉新刚拈了香从外面把灶神接进来送回到厨房里去，然后回到堂屋里来。（1 5）
228. 几个仆人过来取走了拜垫，把红毡铺开。（1 5）
229. 她唤一声“三少爷”，便埋下头把身子弯下去，但很快地就立起来，对觉慧笑了一笑。（1 5）
230. 她说话时把眉毛紧皱着，跟从前并没有两样，不过如今显得更动人了。（1 5）
231. 她又带笑地把嘴放在梅的耳边低声说了两三句话。（1 5）
232. 她看了琴一眼，伸手把右边垂下来的发鬓挑了上去。（1 5）
233. 梅说着又把琴的手拉过来轻轻地捏住，偏了头看看琴，称赞道：（1 5）
234. 能够征服环境，就可以把幸福给自己争回来。（1 5）
235. 梅微微地笑了笑，她并不马上答话，只把那双水汪汪的眼睛望着他们。（1 5）
236. 她忽然收敛了眼光，把眼睛望着灯火，轻轻地叹了一口气，要说话，但是又忍住了，好像胸里藏着许多话却无法说出来。（1 5）
237. 即使时代怎样改变，它又如何能够把他们两个人结合在一起呢？（1 5）
238. 她说着把眼睛向桌上望了望，那几本暗黄色封面的十六开本的杂志叠在床前那张条桌上。（1 5）



239. 梅姐，你把过去的事情忘了罢。不要拿它折磨你自己。（1 5）
240. 他不把话说完就突然闭了嘴。（1 6）
241. 觉民正俯在方桌上写字，看见他进来连忙放下笔，把日记本阖上，掉头望着他笑。（1 6）
242. 觉慧从床上起来，把书放在桌上赌气般地走了出去。（1 6）
243. 觉慧站起来，跪在椅子上，把脸贴在纸窗上面，把窗纸轻轻地弄破了一块，往里面窥去。（1 6）
244. 觉慧站起来，跪在椅子上，把脸贴在纸窗上面，把窗纸轻轻地弄破了一块，往里面窥去。（1 6）
245. 她忽然叹口气，说了这句话，然后把头埋下去。俯在桌子上。（1 6）
246. 觉慧忘了自己地把手指放在窗户中间那块小玻璃上轻轻敲了几下。（1 6）
247. 于是她懒洋洋地撑着桌子立起来，让灯光把她的早熟的少女的影子投在帐子上。（1 6）
248. “快把窗帘揭开，我有话问你。”（1 6）
249. 她把那幅画着花卉的纸窗帘卷起来，（1 6）
250. 假使有一天人家当真把你选去了，又怎么办？（1 6）
251. 忽然眼里淌下泪来，她也不去揩它们，却把心一横，十分坚决地答道。（1 6）
252. 他连忙把手贴在玻璃上面，做出掩住她的嘴的样子，一面说：“我相信你，我不要你赌咒。”（1 6）
253. 说到这里她猝然放下了窗帘，任凭觉慧在外面怎样敲玻璃唤她，她也不肯把纸窗帘卷起来。（1 6）
254. 她没有听见什么声音，以为觉慧已经去了，便偷偷地把纸窗帘卷起半幅。（1 6）
255. 她看见他还立在那里，她很感动，连忙把纸窗帘放下，用手揉了揉自己的两只眼睛。（1 6）
256. “嗯，”剑云含糊地应了一声，就把头掉开了。（1 7）
257. 他郑重地把它放在写字台的抽屉里，又把抽屉锁上了。（1 7）
258. 他郑重地把它放在写字台的抽屉里，又把抽屉锁上了。（1 7）
259. 所以大家都带着好奇的眼光，把朦胧中的静僻的街道饱看了一会。（1 7）
260. 这其间他有小的忧愁，也有小的快乐。他把输掉的钱全赢回来了。（1 7）
261. 在初八日晚上，这些年轻人经过了两三天的布置以后，把长辈们都请到花园里来，说是看放烟火。（1 7）
262. 霎时间只见一片银花飞舞，把湖滨的松林也照亮了，还隐约地现出一两只小船，靠在斜对岸的湖边。（1 7）
263. 在一阵响声中，许多株银白色的花树，突然在水面上生长起来，把金色的小花向四面撒布，过了一些时候，树干渐渐缩短，而光辉也逐渐黯淡，终于消灭到没有了。（1

7)

264. 一个男性的响亮的声音响彻了整个黑夜，把刚才的余音都驱散了。(17)
265. 这声音送到楼房里，把众人从回忆中唤醒。(17)
266. 笑声在空气中互相撞击，有的碎了，碎成了一丝一丝的，再也聚不拢来，就让新的起来，追着未碎的那一个，又马上把它也撞碎了。(17)
267. 它们慢慢地移动，把水面映成了奇异的颜色，时时在变换，时时在荡漾，但是并没有声音。(17)
268. 轿夫们把花炮全搬出来，放在门房里供人们赏鉴。(18)
269. 她在讥笑克定，使他急得在天井里踱来踱去，不时把表摸出来看。他大步走出去，但是不久又走回来，并没有带来一点消息。(18)
270. “他们本来要转弯走了，还是小的拚命把他们拉来的。”(18)
271. 好，办得好！你快去把他们接进来。(18)
272. 克定把高忠夸奖了两句，便转身去邀请哥哥嫂嫂们出来看龙灯，这个好消息已经被觉英、觉群、觉世们传出去了。(18)
273. 年轻的高忠缚了一串鞭炮在长竹竿上面，手持着竹竿，自己站得远远的，站在墙边一把梯子上，把鞭炮伸到龙身上去燃放。(18)
274. 几个轿夫拿着竹筒花炮在旁边等了一些时候，便轮流地燃放起来，把花炮对着玩龙灯的人的光赤的身上射。(18)
275. 有的马上落下地来，有的却贴在人身上烧，把那几个人烧得大声叫。(18)
276. 于是他们放下手站住不动，把竹竿当手杖紧紧捏住，让轿夫们来烧，一面拚命抖动身子不让火花贴在他们的肉上。(18)
277. 大家便把花炮更逼近玩龙灯的人的身体烧，他们想把那般人烧得求饶。(18)
278. 大家便把花炮更逼近玩龙灯的人的身体烧，他们想把那般人烧得求饶。(18)」
279. 一部分的人把龙身扛在肩上往大门跑去。(18)
280. 看见人逼近，马上把花炮燃起来，向四面放射。(18)
281. 这时克定把花炮正对着另一个玩龙尾的人放，忽然瞥见玩宝的人站在旁边发抖，(18)
282. 又把花炮转过来向着他猛射。(18)
283. 这时候轿夫和仆人们已经围起来，把玩龙灯的人围在中间，用花炮拚命地烧，快要使他们求饶了。(18)
284. 克定把赏钱给了，还惋惜地说。(18)
285. 你以为一个人应该把自己的快乐建筑在别人的痛苦上面吗？(18)
286. 你以为只要出了钱就可以把别人的身体用花炮乱烧吗？(18)
287. 琴笑着说，便走过去把淑贞拉到自己的身边，又挽着她的手，同她并肩走着。(19)

288. 觉慧并不回答，默默地择了一根细小的观音竹，用力去拔它，拔不起来，便把它折断了。（19）
289. 忽然一块石子落进了水里，把那一轮明月冲散了，成了一个大圈。（19）
290. 淑华抢着回答道，便伸手到背后去把自己的辫子拉过来，一面玩弄，一面仰头望着天空的明月，放声唱起苏东坡的《水调歌头》来。（19）
291. 淑英看见觉新吹箫，就从觉民的手里把笛子夺过来说：（19）
292. 淑英又把笛横放在嘴边预备再吹，却被觉慧阻止了。（19）
293. 他们到了草地上，觉新去把拴在柳树干上的小船解了缆，又把船靠近岸边，让众人都下去，然后自己坐到船尾，把住桨慢慢地划起来。（19）
294. 他们到了草地上，觉新去把拴在柳树干上的小船解了缆，又把船靠近岸边，让众人都下去，然后自己坐到船尾，把住桨慢慢地划起来。（19）
295. 鸣凤坐在船头，她解开她带来的小藤篮，把里面的卤菜和瓜子、花生米等等取出来，又取出一瓶玫瑰酒和几个小酒杯。（19）
296. 她把这些东西一一递给淑英和淑华，由她们放在船中小圆桌上。（19）
297. 他们把天空的圆月望了好一会儿，忽然埋下头来，才看见四围的景色变了。（19）
298. 于是他停止了摇船，端起酒杯喝了一口酒，把花生米抓了几颗放在口里细嚼。（19）
299. “我看不如把船靠在钓台下面罢，我要到岸上去一趟。”（19）
300. 他说着，不等众人答话，就把船往里面靠，虽然有点吃力，但是船终于靠近了钓台。（19）
301. 他们把天空的圆月望了好一会儿，忽然埋下头来，才看见四围的景色变了。（19）
302. 于是他把停止了摇船，端起酒杯喝了一口酒，把花生米抓了几颗放在口里细嚼。（19）
303. “我看不如把船靠在钓台下面罢，我要到岸上去一趟。”（19）
304. 他说着，不等众人答话，就把船往里面靠，虽然有点吃力，但是船终于靠近了钓台。（19）
305. 觉慧还没有把话说完，就被觉民打断了。（19）
306. 众人仰起头望上面，看见觉新把头伸出来注意地听他们话，便都不作声了。（19）
307. 觉新望着天空叹息道，一个不小心把船弄得往右边一侧，甚至溅了水花上船。但是他马上又把船身稳住了。（19）
308. 觉新望着天空叹息道，一个不小心把船弄得往右边一侧，甚至溅了水花上船。但是他马上又把船身稳住了。（19）
309. 天色又开朗了，四周突然亮起来，月亮冲出了云围，把云抛在后面，直往浩大的蓝空走去。（19）
310. 月光把它们的影子投在水面上，好像在画图里一般。（19）

311. 靠外筑了一个小堤，把湖水圈了一段在里面作一个小池，堤身也有一个桥洞似的小孔，以便外面的湖水流进来。（19）
312. 她把小嘴一噘，埋下头去，默默地用手捏了捏她的微微有点酸痛的小脚，母亲的话陡然涌上心头。（19）
313. 她居然把自己的脚造成了这样的畸形的东西。（19）
314. “看你把琴姐的衣服弄脏了，”（19）
315. 众人本能地把身子往旁边侧，船身大大地动了一下。（19）
316. 寒气开始袭来，有的人便把杯中的余酒喝尽，或是把彼此的身子靠得紧紧的。（19）
317. 寒气开始袭来，有的人便把杯中的余酒喝尽，或是把彼此的身子靠得紧紧的。（19）
318. 于是觉新把船靠近了岸，依旧泊在柳树下，让众人一一上了岸，把缆拴在树上，然后跟着众人向桥头走去。（19）
319. 于是觉新把船靠近了岸，依旧泊在柳树下，让众人一一上了岸，把缆拴在树上，然后跟着众人向桥头走去。（19）
320. 觉英得意地说着，就把手里捏的一张纸递过去。（19）
321. 她无精打采地走到床前，在床沿上坐下，把那个在梦中还带微笑的海臣望了望，用手轻轻抚摩他的玫瑰色的脸颊。（20）
322. 在这一刻海臣对她是更可宝贵的了，好像有什么人就要把海臣给她夺去似的。（20）
323. 这个晚上公馆里比往常清静多了，每个人都害怕大声说话，连走路也把脚步放轻了些。（20）
324. 女眷们把紧要的东西都包扎起来，藏在地窖里面，或者藏在身边。（20）
325. 觉民把俯在桌上的头抬起来，带着苍白的脸和失神的眼睛，悄然对觉慧说。（20）
326. “轰”，一个异样的雷声把空气震动了，接着又是一片“哗啦”、“哗啦”的声音，好像无数粒铁沙从天空中撒下来，整个房屋都因此动摇了。（20）
327. 在隔壁房间里觉民把火柴擦燃，点了灯。（20）
328. 觉民把失神的眼光定在觉慧的苍白的脸上，惊讶地说：“怎么？你的脸色这样难看！”（20）
329. 据说昨天晚上周氏、淑华她们就睡在桌子下面，用棉被把四面围得紧紧的，不透一点风，以为这样便可以躲避枪弹了。（20）
330. 她们屋后的天井里落了一个炮弹把墙打坏了一个角，所以她们马上搬了出来。（20）
331. “嫂嫂现在也休息一下罢，昨晚上把嫂嫂打扰了。”（20）
332. 那个不断地在空中飞翔的死的恐怖把一切别的感觉都赶走了。（20）

333. 她正要揭门帘，却遇着鸣凤从里面跑出来，几乎把她撞倒在地上。(20)
334. 我在三小姐房里……一个大炮子落下来……把屋檐打穿了一个洞……窗子上的玻璃也震破了。(20)
335. 苏福把煤油挂灯点燃。(20)
336. 接着又来了几个仆人和女佣，他们连忙把旁边两间屋子收拾作临时住房，一间给男主人住，另一间给女主人住。(20)
337. 过了一些时候，她又把眼光移到湖边的柳树上，悲叹地说了上面的一句话。(20)
338. 我们都想几时能够把你请到这儿来大家一道玩，多好。(20)
339. 我纵然心如死灰，也难把往事轻易忘记。(20)
340. 琴吃惊地望了梅一眼，又偷偷地看一下后面的人，知道还没有人听见梅的话，便把头送过去，在梅的耳边说。(20)
341. 今天是什么风把你吹到这儿来的？真是想不到的喜事。(20)
342. 梅温和地对海臣笑了笑，俯下身子把他抱起来，抚摩着他的面颊说。(20)
343. 梅把海臣的脸靠近自己的面颊，又在他的颊上吻了几下，接连说着“真乖”，才放他下来，把他送到瑞珏的面前说。(20)
344. 梅把海臣的脸靠近自己的面颊，又在他的颊上吻了几下，接连说着“真乖”，才放他下来，把他送到瑞珏的面前说。(20)
345. 大家都觉得没有胃口，懒洋洋地端了碗胡乱吃一点，很快地就把碗放下。(21)
346. 觉新正坐在梅的斜对面，他有时偷偷地看她一两眼，有时梅也把眼光朝他这一面射来，两人的眼光不期地遇着了。(21)
347. 梅便把头埋下或掉开，心里起了一阵波动，她自己也不知道是欣慰抑或是悲哀。
348. 觉新们也把告示读了。(21)
349. 幸好附近没有人，才放了心，连忙把觉慧的袖子扯一下。(21)
350. 说了这两句简单的话，兵就把嘴闭上了。(21)
351. 他们走过一个步哨的时候，心禁不住怦怦地跳，很担心他会把他们拦住，幸而步哨把他们放过去了。(21)
352. 他们走过一个步哨的时候，心禁不住怦怦地跳，很担心他会把他们拦住，幸而步哨把他们放过去了。(21)
353. 不过这只是短时间的焦虑，因为不久她起了一副好牌，便又把那些事忘掉了。(21)
354. 她抬起头，不闪眼地把他望了一些时候，才淡淡地说。(21)
355. 梅弯着腰把手里的蝴蝶轻轻地放在草坪上，用怜惜的声音说。(21)
356. 可怜，不知道哪个把你弄成了这个样子！(21)
357. 她不回答，低下头，把身子靠在假山上。(21)
358. 他把自己的悲哀也忘记了。(21)

359. 她渐渐地止了悲，从他的手里接入手帕，自己把泪痕完全揩去，然后还给他，凄然说：（2 1）
360. 梅连忙退后一步，把身子离开觉新远一点，掉过头去看。（2 1）
361. 觉新也把头掉开看别处，口里含糊地分辩说：（2 1）
362. 她也不说什么，就带笑地把海臣送到觉新面前要他牵着，自己走到梅的身边，说。（2 1）
363. 大家把枪提着，拿着，捐着，背负着。（2 2）

## 付録 3

《人到中年》における“把”構文（“将”構文を含む）

1. 她刷完三次，十分钟过去，她把双臂浸泡在消毒酒精水桶里。(1) <sup>166)</sup>
2. 眼科主任孙逸民正在翻阅陆文婷的病历，“心肌梗塞”四个字把他吓住了。(2)
3. 傅家杰接过来，小心地绕过输氧的橡皮管，把壶嘴挨在那像两片枯叶似的唇边，一滴一滴的清水流进了这垂危病人的口中。(2)
4. 那欢乐的笑声啊，好似要把这透明的宫殿震穿！(3)
5. 幼年父亲出走，母亲在困苦中把她抚养成人。(3)
6. 接着是晚自习，然后在解剖室呆到深夜，她把青春慷慨地奉献给一堂接着一堂的课程，一次接着一次的考试。(3)
7. 小陆大夫把自己全身的精力投入了工作，兢兢业业地在医学的大山上登攀。(3)
8. 她觉得好像要发生什么事情，果然，他伸开双臂，那么有力地把她拥进自己的怀里。(4)
9. 这位年富力强、精力旺盛的教授，把培养年轻医生当做自己不容推卸的责任。(4)
10. 他认为，要把这所医院的眼科办成全国最好的眼科，必须从挑选最有前途的住院医师开始。(4)
11. 有的倒是愿意在眼科，可又把眼科看得很简单，以为这是很清闲的一科。(4)
12. 他立刻改变了主意，要把谈话认真地进行下去。(5)
13. 她记得，她在门诊护士长的台前放下了电话，把没有看完的病人交待给同诊室的姜亚芬，就向院长办公室走去了。(6)
14. 病情就是敌情，这一句话就等于把任务交给她了。(7)
15. 记起来了，是坐在一旁的秦波同志客客气气地把她拦住了。(7)
16. 当她正考虑怎么委婉答复时，她记得，就在这时，焦副部长不耐烦地把身子在沙发上挪动了一下，朝秦波那边扭过头去。(8)
17. 求爷爷，告奶奶，也要把这张状子递上去。(8)
18. 孙逸民把傅家杰拉到前边来作了介绍，赵天辉才知道他原来就是陆大夫的爱人。(9)
19. 焦副部长把头扭向他夫人这边，生气地说：(9)
20. 赵天辉把头摇了摇，叹道：(10)
21. 焦成思把手中的拐杖扬了扬，脸向着赵天辉，说道：(10)
22. 赵天辉拿起电话，他想，只要把那位大夫找来，焦副部长的夫人总该放心了吧！(10)
23. 赵天辉又把关切的目光停留在陆文婷脸上。(10)

---

<sup>166)</sup> (1) は第 1 章という意味である。

24. 她没有把替焦副部长做手术，看作是不可多得的荣誉；也没有把秦波的刁难，视为难以忍受的凌辱。(10)
25. 她没有把替焦副部长做手术，看作是不可多得的荣誉；也没有把秦波的刁难，视为难以忍受的凌辱。(10)
26. 这一嗓子把病人和大夫的目光都吸引了过去。(11)
27. 张老汉被说服了，陆文婷把他送到走廊外，转身回来时，被一个十一二岁的漂亮小女孩拦住了。(11)
28. 她必须抓紧时间，把刚才去院长办公室耽误了的时间补回来。(12)
29. “先把病人看完了，再上托儿所也行。”(12)
30. 后来，一双双病人的眼睛取代了佳佳的位置，直到把所有的病人都看完了，陆文婷才急急忙忙地赶到托儿所去。(12)
31. 陆文婷瞪了园园一眼，忙给佳佳脱了衣服，把她放在床上，替她盖上被子。(13)
32. 他整天无所事事，把全部精力和聪明才智都用在家务上了。(13)
33. 两个人把自己平日的被褥集中到一起，就开始了新的生活。(13)
34. 傅家杰屈居于床边的一叠箱子上，把一本本参考书摊在床上，研究他的金属断裂专题。(13)
35. 尽管没有地方给他们发夜班津贴，她和他天天工作到深夜，把一天变成两天，从不吝惜自己的健康和精力。(13)
36. 夏天的晚上，邻居们在院子里乘凉。香茶、团扇，徐徐的晚风，明亮的星星，有趣的新闻，海阔天空的闲扯，都不能把这对“书呆子”从闷热的小屋里吸引出来。(13)
37. 他在屋里拉起一块绿色的塑料布，把三屉桌挪到布幔后面，希望能在这瓶瓶罐罐、哭哭啼啼的世界里，为妻子另辟一块安定的绿洲，使她能像以前一样夜夜攻读。(13)
38. 但是，一个眼科大夫，不掌握各国眼科医学的新成果，怎么能开阔自己的眼界，结合自己的临床经验，做出新的贡献呢？她常常强迫自己躲在布幔后面，把自己隔离起来，直至深夜。(13)
39. 陆文婷把佳佳喜欢的小人书和积木放在小枕头边，又托付陈大妈按时给她喂药，便匆忙赶回医院。(14)
40. 姜亚芬仍是躲开陆文婷的目光，眼睛盯着地面，好像要把这地望穿。(14)
41. 我已经过了大半辈子，还能活几年？为什么要把骨灰扔进异国他乡的土壤？”(15)
42. 可是，他忽然缄口不言，仰脖把半杯剩酒一干而尽，才吐出一句话来：(15)
43. 我把丈夫打入厨房，我把孩子变成了‘拉兹’，全家都跟着我遭殃。(15)
44. 我把丈夫打入厨房，我把孩子变成了‘拉兹’，全家都跟着我遭殃。(15)
45. 这种情况下，我不进厨房谁进厨房？说来真要感谢文化革命，给了我那么多时间，也把我练出来了。(16)
46. 傅家杰把手从额上放下说，(17)



47. 都是我不好，让家务把你拖垮了，都怪我！（17）
48. 但是，在焦副部长住进医院的那天上午，她把陆文婷叫去的时候，目光却是亲切的，温和的。（18）
49. 秦波把陆文婷让到小沙发上坐下，自己也隔着茶几坐下了。（18）
50. 陆文婷只好把这黄橙橙的橘子接在手里。（18）
51. 我们把混浊的程度不同分为初期、膨胀期、成熟期、过熟期，一般认为在成熟期做手术比较好……（18）
52. 秦波把头扭向一边，有点不高兴了。（19）
53. 但她还是又把头转过来，心平气和地，甚至笑了笑说：（19）
54. 万一发生这种情况，我们可以立即把切口缝上，避免出危险。（19）
55. 焦成思把茶杯往桌上一放，掏出烟盒，想起大夫刚才的话，又装了进去，叹了口气说道：（19）
56. 她立刻把切口缝上了，避免了意外。她又把造反派赶了出去，才把手术做完了，唉！（19）
57. 她立刻把切口缝上了，避免了意外。她又把造反派赶了出去，才把手术做完了，唉！（19）
58. 她立刻把切口缝上了，避免了意外。她又把造反派赶了出去，才把手术做完了，唉！（19）
59. “你不要动！”陆文婷一边说，一边已经飞快地把切口的预置缝线结扎好了。（20）
60. 刚才，焦副部长说是那位大夫”把造反派赶出去”的。（20）
61. “还是不做了吧！就算你把我的眼睛治好了，他们还会把我整瞎的。而且，可能祸及于你。”（20）
62. “还是不做了吧！就算你把我的眼睛治好了，他们还会把我整瞎的。而且，可能祸及于你。”（20）
63. 陆文婷只好把低着的头点了点。（20）
64. “焦副部长，如果你没有什么别的情况，我们后天就把手术做了吧！”（20）
65. 他只好讪讪地把视线移开。（21）
66. 陆文婷拿出佳佳去年穿的小棉袄，把它拆开，放大，接长袖子。（21）
67. 她把棉袄铺在那张三屉桌上，为女儿过冬的棉衣絮上一层新棉花。（21）
68. 当陆文婷把絮好的棉袄撤走时，傅家杰说：（21）
69. 过一会儿，她忙忙地把没缝完的棉袄折起来，说：（21）
70. 傅家杰把台灯弯得更低些，又用一张报纸挡上，才继续工作。（21）
71. 可是，我们可以想点办法，把你的八小时变成十六小时。（22）
72. 陆文婷个子矮，每次手术都需要把凳子升高。（23）
73. 护士把手术床旁的托盘架推过来。（23）

74. 陆大夫把双手举得高高的，怕病人的手碰着自己经过消毒的手，还未答话，只听焦成思又那么激动地叫道：(23)
75. 然后，把病眼的上下眼皮分别用针穿上，拉开固定在有孔巾上。(23)
76. 当她小心翼翼地把眼球结膜剪开，再把角巩膜半切开时，在一旁的姜亚芬已把穿好线的针递了过来。(23)
77. 当她小心翼翼地把眼球结膜剪开，再把角巩膜半切开时，在一旁的姜亚芬已把穿好线的针递了过来。(23)
78. 当她小心翼翼地把眼球结膜剪开，再把角巩膜半切开时，在一旁的姜亚芬已把穿好线的针递了过来。(23)
79. 她把浑身的力气都凝聚到了手指上，扎了几下，还是扎不进去。(23)
80. 陆文婷没有答话，只把针拿起来对着灯光照看。把这半圆形像钓鱼钩似的针审视了一会儿，她回头问道：(23)
81. 陆文婷没有答话，只把针拿起来对着灯光照看。把这半圆形像钓鱼钩似的针审视了一会儿，她回头问道：(23)
82. 她的声音完全是命令式的，护士忙从消毒盒里把旧针拿了来。(24)
83. 陆文婷很快在巩膜上把预置线缝上，只等把白内障摘除后，把缝线结扎上，这手术就成功了。(24)
84. 陆文婷很快在巩膜上把预置线缝上，只等把白内障摘除后，把缝线结扎上，这手术就成功了。(24)
85. 陆文婷很快在巩膜上把预置线缝上，只等把白内障摘除后，把缝线结扎上，这手术就成功了。(24)
86. 谁知，就在她把巩膜全切开时，有孔巾下的焦成思忽然身子一动。(24)
87. 她一边说，一边两手不停地忙着，把刚缝上的预置线结扎起来。(24)
88. 陆文婷又把结扎好的线剪掉，手术从头做起。(24)
89. 当陆文婷离开手术凳，坐在小桌前开处方时，焦成思已经被挪到活动床上，护士正准备把他推走，他叫道：(24)
90. 陆文婷示意护士把孩子的手腕用床两边的带子系上。(25)
91. 她把眼闭了一下，把头晃了几晃，然后慢慢地把手伸进袖子里。(25)
92. 她把眼闭了一下，把头晃了几晃，然后慢慢地把手伸进袖子里。(25)
93. 她把眼闭了一下，把头晃了几晃，然后慢慢地把手伸进袖子里。(25)
94. 她拿起像钢笔帽口那么小的环钻，轻轻地把病人坏死的角膜取下。(26)
95. 每缝一针，她似乎都把自己浑身的力量凝聚在手指尖上，把自己满腔的热血通过那比头发丝儿还细的青线，通过那比绣花针儿还纤小的缝针，一点一滴注入到病人的眼中。(26)
96. 每缝一针，她似乎都把自己浑身的力量凝聚在手指尖上，把自己满腔的热血通过那

- 比头发丝儿还细的青线，通过那比绣花针儿还纤小的缝针，一点一滴注入到病人的眼中。(26)
97. 旁边的姜亚芬抬起眼睛，感动地看了一眼自己的老同学，没有说话，把一叠厚厚的长方形纱布盖在病人的眼上。(27)
98. 根据昨天晚上陆文婷的建议，傅家杰今天一早就把被褥打成包，捆在车后座上，带到研究所，准备开始新的生活。(27)
99. 陆文婷把胳膊搭在傅家杰肩上，一步一步走回家里。(27)
100. 他又请总机把电话转到行政处。(28)
101. 可是，当他听说家里有人得了急病，需要立刻送医院时，二话没说，就把手一挥，招呼傅家杰上车。(28)
102. 等傅家杰搀着陆文婷一步一挨地走到车边时，司机忙伸出大手来把陆文婷扶进驾驶室，一直小心地把车开到医院的急诊室。(28)
103. 等傅家杰搀着陆文婷一步一挨地走到车边时，司机忙伸出大手来把陆文婷扶进驾驶室，一直小心地把车开到医院的急诊室。(28)
104. 竟使她长久以来分辨不清，是当真入梦，还是把梦当真。(28)
105. 他会着凉的，应该把他叫醒。(28)
106. 流水把她席卷而去。(29)
107. 一个浪头把她打下去，她挣扎出水面，园园已经看不见了，只有他的声音从远处传来：(29)
108. 我要把三屉桌让给你，给你创造条件，写完你的论文。(29)
109. 护士飞快地把针头挑进病人的静脉。(30)
110. 孙主任，听您的，我们就不进去。可，我有句话，今儿不管您多忙，您得听我把话说完。(30)
111. 您把她救好了，她能救好些人哪！(31)
112. 张老汉似乎才把心放下，又叫过孙子来，摸着他的胳膊上的布书包，对孙逸民说：(31)
113. 孙逸民无法，只好拿着鸡蛋，直把这一老一小送下楼去。(31)
114. 要不是老焦把她认出来，我们都还蒙在鼓里呢！(31)
115. 他连连唤她，她只轻轻晃动了一下手掌，好像不愿让人惊动，好像她在那种令人担心的半麻痹状态中感到舒服，决心把自己永远禁锢在那里面。(32)
116. 又不知过了多久，忽然，一阵撕裂人心的哭叫声，震动着每一个病房，也把傅家杰从麻木的疲惫状态中惊醒。(32)
117. 他把汗湿的手掌紧紧捏成拳头，仍然克制不住周身簌簌地颤抖。(32)
118. “妈，妈妈呀！你醒醒，醒醒呀！他们要把你推走了！”(32)
119. “是我没有把你照顾好……”(33)
120. 黄昏时，陆文婷好像又好了一些，她把头转向傅家杰，双唇动了动，努力要说什么

的样子。(33)

121. 傅家杰吞泣着，他透过泪水模糊的眼望着妻子，希望她把想说的话都说出来。(33)

122. 弯下腰一看标价，把我们俩都吓跑了。(33)

123. 一想到足踏在故国土地上只有六十分钟了，我忍不住泪水，我哭了，把信纸打湿了。

(34)

124. 但是昨天晚上，他把最后一件衣服塞进箱子里去，(34)

125. 用造反派的语言来说，则是“工人农民的血汗把你们养大了，你们不应该背叛”！

(34)

126. 我走了，我把心留在你身边，留在我亲爱的祖国。(34)

## 付録 4

『語言自邇集』初版本（1867年）における“把”構文（“將”構文を含む）  
散語 40 章(III)

1. 你把那一本書拏來給我。[3:37]<sup>167)</sup>
2. 快把鋪蓋鋪上。[3:38]
3. 一個是空的，一個是滿的，你把那空的倒滿了水。[3:39]
4. 倒茶是叫人把茶倒在碗裏頭。[3:39]
5. 你快把這個水倒在鍋裏温一温。[3:42]
6. 你會針線不會，我不會，就叫一個裁縫來把我那一件汗衫補了。[3:43]
7. 我借錢，是我把人家的錢拏來我使。[3:44]
8. 我借給人錢，是把我的錢拏給人使。[3:44]
9. 花費是把錢使去了。[3:44]
10. 包兒是把東西用甚麼包起來。[3:47]
11. 他是拏毡子把那小箱子包起來。[3:47]
12. 他叫跟班的把箱子裝在車上。[3:47]
13. 那女人的指甲長，把他的胳膊抓破了。[3:48]
14. 拽是說人拏手用力的拉，把那門拽住了。[3:48]
15. 河北的官民會齊了追趕，把賊全殺退了。[3:50]
16. 不教人知道是偷，把人家的東西硬拏了去就是槍奪，不分夜裏白日都說得。[3:52]
17. 那貌陋的生了氣，把茶碗摔（zuo2）碎了。[3:54]
18. 他倒在地下把胳膊擱(chuo4)了。[3:54]
19. 地方官趕著賞了些米，把要逃的百姓都留住了。[3:55]
20. 要把溼衣裳弄乾了，得鋪在日頭地裏曬一曬，曬乾了就疊起來罷。[3:57]
21. 我們十個人從前定得湊錢做買賣，後來落下了兩個人，還有把本錢取回去的。[3:60]
22. 我瞧這個，我也不肯再把錢送了去了。[3:60]
23. 叫你把箱子挪開了，怎麼挪那麼遠。[3:60]
24. 賊把男女老少都殺了。[3:62]
25. 近來的官很好，把從前的事情都反過來，把那賊匪全都平了。[3:63]
26. 近來的官很好，把從前的事情都反過來，把那賊匪全都平了。[3:63]
27. 拏條帚來，把地掃乾淨了。[3:66]
28. 把抽屜關上。[3:67]

<sup>167)</sup> [3:37] はPARTⅢの37頁という意味である。

29. 文書發了，把存稿存著，那叫陳案。[3:69]  
30. 有個人放槍，把他那小孩子打傷了很重。[3:71]

#### 問答十章(IV)

31. 車價還容易，把他的工錢折給你罷了。[4:108]  
32. 有裝柴火的艇，他把煙下在裏頭，偷着出口。[4:97]  
33. 抓住了就把這個貨封了。[4:97]  
34. 那船始終沒到天津，走到山東海面上，叫海賊把船扣住了。[4:95]  
35. 官既知道這件事，細究個水落石出、把從重的罰了，還把他的功名革了。[4:94]  
36. 官既知道這件事，細究個水落石出、把從重的罰了，還把他的功名革了。[4:94]  
37. 後兒他來了你可以把我起先說的那話告訴他。[4:93]  
38. 若是簡直告訴他不肯相幫，必得把所以然的話細說明白了，那更不必了。[4:92]  
39. 他從車上跳下來的時候兒，把腿扭了一下兒。[4:89]  
40. 他叫我們把畫兒送到府上就是了，過兩天他親自還來呢。[4:89]  
41. 我早已把部首的字分作三層。[4:80]  
42. 定過這三層之後，就把那話裏頭可用的部首作成一章字眼兒，教學生學習。[4:79]  
43. 還有一章，是把所有的部首按義分類、是為學生學得快熟的時候兒，隨時看了，可以提補他們的意思。[4:78]  
44. 我當初的主意，是把數目、你我、房屋、傢伙、動作等類的字各歸一張。[4:78]  
45. 那些類裏頭，竟用本類的字不能成話，總得把外字湊上纔行。[4:78]  
46. 不錯，都是話裏常用的字弄成那些散話章，把這些京音都羅織在題目字裏。[4:76]  
47. 那是彼此兩國的口音有好些不同的，我把這京音編在散話裏頭，為得是學生看過這些就可以練習口音。[4:76]  
48. 先把這些書做成了。[4:75]  
49. 不錯，是因為這個，我所以把這些個淺近的給先生看，也不怕貽笑大方。[3:74]

#### 續散語十八章(V)

50. 把孩子抱進去。[5:113]  
51. 把這蛋一個個兒拿出來。[5:114]  
52. 把車拉後些兒。[5:116]  
53. 把這一邊兒朝上擎著。[5:118]  
54. 把這個字兒繙譯出來。[5:119]  
55. 把事情的情形告訴我。[5:119]  
56. 把刀插在鞘子裏去。[5:124]  
57. 把衣裳疊舒展了。[5:125]

58. 把燈撲滅了。[5:128]
59. 把肉燉了個稀爛噴香。[5:128]
- 談論篇百章（VI）
60. 耳朵雖然聽了，並不放在心上，太皮臉了罷，把我說的苦口良言，全當成了耳傍風咯。  
[6:210]
61. 等他回來的時候兒，把他捆上，重重兒的打一頓纔好。[6:207]
62. 前手略有一點兒定不住，把這幾處兒毛病兒若改了，不拘到那兒去射，一定出衆。  
[6:206]
63. 昨兒揀選的，把我擬了正了。[6:205]
64. 嚇了一大跳，連忙使鋤，把蛇砍成兩截兒就追趕他們倆，嚷着說，我和你們有甚麼讎  
啊。[6:200]
65. 把一條兩頭蛇告訴我說是金元寶，差點兒沒要了我的命。[6:200]
66. 若鬧出一件事來，把臉放在那兒啊。[6:198]
67. 就在他們隔壁兒小鋪兒裏，借了個筆硯，把我瞧他去的話寫了個字兒留下了。[6:197]
68. 索性把實在光景告訴人家，他也不好歇了心，另外打算哪。[6:195]
69. 我若不說你，我又忍不住，若是把喫不了的飯，給家下人們喫，那不好麼。[6:193]
70. 人生百歲，不過一眨眼兒的光景，把銀子錢結結實實的收着作甚麼。[6:192]
71. 這猴兒從那兒來，你們別把他看輕了。[6:191]
72. 我那朋友就猛然起來，那着把腰刀，把他斫（zhuo2）了一下兒，那個東西哎呀了一  
聲，倒在地下。[6:186]
73. 咱們進去略歇一歇兒，把帶着的果子菜放下。[6:186]
74. 我把這個打聽的實話告訴他就完了，買不買由他罷。[6:185]
75. 前兒我也到了那兒，把我的八字兒叫他瞧了瞧。[6:183]
76. 把咱們過去的事，倒像誰告訴他的，算得極真，說得準對。[6:183]
77. 我慢慢兒的捻手捻腳兒的走到跟前兒，隔着窗戶紙兒一抓，把窗戶抓了個大窟窿，恰  
好抓住了，一看，是個家雀兒。[6:182]
78. 我若是氣上來，真得把他打死了纔解恨，過了氣兒又一想，可怎麼樣呢。[6:181]
79. 今兒若不把這個該殺的痛痛快快的責罰他一頓，我就起個誓。[6:180]
80. 幸而昨兒把所喫所喝的全吐了，不然，今兒也就扎掙不住了。[6:178]
81. 我想是停住食了，就服了一劑打藥，把內裏所有好啊歹的東西，都打下來了，這心裏  
纔覺着鬆快些兒。[6:176]
82. 他睜開眼瞧見我把我的手緊緊的摺（zuan4）住說，哎，我的兄台，這是我的罪呀。  
[6:175]
83. 都是爲你的事情來的，你只管這麼怒氣沖沖的，倒是要把誰攆出去的似的，這些人怎  
麼好意思坐着呢。[6:172]

84. 這不是咯，到底把臥着的老虎哄起來了。[6:171]
85. 撒謊作甚麼，儻若把人家的事情耽誤了，倒像你有心害他似的。[6:168]
86. 預先拏話勾引你，把你的主意套了去。然後遠遠兒的觀望看，瞅你的空子。[6:168]
87. 我的地方兒啊，若是把徹底子的主意告訴他，如何使得呢，你這麼怪我，我不委屈麼。[6:168]
88. 可巧有來了，一個親戚把話打住了。[6:167]
89. 你就從頭至尾的一一的分解開了，怕他能殼把你怎麼樣，怕殺呀，或是怕喫了你呢。  
[6:166]
90. 兄台，你別生氣，我把這個酒鬼帶在僻靜的地方兒指着臉兒罵他一頓，給你出出氣。[6:164]
91. 坏了腸子咯，把我輕慢得了不得，我和你說話，都不配麼。[6:164]
92. 動不動兒的就拏巧話兒譏誚我，把自己当成甚麼咯。[6:164]
93. 你太把我看輕咯，實在不知道你仗着甚麼。[6:163]
94. 你把我這句話你擱在心上，他原是個無事生事的混帳行子啊。[6:163]
95. 把這兒的事情傳在那兒，把那兒的信兒告訴這兒，叫兩下裏成讎的時候兒，他可從中作好人兒。[6:163]
96. 把那兒的信兒告訴這兒，叫兩下裏成讎的時候兒，他可從中作好人兒。[6:163]
97. 他看見，連理也沒理，把臉往那們一扭，望着天就过去了。[6:162]
98. 咱們得了甚麼便宜了麼，把好好兒的事情倒弄壞了，全都是你呀。[6:161]
99. 他若有求煩人的事情，別人說甚麼話，他就照樣兒依着行，他的事情一完，把頭一轉是人全不認得。[6:160]
100. 我說我們有事，明兒再說罷，這纔把他的話攔住了，不然早來都坐煩了，[6:156]
101. 有片(繁体)的白肉就得了，又要這麼許多的菜蔬作甚麼，把我們當客待麼。[6:156]
102. 老弟請看飯去，把現成兒的先拏了來。[6:155]
103. 他那個東西，不但把些個陳穀(qiao4)子爛芝麻，人家講究餓了的事情儘(jin4)自說，聽得人家的腦袋都疼了。[6:151]
104. 我上了台階兒，悄悄的把窗戶紙兒舔破了，從窗戶眼兒裡往裡一瞧，看見這個給那個斟酒，那個給這個回敬，正攪在一處兒喫喝熱鬧呢。[6:147]
105. 把他的事情明明白白兒的告訴了那個朋友咯。[6:146]
106. 我把咱們商量話告訴了他一遍，他倒沉下臉來，說我說的話是胡說。[6:146]
107. 自己眼瞅着孩子們，原不過盼着能殼配個好對兒，纔把苦拔苦的心腸也就完了。雖是這麼說，我還有長輩兒沒有瞧見令郎呢。[6:145]
108. 再者來的太太們把我們女孩兒也瞧瞧。[6:145]
109. 是啊，老爺說的很有理，就請通知裡頭太太們把小兒帶進去，給太太們瞧瞧，彼此都合了意的時候兒，再磕頭也不遲啊。[6:144]



110. 若把這個話告訴別人兒說，好像是撒謊的似的。[3:141]
111. 翻來覆去的過了亮鐘，並沒有晒，把眼睛強閉着又忍了一會兒。剛剛兒的恍恍惚惚的晒上來咯。[6:136]
112. 正似睡不睡的，忽然從西北上，就像山崩地裂的是一個樣，响了一聲，把我陡然間嚇醒了。[6:136]
113. 好冷啊，睡夢中把我凍醒了。[6:135]
114. 酒菜已經預備齊咯，端上來慢慢兒的喝着酒，把簾子高高兒的捲起來。[6:135]
115. 真是玷辱了滿洲咯，與其把有用的心思費在這沒用的地方兒，何不讀書呢。[6:132]
116. 正經官場中，能穀把彈琵琶絃子算得本事麼。[6:132]

言語例畧第一段（Ⅷ）

117. 這些筆畫各有本音，可以把數筆連在一塊兒。[8:288]
118. 那有二十多個筆畫，把那筆畫連成字，也不用很多的工夫，就可以知道那個理。[8:287]
119. 看書的時候兒，未免有那單字的難處，等到把單字連上成文，那作文的難就比單字更甚萬分。[8:287]
120. 又有本名目剛先提過，按着說的話，可以把陪伴字伴為替換之用。[8:282]
121. 總之細察那陪伴字的實用，像是把總類專項分晰辯明的意思，即如皇天之天，后土之土。是有類無項的名目。[8:282]
122. 要數出每類多少項，就把那陪伴字當作細目為方便。如今把那些陪伴的字眼兒連各司的名目，一併開列於左為學話的便用。[8:282]
123. 要數出每類多少項，就把那陪伴字當作細目為方便。如今把那些陪伴的字眼兒連各司的名目，一併開列於左為學話的便用。[8:282]
124. 若是把好些味藥要配丸藥，那稱為一料藥。[8:281]
125. 到了要說名目的數兒，有把數目字加上頭的，有先提出名目後加數目字的。[8:271]
126. 他把那本書丟了，丟得是誰的書，是我的那本書。[8:270]
127. 我必得辦甚麼，我不是叫你把那邊所有的書都拏過來麼。原是還有我沒拏過來的麼。[8:266]
128. 讓我把兩國隨用那活字，有相對有相反的地方兒，勉強做個榜樣。[8:262]
129. 那行的受的可以緩商，先把那英文使用活字，各有分定六個式樣說一說。[8:262]
130. 我是寫信給京城裡叫他們把我那些書都從船上寄了來，[8:260]
131. 因為這個挨打很利害，就把他辭了。[8:257]
132. 他回鄉去道兒上又碰見賊，把他擄（lu3）到山中。[8:257]
133. 還受了傷很重，不是有車從那兒過，有人把他扶起來。[8:257]
134. 勇從左邊擁來了，要搶車，把車擠得橫躺（繁体）下，倆人都吊下來了。[8:253]

135. 是來了甚麼救星呢，是這麼着，勇正把車裡的箱子拉出來的時候兒，他們的那些跟人騎着牲口趕了來了。[8:253]
136. 我留下話，日落之前我再來，他們把一根木頭橫在道兒上絆了我一個勛斗(jin4dou3)。[8:250]
137. 那上水的小船兒都是頂水拉着，把那馬從馬圈(juan4)裡拉了來。[8:250]
138. 他的官都快陞(sheng1)了，因為不要緊的事把他革了。[8:248]
139. 我去找木匠來把他打開。[8:291]
140. 啊！是這麼着，就是明天可以把那後頭的糊上，前頭不用糊。[8:292]
141. 那擾亂地方，是匪類把某處百姓，不是殺就是燒。[8:291]

## 付録 5

『北京官話伊蘇普喻言』(1878年)における“把”構文(“將”構文を含む)

1. 說：“我來救你罷。”就把長嘴，伸進狼的喉嚨裏去，把那骨頭拔出來了。(3)<sup>168)</sup>
2. 說：“我來救你罷。”就把長嘴，伸進狼的喉嚨裏去，把那骨頭拔出來了。(3)
3. 你這不知恩義的，纔剛你不是把腦袋送到我嘴裏。那一個當兒，我沒咬下來，那就是你萬幸賺下的性命了。(3)
4. 把自己的崽子，並皂鷓雛兒，全都燒死，立時就報仇了。(9)
5. 狗說：“老爺恕我年老罷，並不是任意把豬放跑。都因為氣力衰的緣故，別嗔怒。今兒這個過失，請千萬念當初的功勞罷。”(12)
6. 一天，馬對他說：“您這麼樣兒的要我好看，來把刷洗的事簡一簡，添足了喫的罷。”(13)
7. 那老兒很生氣，把現放着的斧子，拏起來，一下兒就砸成肉餅兒了。(14)
8. 一天，一同起身，一路蝦蟆顯出極親切的樣子，說：“怕朋友走差了道兒，拏繩兒把耗子的前腿兒，拴在自己的後腿兒上，帶着他跳走。”(15)
9. 浮到水中間兒的時候兒，蝦蟆猛然顯出本心來，要把耗子拽到水裏去，急忙的往水底下一扎。(15)
10. 盤旋下來，把河心撲張的耗子抓着，一翅兒飛起去了。蝦蟆也隨着懸到空中，一同遭害了。(15)
11. 樵夫把手指頭攔在嘴唇兒上哈一哈。(17)
12. 就望着水影兒一咬，倒把現在還叨着的肉，就沈了水底。(18)
13. 打算怎麼能把他到手，就先編出話來，跑到羊的跟前兒，(19)
14. 這個笨東西，你把我所喝的水，都給弄溷了。(19)
15. 說完，就跳在羊羔的身上，把他撕了個粉碎，受用了。(19)
16. 一天，人熊把熊肯敬重人的話，對狐狸誇着說。(22)
17. “要是你們平常不喫活人，我也就把你的話當做真的了。”(22)
18. 獅子就伸出爪來，把正驚顫的耗子搵住，要壓扁了他。(24)
19. 急忙的跑到那兒，把繞在獅子身上的繩子啃折了，一點兒事沒費，就救出來了。(24)
20. 說着，將要走，正好那條狗跑了來，就把他咬死了。(25)
21. 來回間走，不理會，把一堆小蝦蟆兒踹扁了。(26)
22. 娘啊，是一個四條腿的牲口，他把大夥兒都踹扁了。(26)
23. 說着，就把肚子噉了一噉，問小蝦蟆說：(26)

<sup>168)</sup> (3)は第49話という意味である。用例の右端の数字は全て『北京官話伊蘇普喻言』中の話の番号を示す。

24. 就儘着力兒的漲氣，把肚子崩破了就死了。(26)
25. 眼看着把好幾隻羊，叫狼喫的一隻也沒剩下。(30)
26. 說着，把手往房子犄角兒上一指。(32)
27. 然而要把缸或弄倒了，或弄破了，又沒那麼大勁兒，不知怎麼辦纔是。(33)
28. 把傍邊兒的小石頭子兒，一塊兒一塊兒的叨起來，放在缸裡頭。(33)
29. 把瞎了的那一隻眼，向着海，把那隻好眼朝着旱地兒。(34)
30. 把瞎了的那一隻眼，向着海，把那隻好眼朝着旱地兒。(34)
31. 我們這樣沒晝沒夜的操勞，不斷的把喫食饋送他。(35)
32. 從此腿，就不往飯卓兒那兒走，手就不把喫的往嘴上送。(35)
33. 尋常把那個，釀成極美的津液，送到造血廠，就成了到如今養活你的血了。(35)
34. 獅子很不如意，一句話沒說，把驢撕扯了。(37)
35. 狐狸領命，把那東西仍歸到一塊兒，就中剔出一點兒來，做為自己當得的，下剩通通給獅子送過去。(37)
36. 許多的家人跑了來，就把鹿拏住了。(38)
37. 請大王肯把牙齒拔了去，指甲剪下來，打扮得斯文些兒，自然的，小女也就愛慕大王，纔是我們的女婿呢。(42)
38. 已經沒了護身的東西，毫無可怕，樵夫就壯起膽來，拏了一根秤桿子，把那強逼為婚的，打出去了。(42)
39. 自然而然的把雨衣脫下來了，所以太陽贏了。(43)
40. 有一個莊稼人，臨死的時候兒，把兒子們叫到跟前，給他們留遺言，(44)
41. 於是他的兒子們，先把他發送完了。(44)
42. “許是父親把金子埋在那園子裡了罷。”(44)
43. 就各自拏了鍬鋤，天天兒把葡萄地，從頭兒到了兒刨挖，把草根兒，都抖擻着瞧了，並沒見有甚麼。(44)
44. 就各自拏了鍬鋤，天天兒把葡萄地，從頭兒到了兒刨挖，把草根兒，都抖擻着瞧了，並沒見有甚麼。(44)
45. 他求告的很懇切，衆樹都答應了，把極下等的一棵柺樹，給他。(45)
46. 咱們不是了，可憐那柔和的柺樹，我們若不把他給樵夫，我們必能延壽啊。(45)
47. 有時候兒，把他擱在兜裏，極其愛喜。(46)
48. 各人手裏都掄着棍子，救出主人來，把驢打躺下來，打個半死兒。(46)
49. 到底因為你家有那叫做狗的奸壞東西，見着我們，又咬又罵，來不來的就闖起大事來。求把那狗給快快兒的趕開。(47)
50. 羊不理會甚麼，反以狼的話有理，就把狗掏開。(47)
51. 他是討厭的東西，就把他的耳朵給去短了。(49)
52. 太打筭多得的，必致把已然微得的失去。(49)

53. 你別竟瞎求我了，你可以先把肩膀兒，扛住車尾兒，用手儘力兒的推車軚轆罷。(51)
54. 請把我放回河裏去，到我長大了可以着喫，必定上這兒來，又要屬您的手啊。(54)
55. 一天，把兒子們，都叫到跟前兒，吩咐拏一捆兒劈柴來。(57)
56. 小弟兄們，就輪流着用手用腳，折也折不了，於是他父親把那捆兒拆散了，給他們每人一根兒，(57)
57. 若不聽媽的話，把你扔給狼喫去。(59)
58. 若是有人有狼喫你來，媽給你把他打死啊。(59)
59. 這時候兒，一個江豬，看見了猴兒在水面上一冒一冒的冲着走，當是一個人，要救他性命，就把他馱在背上，望海岸上浮云，浮到阿貼鑷（希臘地名）海口，比裂斯的對面。(60)
60. 正說完了，一陣風颼颼的颼進來，把燈吹滅了。(63)
61. 山神爺啊，土地爺啊，叫我脫了這步災難，若能脫開，我必定把那隻牛，獻給您您。(64)
62. 龍王爺誇獎他正直，就把那鐵斧子，加上金銀的兩把，全都給他了。(66)
63. 回到村兒裏，就把一五一十的話，都說給他的夥伴兒們聽。(66)
64. 第二天就找到那個地方，假粧伐樹，把斧子扔在水裏頭。(66)
65. 剛剛兒的要奪，龍王爺發了大怒，嫌他的心腸兒邪曲，不但沒把金斧子給他，連他所扔的斧子，也沒還給他。(66)
66. 獅子自己作主，把那鹿擡為三份兒，(68)
67. 這一個太陽，尚且把水坑子，旱的難當，若再添上小太陽兒，咱們更不知道該怎麼樣了。(71)
68. 一個小學生兒，生來手不穩，把同伴兒的紙筆等類，累次偷回家去。(72)
69. 說着，把耳躲就送到他的嘴邊兒上，他兒子只說了一聲“可恨哪”，就把他母親的耳躲咬下來了。(72)
70. 說着，把耳躲就送到他的嘴邊兒上，他兒子只說了一聲“可恨哪”，就把他母親的耳躲咬下來了。(72)
71. 故此想怎麼能把耗子誑到搆的着的地方纔好。(73)
72. 就把身子鑽在口袋裏，露着腦袋和爪子，粧作死貓吊着的樣兒。(73)
73. 說着，就把他腦袋給咬下來了，次又叫過狼來，(74)
74. 說着，把他的身子擡碎了，就又叫過狐狸來，(74)
75. 他想但是一天一個，利息來的太慢，不如把寶貝一塊兒得着，就把鴨子宰了，把膛裏一查看，並不和平常的鴨子兩樣。(79)
76. 他想但是一天一個，利息來的太慢，不如把寶貝一塊兒的着，就把鴨子宰了，把膛裏一查看，並不和平常的鴨子兩樣。(79)
77. 他想但是一天一個，利息來的太慢，不如把寶貝一塊兒得着，就把鴨子宰了，把膛裏

- 一查看，並不和平常的鴨子兩樣。(79)
78. 日進分文，就應當知足，若要妄貪，必要把資本，也賠在裏頭啊。(79)
79. 光把一根圓柱子，從天上扔下去，那砸水起浪的響聲兒很大。(81)
80. 打個澄兒，有一個先鋒蝦蟆，把腦袋出水面來，看看情形，敢情是落下一根柱子。(81)
81. 決不可把天賜的福分，還覺不足，妄求細事啊。(81)
82. 太歲說：“可惡的東西。”就把他送到車廡子去。(82)
83. 太歲越發惱了，這回把他送到皮局子去。(82)
84. 媽呀，不論甚麼地方，把我們搬開罷。(84)
85. 過了不大的工夫，母白翎回來，小白翎兒們驚驚怕怕的，把纔所聽的話，一一告訴他。  
(84)
86. 然而飛禽合力的轉過來防戰，遂把走獸打敗了。(86)
87. 故從此以後，他或在房簷兒的犄角兒上，或在腌臢的窟窿裡隱身，惟雀迷眼的時候兒纔出來，飛飛，正是把自己的道路弄窄了。(86)
88. 然而放羊的尋常還是不敢疏忽，把他當作仇敵，只管看守。(87)
89. 一天，放羊的有一件不得不往集上去的事，把走後所有的事，全託付了狼，就走了。  
(87)
90. 唉，我是個傻子啊，你瞧把羊託付狼的這麼糊塗。(87)
91. 說着，有四五個人把他們倆圍住了，李四驚慌着說。(88)
92. 正在那兒受罪，趕羊的遠遠兒看見，就跑來拏住他了，把兩翅膀兒剪了去。(91)
93. 大王，你肯饒我，我把那驢歸給您納。(94)
94. 獅子答應了，於是狐狸把驢誑到難逃跑的地方。(94)
95. 獅子料着驢橫豎跑不開了，就先捉上狐狸，究竟把兩個牲口都喫了。(94)
96. 天上的主宰，那兒把賣朋友不義的東西，置而不問呢。(94)
97. 於是把所有的家當兒，賣了個精光，找了一塊地，私下裏挖了一個小深坑兒，把那銀子，偷偷兒的藏起來了。(97)
98. 於是把所有的家當兒，賣了個精光，找了一塊地，私下裏挖了一個小深坑兒，把那銀子，偷偷兒的藏起來了。(97)
99. 一天，尾着他，見他照常的看了看，回去了，就隨着尾兒，把那銀子拏出來，偷着跑了。(97)
100. 一天，倆人商量着，把公雞勒死了假裝作不知道。(98)
101. 一個狐狸，在樹蔭涼兒裡，看定了，一直的跑過來，把鹿屍首搶了跑了。(99)
102. 獅子躺在那兒不動，把他們誘着害，誑着喫，不斷的受用好東西，所以一天比一天的見臃，一日加一日的見好。(100)
103. 有一個從外國做客旅回來的人，把在外國各處兒所用的本事，告訴人說。(101)
104. 可不是麼，但若這是真的，請把這地方兒，當作羅得斯，跳給我們瞧瞧罷。(101)

105. 與其把人不知道的事情誇嘴，言不如行，莫若做出實事來給人瞧。(101)
106. 把自己用不着的東西，送給人的，得的人，也不必十分道謝。(102)
107. 一個小孩子，把手伸在一個裝無花果和榛子瓢兒的罐子裡，要可着手抓一把出來。  
(103)
108. 然而他又不肯把搭着的放下，必要把手掣出來，在那兒哭喊。(103)
109. 然而他又不肯把搭着的放下，必要把手掣出來，在那兒哭喊。(103)
110. 不要把許多的利息，一時想得着，總要一點兒一點兒的勻幾次得着，纔是。(103)
111. 在左近山上住的獅子，想要把他們當糧食用。(106)
112. 求你別把這個事情，告訴東家。(107)
113. 忽然想了一個齷刻念頭，打算把待客的東西裁點兒，好做自己喫的，就竟把湯盛在淺盤子裡，讓他用。(109)
114. 忽然想了一個齷刻念頭，打算把待客的東西裁點兒，好做自己喫的，就竟把湯盛在淺盤子裡，讓他用。(109)
115. 就把長嘴兒，伸在罈子裡頭，狼餐虎咽的，喫給狐狸瞧。(109)
116. 說着把僱驢的推開，那年輕的人，很不答應，動了很大的氣，疊着勁兒說：(111)
117. 沒有思慮的人，把趁着鄰舍有災害，算計人家的事，想是好事，實在是淺小的見識。  
(112)
118. 就把行李，全都叫驢馱着走。(114)
119. 這麼，主人從後頭趕來，把驢馱的東西卸下來，改了給馬馱上，並且把驢的屍首也給馬馱上了。(114)
120. 這麼，主人從後頭趕來，把驢馱的東西卸下來，改了給馬馱上，並且把驢的屍首也給馬馱上了。(114)
121. 過於把事情推諉別人的，報應必要來到，終久必落得有分外的是幹。(114)
122. 所以那個男人，到年少的女人那兒去，就被他給把白頭髮，白鬍子拔下去。(115)
123. 到年長的那兒去，就被他給把黑頭髮，黑鬍子拔下來。(115)
124. 正穿一個茂盛的樹林子的時候兒，有小枝兒，把那頭裡誇好看的犄角掛住了。(117)
125. 有一個膽子大的蝦蟆，把腦袋出水來，(119)
126. 有一個放羊的，把養着的羊，挪到近海的地方。(120)
127. 於是把所有的羊，都賣了個罄淨，就大躉棗兒和椰子，裝在船上，就向自己所中意的地方開船。(120)
128. 把自己當做的事情搁着，入了頑耍局的人，縱然把所得的東西失了，也決意不可後悔。(122)
129. 把自己當做的事情搁着，入了頑耍局的人，縱然把所得的東西失了，也決意不可後悔。(122)
130. 我們平常把甜水運送給你，你卻把來給變做齷齪的，成了廢物。(123)

131. 海若細瞧，見河伯發怒的樣兒，以為很不值，笑着，就把他們說散了，（123）
132. 那麼，把到皮子那兒的水，喝乾了罷。（127）
133. 無心無意的，把嘴一張，所叨着的酪乾兒，就掉在地下了。（129）
134. 從頭裏把那傻老鴣，各樣兒的讚美，但是關乎心性的話，卻沒說甚麼。（129）
135. 有一個鄉下老兒，因為冬天大雪堵門，不能出去買喫食，就把家裡養活的羊，宰了喫了。（131）
136. 無可奈何，只得把耕牛也宰了喫。（131）
137. 有一個老頭兒，要把一頭驢，拉到左近的集上賣去，就同着兒子拉着走。（133）
138. 哎呦，大家瞧那蠢笨的人罷。把可騎的驢空拉着，倆人倒都走呢。（133）
139. 一同下來，把驢的四條腿兒，網在一塊兒，（133）
140. 搭箭一射，可就把獅子的兩脇射通了，於是獅子叫苦着，要躡到樹林子裡去。（134）
141. 你們怎麼這麼竟揪着心過日子呢。若肯把我作你們的王，我可以給你們防禦外賊。（135）
142. 蠍子見了，把鉤子揚起來，（136）
143. 若把兩倍的喫食給他，必能天天兇下兩箇蛋。（137）
144. 一攫，就把他抓上，騰空去了。（138）
145. 這樣，那纔敗的鷄，從嘎啦兒裡出來，把頭裡所爭奪的窩，獨自占了。（138）
146. 有各樣兒的走獸，都說是皆因平素相厚，不能撻下他，就你來我去的看望他來，把那地方的草，每一箇兒喫一點兒，就喫沒了。（144）
147. 不上幾天，那鹿雖然病見點兒好，然而因為把所存留的草，都被喫完，終歸把性命和喫食，兩樣兒都丟了。（144）
148. 不上幾天，那鹿雖然病見點兒好，然而因為把所存留的草，都被喫完，終歸把性命和喫食，兩樣兒都丟了。（144）
149. 有一箇海龜，見飛鳥凌霄飛舞，極其暢快，卻把自己住矮地方兒的事，以為不足，暗想說：（145）
150. 這事，是不但于你無益，實在是做不來的事情，只好把這箇念頭打斷了罷。（145）
151. 龜一定不依，皂鵬不得已，任他的意思，把爪鉤住他的蓋子，一翅飛上空去，把龜吊到空中。（145）
152. 龜一定不依，皂鵬不得已，任他的意思，把爪鉤住他的蓋子，一翅飛上空去，把龜吊到空中。（145）
153. 說着，把那鉤蓋子的爪一放，只見那龜還沒回答一句話，已經掉在一塊大石頭上，把身子擗得粉碎，命就了了。（145）
154. 說着，把那鉤蓋子的爪一放，只見那龜還沒回答一句話，已經掉在一塊大石頭上，把身子擗得粉碎，命就了了。（145）
155. 一箇時候兒有人把一隻小狼兒，攔在他的巴掌上。（148）



156. 然而定不把你想做羊的一類。(148)
157. 話雖如此，據我想，如果你有把所失的尾巴，怎麼樣能夠接上的方法，必不把斷尾巴是好的話，來勸朋友們。(150)
158. 話雖如此，據我想，如果你有把所失的尾巴，怎麼樣能夠接上的方法，必不把斷尾巴是好的話，來勸朋友們。(150)
159. 每逢瞧病去的時候兒，把那家的衣裳器具，一樣兒一樣兒的，全都搬運到外頭來，(151)
160. 到了兒，把眼睛治好了，就向他要說過的謝禮老太太兒，(151)
161. 現在據那大夫說，把小婦人醫治好了，(151)
162. 他母親就試他，把一塊乳香(有香味兒的樹脂，看着彷彿石頭似的)，放在他的面前，(152)
163. 自誇一樣不會的事，為着這箇，倒把別的不會的事，也顯露出來。(152)
164. 一匹野馬，獨自把一塊青草地，任意霸占，(153)
165. 往後不能把自己的身子自由行動，也不能遂所指望的，報恨之願，永遠做了騎的馬，纏住了。(153)
166. 縱為報恨，把尊貴的不羈自由之權，拏出來頂換，是上不上算哪。(153)
167. 人來不來的，把可羞的事，誤當榮耀，常有把不叫人知道可了的事情，故意的嚷嚷出來。(156)
168. 人來不來的，把可羞的事，誤當榮耀，常有把不叫人知道可了的事情，故意的嚷嚷出來。(156)
169. 白翎就把纔聽的話，當做真的，就飛到這塊地方來，(157)
170. 於是那打鳥兒的人，飛也似的跑來，就把他拏住了，(157)
171. 你要治這個，把一塊饅頭，在傷口的血上浸着，然後給咬你的狗喫，這麼着就好了，(158)
172. 若打着要困敵人的，決不把應用的東西給他們。(158)
173. 鏗發出怨聲來說，把我這職掌齷東西的東西，這樣來齷的理，有麼。(160)
174. 心裡盤算着說，我把這罐牛奶賣了，買雞蛋，(163)
175. 青的是能把臉襯得白的，哼，總是非青的不可(163)
176. 後來穿這新衣裳上街去管保年輕的人兒們，都情願把我做情人，(163)
177. 儘自瞎想，忘了神了，不覺把腦袋一搖，豈知牛奶罐子掉了，摔得粉碎，(163)
178. 商議說，宰我們的，想就是屠戶把他們盡皆殺了罷，(164)
179. 有把一樣新鮮頑藝兒，在場上演演的，必賜若干獎賞，因此各處出名的藝人，都思量自己要演一樣得意的本事，好討厚賞，(165)
180. 他把一樣新奇未有的頑藝兒，在某月某日演習，到了那一天，從一早，羅馬合城的人都去淨了，擠得園子都顯窄了(165)

181. 把腦袋縮到懷裡，就發出小豬兒叫喚的聲兒來，（165）
182. 那箇人把褂子亮起來，連懷裡都查看了，（165）
183. 這一箇當兒，有一個鄉下怯人，把人羣兒分開，顯出來，對衆人說，（165）
184. 我在這褂子裡面，藏着隻小豬兒（此時真把一隻小豬兒，在褂子裏面藏着）叫他叫一叫，給衆位聽，（165）
185. 說着，把小豬兒從懷裡拿出來，說，衆位豈不都是不會聽斷的人麼。（165）
186. 有一箇牧羊的，正把自己養活的山羊，往一塊兒趕，這些羊渾身都被雪遮白了，（166）
187. 要把所趕來的山羊掬進去，往圈裡一看，不知從多嚙，有幾十隻肥大的野山羊，在那兒躲雪呢，（166）
188. 莫若這些箇，就這麼溫存着罷，就把給山羊帶來的樹枝兒，乾草等物，通通都給野山羊搭棚子用，（166）
189. 把剛趕來的山羊，並不放在心上，撈在一邊兒，（166）
190. 到這時候兒，牧羊的，把野山羊也跑了，把養活的山羊也沒了，被街坊也笑話了，除了後悔，並沒賺下甚麼。（166）
191. 到這時候兒，牧羊的，把野山羊也跑了，把養活的山羊也沒了，被街坊也笑話了，除了後悔，並沒賺下甚麼。（166）
192. 有一箇打漁的人，要打魚，到小河兒的地方去，把攔網在水流的地方橫下着，要把魚趕到網裡去，就用長竹竿兒，在網的左右水面上敲打，（167）
193. 有一箇打漁的人，要打魚，到小河兒的地方去，把攔網在水流的地方橫下着，要把魚趕到網裡去，就用長竹竿兒，在網的左右水面上敲打，（167）
194. 一天，飛到天上，把新蜜供奉上帝，上帝十分歡喜說是酬賞，（168）
195. 幸得兩下裏一說便成，彼此把所得的東西交換了，日後兩個人，天天兒竟換着喫，（169）
196. 因此兩個蜂兒，把這情由，告到蜂王的衙門裡。（171）
197. 故此這場官司，必得把我所想的方法，詳細究察，方妙。（171）
198. 這樣把窩裡的形狀，以及蜜味，細細一考較，就可以判出所爭的巢主來了，（171）
199. 故此由官把這蜂房，斷定是蜜蜂兒的，判完，就散了衙門了。（171）
200. 驢跑進裡頭去，跑迸，喊叫着亂鬧，把那些山羊，都趕出來了，（172）
201. 我把所累你的馬蠅子給你掬一掬罷，（173）
202. 但是你若把這馬蠅子給掬開，（173）
203. 把已然飽我膏血的，從來的君主或臣下，捨棄趕攆了的（173）
204. 倒彷彿故意把自己身子，任隨更貪吸的人，一個樣。（173）
205. 祭神都是在院子裡，設一個壇，把祭物供奉在上頭，故此烏鴉鷓鷹，都能來攪奪。（174）

206. 這麼着，脚夫生了氣，把揪着的尾巴一縱，說，（175）
207. 一個菜園子裡，落下幾十隻仙鶴，把新撒的種子鴿亂了，農夫就把投石的器具，搭在這塊地上，唬嚇他們，（175）
208. 一個菜園子裡，落下幾十隻仙鶴，把新撒的種子鴿亂了，農夫就把投石的器具，搭在這塊地上，唬嚇他們，（175）
209. 就把到如今所住慣的廟宇房上（祭物多是老鴿，鷓鴣，最容易得喫食的地方），看破了，挪到水池子，或河裡住去，從此天天兒的洗澡，把翅膀兒，磨了磨，收拾了收拾收拾。（178）
210. 就把到如今所住慣的廟宇房上（祭物多是老鴿，鷓鴣，最容易得喫食的地方），看破了，挪到水池子，或河裡住去，從此天天兒的洗澡，把翅膀兒，磨了磨，收拾了，（178）
211. 一個亞拉比亞人，把馱子給駱駝馱好了。（181）
212. 一天，同朋友打獵去，一鞭子把馬打得跑起來了，（182）
213. 可巧，一陣風，颯的一聲，就把假頭髮給颯跑了，露出禿腦袋來。（182）
214. 有個在法司衙門裡，廊簷底下搭窩的母燕兒，一天，往別處兒去，不在窩兒的時候兒，叫一個長蟲把沒出窩的雛兒給吞了，（186）
215. 哦，海是靠不住的啊，可憐哪，把在這上面走的人們，全都叫他害去，海若裝作女人的聲音，對他說，（189）
216. 心裡說，好機會啊，把驢當做口糧罷，（191）
217. 您別把那麼卑賤乞命的東西殺了啊，（193）
218. 依我辨罷，不可把世上的交情看薄了啊，（193）
219. 一翅膀把金龜子打了，一直撲上兔兒，就喫了。（193）
220. 一天趁皂鷗出去的空兒，打窩裡把他的蛋兒，給軋着弄下去，全都給碾破了，（193）
221. 不知道多嚙，金龜子又去，照樣兒把蛋給弄破了，皂鷗就沒有法子了，（193）
222. 金龜子又知道了，把泥弄成小丸兒，在嘴裡叨着，往天上飛去。（193）
223. 老天爺喫了一大驚，要把這箇泥抖擻下去，無意之間，挺身一站，那蛋兒就從波棱盖兒上滾下去，又打破了，（193）
224. 因而以後把皂鷗下蛋的定期，改在金龜子不出來的時候兒，辨得雨下裡纔沒有事了。（193）
225. 道兒上，不想碰見一隻獅子，被他把特持的偷來的羊，給奪了去了，（194）
226. 來不來的，就把自己所做的歪事，放下不題，光要說自己被人所圈套的歪事啊。（194）
227. 把自己做的時候兒，並不算做甚麼的事，看見別人做，就當不好的勾當，駁議他。（196）
228. 一箇獅子進莊稼人的院子裡去，莊稼老兒要把他捉拏住，就關上門了，（198）
229. 許願說，求把我變成標致姑娘的樣兒罷，（201）
230. 菩薩見是箇可憐恤的心願，就把他變了箇俏皮姑娘，（201）

231. 就把一箇耗子放了去，那貓忘了自己被賜的形體，(201)
232. 漁人把網攔下，上離不遠兒的地方，喫乾糧去，(203)
233. 說罷，把衣裳脫在地下，溜下井裡去，(205)
234. 那商人只得把這事由兒，告訴水人，(206)
235. 到棚裡一看，見那馬把平日猾懶，大肚量兒的馬，做朋友，一塊兒頑兒，(207)
236. 當時吩咐小猴兒們，把兩人帶到自己面前坐下，(211)
237. 你們把我們，看做何等人，說說看罷。(211)
238. 有一個人，買了天鷲和鵝，把鷲預備不時之用，把天鵝做為賞翫的東西，同在一箇院子裡頭養活。(212)
239. 有一個人，買了天鷲和鵝，把鷲預備不時之用，把天鵝做為賞翫的東西，同在一箇院子裡頭養活。(212)
240. 正是夜黑天，把天鷲誤當做鵝了，將要宰的時候兒，天鷲哈的一驚，高叫了一聲，給他聽。(212)
241. 有一天，牧人把人家所寄放的驢，放在牧場上。(213)
242. 我是不拘誰，肯叫把馱子馱在我脊梁上，縱任有怎麼樣的變動，是一點兒不怕的。(213)
243. 見除了小鷄子，並沒可偷的，就把一隻小鷄子，攬在懷裡回家去(215)
244. 我天天把人從黑黝黝兒的時候起，叫醒作工。(215)
245. 說完，立時就把他當糧食喫了。(217)
246. 一天，把喫的東西，擺在房簷兒底下，和蛇要和好，(218)
247. 把自己的營生，撂下不管，每天竟管祈福，並不見甚麼靈應，越發落在貧苦裡頭了。(219)
248. 於是氣忿忿的，把財神的像，打懸龕上抓下來，(219)
249. 就拿斧子，把像的頭砍下來，裡頭有金銀冒出來了。(219)
250. 這彷彿是一眼好井啊。看光景，水必多，喫食也必不少。就把這兒做咱們的家罷，下去罷。(220)
251. 我在上頭用繩子，把您繫下去，您飽喝一回。(221)
252. 於是把和尚繫下去，一會兒，只見那和尚喝完水了，在井底下，叫的聲兒說：(221)
253. 於是賊恍然大悟，把和尚從井裡拉上來，拜伏在腳下，賠不是，(221)
254. 自此之後，把要做歹事的念頭斷絕，一天加一天，惟在善事上長進，遂成了個大好人了。(221)
255. 別把應無的事當做有的。(222)
256. 別把難求的事打算去求。(222)
257. 於是就把那鳥兒放了生了。(222)
258. 莫把應無的事當做有的。(222)

259. 別把難求的事打算去求。(222)

## 付録 6

『官話指南』(1881年)における“把”構文(“將”構文を含む)

1. 我求你千萬別把這個事給洩漏了，這是一件機密的事情。(1-0-3)
2. 依我說不如把他活活兒的埋了就完了。(1-0-5)
3. 我在台階兒上站着，他抽冷子把我望後一推，幾乎沒栽了個大觔斗，那兒有這麼促狹的呢。(1-0-7)
4. 你等一等我們把那個丟銀票的那個人找來，你們倆人當面一說，他也不能白了你，總得謝和你幾兩銀子。(2-6-12)<sup>169</sup>
5. 銀號裏不肯給他銀子，這麼着他要把那張原銀票拿回去，銀號裏把那張銀票也扣下了，不肯給他，這麼着他就走了。(2-6-12)
6. 銀號裏不肯給他銀子，這麼着他要把那張原銀票拿回去，銀號裏把那張銀票也扣下了，不肯給他，這麼着他就走了。(2-6-12)
7. 趕他們到了銀號就這麼一罵，把櫃上的一個夥計他揪出來給打了，把攔櫃上擱着的算盤也給摔了。(2-6-12)
8. 趕他們到了銀號就這麼一罵，把櫃上的一個夥計他揪出來給打了，把攔櫃上擱着的算盤也給摔了。(2-6-12)
9. 這個工夫兒汛官聽見說了，當是搶銀號的了，就帶兵去把他們五個人都拿了去了，送了縣了。(2-6-12)
10. 後來查明白了，他們是打架的，就把他們五個人都枷號在東街上了，半個月之後，纔能放他們了。(2-6-12)
11. 那麼你出去把他叫進來。(2-7-12)
12. 等這小物件燒得了，你可以拿幾樣兒來，再把你們局子裏那對瓶樣子，拿來我瞧瞧，若是合式，我可以照樣兒定燒一對。(2-7-13)
13. 他有幾頃地，有一處果木園子，一處菜園子，因為他現在等錢用，託我把他這地畝，園子，給他典出去。(2-8-13)
14. 趕僮們把事情都辦完了之後，我再同他到地裏看一看去就得了。(2-8-14)
15. 我們舍姪學的是錢行，我打算把他安置在那舖子裏了事。(2-9-15)
16. 我打算求您，這幾天把他找到您家裏來，勸勸他總是能叫他不分家纔好哪。(2-11-17)

<sup>169)</sup> (2-6-12) は第 2 卷第 6 章 12 ページと言う意味を表す。

17. 我把他找來勸勸他，那倒沒甚麼不行的，可有一層我們倆平常雖然對勁，無奈令弟的那個左皮氣，我也不敢保他準聽我的話。(2-11-17)
18. 我可就到衙門去，把他告下來了。(2-12-18)
19. 趕知縣查明白了，就叫他把佔去我的地，都給我退出來了。(2-12-18)
20. 這麼着我就都把他賣出去了。(2-12-18)
21. 每年你那園子是自己收果子賣呀，還是把樹包給別人呢。(2-13-19)
22. 前些年我都是自己收果子賣，這幾年我可是把樹包給別人。(2-13-19)
23. 若是你願意過年把樹包給他，我可以給你們拉這繯。(2-13-19)
24. 趕說妥了把銀子給了，這一年的果子，就是他的了。(2-13-20)
25. 這些個東西都是包果子的給他買，趕後來拆窩棚的時候，可也是那包果子的，把這些個東西拿回去。(2-13-20)
26. 你回頭到祥盛鐘表舖，把許掌櫃的請來給收拾收拾。(2-14-20)
27. 這麼着他就把事情辭了，回家養病去了。(2-14-21)
28. 到底據我想您把收拾表的傢伙帶上，萬一收拾表了也不定。(2-14-21)
29. 那麼得換一根新鏢子了罷。不用換新的了，我把這根鏢子拿到舖子去釘上，再拿回來安上就得了。(2-14-21)
30. 趕第二天，我們就在店裏吃完了飯，把那兩匹馬，寄放在店裏了，我們倆就擰着槍溜達着上山去了。(2-15-22)
31. 那個地方，又雇不出人來抬那個野豬，這麼着我們倆人，就把那個野豬，拉回店裏去了。(2-15-23)
32. 我們有個親戚前幾天打圍去了，不但沒打着甚麼，倒把他的一匹馬丟了。(2-15-23)
33. 怎麼打圍去會把馬丟了呢。(2-15-23)
34. 他把他的那匹馬，就拴在山底下一棵樹上了。(2-15-23)
35. 那個官把他丟馬的緣故，都問明白了。(2-15-23)
36. 若是過路的人，把你的馬偷了去了，那可就難找了。(2-15-23)
37. 這麼着那個人到衙門去，就把他告下來了。(2-16-24)
38. 趕官把子園傳到衙門去一問子園說，並沒這麼件事，又說若是我存着他的銀子必有個憑據，如今他一點兒憑據沒有，這是他訛我了。(2-16-24)
39. 他竟把東西，給那個人寄回家去了，可就在那一千多兩銀子，昧起來了。(2-16-24)
40. 他竟把東西，給那個人寄回家去了，可就在那一千多兩銀子，昧起來了。(2-16-24)
41. 趕他病好了，就把買賣也收了。(2-16-24)
42. 到如今還是各人把各人的命要了。(2-16-25)

43. 若是一見錢，立刻就把天理報應全都忘在九霄雲外去了。(2-16-25)
44. 住在城外頭會館裏了，有人把他舉薦了去當跟班的。(2-17-26)
45. 後來那個官知道他這個毛病了，可就把他辭了。(2-17-26)
46. 你把這套書，給琉璃廠寶文堂書舖裏送了去，告訴俞掌櫃的說，叫他給配一個書套，(2-18-26)
47. 那麼您就先把舖子所有的這兩部，交給我帶回去。(2-18-27)
48. 您要的那幾部書，他們那舖子裏就有兩部，叫我先把那兩部拿了兩套來，給您看看。(2-18-27)
49. 是了，你先把這兩套書，擱在榻子上去罷。(2-18-27)
50. 泰和棧不肯給，說是若實在不能等那六十包洋布，只可把原給的定銀退回去把批單一燒，就算沒這麼件事了。(2-19-29)
51. 泰和棧不肯給，說是若實在不能等那六十包洋布，只可把原給的定銀退回去把批單一燒，就算沒這麼件事了。(2-19-29)
52. 泰和棧一定不肯認包賠賺利，這麼着沈掌櫃的就寫了一張呈詞，粘連那張批單，在縣裏就把泰和棧告下來了。(2-19-29)
53. 前兒個知縣過堂，把他們兩造大概問了一問，就吩咐叫他們下去。(2-19-29)
54. 我們給他們這麼說合的，還是叫泰和棧，先把這現在有的那六十包洋布，給沈掌櫃的叫他們和那個客人說，等下月那六十包洋布到了，再給那個客人就是了。(2-19-29)
55. 昨兒個晚上把貨也起了去了，銀子也兌了，就等明兒個沈掌櫃的在縣里遞一張和息呈詞就結了。(2-19-29)
56. 叫他一個跟人帶着，到船上去，把行李起下來。(2-21-30)
57. 趕把行李運到棧裏來了，他一瞧，他短了兩隻紅皮箱，這裏頭又有兩隻白皮箱不是他的。(2-21-30)
58. 他們倆人在船上歸着零碎東西來着，是那倆推小車子的，自己上船，把箱子搬下來的，所以纔搬錯了。(2-21-30)
59. 叫那倆推小車子的，快去把他那倆紅皮箱給找回來。(2-21-30)
60. 我現在回棧裏去，先雇一個小車子，把姓徐的那倆白皮箱，給他推了去，把那倆紅皮箱就換回來了。(2-21-31)
61. 我現在回棧裏去，先雇一個小車子，把姓徐的那倆白皮箱，給他推了去，把那倆紅皮箱就換回來了。(2-21-31)
62. 一問他的號他說是叫子芹，我就把運錯了箱子的事情，告訴他說了，(2-21-31)
63. 這麼着我就和他說，回頭我就打發小車子，把您那兩隻箱子送來，您把這兩隻紅箱子，就交給他們帶回去就得了。(2-21-31)
64. 這麼着我就和他說，回頭我就打發小車子，把您那兩隻箱子送來，您把這兩隻紅箱

- 子，就交給他們帶回去就得了。(2-21-31)
65. 那個時候撫台就出了叅了，把他的頂戴摘了。(2-22-31)
66. 又添上了這麼一件棄兇逃走的案，這麼着撫台就把他叅革了。(2-22-32)
67. 撫台就派員把他寓所裏的東西都封了，把王子泉調到省裏去。(2-22-32)
68. 撫台就派員把他寓所裏的東西都封了，把王子泉調到省裏去。(2-22-32)
69. 給他倆月的限，叫他把虧短國家的這個錢糧，都交還上。(2-22-32)
70. 他哥哥見着這封信，着急的了不得，找我去了，託我把他城外頭那處舖面房，給他賣了。(2-22-32)
71. 那麼他若是把虧短的錢糧，如數都交還上，他寓所裏封着的那個東西怎麼樣呢。  
(2-22-32)
72. 趕他把這銀子交還之後，上司自然派官，到他寓所裏去啟封。(2-22-32)
73. 到他寓所裏去啟封，就把東西照舊還給他了。(2-22-32)
74. 他自己不過有幾千兩銀子，就這麼把那個當舖開了。(2-23-33)
75. 趕到前年，他那個親戚放下知府來了，可就把那那一萬多兩銀子要回去了。(2-23-33)
76. 他一想，他若是把那一百箱子烟土買下，留着冬天賣，必賺好錢。(2-23-33)
77. 願意把那一百箱子烟土都留下，倆月之後付銀子。(2-23-33)
78. 賠了有好幾千兩銀子，可就那個當舖也拉躺下了。(2-23-33)
79. 這麼着他沒法子了，就把房子牲口都賣了，算是把該洋行的銀子都歸上了，然後把舖子也關了。(2-23-34)
80. 這麼着他沒法子了，就把房子牲口都賣了，算是把該洋行的銀子都歸上了，然後把舖子也關了。(2-23-34)
81. 這麼着他沒法子了，就把房子牲口都賣了，算是把該洋行的銀子都歸上了，然後把舖子也關了。(2-23-34)
82. 他要把我舉薦到那兒去辦書啓，我也願意去。(2-24-34)
83. 我剛睡着，就聽見我們後頭院子裏，咕咚的一聲，跳進一個人來，把我嚇醒了。  
(2-25-36)
84. 溜了半天可就好了，然後我就把他讓到書房裏去了。(2-25-36)
85. 我就和他說，依我勸你，把烟忌了罷，再要往下吃，可就怕不好了。(2-25-36)
86. 見天你就按着那個方子吃藥，慢慢兒的，自然就戒烟斷了。(2-25-37)
87. 我就信了他的話了，又跟他去了五六盪，又輸了四千多吊錢，他們把局也收了。  
(2-26-37)
88. 這麼着我當了兩箱子衣服，纔把賭帳還了。(2-26-38)
89. 誰若是輸給他們錢，還不起他們，就得把房產地產折給他們，就這麼樣兒的不說理。(2-26-38)



90. 他們當時就把錢給了，後來那個財主又去了兩盪，又贏了，又給的是現錢。(2-26-38)
91. 我先回家去，把錢給你們預備出來，趕到晌午你們到我家裏取去就是了。(2-26-38)
92. 那個財主就把他們叫到書房裏去，就問他們倆，你們是幹甚麼的，到我這兒來作甚麼。(2-26-38)
93. 你們倆快走，是你們的便宜，不然我把你們倆送衙門，辦你們訛詐。(2-26-39)
94. 我是給人管了件閒事，受了點兒氣，把肝氣的病，勾起來了。(2-27-39)
95. 這麼着我就把那個姓孫的，帶了去，見了溫子山，然後他們倆，到了京東，把地都瞧了，回來就請我作中人，給他們說合價值。(2-27-39)
96. 這麼着我就把那個姓孫的，帶了去，見了溫子山，然後他們倆，到了京東，把地都瞧了，回來就請我作中人，給他們說合價值。(2-27-39)
97. 忽然起岸上來了十幾個賊，都拿着火把刀槍，就上船上來了，拿刀把艙板砍開了，就進了艙裏頭去了。(2-28-41)
98. 這麼着那羣賊，就把箱子和包袱現錢，都拿了去了，就是把鋪蓋給留下了。(2-28-41)
99. 這麼着那羣賊，就把箱子和包袱現錢，都拿了去了，就是把鋪蓋給留下了。(2-28-41)
100. 這麼着他們就把鋪蓋搬下來了，到了馬頭上雇了兩輛車，就起早(早)回來了。(2-28-41)
101. 這麼着他們就叫開店門了，把車趕進去了，趕到了裏頭一瞧，冷冷清清，連一個客人也沒有。(2-29-41)
102. 這麼着他們就挑了三間屋子，把行李都搬進去了，然後就叫店家，打洗臉水，沏茶弄飯吃。(2-29-41)
103. 就聽見起前頭院裏來了倆人，把堆草料的那屋裏的門推開了，進去拿草料去了，(2-29-42)
104. 就聽見這個和那個說，剛纔掌櫃的把你叫了去，到底是怎麼商量的呢。(2-29-42)
105. 我已經和掌櫃的說開了，事完之後，就把那兩輛車，分給僭們倆人一個人一輛，不論那倆客人有多少銀子，僭們倆人全不管。(2-29-42)
106. 我的意思是這麼着，趕僭們倆人，把這兩輛車分到手，明兒個早起，僭們把買賣一辭，一個人趕着一輛車就回家去了。(2-29-42)
107. 我的意思是這麼着，趕僭們倆人，把這兩輛車分到手，明兒個早起，僭們把買賣一辭，一個人趕着一輛車就回家去了。(2-29-42)
108. 這麼着可就出了茅房，到了自己的屋裏，就把剛纔聽的話，都告訴那個朋友說

- 了。(2-29-42)
109. 聽他不管他妹妹的事很有氣，這麼着，就把他妹妹請過來，借給他一石米，還有幾兩銀子。(2-30-43)
110. 另外又給他雇了一匹驢，可就把他送回去了。(2-30-43)
111. 趕起衙門把銀子和衣服都領出來了，那個人就都給他妹妹送了去了。(2-30-43)
112. 這麼着，他就叫我把那銀子和衣服給他罷。(2-30-44)
113. 到店裏找那個買賣客人來了，店家可就把他帶進來了。(2-31-44)
114. 這麼著糧食店就打發徒弟到家來，把我們舍弟找了去了。(2-32-46)
115. 大家給勸開了，誰知道那個人，就到巡檢衙門去，把舍弟告下來了。(2-32-46)
116. 衙門裏來人把舍弟傳了去了，他到了堂上就把這件事據實的說了。(2-32-46)
117. 衙門裏來人把舍弟傳了去了，他到了堂上就把這件事據實的說了。(2-32-46)
118. 敢情那個人前些個日子，就把他那匹馬賣給那個姓趙的了。(2-32-46)
119. 趕那天那匹馬，聽見槍響不是驚了麼，後來他追上了，給姓趙的送了去了，把銀子也取來了。(2-32-46)
120. 巡檢因為他過於狡詐，就打了他四十板子，把他放了。(2-32-46)
121. 我又說，雖然把這根籌找出來了，到底僂們再把貨盤一盤，看看短不短，彼此可就更放心了。(2-33-47)
122. 我又說，雖然把這根籌找出來了，到底僂們再把貨盤一盤，看看短不短，彼此可就更放心了。(2-33-47)
123. 這麼着我就叫他們那幾個夥計，把棉花包，起棧房裏又都盤到院子來，細細兒得數了一數。(2-33-47)
124. 過了兩天他把那張銀票拿回來了，說是假的。(2-33-48)
125. 這麼着，我們倆到了銀號，竟自不是假的，把銀子取出來了。(2-33-48)
126. 那個時候他臉上很磨不開，就羞羞慚慚的，把銀子拿回去了。(2-33-48)
127. 依我說，你拿回去再想想是誰給的罷。你把這個十吊錢的票子，給破五個一吊一個五吊。(2-34-49)
128. 那個南邊人，就告訴衙役說，他們兩人要打官司，那個衙役，就把他們兩人帶進去了。(2-35-49)
129. 小的聽這句話氣急了，就打了他一個嘴巴，他回手就把小的的臉抓了。(2-35-49)
130. 這麼着小的就把他揪來打官司，求老爺問他，到底他到小的家裏，是幹甚麼去了。(2-35-49)
131. 他把印子錢給了小的了，然後又給小的沏子一壺茶。(2-35-50)
132. 他聽這話，就打了他的一個嘴巴，小的急了，就回手把他的臉抓了。(2-35-50)
133. 他說完了，就把取印子錢的摺子拿出來，給官看了。(2-35-50)

134. 這是起浙江來的銀信，那個賣鐮子的人，把銀信就接過去了，給了那個送信的一百錢，那個送信的就走了。(2-36-51)
135. 我可以把這銀子賣給你們罷。(2-36-51)
136. 還有一件事我是不識字，求你們把這封信拆開，念給我聽聽。(2-36-51)
137. 這麼着那個錢舖的人，把那隻鐮子又給了他了。就把那封信拆開了，念給他聽。(2-36-51)
138. 這麼着那個錢舖的人，把那隻鐮子又給了他了。就把那封信拆開了，念給他聽。(2-36-51)
139. 這麼着那個人就說，你們把這十兩銀子拿下去平一平，都給換了現錢罷。(2-36-51)
140. 那錢舖的人聽這話，就趕緊的拿夾剪，把銀子夾開了一瞧，可不是假的麼。(2-36-51)
141. 趕那個掌櫃的，把銀子接過去，擱在天平上一平，說這是十一兩銀子。(2-36-52)
142. 這麼着這個底下人，就起那個人手裏，把那個包袱要過來，就拿着出去了。(2-37-52)
143. 您不是告訴他說是太太先瞧麼，他就把衣裳拿到裏頭去了。(2-37-52)
144. 這個估衣舖的人聽這話纔明白，那個人是個騙子手，把他的衣裳騙了去了。(2-37-53)
145. 就是僭們這盪出外，我作的那本日記，得把他修飾好了，找人抄出來。(2-38-53)
146. 那麼您把那本草稿兒拿出來，我先看看。(2-38-53)
147. 這麼着那個知縣，就把和尚帶到衙門去，問那個和尚，是為甚麼把那個客人勒死了。(2-38-54)
148. 這麼着那個知縣，就把和尚帶到衙門去，問那個和尚，是為甚麼把那個客人勒死了。(2-38-54)
149. 這麼着知縣就把和尚押起來了。(2-38-54)
150. 現在巡撫，把那個原審的知縣叅革了，把原驗的件作也治了罪了，把和尚也放了，就是這麼件事。(2-38-54)
151. 現在巡撫，把那個原審的知縣叅革了，把原驗的件作也治了罪了，把和尚也放了，就是這麼件事。(2-38-54)
152. 現在巡撫，把那個原審的知縣叅革了，把原驗的件作也治了罪了，把和尚也放了，就是這麼件事。(2-38-54)
153. 請先生把這件事也敘在那日記裏頭，您想好不好。(2-38-54)
154. 他也是托人，把他引進去的。(2-39-55)

155. 那麼你為甚麼，不把這層先說明白了呢。(2-39-55)
156. 你把那茶机兒上的茶盤兒裏，擺着的那茶壺，茶碗，茶船兒，都拿過來。(3-2-59)
157. 把擦臉手巾拿來。(3-3-59)
158. 明兒再做湯的時候，叫他留點兒神，把油撇淨了纔好。(3-4-60)
159. 啊，這是拿錯了，把您的換來罷。(3-4-60)
160. 哎呦，你瞧瞧你的袖子，把這個碗給拐躺下了，快拿振布來擦擦罷。(3-4-60)
161. 你瞧把這湛新的台布，都弄成了，這麼哦噠半片的了。(3-4-60)
162. 哼，把茶拿來。你也吃飯去罷。(3-4-60)
163. 拿鞋拔子來，把褲腳兒給往下襯一襯。(3-5-61)
164. 你回頭把我脫下來的東洋衣裳，給疊起來，可別拿刷子刷。(3-5-61)
165. 那趕車的，若是個力把兒頭，趕到了前面，走到石頭道上，可就把車竟往踐窩裏頭趕，把人碰的頭暈眼花。(3-6-62)
166. 那趕車的，若是個力把兒頭，趕到了前面，走到石頭道上，可就把車竟往踐窩裏頭趕，把人碰的頭暈眼花。(3-6-62)
167. 你先把那塊花洋氈子，拿到車裏頭去，舖好了罷。(3-6-62)
168. 你拿腳把板凳兒那頭兒跣住了罷。(3-6-62)
169. 你快把棍子取來。(3-6-62)
170. 你把那凳子拿過來，把烟盤兒攔在上頭。(3-7-62)
171. 你把那凳子拿過來，把烟盤兒攔在上頭。(3-7-62)
172. 可別把米粒兒弄碎了，要不稀不稠勻溜的纔好。(3-7-62)
173. 你給我把被窩再往上蓋一蓋。(3-7-62)
174. 得了就拿來罷。把梨也拿來。(3-7-63)
175. 那麼小的今天得趕緊的，把東西先歸着歸着罷。(3-9-65)
176. 你先把這零碎東西，挪到院子裏去。(3-9-65)
177. 把地毯拿茶葉先掃一回，捲起來，拿繩子網上。(3-9-65)
178. 那床若是不好搭，可以卸下來，等拿過去，到那兒再安上，然後再把帳子還照舊的搯上。(3-9-65)
179. 是，那麼我也跟着東西一塊兒去，先把東西都照舊擺好了罷。(3-9-65)
180. 今兒天氣好也沒風，把衣裳得曬曬。(3-10-65)
181. 趕拴好了，把衣裳搭在繩子上曬一曬。(3-10-65)
182. 老爺我已經把衣裳都抖擻好了，曬上了，請您去看看。(3-10-65)
183. 我想到了晌午，都翻一翻，把那曬過的，也倒一倒，把那背陰兒的，都叫他向陽兒，您說好不好。(3-10-66)
184. 我想到了晌午，都翻一翻，把那曬過的，也倒一倒，把那背陰兒的，都叫他向陽

- 兒，您說好不好。（3-10-66）
185. 你現在都把他弄完了，把那箱子磕打磕打罷。（3-10-66）
186. 你現在都把他弄完了，把那箱子磕打磕打罷。（3-10-66）
187. 可是你還得把那根繩子，拴到屋裏去，叫他們透透風是要緊的，（3-10-66）
188. 若是把暑氣藏在裏頭，往箱子裏一攔，寶色就掉了，那可就都糟了。（3-10-66）
189. 來把那繩子還照舊的繞起來，掛在那堆房裏樑上去。（3-10-66）
190. 你瞧是這麼疊，你先把左底邊疊上，再把右底邊折在上頭，然後再把衣裳一襯，把領子合上，摩抄平了。（3-10-66）
191. 你瞧是這麼疊，你先把左底邊疊上，再把右底邊折在上頭，然後再把衣裳一襯，把領子合上，摩抄平了。（3-10-66）
192. 你瞧是這麼疊，你先把左底邊疊上，再把右底邊折在上頭，然後再把衣裳一襯，把領子合上，摩抄平了。（3-10-66）
193. 你瞧是這麼疊，你先把左底邊疊上，再把右底邊折在上頭，然後再把衣裳一襯，把領子合上，摩抄平了。（3-10-66）
194. 他把小的搭出去說了會子話，所以耽誤了這麼半天沒得稟知老爺。（3-13-68）
195. 小的可以把他找來替幾天。（3-13-69）
196. 還有一件事求老爺把下月的工錢支給小的。（3-13-69）
197. 那麼你現在把吳老爺的跟班的找過來，把這屋裏的事都交代明白他，再把昨兒個破的那個燈罩子找出來，交給他，叫他明天照樣兒配一個來。（3-13-69）
198. 那麼你現在把吳老爺的跟班的找過來，把這屋裏的事都交代明白他，再把昨兒個破的那個燈罩子找出來，交給他，叫他明天照樣兒配一個來。（3-13-69）
199. 那麼你現在把吳老爺的跟班的找過來，把這屋裏的事都交代明白他，再把昨兒個破的那個燈罩子找出來，交給他，叫他明天照樣兒配一個來。（3-13-69）
200. 明天有一位客人要來，你帶着苦力，把上屋裏拾掇出來。（3-14-69）
201. 現在你先把外頭屋裏那兩間，好好兒的掃掃，（3-14-69）
202. 棚上若有蜘蛛網，可得掃乾淨了，把牆上的土都胡拉下來，把榻扇都擰淨了，把窗戶上的玻璃也擦一擦。（3-14-69）
203. 棚上若有蜘蛛網，可得掃乾淨了，把牆上的土都胡拉下來，把榻扇都擰淨了，把窗戶上的玻璃也擦一擦。（3-14-69）
204. 棚上若有蜘蛛網，可得掃乾淨了，把牆上的土都胡拉下來，把榻扇都擰淨了，把窗戶上的玻璃也擦一擦。（3-14-69）
205. 然後拿墩布蘸上水，擰乾了，把地板都擦了。（3-14-69）
206. 把這兩塊錢給他拿出去罷。（3-14-70）
207. 你把這行李，挪到那屋裏去安置好了，再來沏茶打洗臉水。（3-14-70）
208. 老改不了，總是你沒把我的話攔在心上，這是怎麼個理呢。（3-15-70）

209. 你總要把屋子拾掇俐攏了。(3-15-70)
210. 把衣服給疊好了。(3-15-71)
211. 你有朋友來，把我的各樣兒的東西拿出去用，這還像事麼。(3-15-71)
212. 那是管洗澡房的他幹的。那麼你把他叫來。(3-16-72)
213. 我先問你一件事，你怎麼把澡盆的贖水，都倒在馬棚外頭了呢。(3-16-72)
214. 那麼你得把那溝眼通開纔好哪。(3-16-72)
215. 你可要把澡房的地板都刷乾淨了，別弄的那麼溜滑的。(3-16-72)
216. 我現在要上上海去，你把東西都歸着起來。(3-17-72)
217. 那我打算託朋友，都把他拍賣了。(3-17-72)
218. 等我今兒晚上連夜，把拍賣的和留着的分出來，再打點罷。(3-17-72)
219. 我先把這箱子騰空了，把這零碎兒都插在裏頭好不好。(3-17-72)
220. 我先把這箱子騰空了，把這零碎兒都插在裏頭好不好。(3-17-72)
221. 那匾額竟把字撤出來，那架子不好帶，可怎麼辦呢。(3-17-72)
222. 那麼把蓋兒蓋上，可以先釘死了罷。(3-17-72)
223. 你把那張紅紙遞給我，寫個籤子，貼在箱子上(3-17-72)
224. 也好還有那把旱傘，也套上罷，再把這文具，都裝在白拜匣裏。(3-17-73)
225. 現在把您的鋪蓋，也都捲起來罷，把夾被棉被都疊起來，裝在褥套裏。(3-17-73)
226. 現在把您的鋪蓋，也都捲起來罷，把夾被棉被都疊起來，裝在褥套裏。(3-17-73)
227. 明兒個把那個馬蓮包的箱子，煞在後車尾兒上。(3-17-73)
228. 這是我們老爺新近打外頭回來，帶來的土物，奉送這兒的老爺用，務必把職名給留下。(3-18-73)
229. 在家了，把小的叫進去了。(3-18-74)
230. 我打算把你薦給他，你願意去不願意去。(3-20-75)
231. 他可以給你船價，把你打發回來，若是不到三年，他不要你了，也是他給你船價叫你回來。(3-20-75)
232. 你這兩天先把我的東西都歸着齊截了，好交代給新手兒，把外頭首尾的事情，也都要算清了。(3-20-76)
233. 你這兩天先把我的東西都歸着齊截了，好交代給新手兒，把外頭首尾的事情，也都要算清了。(3-20-76)
234. 趕他到了知縣衙門，把名片投進去了。(4-5-82)
235. 有一個姓王的書辦出來，把他讓到科房裏去了。(4-5-82)
236. 那個船戶周立成原稟的，是把他的船舵撞折了，把船幫也撞壞了。(4-6-83)
237. 那個船戶周立成原稟的，是把他的船舵撞折了，把船幫也撞壞了。(4-6-83)

238. 晚上必回船上來，把下欠的銀兩都要交清的。(4-7-85)
239. 如若劉雲發完清稅項，暫且把他的貨船扣留，(4-7-85)
240. 我不過按着私交情，轉託稅務司，把劉雲發貨船，暫且扣留就是了。(4-7-85)
241. 趕到他交情水腳銀兩，請領事官趕緊賜我回信，我好知會稅務司，把貨船放行。  
(4-7-85)
242. 大人請我們道台，飭縣把趙錫三傳案查訊。(4-8-86)
243. 後來據知縣稟復，說把趙錫三已經傳到案了。(4-8-86)
244. 他就拿着原樣去到洋行，把貨包拆開，拿原樣一比，內有十包，貨樣不符。(4-8-86)
245. 要把原給的定銀退回，叫洋商將貨物另行出售。(4-8-86)
246. 我們道台同大人在會訊公所，把原被兩造傳來，叫洋商雇人，把那六十包哈喇抬到公所去。(4-8-86)
247. 我們道台同大人在會訊公所，把原被兩造傳來，叫洋商雇人，把那六十包哈喇抬到公所去。(4-8-86)
248. 因為前次我把那四家保人傳來審訊之時，據祥立仁和，福順，三家舖東說，當初具保單時，雖然言明，將來朱掌櫃的，如有虧空等事，除將朱曉山家私變價賠償外，下欠若干兩，四家保人一律均賠。(4-9-87)
249. 我先把信成的東家王保山傳來問了一問。(4-10-89)
250. 若是能把那項銀子追出來，除了還恆裕洋行貨銀五千兩，還富餘五千多兩銀子哪。(4-10-89)
251. 他求我照會大人，飭縣先把富順棧的東家傳到案，把那項銀子追出來，他就可以歸還恆裕洋行的貨銀。(4-10-89)
252. 他求我照會大人，飭縣先把富順棧的東家傳到案，把那項銀子追出來，他就可以歸還恆裕洋行的貨銀。(4-10-89)
253. 把他該信成的貨銀追出來，為得是好歸還恆裕洋行得欠款。(4-10-89)
254. 這麼着我又把恆裕行的東家叫了去，細問了一問。(4-10-89)
255. 知縣把富順棧，欠信成的銀兩追出來的時候，先別叫信成領去，(4-10-90)
256. 由知縣把信成欠恆裕洋行那五千兩貨銀扣下，其餘的銀兩，再叫王保山領去，大人想這麼辦好不好。(4-10-90)
257. 他是昨兒晚上到的京，打算把這上稅的事情安置好了，他再出城迎貨去。(4-13-92)
258. 等科房把稅銀算清，告訴我說，我再和貴鄉親要出來，給稅務司送去。(4-13-92)
259. 趕車的，起車上把烟土卸下來了，被巡役看見了。(4-13-92)

260. 我怕是他在家裏荒疎學業，所以我把他帶出來，投一位名師肄業，以圖上進。(4-16-95)



## 付録 7

『北京官話今古奇觀』（1904年、1911年）における“把”構文（“將”構文を含む）

①<李汧公窮邸遇俠客>（1904年）

1. 爾如今先把這個布給我，等我後來發跡的時候，再好好兒的補報爾的情。（3）<sup>170)</sup>
2. 這麼着他就到殿裡頭，和和尚借了一管筆，蘸好了墨，就過來把那個鳥兒腦袋給畫上了，並且畫的還不很頷頰，他倒很喜歡說，我若是學丹青倒許行了，（5）
3. 趕他剛畫完了的這個時候兒，就見左邊兒廊子底下坐着的那個大漢就過來了，把房德上下細細兒的看了一看，滿臉帶笑就說，秀才請到這邊兒來，偈們說一句話。（6）
4. 房德此刻正在窮極了的時候，聽見說有好處，就喜歡的了不得，可就把筆還了和尚，把他那件破夏布大褂兒整了一整，就跟着那個大漢走了。（6）
5. 房德此刻正在窮極了的時候，聽見說有好處，就喜歡的了不得，可就把筆還了和尚，把他那件破夏布大褂兒整了一整，就跟着那個大漢走了。（6）
6. 趕房德剛一進門，那兩個大漢就把門照舊的關上了，就帶他往裡走。（7）
7. 房德心裏頭很詫異，說是這夥子人有些個古怪，看他們和我有甚麼話說，大家就把他迎進亭子裏頭去了，見完了禮，就把他讓在板凳上坐下了。（7）
8. 房德心裏頭很詫異，說是這夥子人有些個古怪，看他們和我有甚麼話說，大家就把他迎進亭子裏頭去了，見完了禮，就把他讓在板凳上坐下了。（8）
9. 若是該當興旺，老天爺必打發個英雄好漢來，把這個鳥兒腦袋補上，我們就請他來作頭目。（8）
10. 您若是不答應，把您的命害了，您可別怪。（10）
11. 不如我暫且把他們哄過去，等到明兒個我想法子逃出去，再到衙門出首告他們去。（11）
12. 房德說，既是這麼樣，我勉強答應衆位就是了，大家聽這話，立刻就都喜歡了，把刀就還照舊插在靴子裏了。（11）
13. 如今忽然間換了這麼一身新衣服，不由的也動他的心了，又把剛才大家所說的話細細的一揣摩，也覺着有理。（12）
14. 我和他們素不相識，就肯把這麼好的衣服給我穿，就請我作他們的頭目，我就跟他們這麼胡混一場，也倒落半世的快樂。（13）
15. 這麼着大家就把酒席都撤了，把硫磺燭硝火把兵器都拿出來了，大家就都改扮起來了。

<sup>170)</sup> (3) は第3頁という意味である。

(16)

16. 這麼着大家就把酒席都撤了，把硫磺燭硝火把兵器都拿出來了，大家就都改扮起來了。

(16)

17. 一塊兒出了花園子的門，把門倒插上了，走起來就如同粗風暴雨似的。(16)

18. 那王家的人就分一半兒人去救火，一半兒人去追賊，可就把這群強盜四面圍住了。(17)

19. 房德就在那打躺下的人裡頭了，就拿繩子把他們都捆上了，趕到天亮，就把他們送到府尹衙門裏頭去了。(17)

20. 房德就在那打躺下的人裡頭了，就拿繩子把他們都捆上了，趕到天亮，就把他們送到府尹衙門裏頭去了(17)

21. 這一天李勉正坐早堂的時候，府尹就把這個盜案交派下來了，連十幾個強盜，帶五六個受傷的莊客，一塊兒都送來了。(18)

22. 在雲華寺廟裏避雨來着，叫這群強盜把我誑了去，立逼着我入夥。(19)

23. 我實在是出於無奈，就把怎麼畫鳥兒，怎麼入夥，前後的事細細兒的說了一遍。(19)

24. 大家都走了，退堂之後，就把獄卒王太叫進內堂裏去了。(20)

25. 也是多虧李勉審出寃情來，把他放出來了，就留在衙門裡服役。(20)

26. 這個時候李勉把他叫到內堂裡來，就和他說，剛纔這夥子強盜裏頭有一個叫房德的，我看他相貌魁偉，說話響亮，是個沒遇時的豪傑。(20)

27. 有心要把他救出去，無奈又不能當堂把他開放了，我打算把這件事托附在你的身上，你可以看那時方便，就放他逃跑罷。(21)

28. 有心要把他救出去，無奈又不能當堂把他開放了，我打算把這件事托附在你的身上，你可以看那時方便，就放他逃跑罷。(21)

29. 有心要把他救出去，無奈又不能當堂把他開放了，我打算把這件事托附在你的身上，你可以看那時方便，就放他逃跑罷。(21)

30. 你把這三兩銀子給他作盤費，叫他上遠遠兒的地方躲着去罷。(21)

31. 這個不怕，趕你把他放走了之後，你趕緊的把你的妻子接到我衙門裏住來，我出文書申報上司，把罪都歸在你的身上，自然就沒他們的事了。(21)

32. 這個不怕，趕你把他放走了之後，你趕緊的把你的妻子接到我衙門裏住來，我出文書申報上司，把罪都歸在你的身上，自然就沒他們的事了。(21)

33. 這個不怕，趕你把他放走了之後，你趕緊的把你的妻子接到我衙門裏住來，我出文書申報上司，把罪都歸在你的身上，自然就沒他們的事了。(21)

34. 這麼着他把銀子藏起來，就趕緊的出了衙門，到獄裡去。(22)

35. 小牢子聽這話，就把他們散放在各處了。(22)

- 36.王太就把房德帶到了個僻靜地方去，把本官放他的意思細細兒的告訴了他一遍，把那三兩銀子也給了他了。(22)
- 37.王太就把房德帶到了個僻靜地方去，把本官放他的意思細細兒的告訴了他一遍，把那三兩銀子也給了他了。(22)
- 38.王太就把房德帶到了個僻靜地方去，把本官放他的意思細細兒的告訴了他一遍，把那三兩銀子也給了他了。(22)
- 39.趕王太看見大家正那兒手忙腳亂的這個工夫兒，就趕緊的過來，給房德把鎖開了，又把他自己的舊衣服帽子給他穿戴好了，然後把他帶到獄門口兒，恰巧那個時候裏外連一個人也沒有。(23)
- 40.趕王太看見大家正那兒手忙腳亂的這個工夫兒，就趕緊的過來，給房德把鎖開了，又把他自己的舊衣服帽子給他穿戴好了，然後把他帶到獄門口兒，恰巧那個時候裏外連一個人也沒有。(23)
- 41.趕王太看見大家正那兒手忙腳亂的這個工夫兒，就趕緊的過來，給房德把鎖開了，又把他自己的舊衣服帽子給他穿戴好了，然後把他帶到獄門口兒，恰巧那個時候裏外連一個人也沒有。(23)
- 42.王太就把房德推出獄門去了，房德就邁開了腳步，也顧不得高低，也不敢回家去，趕緊的出了城。(23)
- 43.看見房德長的氣派，說話又响亮，就很投緣，就把他收留下了。(24)
- 44.房德在那兒住了些日子，暗之中打發人到家裏，把他媳婦也接了去了。(24)
- 45.且說這天晚上王太假粧着家裡有事要回去，就吩咐小牢子們好好兒的照應着，把鑰匙也交給他們了，他可就出了獄門。(24)
- 46.到了家裡，把東西趕緊的歸着了歸着，就偷偷兒的帶着女人孩子，躲到李勉衙門裡去了。(24)
- 47.小牢子聽這話有理，就使勁的把屋門端下來了，趕進去一瞧，是拿一根棍子頂着門了。(26)
- 48.他既走了，就把這件事都推在他身上就結了。(26)
- 49.這麼着他還照舊的把屋門帶好了，也不回獄裡去，就一直的奔畿尉衙門來了。(26)
- 50.可巧李勉正坐早堂問案哪，小牢子就上去，把這件事稟明了。(26)
- 51.你們到各處找他一找去，若是把他拿着，我一定重賞你們。(27)
- 52.皇上看了摺子，就下了一道旨意，把李勉革職，一面懸賞嚴拿房德。(27)
- 53.李勉就把印信文卷都交代給新任的官了，趕緊的把自己的東西都歸着好了，就把王太藏在女眷裡頭，一同起身回家去了。(27)

- 54.李勉就把印信文卷都交代給新任的官了，趕緊的把自己的東西都歸着好了，就把王太藏在女眷裡頭，一同起身回家去了。(27)
- 55.李勉就把印信文卷都交代給新任的官了，趕緊的把自己的東西都歸着好了，就把王太藏在女眷裡頭，一同起身回家去了。(27)
- 56.李勉就把馬駁到一邊兒躲開了。(28)
- 57.還是別問他倒好，就囑咐王太別言語，把臉兒掉過來，讓他過去罷。(29)
- 58.恩公見了房德，怎麼不叫一聲兒，倒把臉兒掉過去了呢，差一點兒錯過去。(29)
- 59.又叫人告訴廚房，預備上等的酒席，把李勉的四個牲口，又叫人拉到馬棚裏去，給餵好了。(30)
- 60.王太把行李也都搬進來了，房德又叫人出去傳話，叫兩個家人來服侍。(31)
- 61.房德把李勉讓進書房去了，他就趕緊的搬過一張椅子來，放在當中，請李勉坐下了。(32)
- 62.我本是該死的個囚犯，幸虧恩公把我救出來，又給我盤費逃跑到這兒來，纔活到如今。(32)
- 63.房德拜完了站起來，又給王太作揖道了謝，然後就把王太他們三人帶到廂房裡去坐下。(32)
- 64.我因為把足下放了，後來府尹就把我參革了，我就回家去了，在家裡閒住着也是悶得慌，所以我出來遊覽山水。(33)
- 65.我因為把足下放了，後來府尹就把我參革了，我就回家去了，在家裡閒住着也是悶得慌，所以我出來遊覽山水。(33)
- 66.原來您是因為放我把官壞了，如今我還腆着臉在這兒作官了，寔在是可羞得很。(34)
- 67.可巧遇見了一位舊日的朋友，帶着我見了安節使，就把我留在帳下了，待我很好。(34)
- 68.新近本縣死了，就把我奏補這個知縣的缺了，我寔在是自愧無才濫叨民社。(34)
- 69.若遇見死生緊關節要的時候，就是前頭有油鍋，後頭有刀斧，也不能把我的志氣奪了。(35)
- 70.千萬別被小人所惑，別被小利所誘，就把自己的志氣改了。(35)
- 71.房德就叫底下人，把下首裡那桌席挪到左邊兒去。(36)
- 72.這麼着就叫底下人，把那棹席還照舊挪在對面兒來了，底下人把酒杯筷子都擺好了。(36)
- 73.這麼着就叫底下人，把那棹席還照舊挪在對面兒來了，底下人把酒杯筷子都擺好了。(36)
- 74.房德就叫路信把預備上司的那分鋪蓋拿來了，他親自給鋪好了，又自己去提溜夜壺。

(37)

75. 李勉見他這麼樣兒款待，把公事都耽誤了，心裏頭倒覺着過意不去，住了有十幾天，就要告辭起身。(38)
76. 我就再多住一天就是了，房德把李勉留住了，可就叫上路信，跟着到內堂裡去，打算要預備些個禮物送給李勉。(39)
77. 誰知道他這麼一來，可就差一點兒把李畿尉的命給害了。(39)
78. 單說房德的媳婦兒貝氏，先頭裏房德窮的時候兒，事事都由他作主，所把他的皮氣慣壞了。(40)
79. 因為那天他男人把兩個家人叫了出去了，一連十幾天也沒見進內堂裏來，他當是房德瞞着他作甚麼事情了，心裏頭就很有氣。(40)
80. 幸虧我的眼快瞧見了，就把他請到衙門裏來，盤桓了這麼幾天。(40)
81. 就是先頭裡救我命的那位畿尉李老爺，因為他把我放了，把他帶累的官也壞了。(41)
82. 就是先頭裡救我命的那位畿尉李老爺，因為他把我放了，把他帶累的官也壞了。(41)
83. 爾怎麼說出這宗小氣話來了，爾想他把我的命救了，又給我盤纏，又因為我壞的官。(42)
84. 古人有言，大恩不報，不如今兒晚上得手把他害了就結了。(44)
85. 所以我出去求告親友去，纔遇見那夥子賊，把我誑了去入夥，差一點兒把命沒了。(45)
86. 所以我出去求告親友去，纔遇見那夥子賊，把我誑了去入夥，差一點兒把命沒了。(45)
87. 若不是這位恩人捨了自己的官，把我放出來，如今夫妻怎麼團圓，(45)
88. 爾說當初我不肯把布給爾，所以爾如今還記着我了。(45)
89. 我打算學這段故事，也把爾激發成了名，想不到爾的運氣不好，纔遇見那夥子賊。(46)
90. 他還不肯順情順理的把他放了，何況他和爾素日又不認得。(46)
91. 怎麼他就肯捨了自己的官，把爾放了呢。(46)
92. 他必然是知道爾是個強盜頭兒，一定有些個贓物，他指望着把爾放了，爾可以暗之中拿些個財帛去孝敬他，他就花幾個錢打點打點。(46)
93. 他若不是這個心意，怎麼爾們那一夥子人，他單把爾放了呢。(47)
94. 無奈他不知道爾是頭一回作賊，是個窮鬼，趕他把爾放了，爾可就跑了，他的官也壞了。(47)
95. 他還怕耽誤了我的公事，把臉兒掉過去了，不肯招呼我，並不是特意來找我來的，爾別混疑惑人了。(47)
96. 爾說他把臉兒掉過去，不肯招呼爾，那是他試探爾了，看爾理他不理他，那正是他奸詐的地方。(48)

97. 爾如今若是報答輕了他，他翻過臉來，把舊案說出來，那個時候不但爾的官壞了，還恐怕把爾拿了去，按着越獄的強盜治罪，可就連性命都許沒了。(49)
98. 爾如今若是報答輕了他，他翻過臉來，把舊案說出來，那個時候不但爾的官壞了，還恐怕把爾拿了去，按着越獄的強盜治罪，可就連性命都許沒了。(49)
99. 爾一個不滿他的意，他就把舊案翻出來，爾還是脫不了他的手，終久可不定是怎麼了局。(49)
100. 爾想他的家人肯給爾瞞哄麼，一定是要把爾先頭裡的事寔說出來，爾想這衙門人的嘴，那個不利害呀。(50)
101. 他到那兒去，能不把爾的事情說出來麼。(51)
102. 所以暗之中囑咐王太他們，別把他先頭裏的事，告訴衙門裡人說。(51)
103. 正碰在他的心病上，可就報恩的心，扔在九霄雲外去了，就直誇他媳婦兒說，還是夫人想得周到。(51)
104. 我倒差一點兒把我自己害了。(52)
105. 趕明兒個大家看不見他了，豈不疑惑麼，況且把那個屍首挪到那兒去呢。(52)
106. 其餘的人，爾都把他們打發出去，然後把他們主僕灌醉了，趕到夜靜的時候，爾打發個人去，把他們刺死，然後把書院放火一燒，明兒個找出些個骨頭來，爾就假哭一場。(52)
107. 其餘的人，爾都把他們打發出去，然後把他們主僕灌醉了，趕到夜靜的時候，爾打發個人去，把他們刺死，然後把書院放火一燒，明兒個找出些個骨頭來，爾就假哭一場。(52)
108. 其餘的人，爾都把他們打發出去，然後把他們主僕灌醉了，趕到夜靜的時候，爾打發個人去，把他們刺死，然後把書院放火一燒，明兒個找出些個骨頭來，爾就假哭一場。(52)
109. 其餘的人，爾都把他們打發出去，然後把他們主僕灌醉了，趕到夜靜的時候，爾打發個人去，把他們刺死，然後把書院放火一燒，明兒個找出些個骨頭來，爾就假哭一場。(52)
110. 他還怕是他男人出去，再和李勉一說話兒，又把主意改了。(52)
111. 趕他聽到貝氏出主意，叫房德把李勉主僕灌醉了，半夜裏打發人去刺死他們，放火燒房子，可就嚇了一大跳。(53)
112. 敢情我們主人先頭裡作過強盜啊，幸虧這位老爺把他命救了，如今他倒恩將仇報，天良何在呀。(53)
113. 我爲甚麼不去把那四個人的命救了，也是一點兒陰功。(54)

114. 又一想，我若是把他們放走了，主人一定不肯饒我，不如我也跟着他們一塊兒走了就結了。(54)
115. 我有甚麼災禍呀，路信就把李勉拉到一邊兒，把剛纔所聽見的話，一五一十的全都告訴他了。(55)
116. 我有甚麼災禍呀，路信就把李勉拉到一邊兒，把剛纔所聽見的話，一五一十的全都告訴他了。(55)
117. 路信說，等小的去把他們找來。(56)
118. 李老爺現在要到西門拜客去，儻快把官馬牽過來，給李老爺騎。(57)
119. 又叫馬夫把那匹馬拉過來，給王太騎上了，三個人一塊兒就出了縣衙門的大門了。(58)
120. 陳顏他們倆人把鞭子和繮繩遞給那倆家人了，那倆家人上了馬，跟着李勉出了西門，又加上兩鞭子。(60)
121. 原來房德因爲他媳婦兒把他留在內堂裡，坐了好大半天，纔出來往書院裡來，恰巧正遇見支成。(61)
122. 復返又進內堂裡去，把這件事告訴他媳婦兒說了。(62)
123. 我想他們也不能走很遠了，快打發幾個心腹人，扮作強盜，連着夜去追上他們，把他們全都殺了，那不乾淨麼。(62)
124. 這麼着房德就把陳顏叫進內堂裏來了，和他商量叫他去辦這件事。(62)
125. 二來倘或半道兒上遇見人，把他們救了，把我們拿住，小的們的性命可就沒了。(63)
126. 二來倘或半道兒上遇見人，把他們救了，把我們拿住，小的們的性命可就沒了。(63)
127. 陳顏就把房德請進他家裡去了，點上了燈坐着，竟等着那個人回來。(65)
128. 這麼着主僕三個人就邁步進去了，那個人就把門關好了，帶着他們三個人到了一所兒房子裡，敢情是一個小小的客廳。(66)
129. 這麼着他就叫陳顏支成把禮物擺在桌子上了。(67)
130. 請義士先把禮物收下，然後纔好說話。(67)
131. 所以我斗胆來拜，求義士可憐我房德負屈含冤，出一臂之力，把此賊刺死，我到死也忘不了您的大恩哪。(68)
132. 既這麼樣請坐下，把您被屈的事和仇人的姓名，還有那仇人現在在甚麼地方了，您細細的告訴我說。(69)
133. 房德就編出一套謊話說，李勉當初誣賴他是強盜用非刑拷打他，把他下在獄裏，好幾回打發牢頭王太到獄裏去。(69)
134. 打算把他害死，因爲都叫人知道了，所以沒能害死。(69)

- 135.幸虧後任的官審明他是冤屈，把他放了，如今在這兒作官。(69)
- 136.如今是往常山去，打算挑唆顏太守來擺布他，把這套話他編造的利害的了不得。(70)
- 137.我今兒個晚上可以到常山那條路上去，找着這個賊把他殺了，替足下報仇，三更天我可以到衙門去復命。(70)
- 138.這麼着他們主僕三個人就把禮物照舊的拿回衙門去了，打算等那個人回來再送給他罷。(71)
- 139.大家都下了馬，進店裡頭去了，把鞍子都揭了，叫店家把馬都拉到馬棚裡餵上了。(72)
- 140.大家都下了馬，進店裡頭去了，把鞍子都揭了，叫店家把馬都拉到馬棚裡餵上了。(72)
- 141.這麼着店家就拿着燈，把他們帶到那間屋裡去了。(72)
- 142.您怎麼忽然把行李扔下了，同着路管家，彷彿逃難的似的，直往這麼趕，受這樣的辛苦，這是爲甚麼呢。(73)
- 143.等我細細的告訴爾說，他就把當初房德怎麼作過強盜，犯了案了，送到他衙門去，他怎麼可憐他，暗之中叫王太給他盤費，把他放跑了，後來自己因爲這個壞的官，如今是要到常山訪顏太守去，路過柏鄉縣，在半道兒上遇見房德了，把他讓到衙門去，怎麼款待他，後來他受了他媳婦兒的挑唆，怎麼想法子要害他，幸虧路信給他報信，所以他趕緊的逃跑出來了，就把這件事始末根由、細細的說了一遍。(74)
- 144.暗之中叫王太給他盤費，把他放跑了。(74)
- 145.在半道兒上遇見房德了，把他讓到衙門去，怎麼款待他。(74)
- 146.就把這件事始末根由、細細的說了一遍。(74)
- 147.那個人就伸手把李勉拉起來了說，不必害怕。(75)
- 148.誰知道他敢情是個狼心狗肺忘恩負義的人，幸虧剛纔您把這個緣故說出來了，不然可就把您錯殺了。(75)
- 149.誰知道他敢情是個狼心狗肺忘恩負義的人，幸虧剛纔您把這個緣故說出來了，不然可就把您錯殺了。(75)
- 150.兩口子點着燈等着，把陳顏也留在內堂裡了。(76)
- 151.就見那個義士忽然就翻了臉了，颯的一聲把寶劍就拔出來，指着房德的臉罵着說，爾這負心的賊子。(77)
- 152.我把爾這負心賊剛一萬刀，纔出我這一肚子不平的氣了。(77)
- 153.說話之間跳起來一腳，就把貝氏踢躺下了，拿左腳跼住他的頭髮，拿右腿壓住了他的兩條腿。(78)



- 154.說話之間拿起寶劍來，就起他胸脯子上一刺，直刺到肚臍子底下，把寶劍擱在嘴裡叨着，然後拿兩隻手，把肚子就掰開了，起肚子裏頭把五臟都掏出來了，拿在燈底下一照，他就說，我當是這個狗婦的心肝肺和別人的不一樣了，敢情也是一個樣。(78)
- 155.說話之間拿起寶劍來，就起他胸脯子上一刺，直刺到肚臍子底下，把寶劍擱在嘴裡叨着，然後拿兩隻手，把肚子就掰開了，起肚子裏頭把五臟都掏出來了，拿在燈底下一照，他就說，我當是這個狗婦的心肝肺和別人的不一樣了，敢情也是一個樣。(78)
- 156.說話之間拿起寶劍來，就起他胸脯子上一刺，直刺到肚臍子底下，把寶劍擱在嘴裡叨着，然後拿兩隻手，把肚子就掰開了，起肚子裏頭把五臟都掏出來了，拿在燈底下一照，他就說，我當是這個狗婦的心肝肺和別人的不一樣了，敢情也是一個樣。(78)
- 157.這麼着他就扔在一邊兒了，又拿寶劍把兩顆人頭刺下來了，拴在一塊兒，裝在一個皮口袋裡頭了，把手上的血和寶劍上的血都擦乾淨了，然後提溜起皮口袋來，出到院子裡，就跳牆走了。(79)
- 158.這麼着他就扔在一邊兒了，又拿寶劍把兩顆人頭刺下來了，拴在一塊兒，裝在一個皮口袋裡頭了，把手上的血和寶劍上的血都擦乾淨了，然後提溜起皮口袋來，出到院子裡，就跳牆走了。(79)
- 159.負心賊已經叫我給開膛破肚了，如今我把首級拿來了。(79)
- 160.李勉就把先前的事都告訴他說了，顏太守聽這話詫異的了不得。(81)
- 161.過了兩天柏卿縣的縣丞就把知縣夫妻被殺的事，詳報府裡來了。(81)
- 162.陳顏就把房德要害李勉，求那個義士去行刺的始終根由，說了一遍。(82)
- 163.所以他們就把寔情瞞起來了，就說是半夜裡有賊進衙門裡去，把知縣兩口子殺了，把首級拿了走了，沒地方拿兇手去。(82)
- 164.所以他們就把寔情瞞起來了，就說是半夜裡有賊進衙門裡去，把知縣兩口子殺了，把首級拿了走了，沒地方拿兇手去。(82)
- 165.所以他們就把寔情瞞起來了，就說是半夜裡有賊進衙門裡去，把知縣兩口子殺了，把首級拿了走了，沒地方拿兇手去。(82)
- 166.直比王侯家還闊，又把家樂叫出來，在院子裏作起樂來了。(84)
- 167.李勉也把王太路信都提拔作了一個小官兒了。(85)

②<十三郎五歲朝天> (1904年)

“把”構文の例文

1. 這麼着王大人就吩咐一個家人王吉把小少爺背着，跟夫人一塊兒看燈去。(87)
2. 忽然他覺得身上輕省了些個了，把脖子伸了一伸，腰直了一直，可就鬆快多了。(88)

3. 王吉說就是剛纔正亂的那個時候，不知道是誰起我身上，把他接了去了，我想必是僭們宅裏的人，見我累得慌了，把小少爺抱了去了，為的是叫我輕省些個。(89)
4. 王吉說就是剛纔正亂的那個時候，不知道是誰起我身上，把他接了去了，我想必是僭們宅裏的人，見我累得慌了，把小少爺抱了去了，為的是叫我輕省些個。(89)
5. 爾怎麼這麼不小心呢，爾在那人群兒裏把小少爺丟了，爾倒跑到外頭瞎找來僭們，還是大家到人群兒裏找去罷。(89)
6. 內中就有一個人說，或者是僭們的那個夥伴兒，把他抱回宅裏去了罷，又有一個人說，僭們宅裏的人都在這兒了，可是誰把他抱了去了呢。(90)
7. 內中就有一個人說，或者是僭們的那個夥伴兒，把他抱回宅裏去了罷，又有一個人說，僭們宅裏的人都在這兒了，可是誰把他抱了去了呢。(90)
8. 這麼着大家就把王吉背着小少爺逛燈去丟了的話，說了一遍，這個工夫兒，王吉就跪在地下，直磕頭請罪。(91)
9. 這麼着他們又都出來，到了帷幙裏去，把這件事稟知夫人知道了，夫人聽這話，就嚇了一大跳。(92)
10. 若是那拐子，把人家的孩子拐了去，或是把孩子的眼睛給弄瞎了，或是把兩隻腳給砍掉了，然後叫他粧作叫街的，到大街上各處要錢去。(93)
11. 若是那拐子，把人家的孩子拐了去，或是把孩子的眼睛給弄瞎了，或是把兩隻腳給砍掉了，然後叫他粧作叫街的，到大街上各處要錢去。(93)
12. 若是那拐子，把人家的孩子拐了去，或是把孩子的眼睛給弄瞎了，或是把兩隻腳給砍掉了，然後叫他粧作叫街的，到大街上各處要錢去。(93)
13. 現在若不快打發人把小少爺找回來，可恐怕叫人給害了，大家聽這話，都是哭哭啼啼的。(93)
14. 忽然有一個人，擠到王吉的身傍邊兒，輕輕兒的伸手，起王吉的身上，把南陔接過去，也背在身上了。(94)
15. 他知道這必是個拐子，要把我拐了走，打算要嚷罷，往左右瞧了一瞧，都是不認得的人，連一個熟人也沒有。(94)
16. 我總得先想個法子把我的帽子藏起來，別叫他搶了去，這麼着他就伸手起頭上把帽子摘下來。輕輕兒的褪在袖子裏，也不言語也不心慌，就由着他背着走。(95)
17. 我總得先想個法子把我的帽子藏起來，別叫他搶了去，這麼着他就伸手起頭上把帽子摘下來。輕輕兒的褪在袖子裏，也不言語也不心慌，就由着他背着走。(95)
18. 那個拐子忽然聽見背着的小孩子大聲的一嚷，可就嚇了一大跳，他怕人把他拿住，趕緊的把南陔擱在地下，解人群兒裏跑了。(95)

19. 那個拐子忽然聽見背着的小孩子大聲的一嚷，可就嚇了一大跳，他怕人把他拿住，趕緊的把南陔攔在地下，解人群兒裏跑了。(96)
20. 他就掀開轎帘子一看，是個很體面的小孩子，心裏很樂，就吩咐住轎，把南陔抱到轎子裏，就問他說爾是打那兒來了的。(96)
21. 那個官見他說話明白，很喜歡就哄他說，爾別害怕，先跟我去，這麼着就把他攔在懷裏，就起轎進了東華門，一直的進宮裏頭去了。(96)
22. 這麼着就把他抱進宮裏去了，趕到了大內裡那中貴大人，就吩咐手底下的一個太監把南陔帶到自己的屋裏去，給他菓子吃，拿被窩給他蓋好了。(97)
23. 這麼着就把他抱進宮裏去了，趕到了大內裡那中貴大人，就吩咐手底下的一個太監把南陔帶到自己的屋裏去，給他菓子吃，拿被窩給他蓋好了。(97)
24. 那個太監很喜歡就說，大人請放心小的知道，這麼着就把南陔帶了走了。(97)
25. 走到東華門，正遇見有失落的一個小孩子，奴才們就暫且把他帶進宮來了。(97)
26. 聖心大悅，就傳旨叫中貴，把小孩子帶來見一見，那中貴大人遵旨，就到了自己的屋裡，把南陔抱起來，就告訴他說，我現在帶爾見駕去，爾可別害怕。(98)
27. 聖心大悅，就傳旨叫中貴，把小孩子帶來見一見，那中貴大人遵旨，就到了自己的屋裡，把南陔抱起來，就告訴他說，我現在帶爾見駕去，爾可別害怕。(98)
28. 他也不慌也不忙，就起袖子裏把他的那頂帽子拿出來，戴在頭上。(98)
29. 瞻仰聖容，因為人多亂雜，就有一個拐子把我起底下人身上背了走了。(99)
30. 趕走到東華門，正遇見侍臣就大聲的一嚷救人，那個拐子就趕緊的把我攔在地下跑了，這麼着臣就跟着中貴大人進宮來。(99)
31. 我如今打算派人，把爾送回家去交給爾父母，無奈就是那個拐子沒地方兒拿去。(99)
32. 南陔說臣被拐子背去之後，一細看知道不是家裡的人了，可就把我的這頂帽子，摘下來藏好了。(100)
33. 這麼着臣就拿那個針線，在他的領子上縫了一道線，把那個針插在裡頭了，作為是暗記兒。(100)
34. 那就是昨兒晚上的那個拐子，就可以把他拿住了，皇上聽這話很驚訝。(100)
35. 朕若是不把那個拐子拿住，真連這個孩子都不如了。(100)
36. 我把那個拐子拿住，再把爾送回去，又和傍邊兒的內監說，像這樣兒的異樣的孩兒，不可以不叫宮裏的人見一見。(100)
37. 我把那個拐子拿住，再把爾送回去，又和傍邊兒的內監說，像這樣兒的異樣的孩兒，不可以不叫宮裏的人見一見。(100)
38. 外邊有一個很好的小孩子，卿可以把他帶進宮裡去，替朕照應幾天，作為是得子之佳

兆。(101)

39. 卿要知道這件事情的詳細，可以把這個孩子帶到宮裡去一問他，他都可以說出來，這麼着皇后就把南陔帶進宮去了。(101)
40. 卿要知道這件事情的詳細，可以把這個孩子帶到宮裡去一問他，他都可以說出來，這麼着皇后就把南陔帶進宮去了。(101)
41. 捧旨到開封府，吩咐快派人，把那個拐子拿來，趕府尹奉了旨意，一點兒也不敢耽悞，就把一個馬快姓何的，叫進去吩咐他說。(101)
42. 捧旨到開封府，吩咐快派人，把那個拐子拿來，趕府尹奉了旨意，一點兒也不敢耽悞，就把一個馬快姓何的，叫進去吩咐他說。(101)
43. 現在奉到密旨，給爾三天的限，要把元宵節晚上那個拐子拿來。(102)
44. 府尹就把何馬快，叫到跟前兒去。(102)
45. 我管保三天之內，準可以把那個拐子拿來。(102)
46. 忽然瞧見宅裡有一個底下人，把小少爺背出來了。(103)
47. 他就慢慢兒的鑽進去了，挨到王吉的身傍邊兒，輕輕兒的把小少爺接過去，背上就走。(104)
48. 小少爺一嚷救人，他可就嚇了一大跳，趕緊的把孩子擱在地下就跑了。(104)
49. 大家都問他怎麼會沒偷着甚麼呢，他就把這個緣故說出來了，大家都說當初爾就該竟把那頂帽子偷來就結了。(104)
50. 大家都問他怎麼會沒偷着甚麼呢，他就把這個緣故說出來了，大家都說當初爾就該竟把那頂帽子偷來就結了。(104)
51. 況且又是一個四五歲的孩子，也可以賣幾吊錢，怎麼肯不把他拐來呢。(105)
52. 那群賊連一個也沒跑都拿住了，這麼着就立刻把他們都捆上了，又一搜他們的身上，全有贓物，就把他們一直的解到開封府去了。(107)
53. 那群賊連一個也沒跑都拿住了，這麼着就立刻把他們都捆上了，又一搜他們的身上，全有贓物，就把他們一直的解到開封府去了。(107)
54. 爾這麼個大賊，沒想到會叫一個小孩子把爾算計了，這也是爾的報應。(108)
55. 這個拐子聽這話，纔知道是叫那個小孩子，把他算計了，沒法子支吾了。(108)
56. 爾們這轎子，現在若是還沒買賣了，可以把這位姑娘送到王府裡去，我可以多給些個酒錢。(110)
57. 這麼着那倆轎夫就把轎子抬起來，飛似的就走了。(110)
58. 看見帷幙燒着了可就帶着使喚丫頭們捨命的一擠，把帷幙擠躺下了纔跑出來，連夫人帶丫頭們，都擠得披頭散髮。(111)

59. 我和爾有夙緣，所以用神力把爾拐到這兒來了。(112)
60. 這個工夫兒，就過來了倆小鬼，把他揪住了就說，快拿壓驚的酒來。(113)
61. 兩傍的那些小鬼，也都過來了，大家就把衣服都脫下來了，把鬼臉兒也摘下來了。  
(113)
62. 兩傍的那些小鬼，也都過來了，大家就把衣服都脫下來了，把鬼臉兒也摘下來了。  
(113)
63. 原來是一夥子賊，特意粧作鬼的樣子嚇唬他，又拿蒙汗藥酒，把他迷惑住了，這麼着大家就把他抬到後頭去。(113)
64. 原來是一夥子賊，特意粧作鬼的樣子嚇唬他，又拿蒙汗藥酒，把他迷惑住了，這麼着大家就把他抬到後頭去。(113)
65. 那個老婆子就說，昨兒晚上衆好漢，把姑娘送到這兒來了，爾也不用着急。(114)
66. 這麼着這個時候，他把真珠姬留在他家裡，竟拿好話安慰他。(115)
67. 這個老婆子就顧了一頂轎子來，把真珠姬抬了走了。(115)
68. 敢情是這個婆子，把真珠姬賣到城外頭，一個財主家裡作妾去了。(115)
69. 真珠姬見問，不由得就大聲的一哭，把當初怎麼叫人拐來的話都說出來了。(116)
70. 若是他們供出是把人藏在我家裡了，那可不是天大的禍麼。(116)
71. 這麼着他就想了一個法子，叫過倆底下人來，吩咐他們把家裡的一頂破竹轎子，抬出來拾掇好了，然後他就把真珠姬請出來。(117)
72. 這麼着他就想了一個法子，叫過倆底下人來，吩咐他們把家裡的一頂破竹轎子，抬出來拾掇好了，然後他就把真珠姬請出來。(117)
73. 我並不知情，如今我情願意把身價銀子不要了。(117)
74. 諸事求您遮蓋些個，千萬別把我連累上纔好哪。(117)
75. 真珠姬一聽要把他送回府裡去，立刻就眉開眼笑的，又見那個財主作揖行禮的，賠不是，心裡倒很過意不去。(117)
76. 到了一個荒郊野外的地方，那倆抬轎的就把轎子放下，趕緊抽身跑了。(118)
77. 不知道那個財主，為甚麼把我扔到這個地方來，倘或再遇見歹人便怎麼好呢。(118)
78. 在轎子裏撒潑打滾的一鬧，把頭也碰散了，這個時候正是三月裡，常有人出城逛青兒去，就有人瞧見。(118)
79. 我是宗王府裡的小姐，是叫拐子把我拐到這兒來的，若是有人到王府裡報信去，必得重賞的。(119)
80. 這麼着就趕緊的，抬了一頂轎子來，把真珠姬抬回府裏去了。(119)
81. 彼此就哭了個死去活來，趕哭完了真珠姬纔把當初怎麼叫賊拐了去的，怎麼轉賣給

- 一個財主家裡，如今是怎麼回來的這些個話，一五一十的全說了。(120)
82. 那群賊內中有幾個受刑不過了，把宗王府的那案事也都招了，連那個姑子帶那個牙婆子，都供出來了。(121)
83. 這麼着就派差把那個姑子，和那個牙婆子全拿來了。(121)
84. 府尹就吩咐衙役，把他們每人打了六十板子，下在獄裡去了。(121)
85. 趕這旨意一下來，開封府府尹，就立刻把那群犯人和姑子牙婆，都綁到法場去殺了。(124)
86. 且說皇后那天奉旨，叫把南陔帶到宮裡去，好好兒的撫養，以應得子之兆。(124)
87. 皇后很愛他，就把他抱在懷裡，叫宮女拿過梳頭匣子來，給他梳頭洗臉。(125)
88. 現在把那群賊都正法了。(125)
89. 朕的意思，現在要打發人把他送回去。(125)
90. 宣那天帶南陔進宮來的那個中貴大人，叫他到正宮裡來，把他送回家去。(125)
91. 中貴大人把那御賜的東西，攔在車上。(127)
92. 中貴大人就說，先別吵嚷聽宣旨意，這麼着中貴大人，就走到上面，把旨意打開。(128)
93. 趕中貴大人念完了旨意，王大人謝了恩，然後把旨意請過來，這纔讓坐敘談。(128)
94. 這個工夫兒南陔在傍邊兒，就把這件事始末根由，細細兒的說了一遍。(129)
95. 那中貴大人，就把皇上頒賜壓驚的賞物，還有皇后和衆妃嬪所賞的各物，都擺在桌子上。(129)
96. 王大人趕緊的道了謝，把禮物收下了。(130)

#### “將”構文の例文

97. 將該拐犯等護解前來。(122)
98. 國法，而倣效尤，相應請旨，將該拐犯暨尼僧牙婆等，綁赴市曹即行處斬。(123)
99. 茲據奏稱，業將該犯等拿獲到案，訊取確供、並究出該犯等。(123)
100. 請旨將該犯等，從嚴懲治等語。(124)
101. 將該犯及尼僧牙婆等，即行處斬，以昭炯戒、欽此。(124)
102. 諭王韶知悉前因卿之子失迷，經內監救回送至宮中，今特將伊送還於卿，並頒賜壓驚賞物一匣，以示優眷欽此。(128)

#### ③<沈小霞相會出師表> (1911年)

1. 他把大學士夏言讒害了之後，就陞爲首相了。(1)

- 2.從小的時候兒，最敬慕諸葛武侯的人品，他把前後出師表，天天兒要念，又抄寫了一百多篇，把屋裏牆上都貼滿了，每逢喝酒之後，念到鞠躬盡瘁，死而後已那兩句，他就長嘆已聲，大哭一場。(2)
- 3.從小的時候兒，最敬慕諸葛武侯的人品，他把前後出師表，天天兒要念，又抄寫了一百多篇，把屋裏牆上都貼滿了，每逢喝酒之後，念到鞠躬盡瘁，死而後已那兩句，他就長嘆已聲，大哭一場。(2)
- 4.那嚴世蕃就出了席過來，把馬給諫的耳朵揪住，硬把酒灌下去了。(3)
- 5.那嚴世蕃就出了席過來，把馬給諫的耳朵揪住，硬把酒灌下去了。(3)
- 6.沈鍊一看，滿肚子不平之氣，他就離開了座位，把那箇大酒杯搶在手裏，滿滿的斟了一杯酒，就讓嚴世蕃說，馬給諫蒙老先生賜酒，已經醉了，不能回敬，我可以替他回敬一杯罷。(3)
- 7.沈鍊就揪住他的耳朵，把酒給他灌下去了，就把那杯扔在桌子上了。(3)
- 8.沈鍊就揪住他的耳朵，把酒給他灌下去了，就把那杯扔在桌子上了。(3)
- 9.那摺子裏頭就說，嚴嵩父子攬權納賄，欺君悞國，十條大罪，請皇上把他殺了，以戒天下。(4)
- 10.嚴世蕃託附錦衣衛，要把沈鍊打死。(4)
- 11.他極力的關照，打了一百棍，就可不很利害，然後就把他發到保安州去爲民。(4)
- 12.賈石也叫他家裏的人出來，把沈太太迎接裏頭去安置。(6)
- 13.說完了他就吩咐人，就把細軟的東西都搬了走，下剩平常使的傢伙，都留下了，給沈公用。(6)
- 14.他那兒想到早就有人把這事，報知嚴嵩父子了。(8)
- 15.他們父子心裏很恨他，打算要找點兒事，把沈鍊殺了纔好。(8)
- 16.可巧宣大總督見缺了，嚴嵩就托附吏部，把他的乾兒子楊順派去做總督。(8)
- 17.暗中叫將官把避難的良民殺了些個，假作是韃子的首級，送到兵部去請功。(8)
- 18.楊順看了這封信很生氣，把信撕了個粉碎。(9)
- 19.那楊總督標下有箇心腹指揮，名叫羅鎧，就把詩和祭文都抄好了，暗中給楊順送去了。(9)
- 20.楊順看了更恨沈鍊了，可就把詩竄改了幾箇字說。(9)
- 21.世蕃看了信，嚇了一跳，就把心腹人御史路楷請來，和他商量怎麼辦。(10)
- 22.趕到了任，見了楊順，就把世蕃托帶的話，都說明白了。(11)
- 23.學生也是早晚的思想，總沒箇好法子把這箇人置之於死地。(11)
- 24.楊順就吩咐把解官叫進來。(11)
- 25.二來他要借這箇題目，把沈鍊羅織裡頭。(11)
- 26.這天晚上，就把路楷進來，在後堂商量。(12)
- 27.如今拿住他們了，請皇上旨意，把他們正法，以絕後患。(12)

- 28.這麼著兩人就把稟帖奏摺都寫好了，就發了走了。(12)
- 29.單說楊順自從發了摺子之後，他就派人把沈鍊拿來，下在獄裡了。(12)
- 30.倆少爺就把賈石的話，告訴他母親了。(13)
- 31.楊順恐怕把(他)綁出去殺他，在大眾面前一罵，實在的不好看，這麼著就囑咐管獄官，遞了一箇病呈，把他的命害了就完了。(13)
- 32.楊順恐怕把(他)綁出去殺他，在大眾面前一罵，實在的不好看，這麼著就囑咐管獄官，遞了一箇病呈，把他的命害了就完了。(13)
- 33.賈石知道沈鍊死了，他就託人把死屍買出來了。(14)
- 34.無奈家母總想著等事情稍微消停一點兒，把靈樞搬回去。(14)
- 35.且說路楷見旨意已經到了，就起獄裡，把白浩他們提出來殺了，並且還要把沈鍊的頭割下來，一塊兒示衆。(15)
- 36.且說路楷見旨意已經到了，就起獄裡，把白浩他們提出來殺了，並且還要把沈鍊的頭割下來，一塊兒示衆。(15)
- 37.趕把妖人都殺完了，楊順和路楷說，當初嚴東樓應許我事成之後，以候伯世爵酬謝我。(15)
- 38.奉憲牌派人把沈鍊的家眷和平常來往的人，都要按名查拿，就是賈石他有先見之明，算是脫了那箇難了。(16)
- 39.楊順看見把沈袞他们都拿來了，就親子審問他們，叫他們招定了勾通韃虜的事。(16)
- 40.叫他在半路上得便，把沈襄謀害了。(17)
- 41.金紹就把他們倆人叫來，賞他們酒飯，又賞給他們二十兩銀子，就把楊順路楷的意思告訴他們了，還囑咐他們在路上把沈襄謀害死，回來必有重賞的。(18)
- 42.金紹就把他們倆人叫來，賞他們酒飯，又賞給他們二十兩銀子，就把楊順路楷的意思告訴他們了，還囑咐他們在路上把沈襄謀害死，回來必有重賞的。(18)
- 43.金紹就把他們倆人叫來，賞他們酒飯，又賞給他們二十兩銀子，就把楊順路楷的意思告訴他們了，還囑咐他們在路上把沈襄謀害死，回來必有重賞的。(18)
- 44.忽然這一天本府的差人來了，就把他鎖了去了。(18)
- 45.到了府衙門的大堂上，知府就把來的文書給他看了，然後就把回文和犯人，就交給原差了。(18)
- 46.到了府衙門的大堂上，知府就把來的文書給他看了，然後就把回文和犯人，就交給原差了。(18)
- 47.本府已經派司獄去，把家產都封了，把他們家裏的人，全哄出去了。(19)
- 48.本府已經派司獄去，把家產都封了，把他們家裏的人，全哄出去了。(19)
- 49.爾可以把他帶回娘家去，倘或他將來生一個男孩子，沈家也不能絕後了。(19)
- 50.我還有不願意的麼，無奈這一回去，多一半兒不吉，把爾連累的死了，有甚麼益處。(20)



- 51.我可以幫著大爺，到官場中分辯去，一定死不了，就是把您下了獄，有我在外頭，也好照應啊。(20)
- 52.我在這兒不怕，這兩個解差他們還能把我吃了麼。(22)
- 53.可以叫他去要這個銀子，把銀子要來，不是爾我的造化麼。(23)
- 54.雖然是這麼樣，不如等到了店裏，把行李安置好了，我在店裡看著小娘子，爾同他去。(23)
- 55.沈襄就拉住馮主事的袖子說，請年伯到這邊來說一句話，馮主事心裏明白，就把他讓到書房裡去了。(25)
- 56.我的父親和倆兄弟都叫楊路兩個奸賊給害了，如今又行文要把小姪拿去治罪。(25)
- 57.若到太行山的時候兒，把我的命害了，我沒法子脫身，這纔來投奔老年伯來。(25)
- 58.馮主事滿口應許就說，賢姪不用害怕，我可以把爾送到一個地方兒去，暫且住幾天，我自有法子辦。(26)
- 59.如今有紹興前沈公子，名字叫沈襄，號叫小霞，是欽提人犯，是我把他押解來了。( )
- 60.爾說的都是甚麼話，我全不明白，李萬又把那話細說了一遍。( ? )
- 61.他是聞氏催著他叫他來的，他就把公文解批都帶來了，同李萬在這兒等著。(30)
- 62.李萬說，不錯，正是，馮主事就把舌頭一伸說，爾們這倆人真不知道輕重，那沈襄是奉旨交拿的人犯，又是嚴相國的仇人，誰敢留他在家，昨天他多嚙到我家來了，爾們這麼隨便混說，若叫官場中知道，傳到嚴府去，我當得起麼，爾們這兩個人，不知道得了他多少錢，賣放了要犯，反倒訛賴我來。(31)
- 63.這麼著就叫底下人，把那倆解差都打出去，把大門關上，別招惹這些是非，叫嚴府知道，那可不是頑兒的。(31)
- 64.這麼著就叫底下人，把那倆解差都打出去，把大門關上，別招惹這些是非，叫嚴府知道，那可不是頑兒的。(31)
- 65.那些個底下人聽見主人這麼交派，就把張千李萬，立刻都推出大門外頭去了，把門關上了。(32)
- 66.那些個底下人聽見主人這麼交派，就把張千李萬，立刻都推出大門外頭去了，把門關上了。(32)
- 67.李萬就把他自己怎麼出恭，落在後頭了，趕到了馮主事家，起先如此如此，後來是這般這般，一五一十的都說了。(32)
- 68.爾倒和我們要人，難道我們還把他藏起來了麼，氣橫橫的把袖子掙開，就坐在傍邊兒了。(33)
- 69.爾倒和我們要人，難道我們還把他藏起來了麼，氣橫橫的把袖子掙開，就坐在傍邊兒了。(33)
- 70.昨天李頭兒跟他出去一夜沒回來，今兒早起他們倆人自己回來了，一定是把我丈夫給害了。(34)

71. 若果然我們把爾的丈夫謀害了，我們兩人早就走了，可回來這邊做甚麼呢？（35）
72. 那店裏頭瞧熱鬧的人很多，聽聞氏說的話很可憐，都把那兩解差恨入骨髓，就都說，小娘子要去喊冤，我們可以帶爾到兵備道衙門去。（35）
73. 聞氏進了大門，看見架子上頭有一個大鼓，掛著一個鼓槌子，聞氏就把鼓槌子搶在手裏，就把那個鼓打的震天震地的響，嚇的衆軍官跑出來，拿繩子把聞氏栓上了。（36）
74. 聞氏進了大門，看見架子上頭有一個大鼓，掛著一個鼓槌子，聞氏就把鼓槌子搶在手裏，就把那個鼓打的震天震地的響，嚇的衆軍官跑出來，拿繩子把聞氏栓上了。（36）
75. 聞氏進了大門，看見架子上頭有一個大鼓，掛著一個鼓槌子，聞氏就把鼓槌子搶在手裏，就把那個鼓打的震天震地的響，嚇的衆軍官跑出來，拿繩子把聞氏栓上了。（36）
76. 聞氏就躺在地下直嚷，大人冤枉，就聽見裏頭吆喝的聲音，把門開開了，那個王道台，就坐堂，衆軍官把那個婦人帶進來了。（36）
77. 聞氏就躺在地下直嚷，大人冤枉，就聽見裏頭吆喝的聲音，把門開開了，那個王道台，就坐堂，衆軍官把那個婦人帶進來了。（36）
78. 聞氏就哭著說，因爲家裏遭了禍，父子三口都死於非命，就剩了小婦人的丈夫沈襄一個人了，又叫解差在路上給謀害了，把這件事始末根由，說了一遍。（36）
79. 那位道台把張千李萬叫來，問他們這個緣故，他們說一句，聞氏就駁一句，張千李萬簡直的說不過他。（36）
80. 王道台就派衆軍官，把他們押送到本州裏去審問他們。（37）
81. 那位知州姓賀，也不敢耽擱，就派差把那店裏的掌櫃的也傳來了，這麼著就坐堂審問。（37）
82. 聞氏一口咬定，說是那兩解差把他丈夫給謀害了。（37）
83. 張千李萬所不肯招認，知州想了會子，就把他們四個人，分開看押，然後坐轎子去拜馮主事去了，打算要探探他的口氣。（37）
84. 那是嚴相國的仇家，治生雖然和他有年誼，平素並沒有交情，請老父臺不必往下問了，小心嚴府知道，把治生連累了。（38）
85. 趕回到衙門去，又把他們四個人帶上來。（38）
86. 到了今兒早起，他們兩人把屍首埋好了，然後回來，和小婦人說那撒謊的話。（39）
87. 若不是爾們兩人定的計策，把他謀害了，一定就是爾們兩人得了錢，把他賣放了，這麼著就吩咐把他們兩人重打三十板子，他們兩人本來沒有害沈襄，怎麼能招認呢。（39）
88. 若不是爾們兩人定的計策，把他謀害了，一定就是爾們兩人得了錢，把他賣放了，這麼著就吩咐把他們兩人重打三十板子，他們兩人本來沒有害沈襄，怎麼能招認呢。（39）
89. 若不是爾們兩人定的計策，把他謀害了，一定就是爾們兩人得了錢，把他賣放了，這麼著就吩咐把他們兩人重打三十板子，他們兩人本來沒有害沈襄，怎麼能招認呢。（39）
90. 知州就叫拿夾棍來，把他們兩人一連上了兩夾棍，張千李萬兩人受不過刑了，就直哀求說，沈襄實在沒有死，求大老爺給我們限期，我們找沈襄去，還給聞氏就是了。（40）

- 91.知州就勉強的答應了，先把聞氏送到尼姑廟裏去，暫且住著。(40)
- 92.又派了四個民壯，鎖押著張千李萬，帶他們倆人找沈襄去，吩咐五天一比，把店裏掌櫃的放了，回家去了。(40)
- 93.有金紹傳楊總督的交派，叫我們在半路上，把爾丈夫害了，我們嘴裏雖然答應了，可是怎麼能行這宗不仁不義的事呢。(41)
- 94.如今張千是已經打死了，就是再把我打死，也不過是冤枉，就求娘子，您別到州裏去催去，寬了比限，成全我這條狗命，也是您的陰功，將來爾們夫婦自然有見面的日子。(41)
- 95.據爾這麼說，實在沒有把我丈夫給害了，這個話雖然不敢信，我先不到衙門催去，爾可得慢慢兒的訪查去，不可以懈怠。(41)
- 96.聽見說楊順他們殺害平民，大傷和氣，聖心大怒，立刻叫錦衣衛把他們拿解來京。(42)
- 97.皇上看了摺子很喜歡，就陞鄒應龍爲通政司參議，把嚴世蕃交刑部定罪發遣，嚴嵩驅逐回籍。(45)
- 98.這麼著旨意就下來，把嚴世蕃即行處斬，抄沒家產，把嚴嵩發交養濟院，以終其年。(45)
- 99.這麼著旨意就下來，把嚴世蕃即行處斬，抄沒家產，把嚴嵩發交養濟院，以終其年。(45)
- 100.馮主事得著這個信了，就告訴沈襄說了，把他放出來了，他就到了尼姑廟裏，和聞氏見了面，彼此又是喜歡，又是難過。(45)
- 101.沈襄就把聞氏接到馮主事家來，馮主事也要上京起服當差，約沈襄一同上京，給他父親伸冤，這麼著就一塊兒起身。(46)
- 102.趕到了北京，馮主事就先去拜望通政司鄒參議，把沈鍊父子冤屈的事情都說明白了。(46)
- 103.鄒應龍叫沈襄把冤枉的事，開具節略來，看了一看，一力擔承。(46)
- 104.第二天早起，把沈襄開的節略，在通政司掛了號，給他代奏上去了，旨意下來，說是沈鍊因忠獲罪，著開復原官，加一級，以旌其功。(46)
- 105.這麼著旨意准奏，就把揚順路楷拿到京裏來，定了死罪，即行處斬。(47)
- 106.這一天因爲身體乏了，就在一家的門口兒歇著，有一個老者從裏頭出來，就把他讓進去了。(48)
- 107.我怕連累上，就跑到河南躲避去了，就帶著這兩張孔明的出師表，我把這兩張裱在一塊兒啊，常常的打開看，就如同見著我的盟兄一個樣。(49)
- 108.我怕的是沈家少爺要來搬他父親的靈柩，所以我把這出師表掛在這堂屋裏，爲得是他若是來了，好認一認他父親的遺筆。(49)
- 109.我聽說楊順那個賊，差人到貴府去，把賢姪拿來，要一網打盡，怎麼賢姪能這麼平安沒事呢？(49)

- 110.沈襄就把在濟寧州的事，都告訴賈石說了。(50)
- 111.爾父親的遺體，我從獄裏買出來，偷著埋的，如今賢姪來，能把靈柩送回本鄉去，也算是我沒白用心。(50)
- 112.兩位沈少爺就跪在地下直哭，賈石把他們勸住了。(50)
- 113.就和小霞說，爾們二弟三弟，也都虧了毛獄卒，心存仁義，把他們埋在城南三裡地之外一個地方兒，我也知道那個地方兒，如今可以一同把那兩口靈都帶回去，叫他們父子魂魄相依，爾們想好不好？(51)
- 114.就和小霞說，爾們二弟三弟，也都虧了毛獄卒，心存仁義，把他們埋在城南三裡地之外一個地方兒，我也知道那個地方兒，如今可以一同把那兩口靈都帶回去，叫他們父子魂魄相依，爾們想好不好？(51)
- 115.這麼著就預備了車，把三口靈裝在車上，就要起身又回到賈石家裏去。(51)
- 116.沈襄回到京裏去，見了他母親徐夫人，把事情回稟明白了，又拜謝了馮主事，然後纔起的身。(52)
- 117.孟春元帶著他的姑娘孟氏，在二十里地以外迎接，一家子骨肉這纔從新見面，把靈柩的船停泊了馬頭地方。(52)
- 118.所有城裏頭的官員們都來吊祭，把家產都已經發還了。(53)
- 119.兩個沈少爺就把靈柩都埋在祖宗墳地裏了，守了三年的制，趕完了事，又給沈鍊蓋了一座表忠祠堂，春秋致祭。(53)

④<懷私怨狠僕告主> (1911年)

- 1.這一年春天有兩三個朋友把王生約到外頭踏青去了。(1)
- 2.說話之間，王生就上前去，把那個賣薑的揪住了打了幾拳頭，然後把他一推，誰知那個賣薑的，雖然是個中年的人，他可有痰火的病，趕王生這麼一推，他可就往後一倒，就躺在地下昏過去了。(2)
- 3.說話之間，王生就上前去，把那個賣薑的揪住了打了幾拳頭，然後把他一推，誰知那個賣薑的，雖然是個中年的人，他可有痰火的病，趕王生這麼一推，他可就往後一倒，就躺在地下昏過去了。(2)
- 4.王生見他昏過去了，把酒也嚇醒了，就趕緊的叫底下人，把他攙進去，到了一個屋裏，把他放在床上躺下了。(3)
- 5.王生見他昏過去了，把酒也嚇醒了，就趕緊的叫底下人，把他攙進去，到了一個屋裏，把他放在床上躺下了。(3)
- 6.王生見他昏過去了，把酒也嚇醒了，就趕緊的叫底下人，把他攙進去，到了一個屋裏，把他放在床上躺下了。(3)
- 7.他今兒個到您門口兒賣薑來了，您把他打了一頓，所以他纔犯上了他的病來了。(4)
- 8.他把這疋白絹和這個竹藍子交給我。(4)

9. 只可買付船家，叫他趁著夜靜的時候，把屍首埋了。(5)
10. 這件事實在是我作錯了，我也是無心中把他打傷了。(5)
11. 莫若把這件事攔開，我給爾點兒謝禮，求爾把那個死屍埋了。(5)
12. 莫若把這件事攔開，我給爾點兒謝禮，求爾把那個死屍埋了。(5)
13. 那麼把那個死屍埋在那兒去呢。(6)
14. 趁著夜靜的時候兒沒人瞧見，就求爾把船駛到那兒去。(6)
15. 悄悄兒的刨個坑，把那個死屍埋了。(6)
16. 如今聽他這麼說，可就放了點兒心了，就把他讓到屋裏去。擺上酒飯，請他吃完了。  
(7)
17. 到了王生墳地裏，挑了一塊空地方兒，刨了一個坑，把那個死屍起船上抬下來，埋在那個坑裏去。(7)
18. 然後他們三人上了船，到了王生的家門口兒，把船灣住，三人進到家裏去。直坐到天亮。(7)
19. 王生叫底下人，把街門關好了，自己進到屋裏去。(7)
20. 周四現在手裏也寬綽了，把擺渡也賣了，開了一個舖子。(8)
21. 像那天晚上既然把船戶周四打點好了，就該當把那個死屍抬到墳地裏去，點起一把火來，把死屍一燒，從此無踪無跡，那不乾淨麼。(8)
22. 像那天晚上既然把船戶周四打點好了，就該當把那個死屍抬到墳地裏去，點起一把火來，把死屍一燒，從此無踪無跡，那不乾淨麼。(8)
23. 像那天晚上既然把船戶周四打點好了，就該當把那個死屍抬到墳地裏去，點起一把火來，把死屍一燒，從此無踪無跡，那不乾淨麼。(8)
24. 因為一時心忙意亂，沒有主意，把那個死屍埋在墳地裏了誰知道後來又出了禍了。(8)
25. 王生就和劉氏商量，寫了一個請帖，把胡阿虎叫來了，就吩咐他說。(9)
26. 敢情那天是胡阿虎在路上喝醉了，把請帖丟了，所以他等到第二天纔回來的。(10)
27. 一聽這話就氣的了不得，立刻就把胡阿虎叫來了，拿出一個竹板子來要打他。(10)
28. 王生聽他這話，氣更大了，就叫倆家人把胡阿虎搵倒了，打了五十多板子纔住的手。  
(10)
29. 爾女孩兒的病，本來是沒救星了，難道是我沒把大夫請來，把他的命要的麼。(10)
30. 爾女孩兒的病，本來是沒救星了，難道是我沒把大夫請來，把他的命要的麼。(10)
31. 這一天王生正在院子裏閒溜達了，就看見進來了一群衙役，拿着鎖，就把王生套上了，拉着就走。(11)
32. 就見那一群衙役如狼似虎的，把王生鎖了去了。(11)
33. 王生心裏就明白，他是懷恨私怨，把那件人命的事，出首告發了。(11)
34. 如今爾的家人胡阿虎告爾說，是爾把一個賣薑的湖州人姓呂的打死了，是真的麼。(12)
35. 就因為前幾天他有了過失，我把他打了一頓，他懷恨在心，所以到衙門來誣告我打死

- 人命。(12)
36. 小的恐怕他再鬧出人命的事情來，把小的也連累上了，所以小的把從前的事情，到衙門來首告，太爺若是不肯信，可以把小的主人左右的街坊傳來問一問，就知道是真是假了。(13)
37. 小的恐怕他再鬧出人命的事情來，把小的也連累上了，所以小的把從前的事情，到衙門來首告，太爺若是不肯信，可以把小的主人左右的街坊傳來問一問，就知道是真是假了。(13)
38. 小的恐怕他再鬧出人命的事情來，把小的也連累上了，所以小的把從前的事情，到衙門來首告，太爺若是不肯信，可以把小的主人左右的街坊傳來問一問，就知道是真是假了。(13)
39. 知縣聽他這話，就派衙役去，把王生的左右隣都傳來了。(13)
40. 現在大家都說，是去年爾把那個賣薑的打死了，爾還有甚麼可分辯的麼。(14)
41. 這麼着知縣就叫衙役，把王生拉下去，打了二十板子。(14)
42. 知縣叫書辦把他的供招都寫了，拿下去叫他畫了供。叫禁子給他上了刑具，把他收在獄裏去了。(14)
43. 知縣叫書辦把他的供招都寫了，拿下去叫他畫了供。叫禁子給他上了刑具，把他收在獄裏去了。(14)
44. 王杰雖然招認了，是他把那個人打死的，無奈並沒有屍親認屍，現在還不能就把王杰定成死罪。(14)
45. 王杰雖然招認了，是他把那個人打死的，無奈並沒有屍親認屍，現在還不能就把王杰定成死罪。(14)
46. 又吩咐衙役先把那個死屍買棺材裝殮起來，暫且埋了。(15)
47. 恐怕後來還要檢驗哪，把胡阿虎也放了。(15)
48. 王生又哭着告訴他媳婦兒說，都是胡阿虎把我害成這個樣兒，劉氏聽了這話咬牙切齒的把胡阿虎罵了一頓，然後把身上帶着的碎銀子拿出來，遞給王生說，相公可以把這個銀子分給牢頭禁子，為的是他們好好兒的照應爾。(15)
49. 王生又哭着告訴他媳婦兒說，都是胡阿虎把我害成這個樣兒，劉氏聽了這話咬牙切齒的把胡阿虎罵了一頓，然後把身上帶着的碎銀子拿出來，遞給王生說，相公可以把這個銀子分給牢頭禁子，為的是他們好好兒的照應爾。(15)
50. 王生又哭着告訴他媳婦兒說，都是胡阿虎把我害成這個樣兒，劉氏聽了這話咬牙切齒的把胡阿虎罵了一頓，然後把身上帶着的碎銀子拿出來，遞給王生說，相公可以把這個銀子分給牢頭禁子，為的是他們好好兒的照應爾。(16)
51. 王生又哭着告訴他媳婦兒說，都是胡阿虎把我害成這個樣兒，劉氏聽了這話咬牙切齒的把胡阿虎罵了一頓，然後把身上帶着的碎銀子拿出來，遞給王生說，相公可以把這個銀子分給牢頭禁子，為的是他們好好兒的照應爾。(16)

- 52.王生把銀子接過來了。(16)
- 53.劉氏又拿錢上下打點，打算要把王生暫且取保出去，衙門裏人說，這個人命重案，不敢把他放出來，王生沒法子，只可在獄裏等着就是了。(16)
- 54.劉氏又拿錢上下打點，打算要把王生暫且取保出去，衙門裏人說，這個人命重案，不敢把他放出來，王生沒法子，只可在獄裏等着就是了。(16)
- 55.這麼着那個底下人回家來，就把這話告訴劉氏說了，嚇得劉氏手忙腳亂，不敢耽誤。(17)
- 56.相公別說這不吉祥的話，爾暫且把心放寬了，好好兒的養病。(17)
- 57.這案人命既然是誤傷，又沒有苦主，等着我把地畝都賣了，把相公救出去，夫妻還可以團圓。(18)
- 58.這案人命既然是誤傷，又沒有苦主，等着我把地畝都賣了，把相公救出去，夫妻還可以團圓。(18)
- 59.若是賢妻能這麼用心，把我救出去，我的病也就減幾分了。(18)
- 60.到了院子裏，就把扁擔擱在地下，就問底下人相公在家裏哪麼。(18)
- 61.那些個底下人就上前去，把那個人細看了一看，然後就都大聲的說，了不得了，有了鬼了。(18)
- 62.他一定是知道您現在要想法子把相公救出來，所以他現形索命來了。(19)
- 63.這麼說起來，爾真不是鬼了，爾把我的丈夫害的眞不輕啊。(19)
- 64.就問相公在那兒了，怎麼是我把他害了呢。(19)
- 65.劉氏就把周四那天晚上怎麼拿船撐了一個死屍來，還拿着那疋白絹和那個竹籃子作對證，王生怎麼拿銀子買耐他，把那個死屍私自埋了，後來胡阿虎怎麼懷恨私仇，到衙門裏去，把這件事告發了，王生怎麼受刑不過，就把打死人命的事招認了，現在下獄在獄裏，還沒定案哪，把這件事的始末根由，細細的說了一遍。(19)
- 66.王生怎麼拿銀子買耐他，把那個死屍私自埋了(19)
- 67.後來胡阿虎怎麼懷恨私仇，到衙門裏去，把這件事告發了。(20)
- 68.王生怎麼受刑不過，就把打死人命的事招認了。(20)
- 69.現在下獄在獄裏，還沒定案哪，把這件事的始末根由，細細的說了一遍。(20)
- 70.我可就無心中就把相公怎麼把我打昏過去了，然後又救過來了，又留我吃的酒飯，又送給我一疋白絹，就一五一十的都告訴他說了。(20)
- 71.我可就無心中就把相公怎麼把我打昏過去了，然後又救過來了，又留我吃的酒飯，又送給我一疋白絹，就一五一十的都告訴他說了。(20)
- 72.他又要買我的那個盛薑的竹籃子，我就把那個竹籃給了他了，折了擺渡錢了。(20)
- 73.想不到他把我那兩樣兒東西誑到手，設這麼個毒計策，上這兒訛詐來了。(20)
- 74.請娘子先把土物兒收起來，然後我同娘子到縣衙門裏訴冤去，把相公快救出來是要緊的。(21)

- 75.請娘子先把土物兒收起來，然後我同娘子到縣衙門裏訴冤去，把相公快救出來是要緊的。(21)
- 76.這麼著劉氏就把禮物拿進去了，給呂大道了謝，又給他預備的酒飯款待他。(21)
- 77.知縣叫衙役把他們帶進去了。(21)
- 78.趕他們到了大堂，劉氏就把訴呈遞上去了，然後跪下了。(22)
- 79.知縣接過訴呈去，從頭至尾看了一遍，然後又問劉氏這案的緣由，劉氏就把他丈夫怎麼因為買薑爭價錢，誤傷呂大，又救過來了，趕到晚上擺擺渡的周四，怎麼拿船撐了一個死屍來訛錢，後來家人胡阿虎怎麼懷恨私怨，出首告發的事，細細的說了一遍。(22)
- 80.呂大就把去年怎麼被王生打昏過去了，又救過來了，怎麼留他吃的酒飯，又送給他一疋白絹，後來到了擺渡上，怎麼那個擺擺渡的周四，把那疋白絹和那個竹籃子買了去的話，細細的說了一遍。(22)
- 81.呂大就把去年怎麼被王生打昏過去了，又救過來了，怎麼留他吃的酒飯，又送給他一疋白絹，後來到了擺渡上，怎麼那個擺擺渡的周四，把那疋白絹和那個竹籃子買了去的話，細細的說了一遍。(22)
- 82.知縣聽這話就說，呂大，爾莫非是劉氏把爾買出來的。(22)
- 83.雖然不是小的把他害的，到底這個禍實在是解小的身上起的。(23)
- 84.所以到太爺的案下，把這件事稟明了，求太爺作主，開脫王杰就是恩典。(23)
- 85.知縣都記下了，就把那幾個人裏頭，點出四個人來，吩咐兩個衙役去把這四個人和王杰的街坊幾個人，都立刻傳來。(23)
- 86.知縣都記下了，就把那幾個人裏頭，點出四個人來，吩咐兩個衙役去把這四個人和王杰的街坊幾個人，都立刻傳來。(23)
- 87.不大的工夫兒就把這兩項人都傳來了。(24)
- 88.這個時候知縣聽大家這麼說，心裏已經明白了幾分了，就把訴呈批准了。(24)
- 89.又吩咐幾個衙役，出去暗之中把那個擺擺渡的周四找著，拿好話把他誑到來衙門。(24)
- 90.又吩咐幾個衙役，出去暗之中把那個擺擺渡的周四找著，拿好話把他誑到來衙門。(24)
- 91.到了獄門口兒，見了王生，把這件事告訴明白他了。(25)
- 92.不大的工夫兒，就看見有兩個衙役把周四傳來了。(25)
- 93.告訴他說，本縣的太爺要買布，就把他誑到衙門來了。(25)
- 94.不大的工夫兒，衙役把胡阿虎也傳來了。(26)
- 95.不大的工夫兒，知縣坐堂，就吩咐把胡阿虎帶上堂來，趕衙役把他帶到堂上跪下了。(26)
- 96.不大的工夫兒，知縣坐堂，就吩咐把胡阿虎帶上堂來，趕衙役把他帶到堂上跪下了。(26)
- 97.爾主人既然把呂大打死了，那堂底下跪着的那個人是誰，這麼着知縣就衙役，拿夾棍



- 把胡阿虎夾起來了，叫他招認實情。(27)
98. 爾主人既然把呂大打死了，那堂底下跪着的那個人是誰，這麼着知縣就衙役，拿夾棍把胡阿虎夾起來了，叫他招認實情。(27)
99. 那天小的主人把呂大打昏過去了，後來又救過來了。(27)
100. 小的主人就拿銀子把船家買耐好了，就叫小的跟着周四到墳地裏，把那個死屍埋了，後來因爲小的主人把我打了一頓。(27)
101. 小的主人就拿銀子把船家買耐好了，就叫小的跟着周四到墳地裏，把那個死屍埋了，後來因爲小的主人把我打了一頓。(27)
102. 小的主人就拿銀子把船家買耐好了，就叫小的跟着周四到墳地裏，把那個死屍埋了，後來因爲小的主人把我打了一頓。(28)
103. 然後就吩咐衙役，把他帶在傍邊兒跪着，又叫衙役把周四帶上來問話。(28)
104. 然後就吩咐衙役，把他帶在傍邊兒跪着，又叫衙役把周四帶上來問話。(28)
105. 他就把王生怎麼把他打昏過去了的事，都告訴小的說了，小的一聽這話就起意要訛賴王家去，這麼着小的就把他的那疋白絹買過來了，又哄他要買他的那個竹籃子，他就把那個竹籃子給了小的，折了擺渡錢了。(28)
106. 他就把王生怎麼把他打昏過去了的事，都告訴小的說了，小的一聽這話就起意要訛賴王家去，這麼着小的就把他的那疋白絹買過來了，又哄他要買他的那個竹籃子，他就把那個竹籃子給了小的，折了擺渡錢了。(28)
107. 他就把王生怎麼把他打昏過去了的事，都告訴小的說了，小的一聽這話就起意要訛賴王家去，這麼着小的就把他的那疋白絹買過來了，又哄他要買他的那個竹籃子，他就把那個竹籃子給了小的，折了擺渡錢了。(28)
108. 他就把王生怎麼把他打昏過去了的事，都告訴小的說了，小的一聽這話就起意要訛賴王家去，這麼着小的就把他的那疋白絹買過來了，又哄他要買他的那個竹籃子，他就把那個竹籃子給了小的，折了擺渡錢了。(28)
109. 趕呂大下了船之後，小的就把河岸底下的一個浮屍撈上來，擱在船上，就撐到王家門口兒去了。(29)
110. 他又派了他家裏的倆底下人，跟着小的去到王生的墳地裏，把那個死屍埋了。(29)
111. 若是小的謀害了別人，爲甚麼那天不就把呂大謀害了呢。(29)
112. 果然小的把他瞞哄住了，並沒又一個人認出那個死屍是假的來。(30)
113. 並沒有安心把他害死，求太爺施恩從輕治罪。(30)
114. 爾只顧貪圖訛詐王生的錢，可差一點兒把他害得家敗人亡。(30)
115. 知縣越說越有氣，就立刻吩咐衙役把他們拉下去，把胡阿虎傷打四十大板子。(31)
116. 知縣越說越有氣，就立刻吩咐衙役把他們拉下去，把胡阿虎傷打四十大板子。(31)
117. 知縣見他們兩個人都死了，就叫衙役去把兩家的屍親傳來，把屍首領了去了。(31)
118. 知縣見他們兩個人都死了，就叫衙役去把兩家的屍親傳來，把屍首領了去了。(31)

- 119.知縣又吩咐衙役，把王生起獄裏提出來了，當堂開鎖釋放，又叫人把周四布舖的貨物銀子都抄來了。(31)
- 120.知縣又吩咐衙役，把王生起獄裏提出來了，當堂開鎖釋放，又叫人把周四布舖的貨物銀子都抄來了。(31)
- 121.這麼着就把布疋銀兩都叫王生領了去了，這也是知縣的好處。(31)
- 122.知縣又帶着布舖的貨物作衙役，到墳地裏，把那個死屍刨出來，叫作驗了一回，見他手指甲裏都有沙泥，實在是失腳掉在河裏頭的，(32)
- 123.然後把呂大請進去，從新見禮。(32)
- 124.王生經過這一場官司之後，把皮氣也改好了。(32)